

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

宮後遺跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

上巻

平成17年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

みや うしろ
宮 後 遺 跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書Ⅳ

上 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



第 110号住居跡出土弥生土器・土師器



第 124号住居跡出土灰釉陶器

序

茨城県は、21世紀の社会として、高齢者や障害者をはじめ、誰もが安心して生き生きと生活できるよう、福祉・医療・健康増進・生きがいづくり等の機能を備えた総合的な「人にやさしいまちづくり」のモデルとなる新たなまちづくりを計画しています。このような状況の中で、「やさしさのまち『桜の郷』」整備推進事業が計画されたもので、その予定地内には宮後遺跡をはじめ、石原遺跡、大塚遺跡、綱山遺跡等多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と埋蔵文化財発掘調査事業についての委託契約を結び、平成10年4月から平成12年3月まで宮後遺跡の発掘調査を実施してまいりました。この調査によって貴重な遺構、遺物が検出され、郷土の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。

本書は、平成14年3月刊行された『宮後遺跡1』の報告書に続き、宮後遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大なるご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会、茨城町特定開発課をはじめ、関係各機関及び関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝の意を表します。

平成17年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成10・11年度に発掘調査した、茨城県東茨城郡茨城町大字近藤に所在する宮後遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書が報告の対象とするのは、宮後遺跡の調査1～5区の弥生時代以降及び時期不明の遺構と遺物である。
- 3 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下の通りである。
調 査 平成10年4月1日～平成12年3月31日
整 理 平成12年4月1日～平成14年3月31日
- 4 当遺跡の発掘調査は、平成10年4月1日～平成11年3月31日まで調査第一課長沼田文夫のもと、調査第一班長瓦吹堅、主任調査員村上和彦、川又清明、長谷川聡、副主任調査員皆川修、田原康司が、平成11年4月1日～平成12年3月31日まで調査第一課長阿久津久のもと、調査第一班長瓦吹堅、主任調査員眞崎紀雄、川又清明、野田良直、藤田哲也、和田清典、吹野富美夫、長谷川聡、副主任調査員浅野和久、田原康司、荒蒔克一郎が担当した。
- 5 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理課長川井正一のもと、主任調査員川又清明、浅野和久が担当した。執筆分担は、以下のとおりである。また、校正は整理第一課長瓦吹堅のもと、主任調査員荒蒔克一郎が担当した。
川又 例言・凡例・抄録、第1章、第2章、第3章第1節～第5節1（調査2区分を除く）、第6節1、2第1～15号地下式墳、3～6、第7節5第7号井戸跡、第6節1～21号溝、第9節1・3
浅野 第3章第4節143号竪穴住居跡、第5節1（調査2区の竪穴住居跡）、2～8、第6節2第16～18号地下式墳、第7節1～5、第22・24～27号溝、第8節、第9節1・3に加筆、2
- 6 本書の作成にあたり、弥生土器の地域的様相について、財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社鈴木素行氏に、出土土器の胎土などの元素組成及び鉱物組成分析について、茨城県工業技術センター産業指導所小島均氏に、墨書土器について国立歴史民俗博物館教授平川南氏に、石製品の石質について高野淳氏にそれぞれ御指導いただいた。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第N系座標を用いて区画し、X軸=+36,040m、Y軸=+51,840mの交点を基準点(A1a1)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、その組み合わせで「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに、小調査区も同様に北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1」、「B2b2」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を()を付して併記した。
- 3 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次の通りである。

遺構 住居跡-S I 土坑-S K 堀-溝-S D 掘立柱建物跡-S B その他-S X
遺物 土器-P 土製品-D P 石器・石製品-Q 金属製品-M 拓本土器-T P
土層 攪乱-K

- 4 遺構及び遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。


遺物包含層
土器 土製品 石器・石製品 △ 金属製品・古銭 ----- 硬化面

- 5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 6 遺構・遺物実測図の掲載方法については、以下のとおりである。

(1) 遺構全体図は1区は縮尺250分の1、3・4・5区は縮尺200分の1とし、各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として3分の1に縮尺した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

- 7 「主軸方向」は、炉を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とみなし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例N-10°-E)。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

- 8 土器の計測値は、口径-A 器高-B 底径-Cとし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

- 9 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号、その他必要と思われる事項を記した。

- 9 調査時の遺構番号を整理時に変更した。一覧表の最後に発掘番号として表した。

抄 録

ふりがな	やさしさのまちさくらのおいびじょうにもなういぼうがさいちようさほうこくしょ							
書名	やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
副書名	宮後遺跡3							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第 241集							
編著者名	川又清明, 浅野和久							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒 310- 0911 茨城県水戸市見和1丁目 356番地の2 TEL 029 225 6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒 310- 0911 茨城県水戸市見和1丁目 356番地の2 TEL 029 225 6587							
発行日	2005 平成 17 年 3 月 25 日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地							
宮後遺跡	茨城県東茨城郡茨城町 みぎのきこふちのまがやま 大字近藤字宮附 22番地 の2ほか	8302 - 228	36度 19分 21秒 〔36度 19分 32秒〕	140度 24分 45秒 〔140度 24分 33秒〕	24 ~ 29m	19980401 ~ 20000331	39 064m ²	やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項			
宮後遺跡	集落跡	弥生時代後期後半 ~ 古墳時代前期初頭 古墳時代 奈良・平安時代 中・近世 時期不明	竪穴住居跡 5軒 竪穴住居跡 11軒 竪穴住居跡 11軒 竪穴状遺構 1基 竪立柱建物跡 6棟 土坑 25基 溝 1条 粘土揮撒坑 5基 遺物包含層 1か所 竪穴状遺構 1基 地下式墳 18基 堀 1条 井戸跡 7基 粘土貼土坑 1基 土坑墓 1基 道路状遺構 1条 竪穴住居跡 6軒 屋外炉 8基 竪立柱建物跡 3棟 火葬土坑 5基 井戸跡 6基 溝 26基 土坑・土坑墓 37基	弥生土器 壺・片口鉢、 土製品 紡錘車、石 器 黏石 土器器 高坏・壺・甕、 土製品 紡錘車 土器器 坏・高台付坏・ 甕・甎、須恵器 坏・ 高台付坏・甕・円面碗、 灰釉陶器 椀・壺、 石器 磁石、土製品 紡錘車・土玉、石製 品 丸柄・巡方、鉄 製品 鋸・斧・鎌先・ 刀子・鉸具	弥生時代後期から古墳時代前期にかけて集落が営まれ、その後、平安時代にはこの地域の中心的な集落が形成された。注目すべき出土遺物として「在」、「南主」などの墨書土器、灰釉陶器、丸柄・巡方などがある。			

総目次

－上 卷－

序

例言

凡例

抄録

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 弥生時代の遺構と遺物	10
1 竪穴住居跡	10
(1) 弥生時代後期後半	10
第4節 古墳時代の遺構と遺物	12
1 竪穴住居跡	13
(1) 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭	13
(2) 古墳時代前期	29
(3) 古墳時代後期	49
第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物	53
1 竪穴住居跡	53
2 竪穴状遺構	422

－下 卷－

3 掘立柱建物跡	425
4 溝	517
5 土坑	518
6 粘土採掘坑	549
7 ビット群	556
8 遺物包含層	572

第6節 中世の遺構と遺物	576
1 竪穴状遺構	576
2 地下式墳	585
3 堀	604
4 井戸跡	608
5 粘土貼土坑	614
6 土坑墓	615
7 道路状遺構	616
第7節 時期不明の遺構と遺物	617
1 竪穴住居跡	617
2 掘立柱建物跡	621
3 屋外炉	625
4 火葬土坑	628
5 井戸跡	633
6 溝	636
7 土坑・土坑墓	642
第8節 遺構外出土遺物	652
第9節 まとめ	659
付章 宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器片及び	
第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について	687
宮後遺跡第127号住居跡覆土及び第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び	
鉱物組成等について	692
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

やさしさのまち「桜の郷」整備事業は、福祉・医療・健康増進・生きがいづくり等の機能を備えた、高齢化社会に対応できる総合的な「人にやさしいまちづくり」のモデルとなる新しいまちづくりプロジェクトであり、茨城県のはば中央に位置する茨城町において整備を目指している。

工事に先立ち、平成9年1月20日、茨城県は、茨城町教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。茨城県教育委員会は、平成9年3月14日から、近藤・大戸地区の試掘調査を実施し、工事予定地内に宮後遺跡、石原遺跡、大塚遺跡、綱山遺跡が所在する旨を茨城県に回答した。茨城県は、平成10年3月2日、茨城県教育委員会にその取り扱いについて協議を求めた。茨城県教育委員会は、遺跡の取り扱いについて茨城県と協議を重ね、現状保存が困難であることから、平成10年3月31日、茨城県に対し、宮後遺跡、石原遺跡、大塚遺跡、綱山遺跡を記録保存とする旨の回答を行い、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県と茨城県教育財団は、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成10年4月1日から平成11年3月31日にかけて、宮後遺跡、石原遺跡の発掘調査を実施することとなった。そのうち宮後遺跡については、表土除去後に確認された業務量をもとに委託者及び茨城県教育委員会文化課と協議の結果、調査期間が1年間（平成12年3月31日まで）延長された。平成11年度は、宮後遺跡の残り2・4・5区、大塚遺跡、綱山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

宮後遺跡の発掘調査は、平成10年4月1日から平成12年3月31日までの2年間にわたって実施された。以下、宮後遺跡の調査の経過について月ごとに略述する。

平成10年度

- 4月6日に現地踏査をし、茨城町教育委員会・特定開発課・建設課との打ち合わせを行った。20日に進入路工事を開始し、27日に事務所建設が終了した。調査区域内に存在する樹木を伐倒するための数量調査を行った。
- 5月6日から調査補助員を雇用し、諸設備の整備、遺跡内の清掃を開始した。10日には、発掘調査の円滑な推進と作業の安全を願って安全祈願祭を挙行了。式後、トレンチ及びグリッドを設定し、試掘を開始した。試掘終了後の22日から、1区の人力士土除去及び遺構確認作業に入った。
- 6月人力士土除去及び遺構確認作業を進めるとともに、17日から1区の遺物包含層の調査に入った。24日から重機を導入し、1区から表土除去及び遺構確認作業に入った。
- 7月1日から業者委託による山林部（5区）の伐倒作業に入った。引き続き重機による表土除去及び遺構確認作業、遺構調査（竪穴住居跡1軒、土坑14基終了）を行った。1・2区の遺構確認状況から、遺構の重複が激しいことが分かった。
- 8月3日に重機による表土除去が終了した。3～5区の遺構確認作業を急ぎ進めた。遺構調査も行い、翌

穴住居跡3軒、土坑41基の調査を終了した。

- 9 月 引き続き遺構調査を行うとともに、全体の業務量を算出した。29日までに堅穴住居跡1軒、土坑64基、溝2条、遺物包含層1か所の調査を終了した。
- 10 月 今後の業務量検討の結果から、7日に調査期間の変更連絡があり、本年度の調査は宮後遺跡の1・3区及び石原遺跡となり、2・4・5区の調査は、次年度に延期された。引き続き遺構調査を行い、29日までに堅穴住居跡7軒、土坑94基、溝3条の調査を終了した。
- 11 月 継続して遺構調査を行い、堅穴住居跡14軒、土坑117基、溝3条、遺物包含層1か所の調査を終了した。
- 12 月 引き続き遺構調査を行い、土坑65基、溝3条の調査を終了した。
- 1 月 3区の遺構調査に入った。堅穴住居跡11軒、土坑98基、溝3条の調査を終了した。
- 2 月 25日に航空写真撮影を、27日には現地説明会を行った。堅穴住居跡20軒、土坑159基、溝1条の調査を終了した。
- 3 月 15日に委託者並びに茨城町教育委員会に対する業務報告会を行った。24日に整理センターに遺物搬出をし、安全対策を含めた撤収作業を完了し、現場事務所を閉鎖して本年度の現地調査をすべて終了した。
平成11年度
- 4 月 諸準備後、15日からフラスコ状土坑が密集する2区の遺構調査及び1区の補足調査に入った。
- 5 月 1区の補足調査終了後、4区の遺構調査及び5区の伐根に入った。堅穴住居跡3軒、土坑102基、溝3条の調査を終了した。
- 6 月 引き続き2・4区の遺構調査を行うとともに、5区の遺構調査に入った。堅穴住居跡16軒、土坑75基、掘立柱建物跡1棟、溝3条の調査を終了した。
- 7 月 引き続き遺構調査を行い、堅穴住居跡18軒、土坑49基、遺物包含層等の調査を終了した。
- 8 月 継続して遺構調査を行い、堅穴住居跡11軒、土坑106基等の遺構調査を終了した。
- 9 月 引き続き遺構調査を行い、堅穴住居跡25軒、土坑197基、掘立柱建物跡7棟等の遺構調査を終了した。
- 10 月 継続して遺構調査を行い、堅穴住居跡6軒、土坑112基、掘立柱建物跡6棟等の遺構調査を終了した。
- 11 月 2区北側（2区A）では、遺構の重複が激しく、当初予定していた業務量より多いことが判明したので、再度宮後遺跡、大塚遺跡、綱山遺跡の残りの総業務量を算出し、業務変更の打ち合わせを持った。協議の結果、大塚遺跡の遺構調査を途中で終了し、宮後遺跡の2区南側（2区B）の調査に入るようになった。堅穴住居跡5軒、土坑217基、掘立柱建物跡5棟等の遺構調査を終了した。
- 12 月 大塚遺跡調査班が、2区Bの遺構調査に入った。27日までに堅穴住居跡8軒、土坑201基、掘立柱建物跡12等、溝7条等の遺構調査を終了した。
- 1 月 5日から調査を開始し、堅穴住居跡8軒、土坑201基、掘立柱建物跡12棟、溝7条等の遺構調査を終了した。
- 2 月 6日に現地説明会を行い、2・4・5区の遺物及び出土遺物を公開した。28日に5区の調査が終了し、2区A・Bの調査を残すだけになった。堅穴住居跡22軒、土坑331基、掘立柱建物跡12棟、溝1条の調査を終了した。
- 3 月 2日に委託者並びに茨城町教育委員会に対する業務報告会を、9日に航空写真撮影を行った。24日には、2区A・Bの補足調査を終了させるとともに、整理センターに遺物搬出をし、安全対策を行った。27日には撤収作業を完了し、現場事務所を閉鎖してすべての現地調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

宮後遺跡は、茨城県東茨城郡茨城町大字近藤字宮附222番地の2ほかにも所在している。

茨城町の地形は、町のほぼ中央部を東流する濁沼川と、その東に展開する濁沼によって、台地を南北に二分されている。北部の台地は、標高25～30mの東茨城郡北部台地の先端部を形成し、北西から流れる濁沼前川を含む大小の支谷が濁沼を中心に南面して開口している。南部に発達する台地は、西から大谷川、南から寛政川が濁沼に流入し、その間に大小多数の支谷が台地深くまで侵入し、北部台地に比べて起伏も多く一層複雑な地勢を成している。これらの河川流域の沖積低地は水田として、台地は畑地・果樹園として利用されている。

地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代第三紀の地層で、岩質は泥岩で水戸層と呼ばれている。水戸層の上には第四紀の地層が不整合に堆積している。粘土・砂からなる見和層、礫からなる上市層、灰褐色の常総粘土層、関東ローム層の順に重なっており、これらの地層はいずれもほぼ水平層である。

当遺跡は、茨城町の北西部の近藤、大戸地区にあり、濁沼前川の支流である小橋川に開折された標高25m～29mの台地縁辺部に位置している。当遺跡の東側は小橋川から延びる小支谷が入り込んでおり、水田として利用されている。調査前の現況は陸田・畑地・山林である。

第2節 歴史的環境

当町周辺は、濁沼を中心として、濁沼川、濁沼前川など水運に恵まれ、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきたため、縄文時代から中・近世にかけての遺跡が数多く存在している（第1図）。ここでは、宮後遺跡に関連する主な遺跡について、時代別に述べることにする。

(1) 縄文時代

宮後遺跡〈1〉に当時の人々の痕跡が確認されるようになった縄文時代前期前半は、縄文海進により海面が現在より高かったことが想定される。濁沼川及び濁沼前川流域では、小鷲遺跡〈14〉、東山遺跡〈16〉、シッペイ沢遺跡〈17〉、奥谷遺跡¹⁾〈27〉などに小集落が営まれ、越安貝塚〈23〉、シッペイ沢遺跡、南小割遺跡²⁾〈41〉などでは貝塚が形成された。

中期後半になると、前期より遺跡数が増加し、当遺跡のような大きな集落が営まれるようになった。塚越遺跡〈12〉、赤坂南坪遺跡〈26〉、天古崎遺跡など、町内全域で見られるようになる。

後期になると遺跡数が減る傾向にあり、当遺跡でも後期の土器片は数片が確認されただけである。

(2) 弥生時代

当遺跡と同時期の後期後半（十王台式期）の集落として、濁沼前川流域には、平成7年度に調査された矢倉遺跡³⁾〈8〉、平成8年度に調査された大畑遺跡⁴⁾〈9〉、平成10年度に調査された石原遺跡⁵⁾〈2〉、平成11年度に調査された綱山遺跡〈4〉、平成11・12年度に調査された大塚遺跡〈3〉、その他には桶荷宮遺跡〈5〉、大戸下邸遺跡〈7〉、台畑遺跡などがあり、遺跡数が多い。この時期には、濁沼川流域を中心とする文化圏があったことが想定されている。十王台式期の遺物を比べると、矢倉遺跡、大畑遺跡、石原遺跡、綱山遺跡、大塚

遺跡及び当遺跡としては頸部文様の施文及び範印などに違いが見られることから、遺跡間の継続的なつながりが考えられる。また、十王台式土器と違う文様の土器も出土しており、他地域との交流が想定される。

(3) 古墳時代

古墳時代になると遺跡数が増加する。平成10年度に調査された石原遺跡、平成11年度に調査された綱山遺跡、平成11・12年度に調査された大塚遺跡では、弥生土器と土師器と一緒に出土した住居跡が確認され、弥生時代から古墳時代に移るこの地域の様相を知る手がかりになると思われる。渦沼前川の下流に位置する奥谷遺跡からは、古墳時代前期の豪族居館跡の溝や住居跡⁶⁾が、渦沼前川を挟んで対岸の台地上に位置する南小割遺跡からも、前期の小波状口縁をもつ土器や住居跡が確認され、近くには昭和60年の周溝の調査で、茨城町地方では最も古い時期（4世紀末～5世紀初頭）に位置づけられた前方後円墳である宝塚古墳〈25〉がある。それに続く中期から後期にかけての古墳が61基、埴輪製作跡の小幡北山埴輪製作址⁷⁾〈31〉がある。後期の大きな集落として前述の奥谷遺跡・南小割遺跡などがある。

(4) 奈良・平安時代

律令制下の奈良・平安時代の茨城町域は、那賀郡八部郷、茨城郡島田・安侯・白川郷、鹿島郡宮前郷に属していた。この時期の遺跡⁸⁾は、町内全域に確認され、100遺跡を数える。奥谷遺跡からは、百数十点の墨書土器のほか円面硯や刀子が出土している。特に、墨書の「曹カ可」は、宮中・官衙などの庁舎・宿直所・局・部屋などの意味があり、当時の奥谷遺跡が官衙的あるいは公共的な施設を含む集落であったことを示している⁹⁾。面山遺跡〈28〉からは、「土師神主」と書かれた墨書土器が、大山原からは、「前家□□」と書かれた須恵器坏が出土している¹⁰⁾。隣接する大塚遺跡からは「コ」の字状に並ぶこの地域の中心的な遺構と考えられる掘立柱建物跡群が確認され、墨書土器や円面硯・灰釉陶器も出土している。綱山遺跡でも掘立柱建物跡が確認され、円面硯・灰釉陶器・墨書土器も出土しているので、3遺跡の関連が注目される。

(5) 中世・近世

常陸大塚氏系の吉田清幹に始まる大戸氏一族の所領であった前田地区の万東山地区からは、13世紀前半と思われる「青白磁蓮牡丹文梅瓶」¹¹⁾が出土している。渦沼前川・渦沼川沿いには、当時も有力な氏族がいたことがうかがえる。

中世の遺跡は、主に城館跡である。現存する町内の城館跡の中で小幡城跡が最大規模であるが、築城者については不明である。他に、宮ヶ崎城跡¹²⁾、海老沢館跡、鳥羽田城跡、奥谷館跡、飯沼城跡、谷田部城跡、水戸市平須館跡〈32〉などが所在している。奥谷遺跡からは、堀、地下式塙、方形堅穴状遺構、土坑、井戸跡が確認され、土師質土器や陶器が出土している。大畑遺跡からは、堀を除く同様な遺構・遺物が出土している。

近世になると、町の中心部を南北に走る水戸街道に沿って、長岡、小幡は宿駅として発展した。渦沼南岸の網掛、宮ヶ崎、海老沢は水上交通の要所として栄え、水戸藩をはじめ、仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ物資輸送の中継地として重要な役割を果たしていた。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当番号と同じである。

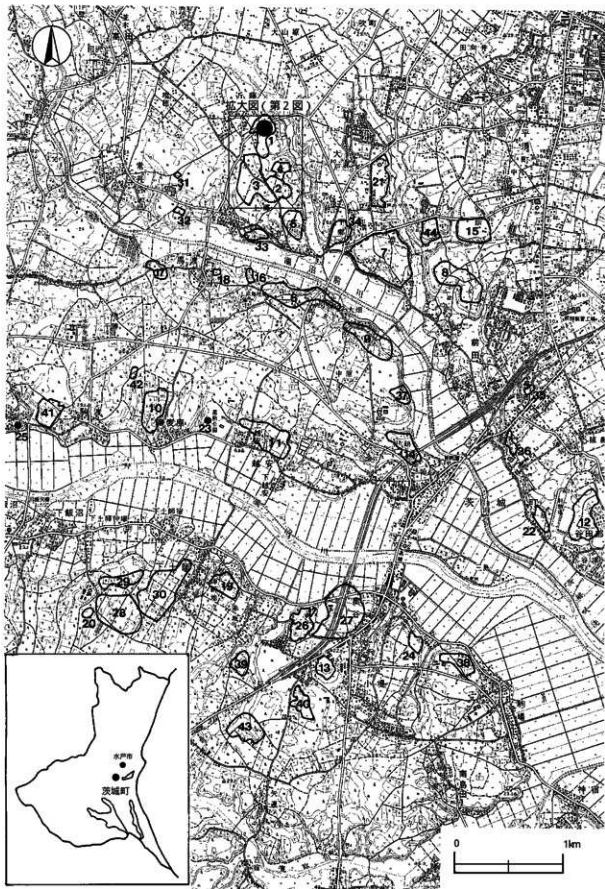
註

- 1) 鯉河和彦「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡・小鶴遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第50集 1989年3月
- 2) 中村敬治・江幡良夫「茨城中央工業団地造成工事地内文化財調査報告書N 南小割遺跡・権現堂遺跡・観塚古

- 墳・後原遺跡『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 1998年3月
- 3) 飯島一生 「北関東自動車道(友部～水戸)建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡・後口原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集 1998年3月
 - 4) 長谷川聡 「北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡・大畑遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
 - 5) 村上和彦 「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
 - 6) 茨城町史編さん委員会 『茨城町史 通史編』茨城町教育委員会 1995年2月
 - 7) 大塚初重・井上義安 『小幡北山墳輪製作遺跡』茨城町 1989年2月
 - 8) 註6)と同じ
 - 9) 註6)と同じ
 - 10) 註6)と同じ
 - 11) 註6)と同じ
 - 12) 野田良直 「主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書2 宮ヶ崎城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第141集 1998年3月

参考文献

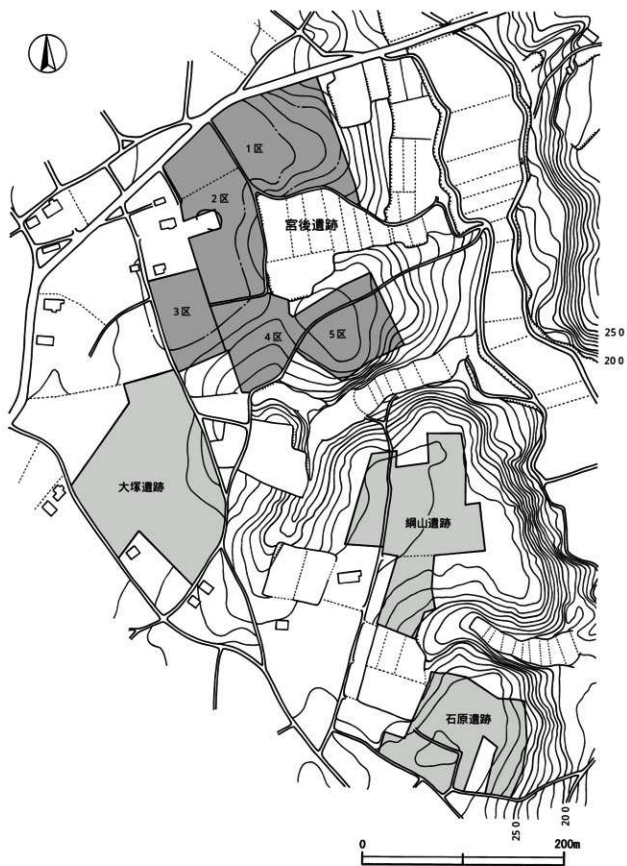
- ・竹内理三編 『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1983年12月
- ・中山信名(栗田寛補訂) 『宮崎報恩会版 新編常陸国誌』崑書房 1979年12月
- ・茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- ・水戸市史編さん委員会 『水戸市史 上巻』水戸市 1963年9月



第1図 宮後遺跡周辺遺跡分布図(1)

表1 宮後遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	市 遺 跡 町 番 村号	時 代					番 号	遺 跡 名	市 遺 跡 町 番 村号	時 代					
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平				中 ・ 近	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平
	宮 後 遺 跡	302 093						23	越 安 貝 塚	302 066						
2	石 原 遺 跡	302 220						24	小 堤 貝 塚	302 067						
3	大 塚 遺 跡	302 107						25	宝 塚 古 墳	302 017						
4	綱 山 遺 跡	302 219						26	赤坂南坪遺跡	302 030						
5	福 荷 宮 遺 跡	302 094						27	奥 谷 遺 跡	302 123						
6	上 の 前 遺 跡	302 118						28	面 山 遺 跡	302 039						
7	大 戸 下 郷 遺 跡	302 077						29	小 山 台 遺 跡	302 121						
8	矢 倉 遺 跡	302 109						30	下 土 師 遺 跡	302 029						
9	大 畑 遺 跡	302 078						31	近 藤 前 遺 跡	302 182						
10	宮 上 遺 跡	302 119						32	八 幡 山 遺 跡	302 183						
11	中 畑 遺 跡	302 032						33	猫 崎 遺 跡	302 185						
12	塚 越 遺 跡	302 111						34	寺 坪 遺 跡	302 187						
13	富 士 山 遺 跡	302 031						35	後 久 保 遺 跡	302 189						
14	小 鶴 遺 跡	302 134						36	長 岡 神 宮 寺 遺 跡	302 190						
15	山 中 遺 跡	201 157						37	蔵 作 遺 跡	302 195						
16	東 山 遺 跡	302 092						38	三 ツ 塚 遺 跡	302 197						
17	シ ッ ペ イ 沢 遺 跡	302 138						39	仲 丸 遺 跡	302 201						
18	東 畑 遺 跡	302 091						40	北 山 東 遺 跡	302 203						
19	下 土 師 東 遺 跡	302 122						41	南 小 割 遺 跡	302 216						
20	高 山 遺 跡	302 120						42	大 作 遺 跡	302 218						
21	大 戸 神 宮 寺 遺 跡	302 108						43	小 幡 北 山 壇 輪 製 作 遺 跡	302 080						
22	上 野 堀 ノ 内 遺 跡	302 110						44	平 須 館 跡	201 158						



第2図 宮後遺跡周辺遺跡分布図(2)

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

宮後遺跡は、縄文時代から近代にまでわたる複合遺跡である。調査区は便宜上、1～5区に分けた。

今回の報告は、調査1～5区から検出された弥生時代の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の竪穴住居跡4軒、古墳時代の竪穴住居跡11軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡117軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡63棟、土坑25基、溝1条、粘土採掘坑5基、遺物包含層1か所、中世の堀1条、地下式墳18基、竪穴状遺構11基、井戸跡7基、粘土貼土坑1基、土坑墓1基、道路状遺構1条、時期不明の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡3棟、屋外炉8基、火葬土坑5基、井戸跡6基、溝26条、土坑墓3基、土坑368基等である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に348箱出土している。弥生土器、土師器、須恵器（円面硯）、灰釉陶器、土師質土器、陶器、石器、土製品、鉄製品（鉸具・鉞尾）、石製品（丸柄・巡力）等が出土している。特に調査5区からは、掘立柱建物跡が集中的に検出され、また、腰帯具や円面硯、灰釉陶器等が出土していることから、奈良・平安時代には、当遺跡はこの地域の中心的な集落であったことが考えられる。

第2節 基本層序

調査2区中央部（E3区）にテストピットを設定し、深さ2.5mまで掘り下げて、土層堆積状況を確認した。（第3図）

第1～3層は、40cm前後の厚さで、黒褐色の耕作土層である。

第4層は、8～20cmの厚さで、ローム小ブロックを微量含んだ黒色土である。

第5層は、6～14cmの厚さで、白色礫を微量含んだ褐色のソフトローム層である。

第6層は、30～48cmの厚さで、褐色のハードローム層である。

第7層は、18～24cmの厚さで、褐色のハードローム層（第二黒色帯）である。

第8層は、16～40cmの厚さで、鹿沼バミス小ブロックを中量含んだ褐色のハードローム層である。

第9層は、30～38cmの厚さで、鹿沼バミス中ブロックを中量含んだ褐色のハードローム層である。

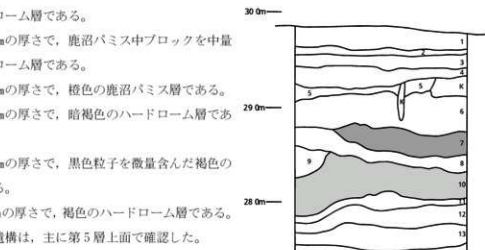
第10層は、32～40cmの厚さで、橙色の鹿沼バミス層である。

第11層は、10～16cmの厚さで、暗褐色のハードローム層である。

第12層は、10～20cmの厚さで、黒色粒子を微量含んだ褐色のハードローム層である。

第13層は、12～24cmの厚さで、褐色のハードローム層である。

住居跡・土坑等の遺構は、主に第5層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 弥生時代の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査によって、竪穴住居跡1軒を確認した。確認した住居跡の特徴や遺物について記載する。

(1) 弥生時代後期後半

第126号住居跡（第4～6図）

位置 調査5区の北部、G6b9区。

重複関係 第3号掘立柱建物跡に炉の北側を、第118号住居跡に南東コーナー部をそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.74m、短軸3.70mの隅丸方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は20～26cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。炉を中心にしたP1からP4を結んだ内側とP5付近に硬化面が認められた。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P3は径22cmの円形、深さ22cm、P4は長径26cm、短径22cmの楕円形、深さ34cmである。各コーナー寄りにあり、4か所を結ぶ線が長方形になることから主柱穴と思われる。P5は長径30cm、短径26cmの楕円形、深さ18cmで、南壁の中央部付近に位置すること及びピットの周囲が踏み固められていることから出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は長径30cm、短径26cmの楕円形、深さ12cmで性格不明である。

炉 中央部の北側に位置し、長径86cm、短径62cmの楕円形で、床面を12cmほど皿状に掘りくぼめている。炉床は赤変硬化し、南側から表面が赤化した炉石が出土した。

伊土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子 2 黒褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

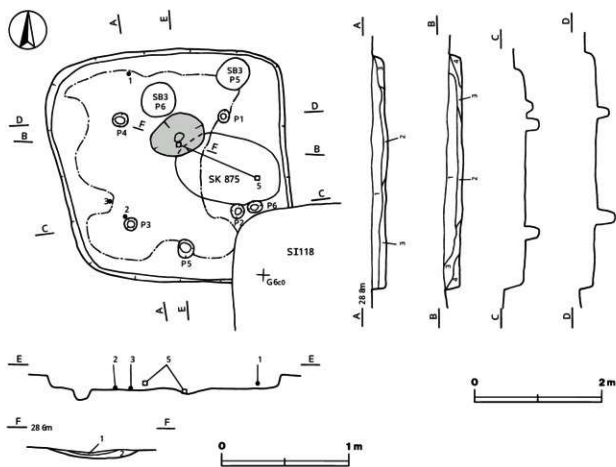
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

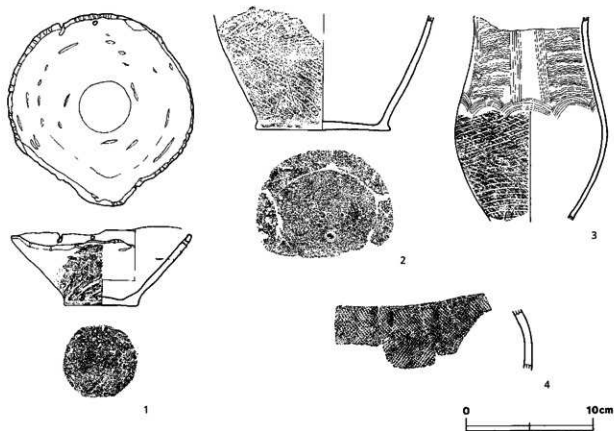
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム小ブロック少量
2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 弥生土器片49点、石製品1点（炉石）が出土している。うち口縁部が片口を呈するほぼ完形の鉢を含めて弥生土器4点、石製品1点（炉石）を抽出・図示した。第5図1～4は弥生土器である。1の鉢は、P4北側の壁寄りの覆土下層から正位の状態、3の広口壺はP3の北西の覆土下層から裏面の斜位の状態、2の広口壺はP3上の床面から正位の状態、4の胴部片は炉の覆土から、それぞれ出土している。第6図5の炉石は、東壁中央近くの床面から、表面の一部が赤味を帯びて、2つに割れた状態で出土している。

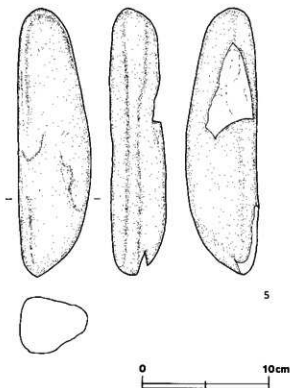
所見 本跡の時期は、1～4の弥生土器が覆土下層から床面にかけて出土していることから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第4图 第126号住居跡実測图



第5图 第126号住居跡出土遺物実測图(1)



第 6 図 第 126号住居跡出土遺物実測図(2)

第 126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 5図 1	浅鉢 弥生土器	A 140	口縁部一部欠損。平底。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 口縁部は片口状を呈する。片口部と対応して孔が二つ空く。口唇部には、へら状工具によるV字状の刻みが施されている。胴部は、附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。底部は布目痕。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母 橙色 普通	P 3014 99% PL54 内面に輪積痕
		B 57			
		C 57			
2	広口壺 弥生土器	B 89	胴部から底部にかけての破片。平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。胴部には、附加条二種 附加1条 の縄文が施され、羽状構成をとる。底部は布目痕。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 浅黄色、普通	P 3015 15%
		C 106			
3	広口壺 弥生土器	B 161	頸部から胴部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がり、上位で最大径を持つ。頸部は内傾する。頸部には、下縁に櫛歯状工具 6本で下向きの連弧文が施された後、2本一組の縦区画スリットが施文されている。区画内には、波状文が密に充填されている。胴部には、附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。頸部及び胴部内面ナズ。	磯・長石・針状鉱物・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3016 20% PL54 胴部下二次焼成による赤色及び剥離

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 6図	5 炉 石	213	53	45	750.3	ホルンフェルス	火熱を受けて赤味を帯びる。	Q 3004

第 4 節 古墳時代の遺構と遺物

弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の竪穴住居跡 4 軒、古墳時代前期の竪穴住居跡 9 軒、古墳時代後期の竪穴住居跡 2 軒を確認した。

1 竪穴住居跡

(1) 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

第101号住居跡 (第7～10図)

位置 調査5区の中央部, G6e0区。

規模と平面形 長軸5.34m, 短軸4.40mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は30～36cmである。全体に外傾して立ち上がるが、北西コーナー及び南西コーナー付近はほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、ローム土である。西側と出入口ピット南部が踏み固められている。

ピット 13か所 (P1～P13)。P1は、長径50cm, 短径36cmの楕円形, 深さ46cmである。P2は、径48cmほどの円形で、深さ56cmである。コーナー寄りに位置することや規模等から主柱穴と思われる。東側にも対応する柱穴があったと思われるが、木の根があって確認できなかった。P3は、長径48cm, 短径42cmの楕円形, 深さ20cm及び34cmで、底面が2段になっている。東側が硬化していることや炉と対応する南側の壁近くに位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。P4～P10の7か所は長径20～36cm, 短径18～32cmの円形及び楕円形, 深さ22～34cmで、壁に沿って存在していることから主柱穴の補助的性格をもったピットと考えられる。P11は長径40cm, 短径40cmの円形, 深さが52cm, P12は長径40cm, 短径40cmの円形, 深さが52cmある。P13は長径40cm, 短径40cmの円形, 深さが52cmであり、いずれも性格は不明である。

炉 炉はほぼ中央部に位置し、長径58cm, 短径50cmの楕円形で、床面を10cmほど掘り込んでいる。炉床は、全体的に火熱を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

覆土 8層からなるが、上層の黒色土、中層の黒褐色土、下層のロームを含む褐色土の3層に大別できる。遺構確認時に第1・2層の黒色土が楕円形状に見られ、須恵器片数片が入っていたことから、平安時代以降に埋まったものと思われる。3～8層はレンズ状に堆積しているので、自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒色 ローム粒子微量

2 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量

4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

5 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

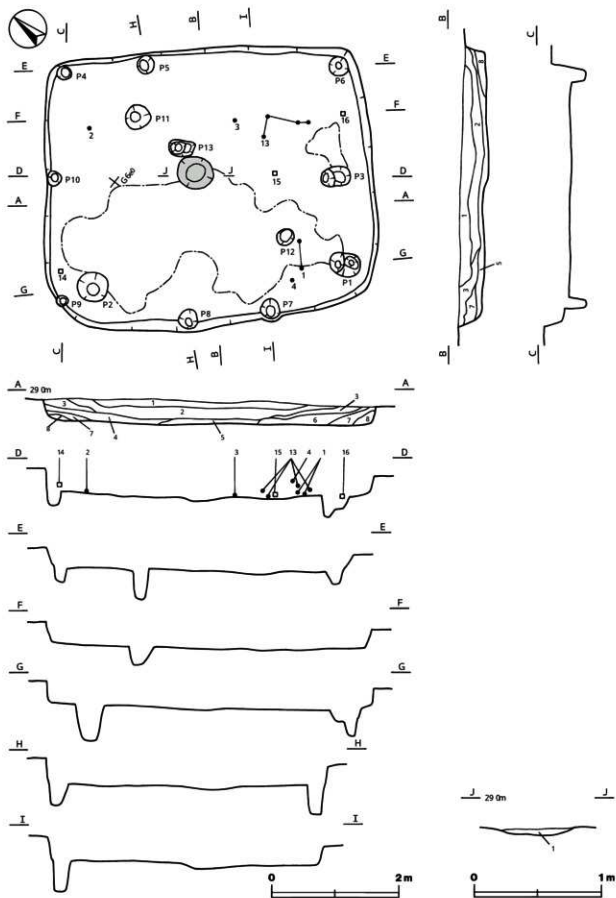
6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

7 褐色 ローム粒子中量

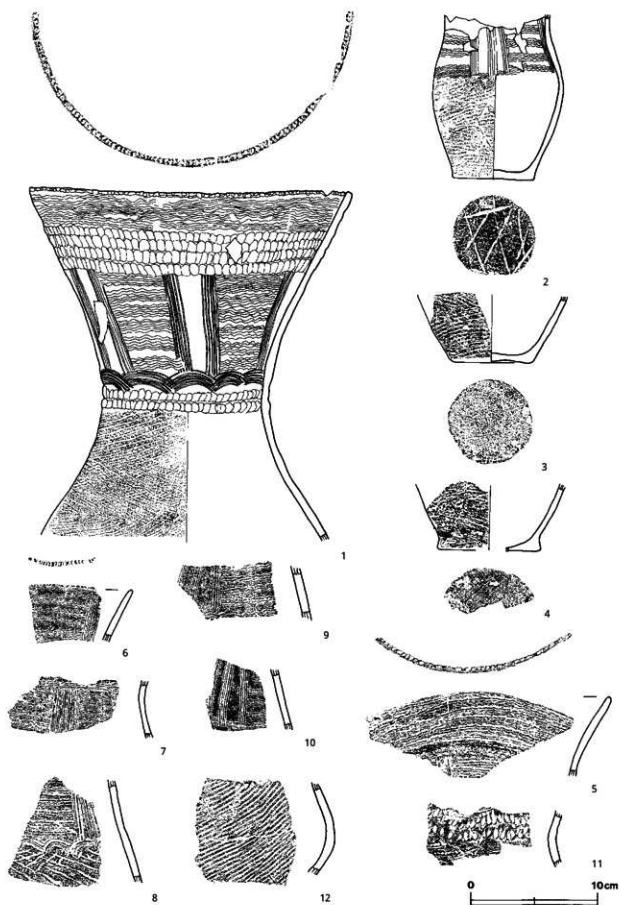
8 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 弥生土器片172点, 土師器64点, 石製品3点が出土している。土師器は細片が多い。うち弥生土器12点, 土師器1点, 石製品3点を抽出・図示した。第8図1～12は弥生土器である。1の広口壺はP1北側の床面から割れた状態で、2の口縁部及び頸部が一部欠損した広口壺は北コーナー部近くの床面から横位の状態で、3の広口壺は中央部から東寄りの床面から、4の広口壺片は南コーナー部近くの床面からやや浮いて外面が上を向いた状態でそれぞれ出土している。5～12は、広口壺の口縁部・頸部・胴部の破片で、中央部や炉周辺の覆土中・下層から出土している。第9図13の土師器壺は炉の東側から最長で80cmほど離れた床面から破片が散らばった状態で出土している。第9・10図14～16は石製品である。14の敲石は南西コーナー部の覆土下層から、15の炉石は炉の南の覆土下層から、16の石皿は東コーナー部寄りの床面から出土している。

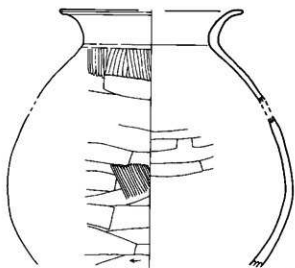
所見 弥生土器と土師器片が多数出土していることや弥生土器の形状などから、時期は弥生時代後期後半(十王台式期)から古墳時代前期初頭と考えられる。



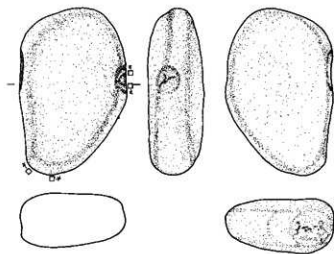
第7图 第101号住居跡实测图



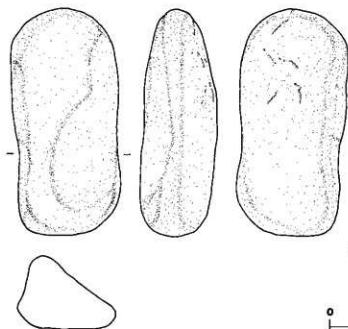
第8图 第101号住居跡出土遺物実測図(1)



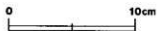
13



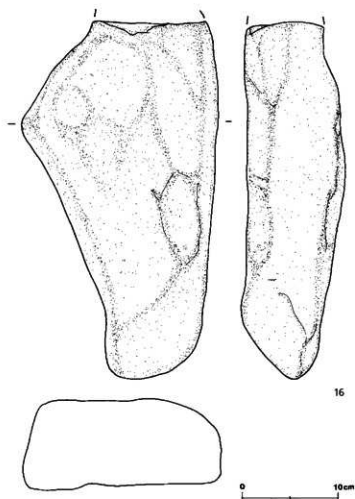
14



15



第9图 第101号住居跡出土遺物実測図(2)



第 10 図 第 101号住居跡出土遺物実測図(3)

第 101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 8 図 1	広口壺 弥生土器	A 251 B 276	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内傾して頸部に至る。口縁部は外傾して開く。口唇部には、縄文が施されている。口縁部上部には櫛歯状工具 4 本 による横走波状文が 4 条施されている。下部には隆帯が 4 条貼られ、指跡で押圧されている。胴部下部には隆帯が 2 条貼られ、指跡押圧後、櫛歯状工具で下向きの連続文が施文されている。また、2 本一組の縦区画スリット施文後、区画内には波状文 6 本が密に施されている。胴部には、附加条二種 附加 1 条の縄文が施されている。内面ナデ。	礫・石英・針状鉱物・雲母にぶい黄褐色良好	P 3001 39% PL54
2	広口壺 弥生土器	B 130 C 62	口縁部欠損。平底。胴部は内傾気味に外傾して立ち上がり、頸部境で最大径を持つ。頸部は内傾する。胴部は櫛歯状工具 5 本 による 3 本一組の縦区画スリット施文後、区画内には波状文が充填されている。胴部には、附加条二種 附加 1 条の縄文が施されている。底部は木炭痕。	礫・長石・石英・雲母にぶい橙褐色普通	P 3002 69% 二次焼成による赤化及び外面剥離
3	広口壺 弥生土器	B 52 C 62	胴部から底部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には、附加条二種 附加 1 条の縄文が施されている。底部は砂目腐。内面ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子淡褐色、普通	P 3003 9% 外面ス入付着
4	広口壺 弥生土器	B 53 C 80	胴部から底部にかけての破片。やや突出する平底。胴部は内傾気味に外傾して立ち上がる。胴部には、附加条二種 附加 1 条の縄文が施され、羽状構成をとる。底部は布目腐。内面ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子淡黄褐色、普通	P 3004 9% 外面ス入付着
5	広口壺 弥生土器	B 63	口縁部片。口唇部は厚体押圧されている。口縁部上部には、櫛歯状工具 3 本 により横走波状文が 5 条施されている。下部には隆帯が 2 条貼られ、ナデられている。胴部には、縦区画スリットが施されている。	礫・長石・石英・雲母黒褐色、普通	TP3001 19%
6	広口壺 弥生土器	B 39	口縁部片。口縁部上部に櫛歯状工具 5 本 により横走波状文が施された後、口唇部には、小突起の貼り付けとへら状工具による刻み目が施されている。櫛歯状工具で縦区画スリットが施文された後、区画内には波状文が充填されている。	石英・雲母にぶい赤褐色普通	TP3002 20%

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 7	広口壺 弥生土器	B 48	口縁部片。口縁部上端に櫛歯状工具 5本 により横走波状文が施された後、口唇部には、小突起の貼り付けとヘラ工具による列み目が施されている。櫛歯状工具で縦区画スリットが施文された後、区画内には波状文が充填されている。	磯・長石 にぶい赤褐色 普通	TP3003 20%
8	広口壺 弥生土器	B 80	口縁部片。ナゲられた隆帯下に櫛歯状工具 5本 により横走波状文が施された後、縦区画スリットが施文されている。区画内には、密に波状文が充填されている。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	TP3004 20%
9	広口壺 弥生土器	B 41	頸部から胴部にかけての破片。胴部境に櫛歯状工具 4本 により上向きの連弧文が施された後、3本一組の縦区画スリットが施されている。区画内には、波状文が密に充填されている。胴部には、附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP3005 20% 外面スス付着
10	広口壺 弥生土器	B 49	頸部片。櫛歯状工具 4本 により、3本一組の縦区画スリットが施されている。区画内には、波状文が充填されている。内面ナゲ。	長石・針状鉱物・赤色粒子 にぶい褐色、普通	TP3006 20%
11	広口壺 弥生土器	B 47	頸部片。下端に櫛歯状工具 5本 で横走波状文を施文後、3本一組の縦区画スリットが施されている。区画内には、波状文が充填されている。内面ナゲ。	長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	TP3007 20%
12	広口壺 弥生土器	B 72	頸部片。縄文を施文後、屈曲した部分の縄文は磨り消され、棒状工具で楕円状の刺突が2条施されている。内面ナゲ。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 灰褐色、普通	TP3008 20%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 13	甕 土師器	A 140 B 190	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内面横ナゲ、外面ハケ目調整後、横ナゲ。体部内面ヘラナゲ、外面ヘラナゲ後、ヘラ磨き。外面下端ヘラ磨り。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 3005 20% 外面上部スス付着、 下端赤化

図版番号	器種	計 測 値				石質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第9図 14	甕 石	132	85	43	725.5	砂岩	使用痕は1か所	Q 3001
15	炉 石	18	88	5.8	1267.4	花崗岩	雲母を含む。赤褐色。	Q 3003 PL77
第10図 16	石 皿	37.1	20.8	11	9980.0	砂岩	加熱により一部が赤味を帯びる。	Q 3002 PL78

第103号住居跡（第11～13図）

位置 調査5区の南東部，H7a2区。

重複関係 本跡の北側に第823号土坑に、掘り込まれている。

規模と平面形 第823号土坑に掘り込まれているので、長軸は4.20mと推定され、短軸は3.00mで、平面形は隅丸長方形と思われる。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は10～23cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。踏み固められた部分は認められなかった。

ピット 8か所（P1～P8）。P1～P7は長径22～32cm、短径18～30cmの円形及び楕円形、深さが28～38cmで、壁に沿って確認されている。主柱穴の補助的な性格を持った壁柱穴と思われる。P8は径54cmの円形で、深さ38cmで、ピット内の覆土層は住居跡の覆土2・3層と同じ黒褐色土であり、性格は不明である。

炉 中央部付近に、平面形が楕円形（長径34cm、短径22cm）状に焼土の小ブロックや粒子の広がりがあり、位置から炉と考えられる。赤変硬化している部分は、ほとんどなかった。

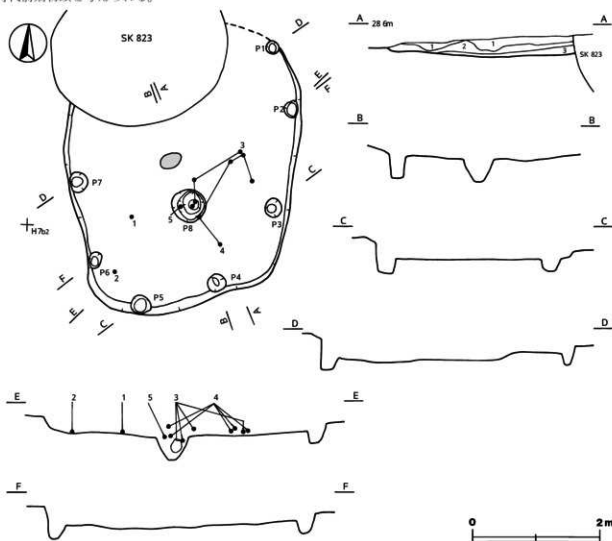
覆土 3層からなる。第1層の黒色土は粘性の弱い覆土である。P8の覆土層から土師器の甕が出土していることや他の土師器が覆土中・下層から出土していることから人為堆積と思われる。

土層解説

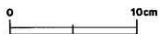
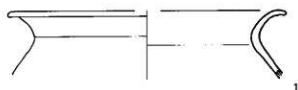
- 1 黒色 ローム粒子・白色スコリア微量 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子 微量

遺物 ほぼ完形の広口壺1点を含む弥生土器5点、土師器97点が出土している。そのうち弥生土器1点、土師器4点を抽出・図示した。第13図2は弥生土器の広口壺である。南西壁際のP6付近の床面から横位のつぶれた状態で出土している。第12・13図1・3・4は土師器の甕である。1はP8の西側の覆土中層から、4はP8と東壁の間の覆土下層から、5はP8の上の覆土下層からそれぞれ出土している。3はP8中の上層から胴部の穿孔された部位を下にした斜位の状態で出土している。

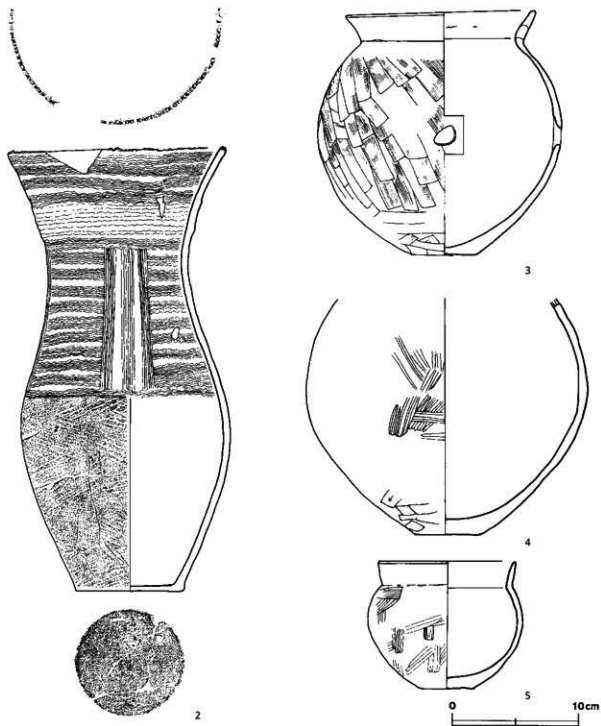
所見 本跡は、炉の硬化状況から短期間の使用と考えられる。また、炉脇のピット中に胴部が穿孔された甕が埋まっていたことは、廃絶時に何らかの行為が行われたものと思われる。時期は、形態が第101号住居跡と同様であることや弥生土器と土師器と一緒に出土していることから、弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。



第11図 第103号住居跡実測図



第12図 第103号住居跡出土遺物実測図(1)



第 13図 第 103号住居跡出土遺物実測図(2)

第 103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 13図 2	広口壺 弥生土器	A 170 B 351 C 84	ほぼ完形。口唇部は、ヘラ状工具で刻みが施された後、小突起が付けられている。口縁部は櫛歯状工具 7本により横走波状文が 4 条施された後 下縁に隆帯が 4 条貼られている。隆帯は押し後にナデられている。口縁部と頸部境及び頸部と胴部境には櫛歯状工具 7本で横走波状文が施文された後、3本一組の縦区画スリットで 3 分割され、区画内には波状文が充填されている。体部外面には、附加条二種 附加 1 条が施されている。底部は布目風。内面ナデ。	長石・石英・雲母に富み黄褐色	P 3006 90% PL54 外面スス付着、下縁赤化

図録番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第12区 1	覆土 土 師 器	A 219 B 53	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲し口縁部は外反する。	口縁部内面八ケ目調整後横ナデ、外面横ナデ。頸部内面ヘラナデ。	緑・長石・石英・雲母 にぶい褐色、普通	P 3008 5%
第12区 3	覆土 土 師 器	A 148 B 193 C 50	平底。体部は球状を呈し、中位で最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面八ケ目調整後横ナデ。体部外面八ケ目調整後ナデ、下端ヘラ削り。底部外面ヘラナデ。	緑・長石・石英・雲母 にぶい褐色、普通	P 3007 90% PL54 体部外面ス入付着 体部中位穿孔
4	覆土 土 師 器	B 186 C 50	底部から体部にかけての破片、平底。体部は球状を呈し、中位に最大径を持つ。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り後、ヘラナデ及びヘラ磨き。底部外面ヘラナデ。	緑・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3009 20% PL54 体部外面ス入付着
5	小形 土 師 器	A 109 B 100 C 42	口縁部一部欠損。平底。体部は内傾意味に立ち上がり、上位に最大径を持つ。口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面八ケ目調整後、ヘラナデ及びヘラ磨き。底部ヘラナデ。	緑・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 3010 80% PL54

第110号住居跡（第14～18区）

位置 調査5区の中央部、G6c5区。

重複関係 P 2の外周りを第73号ピットに、南東コーナー付近を第890・891号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.56m、短軸3.92mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は38～44cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。P 1の東側、P 5の北側、炉の北側周辺が踏み固められている。ピット 6か所（P 1～P 6）。P 1～P 4は長径28～36cm、短径26～30cmの円形及び楕円形で、深さが38～44cmである。P 1～P 4はを結んだ線はほぼ方形となり、支柱穴と思われる。P 5は長径34cm、短径28cmの楕円形で、深さ23cmである。北側が高まりを持って踏み固められていることや位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P 6は炉の北東部にあり、長径40cm、短径28cmの楕円形、深さ23cmである。性格は不明である。炉 中央部のやや西寄りに位置し、平面形が長径96cm、短径58cmの楕円形で、床面を最大で16cmほど掘りくぼめている。炉床中央部から長辺が東西に向けた赤化した炉石が検出された。炉床は赤変硬化している。

伊土層解説

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 黒色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 3 黒色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・白色スコリア微量 | 4 黒色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 8層からなり、上層の黒褐色土は須臾器片等も混じる粘性の弱い覆土である。中層から下層にかけて褐色系の土がレンズ状に堆積していることから自然堆積である。

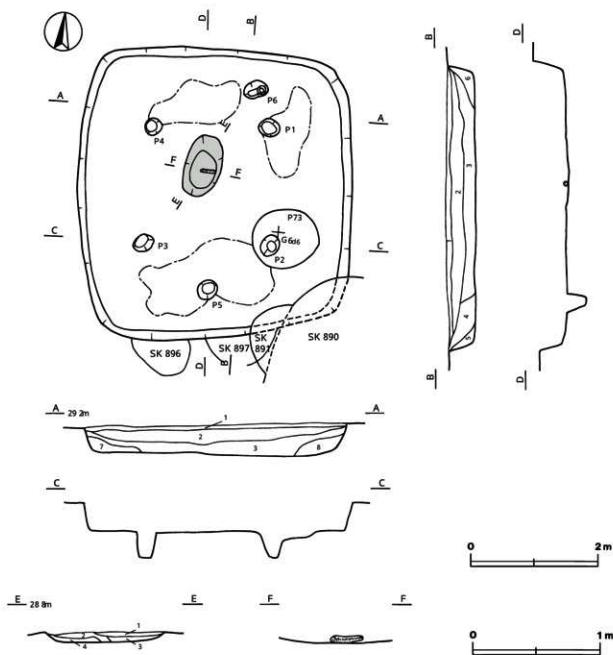
土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 5 褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量 |

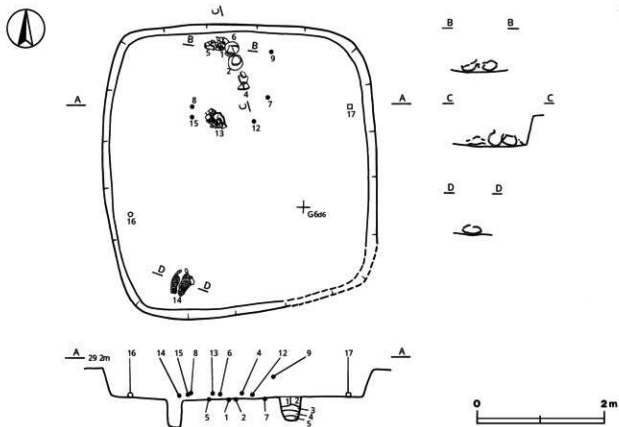
遺物 北部を中心に弥生土器53点、土師器103点、土製品1点、石製品2点が出土している。うち弥生土器10点、土師器5点、土製品1点（紡錘車）、石製品1点（敲石）を抽出・図示した。第17・18区4～11・13・14は弥生土器である。9の底部から胴部にかけての破片は、北壁の中央部近くの覆土上層から、5・6の広口壺は北壁際の床面から2～10数cmほど上部の覆土下層に横位でつぶれた状態で、8は炉とP 4の間の覆土下層から、10・11の破片は南東コーナー部より1mほど離れた付近の覆土下層からそれぞれ出土している。13の広口壺は炉の覆土の上に散らばって、14の口縁部の欠損した広口壺は南西コーナー部の床面より横位のつぶれた状

態で、4の広口壺は中央部北寄りの床面から横位でつぶれた状態で、7の広口壺は炉の北の床面から横位の状態で出土している。第16～18図1～3・12・15は土師器である。12の高杯の脚部片は、炉の北東部の覆土下層から正位の状態で出土している。1のはほぼ完形の甕は北壁中央部近くから横位の状態で、2の甕は正位の状態で床面の数cm上からそれぞれ出土している。15の甕は、炉の近くの覆土下層から割れた状態で出土している。4～6の弥生土器と1・2の土師器が北壁付近に隣接して、10・11の弥生土器片と3の土師器片が近接してそれぞれ出土している。また、17の敲石はP1と東壁の間の覆土下層から、16の紡錘車は西壁中央の覆土下層からそれぞれ出土している。

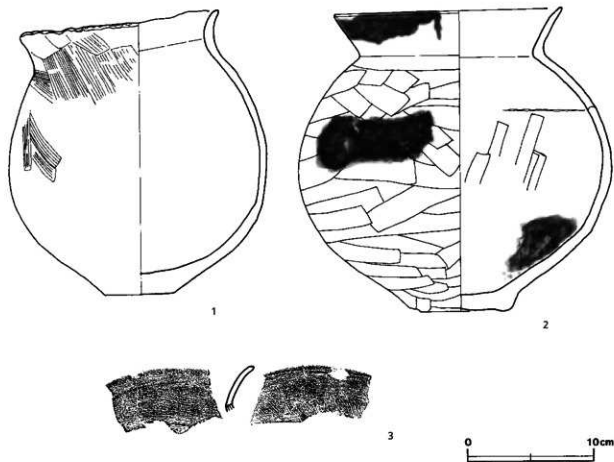
所見 弥生土器と土師器が壁近くの床面から隣り合って出土していることから、時期は、弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。



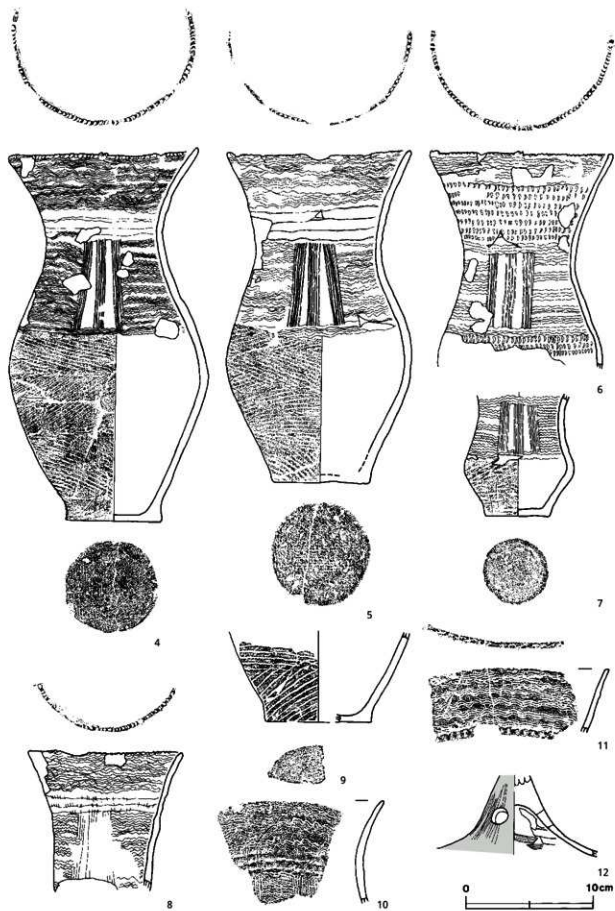
第14図 第110号住居跡実測図(1)



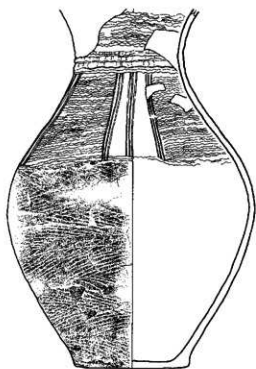
第 15 图 第 110 号住居跡実測图 (2)



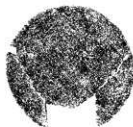
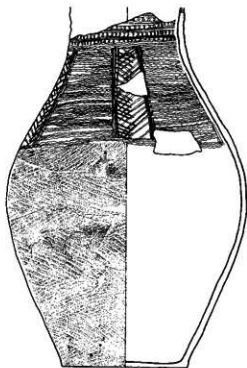
第 16 图 第 110 号住居跡出土遺物実測图 (1)



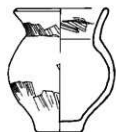
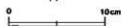
第 17 图 第 110 号住居跡出土遺物実測图 (2)



13



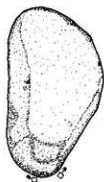
14



15



16



17



第 18 图 第 110 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 13図	広口壺 弥生土器	B 372	口縁部の一部欠損。口縁部上部には櫛歯状工具 3本 で、横走波状文が施されている。下部には3条の隆帯が貼られ、押圧後、ナズられている。口縁部と頸部及び頸部と胴部境には櫛歯状工具 3本 による横走波状文が施された後、3本一組の縦区画スリットで4分割され、区画内には、波状文が密に充填されている。胴部には、羽状構成の附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。底部は布目履。内面ナズ。	磯・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3032 60% PL54
		C 122			
14	広口壺 弥生土器	B 373	口縁部・頸部・胴部の一部欠損。口縁部下端に5条の隆帯が貼られ、原体剥突後ナズられている。口縁部と頸部境及び頸部と胴部境には、櫛歯状工具 4本 で横走波状文が施文されている。櫛歯状工具 4本 による縦区画スリットで5分割され、スリット内にはへら状工具で格子目文、区画内には波状文が密に施されている。胴部外周には、附加条二種 附加1条 の縄文が施文されている。底部は布目履。内面ナズ。	長石・石英・赤色粒子 褐色 普通	P 3033 65% PL54 胴部外周赤化 頸部から胴部外周 ス入付着
		C 130			
第 17図	広口壺 弥生土器	A 146	口縁部・頸部・胴部の一部欠損。平底。胴部は内骨質味に外傾して立ち上がり、上位で最大径を持つ。頸部は内傾しながら口縁部に至る。口縁部は外上方に開く。口唇部はへら状工具で削みが施された後、小突起が3か所付けられている。口縁部上部には、櫛歯状工具 5本 で横走波状文が8条施されている。下部には隆帯が3条貼られて押圧後、ナズられている。頸部と胴部境に横走波状文の施文後、櫛歯状工具で3本一組の縦区画スリットが、区画内には波状文が密に施されている。胴部には、附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。底部は布目履。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 3034 90% PL54 外周ス入付着
		B 294			
		C 76			
5	広口壺 弥生土器	A 146	口縁部から胴部の一部欠損。平底。胴部は内骨質味に外傾して立ち上がり、上位で最大径を持つ。頸部は内傾しながら口縁部に至り、口縁部は外上方に開く。口唇部にはへら状工具で削みが施されている。口縁部上部には櫛歯状工具 5本 で横走波状文が4条施されている。下部には隆帯が4条貼られて押圧後、ナズられている。頸部と胴部境には横走波状文が施された後、櫛歯状工具で3本一組の縦区画スリットが施されている。区画内には波状文が密に施されている。胴部には羽状構成の附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。底部は布目履。口縁部から胴部にかけて内面ナズ。	磯・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 3035 85% PL54 二次焼成 底部に粗履
		B 262			
		C 77			
6	広口壺 弥生土器	A 144	胴部及び底部欠損。頸部は内傾して口縁部に至り、口縁部は外上方に開く。口唇部にはへら状工具による削みがあり、突起が4か所付く。口縁部上部には櫛歯状工具 4本 による横走文が4条施されている。下部は半籠竹管による爪形文が7条施されている。口縁部と頸部境及び頸部と胴部境には横走波状文が施された後、櫛歯状工具 4本 で3本一組の縦区画 3分割 が施されている。区画内には、波状文が密に充填されている。内面ナズ。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3036 40% PL54 外周二次焼成による 赤化及び剝離、外周 ス入付着
		B 170			
7	広口壺 弥生土器	B 96	口縁部・頸部及び胴部の一部欠損。平底。胴部は外傾して立ち上がり、頸部境近くで最大径を持つ。頸部は内傾する。口縁部と頸部境及び頸部と胴部境には横走波状文を施した後、頸部は櫛歯状工具 4本 で3本一組の縦区画スリットにより、3分割されている。区画内には、波状文が密に充填されている。胴部には、附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。底部は布目履。内面ナズ。	磯・長石・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 3037 65% PL54 外周ス入付着
		C 51			
8	広口壺 弥生土器	A 123	口縁部から頸部にかけての破片。口唇部にはへら状工具による削みが施されている。口縁部上部には櫛歯状工具 4本 による横走波状文が5条施され、下部には3条の隆帯が貼られて押圧後、ナズられている。頸部には櫛歯状工具 4本 で縦区画 3分割 され、区画内には波状文が密に充填されている。内面ナズ。	磯・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3038 15% PL54 外周二次焼成による 剝離
		B 100			
9	広口壺 弥生土器	B 70	胴部から底部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には附加条二種 附加1条 の縄文が施されている。底部は布目履。胴部及び底部内面ナズ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 3039 5%
		C 84			
10	広口壺 弥生土器	A 60	口縁部から頸部にかけての破片。口唇部には押圧が施され、口縁部には櫛歯状工具 6本 による横走波状文が施されている。頸部境には隆帯が貼られ、押圧後、ナズられている。頸部には櫛歯状工具 4本 で縦区画スリットが施されている。	長石・石英・赤色粒子 灰褐色 普通	TP3015 5% 二次焼成により外周 剝離
		B 82			
11	広口壺 弥生土器	A 130	口縁部片。口唇部は縄文胴体が回転押圧されている。口縁部には櫛歯状工具 3本 による横走波状文が5条施され、下端に隆帯が貼られている。	長石・石英・雲母・赤色粒子	TP3016 5%
		B 50			

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	甕 土師器	A 156	口縁部及び体部一部欠損。底部は突出する平底。体部は球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。口縁端部は小波状を呈する。	口縁部内面横ナデ。口縁部及び体部外面上部八ヶ目調整後、ナデ。体部下野及び底部ナデ。	磯・長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 3041 95% PL55 二次焼成による外面下部赤化、内面及び外面上部ス付着
		B 224				
		C 54				
2	甕 土師器	A 178	やや突出した平底。体部は球状を呈し、中位に最大径を持つ。内傾しながら胴部に至る。胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り後、ナデ。	磯・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3042 95% PL55 体部内・外面ス付着 二次焼成
		B 239				
		C 76				
3	甕 土師器	B 36	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面八ヶ目調整、外面縦位の八ヶ目調整後横ナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母	TP3017 9%
第18図 12	高土 師器	B 62	脚部片。脚部はラッパ状に開き、中位に円形の透かしが3か所空く。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面縦位の八ヶ目調整後ナデ。	磯・長石・石英・雲母	P 3040 25% 外面赤彩
		A 70	口縁部一部欠損。底部は突出する平底。体部は球状を呈し、最大径を中位に持つ。胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内面八ヶ目調整後横ナデ、外面横ナデ。胴部外面八ヶ目調整。体部外面八ヶ目調整後、ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3043 95% PL54 二次焼成
第18図 15	小形甕 土師器	A 70	口縁部一部欠損。底部は突出する平底。体部は球状を呈し、最大径を中位に持つ。胴部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内面八ヶ目調整後横ナデ、外面横ナデ。胴部外面八ヶ目調整。体部外面八ヶ目調整後、ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3043 95% PL54 二次焼成
		B 97				
		C 34				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第18図 16	紡錘車	-	46	14	395	土製	断面形は扁平な長方形。孔径0.4m。無文。	DP3010 PL76

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第18図 17	磨石	134	77	56	6197	砂岩	使用痕は2か所。	Q 3008 PL77

第121号住居跡（第19～21図）

位置 調査5区の西北部、G6a2区。

重複関係 第5・8号掘立柱建物に3か所掘り込まれている。

規模と平面形 南東部分が調査区域外に延びるので、長軸4.40m、短軸は確認できたのが1.32mである。平面形は不明である。

主軸方向 N-51°-E

壁 壁高は14～16cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。第8号掘立柱建物跡のP5と本跡P3の間にかけて踏み固められている。

ピット 8か所（P1～P8）。P2～P8は長径14～40cm、短径14～34cmの円形及び楕円形、深さが7～22cmで、壁に沿ってはほぼ等間隔に並ぶことから支柱穴の補助的な性格の壁柱穴と思われる。P1は径20cmの円形、深さ18cmである。性格は不明である。

炉 覆土の第4層に焼土小ブロックが含まれることから、第8号掘立柱建物跡のP5付近に存在したと思われる。

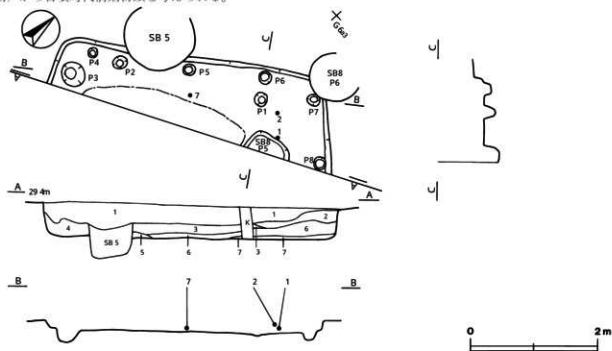
覆土 7層からなり、上層にはローム小ブロック・ローム粒子を含む黒色土の表土が、中層から下層にかけては黒褐色土や黒褐色土がレンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

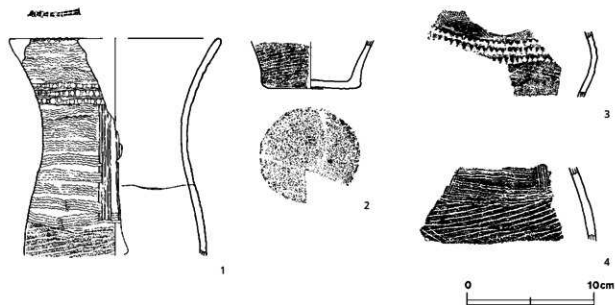
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 | | |

遺物 弥生土器片15点，土師器3点が出土している。うち弥生土器6点，土師器1点を抽出・図示した。第20・21図1～6は弥生土器の広口壺の破片である。2の底部片は，床面から5cmほど上の覆土下層から逆位の状態で出土している。1は床面から，4・5は中央部の床面からそれぞれ出土している。第21図7は土師器である。7は底部から体部にかけての小形甕片で，中央部の覆土及び床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，第101号住居跡と同様に壁柱穴を伴っていることや出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。



第19図 第121号住居跡実測図



第20図 第121号住居跡出土遺物実測図(1)



第 21 図 第 121号住居跡出土遺物実測図(2)

第 121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 cm	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考	
第 2 図 1	広口壺 弥生土器	A 164	口縁部から胴部にかけての破片。口唇部に刻み目が施されている。口縁部には、櫛歯状工具 5本 で横走文が3条施されている。下縁には隈帯が3条貼られ、押圧後ナデられている。頸部の上下は、櫛歯状工具で細幅の小さい横走波状文を施文後、3本一組の縦区画スリットで4分割されている。区画内には、密に波状文が充填されている。胴部には、附加条二種 附加1条の縄文が施されている。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P 3011 10% 覆土及び床面外面赤化	
		B 170				
2	広口壺 弥生土器	B 37	胴部から底部にかけての破片。平底。胴部は外傾しながら立ち上がる。胴部には、附加条二種 附加1条の縄文が施されている。底部は砂目肌。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子黄灰色、普通	P 3012 10%	
		C 78				
3	広口壺 弥生土器	B 51	胴部から胴部にかけての破片。胴部に3条に貼られた隈帯は押圧されている。櫛歯状工具 5本 で上向きの運弧文が施されている。胴部は摩耗しているため不詳であるが、縄文が施されている。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	TP3009 9% 二次焼成外面スス付着	
4	広口壺 弥生土器	B 58	胴部から胴部にかけての破片。胴部は下縁に櫛歯状工具 5本 で横走文が施文された後、縦区画スリットが施されている。区画内には、密に波状文が充填されている。胴部には、附加条二種 附加1条の縄文が施されている。内面ナデ。	石英・雲母にぶい黄橙色普通	TP3010 9% 外面スス付着	
第 2 図 5	広口壺 弥生土器	B 86	頸部から胴部にかけての破片。胴部には、附加条二種 附加1条の縄文が施されている。羽状構成をとる。内面ナデ。	石英・雲母にぶい黄橙色普通	TP3011 9%	
6	広口壺 弥生土器	B 88	頸部から胴部にかけての破片。胴部には、附加条二種 附加1条の縄文が施されている。羽状構成をとる。内面ナデ。	石英・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色、普通	TP3012 9%	
図版番号	器 種	計測値 cm	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 2 図 7	小形甕 土 師 器	B 103	底部から口縁部にかけての破片。底部は内彎角味に外傾して立ち上がり、上位に最大径を持つ。口縁部は外反する。	体部内面ハケ目調整後、ヘラナデ。外面ハケ目調整後、ヘラナデ及びヘラ磨き。体部外面下縁ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラナデ。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子橙色普通	P 3013 79% PL55 二次焼成 外面スス付着
		C 51				

(2) 古墳時代前期

第 1 号住居跡 (第 22・23 区)

位置 調査 1 区の東部、B6i1区。

規模と平面形 長軸3.32m、短軸3.02mの隅丸方形である。

主軸方向 N - 2° - W

壁 壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。軟らかなローム土で、踏み固められた部分は認められない。

ピット P1は長径62cm、短径38cmの楕円形、深さ26cmで、南壁の中央部の壁寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる

炉 中央部からやや北寄りにあり、長径52cm、短径38cmの楕円形で、床面を4～8cm掘りくぼめている。炉床はあまり赤変硬化していない。

伊土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、 | 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| | ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック微量 |

覆土 3層からなる。下層である第3層にローム大ブロック・ローム中ブロックが、また各層にも炭化粒子が含まれていることから人為堆積と思われる。

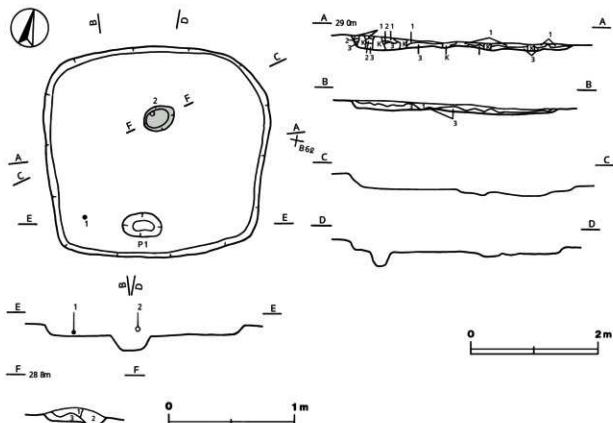
土層解説

- | | | | |
|-------|---|------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、炭化粒子・白色スコリア微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

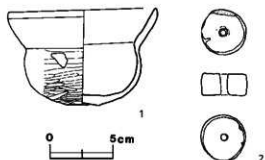
遺物 遺構全体から出土しているが、出土量は少ない。ほぼ完形の埴を含めて土師器片8点が出土している。

第23図1の土師器の埴は、南西コーナー近くの床面から小片に割れてまとまった状態で出土している。2の土製紡錘車は、覆土上層（遺構確認面）から出土している。

所見 時期は、規模・平面形及び1の埴が床面から出土していることから4世紀後半と考えられる。



第22図 第1号住居跡実測図



第 23 図 第 1 号住居跡出土遺物実測図

第 1 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 2 図 1	埴 土 器	A 116	口縁部の一部欠損。中央部が凹む丸底。体部は内管して立ち上がり、口縁部は外傾する。頸部はやや尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横	長石・石英・赤色 粒子 明黄褐色、普通	P 3044 95% PL55
		B 77				
		C 24				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 2 図 2	紡 錘 車	-	35	17	301	土製	無文。断面形は長方形。孔径 0.6~0.2m。	DP3011 PL76

第 31 号住居跡 (第 24・25 図)

位置 調査 1 区の東部、B5j9 区。

重複関係 北西部から東壁中央にかけてを第 6 号溝に、西側を第 7 号溝に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸 5.06m、短軸は 2 条の溝に掘り込まれているために確認できたのは 4.74m で、平面形は隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は 8~18cm で、ゆるやかな傾斜をもって立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。西側と北側が 2 条の溝に掘り込まれているが、検出状況から P1~P4 の柱穴を結んだ内側が踏み固められていたと思われる。

ピット 6 か所 (P1~P6)。P1~P3 は径 34~40cm の円形、深さ 40~62cm である。P4 は長径 40cm、短径 34cm の楕円形、深さ 58cm である。規模及び 4 か所を結ぶ線が住居跡の平面形と形状を同じ長方形を示すことから主柱穴と思われる。P5 は径 33cm の円形、深さ 24cm、P6 は長径 24cm、短径 18cm の楕円形、深さ 68cm であり、性格は不明である。

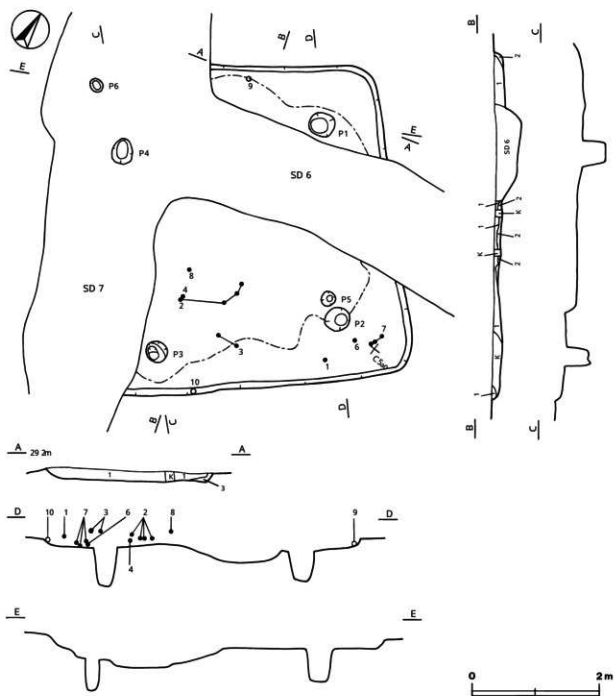
覆土 3 層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

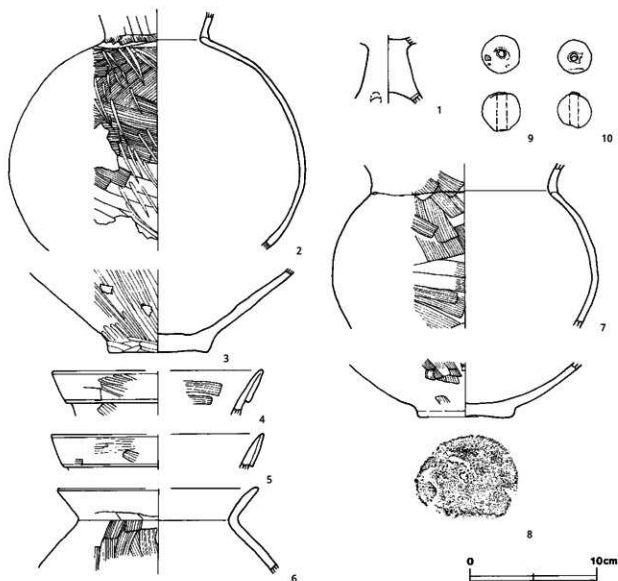
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 南部を中心に土師器片104点、土製品2点が出土している。うち土師器8点、土製品2点（土玉）を抽出・図示した。1は高坏の脚部片で、南東コーナー近くの覆土下層から横位の状態で出土している。3の壺片は中央部の南壁寄りから、8の甕片は中央部の覆土上層から、ともに破片がまどまって出土している。2の壺片は中央部の南壁寄りの覆土中・下層から、4の壺の口縁部片はP3北側の覆土中層から裏面が上を向いた状態で、5の壺の口縁部片は覆土から出土している。6・7の甕片はP2の東側からともに破片がまとまった状態で、6は覆土下層から、7は床面から数cm上のところからそれぞれ出土している。第25図9・10は土玉である。9は北壁際の覆土下層から、10は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、規模・平面形及び出土土器から4世紀代と考えられる。



第24図 第31号住居跡実測図



第 25 図 第 31号住居跡出土遺物実測図

第 31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 25 図 1	高土師器	B 52	脚部片。脚部は八の字状に開く。脚中央に孔を3か所持つ。	脚部外面ナデ後、縦位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 3045 25% 外面割離
2	壺土師器	B 187	口縁部から体部にかけての破片。体部は球状であり、中位に最大径を持つ。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内面ナデ、外面八ヶ目調整後ナデ。体部内面横ナデ、外面八ヶ目調整後、ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい赤褐色、普通	P 3047 20% PL55
3	壺土師器	B 65 C 78	底部から体部にかけての破片。突出した平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面八ヶ目調整、外面縦位のヘラ磨き。底部外面ヘラ磨り。	礫・長石・石英 明赤褐色 普通	P 3049 20% 内面割離
4	壺土師器	A 167 B 35	口縁部片。口縁部は複合口縁で、外上方に開く。	口縁部内面八ヶ目調整後ヘラナデ、外面八ヶ目調整後ヘラ磨き。	礫・長石・雲母・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 3142 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第2図 5	壺 土師器	A 167 B 28	口縁部片。口縁部は複合口縁で、 外上方に開く。	口縁部内面ハケ目調整後ヘラナデ、 外面ハケ目調整後、ヘラナデ及び ヘラ磨き。	磯・長石・雲母・赤 色粒子 橙色、普通	P 3143 5%
6	壺 土師器	A 156	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至る。頸部 はく字状に屈曲する。口縁部は 外反する。	口縁部内・外面ハケ目調整後、横 ナデ。体部内面横ナデ、外面ハケ 目調整後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3046 5%
7	壺 土師器	B 129	体部から口縁部にかけての破片。 体部は中位に最大径を持つ。頸部 は直立気味に立ち上がり口縁部 は外反する。	口縁部内面ナデ、外面ハケ目調整。 体部外面ハケ目調整。	磯・長石・石英・赤 色粒子 橙色 普通	P 3048 15% PL55 外面ス入付着
8	壺 土師器	B 43 C 74	底部から体部にかけての破片。突 出した平底。体部は外傾して立ち 上がる。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整後、 ナデ。底部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 黄色、普通	3050 5%

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	孔径 cm	重量 g			
第2図	9 土 玉	-	30	07~08	258	土製	断面形は球状	DP3012 PL76
	10 土 玉	-	30	07	162	土製	断面形は球状	DP3013 PL76

第33号住居跡（第26・27図）

位置 調査1区の東部、C5c4区。

規模と平面形 長軸4.48m、短軸3.74mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は16~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。炉の東側・南西側と出入り口ピットの周囲が踏み固められている。出入り口ピットの北側には若干の高まりがある。

ピット 5か所（P1~P5）。P1・P3は、それぞれ長径36cm・42cm、短径28cm・34cmの楕円形、深さ16cm・39cmである。P2・P4は、それぞれ径36cm・42cmの円形、深さ40cm・50cmである。規模及び4か所を結ぶ線が平面形と同じく長方形を示すことから支柱穴と思われる。P5は径24cmの円形、深さ50cmで、P2とP3の間の南壁寄りに位置することや北側に高まりがあることから出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部のやや北寄りの床面に焼土粒子の広がり確認され、位置等から炉と思われる。平面形は長径48cm、短径46cmのはほぼ円形で、掘りくぼみや硬化面はない。

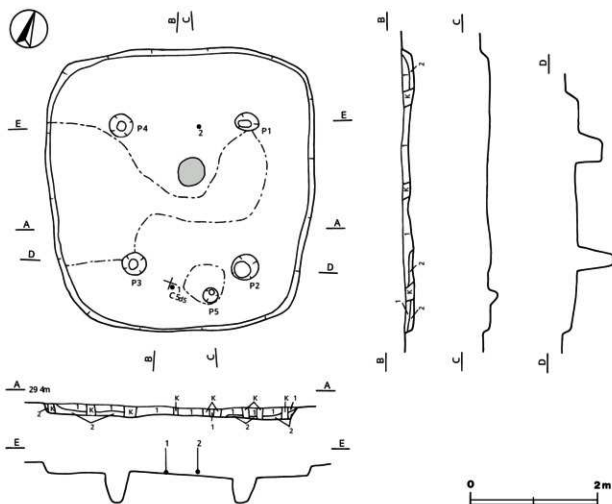
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片34点が出土しているが、多くが細片である。第27図1・2は土師器の壺の体部片で、1は中央部南寄り、2は中央部から北寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。



第 26 図 第 33号住居跡実測図



第 27 図 第 33号住居跡出土遺物実測図

第 33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 2 図 1	甕 土 師 器	B 65	体部片。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整後ナデ。	長石・石英・雲母にふいり澄色普通	TP3021 5%
2	甕 土 師 器	B 35	体部片。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整後ナデ。	礫・長石・石英にふいり澄色普通	TP3022 5%

第37号住居跡（第28・29図）

位置 調査1区の北東部、C5a5区。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.70mの方形である。

主軸方向 N-11° W

壁 壁高は12~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。軟弱なローム土で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1・P4は径20cmの円形、深さ23cmほど、P2・P4は、それぞれ長径26cm・30cm, 短径20cm・22cmの楕円形、深さ20cm・12cmと浅いが、各コーナ一部分付近に位置することから主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は長方形になる。

炉 中央部北寄りに位置し、直径36cmの円形で、床面を4cmほど掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

伊土層解説

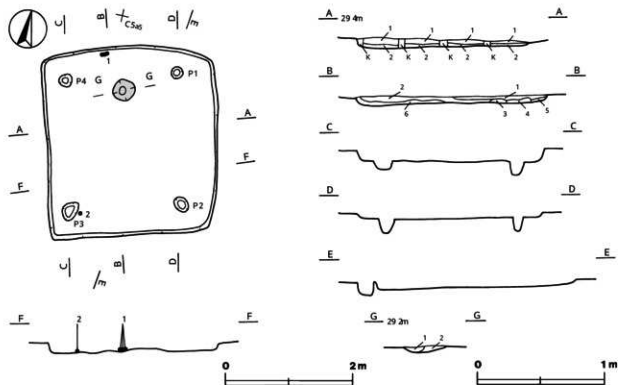
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量

覆土 6層からなる。覆土全層にわたってロームブロック・炭化粒子・焼土粒子が含まれており、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

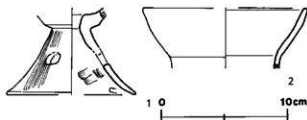
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器の器台及び埴の破片 2点だけの出土である。第29図1の脚部片は北壁際の床面から細かく割れた破片がまとまって、第29図2の埴の口縁部片はP3東側の床面から裏面が上の状態で、それぞれ出土している。所見 本跡は、炭化材や焼土粒子が検出されていることから焼失住居と思われる。時期は、床面から出土している1・2の土器から4世紀後半と考えられる。



第28図 第37号住居跡実測図



第 29 図 第 37号住居跡出土遺物実測図

第 37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 2 図 1	器 土 師 器	B 68 C 103	脚部の一部・器受部欠損の脚部片。 脚部はラッパ状に開き、中に孔が 空く。器受部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面ハ ケ目調整後ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 3051 40% PL55 赤影
2	埴 土 師 器	A 131 B 47	口縁部から頸部にかけての破片。 口縁部は頸部から外傾して開く。	口縁部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲 母 浅黄色、普通	P 3052 5%

第38号住居跡（第30・31図）

位置 調査1区の南東部，C6d1区。

重複関係 北西コーナーから西壁中央部にかけてを第7号溝に、西壁中央部を第599号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.80mで，平面形は，残存している壁から不整形と推定される。

主軸方向 N-36°-W

壁 残存している壁の壁高は8～22cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。炉の東側付近が踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は長径30～40cm，短径28～36cmの円形及び楕円形，深さ51～68cmで，規模や4か所を結ぶ線が壁とほぼ平行していることから主柱穴と思われる。P5は長径44cm，短径34cmの楕円形，深さ74cmで，P6は長径46cm，短径36cmの楕円形，深さ55cmで，性格は不明である。

炉 中央部から西寄りであり，長径86cm，短径66cmの楕円形で，床面を最大で12cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

伊土層解説

- | | | | |
|--------|--|----------|--|
| 1 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ロー
ム小ブロック・ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，
焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・
炭化粒子微量 | 4 に近い赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，
ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |

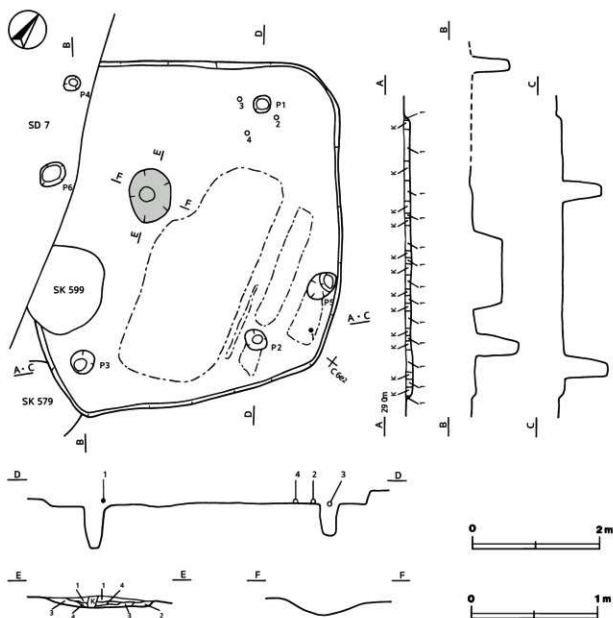
覆土 覆土は薄く，粘性及びじまりのない単一層である。耕作機械による攪乱が多く，また，覆土が薄いので，人為堆積か自然堆積か不明である。

土層解説

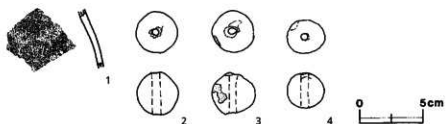
- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 出土量が少なく，土師器片3点，土製品3点（土玉）だけである。第31図1は土師器甕の体部片で，覆土下層から裏面が上を向いた状態で出土している。2～4の土玉はP1付近の床面から出土している。

所見 時期は，遺構の形態及び出土土器から4世紀代と考えられる。



第 30図 第 38号住居跡実測図



第 31図 第 38号住居跡出土遺物実測図

第 38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 3 図 1	甕 土師器	B 48	体部片。	体部内面ナデ，外面ハケ目調整後 ヘラナデ。	礫・長石・雲母 にふい橙色 良好	TP3023 5% 口縁部内面入付着 二次焼成

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第3図	2 土 玉	-	33	06-07	347	土製	断面形は球状。	DP3014 PL76
	3 土 玉	-	34	06-07	318	土製	断面形は球状。	DP3015 PL76
	4 土 玉	-	30	06	204	土製	断面形は球状。	DP3016 PL76

第102号住居跡（第32～35図）

位置 調査5区の南部，G6i7区。

重複関係 第113号住居跡の覆土上層を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸8.14m，短軸7.34mの長方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は20～22cmで，外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。軟弱なローム土で踏み固められた部分は認められない。

ピット 9か所（P1～P9）。P1～P4は長径32～54cm，短径32～44cmの円形及び楕円形，深さ33～56cmで，規模及びそれぞれがコーナー部付近に位置することから主柱穴と思われる。P5は径38cmの楕円形，深さ17cmで，P2とP3の間の南壁寄りに位置することや北側に高まりがあること等から出入り口施設に伴うピットと思われる。P6～P9は長径24～36cm，短径22～24cmの円形及び楕円形，深さ13～36cmで，性格は不明である。

炉 中央部のやや北側に位置している。長径78cm，短径54cmの楕円形で，床面を最大で14cmほど掘りくぼめている。第113号住居跡の覆土の黒色土上に作られているために，炉床は赤色を帯びた程度で，硬化した部分は見られない。

伊土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |

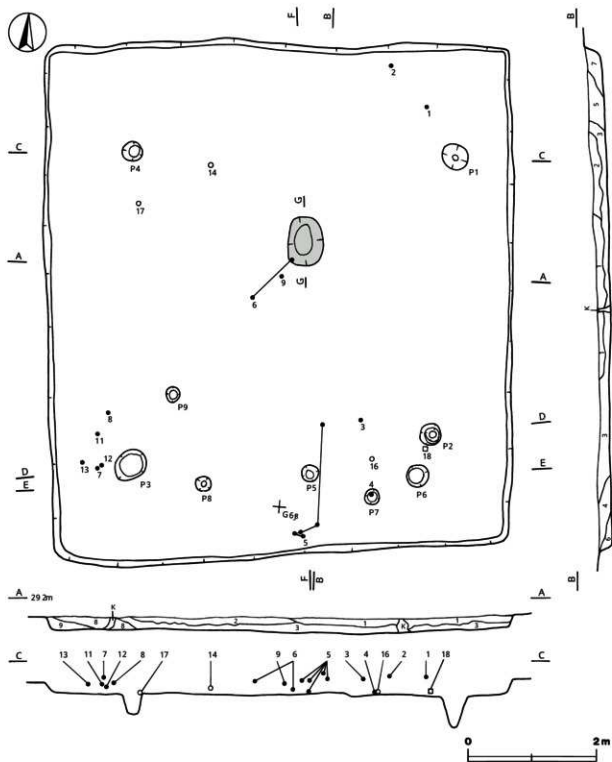
覆土 遺構確認時は第1・2層の黒色土が楕円形を呈し，掘り込み時に平安時代の須恵器片等が40点出土したことから，平安時代まで完全に埋まりきっていなかったと思われる。壁際の土層がローム小ブロックやローム粒子を多く含んでレンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

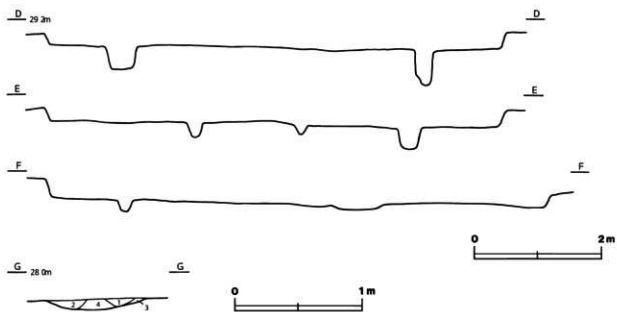
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---|
| 1 黒色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 主に南東コーナー付近，南西コーナー付近，中央部を中心に遺物が出土している。弥生土器片118点，土師器片869点，土製品4点，石製品1点が出土している。うち土師器13点，土製品4点（土玉），石製品1点（砥石）を抽出・図示した。第34・35図1～13は土師器である。1の高杯の脚部は，北東コーナー寄りの覆土中層から横位の状態で，2の埴は北壁際の覆土中層から正位の状態で，3の埴の体部片は中央部の南東の覆土中層から外面が上の状態で，それぞれ出土している。4・5の甕は，南壁近くの床面及び覆土下層から，4は正位の状態で，5は小片が散らばった状態で出土している。第34・35図6～13は手捏土器で，6・9は炉の南西付近，6・9・10を除いた5個体は南西コーナー付近の覆土下層から近接して出土している。このほかにも手捏

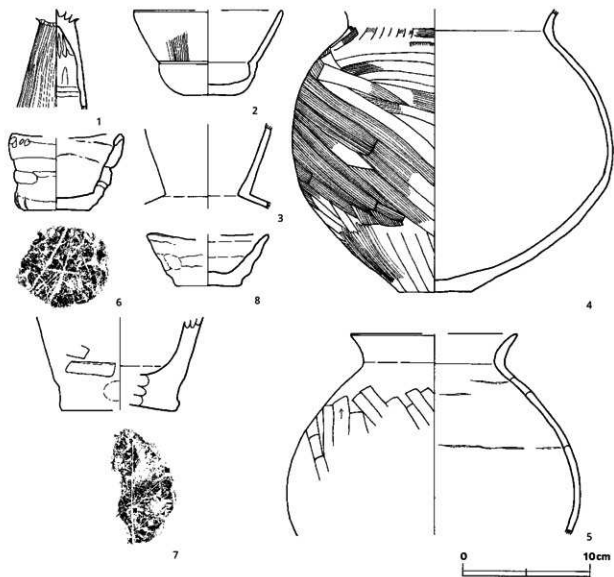
土器の細片が、多く出土している。また、土玉や砥石も出土している。15の土玉は覆土から出土している。14・17の土玉は中央部北西、16の土玉は中央部南東、18の砥石は南東コーナー寄りのとにも床面から出土している。所見 本跡から弥生土器片が多数出土しているが、細片であり、第1・2層の黒色を呈する覆土上層を中心に出土していることから考えて流れ込みと思われる。遺物の出土場所が大きく3か所に分かれていることや、完形や割れた手捏土器がまとめて出土していることなどから投棄された可能性がある。時期は、床面から出土している1～4の土器から4世紀前半と考えられる。



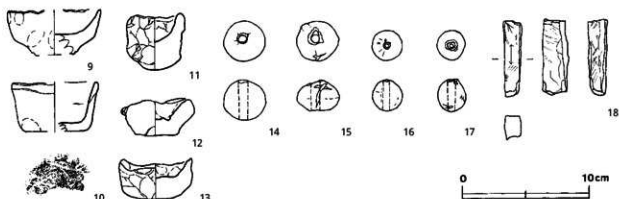
第 32 図 第 102 号住居跡実測図 (1)



第 33 图 第 102 号住居跡実測图 (2)



第 34 图 第 102 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 35 図 第 102 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 102 号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 34 図 1	高土師器 B	77	脚部片。脚部は八の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面蹴位のへら磨き	褐色、良好	P 3017 15%
2	埴土師器 A B C	116 67 42	口縁部一部欠損。平底。体部は、内彎気味に立ち上がり、頸部に至る。頸部に沈線が通る。口縁部は外傾して外上方に立ち上がる。	口縁部内面横ナデ、外面ナデ後、蹴位のへら磨き。底部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 淡黄色 普通	P 3018 60% PL55
3	埴土師器 B	62	体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部間に横を持つ。口縁部はくの字状に屈曲後、外反する。	口縁部内面八ヶ目調整後横ナデ、外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	礫・長石・石英・雲母 淡黄褐色、普通	P 3019 20%
4	甕土師器 B C	223 58	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は外傾しながら立ち上がり、中位に最大径を持つ。内傾しながら頸部に至る。口縁部は外反する。	口縁部内・外面八ヶ目調整後横ナデ。体部内面へらナデ。外面斜位の八ヶ目調整、下蹴位のへら磨き。底部外面へら削り。	礫・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 3020 83% PL55 外面上部赤化及びスス付着
5	甕土師器 A B	130 158	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲し口縁部は外反する。	輪積み後、口縁部内・外面横ナデ。胴部内面ナデ、外面八ヶ目調整後へらナデ。	礫・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3021 20% 内面に輪積み痕
6	手捏土師器 A B C	86 60 52	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	輪積み後、体部及び底部内・外面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 3022 75% PL55
7	手捏土師器 B C	74 92	底部から体部にかけての破片。内厚の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。外面へら及び指頭によるナデ。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3023 9%
8	手捏土師器 A B C	96 40 52	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	輪積み後、体部内面へらナデ、外面指頭による圧痕及びびナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3024 50%
第 35 図 9	手捏土師器 A B C	72 35 30	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ、外面指頭による圧痕及びびナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 3025 50%
10	手捏土師器 A B C	66 39 50	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部へらナデ。底部木葉痕。	礫・石英・長石・雲母 黒色、普通	P 3026 50%
11	手捏土師器 A B	40 44	内厚の丸底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内面ナデ。口縁部・体部外面指頭による圧痕及びびナデ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3027 100%
12	手捏土師器 A B C	48 29 30	やや肉厚の平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面指頭による圧痕及びびナデ、外面指頭によるナデ。底部外面ナデ。	石英・長石・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P 3028 100%
13	手捏土師器 A B C	53 32 22	肉厚の平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部内面八ヶ目調整及びびナデ、外面指頭による圧痕及びびナデ。底部内面指頭による圧痕及びびナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3029 100% 西壁南寄り覆土下層

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第3図	14 土 玉	-	33	06	31	土製	新断面は球状。	DP3001 PL76
	15 土 玉	-	34	07-10	209	土製	新断面は楕円形。	DP3002 PL76
	16 土 玉	-	24	05-06	113	土製	新断面は球状。	DP3003 PL76
	17 土 玉	-	24	05-07	11	土製	新断面は球状。	DP3004 PL76

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第3図	18 紙 石	60	15	21	288	泥岩	使用面は一面	Q 3005

第104号住居跡（第36～38図）

位置 調査5区の北東部，F7f1区。

重複関係 第108号住居跡を掘り込み，東壁中央部を第825号土坑に，掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.40m，短軸5.26mの方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は30～40cmで，外傾して立ち上がる。

床 P1の周囲は皿状に窪んでいるが，ほぼ平坦である。P1の周囲を除いて，全体的に踏み固められている。ピット 9か所（P1～P9）。P1～P4は長径30～42cm，短径28～40cmの円形及び楕円形，深さ20～52cmで，規模や位置から支柱穴と思われる。P5は長径32cm，短径30cmの円形，深さ22cmで，位置から出入口に伴うピットと思われる。P6～P8は長径30～36cm，短径26～34cmの円形及び楕円形，深さ22～28cmである。性格は不明である。P9は長軸94cm，短軸50cmの不定形，深さ9cmはであり，その性格は不明である。

P9土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子 少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック微量

炉 中央部から北寄りに位置し，長径80cm，短径30cmの長楕円形で，床面を最大で6cmほど掘りくぼめている。炬床全体が，赤変硬化している。

炉土層解説

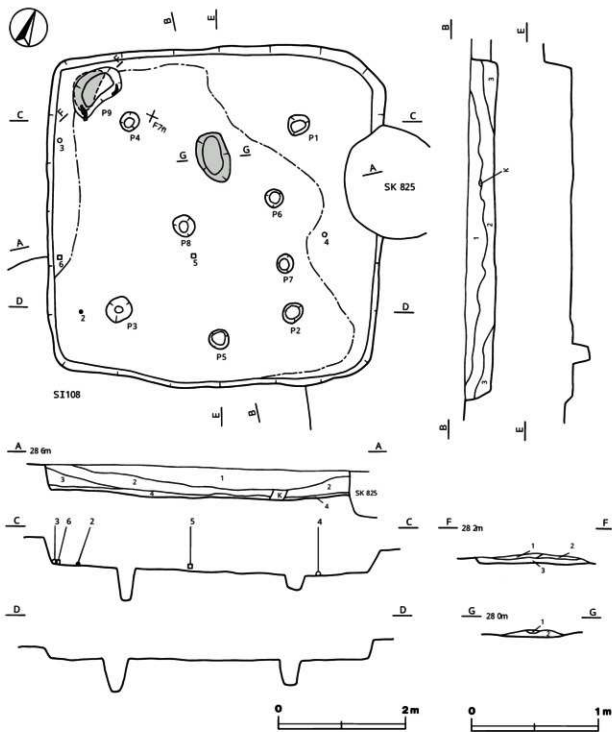
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土大ブロック少量

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

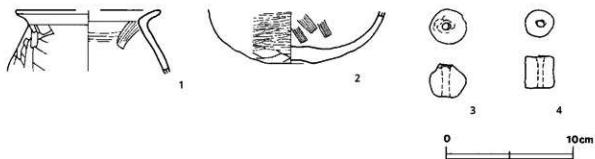
土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量

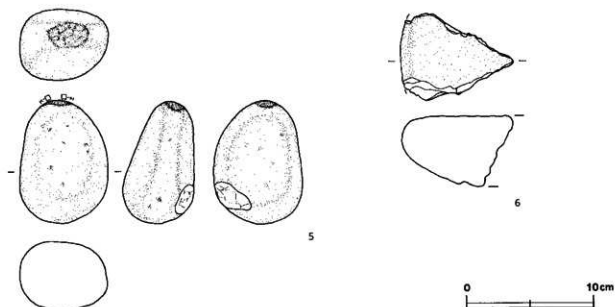
遺物 弥生土器片4点，土師器片25点，土製品2点が出土している。うち土師器片2点，土製品2点（土玉・管状土鍾），石製品2点（敲石・石皿）を抽出・図示した。第37図1の口縁部から体部にかけての壺片は，覆土下層から4片がまとまって裏面が上を向いた状態で，2の底部から体部にかけての壺片は，P3と西壁を結ぶ間の覆土下層からそれぞれ出土している。3の土玉は北西部壁際の床面から，4の管状土鍾は中央部の東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。5の敲石はP8の南，6の石皿は西壁際の覆土下層から出土している。所見 本跡から出土している弥生土器片は細片で，覆土上層から下層の間で出土していることから流れ込みと思われる。時期は，1・2の土器から4世紀代と考えられる。



第 36 图 第 104 号住居跡実測图



第 37 图 第 104 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 38 図 第 104号住居跡出土遺物実測図(2)

第 104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 3 図 1	甕 土 篩 器	A 114	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至り、頸部 はくの字状に屈曲する。口縁部は 外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ハケ目調整後ナデ、外面ハケ目調 整後、ヘラナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P 3030 10%
		B 50				
2	甕 土 篩 器	B 41	底部から体部にかけての破片。底 部が凹む丸底。体部は内傾しなが ら立ち上がる。	体部内面ハケ目調整後ナデ、外面 ハケ目調整後、ナデ及びヘラ磨き。	礫・長石・石英・針 状鉱物・雲母 浅黄色、普通	P 3031 20%
		C 36				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第 3 図 3	土 玉	-	29	07	176	土製	断面形は球状	DP3005 PL76
4	管状土埴	26	23	04-07	155	土製	円筒状で、断面形は長方形	DP3006 PL76

図版番号	器種	計 測 値				石質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 3 図 5	甌 石	97	70	57	5359	石英斑岩	雲母を含む。挟りを持つ。	Q 3006 PL77
6	石 皿	68	89	56	3128	砂岩	器面は滑らか。	Q 3007

第106号住居跡 (第39・40図)

位置 調査5区の北部、F617区。

規模と平面形 南側が調査区域外に延びるので、長軸は6.16m、確認できた短軸は2.42mである。平面形は方形もしくは長方形と推定される。

主軸方向 N-16°-Wと推定される。

壁 壁高は32~42cmで、西壁は外傾して、北壁及び東壁はゆるやかな傾斜をもって、それぞれ立ち上がる。

壁溝 検出した壁下を巡る。上幅14~22cm、下幅6~10cm、深さ4~8cmで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦である。検出した範囲では軟弱なローム土で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径36cm, 短径24cmの楕円形, 深さ54cm, P2は長径38cm, 短径36cmの円形, 深さ54cmである。規模やP1とP2を結ぶ線が北壁と平行であること等から主柱穴の一部と思われる。P3は長径24cm, 短径20cmの円形, 深さ29cmである。性格は不明である。

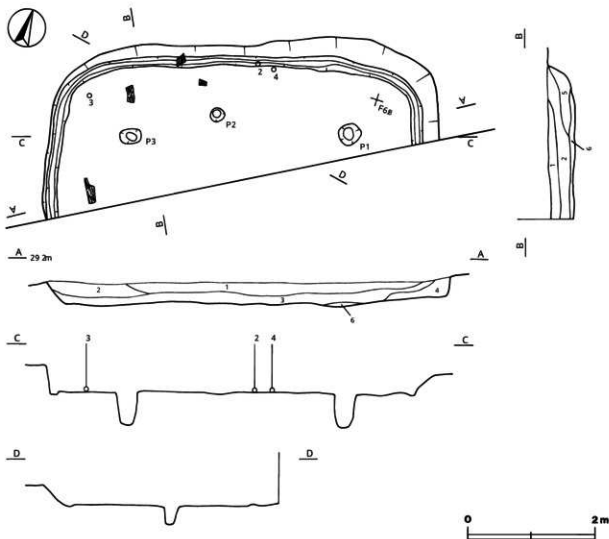
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

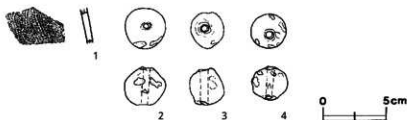
- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム大ブロック・炭化粒子少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 4 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片7点, 土製品3点と出土量は少ない。うち土師器片1点, 土製品3点(土玉)を抽出・図示した。第40図1は土師器の甕の体部片で, 覆土から出土している。2・4の土玉は北壁際中央の覆土下層から, 3の土玉は北西壁コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 覆土下層から炭化材が検出され, また焼土粒子や炭化粒子を含んでいることから焼失住居と考えられる。時期は, 床面からの出土土器から4世紀代と考えられる。



第39図 第106号住居跡実測図



第40図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 1	土師器	B 30	体部片。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整後ヘラナデ。	磁・長石・石英に富み橙色普通	TP3014 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第4図	2 土 玉	-	32	05-06	272	土製	断面形は球状。	DP3007 PL76
3	土 玉	-	27	06-07	184	土製	断面形は球状。	DP3008 PL76
4	土 玉	-	28	06-07	175	土製	断面形は球状。	DP3009 PL76

第129号住居跡 (第41・42図)

位置 調査5区の北西部、G5a9区。

重複関係 西コーナーから南コーナーにかけての南西壁付近を第18号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 溝の西側に本跡の壁の立ち上がりが確認されていないことから、南西壁付近が溝に掘り込まれて壊されたと思われる。長軸3.90m、残存で短軸は3.36mである。平面形は隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は8~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。P1からP4を結ぶ線内が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P3は長径24~26cm、短径22~24cmの円形及び楕円形、深さが13~16cmで、南コーナー付近のピットは確認されなかったが、ピット間を結ぶ線が向かい合う壁とはほぼ平行になることから支柱穴と思われる。P4は径24cmの円形、深さ30cmである。炉と結ぶ線が北東壁と平行することや南東壁の中央寄りに位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。P5は長径26cm、短径22cmの楕円形、深さ9cmである。P1の東側にあり、性格は不明である。

炉 中央部の北西寄りに位置し、平面形が長径40cm、短径34cmの楕円形で、床面を最大で6cmほど掘りくぼめている。火床部は焼土粒子等が見られ、やや赤変しているが、あまり硬化していない。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック少量

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

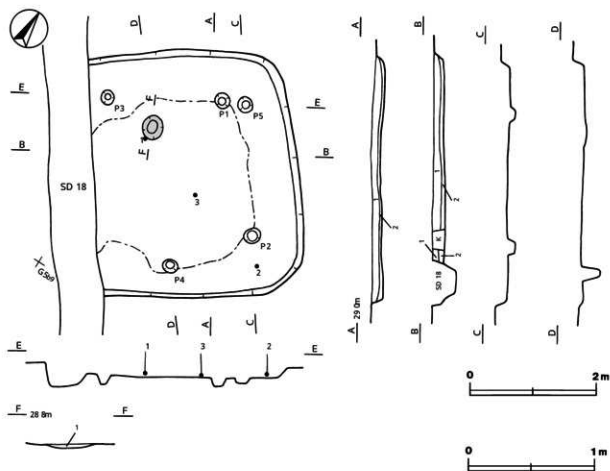
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

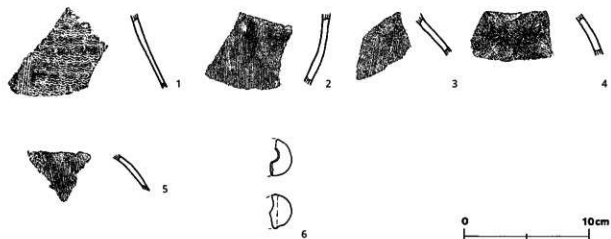
遺物 弥生土器3点、土師器10点、土製品1点と出土遺物は少なく、細片である。うち弥生土器1点、土師器4点、土製品1点(土玉)を抽出・図示した。第42図1の弥生土器片は、炉南側の覆土中層から出土している。

4の土師器甕片は、覆土から出土している。2の土師器甕片は、P2南の覆土下層から出土している。3の土師器甕片は、中央部の床面から出土している。5の土師器甕片は、踏み固められた貼床中から出土している。6の土玉は、P4中から出土している。

所見 1の弥生土器片が出土しているが、5のハケ目調整された土師器甕片が貼床中から出土していることから時期は、4世紀代と考えられる。



第 41 図 第 129号住居跡実測図



第 42 図 第 129号住居跡出土遺物実測図

第 129号住居跡出土土物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 1	広口壺 弥生土器	B 58	頸部片。頸部には、棒状工具 5本 による縦区画スリットが施されている。区画内には、密に波状文が充填されている。	長石・石英・針状鉱物・雲母に富み黄褐色、普通	TP3080 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 2	甕 土器	B 58	体部片。体部は内傾する。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整。	礫・長石・石英に富み褐色普通	TP3076 5%
3	甕 土器	B 34	体部から頸部にかけての破片。体部は内傾しながら頸部に至る。	頸部及び体部内面ナデ、外面ハケ目調整。	礫・長石・石英に富み褐色普通	TP3077 5%
4	甕 土器	B 32	体部片。体部は内傾する。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整。	礫・長石・石英に富み褐色普通	TP3078 5%
5	甕 土器	B 28	体部片。体部は内傾する。	体部内面ナデ、外面ハケ目調整。	礫・長石・石英に富み褐色普通	TP3079 5%

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	孔径 cm	重量 g			
第4図 6	土 玉	-	28	08	86	土製	胎土に礫・長石・雲母を含む。色調は黒色。	DP3040

(3) 古墳時代後期

第3号住居跡 (第43・44図)

位置 調査1区の北西部, B4d7区。

規模と平面形 長軸3.94m, 短軸3.76mの隅丸方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は53~55cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東・南・西壁下の一部に確認された。規模は、上幅18~20cm, 下幅6~10cm, 深さ6~14cmで、断面形はU字状である。

床 はほぼ平坦であり、P5から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径23~36cm, 短径20~24cmの円形及び楕円形、深さ23~48cmで、規模や各コーナー寄りに位置していることから主柱穴と思われる。P5は長径34cm, 短径26cmの楕円形、深さ19cmで、竈と対峙する南壁寄りに位置することや北側が踏み固められていることから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、袖部が遺存している。袖部は白色粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで106cm, 最大幅102cm, 壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面を12cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|--|-------|---------------------------------------|
| 1 褐色 | 白色粘土粒子・砂多量, 粘土小ブロック中量, ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 に富み赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子・砂多量, ローム粒子・炭化物中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| | | 5 褐色 | 焼土小ブロック多量, ローム小ブロック中量 |

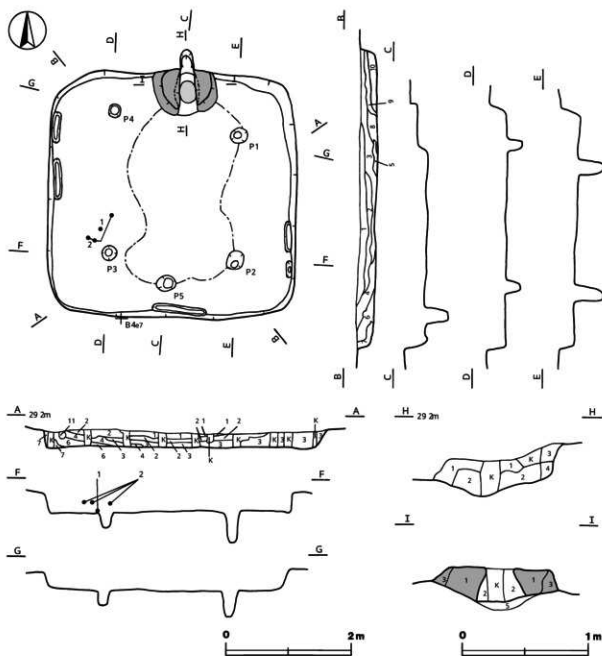
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

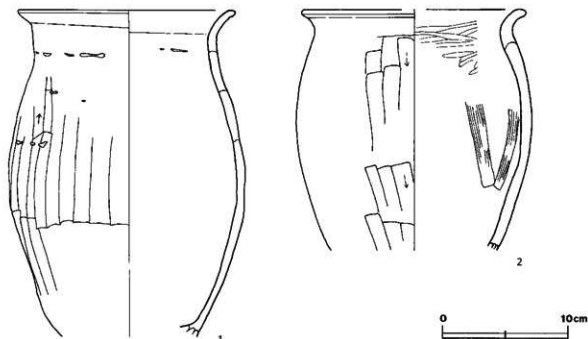
- | | | | |
|-------|---------------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック中・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |

遺物 土師器片41点が出土しているが、多くが細片である。うち底部を欠損した土師器の長胴甕2点を抽出・図示した。第44図1・2の甕は、南東コーナー部から1mほど離れた覆土中層から、隣接してともに割れた状態で出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び1・2の土器から7世紀後半と考えられる。



第43図 第3号住居跡実測図



第 44 図 第 3 号住居跡出土遺物実測図

第 3 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 44 図 1	土器	A 168	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がり、中位に最大径を持つ。頸部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後、ナデ。	礫・長石・石英・雲母にぶい褐色	P 3053 73% PL55 口縁内面スス付着 二次焼成
		B 257				
2	土器	B 194	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら立ち上がり、上位に最大径を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面横ナデ後、ヘラ磨き。体部内面ナデ、外面縦位のヘラ削り。	礫・長石・石英・雲母にぶい褐色、普通	P 3054 23% PL55 体部外面加熱による割離

第143号住居跡 (第45・46図)

位置 調査 2 区，台地南部の縁辺部，F3h7区。

重複関係 第204号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸は5.22mであり，南部が調査区域外になるため，確認された南北軸は3.87mである。平面形は，東及び西コーナー部がほぼ直角になること，また，主柱穴の配置から方形と推定される。

壁 壁高は37～44cmで，直立する。

主軸方向 N-10°-E

床 はほぼ平坦であり，中央部から竈付近が踏み固められている。西壁下の一部に壁溝が検出された。規模は，上幅16～30cm，下幅8～28cm，深さ4cmほどで，断面形はU字状である。

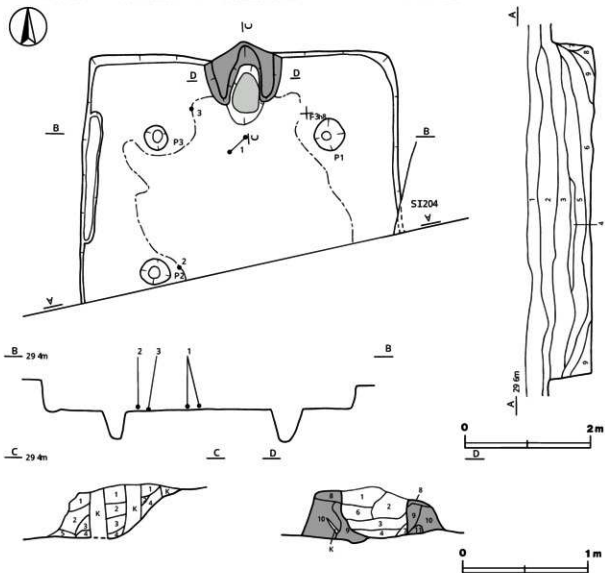
ピット 3か所 (P1～P3)。P1は径50cmの円形で深さ50cm，P2は長径50cm，短径37cmの楕円形で深さ58cm，P3は長径40cm，短径35cmで深さ43cmである。P1～P3は，ピット間を結ぶ各線がそれぞれ対応する壁と平行になることから，いずれも主柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は焼土粒子・礫を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから，竈材を再利用したものと思われ，竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は，煙道部から焚口部まで131cm，最大幅123cm，壁外への掘り込みは29cmである。火床面は

北壁ラインの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。第3・4層は焼土小ブロックを含んでいることから火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。

焼土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量、
焼土粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土中ブロック
微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック少量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子多量、焼土中ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒
子少量 | 10 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土小ブロック少
量、硬炭量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 | 11 灰褐色 | 焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・粘土中
ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | | |



第 45 図 第 143 号住居跡実測図

覆土 第1・2層は表土である。第3～9層が本跡の覆土であり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

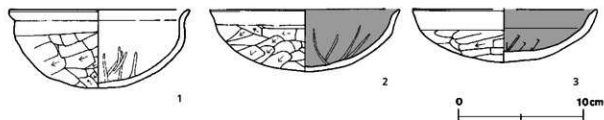
土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化
物・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化
物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭
化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック
・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化
粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・
焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |

- 6 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

遺物 土師器片216点、土製品1点が、床面から覆土層にかけて散在して出土している。うち、土師器3点を抽出・図示した。第46図1の土師器杯は中央部から竈寄り、2の土師器杯はP2の東側、3の土師器杯は北西コーナー部から竈寄りのそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から7世紀前半と考えられる。



第46図 第143号住居跡出土遺物実測図

第143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第1図	土師器杯	A 145 B 61	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へら削り。体部内面放射状のへら磨き。底部に一部木葉痕を残す。	磯・石英・赤色粒子 針状鉱物 にぶい褐色 普通	P 7001 70%
2	土師器杯	A 150 B 49	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へら削り。体部内面放射状のへら磨き。内面黒色処理。	磯・長石・石英・赤色粒子・針状鉱物 灰褐色 普通	P 7002 45%
3	土師器杯	A 146 B 41	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へら削り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・赤色粒子・針状鉱物 にぶい黄褐色 普通	P 7003 35%

第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡117軒を確認した。以下、それらの遺構と遺物について記載する。

第8号住居跡（第47・48図）

位置 調査1区の南西部、C4e3区。

規模と平面形 長軸3.12m、短軸3.06mのはぼ方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は30～36cmで、はぼ直立する。

床 はぼ平坦である。出入口施設から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット P1は長径40cm、短径36cmの楕円形、深さ22cmである。竈と向かい合う南壁の中央部付近に位置することや周りが踏み固められていることから出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで126cm、最大幅122cm、壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	15 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
2 にぶい黄褐色	粘土大ブロック中量、焼土粒子微量	16 暗褐色	焼土粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
3 極暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	5 黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック微量
5 黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック微量	6 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
6 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量	7 暗褐色	焼土小ブロック・粘土粒子・炭少量
7 暗褐色	焼土小ブロック・粘土粒子・炭少量	8 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・炭少量
8 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・炭少量	9 極暗褐色	粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
9 極暗褐色	粘土粒子少量、焼土小ブロック微量	10 にぶい黄褐色	粘土粒子少量、硬砂量
10 にぶい黄褐色	粘土粒子少量、硬砂量	11 黒褐色	粘土小ブロック・焼土粒子微量
11 黒褐色	粘土小ブロック・焼土粒子微量	12 極暗赤褐色	焼土粒子少量、粘土粒子微量
12 極暗赤褐色	焼土粒子少量、粘土粒子微量	13 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	粘土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
14 暗赤褐色	粘土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	20 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量、硬少量
15 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量	21 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

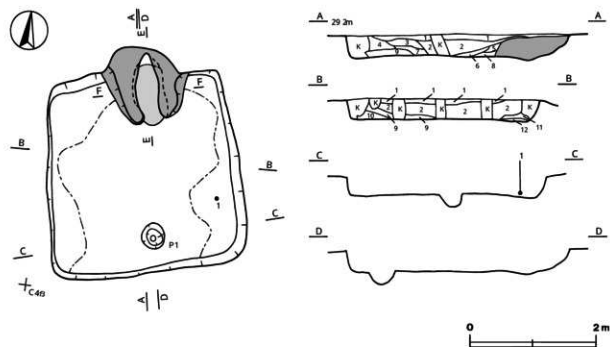
覆土 12層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

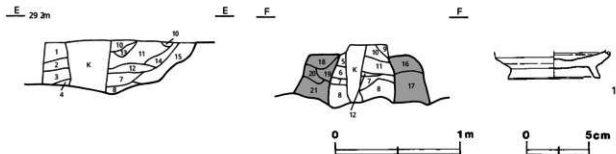
1 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	7 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	9 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
5 極暗褐色	炭黄褐色粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	11 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6 灰黄褐色	粘土粒子少量	12 灰褐色	ローム粒子少量

遺物 土師器片39点、須恵器片12点が出土しているが、ほとんどが細片であるので、須恵器1点を抽出・図示した。第48図1の高台付坏は、東壁近くの覆土下層から逆位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第47図 第8号住居跡実測図



第48図 第8号住居跡・出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	高台付環須恵器	B 22 D 72 E 09	高台部から体部にかけての破片。高台はJの字状に開く。体部は下位に横をもち、外傾して立ち上がる。	底部外面ナデ後、高台貼り付け。	黄・灰石・石英 灰色 良好	P 3055 25%

第9号住居跡 (第49図)

位置 調査1区の南西部, C4g4区。

規模と平面形 本跡は覆土が薄く、また、耕作による攪乱が幾重にも入っているため、南壁及び東壁の一部は明瞭に検出できなかった。長軸は3.90mである。床面の状況や西壁の状況等から、短軸は3.08m、平面形は長方形と推定される。

主軸方向 N-35°-W

壁 残っている壁高は4~6cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。竈の南側を中心に踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。袖部は床面のローム土を掘り残して基部とし、その上に砂粒を混ぜた粘土で構築している。規模は、煙道部から焚口部まで74cm、最大幅92cm、壁外への掘り込みは34cmである。火床面は床面とはほぼ同じレベルの平坦面を使用している。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変している。煙道は、やや外傾して立ち上がる。

遺土層解説

1 極暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量	11 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 赤黒色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	12 極暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 赤黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	13 黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
5 極暗褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量	15 極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7 極暗赤褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
8 黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9 極暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量		

覆土 単一層と薄いことから、人為堆積か自然堆積か不明である。

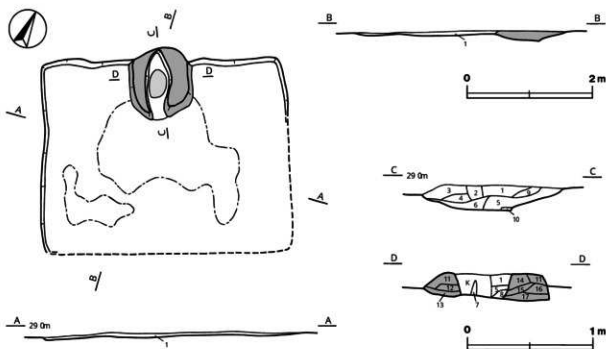
土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
--------	------------------------------

遺物 本跡に伴う遺物は、出土していない。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は、近くに位置する同様な作りの第11号住居跡等から平安時

代と考えられる。



第49図 第9号住居跡実測図

第17号住居跡 (第50・51図)

位置 調査1区の南東部, C6d6区。

重複関係 本跡の北東コーナー部が第1号堀に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.86m, 短軸2.46mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は14~22cmで, はほぼ直立する。

床 はほぼ平坦である。軟弱なローム土で, 踏み固められた部分は認められない。

ピット P1は長径32cm, 短径22cmの楕円形, 深さ22cmである。竈と対する南壁の中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に構築されている。袖部は壁付近のローム土を掘り残して基部とし, その上に砂粒を混ぜた粘土で構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで74cm, 最大幅92cm, 壁外への掘り込みは34cmである。火床面は床面とはほぼ同じレベルの平坦面を使用している。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変している。煙道は, やや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--|----------|--|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 14 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 |

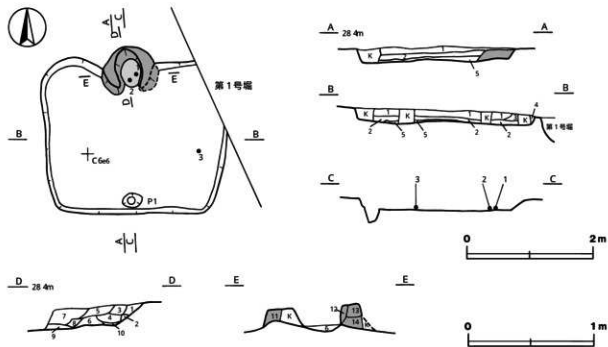
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

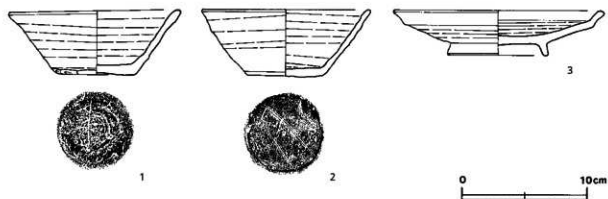
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック
ク・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック
微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子多量
5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブ
ロック微量

遺物 土師器の細片約21点、須恵器片5点が出土している。土師器は細片であるので、ほぼ完形の杯を含む須恵器3点を抽出・図示した。第51図1・2の杯は竈の火床面から、ともに正位の状態で出土している。3の盤は東壁の中央部近くの床面から、逆位の状態で出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第50図 第17号住居跡実測図



第51図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第5図 1	杯 須恵器	A 136	体部下端一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	体部内・外面口ロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	緑・長石・石英 灰黄色 普通	P 3056 95% PL55 底部ヘラ記号
		B 51				
		C 60				
2	杯 須恵器	A 134	体部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、上位に強い稜を持つ。	体部内・外面口ロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラナデ。	緑・長石・石英・雲母 にぶい黄色、普通	P 3057 60% PL55 底部ヘラ記号
		B 53				
		C 62				
3	盤 須恵器	A 166	底部から口縁部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰白色 普通	P 3058 50% PL55
		B 35				
		D 80				
		E 10				

第25号住居跡 (第52・53図)

位置 調査1区の中央部, B54区。

重複関係 南部が第1号堀に掘り込まれている。

規模と平面形 南部が第1号堀に掘り込まれているので, 長軸は2.46m, 残存する短軸は1.78mである。平面形は方形もしくは長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は6~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり, 竈南側の中央部が踏み固められている。

ピット P1は長径54cm, 短径48cmの楕円形, 深さ16cmである。性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設され, 両袖部が遺存している。袖部はローム土を掘り込み, 焼土や灰等を埋めて床面とはほぼ同じレベルにした上に粘土と砂粒を混ぜた土砂で構築している。規模は, 煙道部から焚口部まで84cm, 最大幅56cm, 壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており, 皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変している。煙道は火床面からゆるやかな傾斜を持ちながら立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子少量・ローム粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 | |

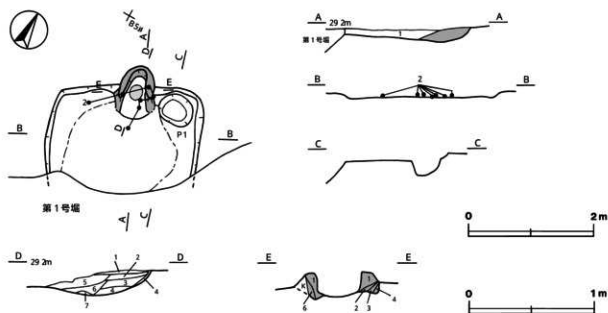
覆土 粘性が弱い単一層である。1層だけなので, 堆積状況は不明である。

土層解説

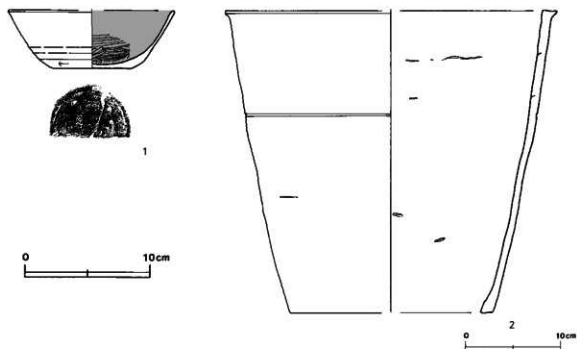
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 竈の周囲を中心に土師器片16点, 須恵器片6点が出土しているが, ほとんどが細片である。土師器1点, 須恵器1点を抽出・図示した。第53図1の土師器の破片は竈の覆土から出土している。第53図2の須恵器の破片は, 竈南側の覆土下層から床面にかけてと竈の覆土から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第52図 第25号住居跡実測図



第 53 図 第 25号住居跡出土遺物実測図

第 25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 5 図 1	坏 土 器	A 132	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。体部外面及び底部外面回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母にぶい褐色，普通	P 3059 30%
		B 46	平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部は外傾する。			
		C 62				
2	甗 須 恵 器	A 35.0	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。縁部は横方向につまみ出されている。	輪積み後，口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面下端へラ附り。外面上位に棒状工具による沈線が施されている。	磯・長石・石英・雲母にぶい黄褐色普通	P 3060 40% PL55
		B 316				
		C 212				

第26号住居跡（第54～56図）

位置 調査1区の東部，B5i6区。

重複関係 北西コーナー部と竈部が第1号堀に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.08m，短軸2.96mの方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は16～22cmで，ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦である。

ピット P1は長径43cm，短径35cmの楕円形，深さ31cmである。性格は不明である。

竈 北壁中央部周辺の粘土粒子の広がりや竈と考えると掘り込んだが，各層に焼土小ブロックや焼土粒子が含まれていた。また，袖部と考えると残した両端の内側には赤変した部分が存在せず，土器の破片が多数出土したことから竈は壊されたものと思われる。火熱を受けてわずかに赤変している皿状の窪みとその周りの床面に粘土粒子の広がりか確認できたので，その部分に火床部が存在していたと考えられる。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめており，あまり硬化していない。煙道の掘り方は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|---------|--|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量 |

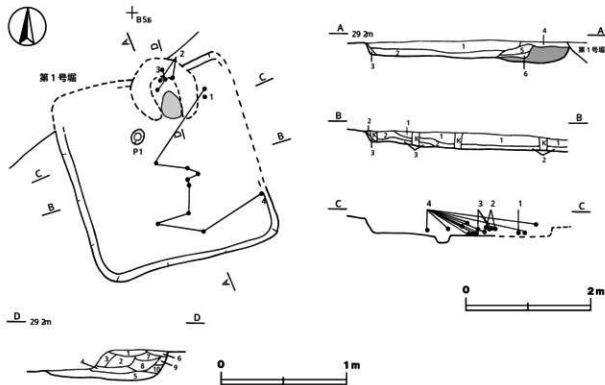
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

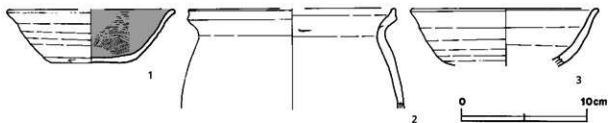
- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・甕沼パミス粒子微量 | 4 極暗褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・甕沼パミス小ブロック・甕沼パミス粒子微量 | 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |

遺物 土師器片14点、須恵器片50点が出土している。細片が多く、うち土師器2点、須恵器2点を抽出・図示した。第55図1・2は土師器である。1の坏は竈東側の床面から裏面が上になった状態で、2の甕は竈の覆土から割れた状態でそれぞれ出土している。第55・56図3・4は須恵器である。3の坏は竈の覆土から散らばって、4の甕は中央部から竈にかけての覆土下層及び床面から出土した破片が接合したものである。

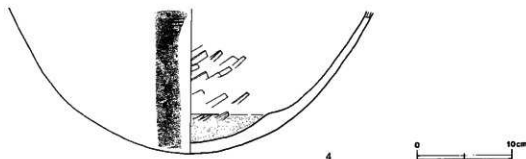
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第54図 第26号住居跡実測図



第55図 第26号住居跡出土遺物実測図(1)



第 56 図 第 26号住居跡出土遺物実測図(2)

第 26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 5 図 1	坏 土 器	A 132	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面口ロナデ後へラ磨き。体部下側回転へラ削り。底部外面回転へラ切り後ヘラナデ。内面黒色処理。	磯・長石・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 3061 45%
		B 42				
		C 62				
2	甕 土 器	A 164	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部はくの字状に歪曲し、口縁部は弱く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	磯・長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 3062 10% 体部内・外面スス付着
		B 78				
3	坏 須 恵 器	A 146	底部欠損。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母 灰色、普通	P 3063 45% PL55 口縁部及び体部内面一部スス付着
		B 44				
第 5 図 4	甕 須 恵 器	B 149	底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	輪積み後、内・外面口ロナデ。内面三日月状の当て具痕。外面平行叩き後ナデ。	磯・長石・石英・雲母 にぶい褐色、良好	P 3064 35% 底部内面自然輪補灰色

第27号住居跡 (第57・58図)

位置 調査1区の西部、B3i0区。

規模と平面形 長軸3.26m, 短軸3.02mの隅丸方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は52~56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を全周している。規模は、上幅18~20cm, 下幅6~10cm, 深さ6~14cmで、断面形はU字形をしている。

床 はほぼ平坦で、P5から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は長径54~40cm, 短径32~38cmの楕円形、深さ19~26cmで、規模・配置から支柱穴と思われる。P5は径22cmの円形、深さ24cmで、周りが踏み固められていることや南壁の中央部付近に存することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は長径38cm, 短径22cmの楕円形、深さ13cmである。性格は不明である。

竈 北東壁中央部に付設され、耕作等の擾乱により右袖部だけが遺存している。袖部は地山のロームを削りだし、粘土と砂粒を混ぜたもので構築している。規模は、煙道部から焚口部まで120cm, 最大幅104cm, 壁外への掘り込みは68cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが、硬化はあまりしていない。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

遺土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭 3 暗 赤 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・
化粒子・藍泥/パミス粒子微量 炭化粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土大ブロック・炭化粒子・砂質 粘土粒子微量

4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・礫少量
5	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量	10	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量	11	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・礫少量、ローム粒子微量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子・礫少量
8	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
			14	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
			15	ぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・礫少量

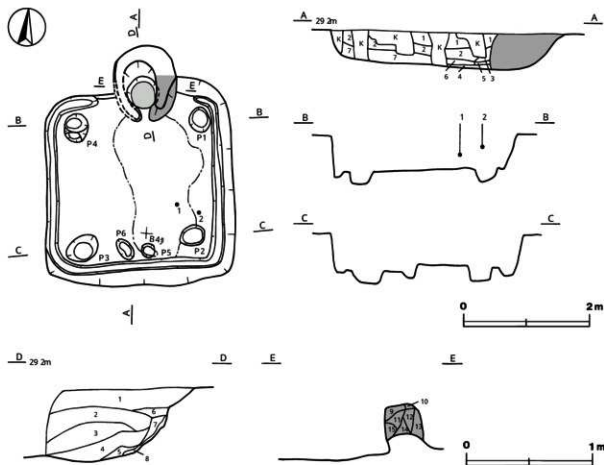
覆土 7層からなる。上層の第1・2層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、下層の第3～8層は遺物が覆土中・下層から多く出土したことから人為的に埋め戻されたものと思われる。

土層解説

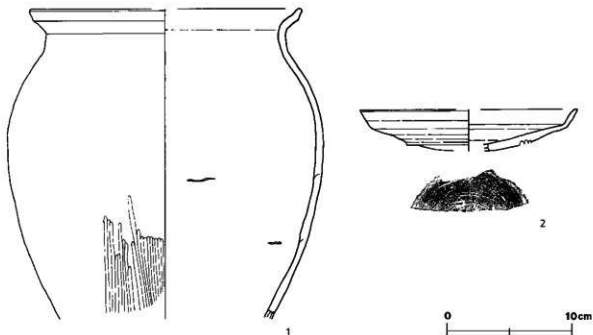
1	黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土パミス粒子微量	5	暗赤褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム中ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量			

遺物 出入口ピットから竈にかけての覆土から土師器片32点、須恵器片6点が出土している。うち土師器1点、須恵器1点を抽出・図示した。第58図1の土師器の甕は、竈の覆土及びP2の北西の覆土中層から出土した破片が接合したものである。第58図2の須恵器の盤は、覆土中層から割れた状態で出土している。

所見 覆土中層から下層にかけてと竈の覆土から土器片が出土したことから、第3～7層を埋め戻した後に土器を投棄したと思われる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第57図 第27号住居跡実測図



第 58 図 第 27号住居跡出土遺物実測図

第 27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 58 図 1	甕 土 師 器	A 214 B 245	体部から口縁部にかけての破片。 体部は上位に最大径を持つ。口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び胴部内・外面横ナデ。 体部内面ヘラナデ、外面下位層位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色、普通	P 3065 5% PL55 二次焼成
2	盤 須 恵 器	A 174 B 33	底部から口縁部にかけての破片。 平底。高台欠損。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 底部回転ヘラ刷り。	礫・長石・石英 灰色 普通	P 3066 15%

第32号住居跡（第59・60図）

位置 調査1区の南東部、C5g8区。

規模と平面形 長軸3.16m，短軸2.72mの長方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は34～40cmで，ほぼ直立する。

床 東側にゆるやかな傾斜を持っているが，ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで104cm，最大幅90cm，壁外への掘り込みは67cmである。火床面は床面を13cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道は火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

電土層解説

1 暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土中ブロック微量	4 黒褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土中ブロック・粘土粒子少量	5 暗褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土中ブロック少量	6 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
		7 黒褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量

- | | | | |
|---------|---|---------|-----------------------------------|
| 8 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 14 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、硬微量 |
| | | 16 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |

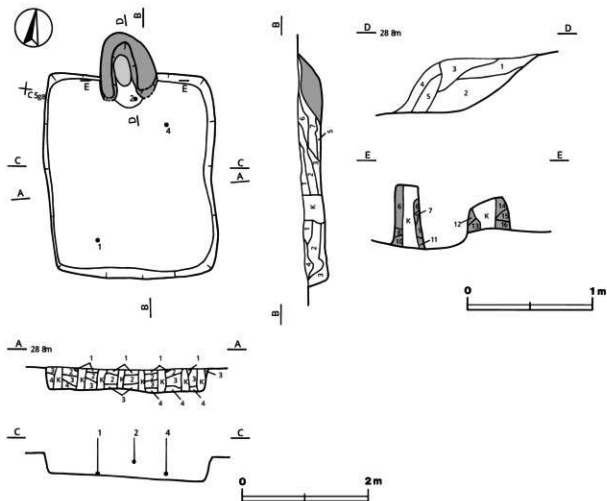
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

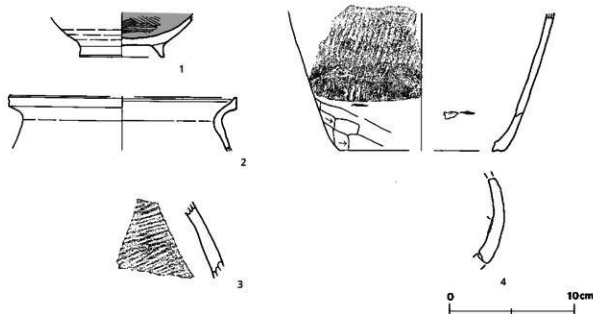
- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量微量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | | |

遺物 北西コーナー部を中心に覆土中層から床面にかけて土師器片13点、須恵器片10点が出土している。うち土師器2点、須恵器1点を抽出・図示した。第60図1・2は土師器である。1の高台付杯は覆土下層から正位の状態、2の甕は甕の覆土上層から裏面が上を向いた状態で出土している。第60図4の須恵器甕は、覆土下層及び甕の覆土から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第59図 第32号住居跡実測図



第 60 図 第 32号住居跡出土遺物実測図

第 32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 60 図 1	高台付 土 鉢 器	B 34	高台部から体部にかけての破片。 平底。高台はハの字状に開く。体 部は内彎気味に外傾する。	体部内面へう磨き、外面横ナデ。 底部回転へう切り後、高台貼付け。 内面黒色処理。	緑・長石・石英・針 状鉱物・雲母 にぶい褐色、普通	P 3067 25%
		D 68				
		E 11				
2	甌 土 鉢 器	A 180	口縁部片。口縁部は外反し、端部 は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 褐色、普通	P 3068 5%
		B 42				
3	甌 須 恵 器	B 61	体部片。	体部外面平行叩き。	長石・石英 灰色 普通	TP3024 5% 外面自然釉 暗緑 灰色
4	甌 須 恵 器	B 108	底部から体部にかけての破片。底 部に孔を持つ。体部は直線的に外 傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面上位部 の平行叩き、下位部位のへう磨り。	緑・長石・石英・雲 母 灰色、普通	P 3069 10%
		C 133				

第34・35住居跡（第61～63図）

位置 調査1区の南部，C5i4区。

重複関係 当初1軒の住居跡として調査したが，4か所の柱穴（主柱穴）にそれぞれ隣接して柱穴が検出されたことから，外側の柱穴のものを第34号住居跡，内側の柱穴のものを第35号住居跡とした。柱穴が一緒に掘れたこと，柱穴同士が隣接すること，竈の痕跡などが確認されなかったことなどから，第34号住居は第35号住居跡の建て替えの可能性がある。

規模と平面形 第34号住居跡は，長軸7.42m，短軸7.24mのほぼ方形である。第35号住居跡の規模と平面形は不明である。第35号住居跡の主柱穴が第34号住居跡の主柱穴より内側であることから，少し小規模であったと思われる。

主軸方向 第34号住居跡は，N-27°-Wである。

壁 斜面部に位置するため南壁は確認できなかった。残存する壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。床面は一面しか確認されなかったことから、両住居の床面は同一レベルであったと思われる。

ピット ピットの位置関係や覆土の状況等からピットの所属を判断した。第34号住居跡は7か所(P1～P5・P11・P12)。P1～P4は長径32～50cm、短径28～42cmの円形及び楕円形、深さ68～103cmである。規模・配置から主柱穴と思われる。P5は長径44cm、短径42cmの円形、深さ37cmである。竈と対峙する南壁寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P11～P12は長径30～50cm、短径26～38cmの円形及び楕円形、深さ19～40cmである。性格は不明である。第35号住居跡は5か所(P6～P10)。P6～P9は長径32～68cm、短径20～44cmの円形及び楕円形、深さ43～80cmである。規模・配置から主柱穴と思われる。P10は長径40cmの円形、深さ43cmである。P7とP8の間に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されているが、攪乱により遺存状態は悪い。左袖部のみ遺存している。袖部は粘土と砂粒を少量を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで160cm、最大幅は推定で112cm、壁外への掘り込みは38cmである。火床面は床面を18cmほど掘りくぼめている。袖部の内壁は火熱を受けて赤変している。煙道の平面形は逆U字形で、やや外傾して立ち上がる。

土層解説

1 黒褐色	砂質粘土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子微量	9 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子・粘土小ブロック微量
2 黒褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	12 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量・焼土小ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
7 暗赤褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量		
8 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量		

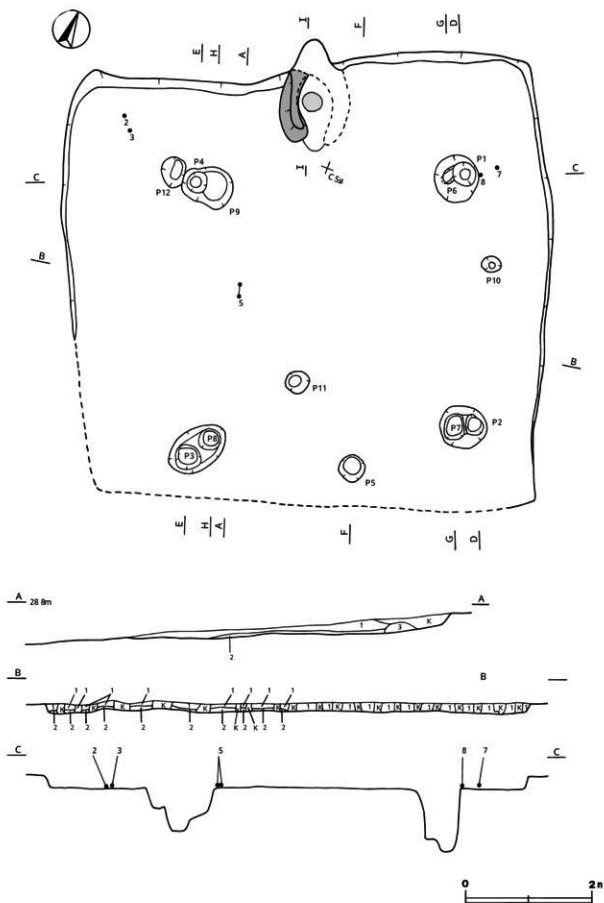
覆土 覆土は薄く、第34号住居跡は3層からなる。堆積状況は、焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子を含んでいることから人為堆積と思われる。第35号住居跡は、第34号住居跡の床面と同じ高さと考えられるため覆土は存在しない。

土層解説

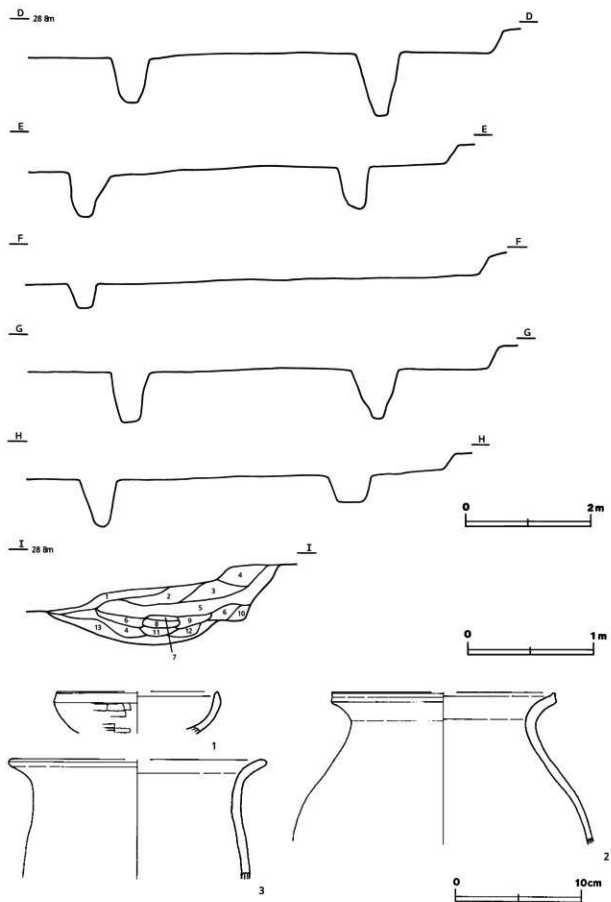
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	3 緑褐色	鹿沼バミス粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量		

遺物 P1及びP12付近を中心に土師器片187点、須恵器片18点が出土しているが、細片が多い。土師器4点、須恵器5点を抽出・図示した。第62・63図1～4は土師器である。1の坏及び4の甗は覆土から出土している。3の甗は北西コーナー部付近の覆土下層から出土している。2の甗は北西コーナー部から裏面が上を向いた状態で床面から出土している。第63図5～9は須恵器である。9の円面硯(脚部片)は南東部の覆土から出土している。5の坏は、中央部の西寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。7の甗片と8の甗の口縁部片もP1東側の覆土下層から出土している。6の蓋片は竈の覆土から出土している。

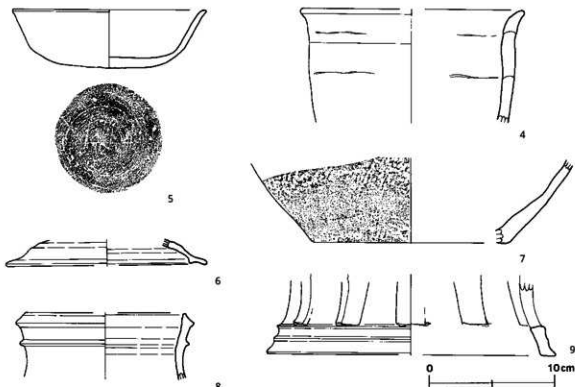
所見 1の坏及び4の甗は、流れ込みと考えられる。9の円面硯の脚部片及び8の甗の口縁部片は、胎土の質などから在地のものではないと思われる。柱穴が近接して存在することや竈が一つであることなどから、建て替えが考えられる。時期は、出土土器から8世紀前葉～中葉と考えられる。



第 61 图 第 34·35 号住居跡実測图



第 62 图 第 34・35号住居跡実測図・出土遺物実測図



第 63 図 第 34・35号住居跡出土遺物実測図

第 34・35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 6 図 1	坏 土 器 器	A 128 B 32	体部から口縁部にかけての破片。内 彎しながら立ち上がり 口縁部との 境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内 面横ナデ、外面ヘラ刷り。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3071 5%
2	甕 土 器 器	A 177 B 119	体部上半から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至り、頸部は くの字状に屈曲する。口縁部はわ ずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面面横ナデ。体部内 面ヘラナデ、外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3073 10%
3	甕 土 器 器	A 200 B 93	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して頸部に至り、頸部 はゆるやかに屈曲する。口縁部は 外反気味に開く。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3074 5%
第 6 図 4	甕 土 器 器	A 174 B 88	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾しながら頸部に至り、 口縁部は外反する。	輪轆み後、口縁部及び体部内・外 面横ナデ。	礫・長石・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3075 10%
5	坏 須 恵 器	A 152 B 46 C 62	体部及び口縁部一部欠損。平底。 体部下半は丸味を帯び、外傾しなが ら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部外面回転ヘラ切り後、ヘ ラ刷り。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P 3070 75% PL56
6	蓋 須 恵 器	A 160 B 20	口縁部片。内面にかえりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3072 5%
7	甕 須 恵 器	B 67 C 156	底部から体部にかけての破片。体 部は直線的に外傾して開く。	体部内面ナデ、外面格子目状叩き。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 灰黄色、普通	P 3076 5% 外面剥離
8	甕 須 恵 器	A 128 B 51	口頸部片。口頸部は外反し、中位 に断面三角形の隆帯を持つ。頸部 は断面 T 字状を呈する。	口頸部内・外面口ロナデ。中位 に隆帯貼り付け。	砂粒 灰白色 良好	P 3078 5% 内面自然釉 オリーブ 灰色、積投産力
9	円 面 甕 須 恵 器	B 64 C 230	頸部片。頸部下位に 2 条の隆帯が 貼られている。透かし窓は 12cm。	頸部内・外面口ロナデ。透かし 窓ヘラ切り。	砂粒・長石 灰白色 良好	P 3077 5% 内面自然釉

第36号住居跡（第64～66図）

位置 調査1区の南部，C49区。

重複関係 南西コーナー部を第9号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.06m，短軸2.96mのはほぼ方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は16～22cmで，外傾して直立する。

床 はほぼ平坦である。出入り口施設から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径30～44cm，短径26～44cmの円形及び楕円形，深さ22～30cmで，規模及び各コーナー部付近に位置することから支柱穴と思われる。P5は長径46cm，短径40cmの楕円形，深さ20cmである。P3東隣に位置することや北側から踏み固められた部分が認められることから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されている。天井部は崩落しているが，左右袖部は遺存している。第5層は粘土粒子を含むので，崩落した天井部と思われる。袖部は粘土と砂粒を混ぜたもので構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで94cm，最大幅120cm，壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗赤褐色	色	焼土粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗赤褐色	色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック微量	13	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
4	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	14	暗褐色	色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	15	暗赤褐色	色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
6	暗赤褐色	色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量	16	にぶい黄色褐色	色	砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7	暗赤褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	17	暗褐色	色	ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
8	暗赤褐色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック微量	18	暗赤褐色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
9	暗赤褐色	色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子・焼土小ブロック微量	19	黒褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10	暗赤褐色	色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量	20	暗褐色	色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

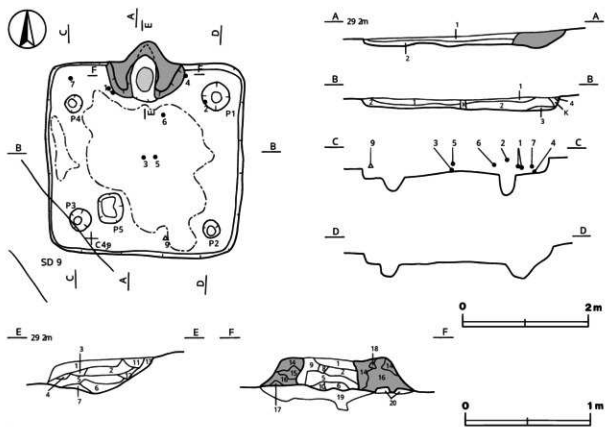
土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量			
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量			

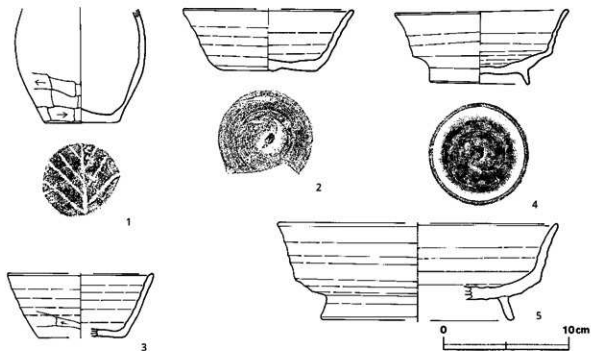
遺物 電付近を中心に土師器片8点，須恵器片8点，金属製品1点（不明鉄製品），椀状滓1点が出土している。うち土師器1点，須恵器6点，金属製品1点（不明鉄製品），椀状滓1点を抽出・図示した。第65図1は土師器の斐片で，竈左袖部脇の覆土上層から散らばって出土している。第65・66図2～7は須恵器である。2の坏はP1上の覆土上層から正位の状態で，5の高台付坏は中央部の覆土中層から正位の状態，6の高台付坏は竈の南の覆土中層から逆位の状態，7の盤は北西コーナー部の覆土中層から正位の状態それぞれ出土している。3の坏は中央部覆土下層及び竈の覆土から出土した破片が接合したものである。4の高台付坏は竈右袖部脇の床面から逆位の状態で出土している。9の金属製品は南壁中央部付近の覆土中層から，8の椀状滓

は覆土からそれぞれ出土している。

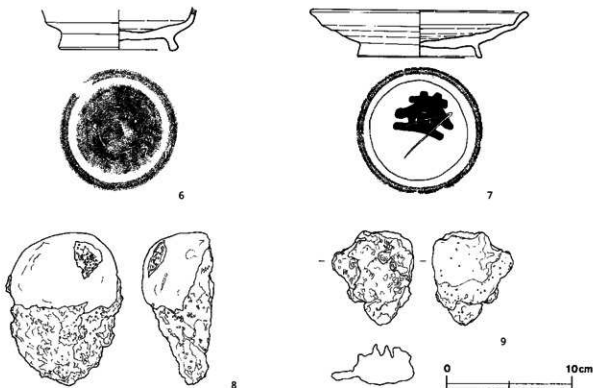
所見 本跡から碗状埴が出土しているが、鍛冶炉等の施設などは検出されなかったことから、流れ込みと思われる。時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 64図 第 36号住居跡実測図



第 65図 第 36号住居跡出土遺物実測図(1)



第 66 図 第 36号住居跡出土遺物実測図(2)

第 36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 6 図 1	小形 土器	B 89 C 58	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体内内・外面ナデ。体部下端木炭積位のヘラ削り。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 灰黄褐色、普通	P 3079 30%
2	環 須恵器	A 137 B 50 C 76	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部・体部内面口ロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 オリブ灰色、良好	P 3080 40%
3	環 須恵器	A 118 B 50 C 68	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾する。	口縁部・体部口ロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	礫・長石・石英・雲母 灰色、普通	P 3081 10%
4	高台付 須恵器	A 137 B 59 D 78 E 11	口縁部及び体部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体内内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 褐色 良好	P 3082 99% PL56
5	高台付 須恵器	A 225 B 77 D 155 E 19	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体内内・外面口ロナデ。底部回転ヘラナデ後、高台貼り付け。	礫・長石 灰色 良好	P 3083 39% 口縁部の欠損部の磨り調整
第 6 図 6	高台付 須恵器	B 31 D 96	高台部から体部にかけての破片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3084 50%
7	盤 須恵器	A 175 B 38 D 100 E 11	口縁部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾し、口縁部は外反する。	口縁部及び体内内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰オリブ色 普通	P 3085 99% PL56 底部墨書「益」ヘラ記号

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 6 図 8	楕状 滓	120	93	52	760.5	鉄	楕状を呈する。	M 3001
9	鉄 滓	74	65	32	158.1	鉄	覆り拳状を呈する。	M 3002

第43号住居跡（第67・68図）

位置 調査1区の東部，B6j6区。

重複関係 南西コーナー部が第1号堀に掘り込まれている。

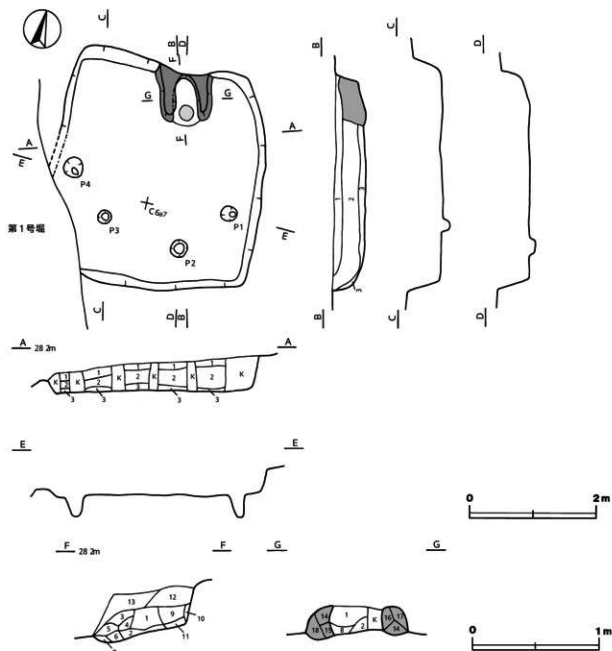
規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.32mの長方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は10～50cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。柔らかいローム土で踏み固められた部分は認められない。

ピット 4か所（P1～P4）。P1は径38cmの円形，深さ9cmである。竈と対峙する南壁中央寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P2～P4は長径22～36cm，短径22～28cmの円形及び楕円形，深さ12～36cmであり，性格は不明である。



第67図 第43号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設され、両袖部が遺存している。天井部は崩落し、粘土粒子を含む第1・9層がそれにあたると思われる。袖部は床面を10cmほど掘り込み、粘土と砂粒を混ぜた土砂で構築している。規模は、煙道部から焚口部まで78cm、最大幅82cmである。壁外への掘り込みはない。火床面は床面を4cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道は火床面からゆるやかな傾斜で立ち上がり、徐々に角度を増して煙道口付近ではほぼ直立する。

土層解説

- | | | | |
|----------|---|---------|---|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 14 灰黄褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子少量 | 15 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 におい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 16 灰黄褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 17 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子少量 | | |
| 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |
| 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | | |
| 10 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量 | | |
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | | |
| 12 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 | | |

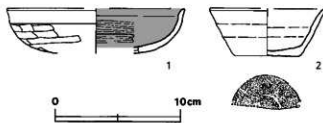
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積しているが、第1・2層に焼土粒子や炭化粒子を含んでいることから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 | | |

遺物 土師器片8点、須恵器片2点と出土量は少なく、ほとんどが細片である。うち土師器1点、須恵器1点を抽出・図示した。第68図1の内面黒色処理された土師器杯及び2の須恵器杯は、ともに南東部の覆土から出土している。1の杯は流れ込みと思われる。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後半と考えられる。



第68図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	土師器 B	A 142	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り後ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 3086 10%
		B 35				
2	須恵器 B	A 93	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部外面回転へラ切り後、へラ削り。	緑・長石・針状鉱物 灰色 良好	P 3087 30%
		B 37				
		C 53				

第46号住居跡 (第69・70図)

位置 調査1区の南部、D5b2区。

重複関係 第8号溝に東部を南北に掘り込まれている。

規模と平面形 本跡の南側が調査区域外に延びるために、長軸は6.66m、確認された短軸は3.25mである。平面形は方形もしくは長方形と推定される。

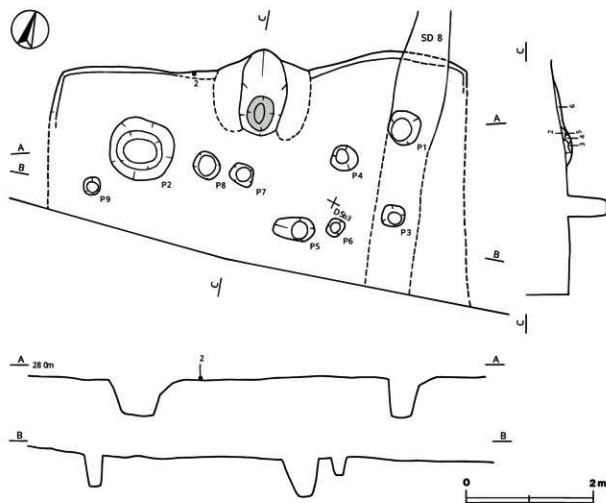
主軸方向 N-29°-W

壁 残存する壁高は4~10cmで、ほぼ直立する。

床 耕作による攪乱が多く、小さな凸凹が存在する。また、部分的に硬く踏み固めが残っているが、範囲は不明である。

ピット 9か所(P1~P9)。P1は径54cmほどの円形、深さ59cm、P2は長径104cm、短径96cmの楕円形、深さ59cmで、P2の底面に根当たり痕がある。規模やP1とP2を結ぶ線が北壁と平行することから主柱穴と思われる。P3~P9は長径32~66cm、短径22~42cmの円形及び楕円形、深さ15~64cmである。性格は不明である。

竈 竈は壊されている。焼土粒子や粘土粒子が散らばっていることから、粘土に砂粒少量を混ぜて北壁中央部に構築されていたと思われる。遺存状況等から規模は、確認された掘り方から焚口部まで136cm、最大幅は推定で128cm、壁外への掘り込みは34cmほどである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受けて、赤変硬化している。



第69図 第46号住居跡実測図

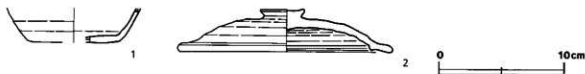
電土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・黄沼バミス粒子微量	4 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・黄沼バミス粒子微量	5 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量
3 明黄褐色	黄沼バミス粒子中量	6 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック少量

覆土 斜面部に位置し、また多くの攪乱があったので確認できなかった。

遺物 電付近を中心として土師器片15点、須恵器片4点が出土している。うち須恵器2点を抽出・図示した。第70図1の坏はP2の覆土から、2の蓋は竈の西側の北壁に貼り付いた状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第70図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図番	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	環 須恵器	B 27	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部外側ナデ。	緑・長石・石英 黄灰色 普通	P 3088 5%
		C 72				
2	蓋 須恵器	A 172	口縁部及びつまみ一部欠損。天井部は伏せ皿状でボタン状のつまみが付く。口縁部部に短いがえりが付く。	口縁部及び外用部内・外面口ロナデ。天井部回転へう刷り後、つまみ接合。	長石・石英・針状鉱物・雲母 灰白色 良好	P 3089 80% PL56
		B 33				
		G 36 F 06				

第47号住居跡（第71・72図）

位置 調査1区の南部、C49区。

規模と平面形 長軸3.32m、短軸3.04mで、ほぼ隅丸方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は14~34cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、出入口施設から竈にかけての中央部が硬く踏み固められている。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径22cmの楕円形、深さ12cmである。周りが踏み固められていることや南壁の中央部寄りに位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部から東寄りに付設されており、右袖部と左袖部の一部が遺存している。袖部は地山を20cmほど掘り込んで、粘土と砂粒を混ぜて構築されている。遺存状況から規模は、確認された煙道部から焚口部まで84cm、最大幅は推定で122cm、壁外への掘り込みは10cmである。火床面は床面と同じ高さである。右袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道は火床面から急な傾斜をもって立ち上がる。

電土層解説

1 黒色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 黒褐色	砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	11 極暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5 褐色	ローム大ブロック多量	12 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
6 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量		
7 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量		

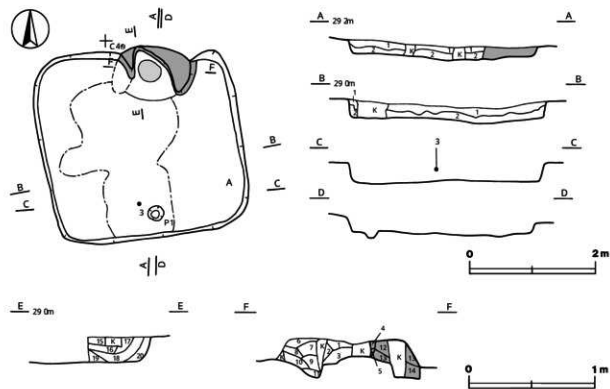
- | | | | |
|---------|--------------------------------------|--------|---|
| 13 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 18 暗黒色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 14 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 19 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 15 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 20 暗黒色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 17 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

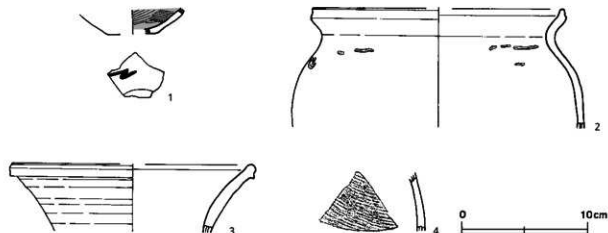
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物 覆土上層から床面にかけて土師器片111点、須恵器片15点が出土している。うち土師器2点、須恵器2点を図示・抽出した。第72図1・2は土師器である。1の内黒の坏は覆土から数片に分かれて出土している。2の甕も覆土から出土している。第72図3は須恵器甕で、P1の北西部の覆土上層から出土している。所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀後半と考えられる。



第71図 第47号住居跡実測図



第72図 第47号住居跡出土遺物実測図

第 47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 1	坏 土 師 器	B 27 C 72	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へう磨き、外面回転へう磨り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母に多い橙色、普通	P 3090 5% 体部外面墨書「」
2	甕 土 師 器	A 220 B 93	体部から口縁部にかけての破片。口縁部中に横を持ち、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子に多い橙色、普通	P 3091 10%
3	甕 須 恵 器	A 198 B 53	口縁部。口縁部は幅広く、外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・針状鉱物 黄灰色 良好	P 3092 5% 外面自然軸
4	甕 須 恵 器	B 47	体部片。	体部内面口ロナデ、外面横位の平行叩き。	長石・針状鉱物 灰色 普通	TP3025 5%

第50号住居跡（第73・74図）

位置 調査1区の南東部，C5i8区。

規模と平面形 斜面部に位置しているため、南側は耕作等による攪乱で確認できなかった。長軸は3.74m、確認できた短軸は2.82mである。平面形は方形もしくは長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-E

壁 残存する壁高は15~28cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。南側から竈にかけての中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落し、袖部が遺存している。第4・5層は砂質粘土粒子等を含んでいることから天井部が崩落したものと思われる。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで140cm、最大幅132cm、壁外への掘り込みは56cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

甕土層解説

1	黒 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	14	麻 暗 褐色	ローム中ブロック少量、焼土粒子少量
2	黒 褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	15	麻 暗 褐色	ローム小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量、焼土粒子少量
3	黒 褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	16	暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子少量
4	麻 暗 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子少量	17	麻 暗 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
5	麻 暗 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	18	暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6	黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	19	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	黒 褐色	焼土小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	20	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子少量
8	暗 赤 褐色	焼土粒子多量	21	暗 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
9	黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量	22	暗 褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子少量
10	麻 暗 赤褐色	焼土粒子中量	23	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック少量
11	黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量	24	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子少量
12	黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量			
13	麻 暗 赤褐色	焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、焼土大ブロック少量、炭化粒子少量			

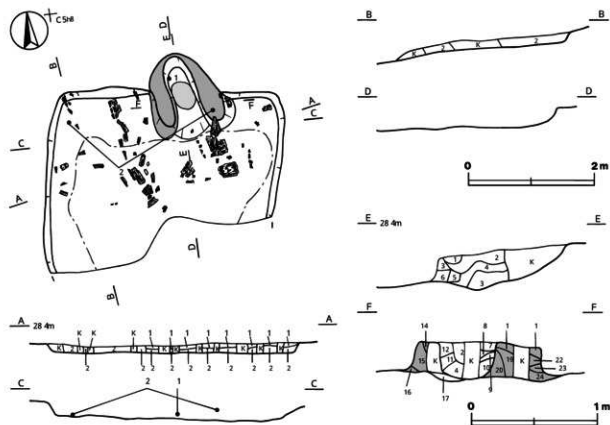
覆土 2層からなる。堆積状況は、2層とも含有物が似ていることから短期間に埋まったと考えられる。人為堆積の可能性が高い。

土層解説

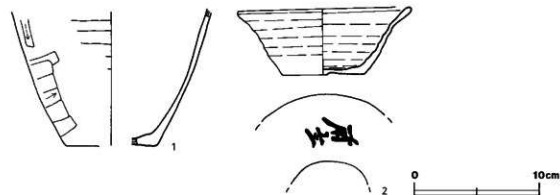
1	黒 褐色	炭化物・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量	2	麻 暗 褐色	炭化粒子中量、炭化材・炭化物少量、ローム粒子少量
---	------	----------------------------------	---	--------	--------------------------

遺物 土師器片39点, 須恵器片6点が出土している。うち土師器1点, 須恵器1点を抽出・図示した。第74図1の土師器の甕は, 覆土及び竈の覆土から出土している。第74図2の須恵器の坏は, 西壁コーナー部の近くの覆土下層から床面にかけて正位等の状態で出土した破片が接合できたものである。

所見 炭化材及び炭化物が床面から覆土下層にかけて多量に確認されたことから, 焼失住居と思われる。時期は, 遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第73図 第50号住居跡実測図



第74図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	土師器	B 105 C 72	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ, 外面下位横位のヘラ刷り。	長石・石英・雲母・赤色粒子に富み褐色, 普通	P 3093 15% 二次焼成による体部外面赤化・スス付着
2	須恵器	A 138 B 53 C 66	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色, 普通	P 3094 95% PL56 6% 体部外面黒褐色横位 「南主」, 底部ヘラ記号

第55号住居跡（第75～77図）

位置 調査3区の南端，H2c9区。

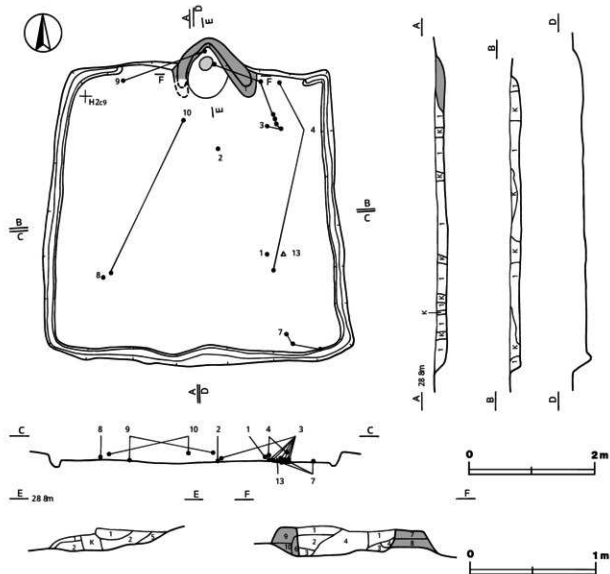
規模と平面形 長軸4.80m，短軸4.76mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 電付近を除いて壁下を巡っている。規模は，上幅10～14cm，下幅6～10cm，深さ6～14cmで，断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦である。ローム土で，踏み固められた部分は認められない。



第75図 第55号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。左袖部は床面を20cmほど掘り下げて，右袖部は床面とはほぼ同じレベルにそれぞれ粘土と砂粒を少量混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで96cm，最大幅130cm，壁外への掘り込みは44cmである。火床面は床面を4cmほど掘りくぼめており，浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で，ゆるやかな傾斜をもって立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|--|-----------|--|
| 1 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・硬炭量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土中ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 |

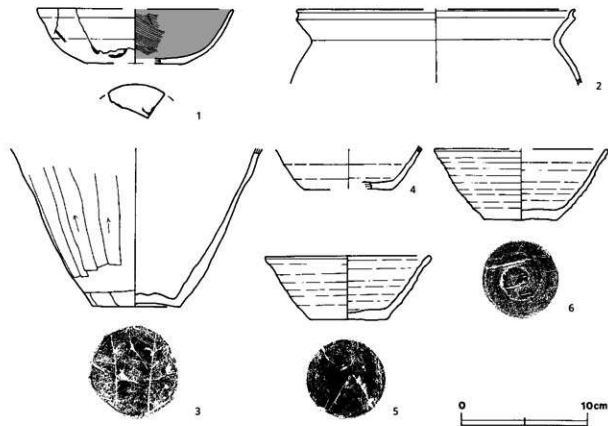
覆土 単一層で薄いことから、人為堆積か自然堆積か不明である。

土層解説

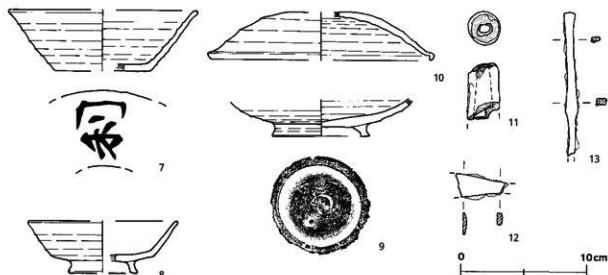
- 1 褐色 炭化粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物 全体から土師器210点、須恵器36点、土製品1点、金属製品2点が出土している。うち土師器3点、須恵器7点、土製品1点（管状土錘）、金属製品2点（刀子・不明鉄製品）を抽出・図示した。第76図5の須恵器杯は覆土上層から出土している。10の須恵器蓋は、竈の南の覆土上層及び中層から出土している。1の土師器杯は中央部東寄り、2の土師器甕は竈の南、8の須恵器高台付杯は南西コーナー付近の、いずれも覆土中層から出土している。11の管状土錘も覆土中層から出土している。3の土師器甕は竈東側、4の須恵器杯は竈東側及び南東コーナー部のともに覆土下層から床面にかけて出土している。9の須恵器盤は、竈東側の床面及び竈の覆土から出土している。13の不明鉄製品は、南東コーナー付近の覆土下層から出土している。12の刀子も覆土下層から出土している。6・7の須恵器杯は、ともに南壁際の床面から出土している。

所見 耕作機械による攪乱が多数入っていたために、柱穴の有無を確認できなかった。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第76図 第55号住居跡出土遺物実測図(1)



第 77 図 第 55 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 55 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 7 図 1	土 師 器	A 158	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面口ロナデ。内面積位のヘラ磨き。体部下端及び底部外面回転ヘラ削り。内面黒色処理。	礫石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子に多い橙色、普通	P 3095 3% 体部外面墨書「フ」
		B 43				
		C 83				
2	甕 土 師 器	A 224	体部上半部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	礫石・石英・雲母・赤色粒子に多い橙色、普通	P 3096 3%
		B 58				
3	甕 土 師 器	B 125	底部から体部中位にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ。外面縦位のヘラ削り横ナデ。下脚手持ちヘラ削り。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 3097 40%
		C 70				
4	環 須 恵 器	B 32	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物・雲母 灰黄色、普通	P 3098 25%
		C 70				
5	環 須 恵 器	A 132	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰黄色、普通	P 3285 63% PL56
		B 51				
		C 62				
6	環 須 恵 器	A 138	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3286 50%
		B 56				
		C 60				
第 7 図 7	環 須 恵 器	A 148	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3287 43% PL56 73 体部外面墨書横位「利」
		B 32				
		C 70				
8	高台付環 須 恵 器	A 120	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がり。口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台削り付け。	礫・長石・石英・雲母 補灰色 普通	P 3100 15%
		B 41				
		D 50				
		E 10				
		E 10				
9	盤 須 恵 器	B 29	高台部から体部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部はゆるやかに外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台削り付け。	礫・長石・石英 補灰色 普通	P 3099 43% 体部内面一部自然輪
		D 78				
		E 10				
		E 10				
10	蓋 須 恵 器	A 178	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は笠形で、口縁端部は短く折り返されている。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 3101 25%
		B 38				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	孔径 cm	重量 g			
第 7 図 11	管状土師	45	26	0.8-1.7	23.5	土製	円柱状を呈する。両端欠損。	DP3025 PL76

図面番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第7図	12 刀 子	42	18	03-04	52	鉄	刃部及び茎部大部分欠損。	M 3024
	13 不 明	113	11	05	127	鉄	棒状で断面が長方形。握力。	M 3003

第56号住居跡（第78～81図）

位置 調査3区の南端，G2i0区。

規模と平面形 長軸5.84m，短軸5.46mの方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は40～50cmで，ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は，上幅18～20cm，下幅6～10cm，深さ10～12cmで，断面形はU字形である。第8層が壁溝の覆土である。

床 はほぼ平坦であり，竈左袖部の北側を中心に踏み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P1・P3は，それぞれ長径60cm・80cm，短径52cm・60cmの楕円形，深さ79cm・63cm，P2・P4は，それぞれ径54cm・60cmの円形，深さ75cm・76cmである。4か所とも各コーナー寄りに位置することから支柱穴と思われる。

竈 北壁南中央部に付設されており，袖部は，粘土と砂粒を混ぜて構築されている。煙道部の先端部分は，攪乱のため確認できなかった。規模は，確認できた煙道部分から焚口部まで98cm，最大幅118cmである。火床面は床面と同じレベルの平坦面を使用している。残存する袖部の内壁及び火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗 赤 褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子・礫少量	8 にぶい赤褐色	ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 赤 褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	9 赤 褐 色	鹿沼パミス小ブロック少量，ローム小ブロック少量
3 赤 褐 色	焼土粒子少量，砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	10 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・礫少量
4 赤 褐 色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子少量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂質粘土大ブロック・礫少量
5 黄 褐 色	砂質粘土大ブロック・砂質粘土粒子少量，砂質粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫少量	12 明 赤 褐色	砂質粘土粒子少量，砂質粘土大ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
6 にぶい黄色	砂質粘土大ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子少量	13 褐 色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック少量
7 明 黄 褐色	炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック少量		

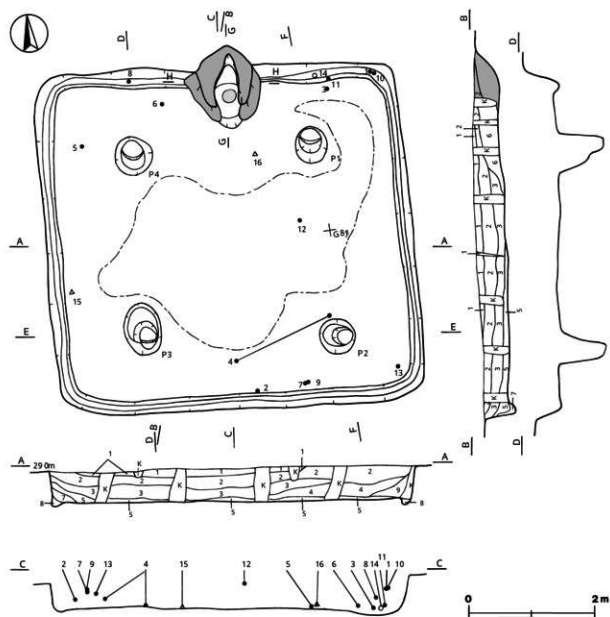
覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

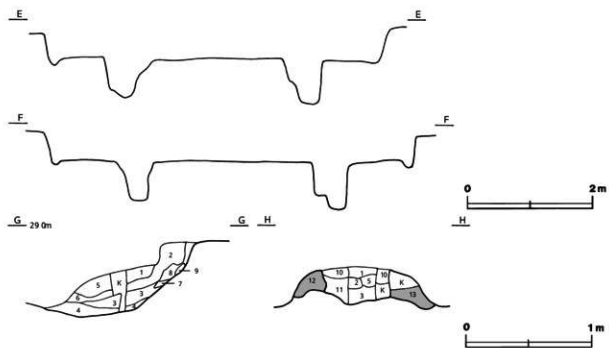
1 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子・白色粘土粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量
4 褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス・白色粘土粒子少量	8 褐色	ローム大ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 北部を中心に土師器223点、須恵器32点、土製品1点、金属製品2点が出土している。うち土師器4点、須恵器9点、土製品1点（支脚）、金属製品2点（鉄鎌・不明鉄製品）を抽出・図示した。第81図12の須恵器甕片は中央部の覆土上層から出土している。1の土師器坏は北壁東コーナー部、7の須恵器高台付坏は南壁中央部付近、8の須恵器高台付坏は北壁際、9の須恵器蓋は南壁中央部、11の須恵器甕片は北東コーナー部、13の須恵器甕片は南東コーナー部、14の土製支脚は竈東の北壁際の、いずれも覆土中層から出土している。4の土師器甕はP2の北側及び南側、6の須恵器高台付坏は中央部、東壁中央寄り及びP4上の覆土中から下層にかけて出土した破片が接合したものである。3の土師器甕は、竈東側の覆土下層から出土している。16の不明鉄製品は、覆土下層から出土している。2の土師器甕は、南壁中央部の壁溝中から小片がまとまって出土している。5の須恵器坏はP4の西側、10の須恵器甕片はP1と北壁間、15の鉄鎌は西壁中央部付近の床面からそれぞれ出土している。

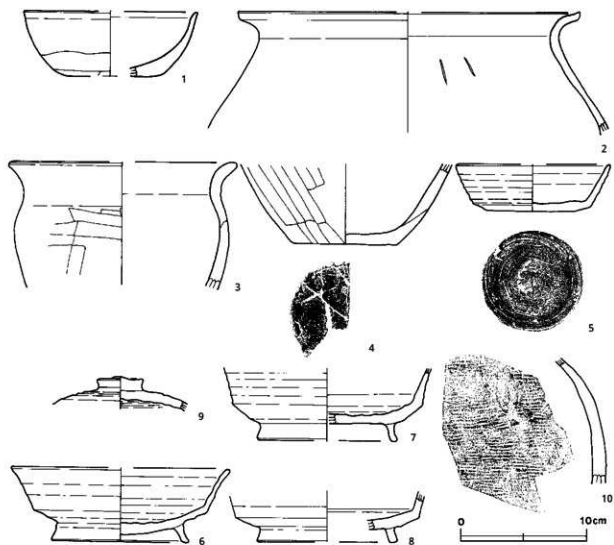
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



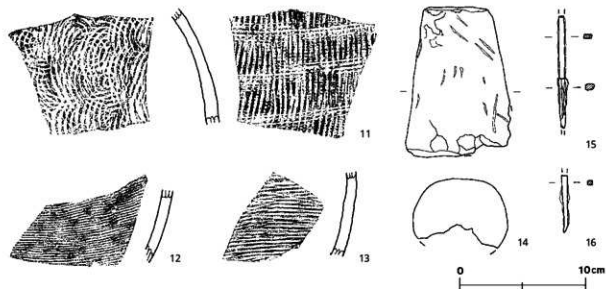
第78図 第56号住居跡実測図(1)



第 79 图 第 56 号住居跡実測图 (2)



第 80 图 第 56 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 81 図 第 56号住居跡出土遺物実測図(2)

第 56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 80 図	土 師 器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部は外反する。	輪轆み後、口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下踵へラ削り。底部外面へラ削り。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子に濃い赤褐色、普通	P 3102 30% 体部外面輪轆み痕
		B 51				
		C 66				
2	甕 土 師 器	A 274	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 橙色、普通	P 3103 40%
		B 95				
3	甕 土 師 器	A 184	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して頸部に至る。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面へラ削り後、ナデ。	礫・長石・石英・赤色粒子 浅黄褐色、普通	P 3104 10%
		B 97				
4	甕 土 師 器	B 63	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外彎して立ち上がる。	輪轆み後、体部内面横ナデ、外面縦位のへラ削り後、へラナデ。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 に濃い赤褐色、普通	P 3105 5%
		C 83				
5	環 須 恵 器	A 122	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り後、周縁へラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3106 69%
		B 38				
		C 80				
6	高台付 環 須 恵 器	A 174	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外彎して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3107 40%
		B 58				
		D 110				
		E 15				
7	高台付 環 須 恵 器	B 58	高台部から体部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外彎して立ち上がる。	体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・赤色粒子 灰オリーブ色 普通	P 3108 15%
		D 112				
		E 10				
8	高台付 環 須 恵 器	B 42	底部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3109 10%
		D 112				
		E 10				
9	蓋 須 恵 器	B 26	天井部。天井部にボタン状のつまみが付く。	天井部回転へラ削り後、つまみ貼り付け。	礫・長石・石英 灰黄色 普通	P 3110 5%
		F 34				
		G 08				
10	甕 須 恵 器	B 100	体部片。	体部内面横ナデ、外面平行叩き。	礫・長石・石英 灰白色 普通	TP3027 5%
第 8 図	甕 須 恵 器	B 91	体部片。	体部内面同心円の当て具痕、外面格子目叩き。	礫・長石 灰黄色 普通	TP3026 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 12	須恵器	B 58	体部片。	体部内面ナデ、外面平行叩き。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 灰赤褐色、普通	TP3028 9%
13	須恵器	B 67	体部片。	体部内面ナデ、外面平行叩き。	磯・長石・石英 灰黄色 普通	TP3029 9%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第8図 14	支脚	119	83		5289	土製	基部一部欠損。断面が台形状。	DP3017 PL76

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第8図 15	楕	88	09	04-05	86	鉄	長楕圓。断面が長方形。	M 3004
16	不明	45	04	035	33	鉄	断面が長方形。	M 3005

第57号住居跡（第82～85図）

位置 調査3区の南部、G2h0区。

規模と平面形 長軸5.30m、短軸4.42mの長方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は26～36cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈部分を除き、壁下を巡っている。規模は、上幅14～24cm、下幅6～14cm、深さ6～12cmで、断面形はU字形である。第5層が壁溝の覆土である。

床 はほぼ平坦である。P5から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径34～40cm、短径28～32cmの円形及び楕円形、深さ24～38cmである。各コーナー寄りに位置し、またピット間を結ぶ線がそれぞれの壁とほぼ平行することなどから主柱穴と思われる。P5は長径34cm、短径24cmの楕円形、深さ45cmである。竈に対応する南壁寄りに位置することや北側が踏み固められていることから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部及び左袖部は攪乱により壊されている。袖部は床面から20cmほど掘り込んだ後、粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで160cm、壁外への掘り込みは60cmで、最大幅は粘土の広がり等から120cmほどと推定される。火床面は床面を14cm前後掘りくぼめており、皿状をしている。右袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	6 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土大ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土大ブロック微量	7 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3 にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・微量	8 暗赤褐色	砂質粘土中ブロック多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量、炭化物微量
4 暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック微量	9 暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土中ブロック微量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子少量
		11 にぶい赤褐色	砂粒多量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

- 12 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック微量
 13 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
 14 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

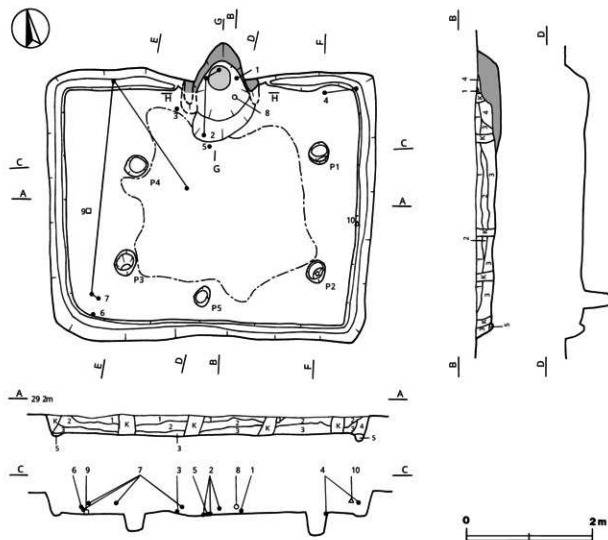
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

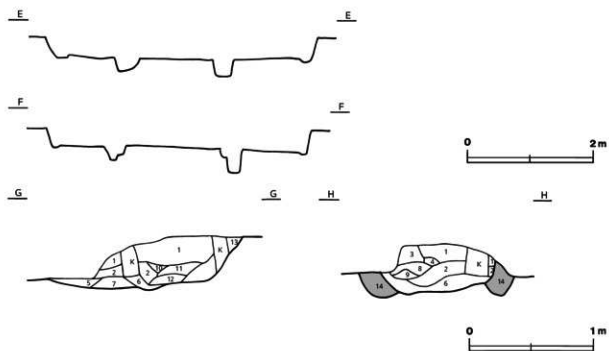
- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
 3 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量
 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量

遺物 西部を中心に土師器95点、須恵器52点、土製品1点、石製品1点、金属製品1点が出土している。うち土師師器2点、須恵器5点、土製品1点(支脚)、石製品1点(砥石)、金属製品1点(鎌)を抽出・図示した。第85図7の須恵器甕は、南西コーナー部、中央部及び北壁近くの覆土上層から出土した破片が接合したものである。10の鎌は、東壁中央部付近の覆土中層から出土している。5の須恵器高盤は甕の南側、9の砥石は西壁中央部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。3の須恵器坏は甕の西側、4の須恵器高台付坏は北東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。1の土師器高台付坏は、甕の覆土から正位の状態でも出土している。2の土師器甕は、甕の覆土や甕南の床面から出土している。8の支脚は、甕の覆土から出土している。

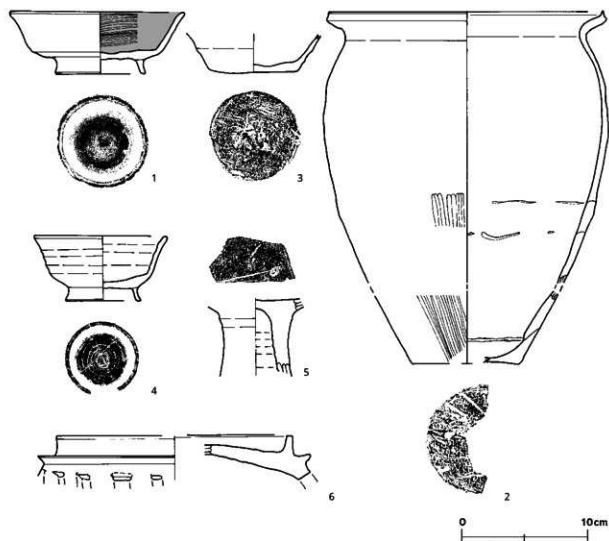
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



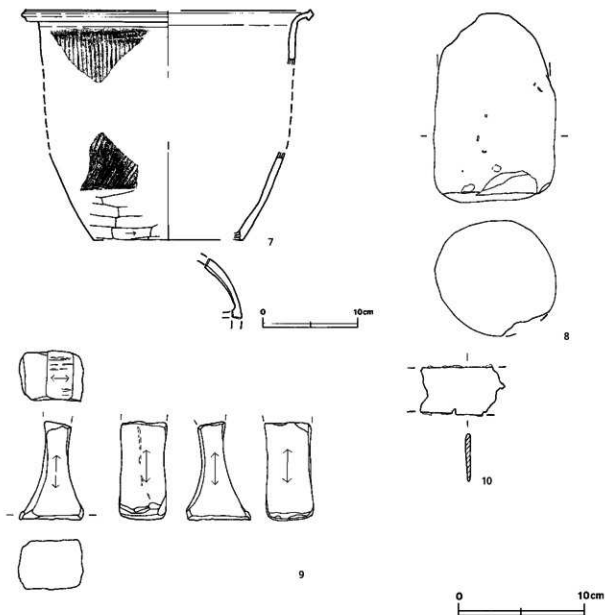
第82図 第57号住居跡実測図(1)



第 83 図 第 57 号住居跡実測図 (2)



第 84 図 第 57 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 85 図 第 57 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 57 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 84 図 1	高台付 土師器	A 141	口縁部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。底部回転へラ切り後、回転へラナデ。高台貼付け。内面黒色処理。	礫・長石・石英・針状鉱物・管母・赤色粒子 浅黄褐色、普通	P 3111 95% PL56
		B 50				
		D 72				
		E 13				
2	甕 土師器	A 220	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部上半部内・外面横ナデ、体部外面下端へラ磨き。底部木炭痕。	礫・長石・石英・管母 褐色 普通	P 3112 20% 二次焼成による赤化
		B 280				
		C 86				
3	坏 須恵器	B 30	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後、ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰黄褐色、普通	P 3113 40%
		C 72				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 4	高台付環須恵器	A 108	口縁部・体部・底部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、回転ヘラナデ。高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 褐灰色 普通	P 3114 90%
		B 53				
		D 60				
		E 10				
5	高須恵器	B 62	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英 黄灰色 普通	P 3115 5% 皿部内面ヘラ記号
6	円面環須恵器	A 191	脚台部上位から破部にかけての破片。脚台部上部に隆帯を1条持つ。破部外周に浅い溝が巡る。外境は断面四角形を呈する。	破部外境及び脚部隆帯貼り付け。破部外面及び外境口ロナデ。透かし窓ヘラ切り。	磯・長石・石英・赤色粒子 灰黄色 普通	P 3117 10% 破部内面自然釉， 外面黒色斑点
		B 36				
第85図 7	須恵器	A 300	底部から口縁部にかけての破片。底部に孔を持ち、体部は外傾して立ち上がる。口縁部は直角に屈曲し、端部は断面三角形を呈する。	口縁部内・外面口ロナデ。体部	磯・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰色 普通	P 3116 10%
		B 151				
		C 156				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第85図 8	支脚	150	98		11149	土製	円筒状を呈し、熱を受けて赤化。一部欠損	DP3018

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第85図 9	砥石	78	52	40	1443	凝灰岩	6面使用。沈線の研ぎ痛。	Q 3012 PL78

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第85図 10	罎	68	38	04	326	鉄	刃部先端及び基部欠損。	M 3006

第58号住居跡（第86～88図）

位置 調査3区の南東部，G3g3区。

重複関係 第60号住居跡の南西部を，第61号住居跡の北東部を，それぞれ掘り込んでいる。また，竈の西側を第764号土坑に，中央部の東寄り第951号土坑に，それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 覆土が薄く，また耕作による擾乱が多いため，切り合い関係は壁の変化やピットの位置関係等から判断した。長軸約2.20m，短軸約2.00mの長方形と推定される。

主軸方向 N-2°-Wと推定される。

壁 残存する壁高は4～6cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。ローム土で，踏み固められた部分は認められない。

ピット 1か所。P1は径26cmの円形，深さ39cmである。性格は不明である。

竈 北壁の東コーナー寄りに付設されており，袖部が遺存している。袖部は床面とはほぼ同じ高さを基部として，砂粒を混ぜた粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで42cm，最大幅61cm，壁外への掘り込みは15cmである。火床面も床面とはほぼ同じレベルで，浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変している。煙道は，外傾して立ち上がる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|---------|---|---|--------|---|
| 1 | にぶい暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 | 3 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土大ブロック微量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土大ブロック微量 | 4 | 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 |

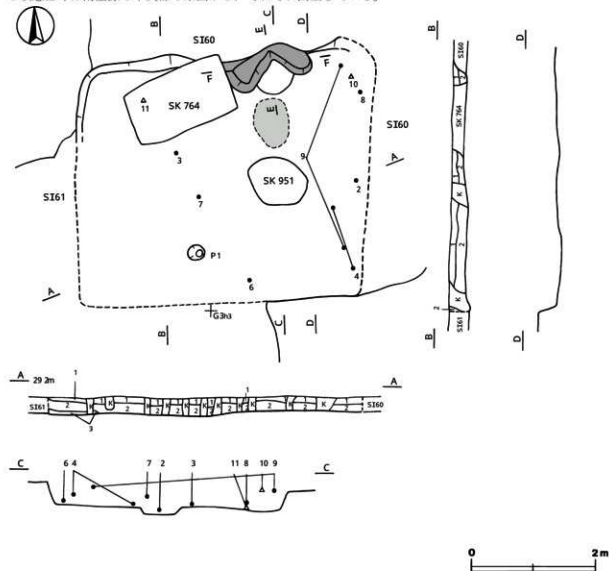
- | | | | |
|----------|--|---------|--|
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 8 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | 焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子中量、炭化物・灰少量、ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土中ブロック微量 |
| 7 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 3層からなるが薄いので、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

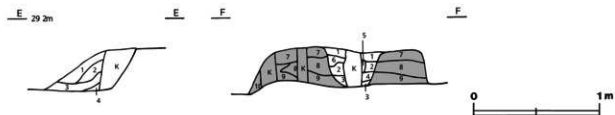
- | | | | |
|-------|--|------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・焼沼パミス粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 重複関係や出土状況及び形状から本跡に伴う遺物として、土師器片3点、須恵器片5点、灰釉陶器1点、金属製品2点（釘・不明鉄製品）を抽出・図示した。第88図5の須恵器杯、11の不明鉄製品は覆土から出土している。7の須恵器高台付皿は中央部、9の灰釉陶器椀は、南東コーナー部及び北東コーナー部付近のそれぞれ覆土上層から出土している。3の土師器甕は竈左袖部の西側、8の須恵器甕と10の釘は北東コーナー部付近のいずれも覆土下層から出土している。2の土師器甕は東壁際中央部、4の須恵器杯は中央部及び南壁際、6の須恵器杯は南壁際の中央部の床面から、それぞれ出土している。

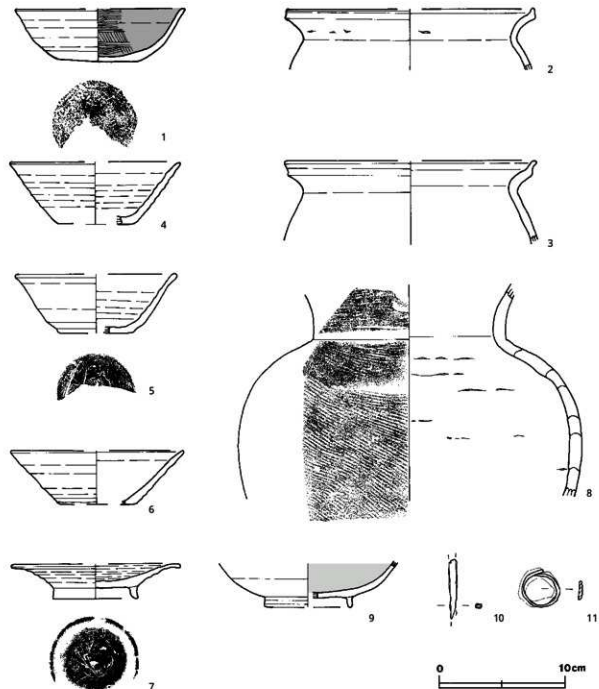


第 86 図 第 58号住居跡実測図 (1)

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 87図 第 58号住居跡実測図(2)



第 88図 第 58号住居跡出土遺物実測図

第 58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	坏 土師器	A 130	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子 灰黄色、普通	P 3121 25%
		B 42				
		C 65				
2	甕 土師器	A 192	体部上部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英 明赤褐色 普通	P 3122 5%
		B 48				
3	甕 土師器	A 198	体部上部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 灰褐色、普通	P 3124 5%
		B 66				
4	坏 須恵器	A 137	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部へラ磨り。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母 灰黄色、普通	P 3127 30%
		B 49				
		C 62				
5	坏 須恵器	A 129	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後、へラナデ。	礫・長石・雲母・赤色粒子 灰色、普通	P 3128 35% 底部へラ記号
		B 47				
		C 60				
6	坏 須恵器	A 139	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部周縁手持ちへラ磨り。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 灰色、普通	P 3129 15%
		B 43				
		C 63				
7	高台付皿 須恵器	A 136	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台はハの字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。高台内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰黄色 普通	P 3133 60%
		B 28				
		D 66				
		E 09				
8	甕 須恵器	B 168	体部上半から頸部にかけての破片。体部は内彎しながら頸部に至る。頸部は直立気味に立ち上がる。	輪組み後、頸部内・外面口クロナデ。体部内面口クロナデ、外面横位の平行叩き。	礫・長石・石英 灰色 普通	P 3138 20% 体部内面輪組み痕
		B 168				
9	高台付椀 灰陶器	B 35	高台部から体部にかけての破片。平底。高台は断面が三日月状を呈する。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部ナデ後、高台貼り付け。高台内・外面口クロナデ。内面施釉。	砂粒・石英 内面灰白色 オリブ黄色、良好	P 3141 30% 見込みにトチン窟 三河・遠江系二川窯か
		D 67				
		E 08				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第88図 10	釘	47	04-06	04	35	鉄	断面が長方形。	M 3007
11	不明	15	29	09	136	鉄	環状を呈する。	M 3008 PL80

第59号住居跡（第89図）

位置 調査3区の南東部，G3j6区。

規模と平面形 周囲に砂質粘土粒子が認められる楕円形の焼土粒子の広がりや竈の火床部。また周りのローム土より濁ってやや固くなった部分を床面と判断した。規模と平面形は、長軸約3.20m、短軸約3.10mの方形と推定される。

主軸方向 N-6°-Eと推定される。

床 はほぼ平坦である。ローム土で、顕著に踏み固められた部分は認められない。

竈 床面と判断した濁ってやや固くなったロームの広がりや北側中央部に、径24cmの円形で、深さ4cmほどの赤変してやや硬化している窪みと、その周囲に粘土粒子が広がっていたことなどから、この部分に竈が付設されていたと思われる。

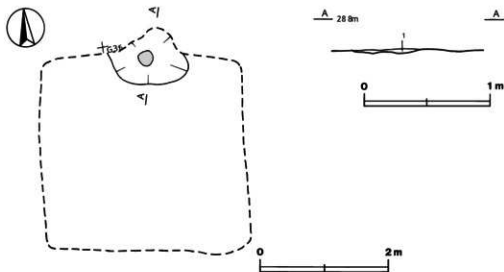
竈火床土層解説

1 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量

覆土 確認できなかった。

遺物 須恵器片3点が出土した。3点とも細片で、抽出・図示できない。

所見 遺物が少ないので、時期を特定しづらいが、須恵器の高台付坏片が見られることから平安時代と考えられる。



第 89 図 第 59号住居跡実測図

第60号住居跡（第90～93図）

位置 調査3区の南東部，G3g2区。

重複関係 左袖付近を第949号土坑に，北西コーナー部を第950号土坑に，P2西側を第951号土坑に，P4南側を第764号土坑に，中央部から南西部にかけて第58号住居に，それぞれ掘り込まれている。第61号住居跡の北東部を掘り込んでいる。

規模と平面形 重複が激しいため明確ではないが，長軸5.90m，短軸5.24mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

壁 残存する壁高は34～38cmで，ほぼ直立する。

床 小さな凸凹はあるが，ほぼ平坦である。東壁際の中央から竈中央部にかけて踏み固めが認められる。

ピット 6か所（P1～P6）。P1・P3・P4は長径66～68cm，短径52～60cmの楕円形，深さ85～103cm，P2は径50cmほどの円形，深さ75cmである。ピット間を結ぶ線が残存する壁と平行になることや規模から支柱穴と思われる。P5は長径50cm，短径38cmの楕円形，深さ61cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は，径52cmほどの円形，深さ33cmで，P1の北側に位置し，性格は不明である。

竈 北壁の中央部に付設されており，袖部が遺存している。袖部は床面とはほぼ同じ高さを基部として，砂粒を混ぜた粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで160cm，幅は左袖部の一部分が土坑に掘り込まれているので確認できた幅は180cm，壁外への掘り込みは80cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部内壁・火床面・煙道は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面からやや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	4	黒色	炭化粒子・砂質粘土粒子多量，炭化物中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材微量
2	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	黒褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂粒微量
3	褐色	砂質粘土大ブロック多量，炭化物・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子微量			

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 6 暗褐色 | 焼土粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量、砂質粘土中ブロック微量 |
| 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量、炭化物微量 |

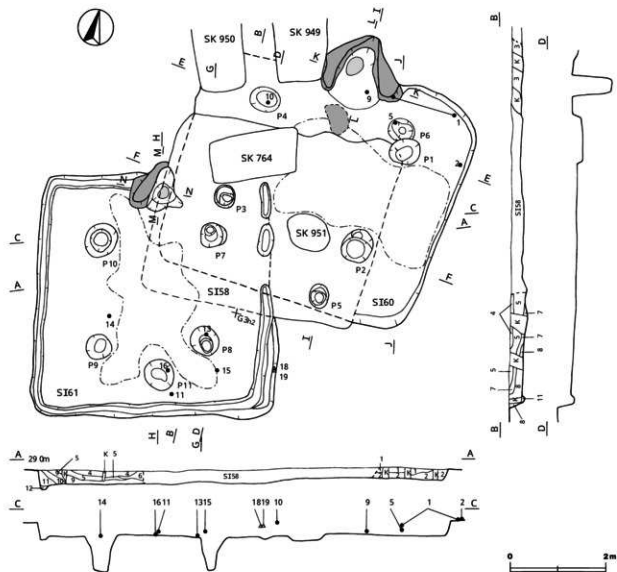
覆土 3層からなるが、薄い。第1・2層がレンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

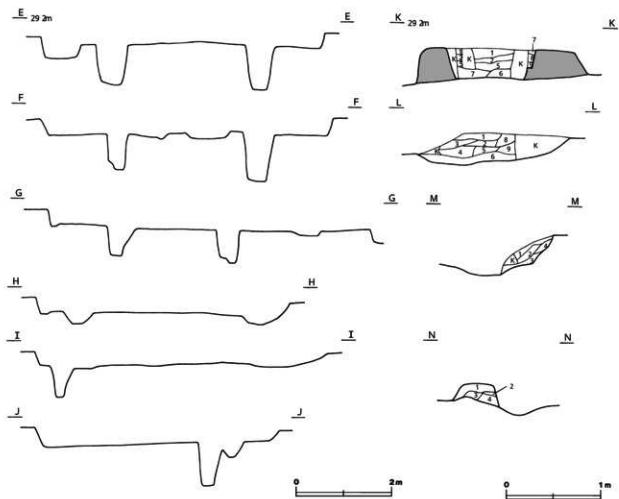
- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 重複関係や出土状況及び形状から、本跡に伴う遺物として土師器片2点、須恵器片8点を抽出・図示した。第92図4の須恵器高台付杯、6の須恵器蓋、8の須恵器甗片は覆土から出土している。9の須恵器甗は、竈右袖部付近の覆土中層から出土している。1の土師器高台付杯は竈右袖部際の覆土中層、北壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器甗は北東コーナー付近、5の須恵器高台付杯は竈南の覆土下層から出土している。3の須恵器杯は、覆土下層から出土した小片が接合したものである。7の須恵器蓋は竈の覆土から、10の須恵器甗はP4の覆土から出土している。

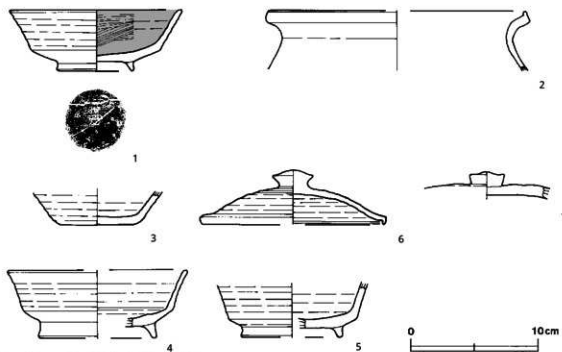
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



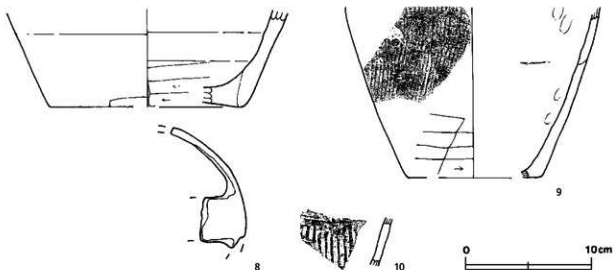
第90図 第60・61号住居跡実測図(1)



第 91 图 第 60·61 号住居跡实测图 (2)



第 92 图 第 60 号住居跡出土遺物实测图 (1)



第 93 図 第 60号住居跡出土遺物実測図(2)

第 60号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 9 図 1	高台付 環土器	A 138	高台部・体部及び口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面口クロナデ後、横位のヘラ磨き、外面口クロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・針状鉱物・灰白色	P 3120 75% PL56
		B 48				
		D 61				
		E 07				
2	甕土器	A 205	体部上部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 3123 5%
		B 47				
3	環須恵器	B 27	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部周縁ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・灰色、普通	P 3130 20%
		C 58				
4	高台付 環須恵器	A 142	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。高台内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英・赤色粒子・灰オリーブ色・普通	P 3131 30% 体部外面一部自然輪
		B 54				
		D 94				
		E 12				
5	高台付 環須恵器	B 44	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。高台内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英・赤色粒子・普通	P 3132 25%
		D 80				
		E 08				
		A 144				
6	甕須恵器	B 43	天井部は笠形で、甕宝珠状のつまみが付く。端部は折り返されている。	口縁部及び外周部内・外面口クロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子・灰黄色・普通	P 3135 20%
		F 32				
		G 13				
		A 14				
7	甕須恵器	B 21	天井部。天井部にボタン状のつまみが付く。	天井部内面口クロナデ、外面回転ヘラ削り。つまみナデ。	礫・長石・石英・灰色・普通	P 3136 10%
		F 28				
		G 09				
第 9 図 8	甕須恵器	B 77	底部から体部にかけての破片。底部に孔を持つ。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面口クロナデ後、下端ヘラ削り、外面口クロナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子・橙色、普通	P 3139 5%
		C 156				
9	甕須恵器	B 135	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	輪碾み後、体部内面指ナデ、外面上部縦位の平行叩き、下部横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい橙色・普通	P 3140 5%
		C 104				
10	甕須恵器	B 39	体部片。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内面口クロナデ、外面格子目状叩き。	礫・長石・針状鉱物・灰黄色・普通	TP3030 5%

第61号住居跡（第90・91・94図）

位置 調査3区の南東部，G3g2区。

重複関係 北東コーナー部から竈右袖部にかけてを第58・60号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.18m，短軸5.16mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は28～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の東側を除いて壁下を巡っている。規模は，上幅14～24cm，下幅8～14cm，深さ6～12cmで，断面形はU字形である。第12層が壁溝の覆土である。

床 はほぼ平坦で，P11の北側から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P7～P11）。P7・P9は径54cmほどの円形，深さ68cm・45cm，P8・P10はそれぞれ長径66cm・76cm，短径60cm・66cmの楕円形，深さ61cm・78cmである。各コーナー寄りに位置することや規模から支柱穴と思われる。P11は長径70cm，短径62cmの楕円形，深さ25cmで，竈に相対する南壁の中央付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北東壁中央部に付設されており，第58号住居に掘り込まれているために左袖部しか遺存していない。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで104cm，壁外への掘り込みは26cmである。火床面は床面を16cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	3	褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
2	暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土大ブロック・焼土中ブロック微量	4	暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・砂質粘土大ブロック微量

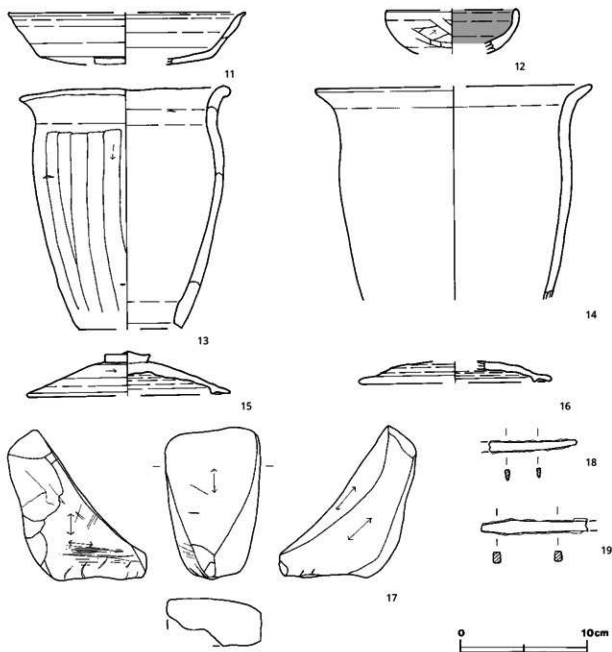
覆土 第1～3層は第59号住居跡の覆土で，本跡の覆土は第4～11層の8層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積であると思われる。

土層解説

4	褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色 ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
5	暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	10	褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
6	褐色 ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	11	褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7	褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
8	褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量		

遺物 重複関係や，出土状況及び形状から，本跡に伴う遺物として，土師器片4点，須恵器片2点，石製品1点，鉄製品2点を抽出・図示した。第94図12の土師器杯は，覆土上層から出土している。17の砥石は，覆土上層から出土している。18の刀子と，19の不明鉄製品は，ともに南東コーナー寄りの東壁際の覆土中層から，それぞれ出土している。11の土師器杯は，P8と南壁間の覆土下層から，割れた状態で出土している。また，15の須恵器蓋は，P8の南から，16の須恵器蓋は，P11上の覆土下層からそれぞれ出土している。13の土師器瓶は，P8付近の覆土下層から床面に掛けて出土している。14の土師器瓶は，P9の北側の床面から出土している。

所見 時期は，遺構の形態及び出土土器から7世紀末から8世紀前葉と考えられる。



第 94 図 第 61号住居跡出土遺物実測図

第 61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 94 図 11	土 器	A 188	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は外傾して立ち上がる。 口縁端部は外反し 内・外面に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 底部外面手持ちヘラ附り。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 3118 306
		B 41				
		C 138				
12	土 器	A 104	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内傾しながら立ち上がり口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端及び底部外面ヘラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 3119 306 PL56
		B 35				
		C 82				
13	土 器	A 169	底部から口縁部にかけて一部欠損。 無底式。体部上位に最大径を持ち、やや内傾して頸部に至る。口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部内面横ナデ、外面縦位のヘラ附り。	磯・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3125 654 PL56
		B 189				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 14	甌 土師器	A 220	体部から口縁部にかけての破片。 体部上位に最大径を持ち、やや内傾して頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 3126 20% 体部外面下端一部 スス付着
		B 168				
15	蓋 須恵器	A 160	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、ボタン状のつまみが付く。口縁部内面にかえりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口口ナデ。天井部外面回転ヘラ切り後つまみ貼り付け。	磯・長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 3134 25%
		B 35				
		F 36				
		G 08				
16	蓋 須恵器	A 150	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、口縁部内面にかえりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口口ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 3137 15%
		B 17				

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第9図 17	砥石	12	75	9	7134	凝灰岩	3面使用。一面に沈線の研ぎ傷。	Q 3013

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第9図 18	刀子	70	08	03	40	鉄	刃部先端部及び茎尻欠損。	M 3025
		19	不明	08	12			

第62号住居跡（第95～99図）

位置 調査3区の南東部、G3g1区。

重複関係 竈の上部を第2号溝に、掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.72m、短軸6.68mのはぼ方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は28～32cmで、ほぼ直立する。

壁溝 北壁及び西壁の北側を除いて壁下を巡っている。規模は、上幅10～26cm、下幅6～14cm、深さ10～14cmで、断面形はU字形である。第7層が壁溝の覆土である。

床 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

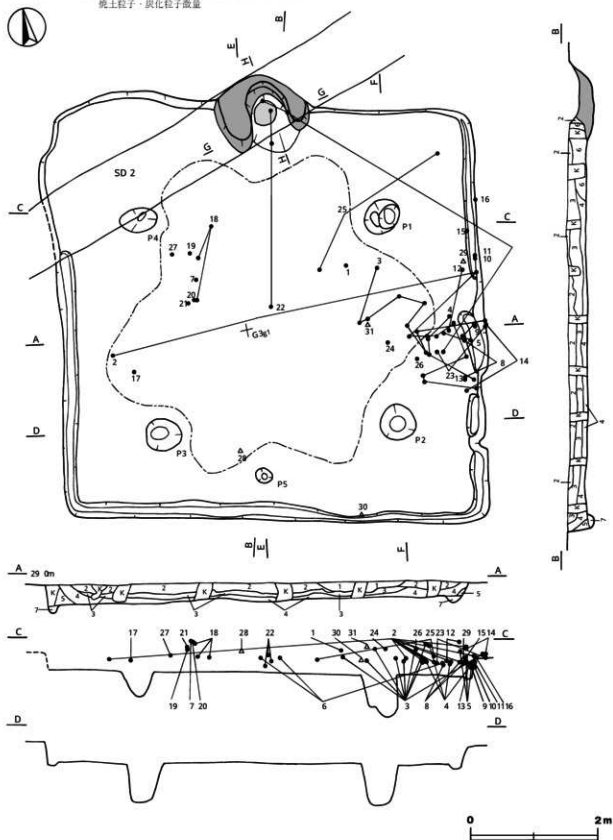
ピット 5か所（P1～P5）。P1・P3・P4は長径58～62cm、短径40～50cmの楕円形、深さ41～67cmで、P2は径55cmほどの円形、深さ67cmである。各コーナー寄り位置し、4か所を結ぶ線が方形になることや踏み固められた部分が各ピットを結ぶ線の内側に存在することから、P1からP4は主柱穴と思われる。P5は長径28cm、短径22cmの楕円形、深さ24cmで、竈に相対する南壁の中央近くに位置することから、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。溝に上部を掘り込まれているので、確認できた規模は、煙道部から焚口部まで136cm、最大幅148cm、壁外への掘り込みは66cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

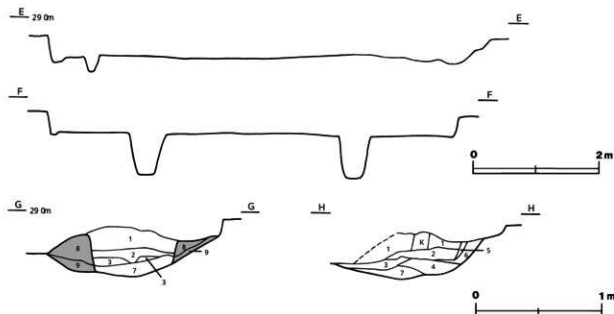
竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|----------|---|
| 1 褐 色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・
焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 4 暗 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘
土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・
炭化物微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼
土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、ローム小ブ
ロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 赤 褐色 | 焼土大ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子・
炭化粒子・砂質粘土粒子・砂微量 | | |

- 6 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量，砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 8 褐色 砂粒中量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量



第 95 図 第 62 号住居跡実測図 (1)



第 96 図 第 62 号住居跡実測図 (2)

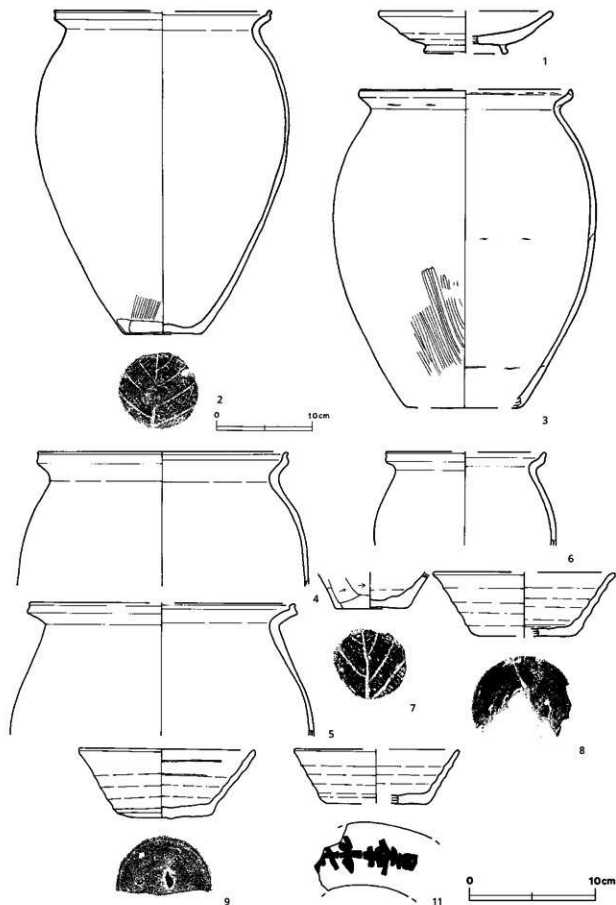
覆土 7 層からなる。レンズ状に堆積しているが、各層の含有物や色調が似ていることや遺物が中層から上層にかけて集中していることなどから、短時間に埋まったと考えられるので人為堆積と思われる。

土層解説

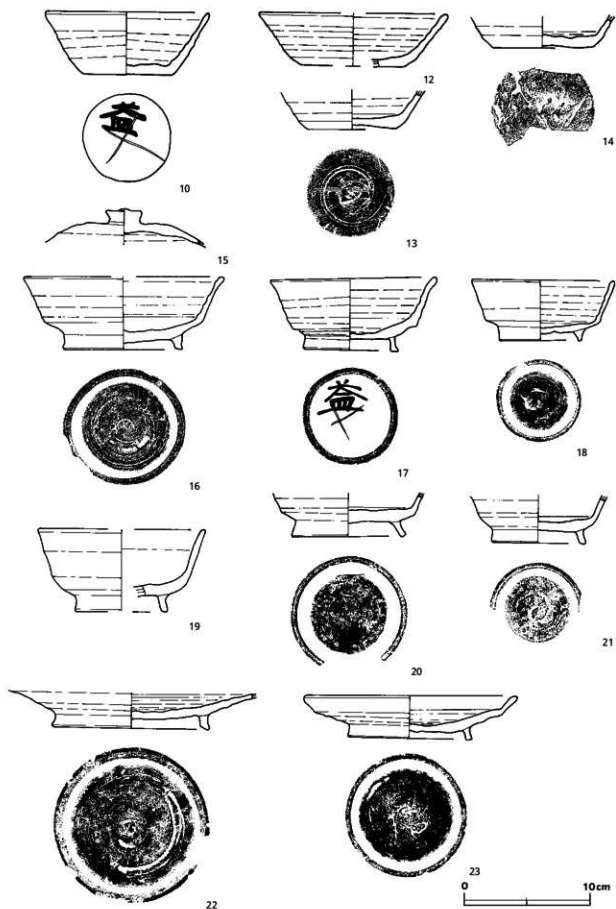
- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・白色粘土粒子・微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・白色粘土粒子・鹿沼バミス中ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・白色粘土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子・微量 |
| | | 7 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量 |

遺物 主柱穴の P 1 と P 2 の間から東壁にかけての覆土上層から中層を中心に、土師器片 408 点、須恵器片 246 点、金属製品 4 点が出土している。うち土師器 7 点、須恵器 20 点、金属製品 4 点（鉄斧・釘・不明鉄製品）を抽出・図示した。第 97 図 1 の土師器高台付皿は中央部、2・3 の土師器甕及び 14 の須恵器杯・15 の須恵器蓋は東壁中央部付近、7 の土師器甕は中央部の P 4 寄り、16 の須恵器高台付杯は東壁の北寄り、17 の墨書された須恵器高台付杯は西壁の中央寄り、18・19 の須恵器高台付杯は P 4 の東側、20・21 の須恵器高台付杯は中央部西寄り、24 の須恵器盤と 31 の不明鉄製品は中央部の東寄り、25 の須恵器盤は北東コーナー一部等、26 の須恵器蓋と 27 の須恵器高甕は P 4 近く、28 の鉄斧は P 5 の北西部、30 の釘は南壁際中央の東寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。5 の土師器甕と 8・12 の須恵器杯は東壁際中央部、4 の土師器甕は東壁中央部寄りの覆土上層及び中層からそれぞれ出土している。6 の土師器小形甕と 29 の釘は東壁の中央部近く、9・10・11・13 の須恵器杯は東壁際中央部の覆土中層から出土している。9 の杯は横位、10 の「益」及び 11 の「日奉部古カ」と墨書された杯は重なって出土している。22 の須恵器盤は、中央部の覆土中～上層及び竈の覆土から出土した破片が接合したものである。

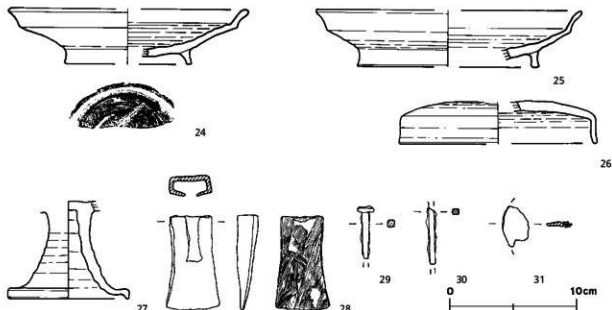
所見 遺物は P 1 と P 2 の間から東壁にかけての覆土上～中層間から多く出土したことや、完全な形のものがなく離れて出土したものが接合することなどから、埋め戻しの途中で投棄されたものと思われる。また、吉祥に関係すると思われる「益」と墨書された土器（高台付杯）が出土していることや石原遺跡の第 16 号住居跡と同様に、「日奉部古カ」と墨書された 8 世紀中頃の土器が出土していることが注目される。時期は、9・10 の杯と一緒に出土していることなどから 8 世紀後葉に廃絶されたものと考えられる。



第 97 图 第 62 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 98 图 第 62 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 99 図 第 62号住居跡出土遺物実測図(3)

第 62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第 99 図 1	高台付皿 土師器	A 136 B 34 D 64 E 07	高台部から口縁部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼りに付け。高台内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母 灰白色 やや不良	P 3144 25% 酸化焼成	
	2	裏 土師器	A 224 B 336 C 80	底部から口縁部にかけての破片。体部上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみあげられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面下端位位のヘラ磨き及び横位のヘラ削り。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 3145 45% PL56
		裏 土師器	A 218 B 333 C 118	体部から口縁部にかけての破片。体部上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみあげられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ、体部外面下端位位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 3146 20% PL56 体部内面輪積み痕
4	裏 土師器	A 198	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はコの字状に外反する。口縁端部はつまみあげられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色 普通	P 3147 30% PL56	
		B 106	体部上半から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に外反する。口縁端部はつまみあげられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3148 20%	
6	小形裏 土師器	A 126	体部上半から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみあげられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 にぶい褐色、普通	P 3149 20%	
		B 74	体部上半から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみあげられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3150 5%	
8	環 須恵器	A 142	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 褐色、普通	P 3151 45%	
		B 50	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 褐色、普通	P 3152 45%	
		C 76	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 3463 90% PL56-73 底部裏書「益」 底部ヘラ記号	
第 99 図 10	環 須恵器	A 128	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 3463 90% PL56-73 底部裏書「益」 底部ヘラ記号	
		B 58	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 3463 90% PL56-73 底部裏書「益」 底部ヘラ記号	
		C 68	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 3463 90% PL56-73 底部裏書「益」 底部ヘラ記号	

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 11	坏 須恵器	A 130 B 43 C 80	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、良好	P 3153 40% PL56 69 体部外面墨書横位 「日事部古力」
第9図 12	坏 須恵器	A 150 B 42 C 82	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3154 20%
13	坏 須恵器	B 37 C 70	底部から体部にかけての破片。中央部が凹む平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰赤色、普通	P 3155 39% 酸化焼成 底部ヘラ記号
14	坏 須恵器	B 25 C 80	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3156 10%
15	蓋 須恵器	B 30 F 30 G 10	天井部片。天井部は空形で、鑿宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ接合。つまみ口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 オリーブ灰色、普通	P 3167 20%
16	高台付 須恵器	A 156 B 58 D 91 E 13	体部及び口縁部一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部口ロナデ。底部回転下部ヘラ切り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3157 50%
17	高台付 須恵器	A 132 B 59 D 76 E 11	口縁部一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、高台部内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3158 90% PL56 73 底部ヘラ記号及び 墨書「益」、体部外 面一部自然釉
18	高台付 須恵器	A 112 B 49 D 66 E 11	体部及び口縁部一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3159 70% PL56 体部外面一部自然釉
19	高台付 須恵器	A 132 B 65 D 72 E 14	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P 3160 20% 体部外面一部自然釉
20	高台付 須恵器	B 35 D 92 E 13	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英 灰黄色 やや不良	P 3161 20% 内・外面黒色斑点
21	高台付 須恵器	B 38 D 74 E 11	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。高台内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英 灰黄褐色 普通	P 3162 20% 底部内面一部自然釉 内・外面黒色斑点
22	盤 須恵器	B 28 D 128 E 11	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部はゆるやかに外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、ヘラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3163 75% PL56
23	盤 須恵器	A 166 B 35 D 98 E 09	体部及び口縁部一部欠損。体部はゆるやかに外傾して開き、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、ヘラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3164 70% PL56 底部ヘラ記号
第9図 24	盤 須恵器	A 186 B 44 D 100 E 12	底部から口縁部にかけての破片。体部はゆるやかに外傾して立ち上がり、口縁部境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・針状鉱物 暗灰黄色 普通	P 3165 20% 底部ヘラ記号
25	盤 須恵器	A 208 B 45 D 144 E 14	底部から口縁部にかけての破片。体部はゆるやかに外傾して立ち上がり、口縁部境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英 に濃い赤褐色 普通	P 3166 15%
26	蓋 須恵器	A 158 B 34	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を持つ。口縁部は屈曲して重下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロナ。天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰黄褐色、普通	P 3168 20%
27	高 須恵器	B 77 D 94	脚部片。脚部はラッパ状に開き、踵部をつまみ出している。	脚部内・外面口ロナデ。	礫・長石 灰色 良好	P 3169 40% PL56 脚部外面一部自然釉

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第9図	斧	75	43	17	107	鉄	袋状。刃部先端一部欠損。木質が付着。	M 3010 PL78
28	釘	40	04~13	05	58	鉄	断面形がT字状で、脚部先端欠損。	M 3011 PL80
30	釘	44	04~05	05	30	鉄	頭及び脚部先端欠損。	M 3012
31	不明	33	21	04	32	鉄	鎌力。	M 3013

第63号住居跡（第100図）

位置 調査3区の東部，G3c4区。

規模と平面形 焼土とロームの濁った広がりを確認でき、さらにロームの濁った部分の中央部から遺物が検出されたので、周りに粘土粒子が存在する楕円形状の焼土の広がりを竈の火床部、ロームの濁った広がりを床面と判断した。長軸約2.70m、短軸約2.60mの不整形と推定される。

主軸方向 N-2°-Wと推定される。

床 確認面から12cmほど掘り込んだ後、ローム土・炭化物・焼土を埋めて構築された貼床である。小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。周囲のローム土より濁っているが、踏み固められた部分は認められない。

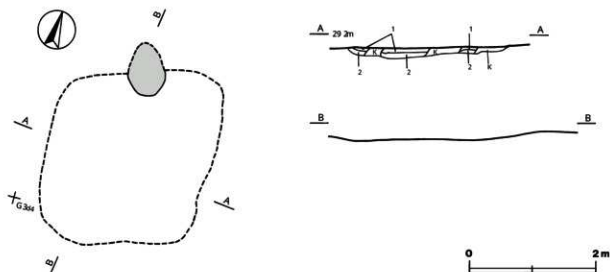
掘り方土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・ 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土
 焼土粒子・炭化粒子微量 粒子・炭化粒子微量

竈 焼土の広がりなどから北壁中央部に付設されていたと思われる。火床面は床面レベルから4cmほど掘りくぼめており、浅い皿状をしている。

遺物 中央部を中心に土器器片12点、須恵器片2点が出土しているが、細片であるため抽出・図示できるものはない。

所見 図示できなかったが、細片の中に土器器甕で口縁端部が強くつまみ上げられているものがあることから、時期は平安時代と考えられる。



第100図 第63号住居跡実測図

第64号住居跡（第101～103図）

位置 調査3区の南部，H3c1区。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は40～46cmで、ほぼ直立する。

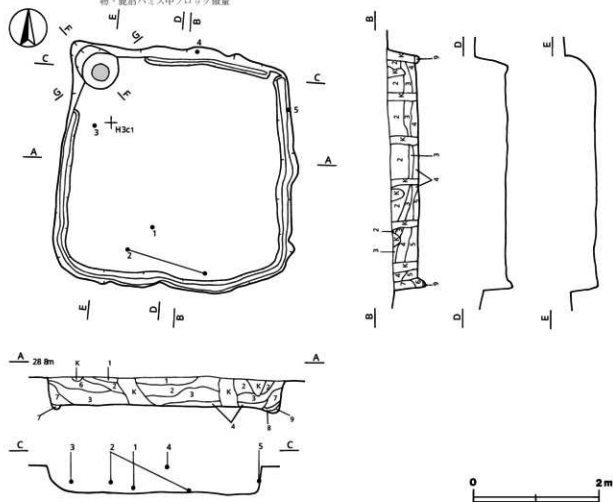
壁溝 竈及び北東コーナー部を除き、壁下を巡っている。規模は、上幅10～18cm、下幅6～10cm、深さ8～12cmで、断面形はU字形である。第9層が壁溝の覆土である。

床 はほぼ平坦である。柔らかなローム土で踏み固められた部分は認められない。

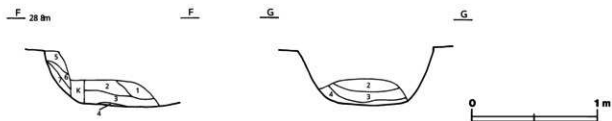
竈 粘土粒子の広がりなどから北西コーナー部に付設されていたと思われる。粘土粒子の広がりが部分の立ち割り状況から天井部・袖部はともに遺存していないが、粘土と砂粒を混ぜて構築されていたと思われる。規模は、煙道部から焚口部まで94cm、壁外への掘り込みは22cmである。袖部が崩壊しているために最大幅は不明である。火床面は床面とはほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。火床面は赤変硬化している。住居の廃絶時に壊されたと思われる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|---------|---|
| 1 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量 | 5 褐 色 | 砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | 砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 6 黒 褐 色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・礫微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子・鹿沼バミス粒子・礫微量 | 7 褐 色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・礫微量 |
| 4 赤 褐 色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化材・炭化物・鹿沼バミス中ブロック微量 | | |



第101図 第64号住居跡実測図(1)



第 102 図 第 64 号住居跡実測図 (2)

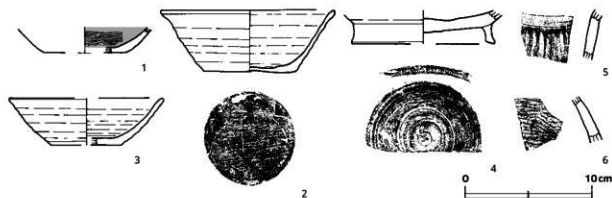
覆土 9層からなる。レンズ状に堆積しているが、各層に炭化粒子や鹿沼バミスが含まれていることや色調が同じであることから人為堆積と思われる。

土層解説

1 褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	5 褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量
2 褐	色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐	色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量
3 褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス粒子微量	7 褐	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
4 褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、鹿沼バミス大ブロック・鹿沼バミス中ブロック微量	8 褐	色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
			9 褐	色	ローム粒子・鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量

遺物 土師器片23点、須恵器片13点と出土遺物は少ない。うち土師器1点、須恵器5点を抽出・図示した。第103図4の須恵器高台付坏は、北壁の上部に貼り付いた状態で出土している。3の須恵器坏は、西壁中央部から北寄り付近の覆土中層から出土している。1の土師器坏は、中央部の南寄りの覆土下層から逆位の状態で出土している。2の須恵器坏は南壁中央部の西寄りの覆土下層、南壁際中央部の床面、竈の覆土の3か所から出土した破片が接合したものである。5・6は須恵器甕の体部片で、東壁際の下部、覆土からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、北西コーナー部に竈を持つ住居跡である。コーナー部に竈を持つ住居跡は、宮後遺跡では本跡と第80号住居跡の2軒だけである。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる



第 103 図 第 64 号住居跡出土遺物実測図

第 64 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 10 図 1	土師器 坏	B 21 C 61	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。外面横ナデ。底部回転へラナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状磁物・雲母・赤色粒子に汚染褐色。普通	P 3170 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 2	坏 須 恵 器	A 140	体部及び口縁部一部欠損, 平底, 体部は直線的に外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部へら削り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色, 普通	P 3171 75% PL57 底部へら記号
		B 49				
		C 76				
3	坏 須 恵 器	A 124	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	磯・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰黄色, 普通	P 3172 40%
		B 37				
		C 56				
4	高台付坏 須 恵 器	B 27	底面片。高台はハの字状に開く。	底部回転へら切り後, 中央部指摺ナデ。高台貼り付け後, 内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色, 普通	P 3173 20%
		D 112				
		E 16				
5	甕 須 恵 器	B 41	体部片。	体部内面口ロナデ, 外面縦位の平行叩き。	長石・曹母 灰オリープ色 普通	TP3031 9% 内・外面黒色斑点, 外面自然釉
		B 39				
6	甕 須 恵 器	B 39	体部片。	体部内口ロナデ, 外面横位の平行叩き。	長石・石英 暗オリープ色 普通	TP3032 9% 内・外面黒色斑点
		B 39				

第65号住居跡 (第104~107図)

位置 調査3区の南西部, G2f5区。

重複関係 北西コーナー部を第67号住居及び第71号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.76m, 短軸5.72mの方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 残存する壁高は60~66cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈部分を除き, 壁下を巡っている。規模は, 上幅12~34cm, 下幅6~12cm, 深さ6~12cmで, 断面形はU字形である。第9層が壁溝の土層である。

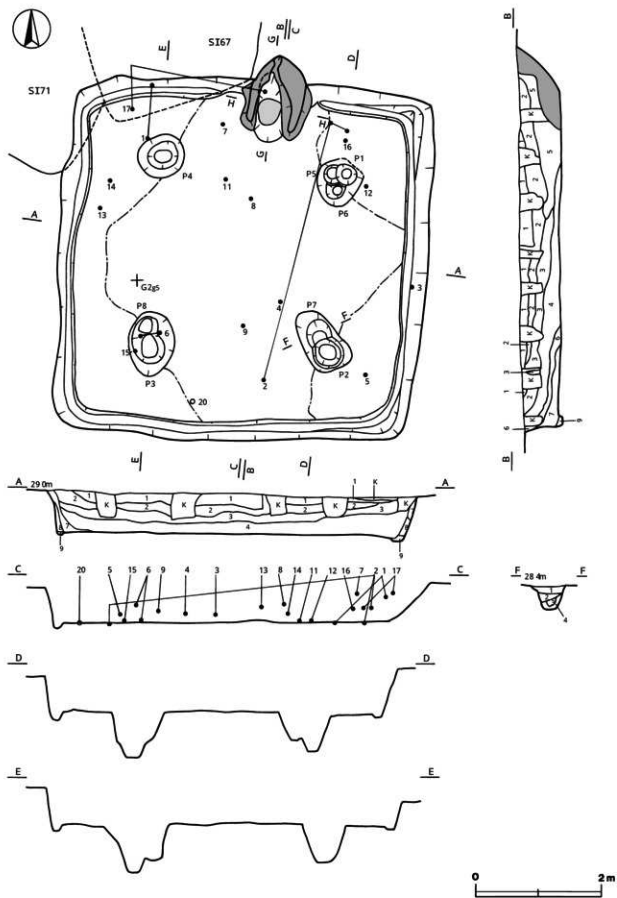
床 はほぼ平坦であるが, 中央部がややくぼんでいる。南壁から竈にかけての中央部を中心に踏み固められている。

ピット 8か所 (P1~P8)。P1・P2はそれぞれ径35cm・50cmの円形, 深さ58cm・74cmである。P3・P4は長径がともに74cm, 短径54cm・60cmの楕円形, 深さ70cm・60cmである。P1~P4は各コーナー近くに位置することから支柱穴と思われる。P5は径30cmの円形, 深さ40cm, P6~P8は長径32~60cm, 短径26~54cmの楕円形, 深さ40~60cmである。P7の覆土には大~小のロームブロック等が入っていることから埋め戻されたと思われる。また, P5・P6はP1と, P7はP2と, P8はP3とそれぞれ隣り合っていることから建て替えが行われたと考えられる。

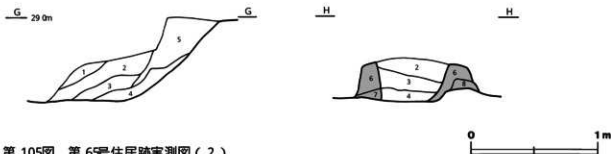
P7土層解説

- 1 明褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・
ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロッ
ク・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・
焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロッ
ク・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されている。両袖部が遺存し, 粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで126cm, 最大幅104cm, 壁外への掘り込みは38cmである。床面とはほぼ同じレベルを火床面とし, 浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で, 外傾して立ち上がる。



第 104 图 第 65 号住居跡実測图 (1)



第 105図 第 65号住居跡実測図(2)

地層解説

- | | |
|--|--|
| <p>1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、
焼土粒子・炭化粒子微量</p> <p>2 赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼
土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量</p> <p>3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化
物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量</p> <p>4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・砂質
粘土粒子・微量、ローム小ブロック・焼土中ブ
ロック・炭化物・炭化粒子微量</p> <p>5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質
粘土粒子少量、炭化材・炭化物・ローム小ブ
ロック・砂質粘土小ブロック微量</p> | <p>6 黒褐色 焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼
土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微
量</p> <p>7 にぶい赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化
物・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒
子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子微量</p> <p>8 褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・
焼土粒子・砂質粘土大ブロック・砂質粘土小ブ
ロック少量、炭化物微量</p> |
|--|--|

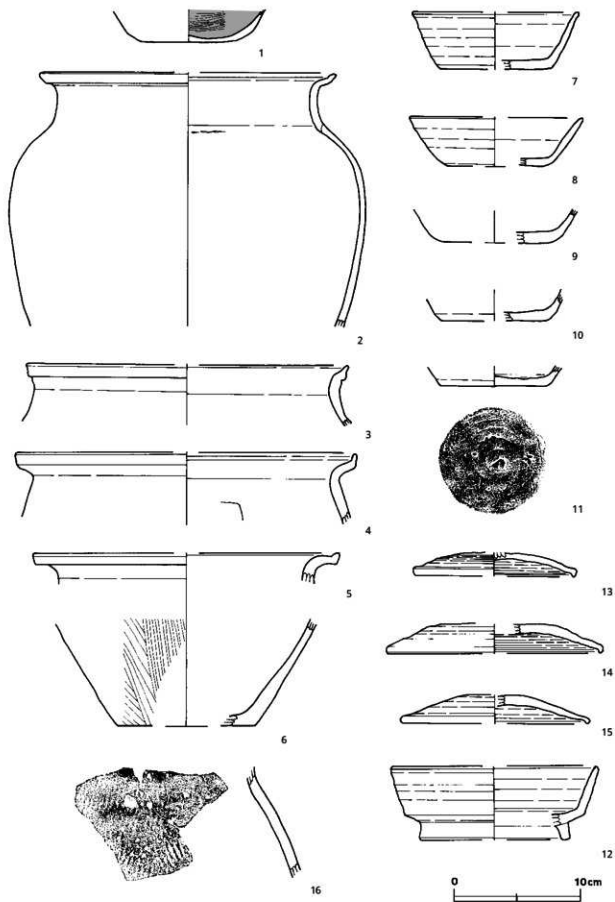
覆土 9層からなる。レンズ状に堆積しているが、各層に焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・鹿沼バミス等が含まれることや色調が類似していることから短時間に埋まったものと思われるので、人為堆積である。

土層解説

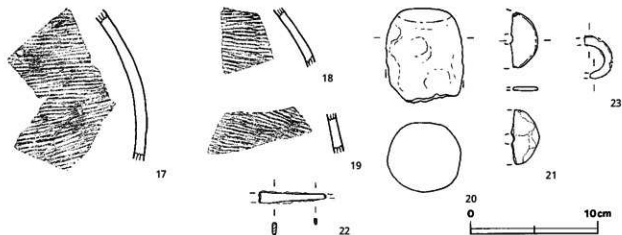
- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼
土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量</p> <p>2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼
土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子・微量</p> <p>3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂質少量、焼土中ブ
ロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化
粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子・微量</p> <p>4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少
量、ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブ
ロック・焼土粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子・
微量</p> <p>5 褐色 ローム粒子・白色粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土
中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒
子・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・鹿沼バミ
ス小ブロック・微量</p> | <p>6 暗褐色 白色粘土小ブロック・白色粘土粒子少量、ローム小ブ
ロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土
粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・白色粘土中ブロック微
量</p> <p>7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒
子・炭化物・炭化粒子微量</p> <p>8 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・
ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量</p> <p>9 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微
量</p> |
|--|--|

遺物 全体から土師器333点、須恵器107点、土製品1点、石製品1点、金属製品2点が出土している。うち土師器6点、須恵器13点、土製品1点(支脚)、石製品1点(紡錘車)、金属製品2点(刀子・不明鉄製品)を抽出・図示した。第106図1の土師器杯は、北壁中央部から西寄りの覆土上層から出土している。10の須恵器杯、18・19の須恵器甕片、21の紡錘車、22の刀子及び23の不明鉄製品は、ともに覆土から出土している。7の須恵器杯は竈左袖部筋、8の須恵器杯は中央部北寄り、13の須恵器蓋は西壁際中央、16の須恵器甕片は東壁中央部際の覆土中層からそれぞれ出土している。2の土師器甕は、P1北隣りや南壁中央部寄りなどの覆土下層から出土した破片が接合したものである。3～6の土師器甕は、それぞれ東壁中央部際、中央部南寄り、南東コーナー寄り、P3上の覆土下層から出土している。また、9の須恵器杯は、中央部南寄りの覆土下層から逆位の状態で出土している。14の須恵器蓋は、P4の西側の覆土下層から正位の状態で出土している。15の須恵器蓋は、P3の覆土から出土している。17の須恵器甕片は、P4と北壁間の覆土下層から出土している。11の須恵器杯は中央部北寄り、12の須恵器高台付杯はP1の東隣り、20の土製支脚片は南壁中央付近の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 106 图 第 65 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 107 図 第 65号住居跡出土遺物実測図(2)

第 65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 10 図 1	環	B 25	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母 にふい黄色，普通	P 3174 30%
	土	C 75				
	器					
2	環	A 234	体部から口縁部にかけての破片。体部上位に最大径を持つ。頸部は直立気味に立ち上がる。口縁部は外反し頸部は上方につまみ上げられている。	輪積み。口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 黄色 普通	P 3175 20% 体部内面に輪積み痕
	土	B 201				
3	環	A 256	頸部から口縁部にかけての破片。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 明赤褐色，普通	P 3176 9%
	土	B 47				
4	環	A 270	体部上部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部ヘラナデ。	礫・長石・石英・雲母 にふい黄色，普通	P 3177 9%
	土	B 56				
5	環	A 244	口縁部片。口縁部は外反し，端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 黄色，普通	P 3178 9%
	土	B 25				
6	環	B 85	底部から体部にかけての破片。体部は内傾気味に外傾しながら立ち上がる。	体部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 黒褐色，普通	P 3179 9%
	土	C 112				
	器					
7	環	A 130	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色，良好	P 3180 20% 口縁部及び体部外面自然釉
	須	B 45				
	恵	C 88				
8	環	A 135	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・赤色粒子 にふい黄色，普通	P 3181 19%
	須	B 39				
	恵	C 75				
9	環	B 28	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部外面横ナデ，底部周縁指頭ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母 灰白色，普通	P 3183 20%
	須	C 83				
10	環	B 26	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	礫・長石・雲母 灰白色 普通	P 3184 10% 外面剥離
	須	C 83				
	恵					
11	環	B 16	底部片。平底。	底部回転ヘラ切り後，周縁ナデ。	礫・長石・石英 灰黄色 普通	P 3188 29%
	須	C 86				
12	高台付環	A 162	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。高台貼り付け後，内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英 灰黄色 普通	P 3189 19% 体部外面自然釉
	須	B 59				
	恵	D 116				
	器	E 14				
13	蓋	A 126	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で，口縁端部は短く屈曲する。	口縁部及び外周部内・外面口クロナデ。天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物 褐色 良好	P 3190 19% 外面自然釉
	須	B 19				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 14	蓋 須恵器	A 16.8	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、口縁部は短く屈曲する。	口縁部及び外周部内、外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英にぶい黄褐色普通	P 3191 15%
		B 24				
15	蓋 須恵器	A 14.8	天井部片。天井部は伏せ皿状。	天井部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3192 30%
		B 17				
16	須恵器	B 8.8	体部片。	体部内面口ロナデ、外面縦位の平行叩き。	磯・長石・石英・雲母 灰白色、普通	TP3033 5%
第10図 17	須恵器	B 12.2	体部片。	体部内面口ロナデ、外面平行叩き。	磯・長石 灰白色 普通	TP3034 5%
18	須恵器	B 4.7	体部片。	体部内面指ナデ、外面平行叩き。	磯・長石・赤色粒子 黄灰色 普通	TP3035 5%
19	須恵器	B 3.3	体部片。	体部内面口ロナデ、外面平行叩き。	磯・長石・針状鉱物 褐灰色 普通	TP3036 5% 外面自然軸

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第10図 20	支脚	74	56	-	195.7	土製	円柱状を呈する。下部欠損。	DP3019

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	径 cm	厚さ cm	重量 g			
第10図 21	紡錘車	-	43	0.3	42	粘板岩	50%。薄い円盤状と思われる。孔径不明。	Q 3014 PL77

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第10図 22	刀子	53	0.9	0.2-0.4	40	鉄	刀部先端及び茎尻欠損。	M 3014
		34	2.2	0.5-0.6	54			

第66号住居跡（第108～110図）

位置 調査3区の南西部，G2g3区。

規模と平面形 南西部が調査区域外に延びている。長軸3.72m，短軸3.58mの隅丸方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は66～70cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈に相対する南壁下を巡っている。規模は、上幅16～20cm，下幅8～16cm，深さ8cmほどで、断面形はU字形である。第9層が壁溝の覆土である。

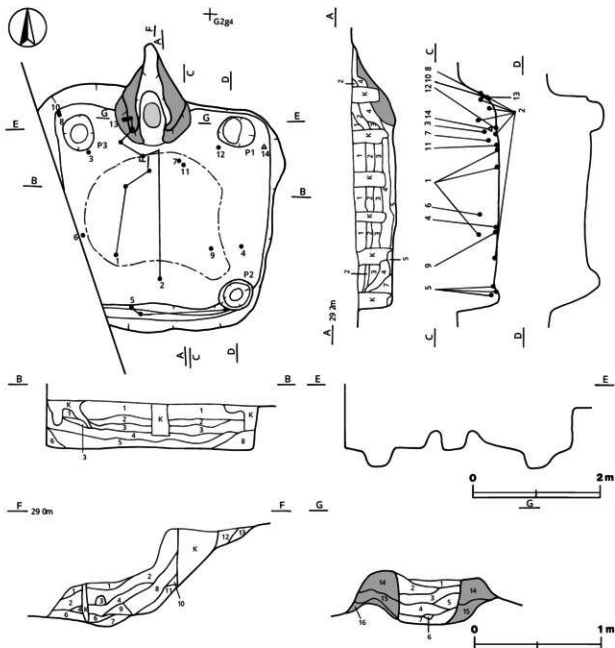
床 はほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

ピット 3か所（P1～P3）。P1は長径56～60cm，短径46～50cmの楕円形，深さ23～25cmである。南西部が調査区域外に延びるために3か所しか確認できなかったが，P1～P3は，各コーナー部寄りに位置することから支柱穴と思われる。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで164cm，最大幅120cm，壁外への掘り込みは78cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|-----------|---|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 10 にふい赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 11 にふい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・砂質粘土粒子少量 | 12 暗 褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土大ブロック少量 | 13 褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量、焼土中ブロック少量 |
| 6 黒 褐色 | 砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | 15 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量、砂質粘土大ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック少量 | 16 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック少量 |
| 8 にふい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 | | |
| 9 にふい赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化物・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量 | | |



第 108 図 第 66 号住居跡実測図

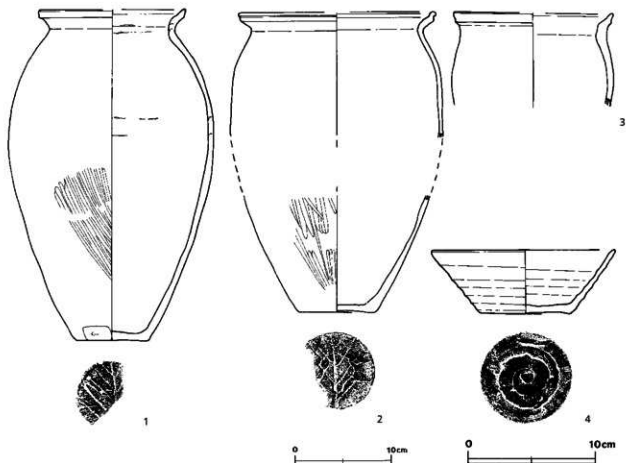
覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

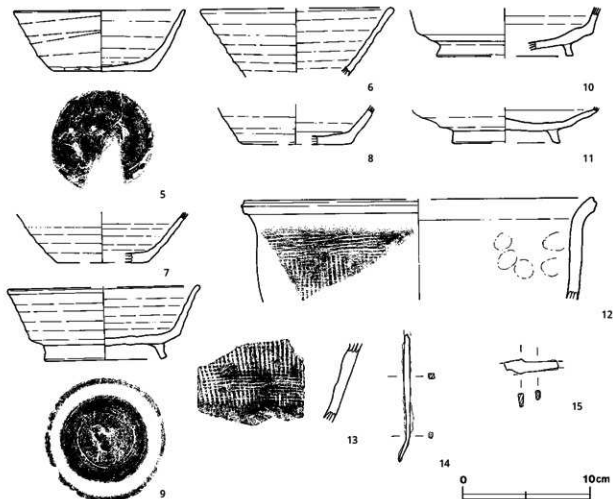
- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒 | 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒 | 6 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 竈周辺を中心に土師器片219点、須恵器片78点、金属製品2点が出土している。うち土師器3点、須恵器10点、金属製品2点（鉄釘・不明鉄製品）を抽出・図示した。第110図6の須恵器杯は、中央部西寄りの覆土上層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。3の土師器甕はP3の南、7の須恵器杯は竈の南、13の須恵器甕の体部片はP3東の覆土中層からそれぞれ出土している。4の須恵器杯は、P2北の東壁寄りの覆土下層からまとめて出土している。また、8の須恵器杯と10の須恵器高台付杯はともに北西コーナー際、9の須恵器高台付杯はP2の北側、12の須恵器甕片はP1の南、14の釘は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1・2の土師器甕は、ともに破片が中央部付近の覆土中層から床面にかけて出土している。11の須恵器盤は竈南の床面から、5の須恵器杯は南壁中央部の壁溝を中心にそれぞれ出土している。15の刀子は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第109図 第66号住居跡出土遺物実測図(1)



第 110 図 第 66号住居跡出土遺物実測図(2)

第 66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 10 図 1	甕 土 師 器	A 152	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面端位のヘラ磨き。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい褐色 普通	P 3194 40% PL57 体部内面ス入付着 内面輪組み痕
		B 347				
		C 76				
2	甕 土 師 器	A 202	底部片・体部片・口縁部片。平底。体部上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下頭端位のヘラ磨き。底部木葉痕。	長石・石英・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 3195 19% PL57
		B 253				
		C 80				
3	甕 土 師 器	A 126	体部から口縁部にかけての破片。体部上位に最大径を持つ。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・赤色粒子にぶい褐色、普通	P 3196 19%
		B 74				
4	坏 須 恵 器	A 144	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3197 90% PL57 体部外面自然釉
		B 51				
		C 69				
第 11 図 5	坏 須 恵 器	A 137	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。体部下頭一部手持ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3198 85% PL57
		B 48				
		C 70				
6	坏 須 恵 器	A 152	体部下半から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3199 33%
		B 53				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 7	坏須恵器	B 40 C 70	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 3200 10%
8	坏須恵器	B 32 C 88	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	磯・長石・石英・赤色粒子 浅黄色、普通	P 3201 10% 酸化焰焼成
9	高台付坏須恵器	A 152 B 58 D 94 E 13	高台部から口縁部にかけて一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3202 60% PL57
10	高台付坏須恵器	B 38 D 106 E 10	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰色、普通	P 3203 15%
11	盤須恵器	B 27 D 85 E 11	底部から体部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・赤色粒子 灰黄色、普通	P 3204 25% 内・外置黒色斑点
12	甕須恵器	A 278 B 80	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は直立気味に立ち上がる。口縁部は外反し、踵部は断面三角形を呈する。	口縁部内・外面口ロナデ。体部内面指頸圧痕、外面上部履位の平行叩き下部履位の平行叩き。	磯・長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 3205 15%
13	甕須恵器	B 62	体部片。	体部内面指頸圧痕、外面椀子目状叩き、下端ヘラ削り。	磯・長石・石英・雲母 にぶい褐色、普通	TP3037 5%

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第110図 14	釘	101	05	04	110	鉄	頸部及び脚部先端欠損。	M 3016
15	刀子	43	12	05	38	鉄	刃部の大部分及び茎欠損。	M 3017

第67号住居跡（第111～113図）

位置 調査3区の南西部、G2e5区。

重複関係 第65号住居跡の北西部を、第71号住居跡の北東コーナー部を、それぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 耕作による擾乱が激しいために西壁及び南壁は確認できなかったが、長軸3.32m、短軸3.04mの、隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-61°-Eと推定される。

壁 残存する壁高は32～38cmで、ほぼ直立する。

床 第65・71号住居跡と重複する部分は、第65・71号住居跡の掘り込みより浅く、ローム土でやわらかな床が貼られ、ほぼ平坦である。竈の西側に踏み固められた部分が認められる。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径22cmの楕円形、深さ12cmである。竈に相対する西端の中央から南寄りに位置しているので、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 耕作による擾乱により袖部等の確認はできなかったので、規模は不明である。東壁中央付近に床面レベルより若干皿状にくぼんで赤変した部分が確認され、粘土粒子と砂粒が周りに見られることから火床面と考えた。規模は長径44cm、短径28cmの楕円形で、やや硬化している。

覆土 5層からなる。耕作による擾乱部分を除くとレンズ状に堆積しているが、覆土の含有物及び色調が似ていることから短時間に埋まったものと考えられるので、人為堆積と思われる。

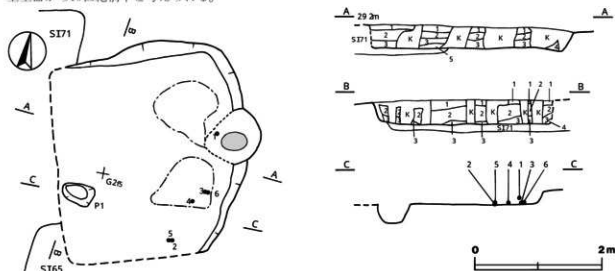
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

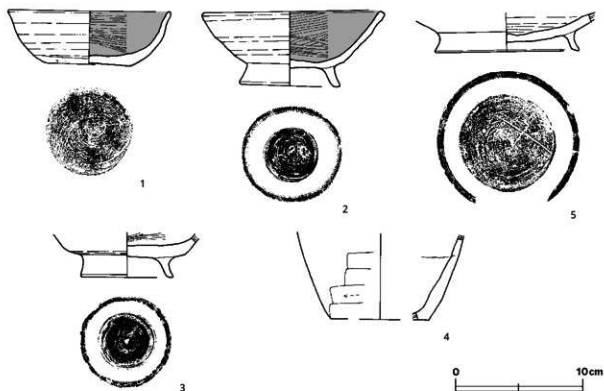
- | | | | |
|-------|--|-------|--------------------------------|
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化材・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量・炭化粒子微量 |
| | | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 南部を中心に土師器67点、須恵器18点、金属製品1点が出土している。うち土師器4点、須恵器2点、金属製品1点（不明鉄製品）を抽出・図示した。第112図3の土師器高台付杯、4の土師器小形壺、6の須恵器櫃はともに竈南の東壁寄りの覆土下層から床面にかけて数片ずつ出土している。2の土師器高台付杯と5の須恵器盤は、南壁際中央部の床面から一緒に出土している。また、7の鉄製品も東壁中央よりの床面から出土している。1の土師器杯は、竈の火床部から正位の状態出土している。

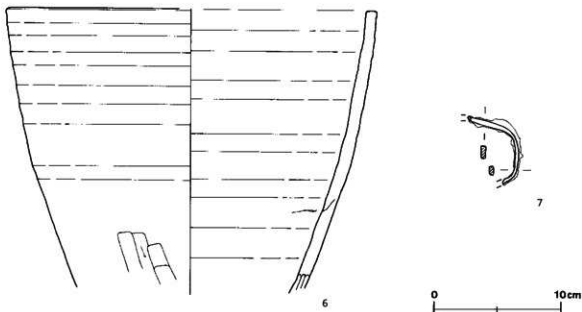
所見 5の須恵器盤と6の須恵器櫃は、重複している住居からの混入と思われる。時期は、遺構の形態及び出土土器から10世紀前半と考えられる。



第111図 第67号住居跡実測図



第112図 第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第 113 図 第 67号住居跡出土遺物実測図(2)

第 67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 113 図 1	土 師 器	A 130	口縁部一部欠損。平底。体部は内 脣しなげら立ち上がり、口縁部に 至る。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き外面 横ナデ。体部下端手持ちへラ削り。 底部回転へラ切り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲 母 にぶい褐色、普通	P 3206 95% PL57 口縁部及び体部外面 一部スス付着
		B 43				
		C 68				
2	高台付 坏 土 師 器	A 141	体部一部欠損。高台は八の字状に 開く。体部は直線的に外傾して立 ち上がる。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。底部回転へラ切り後、 高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針 状鉱物・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 3207 95% PL57
		B 61				
		D 79				
		E 17				
3	高台付 坏 土 師 器	B 34	高台部から体部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は直 線的に立ち上がる。	体部及び底部内面へラ磨き。体部 外面横ナデ。高台部内・外面ナデ。	長石・雲母・赤色粒 子 にぶい褐色、普通	P 3208 45%
		D 70				
		E 17				
4	小 形 甕 土 師 器	B 68	高台部から体部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	輪積み後、体部外面横位のへラ削 り。	磯・長石・雲母 灰白色 普通	P 3209 5%
		C 78				
5	盤 須 恵 器	B 30	底部から体部にかけての破片。平 底。高台は八の字状に開く。体部 は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転へラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針 状鉱物・赤色粒子 灰黄褐色、普通	P 3210 50% 底部へラ記号
		D 112				
		E 16				
第 113 図 6	甕 須 恵 器	A 296	体部下端から口縁部にかけての破 片。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	輪積み後、口縁部及び体部内・外 面口ロナデ。体部下端へラ削り。	磯・長石・石英・針 状鉱物・雲母 にぶい褐色、普通	P 3211 20%
		B 223				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 113 図 7	不 明	54	42	03	142	鉄	U字状に屈曲。	M 3076

第68号住居跡(第114・115図)

位置 調査3区の東部、G3b3区。

規模と平面形 長軸3.72m, 短軸3.64mの方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は20~24cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。耕作による攪乱が多いため、踏み固められた面は部分的にしか認

められない。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径34cmの円形、深さ20cm、P2は長径60cm、短径50cmの楕円形、深さ15cmである。P1は南東コーナー部、P2は北西コーナー部に位置しているので支柱穴の一部とも考えられるが、深さが浅く、また攪乱が多いため残り2か所が確認できなかったのも、性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており、袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで118cm、最大幅108cm、壁外への掘り込みは46cmである。火床面は床面とはほぼ同レベルで、浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化はしていない。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

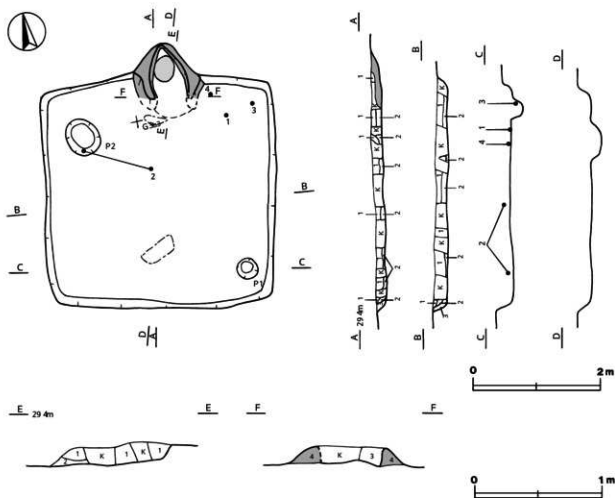
竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|--------|---|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積しているが、各層の含有物及び色調が似ていることから短時間に埋まったものと考えられるので、人為堆積と思われる。

土層解説

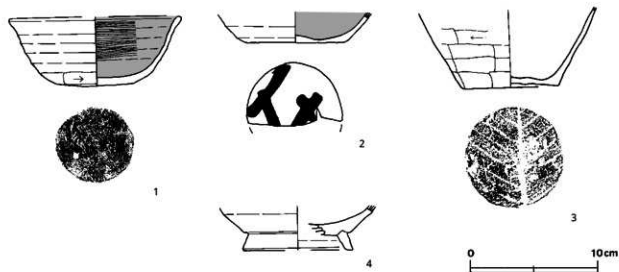
- | | | | |
|------|--|------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック・炭化物微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第114図 第68号住居跡実測図

遺物 北部を中心に土師器片75点、須恵器片22点が出土しているが、細片が多い。うち土師器3点、須恵器1点を抽出・図示した。第115図2の土師器環は墨書土器で、中央部の覆土中層、P2上の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1の土師器環は甕右袖部と北東コーナーの中間付近から正位の状態で、3の底部から体部にかけての土師器甕片は北東コーナー部、4の須恵器高台付環は北壁寄りの甕右袖部際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第115図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	土師器 環	A 134	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	体部内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、ヘラナデ。周縁手持ちへラ削り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母 橙色、普通	P 3212 60% PL57
		B 54				
		C 60				
2	土師器 環	B 23	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、ヘラナデ。周縁回転へラ削り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲母 橙色、普通	P 3213 20% PL70 底部墨書「在」
		C 76				
3	甕 土師器	B 60	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面へラ削り。底部内面指弾ナデ、底部木葉痕。	長石・雲母・赤色粒子に多い赤褐色、普通	P 3214 10%
		C 75				
4	高台付環 須恵器	B 34	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・雲母 暗灰黄色 普通	P 3215 5%
		D 84				
		E 14				

第69号住居跡（第116～118図）

位置 調査3区の北部、F2g9区。

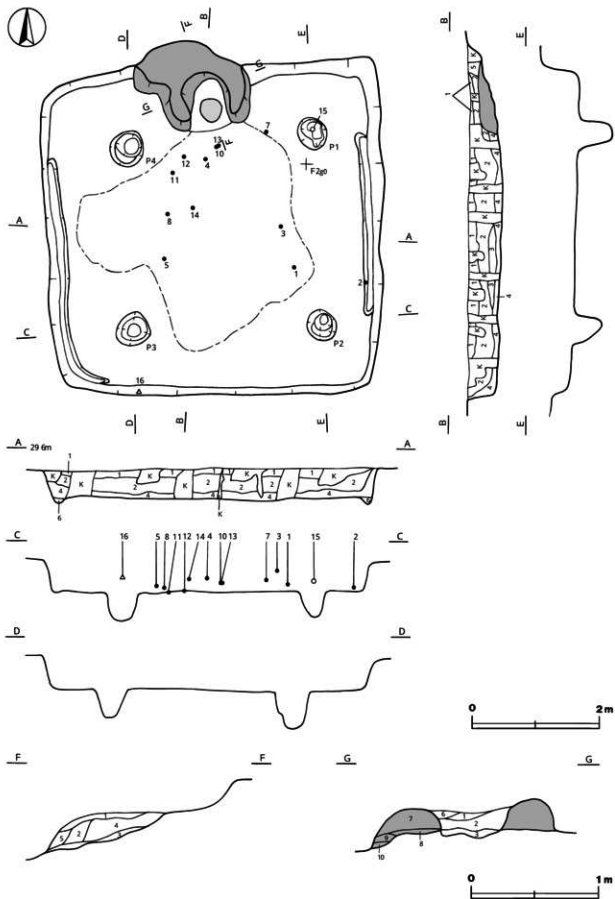
規模と平面形 長軸5.30m、短軸5.12mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は12～20cmで、ほぼ直立する。

壁溝 東西の壁下を巡っている。規模は、上幅12～20cm、下幅8～12cm、深さ6～12cmで、断面形はU字形である。土層図面中の第6層が壁溝の覆土である。

床 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。南壁中央部付近から甕にかけての中央部が踏み固められている。



第 116 图 第 69 号住居跡实测图

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は長径50~56cm, 短径44~52cmの楕円形, 深さ41~56cmである。各コーナー寄りに位置することや規模から主柱穴と思われる。

竈 北壁中央部に付設されており, 天井部は崩落しているが, 袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで134cm, 最大幅138cm, 壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面とはほぼ同じレベルで, 浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道の平面形は逆U字形で, 外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|--|----------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂質粘土大ブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量 | 7 にぶい褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土大ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・砂質粘土粒子・焼土粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量, 炭化物微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

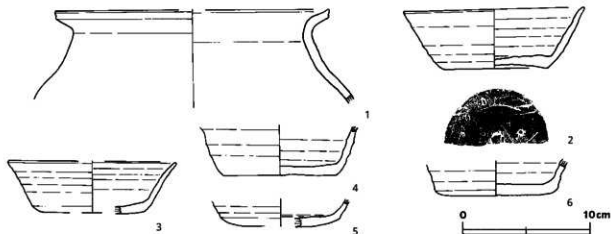
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

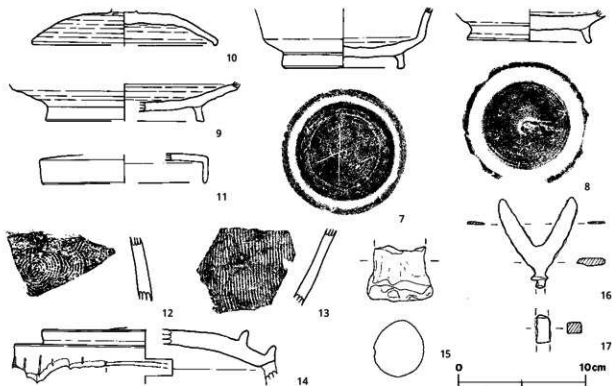
- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・炭化材・炭化物少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 全体から土師器片318点, 須恵器片89点, 土製品1点, 金属製品2点が出土している。うち土師器1点, 須恵器13点, 土製品1点(支脚), 金属製品2点(鉄鎌・不明鉄製品)を抽出・図示した。第117図6の須恵器杯, 9の須恵器盤, 17の不明鉄製品は覆土から出土している。また14の円面鏡は中央部, 16の鉄鎌は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。2の須恵器杯は東壁際の南部, 4の須恵器杯・10・11の須恵器蓋及び12の須恵器甕片, 13の須恵器甕片はともに竈の南, 5の須恵器杯は中央部西寄り, 15の土製支脚片は北東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。1の土師器甕はP2の北部, 8の須恵器高台付杯は中央部西寄りの床面から出土している。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第117図 第69号住居跡出土遺物実測図(1)



第 118 図 第 69 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 69 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 11 図 1	須恵器 土器	A 216	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部はくの字状に外反し、頸部は外上方につきまみ上げられている。	口縁部及び体部外面・外面横ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子に多い褐色普通	P 3216 9%
		B 75				
2	環 須恵器	A 142	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	体部内・外面口ロクナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色、普通	P 3217 40% 底部ヘラ記号
		B 47				
		C 82				
3	環 須恵器	A 132	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	体部内・外面口ロクナデ。底部回転ヘラ切り後、底部両縁ヘラナデ。	礫・長石・針状鉱物 緑灰色、普通	P 3218 20%
		B 41				
		C 80				
4	環 須恵器	B 37	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロクナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3219 19%
		C 88				
5	環 須恵器	B 22	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口ロクナデ。底部回転ヘラ切り。底部両縁ナデ。	礫・長石・雲母 灰黄色普通	P 3220 10%
		C 56				
6	環 須恵器	B 28	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口ロクナデ。底部外面回転ヘラ削り。	礫・長石・石英 暗青灰色普通	P 3221 10%
		C 98				
第 118 図 7	高台付環 須恵器	B 46	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。	口縁部及び体部内・外面口ロクナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。高台貼り付け。	礫・長石・石英 灰オリーブ色普通	P 3222 50% 底部ヘラ記号
		D 92				
		E 13				
8	高台付環 須恵器	B 25	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ切り後、ナデ。高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3223 49%
		D 100				
		E 13				
9	盤 須恵器	B 30	底部から体部にかけての破片。平底。高台はハの字に開く。体部はゆるやかに外傾しながら開く。	体部内・外面口ロクナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3224 29%
		D 126				
		E 12				
10	蓋 須恵器	A 146	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は笠状で、頸部は短く折り返されている。	口縁部及び外周部内・外面口ロクナデ。天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3225 49%
		B 27				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 11	蓋 須恵器	A 130 B 23	口縁部から天井部にかけての破片。天井部はややくらみを持つ。口縁部は屈曲し、端部は垂下する。	口縁部内・外面口ロナズ。	礫・長石・石英・赤色粒子 灰色、普通	P 3226 15% 天井部外面自然釉
12	甕 須恵器	B 50	体部片。	体部外面同心円叩き。	長石・雲母 灰白色 普通	TP3038 9%
13	甕 須恵器	B 64	体部片。	体部外面縦位の平行叩き。	礫・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP3039 9%
14	円蓋 須恵器	A 209 B 44	破部から脚台部上部にかけての破片。外側にU字形の溝を巡らし、内側に中央部が高まる陸を持つ。脚台部は外反しながら下降する。	破部と海部の外周にそれぞれ陸帯を貼り付け。脚台部はへら切りによる透かし孔と透かし孔間に凹線彫文。	礫・長石・石英 灰白色 良好	P 3227 25% PL57 破部内面自然釉

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第118図 15	支脚	44	53	-	1095	土製	上部欠損。火熱により一部赤化。	DP3020

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第118図 16	鉄 罎	72	63	02~07	229	鉄	Y字状を呈する履版蝕。	M 3018 PL79
17	不明	19	11	09	60	鉄	断面が長方形。	M 3019

第71号住居跡（第119・120図）

位置 調査3区の南西部，G2e4区。

重複関係 本跡南東コーナー部が第65号住居跡を掘り込み、北東コーナー付近を第67号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.52m、短軸3.76mの長方形である。

主軸方向 N-35°-E

壁 壁高は42~52cmで、ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は、上幅18~20cm、下幅6~10cm、深さ6~14cmで、断面形はU字形である。第6層が壁溝の覆土である。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径22cmの楕円形、深さ12cmで、周りが踏み固められていることや位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。南端部から竈にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落している。袖部は、耕作による攪乱が激しいが一部遺存しており、粘土と砂粒、ローム土を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで117cm、最大幅117cm、壁外への掘り込みは31cmである。火床面は床面を8cmほど掘くぼめており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部はゆるやかに外傾して立ち上がる。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|---|----------|--|
| 1 灰 赤色 | 焼土粒子・小砂少量 | 6 暗 赤 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂粒多量 | 7 褐色 | ローム粒子・砂粒多量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 赤 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子多量、焼土小ブロック少量 | | |
| 4 灰 赤色 | 砂質粘土小ブロック少量、焼土粒子少量 | | |
| 5 暗 赤 褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂粒多量、焼土粒子中量、砂質粘土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物少量 | | |

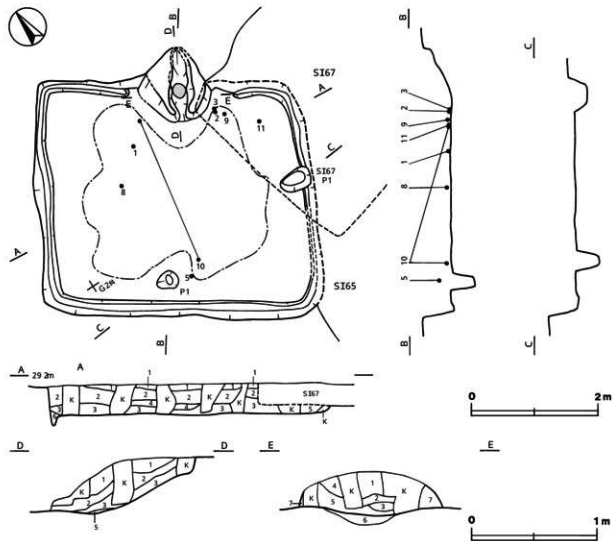
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

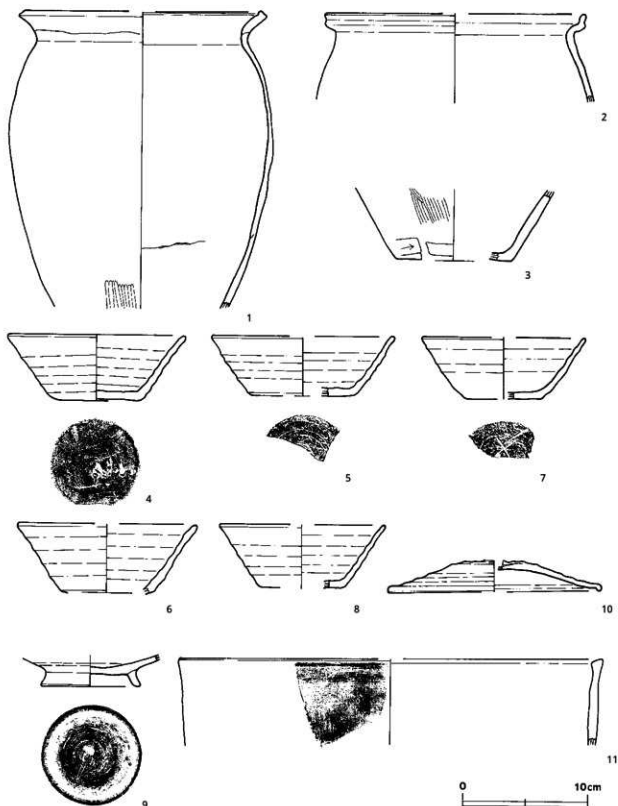
- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・砂質粘土小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化材・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 竈周辺を中心に土師器片71点、須恵器片25点が出土している。うち土師器3点、須恵器8点を抽出・図示した。第120図4・7の須恵器杯は、ともに覆土から出土している。5の須恵器杯はP1の東、8の須恵器杯は中央部の覆土中層から出土している。10の須恵器蓋は、P1及び竈左袖部周辺の覆土中層から床面にかけて出土している。9の高台付杯は竈右袖部際、11の須恵器甌は北東コーナー近くのそれぞれ床面から出土している。3の土師器甕、6の須恵器杯は竈の覆土から出土している。1・2の土師器甕は、それぞれ竈の左袖部中、右袖部中から出土しており、補強材と思われる。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第119図 第7号住居跡実測図



第 120 図 第 71号住居跡出土遺物実測図

第 71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 120 図 1	甕 土 器	A 188 B 236	体部から口縁部にかけての破片。 体部上位に最大径を持つ。口縁部 はくの字状に外反し、端部はつま み上げられている。	輪轆み後、口縁部及び体部内・外 面横ナズ。体部外面下端へラ磨き。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 3228 30% PL57 電鍍強化材

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 2	甕 土師器	A 208	口縁部片。口縁部はくの字状に外反し、踵部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色、普通	P 3229 5%
		B 69				
3	甕 土師器	B 56	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面ヘラ磨き、下端横位のヘラ削り。	磯・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3230 5%
		C 93				
4	坏 須恵器	A 142	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3231 60% PL57
		B 52				
		C 70				
5	坏 須恵器	A 143	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3232 15%
		B 47				
		D 80				
6	坏 須恵器	A 143	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 に灰黄褐色、普通	P 3233 10%
		B 54				
		C 74				
7	坏 須恵器	A 130	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部外至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部外面回転ヘラ削り。	磯・長石・石英 赤褐色 普通	P 3234 10% 底部ヘラ記号
		B 49				
		C 69				
8	坏 須恵器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・針状鉱物 に灰赤褐色 普通	P 3235 10%
		B 50				
		C 67				
9	高台付坏 須恵器	D 25	高台部から体部にかけての破片。高台はJの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰褐色、普通	P 3236 40% 底部ヘラ記号
		E 11				
		E 11				
10	蓋 須恵器	A 170	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は笠状で、踵部は短く折り返されている。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英・針状鉱物 暗灰黄色、普通	P 3237 10%
		B 25				
11	甕 須恵器	A 338	口縁部片。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面口ロナデ。体部外面平行叩き。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 3238 5%
		B 168				

第72号住居跡（第121～123図）

位置 調査3区の北部、F2h8区。

規模と平面形 長軸4.22m、短軸3.82mの長方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は40～54cmで、ほぼ直立する。

壁溝 東西の壁下を巡っている。規模は、上幅14～26cm、下幅8～16cm、深さ6～12cmで、断面形はU字形である。第7層が、壁溝の覆土である。

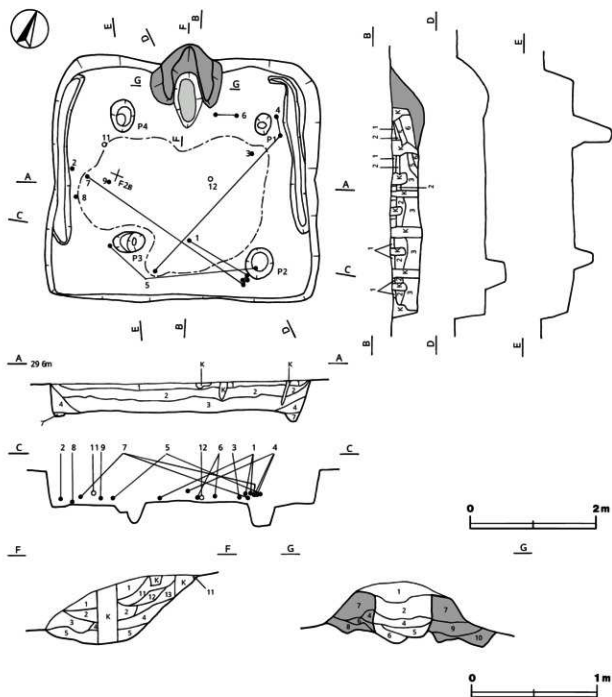
床 ほぼ平坦である。南壁中央から竈にかけての中央部を中心に踏み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P2は径46cmの円形、深さ38cm、P1・P3・P4は長径32～50cm、短径26～38cmの楕円形、深さ38～63cmである。4か所とも各コーナー部寄りに位置していることから支柱穴と思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、袖部は遺存している。第2・3層は焼土類を含むとともに、砂質粘土粒子を多く含んでいることから天井部の崩落層と思われる。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで134cm、最大幅112cm、壁外への掘り込みは30cmである。火床面は床面を20cmほど掘りくぼめている。形状は長楕円形で皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

甍土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|--|
| 1 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・砂質粘土中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム小ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | 砂質粘土中ブロック多量、砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、硬炭量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量 | 12 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、砂質粘土小ブロック微量 |
| 7 褐色 | 砂質粘土大ブロック多量、砂質粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量 | | |



第 121 図 第 72 号住居跡実測図

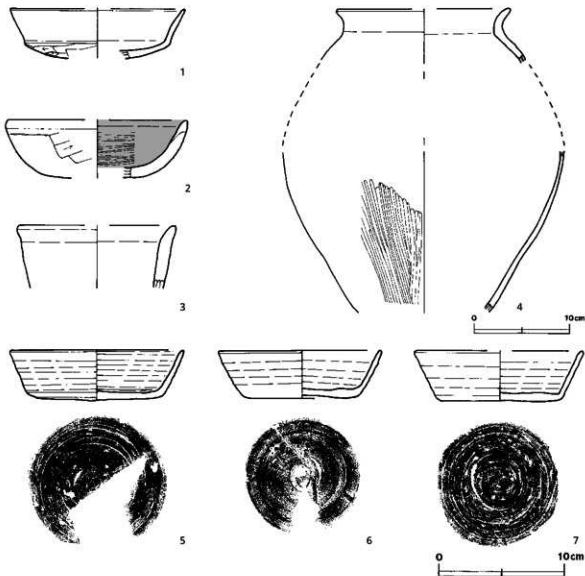
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

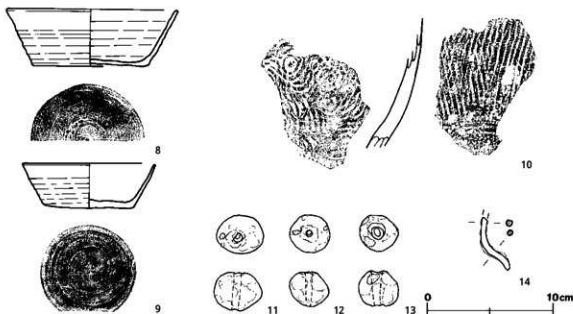
- | | | | |
|--------|---|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土小ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 全体から土師器片178点、須恵器片25点、土製品3点、金属製品1点が出土している。うち土師器4点、須恵器6点、土製品3点（土玉）、金属製品1点（不明鉄製品）を抽出・図示した。第123図10の須恵器残片、13の土玉、14の不明鉄製品は覆土から出土している。1の土師器杯は、P2から南壁中央部間の覆土下層から出土している。2の土師器杯は西壁際中央部、5の須恵器杯はP3及びP2付近、6の須恵器杯はP1の西側、7の須恵器杯はP2の南及び西壁際中央部、8の須恵器杯は西壁際中央部、9の須恵器杯は中央部西寄り、11の土玉はP4南のそれぞれ覆土下層から出土している。4の土師器残片は、南壁中央部寄りの覆土下層及びP1の東側の床面から出土した破片が接合したものである。12の土玉は、中央部の床面から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第122図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第 123 図 第 72 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 72 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 12 図 1	坏 土 器	A 140 B 39	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 底部ヘラ削り。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にふいじ褐色、普通	P 3239 29% PL57
2	坏 土 器	A 141 B 46	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内傾して立ち上がり、 口縁部との境に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ヘラ磨き、外面ヘラ削り。内面黒 色処理。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にふいじ褐色、普通	P 3240 15%
3	甕 土 器	A 124 B 50	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。口縁 部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ。	礫・長石・石英・雲 母 外赤褐色内黄色普通	P 3241 10% 外面二次焼成による 赤化及び器面剥離
4	甕 土 器	A 178 B 228	体部及び口縁部の破片。体部は外 傾して立ち上がる。口縁部は外反 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ、外面下半端位のヘラ磨き。 普通	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 3242 19%
5	坏 須 恵 器	A 138 B 40 C 100	底部から口縁部にかけて一部欠損。 平底。体部は直線的に外傾しなが ら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英 灰色 普通	P 3243 70% PL57
6	坏 須 恵 器	A 131 B 38 C 84	底部から口縁部にかけて一部欠損。 平底。体部は直線的に外傾しなが ら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ削り後、周縁回 転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 3244 40% PL57
7	坏 須 恵 器	A 134 B 40 C 96	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しなが ら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ削り後、周縁回 転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱 物 灰色、普通	P 3245 69%
第 12 図 8	坏 須 恵 器	A 135 B 45 C 90	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しなが ら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱 物 明オリブ灰色、普通	P 3246 50% PL57
9	坏 須 恵 器	A 107 B 37 C 59	底部から口縁部にかけて一部欠損。 平底で、肉厚。体部は外傾しなが ら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ削り後、周縁ヘ ラ削り。	長石・石英・針状鉱 物 灰黄色、良好	P 3247 79% 口縁部から底部に かけて内面自然釉
10	甕 須 恵 器	B 104	体部片。	体部内面同心円当て具痕、外面格 子目状印き。	長石・石英 灰白色 普通	TP3040 9%

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		径 cm	厚さ cm	孔径 cm	重量 g			
第 12 図 11	土 玉	38	31	0.5-0.6	32.6	土製	断面が算盤玉状	DP3021 PL76

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径 cm	厚さ cm	孔径 cm	重量 g			
第12図 12	土 玉	38	37	04-06	226	土製	断面が球状	DP3022 PL76
	土 玉	31	22	05-09	225	土製	断面が球状	DP3023 PL76

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第12図 14	不 明	42	04	04	38	鉄	断面が方形。L字状に屈曲。釘か。	M 3020

第73号住居跡（第124～126図）

位置 調査3区の南東部，G3d3区。

重複関係 北東コーナーから南西コーナーにかけて，第2号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.00m，短軸5.96mの方形である。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は14～26cmで，ほぼ直立する。

壁溝 東壁中央から南壁中央にかけての壁下を巡っている。規模は，上幅10～14cm，下幅6～10cm，深さ4～6cmで，断面形はU字形である。第5層が，壁溝の覆土である。

床 小さな凸凹はあるが，ほぼ平坦である。溝に掘り込まれている部分を除く，南壁から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P1は径52cmほどの円形，深さ66cm，P2・P4は長径60cm，短径54cmの楕円形，深さはそれぞれ42cm・51cmである。3か所とも各コーナーから内に2m前後入った位置にあることや規模から主柱穴と思われる。P3は長径46cm，短径36cmの楕円形，深さ18cmである。他の柱穴と比べて深さが浅いことや，並びがずれることから性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており，袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで140cm，最大幅110cm，壁外への掘り込みは60cmである。火床面は床面を20cmほど掘りくぼめている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

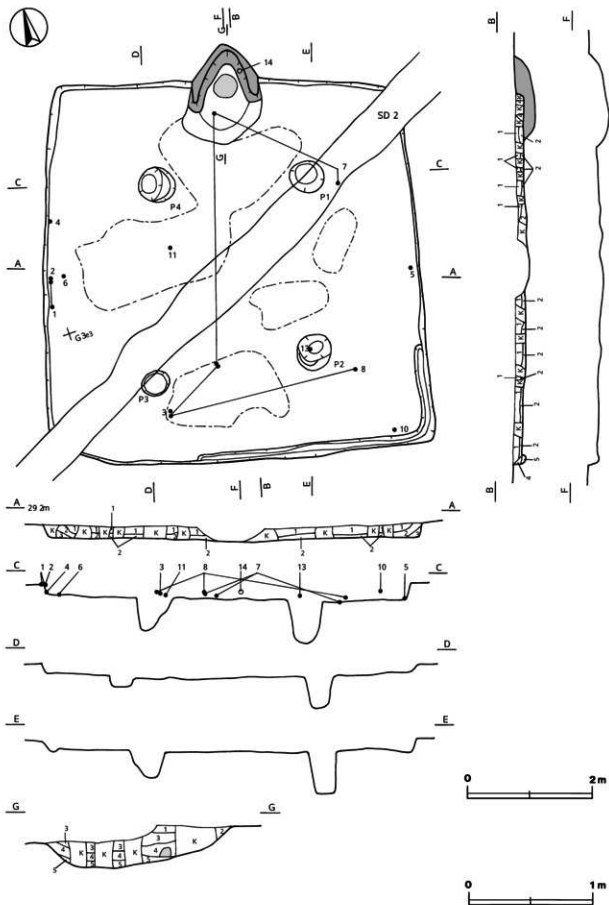
竈土層解説

- | | | | | | |
|---|------|---|---|------|---|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化物・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量，ローム小ブロック少量 | 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量 | 5 | 赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土大ブロック少量，ローム小ブロック少量 |
| 3 | 暗赤褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック少量 | | | |

覆土 4層からなる。各層の含有物が類似していること，遺物が中層から上層にかけて多く出土していることなどから人為堆積と思われる。

土層解説

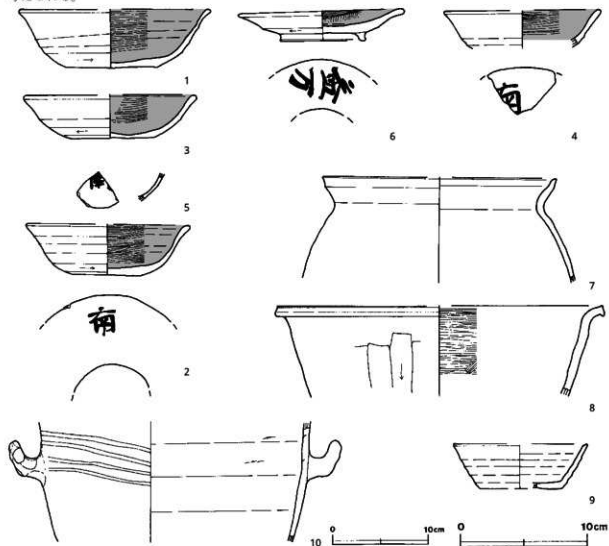
- | | | | | | |
|---|----|--|---|------|---|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・炭質バミス粒子少量 | 3 | 褐色 | ローム大ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子・炭質バミス粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭質バミス粒子少量 | 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂質白色粘土粒子・砂少量 |
| | | | 5 | 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子多量 |



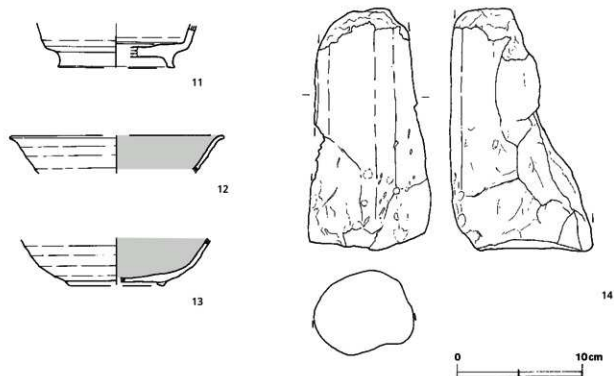
第 124 图 第 7 号住居跡実測图

遺物 溝に掘り込まれている北東コーナーから南西コーナーにかけてを除いた部分から土師器片211点、須恵器片84点、灰軸陶器2点、土製品1点が出土している。うち土師器片8点、須恵器片3点、灰軸陶器2点、土製品1点(支脚)を抽出・図示した。第125図9の須恵器杯は、覆土上層から出土している。10の須恵器甕は、南東コーナー部の覆土上層から逆位の状態で出土している。7の土師器甕は破片がそれぞれ中央部南寄りの覆土上層、P1東の覆土下層、甕の覆土から出土した破片が接合したものである。8の土師器甕も破片がそれぞれ中央部の南寄りの覆土上層、P3の南の覆土中層、P2の東の覆土下層から出土した破片が接合したものである。12の灰軸陶器碗の口縁部片は覆土上層、13の灰軸陶器碗の底部から体部片はP2上の覆土中層からそれぞれ出土している。12と13の灰軸陶器は、胎土や施釉の状況から同一個体と思われる。1・2・4の土師器杯は西壁際中央部付近、3土師器杯はP3の南東の覆土中層からそれぞれ出土している。5の土師器杯は東壁際中央部、6の土師器高台付皿は西壁際中央部、11の須恵器高台付杯はP4の南の覆土下層からそれぞれ出土している。6の土師器高台付皿は二つに割れて逆位の状態で出土し、「益万」と墨書されている。14の支脚片は、甕の火床面付近から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。また、「益万」のほかに「南」と墨書された土器片3点と、角高台を持つ灰軸陶器片が出土していること等から、村落の中心的な性格を持つ住居と考えられる。



第125図 第73号住居跡出土遺物実測図(1)



第 126 図 第 73 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 73 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 12 図 1	坏 土 師 器	A 151	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。口縁部はやや外反す る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ、下端回転へラ削り。底 部回転へラ切り後、へラ削り。内 面黒色処理。	長石・石英・針状鉱 物・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 3248 40%
		B 47				
		C 74				
2	坏 土 師 器	A 130	底部から口縁部にかけて一部欠損。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端及び底部周縁 回転へラ削り。底部回転へラ切り。 内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱 物・雲母・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P 3249 60% PL57 74 体部外面墨書正位 「南」
		B 40				
		C 54				
3	坏 土 師 器	A 137	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端及び底部周縁 回転へラ削り。底部回転へラ切り。 内面黒色処理。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 灰黄褐色 普通	P 3250 19%
		B 35				
		C 62				
4	坏 土 師 器	A 124	口縁部片。体部は外傾して立ち上 がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱 物・雲母 にぶい黄褐色、普通	P 3251 5% PL74 体部外面墨書正位 「南」
		B 30				
5	坏 土 師 器	B 22	体部片。体部は外傾して立ち上 がる。	体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	礫・長石・雲母 褐色 普通	P 3252 5% PL74 体部外面墨書正位 「南」
6	高台付皿 土 師 器	A 129	体部及び口縁部一部欠損。平底。 体部はわずかに内彎して口縁部に 至る。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ、下端回転へラ削り。底 部外面回転へラ切り後、高台貼り 付け。内面黒色処理。	礫・長石・石英・針 状鉱物・雲母 にぶい赤褐色 良好	P 3253 79% PL57 69 体部外面墨書横位 「益万」
		B 25				
		D 64				
		E 07				
7	甕 土 師 器	A 186	体部から口縁部にかけての破片。 頸部はく字状に屈曲し口縁端部 は外上方つまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P 3254 5%
		B 83				
8	甕 土 師 器	A 260	体部上半から口縁部にかけての破 片。口縁部は強く外反し、頸部は 下方つまみ出されている。	口縁部及び体部内面へラ磨き。体 部外面横位のへラ削り。	長石・石英・針状鉱 物 淡黄色、普通	P 3255 5%
		B 72				
9	坏 須 恵 器	A 106	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立 ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロクナ デ。底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3256 10%
		B 36				
		C 66				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128回 10	須恵器	B 126	体部片。体部は内覆装束に外傾する。L字状の把手が付く。	輪積み後、体部内・外面口ロナデ。沈線施文後、把手貼り付け。	緑・長石・針状鉱物 雲母・赤色粒子 丹灰白色内灰、普通	P 3258 10% 体部内面輪積み痕
第128回 11	高台付灰輪陶器	B 35 D 92 E 12	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	緑・長石・石英 補灰色 普通	P 3257 25%
12	高台付灰輪陶器	A 169 B 29	口縁部片。口縁部は弱く外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。内面施釉。	長石・石英 外灰白色内灰オリーブ色、良好	P 3259 5% P 3288と同一個体 黒痣 14時窯式段階
13	高台付灰輪陶器	B 36 D 75 E 04	高台部から体部にかけての破片。断面逆台形状の高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面施釉。	長石・石英 外灰白色内灰オリーブ色、良好	P 3288 10% P 3259と同一個体 黒痣 14時窯式段階

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第128回 14	支脚	193	98	-	1029	土製	一部面取りがされ、角張る。先端一部欠損。	DP3024 PL76

第74号住居跡（第127・128回）

位置 調査3区の南西部，G2h4区。

重複関係 北東コーナー部から南西にかけて第2号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 南北4.60mで、西側が調査区域外に延びるため確認できた東西は3.84mである。平面形は方形もしくは長方形と推定される。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は38～44cmで、ほぼ直立する。

床 確認面から50cm前後掘り込んだ後、ロームや焼土等を10cmほど（第6・7層）埋めて作られたほぼ平坦な貼床である。東側にゆるやかな傾斜を持ち、踏み固められた部分は認められない。

ピット 4か所（P1～P4）。P1・P2は長径65cm、短径54cmの楕円形で、深さはそれぞれ54cm、72cmである。両者は南北のコーナー寄りにあることや、2か所を結んだ線が東壁と平行になることから主柱穴と思われる。P3は長径40cm、短径30cmの楕円形、深さ38cm、P4は長径40cm、短径40cmの楕円形、深さ74cmで、竈両脇の北壁際にあり、ともに北部がオーバーハングしている。補助柱穴等と考えられるが、性格は不明である。竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、袖部は遺存している。第4・5層の含有物に砂質粘土粒子が見られることから天井部の崩落層と思われる。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで114cm、最大幅144cm、壁外への掘り込みは22cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

電土層解説

1 暗褐色	砂質粘土中ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子・砂質粘土ブロック少量
2 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量	7 暗赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量	8 暗褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量、焼土粒子少量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量	9 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子多量、砂質粘土中ブロック中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量	10 暗赤褐色	砂質粘土粒子・練少量

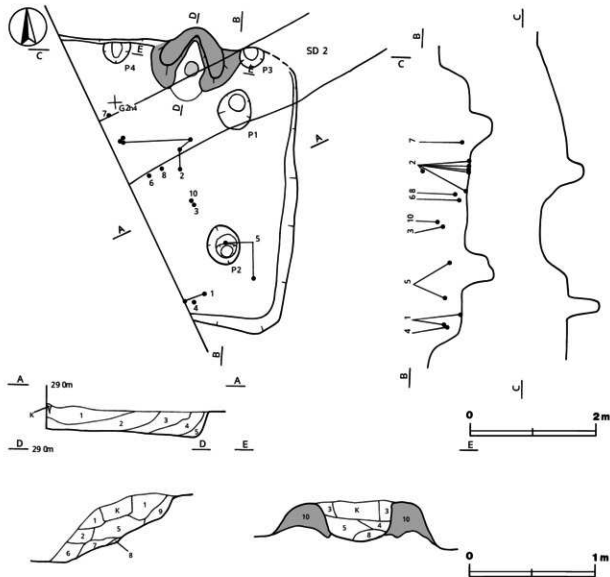
覆土 5層からなる。第1～5層はレンズ状に堆積しているが、含有物が類似していることから短時間に埋め戻されたと思われる。

土層解説

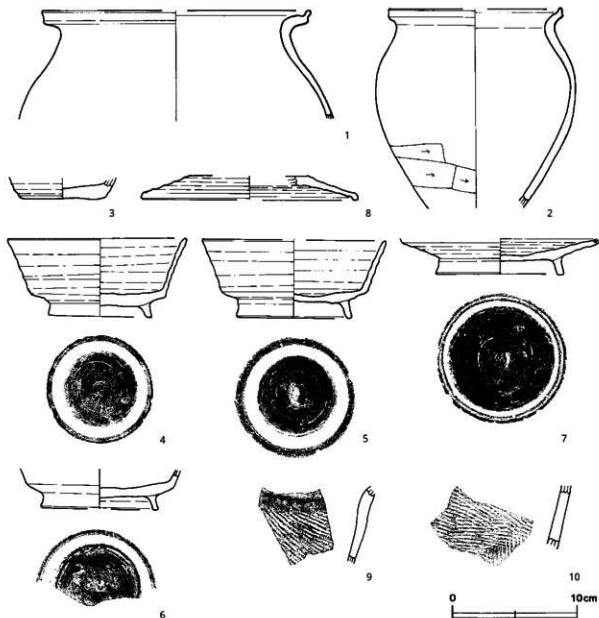
- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 全体から土師器片17点、須恵器片52点が出土している。うち土師器片2点、須恵器片8点を抽出・図示した。第128図9の須恵器甕片は、覆土上層から出土している。3の須恵器杯と10の須恵器甕片は、ともに中央部の覆土中層から出土している。5の須恵器高台付杯は、南東コーナー部の覆土中層及びP2上の覆土下層から出土したものが接合したものである。4の須恵器高台付杯は、南壁際の覆土下層から出土している。1の土師器甕は、南壁南寄りの覆土下層及び床面から出土している。2の土師器甕は竈の南側付近、8の須恵器蓋は中央部の床面からそれぞれ出土している。6の須恵器高台付杯、7の須恵器盤は、中央部西寄りの床面から逆位の状態では出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第127図 第74号住居跡実測図



第 128 図 第 74 号住居跡出土遺物実測図

第 74 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 128 図 1	甕 土器	A 214	体部から口縁部にかけての破片。胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 橙色、普通	P 3260 10%
		B 86				
2	甕 土器	A 138	体部から口縁部にかけての破片。胴部はくの字状に屈曲し、口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面下半横位のヘラ削り。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい赤褐色、普通	P 3261 20%
		B 156				
3	坏 須恵器	B 17	底破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り。	礫・長石・針状鉱物 浅黄色 普通	P 3262 10%
		C 59				
4	高台付坏 須恵器	A 142	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3263 100% PL57 底部墨書「J」 ヘラ記号
		B 63				
		D 84				
		E 12				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 5	高台付環須恵器	A 146	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3264 60%
		B 62				
		D 90				
		E 15				
6	高台付環須恵器	B 32	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3265 25%
		D 90				
		E 12				
7	盤須恵器	B 28	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰オリブ色、普通	P 3266 50%
		D 102				
		E 13				
8	蓋須恵器	A 170	口縁部から天井部にかけての破片。口縁部は屈曲する。	口縁部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P 3267 15%
		B 19				
9	甕須恵器	B 61	体部片。	体部内面口ロナデ，外面斜位の平行叩き。	磯・長石・石英 に深い褐色 普通	TP3041 5% 外面自然釉
10	甕須恵器	B 49	体部片。	体部内面口ロナデ，外面平行叩き。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	TP3042 5% 内・外面黒色斑点

第75号住居跡（第129～132図）

位置 調査3区の北部，F2d7区。

規模と平面形 長軸4.96m，短軸4.68mの方形である。

主軸方向 N-26°-E

壁 壁高は48～54cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈部分を除き，壁下を巡っている。規模は，上幅16～14cm，下幅6～14cm，深さ4cmほどで，断面形はU字形である。

床 小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。南壁中央から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P3は径38～64cmの円形，深さ56～69cm，P4は長径56cm，短径50cmの楕円形，深さ55cmである。規模やコーナー寄りに位置していることから主柱穴と思われる。P5は長径34cm，短径30cmの楕円形，深さ21cmである。竈と向かい合う南壁の中央部付近に位置するので，出入口施設に伴うピットと思われる。P6は径40cmほどの円形，深さ62cmで，P1の北側に接している。P1以外は2か所の柱穴を持たないので，建て替えは考えられないことから性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており，袖部が遺存している。第4層は焼土を多く含んでいるので，天井部の崩落層と思われる。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで140cm，最大幅146cm，壁外への掘り込みは42cmである。火床面は床面とほぼ同じレベルで，浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

甕土層解説

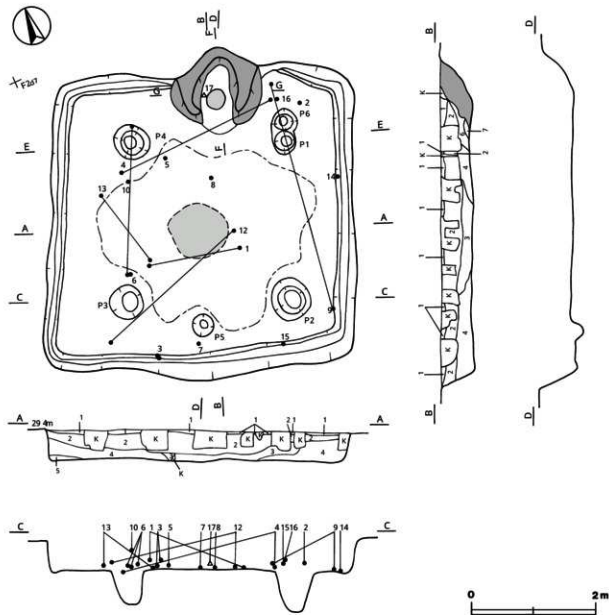
- | | | | |
|--------|---|---------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，礫少量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物少量 | 7 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物少量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，砂質粘土中ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土大ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |
| | | 11 暗褐色 | 砂質粘土中ブロック多量，砂質粘土粒子中量 |

- | | | | |
|---------|--|---------|---|
| 12 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、砂質粘土中ブロック少量 | 17 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子中量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量 |
| 13 暗赤褐色 | 砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 | 18 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土大ブロック微量 |
| 14 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、砂質粘土小ブロック中量 | | |
| 15 褐色 | 砂質粘土大ブロック中量、ローム粒子・礫少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | | |
| 16 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック微量 | | |

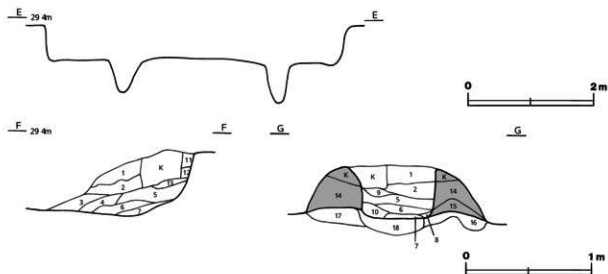
覆土 7層からなる。第6・7層は砂質粘土粒子を多く含んでいるので、甕からの流れと考えられる。第1層から第5層が、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化材・炭化物中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土小ブロック微量 | 6 灰褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂質粘土小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 | | |



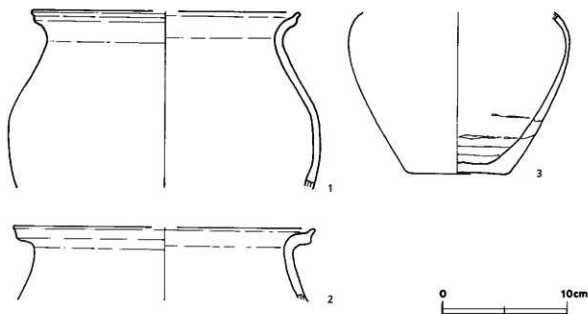
第 129 図 第 75 号住居跡実測図 (1)



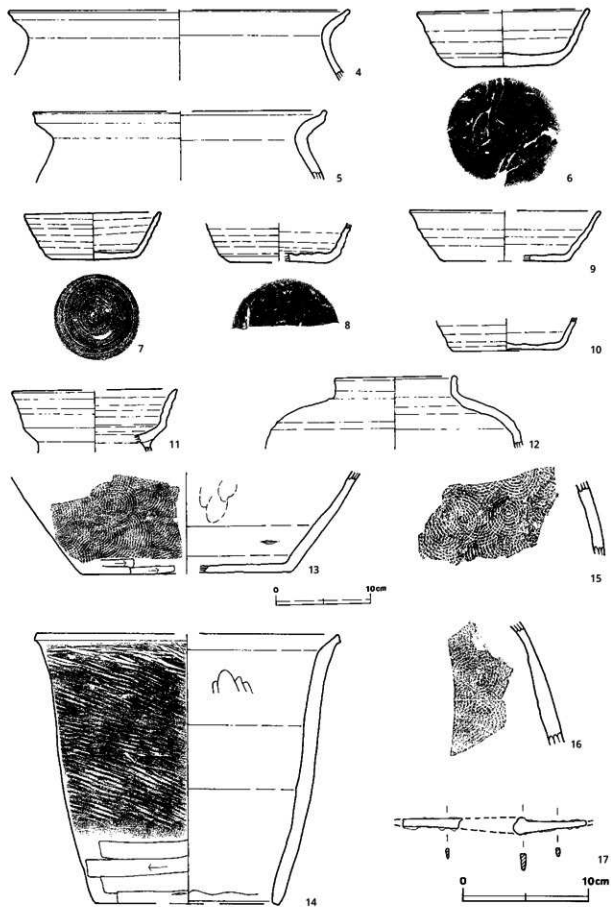
第 130図 第 75号住居跡実測図(2)

遺物 全体から土師器片494点、須恵器片100点、金属製品2点が出土しているが、細片が多い。うち土師器5点、須恵器11点、金属製品1点(刀子)を抽出・図示した。第132図11の須恵器高台付杯は、覆土上層から出土している。10の須恵器杯は、P 4 南側の覆土上層から正位の状態而出土している。16の須恵器甗片は、竈東側の覆土中層から出土している。1の土師器甗は、P 3 北側の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器甗片は北東コーナー付近、5の土師器甗はP 4 の東側、6の須恵器杯はP 3 及びP 4 の北側、13の須恵器甗はP 3 の北側及び西壁中央部寄り、15の須恵器甗片は南壁際、14の須恵器甗片は東壁際中央部北寄りの覆土下層から、それぞれ出土している。4の土師器甗は竈東側の覆土下層及びP 4 南側の床面、9の須恵器杯は竈東側の覆土下層及び南東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。7・8の須恵器杯はP 5 南側、中央部の北寄りの床面からそれぞれ正位の状態、逆位の状態而出土している。また、12の須恵器短頸壺は中央部東寄りの床面から出土している。17の刀子は、竈の覆土から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 131図 第 75号住居跡出土遺物実測図(1)



第 132 图 第 75 号住居跡出土遺物実測图 (2)

第 75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 13図 1	甕 土師器	A 214	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 3268 15%
		B 139				
2	甕 土師器	A 242	口縁部片。頸部は強く屈曲し口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母にぶい橙色、普通	P 3269 5%
		B 57				
3	甕 土師器	B 128	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、上位に最大径を持つ。	輪積み。体部内面下溝指ナデ、外面腹位のへら磨き。底部手持ちへら削り。	磯・長石・石英・雲母にぶい橙色、普通	P 3272 40% 体部外面ス入付着及び赤化
		C 78				
第 13図 4	甕 土師器	A 272	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色普通	P 3270 5%
		B 56				
5	甕 土師器	A 234	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 3271 5%
		B 55				
6	環 須恵器	A 135	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後、ナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 青灰色、普通	P 3273 40%
		B 44				
		C 73				
7	環 須恵器	A 108	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら削り。底部再へら削り縁。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3274 70% PL57 体部外面自然釉
		B 38				
		C 68				
8	環 須恵器	B 31	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後、へら削り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3275 35%
		C 90				
9	環 須恵器	A 151	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後、へら削り。	磯・長石・針状鉱物 灰色普通	P 3276 20%
		B 40				
		C 97				
		B 26				
10	環 須恵器	C 85	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後、へらナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3277 15%
11	高台付環 須恵器	A 130	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰色普通	P 3278 10%
		B 49				
		E 09				
12	短頸甕 須恵器	A 96	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石・針状鉱物 灰色普通	P 3279 30% PL57
		B 56				
13	甕 須恵器	B 105	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	輪積み。体部内面指圧痕、外面同心円叩き、下溝横位のへら削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 良好	P 3280 15%
		C 216				
14	甕 須恵器	A 243	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は折り返され、断面が三角形を呈する。	輪積み。口縁部及び体部内面口ロナデ。体部外面斜位の平行叩き下溝横位のへら削り。	磯・長石・石英・針状鉱物にぶい橙色、普通	P 3281 45% PL58
		B 214				
		C 147				
15	甕 須恵器	B 59	体部片。	体部内面口ロナデ、外面同心円叩き。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色、良好	TP3043 5% 外面ス入付着
16	甕 須恵器	B 99	体部片。	体部内面口ロナデ、外面同心円叩き。	長石・石英 灰白色 普通	TP3044 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 13図 17	刀子	106	13-15	0.2-0.5	76	鉄	50%刃部欠損。断面が二等辺三角形。	M 3021

第80号住居跡（第133・134図）

位置 調査3区の北東部，F3j3区

規模と平面形 長軸2.80m，短軸2.60mの隅丸方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は40～46cmで，ほぼ直立する。

床 北東コーナー方向にゆるやかに傾斜している。ローム土で，踏み固められた部分は認められない。

竈 北西コーナー部に付設されており，袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで98cm，最大幅76cm，壁外への掘り込みは36cmである。火床面は床面とほぼ同じレベルで，浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが，あまり硬化していない。煙道の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・礫微量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・灰中量，砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム中ブロック・礫微量 | | |

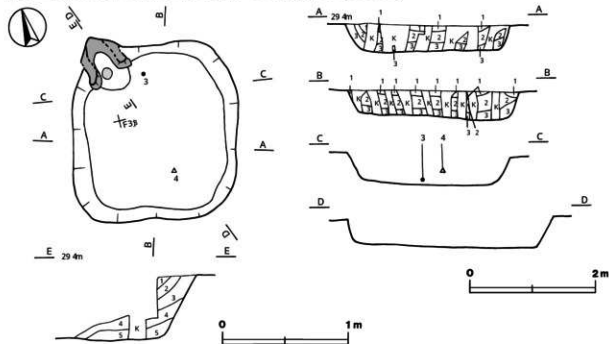
覆土 3層からなる。各層の含有物が類似していることから短期間に埋まったと考えられるので，人為堆積と思われる。

土層解説

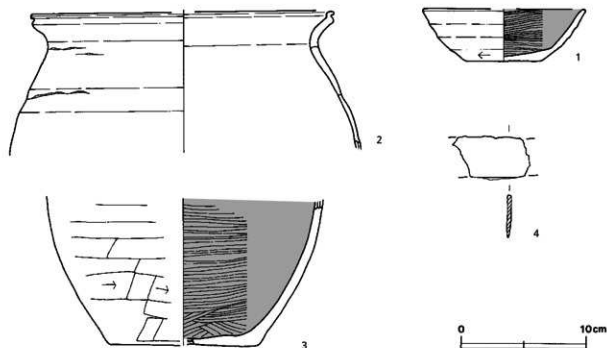
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片52点，須恵器片19点，金属製品1点が出土している。うち土師器3点，金属製品1点（鉄鎌）を抽出・図示した。第134図1の土師器杯及び2の土師器甕は，竈の覆土から出土している。3の土師器鉢は竈南側，4の鎌は中央部南東寄りとともに覆土下層から出土している。

所見 時期は，遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第133図 第80号住居跡実測図



第 134図 第 80号住居跡出土遺物実測図

第 80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 134図 1	坏 土 師 器	A 128	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内電気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部・体部・底部内面へラ磨き。体部外面横ナズ、下端回転へラ刷り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母にぶい橙色、普通	P 3282 40%
		B 4.2				
		C 5.8				
2	甕 土 師 器	A 240	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して、頸部に至る。口縁部は外上方につまみ上げられている。	輪積み。口縁部及び体部内・外面横ナズ。	磯・長石・石英・雲母にぶい橙色、普通	P 3283 10%
		B 111				
3	鉢 土 師 器	B 116	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内電気味に外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面横位のへラ磨き。体部外面横位のへラ刷り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子、橙色、普通	P 3284 20%
		C 118				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 134図 4	鉢	42	18	0.3-0.4	52	鉄	基部残存。頸部上端折り返し。	M 3023

第81号住居跡 (第135・136図)

位置 調査3区の北東部、F3f2区。

規模と平面形 長軸2.90m、短軸2.88mの方形である。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は30~36cmで、ほぼ直立する。

床 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。P 4 から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P 1~P 4)。P 1は径36cmの円形、深さ15cmで北東コーナー部に位置している。P 2は径52cmほどの円形、深さ28cm、P 3は長径44cm、短径36cmの楕円形、深さ38cmで、それぞれ南東コーナー、南西コーナーの壁を掘り込んでいる。P 1からP 3は支柱穴とも考えられるが、北西コーナー部に柱穴が確認できなかったことやP 2・P 3が壁外に及ぶことから性格は不明である。P 4は径36cmの円形、深さ28cmで、竈に対

応する南壁の中央付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで82cm、最大幅82cm、壁外への掘り込みは14cmである。火床面は床面とはほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|---------|---|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量 | 5 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、砂質粘土中ブロック中量、ローム粒子少量 | 6 明褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土少量、炭化物少量 |

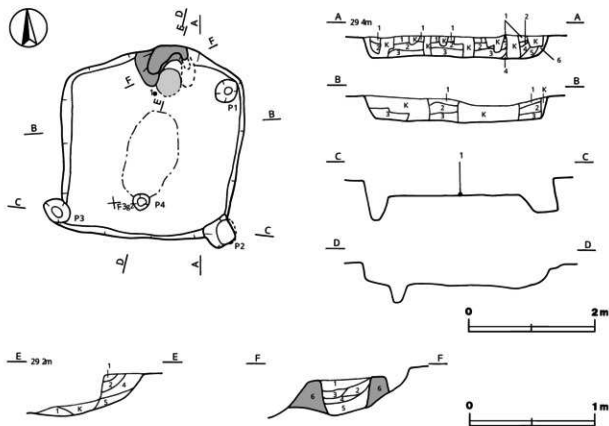
覆土 6層からなる。土層断面図中の第4・5層は砂質粘土粒子を多く含んでいるので、甍材の流れと思われる。第1層から第3層は、レンズ状に堆積することから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック少量 | 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック、炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物少量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 東部を中心に土師器片13点、須恵器片20点が出土しているが、ほとんどが細片で、抽出・図示可能な遺物は掲載した1点だけである。第136図1の須恵器甕の体部片は、竈左袖部南の床面から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀代と考えられる。



第135図 第81号住居跡実測図



第 136図 第 81号住居跡出土遺物実測図

第 81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 136図 1	須 恵 器	B 56	体部から口縁部にかけての破片。	体部内面口ロナデ，外面横位の平行叩き。	長石・雲母に ぶい黄橙色 普通	TP3045 5%

第83号住居跡（第137～139図）

位置 調査 4 区の南西部，H4d4区。

重複関係 西壁付近を第 5 号粘土採掘坑に，掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.30m，短軸3.68mの長方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 斜面部に位置しているために立ち上がりがほとんど確認できなかった。残存する壁高は14cmほどで，外傾して立ち上がる。

床 斜面部に位置しているために南壁方向に緩やかな傾斜を持っている。南壁中央部付近から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており，左袖部のみが遺存している。袖部は粘土と砂を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚き口部まで110cm，左袖部が依存していないため粘土の残存状況から最大約80cm，壁外への掘り込みは56cmである。火床面は床面を 6 cmほど掘りくぼめており，浅い皿状をしている。火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，右袖部の内壁はあまり赤変していない。煙道の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

甌土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 極暗褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 焼土大ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

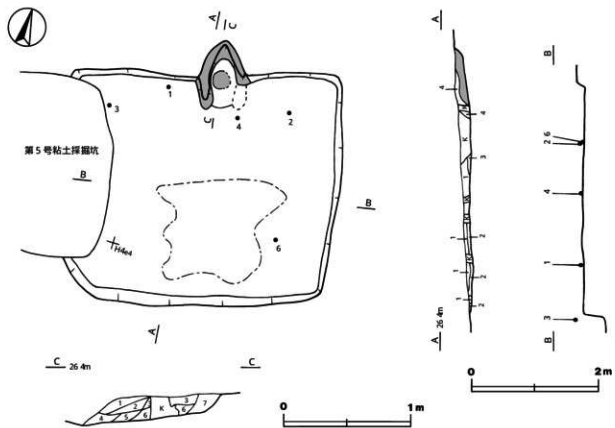
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積しているが，覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

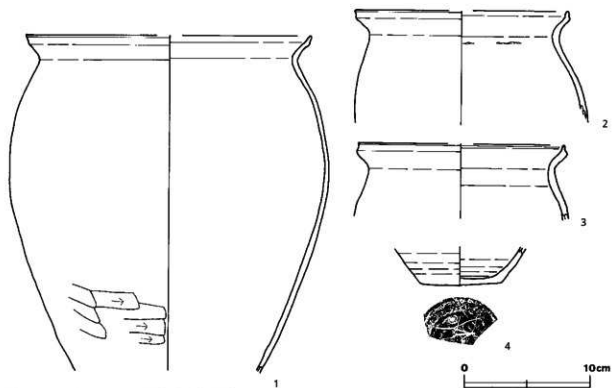
- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量 | 4 極暗褐色 砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |

遺物 竈周辺を中心に土師器82点，須恵器20点が出土している。うち土師器3点，須恵器3点を抽出・図示した。第139図6の須恵器破片は，南東コーナーの覆土下層から出土している。2の土師器甕は北東コーナー付近，3の土師器甕は北西コーナー付近，4の須恵器杯は竈の南の覆土下層から，それぞれ出土している。1の土師器甕は，竈左袖部近くの北壁際の覆土下層からまとまって出土した破片が接合したものである。5の須恵器蓋は，袖部中から出土している。

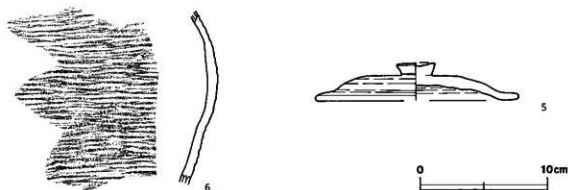
所見 時期は，遺構の形態及び出土土器から 9 世紀前葉と考えられる。



第137图 第83号住居跡実測図



第138图 第83号住居跡出土遺物実測図(1)



第 139 図 第 83 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 83 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 138 図 1	甕 土 師 器	A 227	体部から口縁部にかけての破片。 体部上位に最大径を持つ。頸部は くの字状に屈曲する。口縁部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ、外面下端横位のヘラ削り。	磯・長石・石英・雲 母 にぶい褐色 普通	P 3289 30% PL58
		B 266				
2	甕 土 師 器	A 170	体部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁 部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・赤 色粒子 橙色、普通	P 3290 10% 頸部内面輪組み痕
		B 87				
3	甕 土 師 器	A 164	体部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁 部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 橙色、普通	P 3291 5%
		B 59				
4	坏 須 恵 器	B 31	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は直線的に外挿して立ち 上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部外周部ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P 3292 15% 内・外面黒色斑点
		C 64				
第 139 図 5	蓋 須 恵 器	A 156	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、つまみが付 く。口縁部は外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。天井 部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付 け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色 普通	P 3293 50% PL58
		B 29				
		F 30				
		G 10				
6	甕 須 恵 器	B 37	体部片。	体部内面口クロナデ、外面平行叩 き。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	TP3036 5%

第84号住居跡 (第140~142図)

位置 調査4区の南西部, H4a3区。

重複関係 東壁付近が第85号住居に、掘り込まれている。

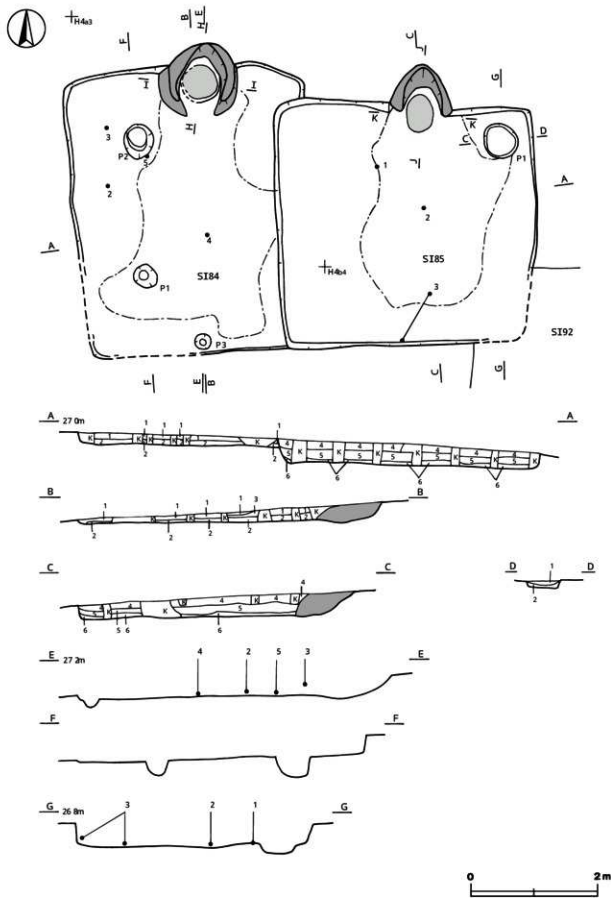
規模と平面形 長軸4.50m, 短軸3.78mの長方形である。

主軸方向 N-0°

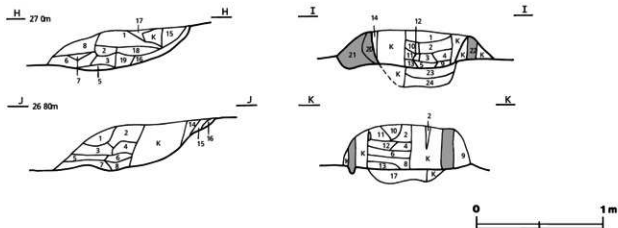
壁 西壁の南部及び南壁の西部は耕作の擾乱により確認できなかった。壁高は8~10cmで、直立する。

床 はほぼ平坦である。出入り口施設に伴うピットから竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径40cm, 短径34cmの楕円形, 深さ24cm, P2は長径58cm, 短径44cmの楕円形, 深さは26cmである。P1とP2を結ぶ線が西壁と平行になることから主柱穴と思われる。P3は径26cmの円形, 深さ12cmで、竈に向かい合う南壁の中央付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。



第 140 图 第 84·85 号住居跡実測图 (1)



第 141図 第 84・85号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、袖部は遺存している。袖部は、粘土にローム土及び砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚き口部まで114cm、最大幅122cmである。壁外への掘り込みは36cmである。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化はしていない。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 15 明褐色 | 砂質粘土粒子多量、砂質粘土中ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 18 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 19 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 20 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 22 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 | 23 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 12 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子多量、砂質粘土粒子微量 |

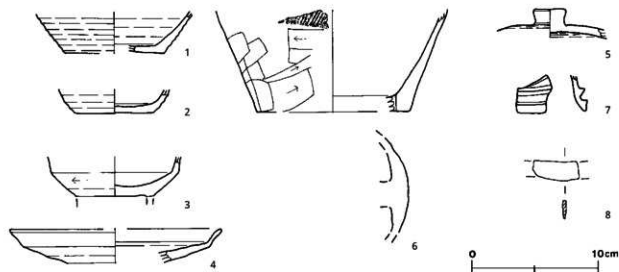
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積しているが、覆土が薄いことや斜面部に位置していることから、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・白色スコリア微量 | | |

遺物 土師器66点、須恵器37点、金属製品1点と出土量は少ない。土師器は細片のため抽出できず、須恵器7点、金属製品1点(刀子)を抽出・図示した。第142図1の須恵器杯、7の円面視、8の刀子は、覆土から出土している。2の須恵器杯は西壁中央寄り、3の須恵器高台付杯はP2西側の覆土中層から、それぞれ出土している。4・5の須恵器盤は、中央部の南寄り、P2南側の覆土下層からそれぞれ出土している。6の須恵器瓶は、竈の覆土から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 14 図 第 84号住居跡出土遺物実測図

第 84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 14 図 1	須恵器	B 33	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部外面ヘラ刷り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄褐色，普通	P 3294 20% 底部ヘラ記号
		C 78				
2	須恵器	B 19	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部外面ナデ。	長石・雲母 灰色 普通	P 3295 20%
		C 57				
3	高台付須恵器	B 31	高台部から体部にかけての破片。高台部欠損。体部下端で縁を持つ。	体部外面下端回転ヘラ刷り。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 オリーブ灰色，普通	P 3296 20%
4	須恵器	A 167	体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部との境に縁を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P 3297 10%
		B 27				
5	須恵器	B 23	天井部片。腰高で断面が逆台形状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ刷り後，つまみ貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色，普通	P 3298 10% 酸化焰焼成
		F 25				
		G 13				
6	須恵器	B 80	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き及び横位のヘラ刷り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 3299 5%
		C 120				
7	内面須恵器	B 28	脚部片。脚部下端に断面三角形の襷帯が2条走る。	脚部内・外面口ロナデ。襷帯貼り付け。	磯・長石 黄灰色 良好	P 3300 5% 外面自然釉

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 14 図 8	刀子	37	15	0.2	31	鉄	刃部先端及び基部欠損。	M 3026

第85号住居跡 (第140・141・143図)

位置 調査4区の南部，H4a4区。

重複関係 第84号住居跡の東壁及び第92号住居跡の北西コーナー部を，それぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.08m，短軸3.88mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は26~36cmで、ほぼ直立する。

床 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。南壁中央部付近から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径22cmの楕円形、深さ12cmである。竈脇の北東コーナー部に位置することから貯蔵穴の可能性もあるが、深さが12cmと浅いことなどから性格は不明である。

P1土層解説

- 1 黒 褐色 砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 2 極暗褐色 砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されているが、耕作の擾乱により天井部及び左袖部は遺存しない。袖部は、残存状況から粘土と砂粒及びローム土を混ぜて構築されていたと思われる。規模は、壁外への掘り込みが64cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており、断面形が皿状をしている。右袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道は火床面からゆるやかな傾斜をもって立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 10 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 11 暗 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 12 暗 褐色 焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
 4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 13 暗 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子、ローム粒子・炭化粒子微量
 5 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 14 暗 赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
 6 暗 赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 15 暗 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
 7 黒 褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 16 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 8 暗 赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 17 暗 赤褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、硃微量
 9 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

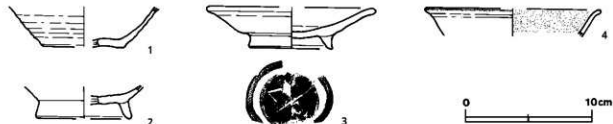
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- 4 極暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・白色スコリア微量 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
 5 暗 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・白色スコリア微量

遺物 遺構全体から土師器71点、須恵器64点、灰陶陶器1点が出土している。うち須恵器3点、灰陶陶器1点を抽出・図示した。第143図4の灰陶陶器碗は、南東コーナー付近の覆土から出土している。3の須恵器高台付皿の接合片は、南壁中央部付近の覆土中層から覆土下層にかけて出土している。1の須恵器坏は、中央部の覆土下層から正位の状態で出土している。2の須恵器高台付坏も、中央部の覆土中層から出土している。

所見 灰陶陶器碗は、黒笹14号窯式段階と思われる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 143図 第 85号住居跡出土遺物実測図

第 85号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 143図 1	坏 須恵器	B 31 C 63	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外縁して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部圓転ヘラ切り。	胎土・色調・焼成 礫・長石・石英・針状鉱物 オリブ灰色、普通	P 3302 20%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 2	高台付環須恵器	B 26 D 72 E 13	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。高台部内・外面口ロナデ。	礫・長石・針状磁物 赤色粒子 褐色、不良	P 3301 20% 酸化燐焼成
3	高台付皿須恵器	A 130 B 33 D 65 E 11	高台部から口縁部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部はゆるやかに外傾して開く。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 3303 40% 底部ヘラ記号
4	椀灰陶器	A 138 B 22	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。内面施釉。	砂粒 灰白色 良好	P 3304 5% 釉：オリブ黄褐色 黒笹 90号窯式段階

第86号住居跡（第144～147図）

位置 調査4区の南西部，H4a1区。

重複関係 電付近を第797号土坑に，中央部を第812・814号土坑に，南東コーナーから南壁東部にかけてを第813・815号土坑に，西壁中央部付近を第816号土坑に，それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.64m，短軸5.58mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 南壁の大部分は，斜面のために確認できなかったが，残存する壁高は16～26cmで，ほぼ直立する。

壁溝 西壁下にある。規模は，上幅16～26cm，下幅8～12cm，深さ8cmほどで，断面はU字状である。

床 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。南側から竈にかけて踏み固められている。

ピット 4か所（P1～P4）。P1は径44cmの円形，深さ63cm，P2及びP3は長径54～58cm，短径46～50cmの楕円形，深さ61～66cmである。P1からP3は，耕作や土坑による掘り込みのため，ピットが確認できなかった南東コーナーを除いた各コーナー寄りにあることや，P2及びP3を結ぶ線が西壁と平行になることから主柱穴と思われる。P4は径28cmほどの円形，深さ40cmで，西壁の中央近くに位置し，性格は不明である。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，砂質粘土粒子・鹿沼パミス粒子微量

P3土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されており，土坑に掘り込まれているために左袖部と壁外への掘り込みだけが遺存している。袖部は，粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚き口部まで124cm，壁外への掘り込みは60cmである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが，あまり硬化していない。

竈土層解説

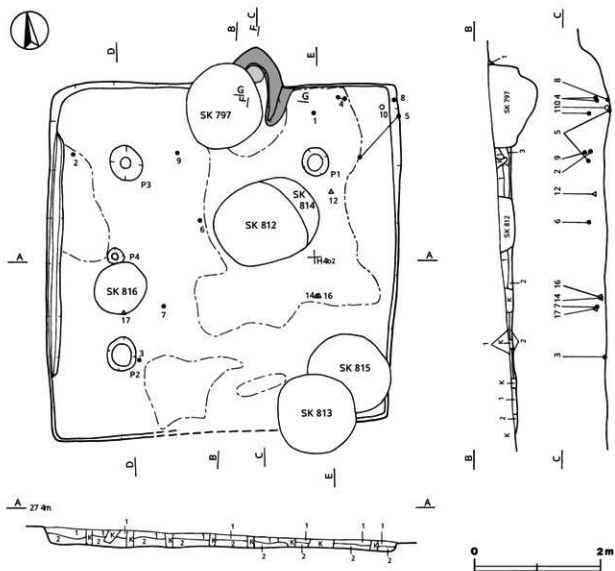
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
- 6 褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土大ブロック・炭化物微量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
- 10 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

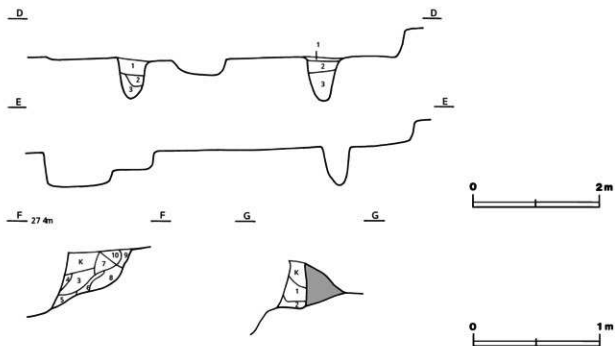
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・白色 3 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子含量
 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子含量

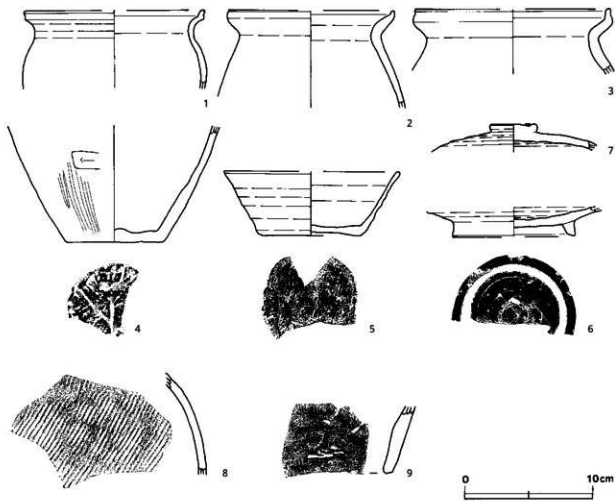
遺物 土師器片226点、須恵器片112点、土製品1点、石製品1点、金属製品7点が出土している。うち土師器4点、須恵器5点、土製品1点（支脚）、石製品1点（砥石）、金属製品6点（刀子・釘・鐵）を抽出・図示した。第147図11の砥石、13の刀子、15の釘は、覆土から出土している。17の鉄鏝は、P2北側の覆土上層から出土している。1～4の土師器甕、9の須恵器甕片、12の刀子はそれぞれ北東コーナー寄り、P3の西、P2の東、北東コーナー付近、P3の東、P1南の覆土中層から出土している。5の須恵器杯は接合片で、P1の東及び北東コーナー部の中層から床面にかけて出土している。6の須恵器盤は中央部、7の須恵器蓋は中央部南西寄りの覆土中層から出土している。14の刀子と16の釘は、中央部寄りの覆土下層から出土している。
 所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



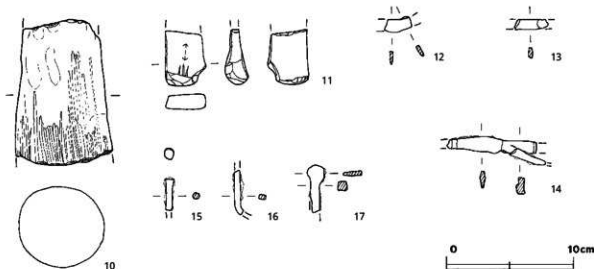
第 144 図 第 86 号住居跡実測図 (1)



第 145 图 第 86 号住居跡实测图 (2)



第 146 图 第 86 号住居跡出土遺物实测图 (1)



第 147 図 第 86号住居跡出土遺物実測図(2)

第 86号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 147 図 1	甕 土器	A 141 B 61	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部は屈曲する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部外面・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 赤色 普通	P 3305 5%
2	甕 土器	A 130 B 70	体部上半から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 3306 5%
3	甕 土器	A 152 B 51	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3307 5%
4	甕 土器	B 92 C 76	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内傾気味に外傾しながら立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。底部内面指跡ナデ、外面木葉痕。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3308 15%
5	坏 須恵器	A 137 B 51 C 76	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3309 40%
6	壺 須恵器	B 23 D 96 E 12	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は大きく開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	礫・長石・石英 種灰色 普通	P 3310 35% 底部ヘラ記号
7	蓋 須恵器	B 21 F 37 G 06	天井部片。つまみは扁平で上部がくぼむ。	天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英 種灰色 普通	P 3311 20%
8	甕 須恵器	B 82	体部片。	体部内面口ロナデ、外面縦位の平行叩き。	礫・長石・赤色粒子 灰色 普通	TP3047 5%
9	甕 須恵器	B 53	体部片。	体部下端面口ロナデ、外面縦位の平行叩き及びヘラ削り。	礫・長石・石英 灰オリーブ色 普通	TP3048 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 147 図 10	支脚	205	75	-	546.1	土製	両端部欠損。表面、縦位の調整。	DP3026 PL76

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第14図 11	紙石	44	32	18	249	凝灰岩	4面使用。	Q 3015 PL78

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第14図 12	刀子	22	09	02-03	13	鉄	刃部の一部。	M 3027
13	刀子	27	09	04	19	鉄	茎部に木質が付着。	M 3028
14	刀子	78	24	04-08	90	鉄	刃部先端及び茎部欠損。他の茎部付着。	M 3029
15	釘	25	05	04	19	鉄	脚部下半欠損。	M 3030 PL80
16	釘	34	05	03	26	鉄	頭部及び脚部先端欠損。	M 3031 PL80
17	鍔	37	14	04-07	45	鉄	長鍔鍔。	M 3032

第87号住居跡（第148～156図）

位置 調査4区の北西端，F41区。

規模と平面形 長軸6.70m，短軸6.62mの方形であり，北東コーナー部は調査区域外に延びる。

主軸方向 N-35°-E

壁 壁高は60～70cmで，ほぼ直立する。

壁溝 部分的に途切れるが，ほぼ壁下を巡っている。規模は，上幅22～40cm，下幅8～18cm，深さ6～20cmで，断面形はU字状である。

床 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。全体が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1からP3は，長径80～120cm，短径64～84cmの楕円形，深さ76～106cmである。P4は，調査区域外に延びるために平面形は不明であるが，現状で南北径80cmほど，深さ80cmである。P1からP4を結ぶ各線は，向かい合う壁と平行になることから支柱穴と思われる。P5は長径50cm，短径40cmの楕円形，深さ42cmである。竈と向かい合う南壁の中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁の中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，袖部は遺存している。第5～7層は灰中心であることから，その上部の砂質粘土を多く含む第2～4層が崩落した天井部と思われる。袖部は，粘性の強い粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで180cm，最大幅176cm，壁外への掘り込みは90cmである。火床面は含有物から第8層と考えられ，床面を皿状に最大10cmほど掘り込んだ後，粘土・ローム土・炭化物などを埋めて構築されている。袖部内壁・火床面・煙道は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗褐色	灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，礫微量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，礫少量
3	にぶい赤色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・礫微量	11	黄褐色	砂質粘土粒子多量
4	褐色	砂質粘土粒子多量，砂質粘土小ブロック・礫微量	12	暗オリーブ褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	赤褐色	灰多量	13	暗褐色	砂質粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・灰少量
6	暗赤褐色	灰多量，砂質粘土粒子少量	14	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，灰微量
7	褐色	灰多量，炭化粒子少量，炭化物微量			
8	暗赤褐色	焼土粒子・灰多量，焼土小ブロック中量			

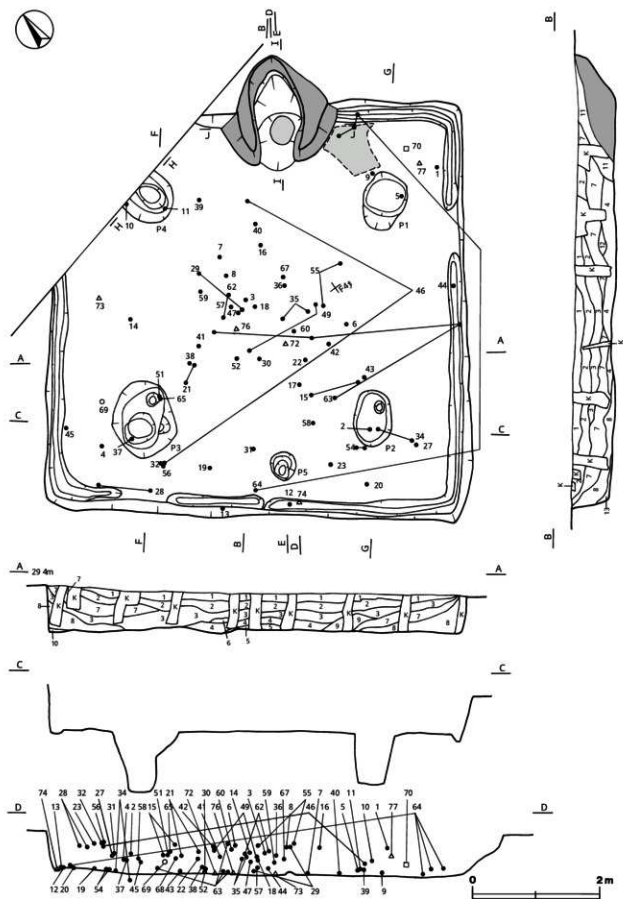
覆土 13層からなる。レンズ状に堆積しているが，遺物の出土状況や含有物が類似していることなどから人為堆積と思われる。

土層解説

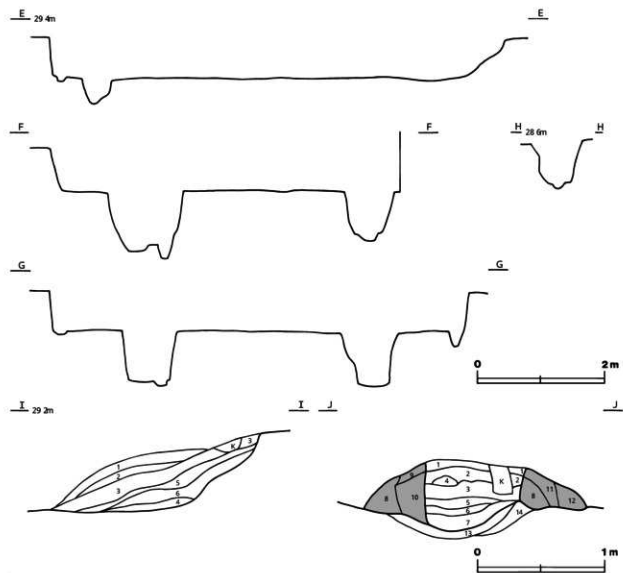
1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・礫少量	8 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量	10 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量
4 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・鹿沼パミス粒子・礫少量	11 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土中ブロック・礫少量
5 黒褐色	焼土大ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・鹿沼パミス粒子少量	12 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量	13 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子少量		

遺物 覆土中層から床面にかけて、土師器片2,255点、須恵器片1,086点、土製品1点、石製品2点、金属製品8点、鉄滓1点が出土しているが、細片が多い。うち土師器9点、須恵器59点、土製品1点（不明）、石製品2点（紡錘車・砥石）、金属製品5点（刀子・釘・不明鉄製品）、鉄滓1点を抽出・図示した。第152図24・26の須恵器杯、48の須恵器盤、33の須恵器蓋、53の須恵器盤、71の砥石、75の釘は、覆土から出土している。6の土師器碗は中央部東寄り、23の須恵器杯はP2の南西、28の須恵器蓋の接合片は南壁際西寄りと南西コーナー部、32・56の須恵器蓋・高盤はそれぞれP3の南東、P2の南の覆土中層から出土している。55の須恵器高盤は、中央部の覆土上層から覆土中層にかけて出土している。2・4の土師器壺はそれぞれP2の上、P3の南西、3・8の土師器甕、16・17・22の須恵器杯、41・42の須恵器高台付杯、49・51の須恵器盤、60・35・36の須恵器蓋、68の須恵器門面硯はともに中央部、11・12・14・15・21の須恵器杯はそれぞれP4の上部、南壁際中央、西壁際中央、P2の西、P3の北、37の須恵器高台付杯はP3の北、27・31の須恵器蓋はP2の南東、P5の北西、65の須恵器門面硯はP3の北、77の鉄滓はP1北側の覆土中層から出土している。覆土中層から出土している土器のうち、11・12の須恵器杯及び51の須恵器盤は、正位の状態出土している。66～68の須恵器門面硯は、出土位置は特定できないが、65とほぼ同じ層位から出土している。29の須恵器蓋、62の須恵器瓶はともに中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。5の土師器壺はP1の上部、10・13・18・19・20の須恵器杯は、それぞれP4の上部、南壁際中央、南壁際中央寄り、中央部、南東コーナー寄り、38・39・44・45の須恵器高台付杯は、それぞれP3の北、P4の東、東壁際中央、P3の西、47・50の須恵器盤、59の須恵器蓋、60の須恵器蓋、72の不明鉄製品は中央部、58の須恵器蓋はP2の西、69の不明土製品はP3の北西、70の紡錘車は北東コーナー部、74の刀子はP5の南東の覆土下層から出土している。61の須恵器短頸壺の接合片は、出土位置は不明であるが、覆土下層から出土している。1の土師器杯は北東コーナー部、7の土師器甕と52の須恵器盤は中央部、9の土師器甕はP1の北、40の須恵器高台付杯は竈の南、43の須恵器高台付杯はP2の北、46の須恵器盤は竈の南、34の須恵器蓋はP2の東、54の須恵器高盤の接合片はP2の南西、73の刀子はP4の南西、76の釘は中央部の床面から出土している。50の須恵器高盤は、竈の覆土から出土している。63の須恵器瓶は接合片で、中央部から東壁際中央付近の覆土上層から床面にかけてと壁溝から出土している。64の須恵器瓶は南壁際中央と竈袖部東側の覆土下層から床面にかけて出土している。

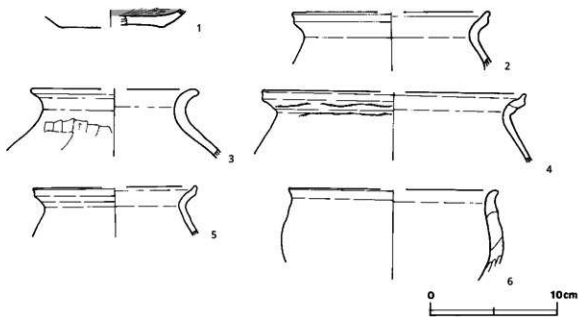
所見 竈が粘性のある粘土で大きく頑強に作られていること、他の住居跡と比べて遺物の出土量が多いことや門面硯片が4点出土していることから、中心的な住居であったことが考えられる。廃絶時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後葉と考えられる。



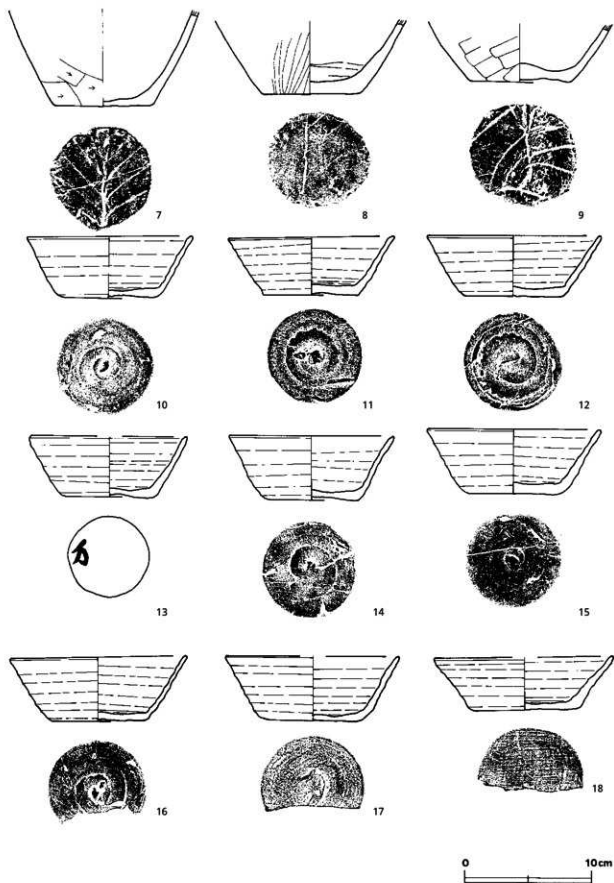
第 148 图 第 8 号住居跡実測図 (1)



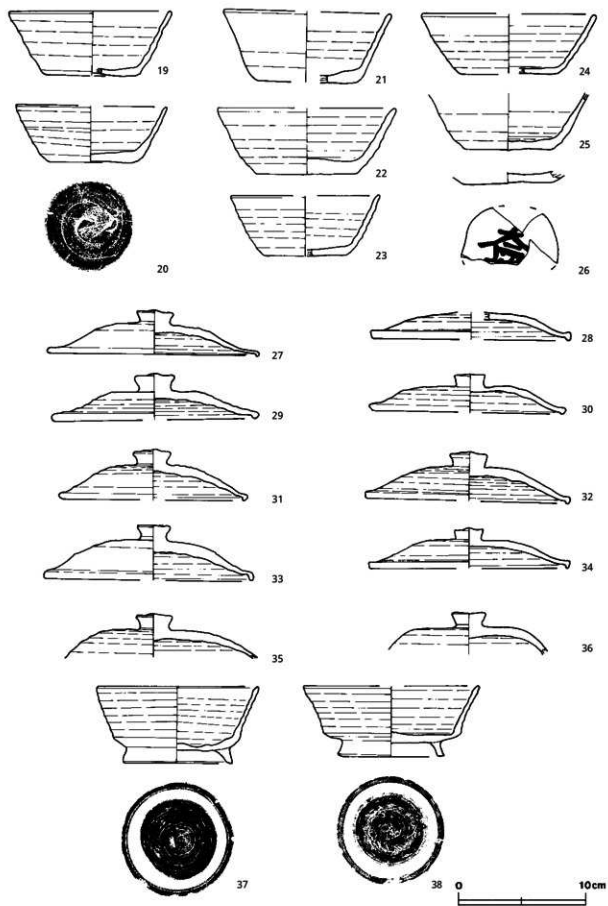
第 149 图 第 87 号住居跡实测图 (2)



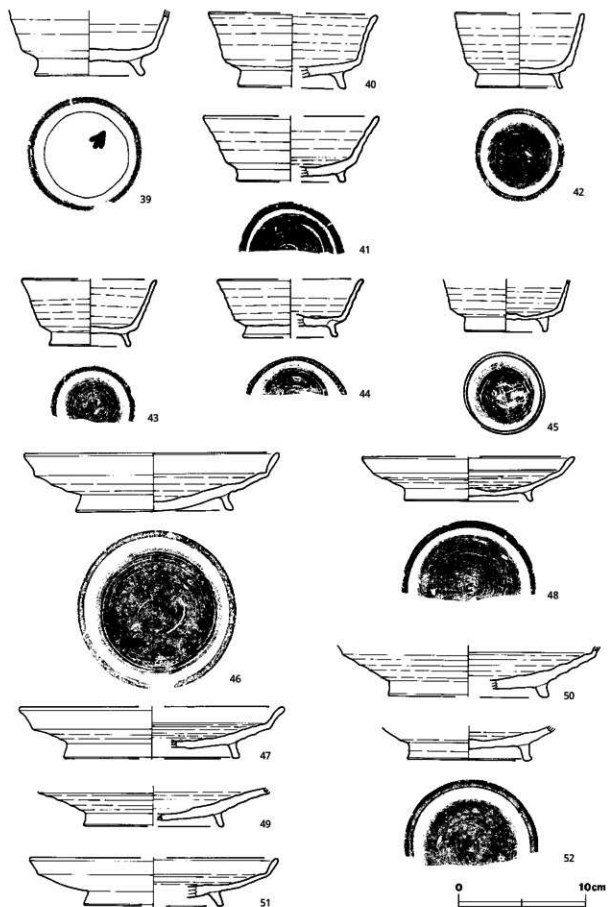
第 150 图 第 87 号住居跡出土遺物实测图 (1)



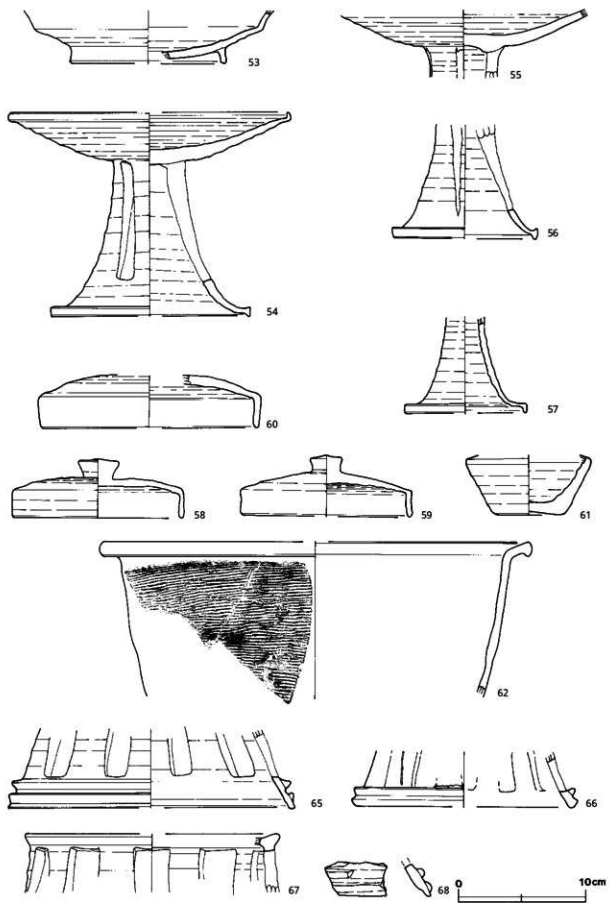
第 151 图 第 8 号住居跡出土遺物実測図 (2)



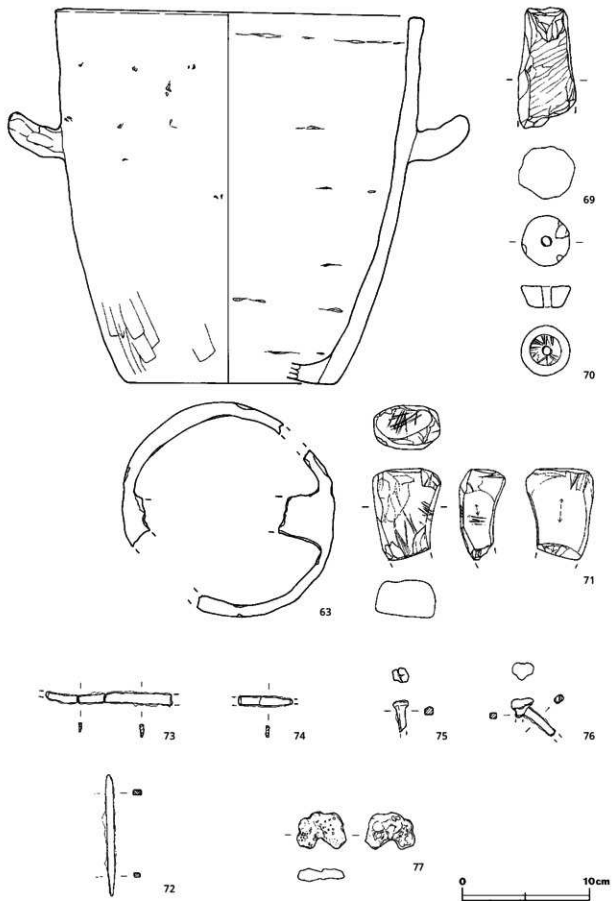
第 152 图 第 87 号住居跡出土遺物実測図 (3)



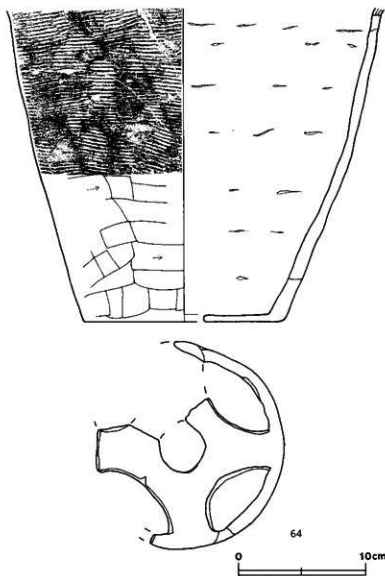
第 153 图 第 87 号住居跡出土遺物実測图 (4)



第 154 图 第 87 号住居跡出土遺物実測图 (5)



第 155 图 第 87 号住居跡出土遺物実測图 (6)



第 156図 第 87号住居跡出土遺物実測図(7)

第 87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 156図 1	坏 土 器	B 13	底部片。平底。体部は外翻して立ち上がる。	体部及び底部内面へラ磨き。体部外面下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子にぶい橙色, 普通	P 3312 20%
		C 80				
2	甕 土 器	A 154	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	緑・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色, 普通	P 3313 9%
		B 45				
3	甕 土 器	A 131	口縁部片。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ附り。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色, 普通	P 3314 9%
		B 53				
4	甕 土 器	A 208	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母橙色普通	P 3315 9%
		B 54				
5	甕 土 器	A 128	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母橙色普通	P 3316 9%
		B 34				
6	椀 土 器	A 164	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	輪横み後, 口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 3317 10%
		B 71				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 7	甕 土師器	B 76	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面ヘラ削り。底部木葉痕。	磯・長石・石英・雲母にぶい橙色、普通	P 3318 20%
		C 80				
8	甕 土師器	B 58	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面ヘラ磨き。底部木葉痕。	長石・石英・雲母にぶい橙色、普通	P 3319 20% 体部内面輪積み痕
		C 76				
9	甕 土師器	B 47	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。底部内面ナデ、外面木葉痕。	長石・石英・雲母外黒色内にぶい橙色、普通	P 3320 20%
		C 78				
10	坏 須恵器	A 131	体部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰オリブ色、普通	P 3321 99% PL58
		B 50				
11	坏 須恵器	A 130	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英 灰色、普通	P 3322 90% PL58 体部外面自然蝕
		B 47				
12	坏 須恵器	A 137	口縁部及び体部一部欠損。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3323 80% PL58
		B 48				
13	坏 須恵器	A 124	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3324 60% PL58 73 底部墨書「万」
		B 48				
14	坏 須恵器	A 130	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3325 60% PL58 体部外面自然蝕
		B 51				
15	坏 須恵器	A 136	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3326 70% PL58
		B 52				
16	坏 須恵器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 補灰色、普通	P 3327 50% PL58 体部外面自然蝕
		B 52				
17	坏 須恵器	A 136	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 補灰色、普通	P 3328 50%
		B 52				
18	坏 須恵器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部手持ちヘラ削り。	磯・長石・石英・雲母 灰黄色、普通	P 3330 49%
		B 42				
第15図 19	坏 須恵器	A 128	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色、普通	P 3329 49%
		B 52				
20	坏 須恵器	A 120	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3331 50% 底部墨書「」
		B 44				
21	坏 須恵器	A 131	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3332 50% 底部ヘラ記号
		B 56				
22	坏 須恵器	A 140	口縁部及び体部一部欠損。平底で肉厚。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3333 60%
		B 53				
23	坏 須恵器	A 119	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母 灰色、普通	P 3334 49%
		B 48				
24	坏 須恵器	A 137	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3335 30%
		B 47				
25	坏 須恵器	B 45	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰白色、普通	P 3336 40%
		C 70				
26	坏 須恵器	B 09	底部片。平底。	底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3337 10% PL73 底部墨書「益」
		C 70				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 37	高台付環須恵器	A 127	口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 明褐色灰色 普通	P 3338 90% PL58
		B 61				
		C 13				
		D 85				
38	高台付環須恵器	A 138	口縁部及び体部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3339 50% PL58
		B 56				
		D 82				
		E 13				
第15図 39	高台付環須恵器	B 52	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3340 50% 底部裏面「J」 体部外面自然釉
		D 82				
		E 15				
40	高台付環須恵器	A 133	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3341 40%
		B 58				
		D 83				
		E 13				
41	高台付環須恵器	A 138	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3342 40%
		B 52				
		D 84				
		E 10				
42	高台付環須恵器	A 100	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 緑灰色 普通	P 3343 50% 体部外面一部自然釉
		B 59				
		D 67				
		E 12				
43	高台付環須恵器	A 106	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3344 50% 体部外面自然釉
		B 53				
		D 64				
		E 10				
44	高台付環須恵器	A 114	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3345 50%
		B 46				
		D 74				
		E 12				
45	高台付環須恵器	B 42	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3346 50% 底部ヘラ記号
		D 64				
		E 12				
46	盤須恵器	A 202	口縁部及び体部一部欠損。丸味を持つ平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 3347 70% PL58 口縁部内・外面及び体部外面自然釉
		B 47				
		D 125				
		E 14				
47	盤須恵器	A 208	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3348 25%
		B 41				
		D 138				
		E 12				
48	盤須恵器	A 166	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3349 50% PL58
		B 35				
		D 102				
		E 10				
49	盤須恵器	B 31	底部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 緑灰色 普通	P 3350 40%
		D 110				
		E 11				
50	盤須恵器	B 41	底部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英 黄灰色 普通	P 3351 30%
		D 106				
		E 12				
51	盤須恵器	A 196	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3352 20%
		B 38				
		D 110				
		E 12				
52	盤須恵器	B 26	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3353 25%
		D 96				
		E 13				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 53	須恵器	B 42	底部から口縁部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は直線的に開く。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へり削り後、高台貼り付け。	礫・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 3354 20% 体部及び底部内・外面黄色斑点
		D 124				
		E 12				
58	須恵器	A 134	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は扁平で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3355 60% PL58 天井部外面自然釉
		B 46				
		F 33				
		G 16				
59	須恵器	A 131	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を持ち、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、垂下する。	口縁部内・外面及び天井部内面口ロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 3356 60% PL58 天井部外面自然釉
		B 48				
		F 25				
		G 14				
60	須恵器	A 170	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を持つ。口縁部は屈曲し、垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。	礫・長石 褐灰色 普通	P 3357 30% 天井部外面自然釉
		B 42				
第15図 27	須恵器	A 167	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3358 45% PL58 天井部外面自然釉
		B 35				
		G 10				
		F 28				
28	須恵器	A 156	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部内面口ロナデ。天井部回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3359 45%
		B 22				
29	須恵器	A 161	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。天井部回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 オリーブ灰色 普通	P 3360 50% PL58
		B 36				
		F 32				
		G 14				
30	須恵器	A 152	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ、天井部回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 褐灰色 普通	P 3361 50% 口縁部内面自然釉
		B 30				
		F 23				
		G 10				
31	須恵器	A 144	口縁部一部欠損。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ、天井部回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3362 70% PL58
		B 40				
		F 29				
		G 72				
32	須恵器	A 160	口縁部一部欠損。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ、天井部回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3363 50% PL58
		B 39				
		F 30				
		G 12				
33	須恵器	A 163	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。天井部回転へり削り。	礫・長石・雲母・針状鉱物 にぶい橙色 普通	P 3364 70%
		B 44				
		F 11				
		G 27				
34	須恵器	A 158	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。天井部回転へり削り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3365 45%
		B 32				
		F 23				
		G 10				
35	須恵器	B 35	天井部。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口ロナデ、外面回転へり削り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3366 30%
		F 29				
		G 12				
36	須恵器	B 23	天井部。天井部は伏せ皿状で、甍宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口ロナデ、外面回転へり削り。	礫・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 3367 40%
		F 27				
		G 10				
		G 10				
第15図 54	高須恵器	A 220	脚部から口縁部にかけての破片。脚部はラッパ状に開き、踵部は短く垂下する。三方に透かしを持つ。血部の口縁部は上方に折り返されている。	血部及び脚部内・外面口ロナデ。血部外面下位回転へり削り。	長石・石英 褐灰色 普通	P 3368 40% PL58 杯部外面及び脚部自然釉
		B 161				
		D 158				
		E 123				
55	高須恵器	B 54	脚部から杯部にかけての破片。脚部は四方に透かしを持つ。血部は直線的に外傾する。	血部及び脚部内・外面口ロナデ。血部外面下位回転へり削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3369 30% 杯部外面自然釉
		E 24				

図版番号	器種	計測値 cm		器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		長さ	幅				
第15図 56	高須器	D	112	脚部片。脚部はラッパ状に開き、端部は短く垂下する。四方に透かしを持つ。	脚部内・外面口クロナデ。	磯・長石 黒褐色 普通	P 3370 10% 脚部内・外面自然釉
		E	90				
57	高須器	D	93	脚部片。脚部はラッパ状に開き、端部は短く垂下する。	脚部内・外面口クロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3371 10% 脚部外面自然釉
		E	76				
61	短須器	B	47	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり肩部に横を持つ。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰白色 普通	P 3372 20% 体部外面自然釉
		C	52				
62	須器	A	334	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は直角に屈曲し、端部は短く垂下する。	口縁部内・外面口クロナデ。体部外面横位の平行叩き。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P 3373 10%
		B	123				
第15図 63	須器	A	292	底部及び体部の一部、把手片方欠損。二孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。器高の3分の2ほどに把手が付く。	輪積み後、口縁部及び体部内、外面口クロナデ、外面下端へラ削り。櫛状工具による沈線施文後、把手貼り付け。	磯・長石・雲母・赤色粒子 灰白色、普通	P 3374 80% PL59 体部内面輪積み痕
		B	296				
		C	163				
第15図 64	須器	B	247	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	輪積み後、体部内面ナデ、外面上半部横位の平行叩き、下半部へラ削り。	磯・長石・石英・雲母 灰色、普通	P 3375 60% PL59 体部内面輪積み痕
		C	160				
第15図 65	円面須器	B	63	脚部片。脚部下位に断面が三角形を呈する2条の隆帯が付く。	脚部内・外面口クロナデ。透かし窓へラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3376 2%
		D	226				
66	円面須器	B	44	脚部片。脚部下位に断面がまばこ状を呈する1条の隆帯が付く。	脚部内・外面口クロナデ。透かし窓へラ切り。	長石・石英・針状鉱物 赤褐色、普通	P 3377 10%
		D	171				
67	円面須器	A	198	脚部片。脚部上部に隆帯が貼られ、断面U字状を呈する。	脚部内面ナデ。透かし窓へラ切り。	長石・石英 灰黄褐色 良好	P 3378 5%
		B	46				
68	円面須器	B	26	脚部片。脚部下端に隆帯が2条付く。	脚部内面ナデ、外面隆帯貼り付け。	磯・長石 灰白色 良好	P 3379 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第15図 69	不明	95	46	-	1798	土製	表面ナデ。支脚か。	DP3027 PL76

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第15図 70	紡錘器	40	38	18	309	粘板岩	中央部に0.8cmの孔が空く。一部欠損。	Q 3016 PL77
71	砥石	72	52	35	1717	凝灰岩	4面使用。2面に沈線の研ぎ痕。	Q 3017 PL78

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第15図 72	不明	95	06	03-04	64	鉄	断面が長方形	M 3034
73	刀子	101	11	02-03	83	鉄	刃部先端及び茎部欠損。	M 3035
74	刀子	43	09	03	27	鉄	刃部先端及び茎尻欠損。	M 3036
75	釘	25	07	05	30	鉄	頭部	M 3037 PL80
76	釘	30	07	05	62	鉄	頭部部分で、脚部下半欠損。	M 3038 PL80
77	鉄滓	29	39	11	128	鉄	器内は薄く、平面がV字状を呈する。	M 3042

第88号住居跡（第157～161図）

位置 調査4区の南西部、G3a9区。

重複関係 東壁南部から南壁中央部にかけての上部を第15号溝に、掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.62m、短軸4.10mの長方形である。

主軸方向 N-30°-E

壁 壁高は56～60cmで、南壁は外傾して、北壁及び東西壁は、ほぼ直立する。

壁溝 南東コーナー部及び北西コーナー付近と北壁の西部を除く壁下を巡っている。規模は、上幅14～20cm、下幅8～14cm、深さ8～12cmで、断面形はU字形である。

床 確認面から70～84cmほど掘り込んだ後、底面から6～22cmほどの厚さにローム土・焼土等（第9～12層）を埋めて、床面を構築している。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。南壁の中央部から竈にかけてを中心に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は径60cmの円形、深さ35cmである。竈に向かい合う南壁の中央付近に位置すること出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで122cm、最大幅116cm、壁外への掘り込みは64cmである。火床面は床面を最大で14cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量	8 黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量、焼土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量
2 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量	9 暗赤褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子・塵微量
3 暗褐色	焼土粒子中量、炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	11 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
7 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量		

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積しているが、各層の色調及び含有物が類似していることや、覆土中層から床面にかけて遺物が多数出土していることなどから人為堆積と思われる。

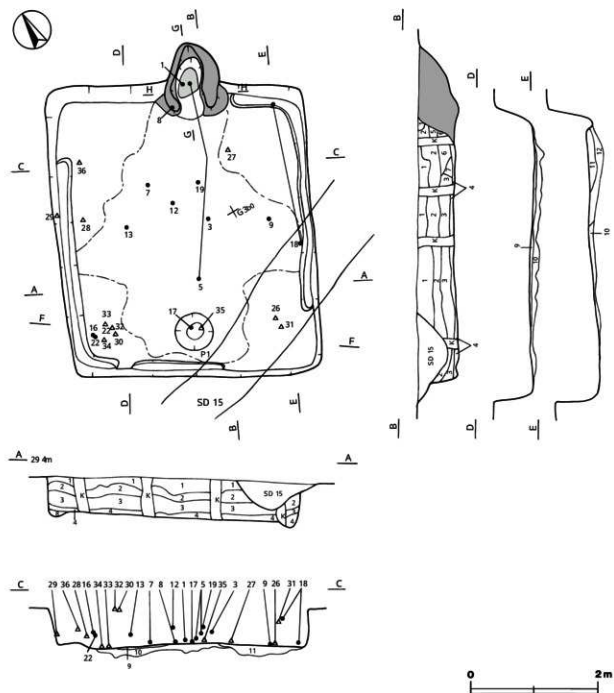
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色	ローム小ブロック目ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色スクリア微量	10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量	11 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・産沼バミス粒子微量
6 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量	12 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量

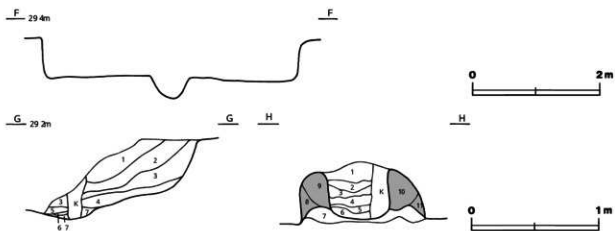
遺物 土師器片2,351点、須恵器片712点、石製品2点、金属製品14点、鉄滓1点が出土している。うち土師器11点、須恵器12点、石製品2点（砥石）、金属製品11点（刀子・鎌・釘）を抽出・図示した。第159図6の土師器杯、10の土師器甕、14・15の須恵器杯、20・21・23の須恵器甕、24・25の砥石は、覆土から出土している。30・31の刀子は、それぞれ南西コーナー付近、南東コーナー付近、32の鎌は南西コーナー付近の覆土上層から出土している。18の須恵器甕は、北東コーナーの覆土上層及び東壁際中央の覆土下層から出土している。3の土師器杯と5の「南主」と墨書された土師器杯は、ともに中央付近、12・13・16の須恵器杯はそれぞれ中央部、中央部西寄り、南西コーナー、19・22の須恵器甕片はそれぞれ中央部の北寄り、南西コーナー、28・29の刀子は西壁中央部寄りの覆土中層から出土している。7の土師器高台付杯は中央部の北西寄り、9の土師器甕は東

壁中央寄り、27の刀子は竈の南、33・34の釘は南西コーナー付近、35の釘は南壁際の中央寄り、36の釘は西壁中央の北寄りの覆土中層から出土している。1・2・4の土師器杯、8・11の土師器甕は、竈の覆土から出土している。17の須恵器杯は南壁中央寄り、26の刀子は中央部南東コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

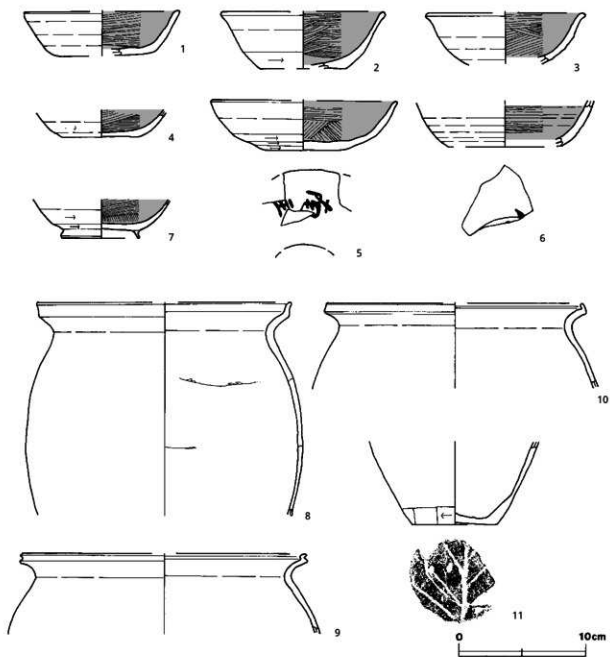
所見 「南主」と墨書された土師器杯が出土している。本跡は、4区でも北側の2・3区に続く平坦部に位置していることから、1～3区の「南主」と墨書された土器が出土している住居との関連性が考えられる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



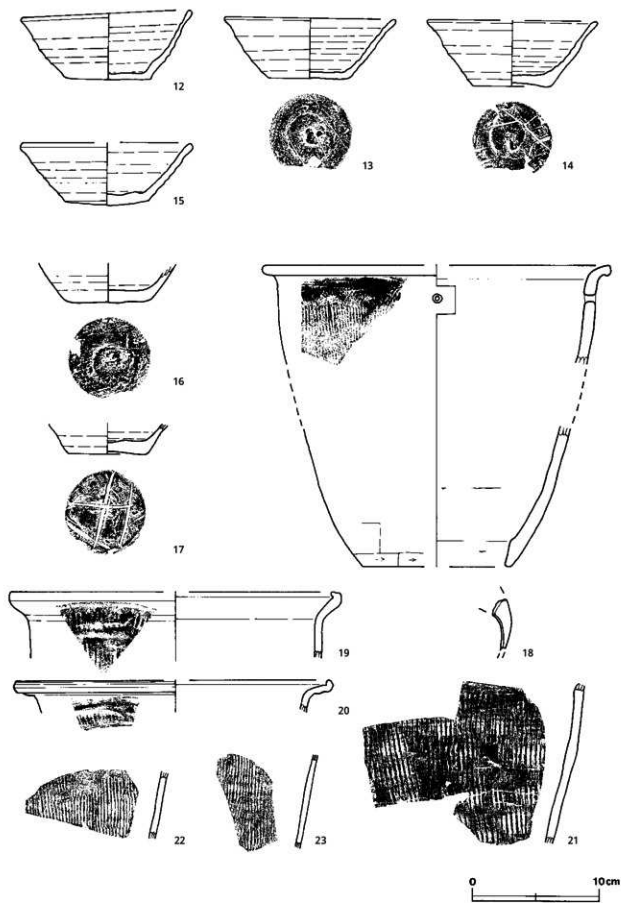
第 157 図 第 88 号住居跡実測図 (1)



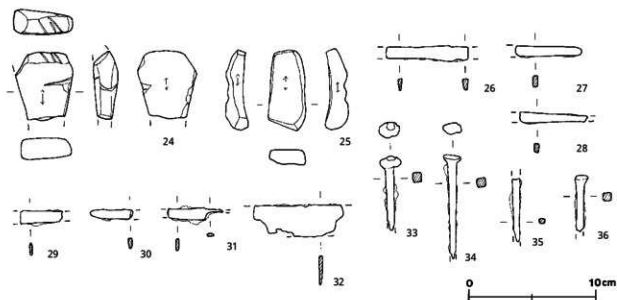
第 158 图 第 88 号住居跡実測图 (2)



第 159 图 第 88 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 160 图 第 88 号住居跡出土遺物実測图 (2)



第 161 図 第 88号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼色	備考
第 15 図 1	環 土 器	A 124	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子に富み褐色、普通	P 3380 40%
		B 35				
		C 84				
2	環 土 器	A 127	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部外傾し、端部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ，下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子に富み褐色、普通	P 3381 20%
		B 45				
		C 67				
3	環 土 器	A 124	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外傾し、端部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ，下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子に富み褐色、普通	P 3382 15%
		B 40				
4	環 土 器	B 21	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子に富み褐色、普通	P 3383 15%
		C 60				
5	環 土 器	A 148	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子に富み褐色、普通	P 3384 40% PL59 69 体部外面墨書横位「南主」
		B 40				
		C 58				
6	環 土 器	B 36	体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母に富み褐色、普通	P 3386 5% 底部から体部外面下墨書「フ」
		C 90				
7	高台付 環 須 恵 器	B 31	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母・褐色、普通	P 3387 30%
		D 60				
		E 07				
8	甕 土 器	A 200	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら肩部に至り、肩部はくの字状に屈曲する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・明赤褐色普通	P 3388 15% 体部内面輪積み痕
		B 169				
9	甕 土 器	A 226	体部上半部から口縁部にかけての破片。肩部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ，外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・褐色普通	P 3389 5%
		B 63				
10	甕 土 器	A 202	体部上半部から口縁部にかけての破片。肩部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・明赤褐色普通	P 3390 5%
		B 68				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 11	甕 土 師 器	A 66 B 66	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面下端横位のヘラ削り。底部木葉痕。	磯・長石・石英・雲母 灰黄色、普通	P 3391 10% 体部外面ス入付着及び赤化
第16図 12	坏 須 恵 器	A 134 B 56 C 68	底部・体部・口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 3392 80% PL59
13	坏 須 恵 器	A 133 B 48 C 63	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3393 60% PL59 底部ヘラ記号
14	坏 須 恵 器	A 134 B 52 C 62	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり口縁部に至る。肩部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3394 40% 底部ヘラ記号
15	坏 須 恵 器	A 134 B 49 C 68	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり口縁部に至り、肩部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石・雲母・赤色粒子 灰オリブ色、普通	P 3395 30% 底部ヘラ記号
16	坏 須 恵 器	B 31 C 66	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3396 30%
17	坏 須 恵 器	B 24 C 62	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3397 30% 底部ヘラ記号
18	甕 須 恵 器	A 272 B 192 C 117	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反して開き、肩部を面取りして角張らせている。	軸組み後、口縁部及び体部内面口クロナデ、外面縦位の平行叩き、下端ヘラ削り。	磯・長石・雲母・赤色粒子 灰白色 普通	P 3400 10% 体部上位に補修孔
19	甕 須 恵 器	A 264 B 55	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し口縁端部は内側に折り曲げられている。	口縁部内面口クロナデ、外面格子目状叩き。	磯・長石・石英・雲母 灰黄褐色、普通	P 3398 5%
20	甕 須 恵 器	A 249 B 24	口縁部。口縁部は強く外反し、肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部内面口クロナデ、外面面取り。	磯・長石・雲母 橙色 普通	P 3399 5%
21	甕 須 恵 器	B 129	体部片。	体部外面縦位の平行叩き。	磯・長石・石英・雲母 灰オリブ色、普通	TP3049 5%
22	甕 須 恵 器	B 54	体部片。	体部外面縦位の平行叩き。	磯・長石・石英・雲母、 オリブ黒色、普通	TP3050 5%
23	甕 須 恵 器	B 74	体部片。	体部外面縦位の平行叩き。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP3051 5%

図版番号	器種	計 測 値				石 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅+径 cm	厚さ cm	重量 g			
第16図 24	砥 石	53	47	19	614	凝灰岩	5面使用。一面に沈線の研ぎ痕	Q 3018
	25 砥 石	64	30	18	312	凝灰岩	3面使用。	Q 3019

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第16図 26	刀 子	64	08	03-05	75	鉄	刃部先端及び茎部欠損。	M 3043 PL80
	27 刀 子	53	09	04	49	鉄	茎部部分。	M 3044
28 刀 子	53	09	04	41	鉄	刃部大部分及び茎欠損。	M 3045	
29 刀 子	34	10	02	23	鉄	刃部先一部。	M 3046	
30 刀 子	34	09	04	18	鉄	刃部先端部。	M 3047	
31 刀 子	44	09	03-06	37	鉄	茎部がねじれ、刃部先端及び茎欠損。	M 3048	
32 鎌	72	25	03	93	鉄	刃部先端及び基部欠損。	M 3052	
33 釘	58	08	08	138	鉄	頸部及び脚部欠損。	M 3049 PL80	

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第16図 34	釘	82	07	07	173	鉄	脚部先端欠損。	M 3050 PL80
35	釘	50	07	04	51	鉄	脚部先端欠損。	M 3051
36	釘	45	10	07	62	鉄	脚部先端欠損。	M 3053 PL80

第89号住居跡（第162～164図）

位置 調査4区の南西部，H4c1区。

規模と平面形 長軸3.66m，短軸2.86mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であるが，南壁方向に緩やかな傾斜をもっている。南壁中央から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P1は径26cmほどの円形，深さ15cmで，竈に向かい合う南壁中央近くに位置することから，出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており，天井部・袖部とも遺存していない。第10・11層に粘土が含まれていることから天井部が崩落したものと思われる。袖部は，床面及び北壁に粘土粒子が確認できることから，粘土と砂粒を混ぜて構築されたものと思われる。規模は，煙道部から焚口部まで126cm，最大幅は粘土の遺存状況から約62cm，壁外への掘り込みは76cmである。火床面は，床面を14cmほど掘りこぼめており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物・砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量 | | |
| 6 暗褐色 | 焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 7 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | | |

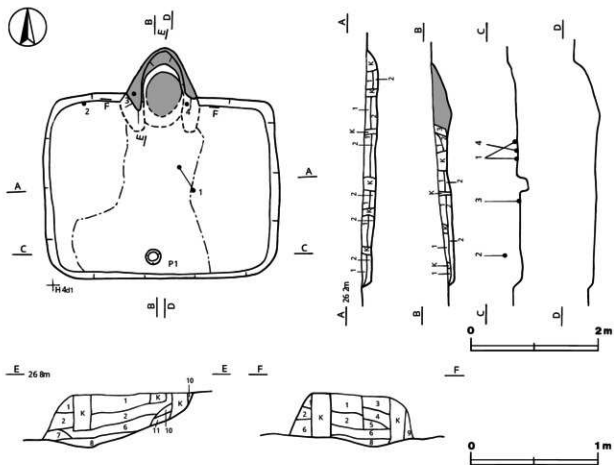
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積しているが，各層の含有物が類似していることや色調が同じであることなどから，短時間に埋まったと考えられるので，人為堆積と思われる。

土層解説

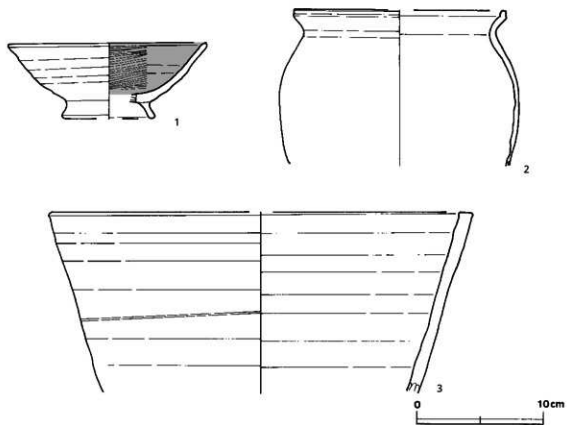
- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量 | | |

遺物 中央部から北東コーナーにかけてを中心に土師器片38点，須恵器片31点が出土している。うち土師器2点，須恵器2点を抽出・図示した。第163図3の須恵器甕は，覆土及び竈の袖部から出土している。2の土師器甕は，北西コーナー近くの覆土上層から出土している。1の土師器高台付坏は，中央部の覆土中・下層及び竈の覆土から出土している。4の須恵器甕は，竈近くの北壁際の床面から出土している。

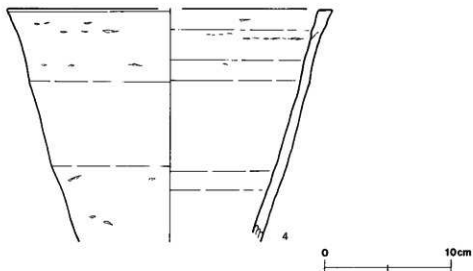
所見 時期は，遺構の形態や出土遺物などから9世紀中葉と考えられる。



第 162 图 第 89 号住居跡实测图



第 163 图 第 89 号住居跡出土物实测图 (1)



第 164図 第 89号住居跡出土遺物実測図(2)

第 89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 163図 1	高台付 土 師 器	A 156	高台部・底部・体部・口縁部の一部欠損。高台はハの字状に開く。平底。体部は内彎突状に外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。底部調整不明。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母にぶい橙色普通	P 3401 70% PL59
		B 60				
		D 70				
		E 14				
2	甕 土 師 器	A 166	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎突状に外傾して立ち上がり、上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母外：補灰色内：にぶい橙色普通	P 3402 10% 体部外面ス入付着 体部内面剥離
		B 123				
3	甕 須 恵 器	A 334	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・石英・長石・雲母・赤色粒子橙色、不良	P 3403 10%
		B 144				
第 164図 4	甕 須 恵 器	A 256	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	輪積み後、口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・雲母灰白色普通	P 3404 10% 体部内・外面輪積み痕
		B 184				

第91号住居跡 (第165~167図)

位置 調査4区の西部、G3j9区。

重複関係 竈から北西コーナーにかけての上部を第13号溝に、北東コーナーを第772号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 段差のある斜面部に位置しているために北東コーナーから南西コーナーにかけての南東部分は、確認できなかった。確認できた壁の長さは西壁3.34m、北壁2.88mである。平面形は不明である。

主軸方向 竈が北壁にあるので、西壁の向きからN-10°-Eと推定される。

壁 北壁及びに鹿部の壁高は30~76cmで、ほぼ直立する。

床 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。確認できた部分が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、袖部が遺存している。袖部は、粘土・砂粒・ローム土を混ぜて、床面に構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで110cm、最大幅142cmである。火床面は床面に10cmほど掘りくぼめられ、皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、徐々に角度を増している。

甍土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------|---------|--|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック微量 | | |

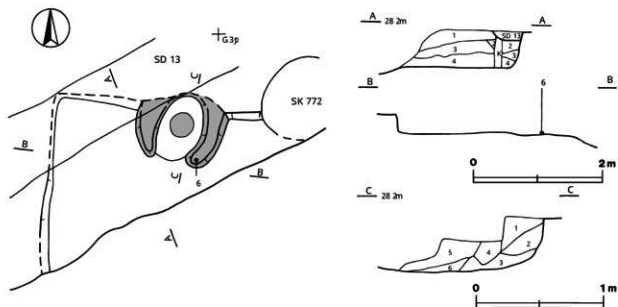
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

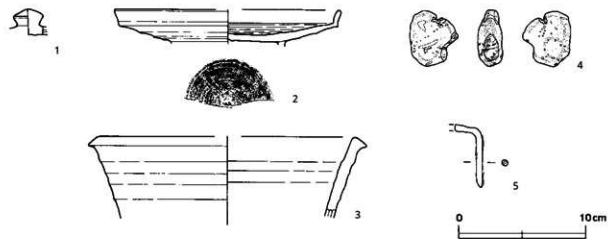
- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | | |

遺物 土師器片39点、須恵器片62点、軽石1点、金属製品1点と出土遺物は少ない。うち土師器片1点、須恵器片3点、軽石1点（砥石）、金属製品1点（釘）を抽出・図示した。第167図6の土師器甕は接合片で、甍の袖部上や甍の覆土から出土している。2の須恵器甕、1の須恵器蓋、3の須恵器甕、5の釘は、ともに甍の覆土から出土している。4の軽石は、覆土から出土している。

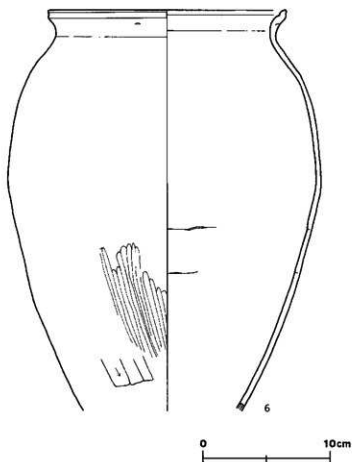
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第165図 第9号住居跡実測図



第166図 第9号住居跡出土遺物実測図(1)



第 167図 第 91号住居跡出土遺物実測図(2)

第 91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 162図 6	甕 土器	A 187	口縁部及び体内・外面口口横ナデ。体部下半から口縁部にかけての破片。体部は内電気味に外傾して立ち上がり、上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体内・外面横ナデ。体部外面下端部位へラ削り、へラ磨き。	長石・石英・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 3405 50% PL59 内・外面輪積み痕 体部外面上部スス付着
		B 318				
第 164図 2	壺 須恵器	A 178	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部及び体内・外面口口ナデ。底部回転へラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰白色普通	P 3406 20% 体部内面外周部自然釉
		B 29				
		E 04				
1	蓋 須恵器	B 20	蓋のつまみ部片。擬宝珠状を呈する。	つまみナデ。	長石・石英 灰色普通	P 3407 9% 外面自然釉
		F 24				
		G 12				
3	瓶 須恵器	A 203	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁端部は横方向につまみ出されている。	礫・長石・針状鉱物 雲母 浅黄色普通	P 3408 9%
		B 64				

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 164図 4	砥石	44	39	20	60	軽石	断面 V 字状の研ぎ痕。	Q 3020 PL78

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 164図 5	釘	50	05	05	47	鉄	L 字状に屈曲し、断面がほぼ円形。	M 3058 Q 3018

第93号住居跡（第168～172図）

位置 調査4区の南部，G4i4区。

重複関係 竈から中央部にかけてを第94号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.64m，短軸6.36mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は20～60cmで，ほぼ直立する。

床 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。P1からP4を結ぶ線の内側及び竈南側の中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径22～34cm，短径18～26cmの円形ないし楕円形，深さ20～53cmである。4か所を結ぶ線は，それぞれ向かい合う壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は径24cmの円形，深さ42cmである。竈と向かい合う南壁の中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

P1土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ロー 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
ム中ブロック・粘土粒子微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

P4土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土少量ブロック微量 5 暗褐色 ローム大ブロック，ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量
3 暗褐色 ローム小ブロック少量，炭化物微量
4 黒褐色 ローム小ブロック中量・粘土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されている。中位から上を第94号住居跡に掘り込まれているために遺存状況は悪い。袖は，粘土・砂粒・ローム土を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで160cm，最大幅186cm，壁外への掘り込みは50cmほどである。火床面は床面を12cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁や火床面は，火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子・礫微量 8 暗褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・礫微量
2 黒褐色 砂質粘土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック。 9 暗褐色 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化物微量
焼土粒子微量 10 暗褐色 砂質粘土粒子中量
3 極暗赤褐色 焼土粒子・灰少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック 11 暗褐色 砂質粘土粒子多量
微量 12 暗赤褐色 灰多量，炭化物・炭化粒子微量
4 黒褐色 灰多量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブ 13 暗褐色 砂質粘土粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブ
ロック・炭化物・炭化粒子微量 ロック微量
5 暗褐色 砂質粘土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブ 14 褐色 砂質粘土粒子多量
ロック・焼土粒子・炭化粒子微量 15 灰色 砂質粘土ブロック多量
6 暗赤褐色 灰中量，砂質粘土粒子少量
7 暗赤褐色 焼土少量ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量

覆土 4層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

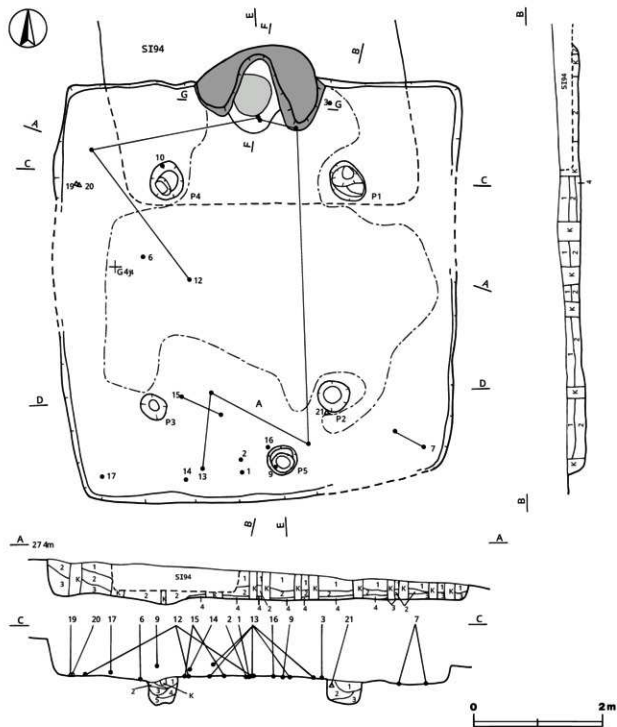
土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量 4 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭
2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 化粒子・粘土小ブロック微量
3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量， 焼土粒子・炭化粒子微量

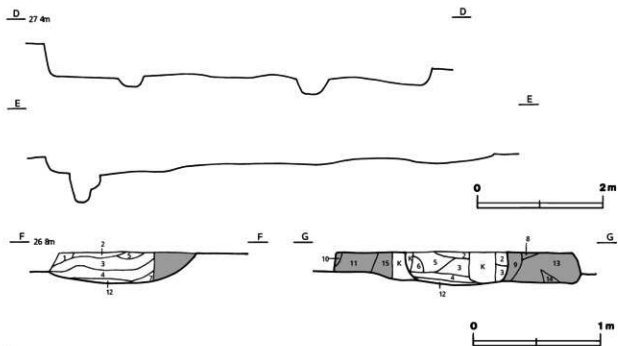
遺物 重複関係や出土状況から本跡に伴う遺物として，土師器片5点，須恵器片11点，灰陶器片1点，金属製品7点（刀子・鎌・釘・馬具）を抽出・図示した。第170図8の須恵器杯，18の刀子，22の鎌，23の釘，24の馬具は，覆土から出土している。14の須恵器甕は南壁際の中央，17の灰陶器高台付碗は南西コーナー部，21の刀子はP2の南側の覆土上層から出土している。15の円面硯は，P3の東側の覆土下層から出土している。

2・3の土師器杯は、それぞれ南壁中央部寄り、竈の東隣の覆土下層から出土している。1の土師器杯は南壁際中央部寄り、6・7・10の須恵器杯は、それぞれP4の南、南東コーナー、P4の上部、12の須恵器甕はP4の西及び竈の南、19・20の刀子はP4と西壁間の覆土下層から出土している。9の須恵器高台付杯は南壁際中央、16の円面硯は南壁中央部寄りの床面から出土している。4・5の土師器甕と11の須恵器甕は、竈の覆土から出土している。13の須恵器横瓶の接合片は、主にP2付近の覆土中層及び竈南の床面からまともって出土している。

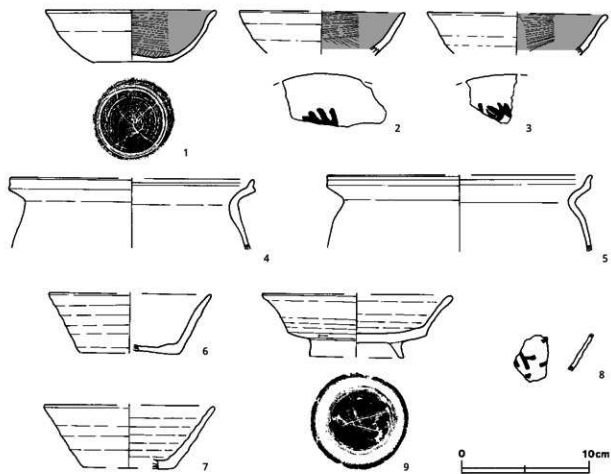
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



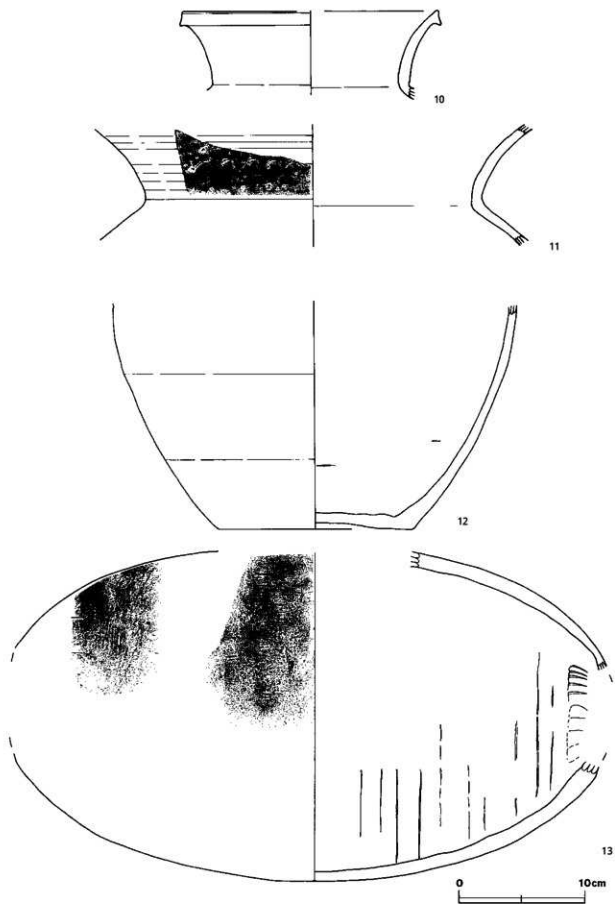
第168図 第93号住居跡実測図(1)



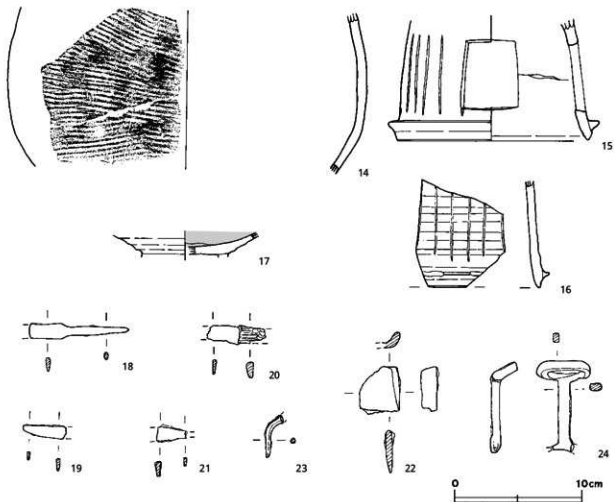
第 169 图 第 9 号住居跡実測图 (2)



第 170 图 第 9 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 171 图 第 9 号住居跡出土遺物実測图 (2)



第 172 図 第 93 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 93 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 17 図 1	坏 土 器	A 134 B 40 C 60	体部・口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3409 60% PL59
2	坏 土 器	A 130 B 34	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。内面黒色処理。	礫・長石・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3410 10% 体部外面墨書横位「在」力
3	坏 土 器	A 140 B 30	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面へラ磨き，外面横ナズ。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3411 9% PL72 体部外面墨書横位「家」力
4	甕 土 器	A 194 B 55	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら頸部に至る。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナズ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3412 5%
5	甕 土 器	A 210 B 61	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナズ。	礫・長石・雲母・赤色粒子にぶい赤褐色，普通	P 3413 15%
6	坏 須 恵 器	A 128 B 48 C 77	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部回転へラ切り。	礫・長石・石英灰白色，普通	P 3414 45%
7	坏 須 恵 器	A 135 B 50 C 70	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部調整不明。	礫・長石・雲母灰白色，普通	P 3415 40%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	環須恵器	B 30	体部片。体部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。	磯・長石・霞母 灰白色 普通	P 3416 5% PL74 体部外面墨書横位「家」力
9	高台付環須恵器	A 148 B 50 D 74 E 13	高台部から口縁部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3417 45%
第17図 10	環須恵器	A 204	口縁部片。口縁部は外反し、踵部は断面がT字状に内上方と外上方にやや突出する。	口縁部内・外面口口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3418 5%
11	環須恵器	B 97	体部から踵部にかけての破片。踵部はくの字状に屈曲する。	踵部内面口口ロナデ，外面口口ロナデ後，櫛掻波状文施文。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 3419 15% 体部外面自然釉
12	環須恵器	B 178 C 154	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。	輪積み後，体部内・外面口口ロナデ。底部内面指ナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 外黒褐色内褐色普通	P 3420 25% PL60 体部内面輪積み痕，外面上部スス付着
13	横底須恵器	B 262	体部片。体部はラグビーボール状の球形を呈する。	輪積み後，体部内面指ナデ，外面平行叩き。	磯・長石・石英・赤色粒子 に高濃褐色、普通	P 3441 45% PL60 内面輪積み痕
第17図 14	環須恵器	B 126	体部片。体部は内彎する。	体部内面口口ロナデ，外面横位の平行叩き。	長石・石英・霞母・赤色粒子 褐色、普通	P 3421 15% 内面刺刷
15	円面碗須恵器	B 95 D 151	脚部片。脚部は直線的に内傾しながら立ち上がる。透かし孔は4方。下端に断面三角形の襷帯が通る。	脚部内・外面口口ロナデ。脚部にヘラ状工具による長方形の透かし窓及び沈線施文。	磯・長石・針状鉱物 灰色 良好	P 3423 20% PL59 脚部内面輪積み痕
16	円面碗須恵器	B 85	脚部片。脚部は直線的に内傾しながら立ち上がる。下端に断面三角形の襷帯が通る。	脚部内・外面口口ロナデ。脚部にヘラによる沈線が高されている。	磯・長石・針状鉱物 灰色 良好	P 3424 5% 体部外面自然釉
17	高台付灰陶器	B 19	底部から体部にかけての破片。高台部欠損。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口口ロナデ。内面施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3422 10% 釉：灰オリーブ色 黒窯 90分窯式段焼

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第17図 18	刀子	80	12	04	61	鉄	刃部先端欠損。	M 3059 PL80
19	刀子	35	10	02-03	17	鉄	刃部	M 3060
20	刀子	47	15	03-06	46	鉄	刃部及び基部の一部。基部に木質が付着。	M 3061
21	刀子	24	14	03-05	27	鉄	基部の一部。	M 3062
22	鎌	32	36	05	132	鉄	基部残存。踵部全面折り返し。	M 3063
23	釘	33	05	05	18	鉄	頭部はJ字状に屈曲。脚部先端欠損。	M 3064
24	馬衝	72	42	04-06	234	鉄	馬具。両端は環状を呈すると思われる。	M 3077 PL79

第94号住居跡（第173～175図）

位置 調査4区の中央部，G4h4区。

重複関係 第93号住居跡の竈から中央部にかけてを掘り込んでいる。

規模と平面形 耕作による擾乱や第93号住居跡との重複により，南壁は明確にできなかったが，遺物の出土状況等から，長軸4.80m，短軸4.74mの方形と推定される。

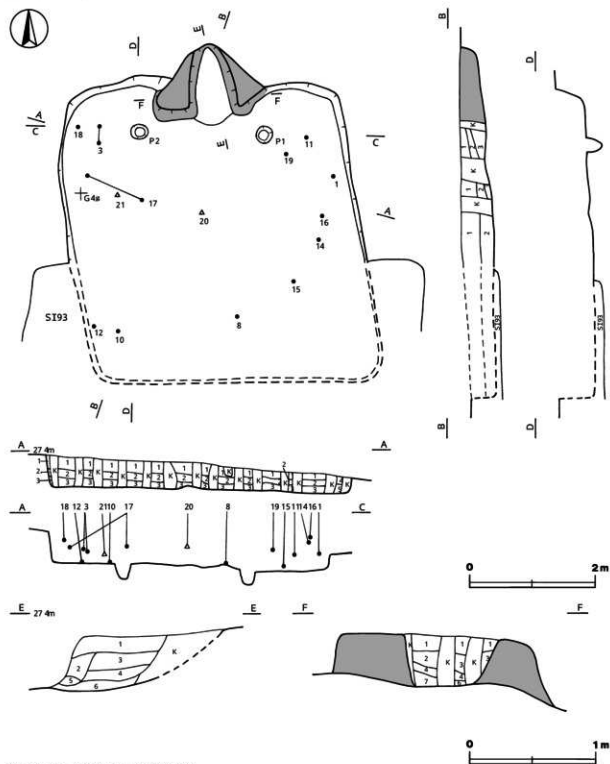
主軸方向 N-10°-W

壁 残存する壁高は26～50cmで，直立する。

床 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。北側全体が，踏み固められている。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径26cmの円形，深さ22cmである。P2は長径30cm，短径24cmの楕円形，

深さ24cmである。南側のピットは検出できなかったが、P1とP2を結ぶ線は北壁と平行になることから支柱穴と思われる。



第173図 第9号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、袖部が遺存している。袖部は、粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで124cm、最大幅170cm、壁外への掘り込みは54cmである。袖部内壁及び火床部は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床面は床面とはほぼ同じレベルである。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上げる。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・
焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小
ブロック・焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒
子微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、砂
質粘土粒子微量 |

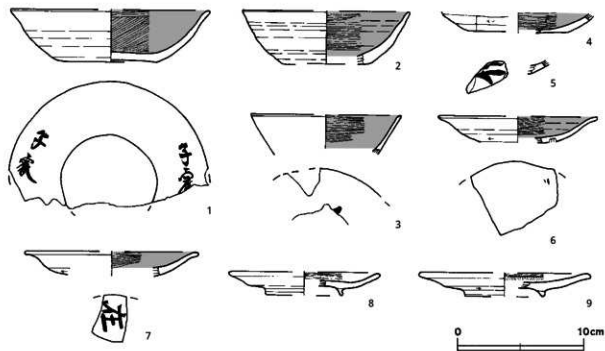
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

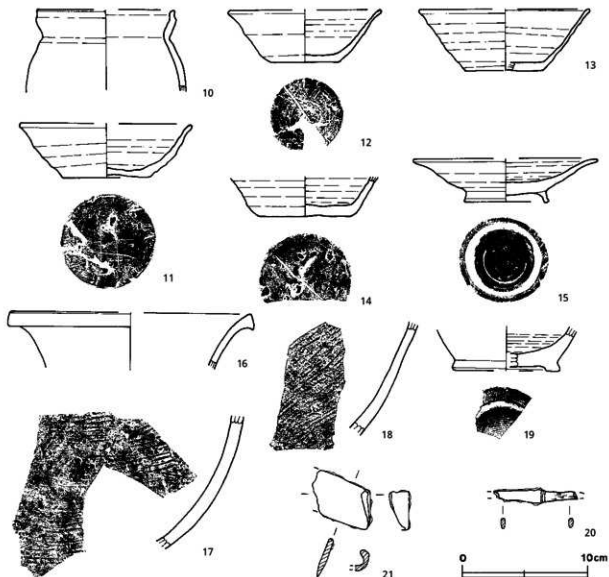
- | | | | |
|-------|--|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・粘
土中ブロック・粘土小ブロック微量 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス
中ブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 |
| | | 5 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 |

遺物 重複関係や出土状況から本跡に伴う遺物として、土師器片10点、須恵器片8点、灰釉陶器1点、金属製品2点(刀子・鎌)を抽出・図示した。第174図2・5の土師器杯、13の須恵器杯、17の須恵器甕は、いずれも覆土から出土している。14の須恵器杯と16の須恵器甕は、東壁中央部寄りの覆土上層から出土している。8の土師器高台付皿は、南壁寄りの中央部、10の土師器小形甕は、南西コーナー部、12の須恵器杯は、南西コーナー部の西壁寄り、16の須恵器甕は、P1南側の覆土上層から出土している。1の、2か所に「子家」と墨書された土師器杯は、東壁中央の北寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。11の須恵器杯は北東コーナー部、20の刀子は中央部、21の鎌は中央部北西寄りの覆土下層から出土している。3の土師器杯は、北西コーナー部の床面及び床面から数cm上部から出土している。15の須恵器高台付杯は、中央部の南東寄りの床面から出土している。

所見 墨書の「子家」の「子」が方向を示すとすれば、谷田(水田面)から高くなって北に延びる斜面部(北側)に位置していることとの関連性も考えられる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第174図 第94号住居跡出土遺物実測図(1)



第 175 図 第 94号住居跡出土遺物実測図(2)

第 94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 174 図 1	土 器 器	A 157	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内へラ磨き、外面 横ナズ。体部下端及び底部回転へ ラ削り。内面黒色処理。	磯・長石・針状鉱物 雲母 淡黄褐色、普通	P 3790 50% PL59 69 体部外面墨書横位 「子家」2カ所
		B 41				
		C 75				
2	土 器 器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内へラ磨き、外面 横ナズ。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3425 10%
		B 42				
		C 70				
3	土 器 器	A 121	体部から口縁部にかけての破片。 体部は彎気味に外傾して立ち上 がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内へラ磨き、外 面横ナズ。内面黒色処理。	長石・針状鉱物・雲 母・赤色粒子 褐色、普通	P 3426 20% 体部外面墨書「」
		B 31				
4	土 器 器	B 15	底部から体部下半にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾しな がら立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面回転へラ 削り。底部回転へラ削り。内面 黒色処理。	長石・針状鉱物・雲 母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3428 10%
		C 80				
5	土 器 器	B 11	体部下端片。体部は外傾しながら 立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面回転へラ 削り。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 3430 9% PL73 体部外面墨書横位 「家」力

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 6	高台付皿 土師器	A 126	底部から口縁部にかけての破片。 高台部欠損。体部は大きく開く。 口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、 外面横ナデ、下端回転へラ削り。 内面黒色処理。	緑・長石・針状鉱物 雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 3427 15% 体部外面墨書「F」
		B 21				
		D 50				
7	高台付皿 土師器	A 140	体部から口縁部にかけての破片。 体部は大きく開く。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、 外面横ナデ、下端回転へラ削り。 内面黒色処理。	緑・針状鉱物・雲母 にぶい褐色、普通	P 3429 5% PL70 体部外面墨書横位「在」
		B 19				
8	高台付皿 土師器	A 120	底部から口縁部にかけての破片。 平底。高台は八の字状に開く。体部はゆるやかに外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、 外面横ナデ。底部調整不明。高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 3431 40%
		B 18				
		D 61				
		E 06				
9	高台付皿 土師器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は大きく開く。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、 外面横ナデ、下端回転へラ削り。	長石・石英・針状鉱物・雲母 外にぶい褐色、内にぶい赤褐色 普通	P 3432 25%
		B 19				
		D 64				
		E 05				
第17図 10	小形甕 土師器	A 105	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至る。頸部はく字状に屈曲する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 内面黒色処理。	緑・長石・石英・雲母 褐色 普通	P 3433 10% 体部外面スス付着
		B 63				
11	坏須恵器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反しする。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3434 60% PL59 底部へラ記号
		B 44				
		C 72				
12	坏須恵器	A 124	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り。	緑・長石・石英 灰色 普通	P 3435 60% PL59 底部へラ記号
		B 42				
		C 56				
13	坏須恵器	A 135	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り。	緑・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3436 40% 体部外面自然釉
		B 48				
		C 52				
14	坏須恵器	B 32	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り後、ナデ。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色、普通	P 3437 35%
		C 74				
15	高台付坏須恵器	A 148	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部はゆるやかに外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。	緑・長石・石英 灰色 普通	P 3438 50% PL59 口縁部及び体部内・外面黒色斑点
		B 34				
		D 68				
		E 09				
16	甕須恵器	A 191	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外傾しながら開く。口縁部は外反し、頸部は垂下する。	口縁部及び頸部内・外面口口ロナデ。	緑・長石・針状鉱物 浅黄色 普通	P 3440 5%
		B 44				
17	甕須恵器	B 106	体部片。	体部内面口口ロナデ、外面縦位の平行叩き。	緑・長石 灰赤色 普通	TP3052 5% 体部内面自然釉
18	甕須恵器	B 92	体部片。	体部内面口口ロナデ、外面縦位の平行叩き。	緑・長石・石英 暗赤褐色 普通	TP3053 5%
19	長頸瓶 灰輪陶器	B 36	高台部片。高台は角高台で、八の字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口口ロナデ後、施釉。底部回転糸切り後、高台貼り付け。	長石 灰白色 普通	P 3439 5% 輪：オリーブ灰色 黒蓋 9号窯式片焼か
		D 84				
		E 08				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第17図	20 刀子	67	14	0.4-0.5	75	鉄	刃部先端及び基部欠損。	M 3066 PL80
	21 鎌	47	32	0.4	193	鉄	基部残存。頸部全面折り返し。	M 3067 PL79

第95号住居跡 (第176～178図)

位置 調査4区の北西部、F4j1区。

規模と平面形 長軸3.36m、短軸2.78mの不整長方形である。

主軸方向 N-41°-E

壁 壁高は24~36cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。濁ったローム土で、踏み固められていない。

ピット 1か所。P1は長径86cm、短径78cmの楕円形、深さ20cmで、南東コーナーに位置する。断面形がレンズ状で浅いことから性格は不明である。

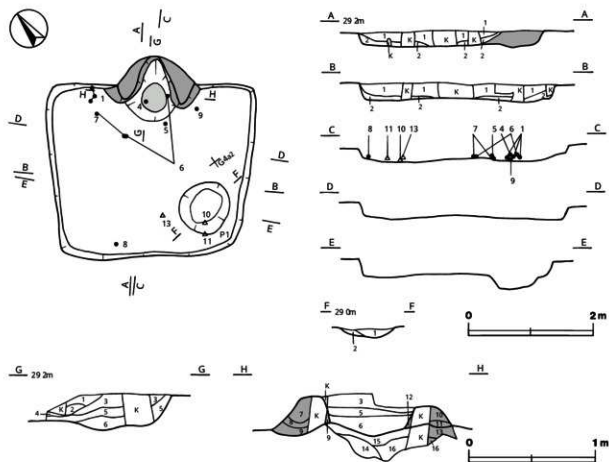
P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化 2 褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
物・炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、袖部が遺存している。袖部は、床面とほぼ同じレベルに粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで120cm、最大幅150cm。壁外への掘り込みは70cmである。袖部内壁及び火床部は、火熱を受けてわずかに赤変している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 白色粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土大ブロック微量
6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量
7 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
10 暗褐色 砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
12 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
13 灰褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量
14 黒褐色 ローム粒子少量・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16 黒褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化粒子微量



第 176 図 第 95 号住居跡実測図

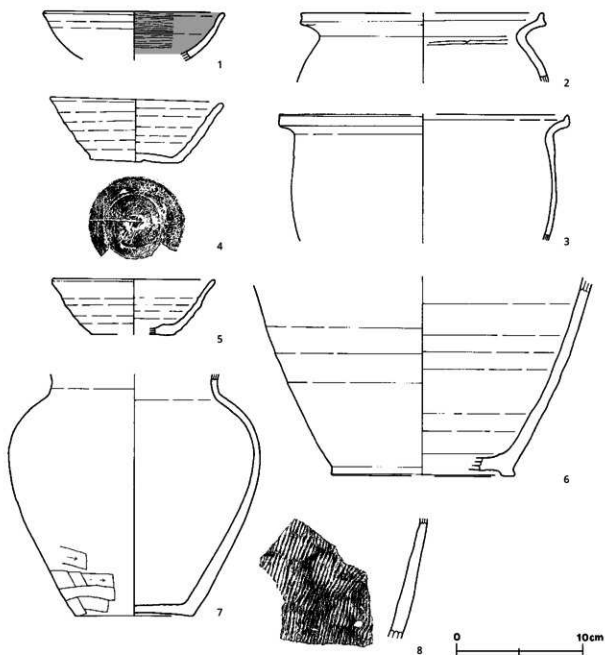
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

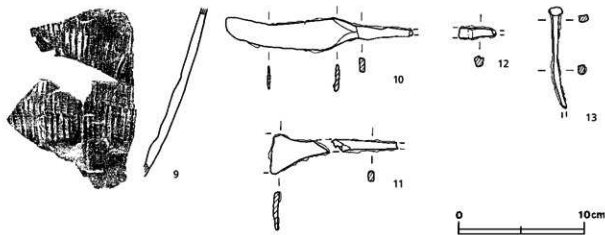
1. 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土
小ブロック・炭化物・炭化粒子・微量
2. 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子
微量

遺物 竈周辺を中心に土師器片295点、須恵器片126点、金属製品5点が出土している。うち土師器片3点、須恵器片6点、金属製品4点(刀子・釘・不明鉄製品)を抽出・図示した。第178図10～12の刀子、13の釘は覆土から出土している。4の須恵器杯は竈の南、8の須恵器甕は南壁中央から西寄りの覆土中層から出土している。1の土師器杯は接合片で、竈左袖部付近の覆土中層から下層にかけて出土している。2の土師器甕は竈の覆土から、3の土師器甕は竈の袖部中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 177 図 第 95 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 178 図 第 95 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 95 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 178 図 1	坏 土器器	A 144 B 38	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。 口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子にふいり褐色、普通	P 3442 30%
2	甕 土器器	A 194 B 54	体部上半から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にふいり赤褐色普通	P 3443 9% 頸部内面輪積み痕
3	甕 土器器	A 231 B 100	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部に至る。頸部は強く屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母 灰色普通	P 3444 10%
4	坏 須恵器	A 138 B 51 C 73	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物 灰色普通	P 3445 53% PL59 底部へラ記号
5	坏 須恵器	A 130 B 44 C 66	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部ナデ。	礫・長石・雲母 灰色普通	P 3446 15% 底部へラ記号、内・外面黒色斑点
6	壺 須恵器	B 157 C 144	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面口口ロナデ。底部に断面四角形の高台貼り付け。	礫・長石 暗灰黄色普通	P 3447 9% 底部内面自然釉、内・外面黒色斑点
7	短頸壺 須恵器	B 192 C 94	底部から頸部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり、上位に最大径を持つ。頸部は直立する。	頸部及び体部内・外面口口ロナデ。底部横位のへラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、良好	P 3448 43% PL 体部両面自然釉
8	甕 須恵器	B 96	体部片。体部は内傾する。	体部外面横位の平行叩き。	礫・長石 灰色普通	TP3055 9%
第 178 図 9	甕 須恵器	B 134	底部から体部下端にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面口口ロナデ、外面横位の平行叩き、下端横位のへラ削り。	長石・雲母 灰色普通	TP3054 9%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考		
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g					
第 178 図	10	刀	子	151	28	0.2~0.5	214	鉄	茎部欠損。	M 3071 PL80
	11	刀	子	104	32	0.3~0.5	177	鉄	茎部残存。	M 3072
	12	不	明	31	08	0.9	38	鉄	断面が長方形。刀子の茎部か。	M 3073
	13	釘		80	06	0.6~0.7	104	鉄	脚部先端欠損。	M 3074 PL80

第96号住居跡（第179～182図）

位置 調査5区南東の斜面部，G7g9区。

規模と平面形 長軸4.92m，短軸4.82mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は20～66cmで，直立する。

壁溝 南壁及び東壁の南半分を除いた壁下を巡っている。規模は，上幅8～18cm，下幅4～10cm，深さ4～10cmで，断面形はU字形である。覆土は，土層図面中の第9層である。

床 確認面から46～78cm掘り込んだ後，焼土等を混ぜたローム土を8～20cm埋めて床面を構築している。やや傾斜している北西コーナー部を除いて，ほぼ平坦である。南壁中央付近から竈にかけての中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1・P3は，それぞれ径30・32cmの円形，深さ36・48cm，P2は長径34cm，短径30cmの円形，深さ66cm，P4は径60cmの円形，深さ26cm・42cmの2段である。ピット間を結ぶ各線が，壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は長径36cm，短径30cmの楕円形，深さ70cmで，竈に相対する南壁の中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 北東コーナー近くに付設されている。長径100cm，短径80cm，深さ21cmの楕円形，断面形は箱葉研状である。

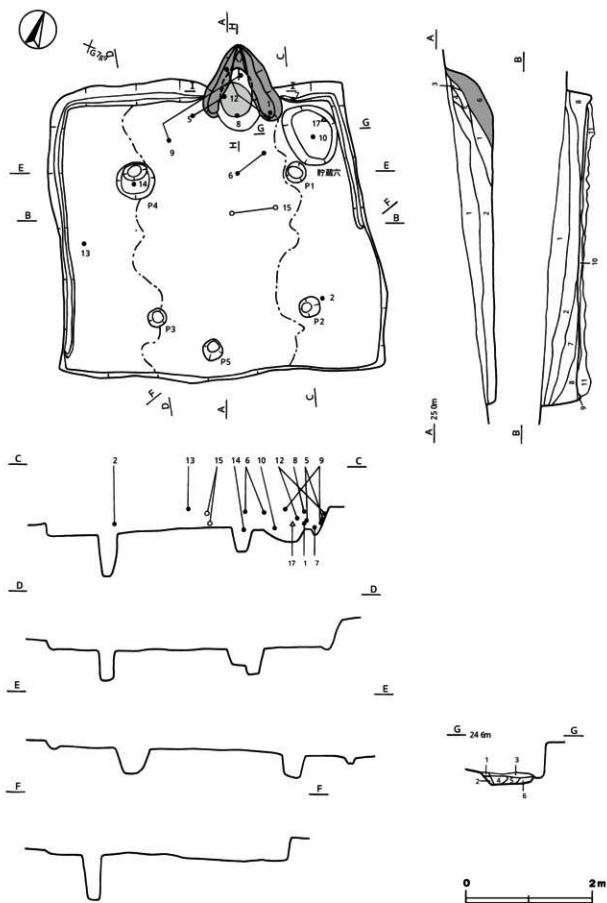
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・砂・礫少量，ローム小ブロック微量 | | |

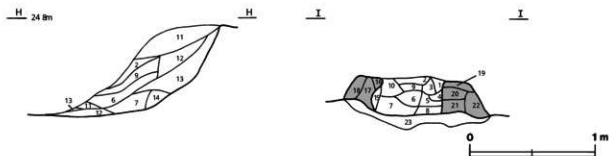
竈 北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部が遺存している。構築部分の床面から20cmほど掘り込んだ後，砂・粘土を混ぜたローム土を埋め戻して基部を作り，その上に粘土・砂粒・礫を混ぜて袖部が構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで140cm，最大幅126cm，壁外への掘り込みは62cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており，浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，火床面からゆるやかに外傾した後，60度の傾斜を持って立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|---------|---|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量 | 15 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子・礫少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 16 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・礫少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量，砂質粘土粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子・礫微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子・礫少量，ローム小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 19 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・礫少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土大ブロック・焼土小ブロック・礫少量 | 20 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・礫少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量 | 21 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・礫少量，焼土小ブロック微量 |
| 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，礫微量 | 22 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 黄褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 23 灰褐色 | 砂質粘土小ブロック多量，ローム粒子中量 |
| 10 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・礫微量 | | |
| 11 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・礫微量 | | |
| 12 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・礫微量 | | |
| 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量 | | |
| 14 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 | | |



第 179 号图 第 96 号住居跡実測图 (1)



第 180図 第 96号住居跡実測図(2)

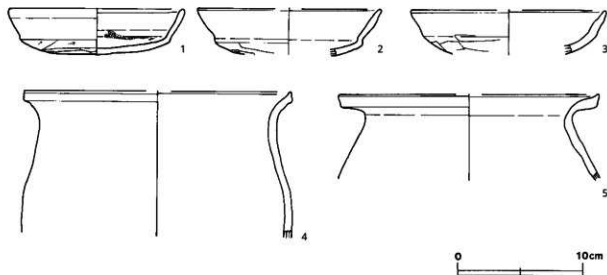
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

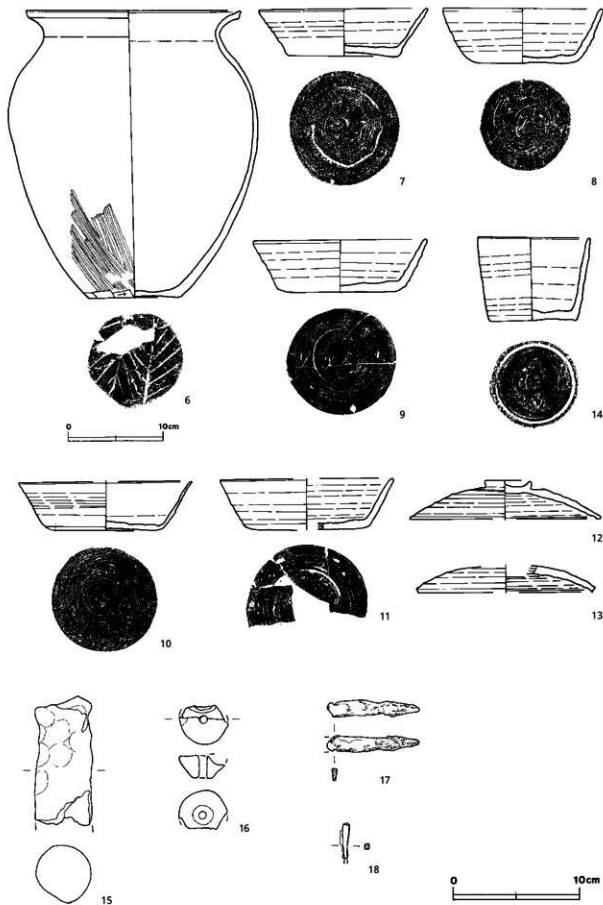
1	黒	色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	黒	色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	9	黒	褐色	ローム粒子少量
3	暗	褐色	砂質粘土粒子微量	10	黒	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
4	暗	赤褐色	砂質粘土粒子少量	11	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量
5	に	ぶい・黄褐色	砂質粘土粒子多量、炭化粒子・礫微量				
6	黒	褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子・礫微量				
7	黒	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子・砂質粘土小ブロック微量				

遺物 竈周辺を中心に土師器1,028点、須恵器129点、土製品1点、石製品1点、金属製品2点が出土している。細片が多く、土師器6点、須恵器8点、土製品1点(支脚)、石製品1点(紡錘車)、金属製品2点(刀子・鉄)を抽出・図示した。第181図3の土師器杯、4の土師器甕、11の須恵器杯、16の紡錘車、18の鎌は、覆土から出土している。6の土師器甕は竈の南、13の須恵器蓋は西壁中央寄りの覆土中層から出土している。2の土師器杯・5の土師器甕は、それぞれP2の東、竈左袖部脇の覆土下層から出土している。8の須恵器杯は、竈の覆土上層から出土している。1の土師器杯は右袖部脇、7・9の須恵器杯はそれぞれ貯蔵穴の北、竈の南西、15の支脚は中央部の床面から出土している。10の須恵器杯と17の刀子は、床面と同レベルの貯蔵穴の確認面から出土している。14の須恵器小形鉢は、P4覆土上層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から7世紀末から8世紀前葉と考えられる。



第 181図 第 96号住居跡出土遺物実測図(1)



第 182 图 第 96 号住居跡出土遺物実測图 (2)

第 96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm		器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		長さ	径				
第 18 図 1	土 師 器	A 140	36	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎管状に外傾しながら立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部内面ナデ。外面ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物・雲母にぶい褐色普通	P 3449 80% PL59 口縁部外面横溝み痕
		B 36					
2	土 師 器	A 147	36	体部下半から口縁部にかけての破片。体部は内彎管状に立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子灰褐色、普通	P 3450 15%
		B 36					
3	土 師 器	A 156	35	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎管状に立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	礫・長石・雲母・針状鉱物にぶい黄褐色、普通	P 3451 15%
		B 35					
4	土 師 器	A 213	115	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3453 20%
		B 115					
5	土 師 器	A 208	66	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部はコの字状に屈曲し、口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3454 10%
		B 66					
第 18 図 6	土 師 器	A 229	301	体部の一部欠損。平底。体部は長筒形を呈し、上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端位へのへら磨き及び横位のへら削り。底部木炭焼。	礫・長石・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3452 90% PL60 火熱を帯び体部下端赤化及びス付着
		B 301					
		C 96					
7	土 師 器	A 135	88	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	礫・長石・石英・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3455 75% PL59
		B 88					
8	土 師 器	A 129	43	体部及び口縁部の一部欠損。肉厚の平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3456 80% 体部外面黒色斑点
		B 43					
		C 70					
9	土 師 器	A 140	41	体部から口縁部にかけて一部欠損。肉厚の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3457 75% PL59 口縁部外面自然輪
		B 41					
		C 82					
10	土 師 器	A 138	39	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3458 50%
		B 39					
		C 84					
11	土 師 器	A 138	40	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り、周縁ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3459 45% 体部外面自然輪
		B 40					
		C 94					
12	土 師 器	A 154	31	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、端部はわずかに垂下する。ボタン状のつまみが付く。	口縁部及び外周部内・外面口クロナデ。天井部回転ヘラ削り後つまみ挿入。	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3460 40%
		B 31					
		F 38					
		G 07					
		G 07					
13	土 師 器	A 140	20	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、端部は屈曲しながら垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口クロナデ。天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物・暗灰褐色普通	P 3461 20%
		B 20					
14	土 師 器	A 89	67	体部及び口縁部の一部欠損。底部外周部がやや突出する平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は尖る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3462 65% PL59 口縁部及び体部外面自然輪
		B 67					
		C 68					

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 18 図 15	支 脚	10.2	4.7	-	239.4	土製	円柱状で、下部欠損。一部赤化。	DP3028

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第182図 16	紡錘車	-	39	18	186	粘板岩	60%。断面が逆台形で、中央部に孔径0.7cmほどの穴が空く。	Q 3023

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第182図 17	刀子	31	39	18	186	鉄	茎部部分で、木質部付着。	M 3078
18	鏝	28	05	04	11	鉄	茎部断面が方形。	M 3079

第97号住居跡（第183・184図）

位置 調査5区の北東部、G7c6区。

規模と平面形 長軸3.82m、短軸3.62mの隅丸方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は40～52cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東及び北西コーナー付近の壁下を巡っている。規模は、上幅18～22cm、下幅8～12cm、深さ6cmほどで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦であり、中央部及び竈周辺を中心に踏み固められている。

ピット 3か所（P1～P3）。P2は径22cmの円形、深さ40cmである。南西コーナー寄りに位置し、底面が南側にオーバーハングしている。P1・P3は長径32～50cm、短径16～40cmの楕円形、深さ40～46cmで竈の両脇の北壁際位置し、底面は北壁方向にオーバーハングしている。南東コーナー部ではピットが確認されなかったが、P1とP3のオーバーハング状況が向かい合うことなどから、P1からP3は柱穴の一部と思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部の一部及び両袖部が遺存している。天井部は厚さ18cmほどで、袖部と同じように粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで96cm、最大幅130cmである。火床面は、床面とはほぼ同じレベルの平坦面を使用している。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、ゆるやかに外傾した後、65°の角度をもって立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量		
4 暗褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子・礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子・礫微量
6 黒褐色	炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	16 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・礫少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、礫微量
9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量	19 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・礫微量
10 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

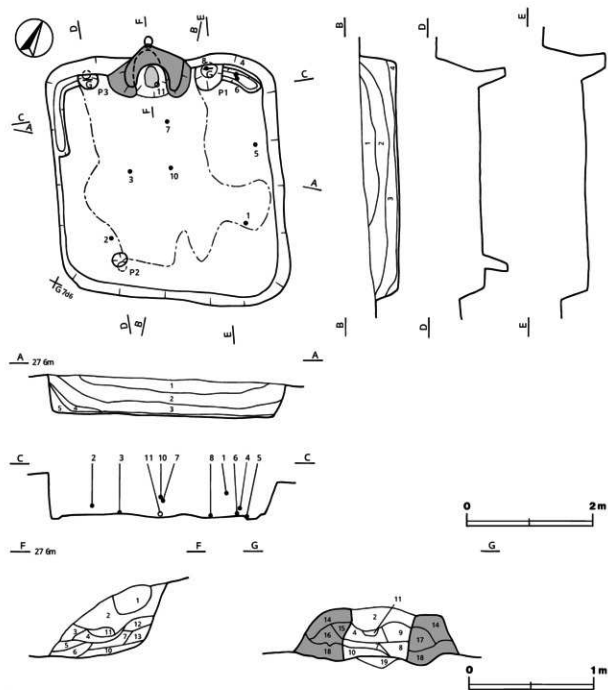
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

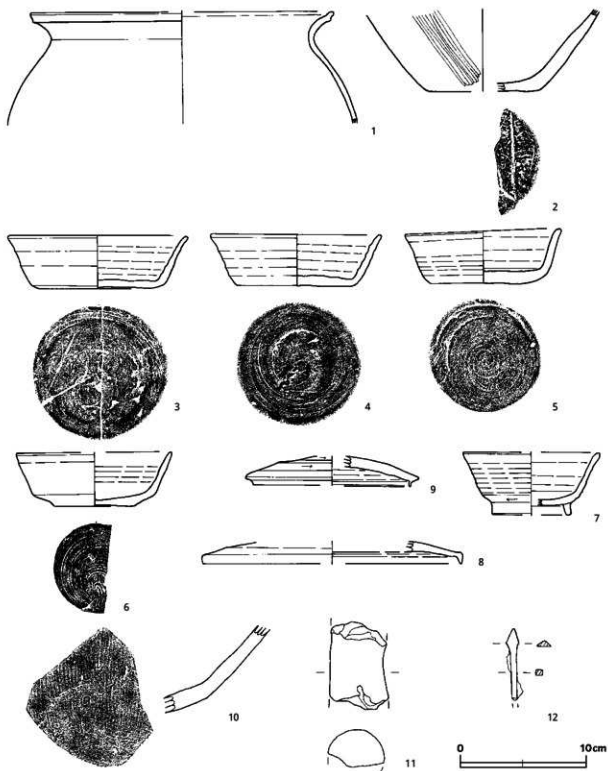
1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量		

遺物 土師器298点、須恵器40点、土製品1点、金属製品2点、鉄滓1点が出土している。うち土師器2点、須恵器8点、土製品1点（支脚）、金属製品1点（鉄鎌）を抽出・図示した。第184図9の須恵器蓋は覆土から出土している。1の土師器甕は中央部の南東寄り、7の須恵器高台付杯は竈南側の覆土中層から出土している。2の土師器甕P2の北、3・5の須恵器杯は、それぞれ中央部及びP1の南、東壁中央近く、4・6の須恵器杯は北東コーナー近くの覆土下層から出土している。8の須恵器蓋はP1の覆土から出土している。10の須恵器甕片は中央部の覆土中層から出土している。11の支脚は、竈の火床面近くから出土している。12の鉄鎌は、貼床中から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第183図 第9号住居跡実測図



第 184 図 第 97 号住居跡出土遺物実測図

第 97 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 184 図 1	甕 土器	A 242 B 88	体部上平から口縁部にかけての破片。 体部は内傾しながら頸部に至り、頸 部はくの字状に屈曲する。口縁部 は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナズ。	礫・長石・石英・雲 母 にぶい褐色 普通	P 3464 9% 体部外面スス付着

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18-図 2	甕 土師器	B 64	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内面積ナデ、外面縦位のヘラ磨き。底部木葉痕。	緑・黒石・石英・雲母・赤色粒子に染み混色、普通	P 3465 5%
		C 92				
3	坏 須恵器	A 142	口縁部の一部欠損。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁ヘラ削り。	緑・長石・雲母 灰白色 普通	P 3466 90% PL59
		B 42				
		C 106				
4	坏 須恵器	A 138	口縁部の一部欠損。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。	緑・長石・雲母 灰白色 普通	P 3467 95% PL59
		B 41				
		C 91				
5	坏 須恵器	A 124	完形。肉厚な平底。体部下端は丸味を持ち、上部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ削り。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3468 100% PL60
		B 43				
		C 86				
6	坏 須恵器	A 123	底部から口縁部にかけての破片。突出した平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端指ナデ。底部回転糸切り。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰白色、良好	P 3469 50% 体部外圍一部自然輪
		B 42				
		C 64				
7	高台付坏 須恵器	A 54	高台部から口縁部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。高台貼り付け。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P 3661 50% 体部外圍自然輪
		B 49				
		D 62				
		E 09				
8	甕 須恵器	A 207	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状を呈する。口縁部は垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3472 15%
		B 17				
9	甕 須恵器	A 140	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状を呈する。口縁部内面にかえりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3473 5%
		B 23				
10	甕 須恵器	B 68	体部の下部片。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。	体部内面口ロナデ、外面縦位の平行叩き。	緑・長石 オリーブ色 普通	TP3056 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第18-図 11	支脚	69	47	-	1156	土製	円柱状と思われる。一部赤化。	DP3029

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第18-図 12	鉢	57	11	04	40	鉄	鋸身の断面三角形。	M 3080 PL79

第98号住居跡（第185～187図）

位置 調査5区の北東部，F7I4区。

規模と平面形 長軸2.98m，短軸2.94mの方形である。竈の左側に棚状施設をもち、幅90cm，奥行き56cmの三角形，確認面からの深さ16cm，床面からの高さ28cmほどである。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は52～60cmで、ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦である。P1から竈にかけての中央部を中心に踏み固められている。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径34cmの円形，深さ22cmである。竈に相対する南壁の中央寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は長径44cm，短径38cmの楕円形，深さ20cmで，南西コーナーに位置する。他のコーナー付近には、ピットが確認されなかったため、性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部及び左袖部は攪乱のため遺存していない。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで130cm，最大幅は106cm，壁外への掘り込みは66cmであ

る。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており、平面形が長楕円形、断面形が皿状をしている。右袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、ゆるやかに外傾して立ち上がる。

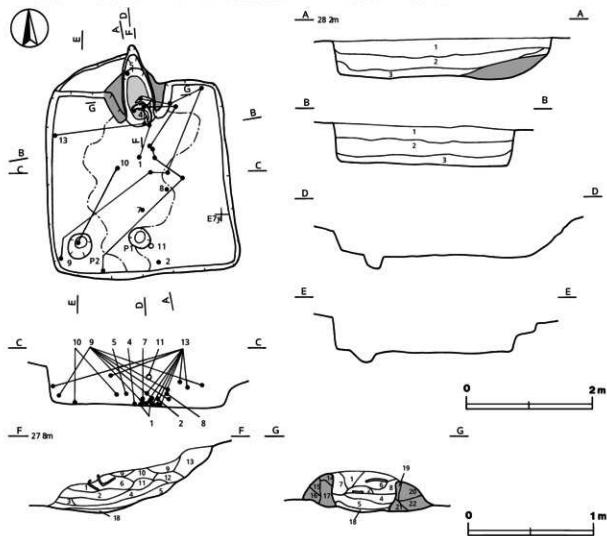
覆土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 4 緑褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 | 18 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・灰少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量 | 21 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 22 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |
| 11 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | | |
| 12 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 | | |
| 13 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | | |

覆土 4層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |



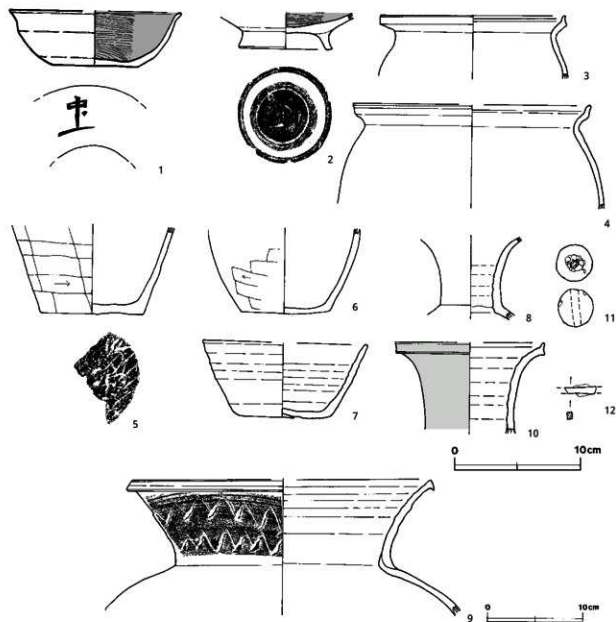
第185図 第98号住居跡実測図

遺物 遺構全体から土師器278点、須恵器56点、灰軸陶器1点、土製品1点、金属製品1点が出土している。

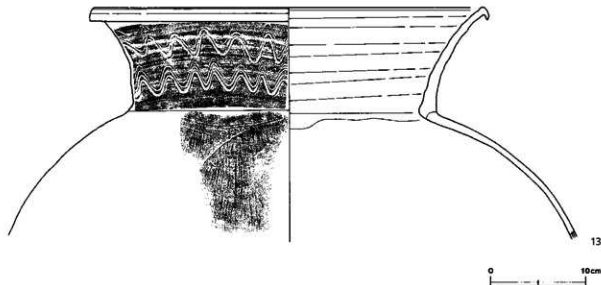
うち土師器6点、須恵器4点、灰軸陶器1点、土製品1点(土玉)、金属製品1点(不明)、鉄滓を抽出・図示

した。第186図6の土師器甕，12の不明鉄製品は覆土から出土している。3の土師器甕は，覆土及び甕の覆土から出土している。11の土玉はP 1 付近，図示しないが，鉄滓は甕左袖部西の北壁際の覆土上層から出土している。13の須恵器大甕の接合片は，甕の覆土及び甕周辺・P 2 周辺・中央部などの覆土上層から中層にかけて，9の須恵器大甕の接合片は，甕周辺・中央部・北東及び南西コーナー部などの覆土中層から下層にかけて，それぞれ出土している。2の土師器高台付杯は南壁中央寄り，7の須恵器杯はP 1 の北，8の須恵器長頸瓶は中央部の覆土中層から，それぞれ出土している。1の土師器杯は，甕の火床面近くの覆土及び甕南の床面から出土している。10の灰釉陶器長頸瓶は，中央部の覆土下層及びP 2 北側の床面から出土している。4・5の土師器甕は，甕の覆土から出土している。

所見 10の灰釉陶器の長頸瓶は，井ヶ谷78窯式段階と思われる。また，甕の補強に使われた大甕片は，胎土の含有物等から水戸市木葉下町付近の窯で焼かれたものと思われる。時期は，遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 186 図 第 98 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 187 図 第 98 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 98 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 185 図 1	土 師 器	A 135	口縁部及び体部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にふくむ褐色、普通	P 3474 60% PL60 73 体部外面磨正位「中上」力
		B 38				
		C 53				
2	高台付 坏 土 師 器	B 30	高台部から体部下半にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にふくむ褐色、普通	P 3475 15%
		D 74				
		E 14				
3	甕 土 師 器	A 148	体部上半から口縁部かけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 明赤褐色、普通	P 3476 5%
		B 50				
4	甕 土 師 器	A 190	体部上半から口縁部かけての破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 赤色、普通	P 3477 5% 体部外面火熱により赤化
		B 81				
5	甕 土 師 器	B 69	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面横位のへラ削り。底部内面指ナデ、底部木葉痕。	長石・雲母 暗赤褐色	P 3478 10% 体部外面一部スス付着
		C 80				
6	甕 土 師 器	B 68	底部から体部中位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面横位のへラ削り。底部内面指ナデ、外面調整不明。	長石・石英・赤色粒子にふくむ褐色、普通	P 3479 10% 体部外面一部スス付着
		C 72				
7	坏 須 恵 器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。口縁部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物・雲母 暗灰黄色、普通	P 3480 25% 体部下面及び底部スス付着
		B 59				
		C 64				
8	長頸瓶 須 恵 器	B 66	頸部片。口頸部は外反する。	頸部内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P 3482 5% 内・外面自然輪
第 185 図 13	大 甕 須 恵 器	A 414	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は下方に突出する。	口頸部内面口ロナデ、外面横歯状工具 4 本 による波状文 2 状 施文。体部外面平行叩き。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P 3483 10% PL60
		B 248				
第 189 図 9	大 甕 灰 輪 陶 器	A 320	頸部から口縁部にかけての破片。口頸部は外反しながら立ち上がる。口縁端部は下方に突出する。	口頸部内・外面口ロナデ。外面へラ状工具による波状文 2 条 施文。	礫・長石・針状鉱物 灰色 良好	P 3484 20% PL60 内・外面自然輪
		B 140				
10	長頸瓶 灰 輪 陶 器	A 120	口頸部片。頸部は直立気味に立ち上がり、中位で外反する。口縁端部は上下に突出する。	口頸部内・外面口ロナデ後、外面施輪。	礫・長石・石英 灰黄色 良好	P 3481 5% PL60 輪オリ・ブ灰色 井ヶ谷 7 層式段階
		B 72				

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第18図 11	土玉	-	3	06	220	土製	断面形が球状。孔付近の一部欠損。	DP3030

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第18図 12	不明	25	05	04	19	鉄	断面が方形。	M 3083

第99号住居跡（第188～191図）

位置 調査5区の北東部、G7a1区。

規模と平面形 長軸4.24m、短軸3.92mの長方形である。竈の右側に棚状施設をもち、幅126cm、奥行き44cmの長方形、確認面からの深さ20cm、床面からの高さ46cmほどである。覆土は、第7層である。

主軸方向 N-2°-E。

壁 壁高は54～62cmで、ほぼ直立する。

壁溝 北東コーナー部付近を除き、壁下を巡っている。規模は、上幅14～26cm、下幅8～20cm、深さ4～10cmほどで、平面形はU字形である。

床 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。南壁中央部付近から竈にかけて踏み固められている。中央部南寄りに長径104cm、短径58cmの長楕円形、深さ5cmほどの皿状で、焼けて赤く硬化した窪みがある。

ピット 1か所。P1は径26cmの円形、深さ39cmで、北東コーナーに位置する。覆土は、焼土粒子や焼土小ブロック混じりである。性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、袖部が遺存している。袖部は、床面とほぼ同じ高さを基部とし、粘土・ローム土・砂粒・礫を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで114cm、最大幅141cm、壁外への掘り込みは70cmである。火床面は床面とほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量	16 暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	18 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ロー小ブロック・焼土粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量	19 暗赤褐色	焼土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5 極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	20 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・礫微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	21 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量	22 明褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量
8 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	23 明褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・礫微量
9 暗褐色	ローム粒子中量、礫微量	24 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
10 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂微量	25 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量
11 黒褐色	ローム粒子・礫微量	26 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・礫微量
12 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量	27 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量
13 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂微量	28 褐色	砂質粘土粒子少量、礫微量
14 暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子微量	29 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量		

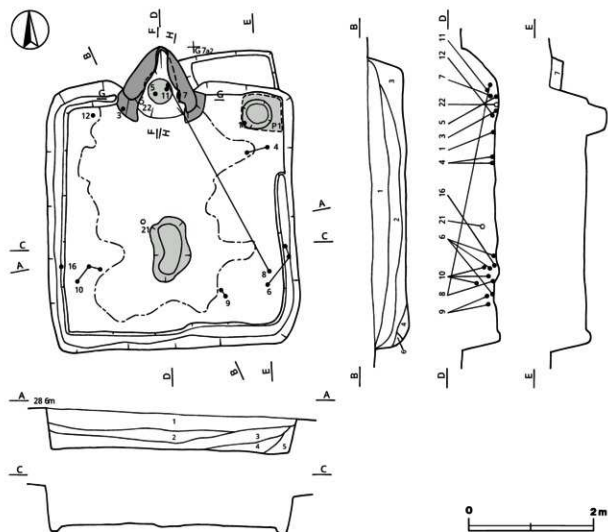
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

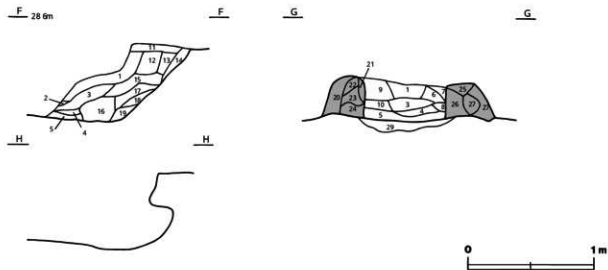
1 黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 極暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量		

遺物 土師器片489点、須恵器片143点、土製品2点、軽石1点、金属製品1点が出土している。うち土師器9点、須恵器11点、土製品2点（土玉）、軽石1点、金属製品1点（不明鉄製品）を抽出・図示した。第190図2の土師器杯、13・14の須恵器杯、17の須恵器鉢片、19・20の須恵器飯片、24の不明鉄製品は、覆土から出土している。15の須恵器高台付杯は接合片で、覆土及び竈の覆土から出土している。9の土師器甕は南東コーナー近く、10の須恵器杯は南西コーナー近く、21の土玉は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。1の土師器杯は北東コーナー近く、4の土師器高台付皿は東壁中央近く、12の須恵器杯は竈左袖部の西、16の須恵器高台付皿は西壁南西コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。8の土師器甕は南東コーナーの覆土下層及び竈の覆土から出土している。6の土師器甕の接合片は、南東コーナー付近の覆土下層から床面にかけて出土している。18の須恵器飯片と22の土玉は、竈の覆土から出土している。5の土師器高台付皿と11の須恵器杯は、竈の火床面近くから出土している。7の土師器甕片は、竈右袖部の内壁に補強材として使用されているもので、火熱を受けて赤褐色を呈している。

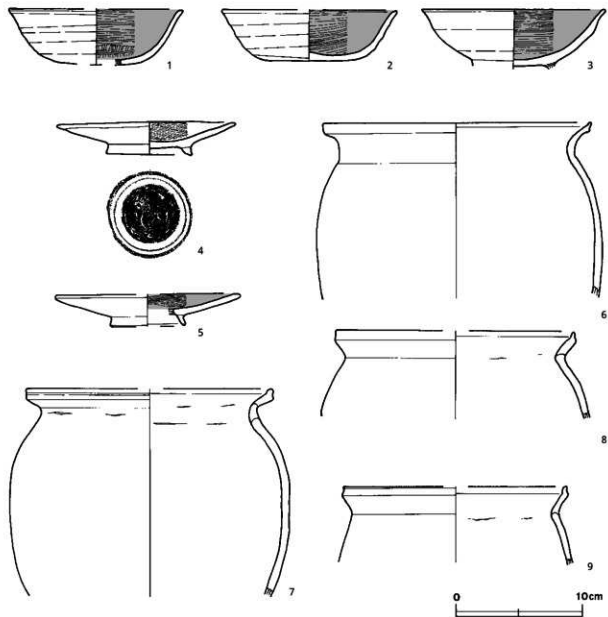
所見 床面の中央部南寄りに、長楕円状の赤く焼けて硬化した部分と鉄滓が検出されたことから、床面の土を採取して鍛造剥片等の有無を調べたが、鍛冶炉等の痕跡は認められなかった。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



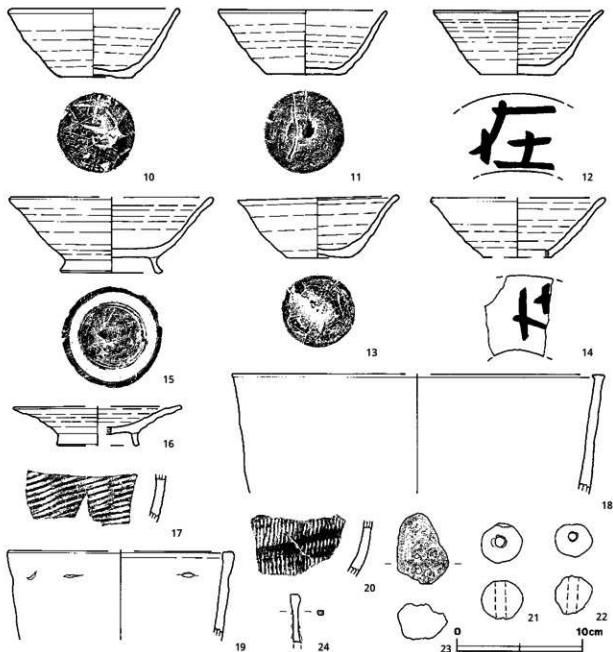
第188図 第99号住居跡出土遺物実測図(1)



第 189 图 第 99 号住居跡実測图 (2)



第 190 图 第 99 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 191 図 第 99 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 99 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 191 図 1	環	A 138	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面下端回転へラ削り。底部調整不 明。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にふい橙色、普通	P 3485 45%
	土器 器	B 44				
	C 64					
2	環	A 141	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面下端回転へラ削り。底部横位の へラ削り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母・赤 色粒子 にふい橙色、普通	P 3486 40%
	土器 器	B 41				
	C 73					
3	高台付環	A 146	体部・口縁部の一部及び高台部欠 損。体部は内彎気味に外傾して立 ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナズ。底部回転へラ削り。内 面黒色処理。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 橙色、普通	P 3487 80% PL60
	土器 器	B 49				
4	高台付皿	A 144	体部及び口縁部の一部欠損。高台 はハの字状に開く。体部は大きく 開き口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナズ。底部調整不明。	磯・長石・石英・雲 母 橙色 普通	P 3488 95% PL60
	土器 器	B 36				
	D 70					
	E 08					

図版番号	器種	計測値 cm		器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		長さ	幅・径				
第19図 5	高台付 土師器	A	147	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は大 きく開き口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。底部調整不明。内面黒 色処理。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 褐色 普通	P 3489 25%
		B	25				
		D	60				
		E	09				
6	甕 土師器	A	214	体部中位から口縁部にかけての破片。 体部は上位に最大径を持つ。頸部 はくの字状に屈曲する。口縁端部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母 にぶい黄褐色 普通	P 3490 39% PL61 体部内面入付着
		B	139				
7	甕 土師器	A	198	体部中位から口縁部にかけての破片。 体部は上位に最大径を持つ。頸部 はくの字状に屈曲する。口縁端部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母 明褐色 普通	P 3491 25% 頸部内・外面輪積 み痕
		B	164				
8	甕 土師器	A	192	体部上半から口縁部にかけての破片。 体部は内傾しながら頸部に至り、頸 部はくの字状に屈曲する。口縁端部 は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ、外面指ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 3492 10% 頸部外面輪積み痕 体部外面焼土付着
		B	69				
9	甕 土師器	A	180	体部上半から口縁部にかけての破片。 体部は内傾しながら頸部に至り、頸 部はくの字状に屈曲する。口縁端部 は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 3493 10%
		B	63				
第19図 10	環 須恵器	A	138	充形器。平底。体部は内彎意味に 外傾しながら立ち上がる。口縁部 は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・雲母 明褐色 普通	P 3494 100% PL60 底部ヘラ記号
		B	55				
		C	59				
11	環 須恵器	A	137	充形器。平底。体部は内彎意味に 外傾しながら立ち上がる。口縁部 は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ切り後、横位の ヘラナデ。	礫・長石・石英・雲 母 にぶい褐色、普通	P 3495 100% PL60 底部ヘラ記号
		B	51				
		C	64				
12	環 須恵器	A	136	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ切り。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針 状鉱物 灰黄色、普通	P 3496 89% PL60 底部ヘラ記号、体部 外面調整正位「在」
		B	52				
		C	62				
13	環 須恵器	A	130	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ切り。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱 物 灰色、普通	P 3497 70% PL60 底部ヘラ記号
		B	49				
		C	52				
14	環 須恵器	A	138	底部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎意味に外傾しながら立 ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	長石・石英・針状鉱 物・雲母 灰白色、普通	P 3498 10% PL70 体部外面黒書横位 「在」
		B	47				
		C	56				
15	高台付 須恵器	A	160	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は直 線的に外傾しながら立ち上がる。 口縁部は外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。体部 内面口クロナデ、外面下縁回転ヘ ラ刷り。底部回転ヘラ切り後、高 台貼り付け。	礫・長石・針状鉱物 補灰色 普通	P 3499 30% 底部ヘラ記号 体部内面自然焼
		B	59				
		D	80				
		E	10				
16	高台付 須恵器	A	134	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部調整不明。	礫・長石・石英・針 状鉱物 補灰色 普通	P 3500 40% PL60
		B	31				
		D	66				
		E	10				
17	甕 須恵器	B	38	体部片。	体部内面口クロナデ、外面横位の 平行叩き。	礫・長石 灰色 普通	TP3058 5%
18	甕 須恵器	A	300	体部上半から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に外傾しながら立 ち上がる。口縁端部は内側に突出する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	礫・長石・石英・針 状鉱物 浅黄褐色、普通	P 3501 5%
		B	94				
19	甕 須恵器	A	181	体部上半から口縁部にかけての破 片。体部は直線的に外傾ながら 立ち上がる。口縁端部は角張って 面取りされている。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	礫・長石・石英・針 状鉱物 にぶい黄褐色 普通	P 3502 5%
		B	70				
20	甕 須恵器	B	44	体部片。	体部内面口クロナデ、外面横位の 平行叩き。	礫・長石 灰白色 普通	TP3057 5% 内・外面黒色斑点 普通

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	孔径 cm	重量 g			
第19図	土 玉	-	33	08	267	土製	断面形が球状。	DP3031

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第19図 22	土 玉	-	30	08	156	土製	断面形が楕円状。	DP3032

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第19図 23	軽 石	56	43	28	97	軽石	一部欠損。	Q 3024

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第19図 24	不 明	37	05	03	19	鉄	断面が長方形。	M 3085

第100号住居跡 (第192~194図)

位置 調査5区の東部、G7d3区。

規模と平面形 長軸3.84m, 短軸3.74mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は50~86cmで、ほぼ直立する。

壁溝 電の付設部分を除き、全壁下を巡っている。規模は、上幅10~18cm, 下幅6~10cm, 深さ4~12cmほどで、断面形はU字形である。

床 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。ローム土で、踏み固めは認められない。

ピット 1か所。P1は径24cmの円形、深さ15cmである。電と向かい合う南壁際中央近くに位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁の中央部に付設されている。廃絶時に壊されたと思われ、左袖部だけが遺存している。袖部は、床面とほぼ同じ高さを基部として、砂粒を混ぜた粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで160cm, 幅は左袖部の一部分が土坑に掘り込まれているので確認できた幅は180cm, 壁外への掘り込みは80cmである。火床面は、床面を10cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部内壁・火床面・煙道は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床面からやや外傾して立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|---|
| 1 暗褐色 | 砂少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・砂微量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 | | |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂微量 | | |

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積しているが、上層から床面にかけて出土した破片に接合できる遺物があることなどから人為堆積と思われる。

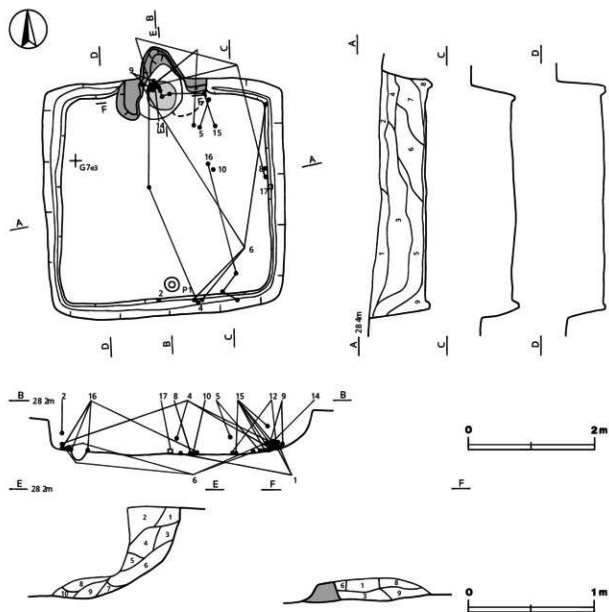
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|---|
| 1 灰褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

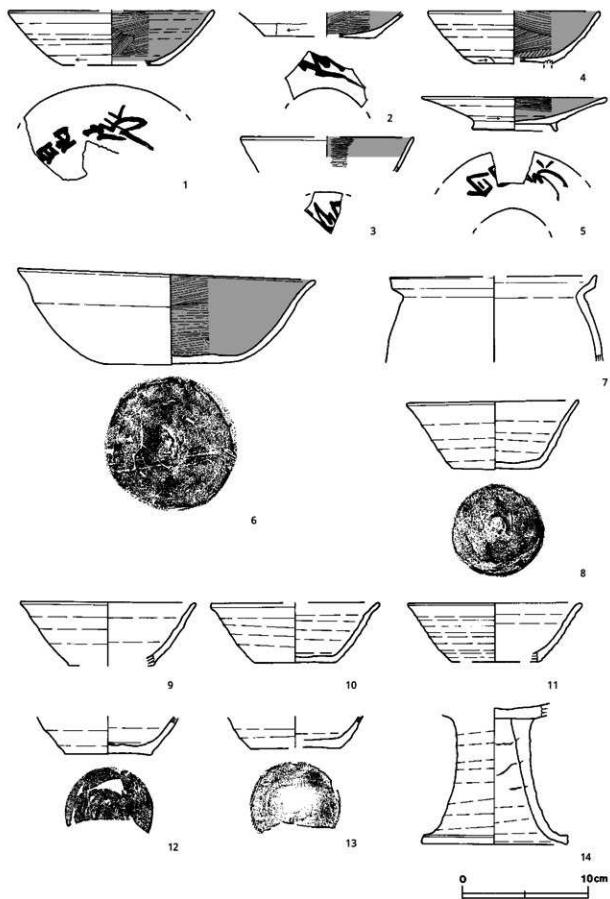
遺物 土師器片358点, 須恵器片136点, 灰釉陶器3点, 石製品1点, 鉄滓1点が出土した。うち土師器7点, 須恵器8点, 灰釉陶器1点, 石製品1点(砥石), 鉄滓1点を抽出・図示した。第193図3の土師器坏, 7の土

師器甕, 11・13の須恵器杯, 18の鉄滓は, 覆土から出土している。2の土師器杯は, 南壁中央部近くの覆土中層から出土している。4の土師器高台付杯は接合片で, 中央部の覆土中層及び竈の覆土から出土している。5の土師器高台付皿は, 竈右袖部付近の覆土下層から出土している。6の土師器鉢は接合片で, 覆土, 竈の覆土, 南壁際中央の覆土下層, 北東コーナー部の壁溝中から出土している。12の底部にヘラ書きされた須恵器杯は, 竈の覆土及び竈右袖部南の床面から出土している。15の須恵器短頸壺は, 覆土, 竈右袖部の東の覆土上層及び床面から出土している。16の灰釉陶器長頸瓶は, 中央部及び南東コーナー近くの床面から出土している。17の砥石は, 東壁際中央の壁溝から出土している。9の須恵器杯は, 竈の覆土から破片がままとめて出土している。14の須恵器高盤の脚部片は, 竈の火床部に数センチ埋まり, 立位の状態で出土している。器面には焼土が付着しており, 支脚に使用されたと思われる。

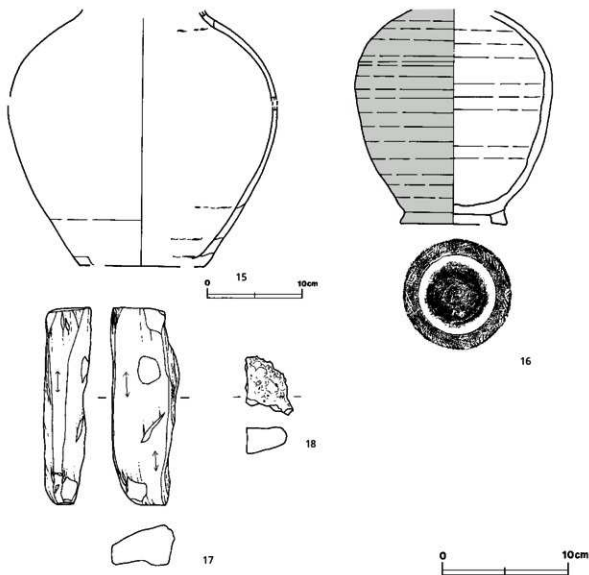
所見 灰釉陶器は, 黒笹14号窯式段階のものと思われる。また, 「畠家」, 「家」などと墨書きされた土師器, ヘラ書きされた須恵器が出土していることから, 本跡はこの時期の中心的な住居と考えられる。時期は, 遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 192図 第 100号住居跡実測図



第 193 图 第 100 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 194図 第 100号住居跡出土遺物実測図(2)

第 100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 193図 1	坏 土 器	A 166	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾しな がら立ち上がる。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ、外面下端回転へラ磨り。 底部調整不明。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲 母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3503 20% PL60 69 体部外面墨書横位 「鳥家」
		B 43				
		C 82				
2	坏 土 器	B 20	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面下端回転 へラ磨り。底部調整不明。内面黒 色処理。	長石・針状鉱物・雲 母 褐色、普通	P 3504 10% PL73 体部外面墨書横位 「家」
		C 90				
3	坏 土 器	A 140	体部から口縁部にかけての破片。 口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい褐色	P 3505 9% PL73 体部外面墨書横位 「家」力
		B 27				
4	高台付 坏 土 器	A 136	底部から口縁部にかけての破片。 高台部欠損。体部は内彎気味に外 傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ、体部下端及び底部回転 へラ磨り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母 褐色、普通	P 3506 20% PL60
		B 42				
5	高台付 皿 土 器	A 147	口縁部及び体部の一部欠損。平底。 体部は大きく開き、口縁部はやや 外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端回転へラ磨り。 底部へラ切り後、高台貼り付け。 内面黒色処理。	礫・長石・石英・針 状鉱物 にぶい褐色 普通	P 3507 80% PL60 体部外面墨書横位 「鳥家」
		B 28				
		D 66				
		E 07				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 6	鉢 土師器	A 238	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母にふい黄褐色、普通	P 3508 70% PL60
		B 78				
		C 102				
7	甕 土師器	A 164	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内湾気味に頸部に至り、頸部はく字状に屈曲する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・面横ナデ。体部内面横ナデ、外面へラナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色普通	P 3509 5%
		B 68				
8	環 須恵器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ切り。	磯・長石・針状鉱物 補灰色普通	P 3510 60% PL60 内・外面黒色斑点
		B 54				
		C 56				
9	環 須恵器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 褐色、普通	P 3511 40% PL60
		B 49				
		C 68				
10	環 須恵器	A 136	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰オリブ色、普通	P 3512 45% PL61 内・外面黒色斑点
		B 47				
		C 66				
11	環 須恵器	A 139	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	磯・長石・石英・針状鉱物 にふい褐色、普通	P 3513 30%
		B 47				
		C 70				
12	環 須恵器	A 137	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色普通	P 3514 23% 底部へラ磨き「J」
		B 48				
		C 78				
13	環 須恵器	B 25	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色普通	P 3515 25%
		C 72				
14	高 須恵器	B 111	脚部片。脚部はラッパ状に開き、頸部はつまみ出されている。	輪積み後、脚部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3516 40% 内面輪積み痕、脚部焼土付着
		D 118				
		E 99				
第19図 15	短 須恵器	B 264	底部から体部上半にかけての破片。平底。内湾気味に外傾して立ち上がり、上位に最大径を持つ。	体部内・外面口ロナデ、外面下端へラナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰褐色、普通	P 3518 50% 体部上部外面及び内面下端自然磨
		C 132				
16	長 灰輪陶器	B 179	高台部から体部上部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は内湾しながら立ち上がり、上位に最大径を持つ。	体部内面口ロナデ、外面上半口ロナデ、下半回転へラ削り。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英にふい黄褐色普通	P 3517 70% PL61 輪：オリブ黄色 弁ヶ谷7號式段階
		D 84				
		E 10				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第19図 17	砥 石	157	56	32	4261	砂岩	2面使用。	Q 3025 PL78

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第19図 18	鉄 滓	45	38	21	457	鉄	鉄滓片。	M 3086

第105号住居跡 (第195・196図)

位置 調査5区の北東部、F7h2区。

規模と平面形 東西壁は4.54m、北側が調査区外(町道部分)に延びるため検出された南北壁は4.14mである。

平面形は長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-Wと推定される。

壁 壁高は60~80cmで、ほぼ直立する。

壁溝 検出できたすべての壁下を巡っている。規模は、上幅16~26cm、下幅6~18cm、深さ6~18cmで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦で、P1の北側から調査区域にかけての中央部が踏み固められている。P1の北(砂山1)と中央部北寄り(砂山2)に、ローム土混じりの砂礫の小高いまとまりがある。砂山1は、径60cmの円形、床面からの高さ18cm、砂山2は、長径52cm、短径42cmの楕円形、床面からの高さ6cmである。埋め戻された時に入り、固まったと思われる。

砂山1土層解説

1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・礫少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・砂少量

砂山2土層解説

1 褐色 砂中量、ローム小ブロック・礫少量、炭化粒子微量

ピット 1か所。P1は長径40cm、短径34cmの楕円形、深さ78cmである。南壁際の中央付近に位置することや底面が北側にオーバーハングしていることなどから出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 7層からなる。第3層全体がしまりを持っていること、ブロック状に堆積する層があること、含有物が類似していることなどから人為堆積であると思われる。

土層解説

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

5 褐色 ローム粒子少量

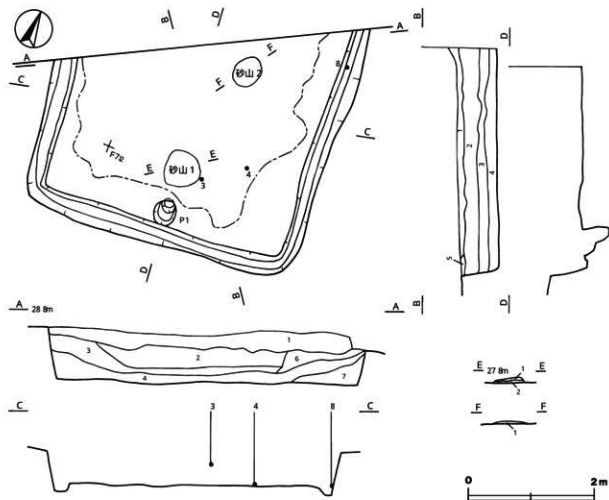
2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、
焼土粒子微量

6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子
微量

3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子
微量

7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・
焼土粒子・炭化粒子微量

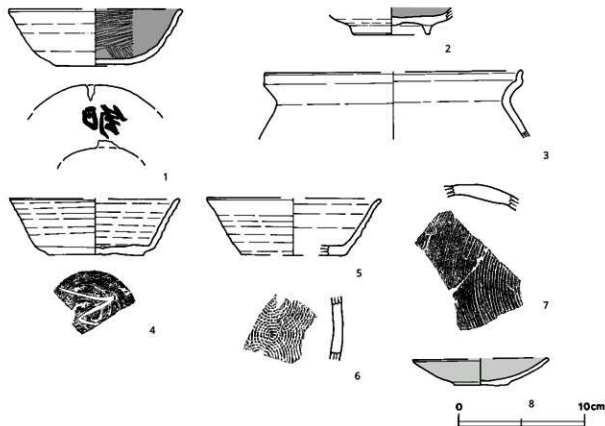
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・
ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第195図 第10号住居跡実測図

遺物 土師器片262点、須恵器片73点、緑釉陶器1点が出土している。細片が多く、土師器3点、須恵器4点、緑釉陶器1点を抽出・図示した。第196図1の「他田」と墨書された土師器杯の接合片、2の土師器高台付杯、5の須恵器杯、6の須恵器甕片、7のカキ目が施された須恵器横瓶片は、ともに覆土から出土している。3の土師器甕、4の須恵器杯は、砂1の東の覆土下層及び中層から隣り合って出土している。8の緑釉陶器皿は、東壁際北寄りの床面から正位の状態で出土している。

所見 8の緑釉陶器皿は、胎土の粒子が細かく軟質で、乳白色を呈している。釉は淡黄色で、表裏とも丹念に塗られている。時期は、遺構の形態及び出土遺物などから8世紀末から9世紀初頭と考えられる。



第196図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 1	土師器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部及び体内内・外面横ナデ。	緑・長石・針状鉱物・雲母 にぶい橙色、普通	P 3520 40% PL61 69 底部墨書横位「他田」
		B 45	平底。体部は内覆契味に外傾して立ち上がる。口縁部はや外反する。	体部下端及び底部回転ヘラ削り。		
		D 61		内面黒色処理。		
2	高台付杯 土師器	B 21	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	緑・長石・針状鉱物・雲母 橙色、普通	P 3521 10%
		D 62				
		E 08				
3	甕 土師器	A 206	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体内内・外面横ナデ。	緑・長石・針状鉱物・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 3522 5%
		B 53				
4	杯 須恵器	A 146	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は下縁に稜を持ち、直線的に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体内内・外面口口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁ヘラナデ。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3524 23%
		B 45				
		C 76				
5	杯 須恵器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体内内・外面口口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	緑・長石 灰白色 普通	P 3525 10%
		B 45				
		C 82				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 6	甕 須 器	B 51	体部片。	体部外面同心円叩き。	礫・長石・貫母 灰白色 普通	TP3060 5%
7	横 須 器	B 23	体部片。体部は内彎する。	体部外面力半目。	礫・長石 灰色 良好	TP3059 5% 内・外面黒色斑点
8	皿 鉢 陶器	A 110 B 21 C 44	底部から口縁部にかけての破片。 やや突出する平底。体部は内彎気 味に開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ ず。底部回転ヘラ削り。全面磨地。	長石 淡黄色 良好	P 3528 20% 種：黄色 臍内系

第111号住居跡（第197・198図）

位置 調査5区の北部、F6h3区。

規模と平面形 長軸3.66m、短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は46～50cmで、ほぼ直立する。

壁溝 一部途切れる所はあるが、西壁を除く壁下を巡っている。規模は、上幅12～24cm、下幅4～12cm、深さ6～8cmで、断面形はU字形である。

床 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。P1北側から竈にかけての中央部が踏み固められている。床面に炭化物・炭化粒子・礫・砂混じりの締まりのある粘土塊が、7か所見られた。埋め戻し時に入ったものと思われる。

ピット 1か所。P1は径36cmほどの円形、深さ34cmで、竈に向かい合う南壁中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで156cm、最大幅128cm、壁外への掘り込みは76cmである。火床面は床面とほぼ同じレベルで、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	黒	褐色	色	砂質粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量	14	褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、礫微量			
2	暗	褐色	色	砂質粘土粒子多量、炭化粒子微量	15	暗	褐色	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
3	暗	褐色	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	16	暗	褐色	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫少量		
4	極	暗	褐色	色	砂質粘土粒子・灰少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	17	暗	褐色	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	
5	黒	褐色	色	炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子・灰少量	18	暗	褐色	色	ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
6	黒	褐色	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	19	に	ぶい	褐色	色	砂質粘土粒子多量、砂質粘土中ブロック・礫微量	
7	黒	褐色	色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	20	に	ぶい	褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、礫微量	
8	黒	褐色	色	砂質粘土粒子少量	21	褐色	色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、礫微量			
9	に	ぶい	黄褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック少量、礫微量	22	に	ぶい	褐色	色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・礫微量
10	暗	褐色	色	ローム粒子少量	23	褐色	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量			
11	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	24	灰	褐色	色	砂質粘土粒子中量、礫微量			
12	暗	褐色	色	砂質粘土粒子中量、砂質粘土大ブロック少量、ローム小ブロック微量	25	暗	赤褐色	色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量		
13	褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土大ブロック・炭化物微量								

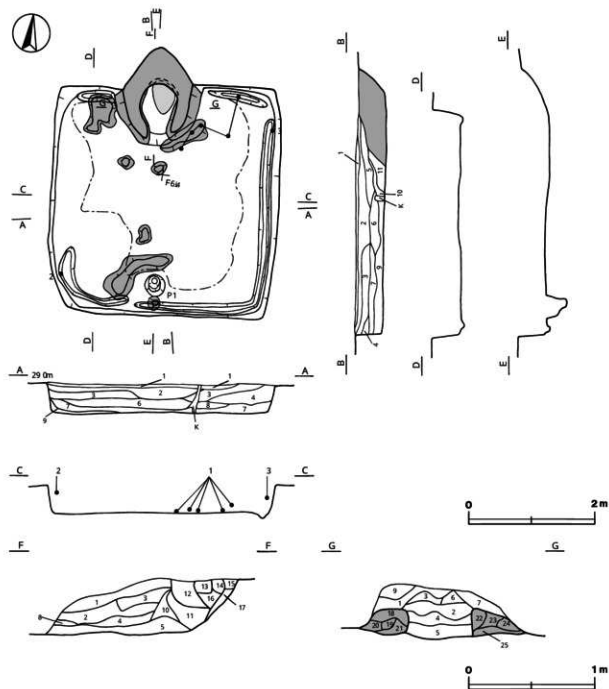
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積しているが、各層の含有物や色調が類似していること、出土遺物が上層から中層にかけて集中していることなどから、短時間に埋まったものと考えられるので人為堆積と思われる。

土層解説

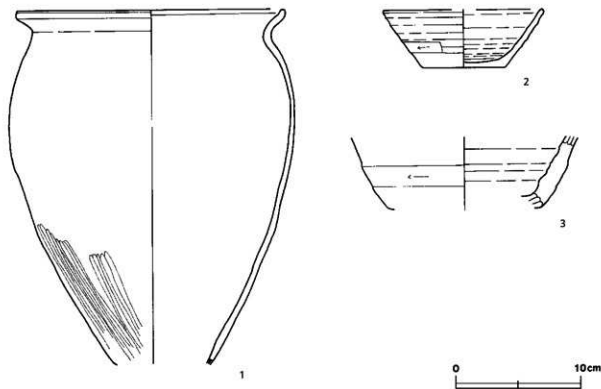
1	暗	褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	3	暗	褐色	色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・炭屑パミス粒子微量
2	暗	褐色	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	4	黒	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子微量

- | | | | |
|--------|--|---------|---------------------------------|
| 5 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・赤色粒子・礫少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 11 極暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量 |

遺物 土師器片 8点, 須恵器片 20点と少ない。うち土師器 1点, 須恵器 2点を抽出・図示した。第198図2の須恵器杯は, 南西コーナーの覆土上層から出土している。3の須恵器壺は, 北東コーナー寄りの覆土中層から出土している。1の土師器甕は接合片で, 竈右袖部付近, 北壁際の覆土下層及び竈の覆土から出土している。所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から9世紀中葉と思われる。



第 197 図 第 11 号住居跡実測図



第 198図 第 111号住居跡出土遺物実測図

第 111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 198図 1	甕 土 師 器	A 212 B 284	体部下端から口縁部にかけての破片。 体部は長胴形を呈し、上位に最大径 を持つ。頸部はくの字状に外反する。 口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ、外面下端縦位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 に富む 白色 普通	P 3529 5% PL61 体部下端一部スス 付着
2	坏 須 恵 器	A 126 B 46 D 66	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立 ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ ナデ。体部外面下端回転ヘラ磨り。 底部回転ヘラ切り。	礫・長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P 3530 20%
3	壺 須 恵 器	B 58	体部片。体部は内彎意味に外傾し ながら立ち上がる。	体部内面口ロナナデ、外面下端回 転ヘラ磨り。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P 3531 5% 内・外面黒色斑点

第112号住居跡（第199・200図）

位置 調査5区の東部，G7d1区。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.46mの方形である。

主軸方向 N - 5° - E

壁 壁高は56～70cmで，ほぼ直立する。

壁溝 北壁の東側を除く壁下を巡っている。規模は，上幅14～24cm，下幅6～10cm，深さ4～8cmで，断面形は幅広のU字状である。覆土は，第12層である。

床 小さな凸凹はあるが，ほぼ平坦である。P1北側から竈及び北西方向にかけての中央部が踏み固められている。

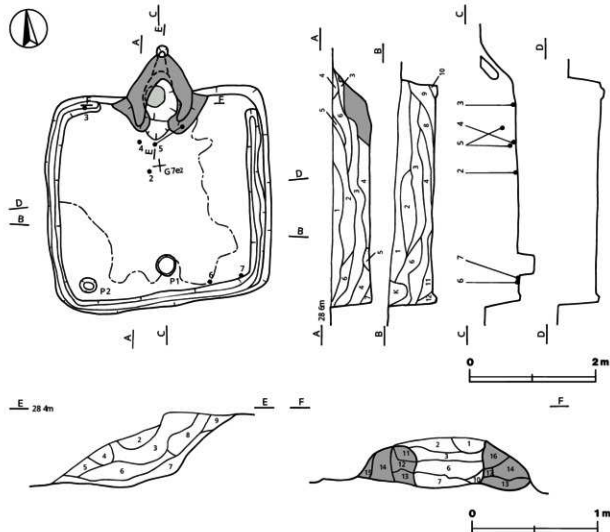
ピット 2か所（P1・P2）。P1は径32cmの円形，深さ28cmで，竈に対応する南壁の中央近くに位置する

ことから出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は長径28cm、短径24cmの楕円形、深さ7cmで、南西コーナーにある。性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており、天井部・袖部はともに遺存している。粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで150cm、最大幅150cm、壁外への掘り込みは88cmである。火床面は床面とはほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	極 暗 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子微量	8	暗 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・礫少量
2	暗 褐色	ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量	9	暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	黒 褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	10	黒 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	灰 褐色	ローム小ブロック・砂質粘土粒子・礫少量、ローム中ブロック微量	11	暗 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・砂質粘土粒子微量
5	暗 褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量	12	暗 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
6	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・礫少量、焼土粒子微量	13	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、礫微量
7	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・礫少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量	14	暗 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・礫微量
			15	暗 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
			16	暗 褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
			17	黒 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



第 199 図 第 11 号住居跡実測図

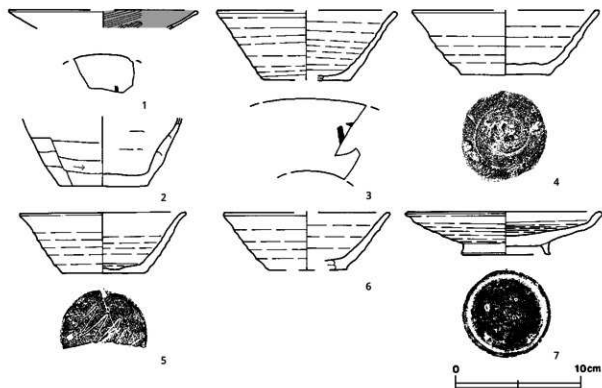
覆土 12層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|--------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物少量、ローム大ブロック・焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子少量 | 11 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量 | 12 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 | | |
| 7 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化物少量 | | |

遺物 土師器片220点、須恵器片60点が出土している。細片が多く、土師器3点、須恵器5点を抽出・図示した。第200図1の墨書された土師器杯は、覆土から出土している。5の須恵器杯は、竈右袖部付近の覆土中層及び下層から出土している。6の須恵器杯は、南壁の南東コーナー寄りの覆土下層から出土している。4の須恵器杯は、竈の覆土及び覆土下層、竈左袖部の南の床面などからそれぞれ出土したものが接合したものである。2の土師器小形甕は中央部の床面から出土している。7の須恵器盤は、南東コーナーの床面から正位の状態では出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 200図 第 112号住居跡出土遺物実測図

第 112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 200図 1	高台付皿 土師器	A 144 B 15	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。内面黒色処理。	緑・長石・雲母・赤色粒子に54V黄褐色、普通	P 3594 5% 体部外面黒書「J」
2	小形甕 土師器	B 54 C 70	底部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面へラ削り。底部内・外面ナデ。	緑・長石・石英・雲母 黄褐色、普通	P 3532 10% 体部内面輪積み痕

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 3	環 須 恵 器	A 142	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナ ズ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針 状鉱物・管母 灰白色、普通	P 3534 40% PL61 体部外面黒書「J」 底部ヘラ記号
		B 55				
		C 70				
4	環 恵 器	A 150	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナ ズ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰黄色、普通	P 3535 50%
		B 71				
		C 70				
5	環 須 恵 器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナ ズ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱 物 灰白色、普通	P 3536 50% PL61 底部ヘラ記号
		B 48				
		C 64				
6	環 須 恵 器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ロナ ズ。底部調整不明。	磯・長石・針状鉱物 にぶい赤褐色 普通	P 3537 20% 内・外面黒色斑点
		B 46				
		C 64				
7	盤 須 恵 器	A 152	口縁部及び体部の一部欠損。高台 はハの字状に開く。体部は大きく 開き口縁部との境に線を持つ。 口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナ ズ。底部回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色 普通	P 3538 75% PL61 内・外面黒色斑点 内面外周部自然輪
		B 34				
		D 70				
		E 09				

第114号住居跡(第201~203図)

位置 調査5区の南部, H6d9区。

規模と平面形 長軸3.40m, 短軸3.36mの方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は76~80cmで、ほぼ直立する。

壁溝 南壁の一部を除く壁下を巡っている。規模は、上幅10~20cm, 下幅4~12cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

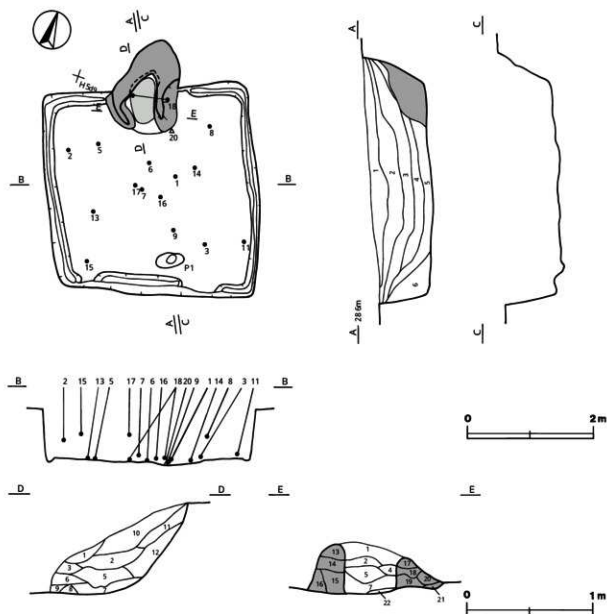
床 確認面から12cmほど掘り込んだ後、炭化物・焼土混じりのローム土を埋めて構築された貼床で、凹凸がある。周囲のローム土より濁っているが、踏み固められた部分は認められない。

ピット 1か所。P1は長径48cm, 短径22cmの楕円形, 深さ11cmで、竈に対応する南壁の中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北西コーナー部に付設されており、袖部が遺存している。粘土・砂粒・ローム土を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで150cm, 最大幅116cm, 壁外への掘り込みは84cmである。火床面は床面とほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、赤変硬化している。煙道は、火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

電土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック微量	11	褐色	ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼少量
2	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量	12	褐色	ローム粒子多量, 焼土大ブロック・鹿沼バミス粒子少量, 鹿沼バミス大ブロック微量
3	褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	13	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼少量, ローム大ブロック微量	14	褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土大ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子・焼少量, ローム大ブロック・炭化物微量	15	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
6	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, 鹿沼バミス粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
7	褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	17	暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
8	褐色	ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス粒子少量, 炭化粒子微量	18	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
9	褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	19	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	20	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子・鹿沼バミス粒子微量
			21	褐色	鹿沼バミス粒子少量, 砂質粘土粒子微量
			22	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子・焼少量



第 201図 第 114号住居跡実測図

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

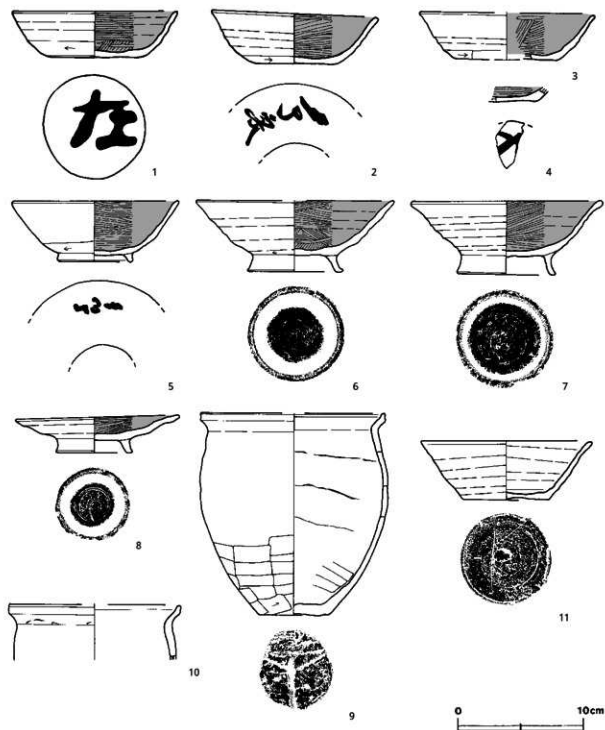
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|------|---|
| 1 黒色 | ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭屑・バミス粒子少量、焼土中ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、雑炭量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

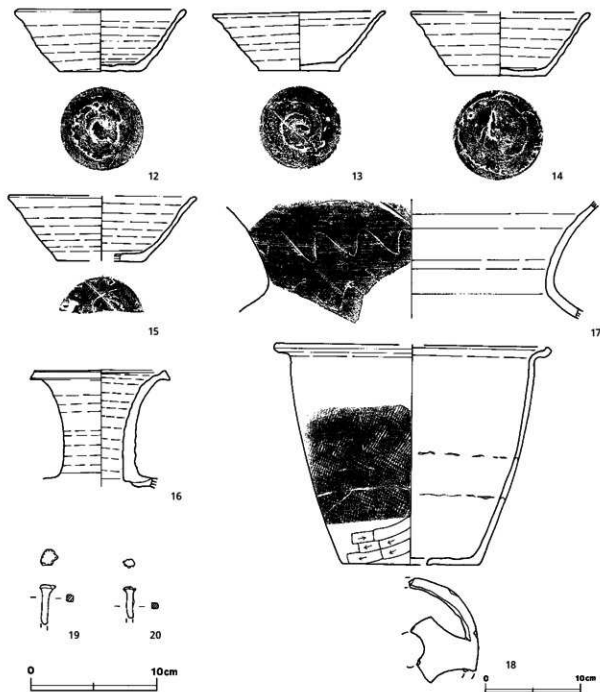
遺物 土師器片197点、須恵器片41点、金属製品2点が出土している。うち土師器片10点、須恵器片8点、金属製品2点（釘）を抽出・図示した。第202図4の土師器杯、19の釘は、覆土から出土している。10の土師器小形甕は、覆土及び竈の覆土から出土している。2の土師器杯は西壁中央の北寄り、8の土師器高台付皿は北東コーナー部、15の須恵器杯は南西コーナー近く、17の須恵器大甕は中央部の覆土中層から出土している。1・3の土師器杯、6の土師器高台付杯は、それぞれ中央部、P1の北東、竈の南、7の土師器高台付杯は中央部、9の土師器小形甕はP1の北側、11・13の須恵器杯は、それぞれ東壁際中央の南寄り、中央部の西寄り、16の須恵器長頸瓶は中央部、20の釘は右袖部の東側の覆土下層から出土している。12の須恵器杯は、竈の覆土から

出土している。18の須恵器甕は接合片で、甕の覆土及び右袖部東の覆土下層から出土している。5の土師器高台付杯は、左袖部の南西の床面から正位の状態で出土している。14の須恵器杯は、中央部北東寄りの床面に破片がまとまった状態で出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 202図 第 114号住居跡出土遺物実測図(1)



第 203 図 第 114 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 114 号住居跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 20 図 1	土器 鉢	A 132	壳形品。平底。体部は内電気味に外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面積ナズ。外面下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物・雲母 橙色、普通	P 3539 100% PL61 体部外面墨書「 J 」
		B 37				
		C 82				
2	土器 鉢	A 132	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内電気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母 に深い黄橙色、普通	P 3540 73% PL61 69 体部外面墨書横位「多了家」
		B 42				
		C 68				
3	土器 鉢	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内電気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母 橙色、普通	P 3541 20%
		B 37				
		C 82				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 4	坏 土 師 器	B 11	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面及び底部調整不明。内面黒色処理。	緑石・雲母 灰黄褐色 普通	P 3542 10% PL70 底部磨痕 「在」力
5	高台付坏 土 師 器	A 130 B 49 D 60 E 06	口縁部の一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ、下端回転へラ削り。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	緑石・針状鉱物・雲母・赤色粒子に多い黄褐色 普通	P 3543 90% PL61 74 体部外面輪積み痕 「 」
6	高台付坏 土 師 器	A 158 B 56 D 76 E 13	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ、体部下端及び底部回転へラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	緑・長石・石英・雲母 淡黄褐色 普通	P 3544 50% PL61
7	高台付坏 土 師 器	A 150 B 59 D 78 E 15	口縁部及び体部の一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ、下端回転へラ削り。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	緑・長石・石英・雲母 淡黄褐色 普通	P 3545 80% PL61
8	高台付坏 土 師 器	A 132 B 31 D 62 E 11	口縁部及び体部の一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、中位に横を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	緑石・石英・雲母に多い黄褐色 普通	P 3546 70% PL61
9	小形甕 土 師 器	A 146 B 160 C 56	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は長胴形で、上位に最大径を持つ。頸部はく字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面下半へラ削り。底部内面横ナデ、底部木葉痕。	緑・長石・石英・雲母 に多い褐色 普通	P 3547 50% PL62 体部内面輪積み痕
10	小形甕 土 師 器	A 138 B 45	口縁部片。頸部はく字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	緑・長石・雲母 明赤褐色 普通	P 3548 10% 頸部内面輪積み痕
11	坏 須 恵 器	A 136 B 56 C 70	充形甕。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ削り。	緑・長石・石英 灰色 普通	P 3549 100% PL61 底部へラ記号
第20図 12	坏 須 恵 器	A 134 B 49 C 66	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ削り。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3550 90% PL61 内・外面黒色斑点
13	坏 須 恵 器	A 139 B 47 C 64	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ削り。	緑・長石・針状鉱物・雲母 に多い褐色、普通	P 3551 70% PL61 内・外面火熱により赤化及び剥離
14	坏 須 恵 器	A 142 B 50 C 72	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ削り。	緑・長石・雲母 灰白色 普通	P 3552 25% 底部へラ記号
15	坏 須 恵 器	A 150 B 51 C 70	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転へラ削り。	緑・長石・針状鉱物 赤色粒子 に多い黄褐色、普通	P 3553 30% 底部へラ記号
16	長頸甕 須 恵 器	A 106 B 92	口縁部片。頸部は直立気味に立ち上がり、中位で外反する。口縁端部は上下に突出する。	口縁部及び頸部内・外面口クロナデ。	緑・長石・石英 灰色 普通	P 3554 20% PL62 内・外面自然磨
17	大甕 須 恵 器	B 124	口縁部片。頸部はく字状に外反する。	頸部内・外面口クロナデ後、へラ状工具による波状文施文。	緑・長石・石英 灰黄色 普通	P 3555 10%
18	甕 須 恵 器	A 290 B 231 C 141	底部から口縁部にかけての破片。多孔式。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。口縁部は外反して開き端部が面取されて角張る。	口縁部内・外面口クロナデ。体部内面ナデ、外面上部格子目状叩き下端横位のへラ削り。	緑・長石・雲母・赤色 粒子 灰色 普通	P 3556 20%

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第20図 19	釘	31	05	05	20	鉄	脚部先端欠損。	M 3087
20	釘	24	05	05	22	鉄	脚部先端欠損。	M 3088

第115号住居跡（第204～207図）

位置 調査5区の南部，H6c0区。

規模と平面形 長軸4.46m，短軸4.40mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は96～110cmで，西壁はほぼ直立し，他は外傾する。

壁溝 北西コーナーから西壁にかけてを除く壁下を巡っている。規模は，土幅8～18cm，下幅4～10cm，深さ4～8cmで，断面形はU字状である。

床 はほぼ平坦である。P5から竈にかけての中央部を中心に踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径28～36cm，短径26～32cmの円形ないし楕円形，深さ64～76cmである。4か所を結ぶ線は長方形を呈し，壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は径24cmの円形，深さ30cmで，底部が北側にオーバーハングしている。竈と向かい合う南壁中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 北東コーナーに位置する。径64cmほどの円形，深さ22cmで，断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒褐色 | 灰中量，ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量 | 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・灰少量，ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 |
|-------|---|-------|--|

竈 北壁中央部に付設されており，天井部・袖部が遺存している。粘土・砂粒・ローム土を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで146cm，最大幅126cm，壁外への掘り込みは20cmほどである。壁外へはあまり突き出していない。火床面は床面とほぼ同じレベルで，浅い皿状をしている。火床面には，焼土が付着した土器等の坏が逆位の状態で出土している。支脚に使われたと思われる。袖部の内壁及び火床面は，赤変硬化している。煙道は火床面から約50°の角度をもって立ち上がる。

竈土層解説

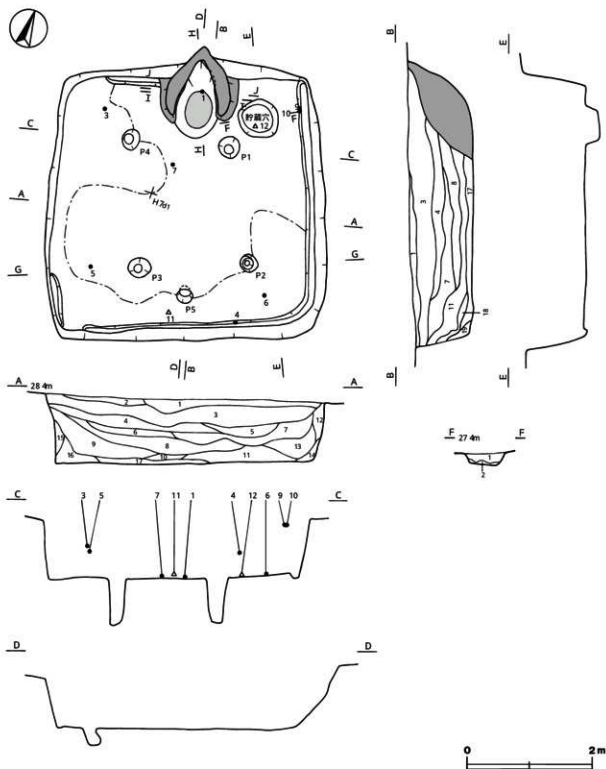
- | | | | |
|--------|--|-----------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土大ブロック・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 12 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，輝微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土小ブロック・輝微量 | 13 褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，砂質粘土粒子少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 緑暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 7 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，焼土小ブロック微量 | 18 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，鹿沼バミス粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック少量，焼土大ブロック微量 | 19 にい・黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子少量，鹿沼バミス粒子少量 |
| | | 21 暗赤褐色 | 焼灰多量 |
| | | 22 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |

覆土 19層からなる。東西の土層断面で観察した堆積状況が，ブロック状を呈することから人為堆積と思われる。

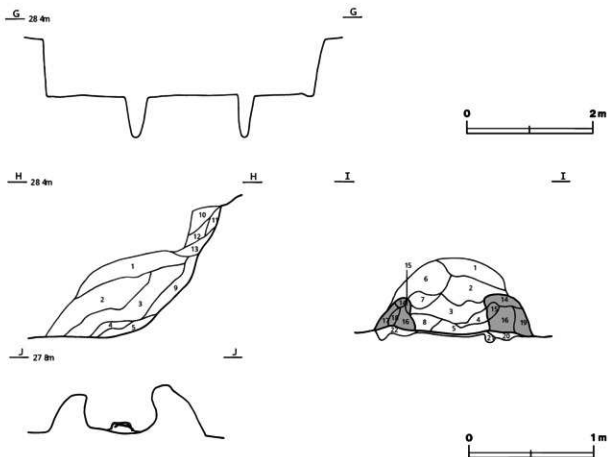
土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土大ブロック・焼土中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・鹿沼バミス大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・鹿沼バミス粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量 | | |
| 6 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物微量 | | |

- | | | | |
|--------|---|--------|----------------------------------|
| 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 15 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 12 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 16 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・鹿沼バミス粒子少量 |
| 13 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量, 鹿沼バミス大ブロック微量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| 14 褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼バミス粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 19 褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼バミス粒子少量, 炭化粒子微量 |



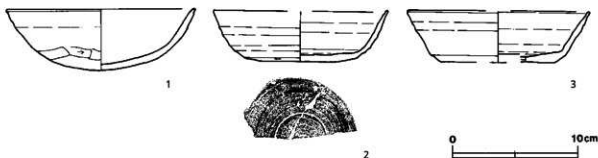
第 204 図 第 115 号住居跡実測図 (1)



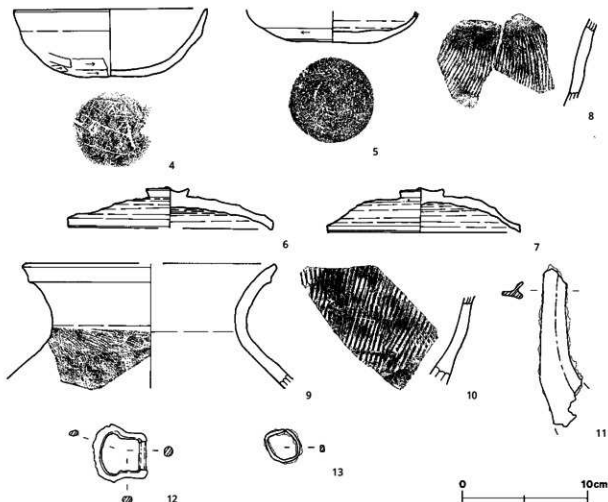
第 205図 第 115号住居跡実測図(2)

遺物 土師器片339点, 須恵器片53点, 金属製品3点が出土しているが, 細片が多い。うち土師器2点, 須恵器8点, 金属製品3点(鋤先, 鉸具, 不明金属製品)を抽出・図示した。第206図2の須恵器杯, 8の須恵器鉢片は, 覆土から出土している。9・10の須恵器甕は, ともに北東コーナー部の覆土上層から出土しており, 出土位置や土器に施文されている文様等から同一個体と思われる。4の土師器杯は南壁際の南東コーナー寄り, 3・5の須恵器杯は西壁寄りの覆土中層から出土している。7の須恵器蓋は中央部の北壁寄り, 11の鋤先は南壁際の中央部の覆土下層から出土している。6の須恵器蓋は, 南東コーナーの床面から出土している。12の鉸具は貯蔵穴の覆土下層, 13の不明金属製品はP4の覆土からそれぞれ出土している。1の土師器杯は, 火床面から逆位の状態出土している。

所見 鉸具や鋤先の出土から, ある程度の富裕層の住居と考えられる。時期は, 遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 206図 第 115号住居跡出土遺物実測図(1)



第 207 図 第 115 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 115 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 206 図 1	坏 土器	A 15.2	口縁部及び体部の一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部境に稜を持つ。底部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面下端ヘラ削り。底部内面磨き。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 3558 70% PL61
		B 48				
		C 48				
2	坏 須恵器	A 13.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下端は丸味を持って外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰褐色、普通	P 3561 20%
		B 40				
		C 90				
3	坏 須恵器	A 146	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 3560 29%
		B 41				
		C 90				
第 207 図 4	坏 土器	A 15.4	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部との境に明確な稜を持つ。底部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端横位のヘラ削り。底部木葉磨。	礫・長石・針状鉱物 雲母 白色 普通	P 3557 80% PL61
		B 55				
		C 50				
5	坏 須恵器	B 25	底部片。肉厚の平底。体部は丸味を持って立ち上がる。	底部内面口クロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 3563 49%
		C 64				
6	蓋 須恵器	A 16.3	口縁部の一部欠損。天井部は伏せ皿状で、ボタン状のつまみが付く。口縁端部は短く折り返されている。	口縁部及び外周部内・外面口クロナデ。天井部回転ヘラ削り後つまみ挿合。	長石・石英・針状鉱物 灰白色 普通	P 3564 80% PL61
		B 33				
		F 34				
		G 0.8				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 7	蓋 須恵器	A 154 B 35 F 34 G 08	口縁部の一部欠損。天井部は伏せ皿状で、ボタン状のつまみが付く。口縁端部は短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り後つまみ接合。	緑・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3565 75% PL61
8	鉢 須恵器	B 67	体部片。体部は外傾する。	体部内面口ロナデ，外面縦位の平行叩き。	緑・長石・雲母 灰色 普通	TP3061 5%
9	甕 須恵器	A 200 B 98	体部上半から口縁部にかけての破片。胴部は強く外反する。口縁上部に断面三角形の隆帯が貼られ、胴部は四角く圍取られている。	口縁部及び胴部内・外面口ロナデ。体部外面同心円叩き。	緑・長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 3566 5%
10	甕 須恵器	B 94	体部片。体部は内彎する。	体部内面口ロナデ，外面斜位の平行叩き。	緑・長石・石英 灰色 普通	TP3062 5%

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第20図 11	鑪 先	128	33	12	490	鉄	断面がY字状。	M 3089
12	絞 具	44	46	05-08	224	鉄・銅	鉄地銅貼り。留め部欠損。	M 3090 PL80
13	不 明	27	31	05	30	鉄	環状。細力。	M 3091 PL79

第116号住居跡（第208～211図）

位置 調査5区の南部，H6c5区。

重複関係 東壁からP3とP4を結ぶ線上にかけてを第1号掘立柱建物に，南西コーナー壁から西壁中央付近にかけてを第11号掘立柱建物に，それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.92m，短軸6.68mの方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は28～64cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 甕を除く壁下を巡っている。規模は，上幅18～24cm，下幅8～16cm，深さ4～18cmで，断面形はU字状である。

床 中央部から南壁方向にゆるやかに傾斜している。中央部を高台状に掘り残し，各壁から中央部間を20cmほど掘り込んだ後，焼土混じりのローム土で埋め戻されている。さらに，全体的に6cmほどの厚さでローム土を貼って床が作られている。P5から甕の南にかけてが踏み固められている。

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P4は長径88～102cm，短径78～100cmの円形ないし楕円形，深さ96～104cmである。4か所を結ぶ線は長方形を呈し，向かい合う壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は長径74cm，短径62cmの楕円形，深さ44cmである。甕に対応する南壁の中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P6・P7はそれぞれ長径30cm，34cm，短径24cm，28cmの楕円形，深さ20cm，54cmで，甕の両側の北壁に位置し，主柱穴の補助的なものかと考えられる。

P1土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--|---|-----|--|
| 1 | 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭沼パミス粒子少量 | 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック・炭沼パミス粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭沼パミス中ブロック中量，炭沼パミス大ブロック少量 |
| 2 | 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物・炭沼パミス粒子少量 | | | |
| 3 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化粒子・炭沼パミス粒子少量 | | | |

P2土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|---------------------------------------|---|----|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭沼パミス粒子微量 | 2 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭沼パミス小ブロック・炭沼パミス粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭沼パミス中ブロック中量，炭沼パミス大ブロック少量 |
|---|-----|---------------------------------------|---|----|---|

P3土層解説

- | | | | |
|-------|--|------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、甕沼バミス粒子少量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック・甕沼バミス粒子中量、ローム大ブロック・甕沼バミス中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・甕沼バミス粒子多量、ローム中ブロック・甕沼バミス中ブロック少量 | | |

P4土層解説

- | | | | |
|-------|---|------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・甕沼バミス中ブロック・甕沼バミス粒子少量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、甕沼バミス粒子中量、甕沼バミス大ブロック・甕沼バミス中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・甕沼バミス粒子少量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・甕沼バミス小ブロック・甕沼バミス粒子多量、ローム中ブロック・甕沼バミス大ブロック・甕沼バミス中ブロック中量 |

P5土層解説

- | | | | |
|-------|--|------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・甕沼バミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・甕沼バミス小ブロック・甕沼バミス粒子多量、甕沼バミス大ブロック・甕沼バミス中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・甕沼バミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・甕沼バミス粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、甕沼バミス粒子少量 | | |

竈 遺存していないが、粘土粒子や焼土粒子などの分布状況から北壁中央に付設されていたと思われる。規模は、煙道部から焚口部まで146cm、壁外への掘り込みは50cmと推定される。竈土層断面図中の第4層上面が、火床面及び煙道と思われる。火床面は床面とほぼ同じレベルで、煙道は火床面から20°ほどの角度を持って立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・甕沼バミス粒子少量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子少量 |

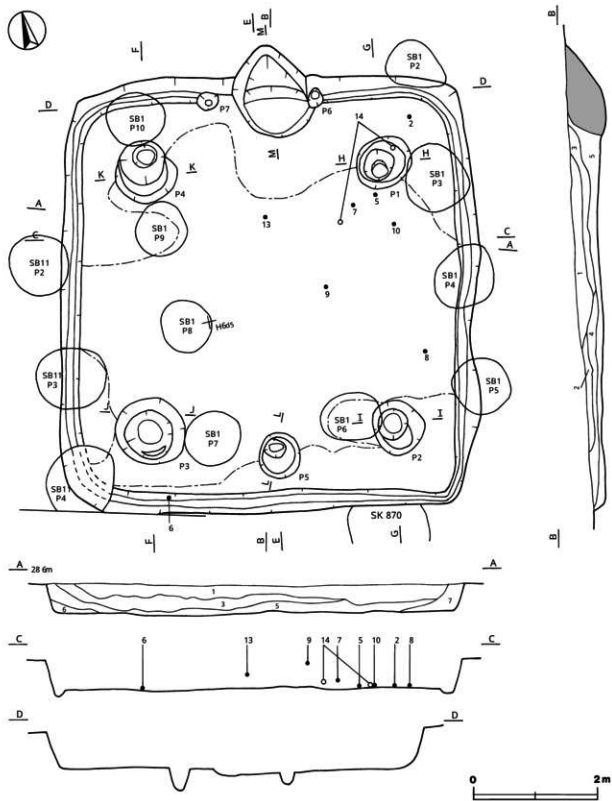
覆土 13層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

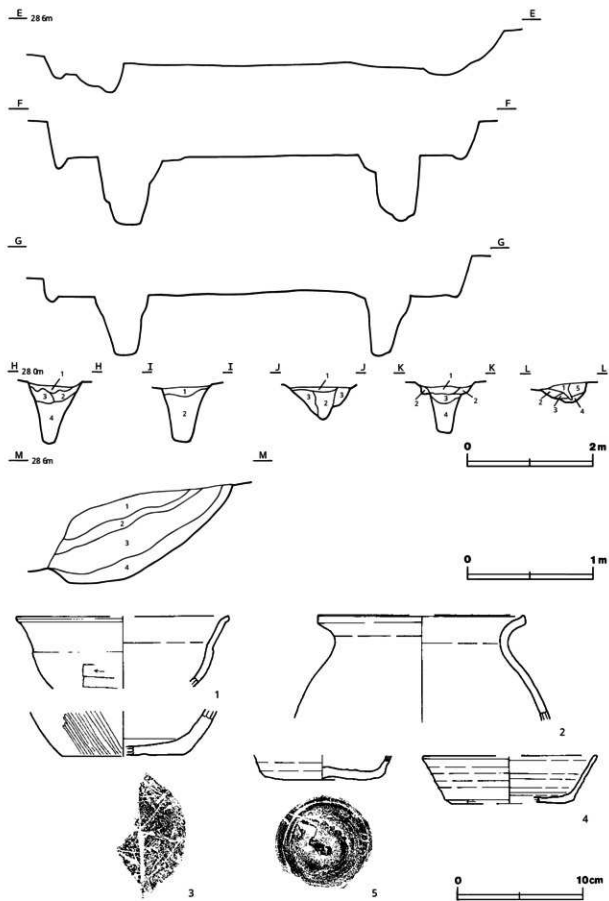
- | | | | |
|-------|---|---------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量、ローム大ブロック微量 | 8 黒褐色 | 灰中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・甕沼バミス粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・焼土少量、焼土粒子・ローム大ブロック微量 | 9 極暗赤褐色 | 灰中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・甕沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム大ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量、炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・甕沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 13 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・甕沼バミス粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化物微量 | | |

遺物 中央部北側を中心に土師器片1,334点、須恵器片467点、土製品1点、金属製品2点が出土しているが、細片が多い。うち土師器3点、須恵器10点、土製品1点(支脚)、金属製品1点(刀子)を抽出・図示した。第209図1の土師器椀、3の土師器甕、4の須恵器杯、11の須恵器鉢片、12の須恵器甕片は、覆土から出土している。9の須恵器蓋は、覆土及び中央部の東寄りの覆土上層から出土している。13の須恵器甕は、中央部北寄りの覆土中層から出土している。2の土師器甕は北東コーナー部、5・7の須恵器杯はP1の南側、6の須恵器杯は南壁際の西寄り、8の須恵器壺はP2北東側の覆土下層から、それぞれ出土している。14の支脚は、竈の覆土やP1周辺の覆土下層から出土している。15の刀子は覆土下層から出土している。10の須恵器蓋は、P1前の床面から出土している。

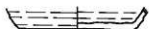
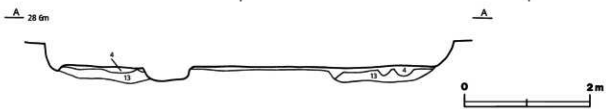
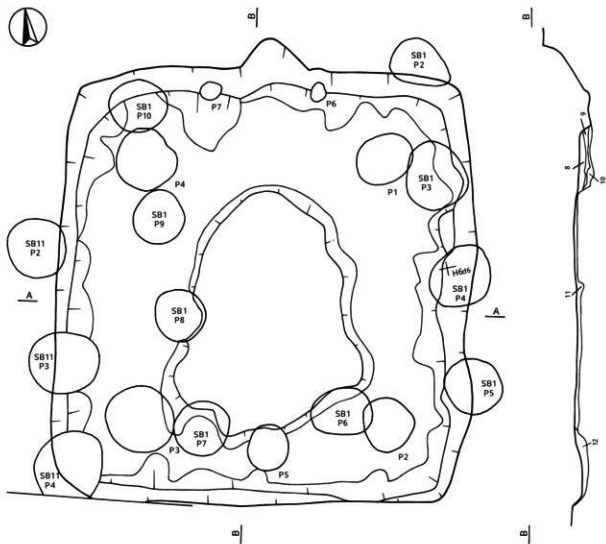
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 208 图 第 116 号住居跡实测图



第 209 图 第 116 号住居跡・出土遺物実測図 (1)



6

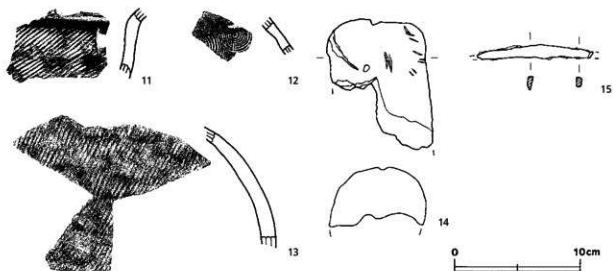
10

8



7

第 210 图 第 116 号住居跡・出土遺物実測図 (2)



第 211 図 第 116 号住居跡出土遺物実測図

第 116 号住居跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 20 図 1	柄 土 器	A 170	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら立ち上がり、 口縁部との境に稜を持つ。口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 横位のヘラ刷り。	長石、石英 橙色、普通	P 3567 9%
		B 57				
2	甕 土 器	A 165	体部上部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至り、頸 部は強く屈曲する。口縁部は外に 開き、頸部はつまみ上げられてい る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にふり貫橙色 普通	P 3568 9%
		B 82				
3	甕 土 器	B 36	底部から体部下にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上 がる。	体部内面横ナデ、外面縦位のヘラ 磨き。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲 母 にふり橙色、普通	P 3569 9%
		C 98				
4	坏 須 恵 器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しなが ら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転ヘラ刷り。	礫・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 3570 10%
		B 38				
		C 92				
5	坏 須 恵 器	B 20	底部。平底。体部は外傾して立ち 上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針 状鉱物 灰白色、普通	P 3571 40%
		C 66				
第 21 図 6	坏 須 恵 器	B 18	底部片。平底。体部は外傾して立 ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り後、ヘラ刷り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3572 39%
		C 92				
7	坏 須 恵 器	B 25	底部片。平底。体部は外傾して立 ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部及 び周縁回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針 状鉱物 灰白色、普通	P 3574 19%
		C 78				
8	壺 須 恵 器	B 32	底部片。平底。高台は八の字状に 開く。体部は内彎しながら立ち上 がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ刷り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱 物 灰褐色、普通	P 3576 19%
		D 88				
		E 12				
9	甕 須 恵 器	A 160	口縁部及び外周部一部欠損。天井 部は伏せ皿状で、ボタン状のつま みが付く。口縁部は屈曲し、垂 下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ナデ。天井部回転ヘラ刷り後、つ まみ挿合。	礫・長石・石英・針 状鉱物 灰色 普通	P 3577 70% PL62
		B 39				
		F 41				
		G 08				
10	甕 須 恵 器	B 25	天井部欠。天井部は伏せ皿状で、 ボタン状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ刷り後、つまみ挿 合。	礫・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 3578 20%
		F 34				
		G 08				
第 21 図 11	鉢 須 恵 器	B 55	体部片。体部は外傾して立ち上 がる。	体部内面口ロナデ、外面斜位の 平行叩き。	礫・長石・石英 灰白色 普通	TP3065

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 12	須恵器	B 30	体部片。体部は内傾する。	体部内面口ロナデ、外面同心円印き。	礫・長石にふい赤褐色普通	TP3063
13	須恵器	B 94	体部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面口ロナデ、外面縦位の平行印き。	礫・長石・針状鉱物灰白色普通	TP3064 体部外面自然釉

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第21図 14	支脚	85	102	-	2967	土製	上部片。一部赤化。胎土の粒子が細かい。	DP3033

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第21図 15	刀子	92	11	04-05	80	鉄	刃部先端及び茎尻欠損。	M 3092

第117号住居跡（第212～214図）

位置 調査5区の南部，H6c0区。

規模と平面形 長軸4.92m，短軸4.82mの方形である。竈の東側に棚状の施設を持ち，幅102cm，奥行き48cmの長方形，確認面から深さ10cm，床面から42cmの高さである。

主軸方向 N-29° - W

壁 壁高は36～52cmで，外傾して立ち上がる。

床 中央部に弱い高まりを持っているが，ほぼ平坦である。各コーナーや壁下付近を除き，全体的に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は径18cmの円形，深さ18cmである。竈に相対する南壁の中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており，天井部及び袖部が遺存している。袖部は粘土・砂粒・ローム土を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで132cm，最大幅114cm，壁外への掘り込みは68cmである。火床面は，床面とほぼ同じレベルで，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で，ゆるやかに外傾し，途中で角度を変えて立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2	褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	15	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	16	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	極暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量	17	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	18	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	極暗褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック・炭化物微量	19	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム中ブロック微量
8	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量	20	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量			
10	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量			
11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量			
12	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量			

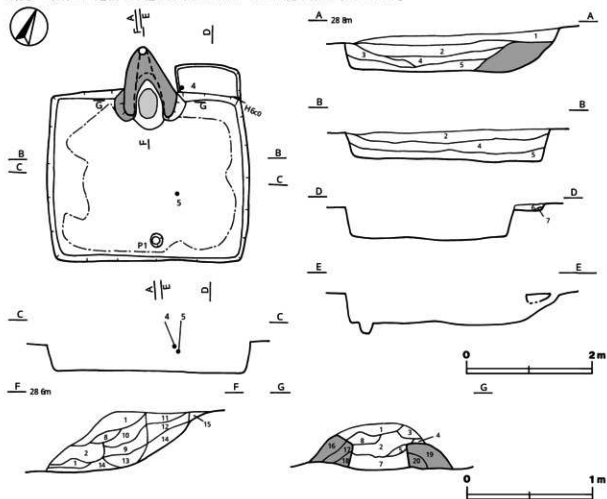
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

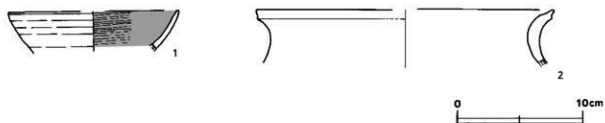
- | | | | |
|--------|---------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 土師器456点、須恵器68点、金属製品1点が出土している。うち土師器2点、須恵器4点、金属製品1点（不明鉄製品）を抽出・図示した。第213図1の土師器杯、2の土師器甕、6の須恵器蓋は、覆土から出土している。1の杯は接合片で、細片が散らばった状態で出土している。5の須恵器高台付杯は、中央部の覆土上層から出土している。3の須恵器杯は、棚部の覆土から出土している。4の須恵器高台付杯は、棚部南西の底面から逆位の状態で出土している。

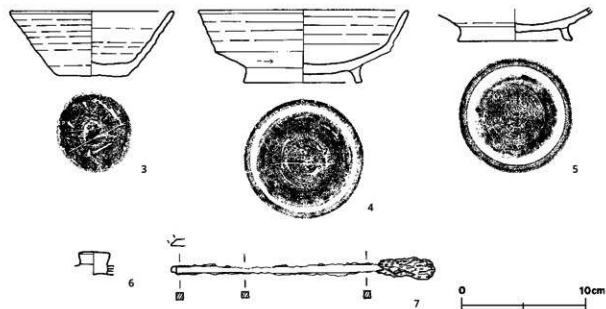
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 212図 第 117号住居跡実測図



第 213図 第 117号住居跡出土遺物実測図(1)



第 214図 第 117号住居跡出土遺物実測図(2)

第 117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 213図 1	坏 土 器	A 136	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎奥味に外傾して立ち上 がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 3580 5%
		B 32				
2	甕 土 器	A 238	口縁部片。口縁部は外反し、端部 は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P 3581 5%
		B 44				
第 214図 3	坏 須 恵 器	A 133	口縁部及び体部の一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾しながら立ち 上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ チ。底部回転へラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3583 89% PL62 底部へラ記号
		B 52				
		C 54				
4	高台付坏 須 恵 器	A 170	口縁部の一部欠損。平底。高台は 八の字状に開く。体部は外傾して 立ち上がる。口縁部はやや外反す る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ チ。底部回転へラ削り後、高台貼 り付け。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 3584 90% PL62 口縁部及び体部の 一部自然釉
		B 57				
		D 95				
		E 12				
5	高台付坏 須 恵 器	B 25	底部片。平底。高台は八の字状に 開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナチ。底部回 転へラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰黄色、普通	P 3585 20%
		D 92				
		E 11				
6	蓋 須 恵 器	B 18	つまみ片。製宝珠状。	つまみナデ。	長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3586 5%
		G 11				
		F 24				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 214図 7	不 明	212	06	05-06	303	鉄	断面が方形で、端に木質が残る。縦か。	M 3094 PL79

第118号住居跡 (第215~217図)

位置 調査5区の北東部, G6c0区。

重複関係 第126号住居跡の南東コーナー付近を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.88m, 短軸3.34mの長方形である。

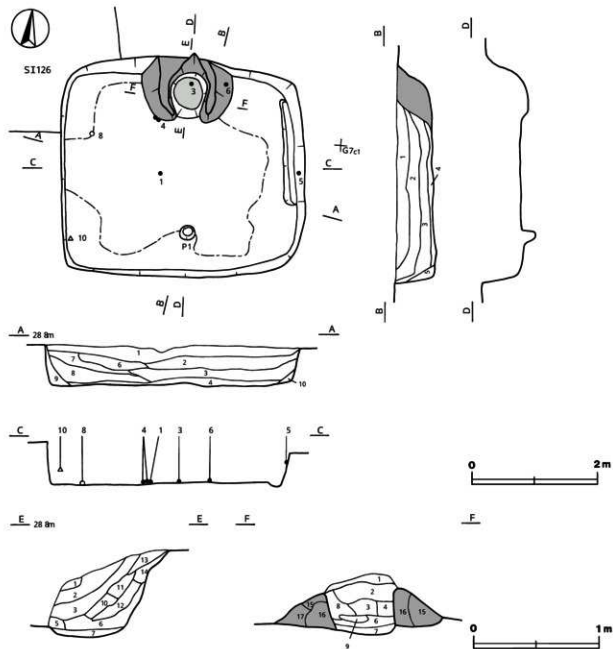
主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は54～66cmで、直立する。

壁溝 東壁下のみ巡っている。規模は、上幅12～20cm、下幅8～10cm、深さ6cmほどで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、P1から竈にかけての中央部を中心に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は径24cmの円形、深さ22cmである。竈に相対する前壁の中央付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。



第 215 図 第 118 号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が遺存している。袖部は、粘土・砂粒・礫を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで104cm、最大幅146cmである。壁外への掘り込みは10cmほどあまり突出していない。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめ、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面から65°ほどの角度で立ち上が

る。

覆土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10 ぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・硬炭量	11 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子・灰少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量	12 暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	13 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	灰中量、焼土粒子少量	14 褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子少量
6 暗赤褐色	灰多量	15 黄褐色	砂質粘土粒子中量、硬炭量
7 棕暗褐色	灰中量、砂質粘土粒子少量	16 黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、硬炭量
8 暗褐色	灰多量、砂質粘土粒子少量、炭化物少量	17 ぶい黄褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、硬炭量
9 明赤褐色	灰多量		

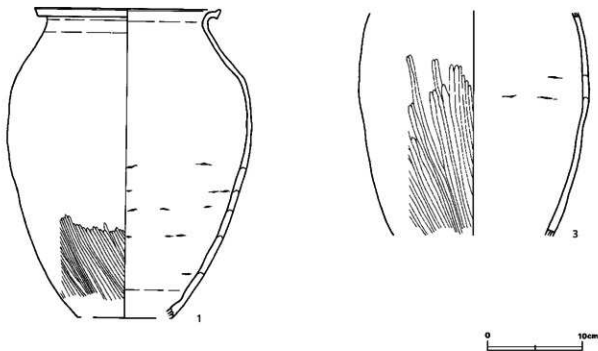
覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

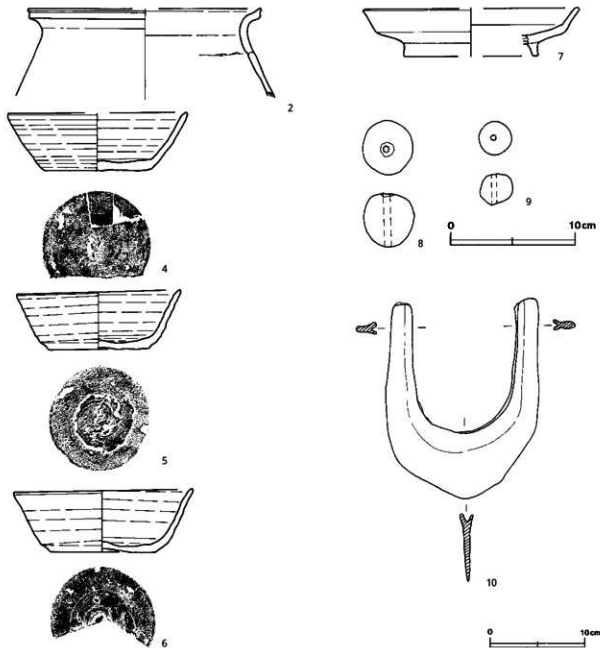
1 暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子少量	7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
2 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック少量	8 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
3 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
4 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	10 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量		
6 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量		

遺物 土師器81点、須恵器40点、土製品2点、金属製品1点が出土している。うち土師器3点、須恵器4点、土製品2点（土玉）、金属製品1点（鋤先）を抽出・図示した。第217図7の須恵器盤、9の土玉は、覆土から出土している。5の須恵器杯は東壁際の中央、10の鋤先は南西コーナー部の覆土中層から、それぞれ出土している。4の須恵器杯は接合片で、覆土や左袖部脇の床面などから出土している。1の土師器甕は、中央部の床面から破片がまとまって出土している。6の須恵器杯は、竈右袖部脇の床面から正位の状態で出土している。8の土玉は、北西コーナー近くの床面から出土している。2の土師器甕は竈の覆土、3の土師器甕は竈の火床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 216 図 第 118 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 217 図 第 118 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 118 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 214 図 1	甕 土 器	A 198 B 327 C 100	体部の一部及び底部欠損。体部は長胴形を呈し、上位に最大径を持つ。口縁部は強く外反し、踵部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ、体部下踵部位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にふりい橙褐色	P 3588 85% PL62 体部内面輪積み痕
第 212 図 2	甕 土 器	A 187 B 71	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して踵部に至り、踵部は強く屈曲する。口縁は外反し、踵部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ、	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にふりい橙褐色 普通	P 3589 5% 体部内面輪積み痕
第 214 図 3	甕 土 器	B 236	体部片。体部は内傾気味に外傾して立ち上がり、長胴形を呈する。	体部内面横ナデ、外面部位のヘラ磨き。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙褐色、普通	P 3590 23% 体部内面輪積み痕

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 4	環 須 恵 器	A 144	体部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・曹母・赤 色粒子 に灰(黄褐色)、普通	P 3587 45%
		B 46				
		C 86				
5	環 須 恵 器	A 131	丸形品。平底。体部は直線的に外 傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 3591 100% PL62
		B 47				
		C 80				
6	環 須 恵 器	A 143	口縁部及び底部一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾して立ち上 がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り。	長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P 3592 85% PL62
		B 51				
		C 84				
7	盤 須 恵 器	A 174	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部との境に稜を持 つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部調整不明。高台貼り付け。	磯・長石・曹母・赤 色粒子 黄灰色 普通	P 3593 5% 内・外面黒色斑点
		B 38				
		D 106				
		E 12				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	孔径 cm	重量 g			
第21図 8	土 玉	-	40	05	696	土製	新面形が球状。	DP3034
		-	27	04	144			

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第21図 10	織 先	206	162	03-08	296.2	鉄	丸形。新面がY字状。	M 3095 PL79

第122号住居跡 (第218～224図)

位置 調査5区の南部、H6a4区。

重複関係 西壁跡を第34号掘立柱建物に、南東コーナー付近を第1号掘立柱建物にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.04m、短軸4.60mの長方形である。

主軸方向 N-104° -E

壁 壁高は54～64cmで、西壁は外傾するが、他は直立する。

壁溝 東壁の一部を除き、壁下を巡る。規模は、上幅12～24cm、下幅6～14cm、深さ6～12cmで、断面形はU字形である。覆土は、焼土粒子と炭化粒子混じりのローム土である。

床 はほぼ平坦である。北東コーナー部及び中央部を除いて掘り下げた後、焼土と鹿沼パミス混じりのローム土で貼床されている。P1からP4の各柱穴間を結ぶ線の内側を中心に踏み固められている。

ピット 6か所 (P1～P6)。P1～P4は長径40～52cm、短径32～38cmの円形ないし楕円形で、深さ20～30cmである。P1からP4の柱穴を結ぶ線は、ほぼ長方形を呈し、各壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は長径42cm、短径36cmの楕円形、深さ26cmである。南壁の中央寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は長径60cm、短径40cmの楕円形、深さ12cmで、西壁中央に位置し、性格は不明である。

P1土層解説

- | | | | | | |
|---|----|-------------------------------------|---|----|---|
| 1 | 褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭少量 | 3 | 褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土大ブロック・鹿沼パミス大ブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | | | |

P2土層解説

- | | | | |
|------|---|------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 3 褐色 | ローム中ブロック・焼土小ブロック少量・ローム大ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土大ブロック少量 | | |

P3土層解説

- | | | | |
|------|--|------|---------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・砂質粘土粒子・鹿沼バミス粒子少量 | 2 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
|------|--|------|---------------------------|

P4土層解説

- | | | | |
|------|--|------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック少量 | 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック少量 |
|------|--|------|-----------------------------------|

P5土層解説

- | | | | |
|------|---|------|--|
| 1 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス粒子少量、炭化材少量 | 3 褐色 | ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム大ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量 | | |

P6土層解説

- | | | | |
|------|------------------------------|------|--------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 2 褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |
|------|------------------------------|------|--------------------|

竈 東壁中央部から南寄りに付設されており、天井部及び袖部の一部が遺存している。粘土・砂粒・ローム土を混ぜて袖部を構築した後、左右の袖部内壁として大形の須恵器製の口縁部片を、2片ずつ埋め込んでいる。規模は、煙道部から焚口部まで180cm、最大幅は130cm、壁外への掘り込みは98cmである。火床面は床面を7cmほど掘りくぼめており、平面形が長楕円形、断面形が皿状をしている。火床面は火熱を受けて亦変硬化し、その奥寄りに円錐状の土製支脚が埋められていた。煙道の平面形は逆U字形で、ゆるやかに外傾し、途中で角度を変えて立ち上がる。

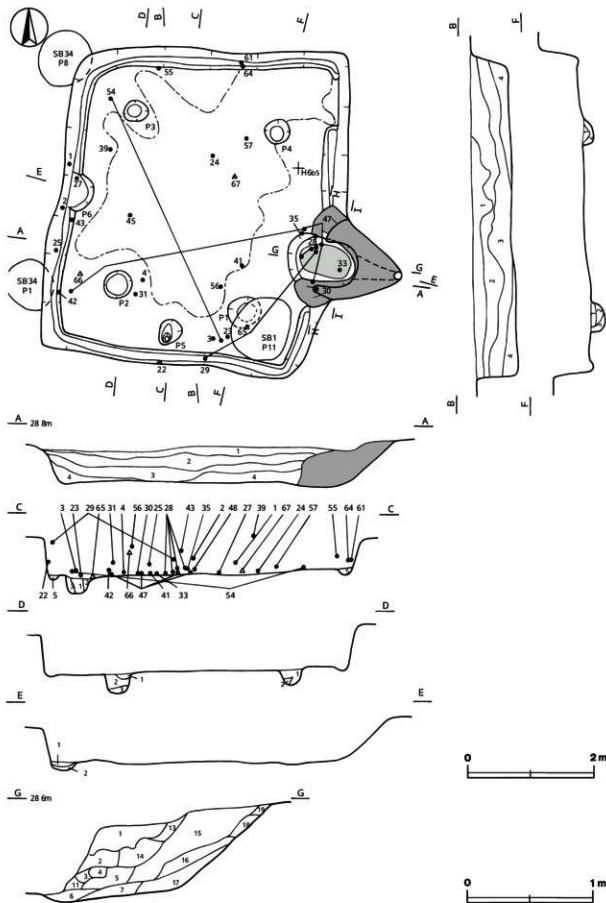
竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|----------|---|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中ブロック少量 | 18 ぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土大ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 19 ぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 20 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・焼土少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 21 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 22 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・焼土少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 炭多量、焼土粒子少量 | 23 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、焼土中ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 24 暗褐色 | ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 25 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・焼土少量 |
| 9 極暗褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 26 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 10 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土少量 | 27 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 11 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量・砂質粘土粒子少量 | 28 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 12 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子・炭少量 | 29 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・焼土少量 | 30 暗褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量 |
| 14 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・白色スコリア少量 | 31 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・焼土少量 |
| 15 黒褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック少量 | | |
| 16 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子少量 | | |
| 17 極暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック少量 | | |

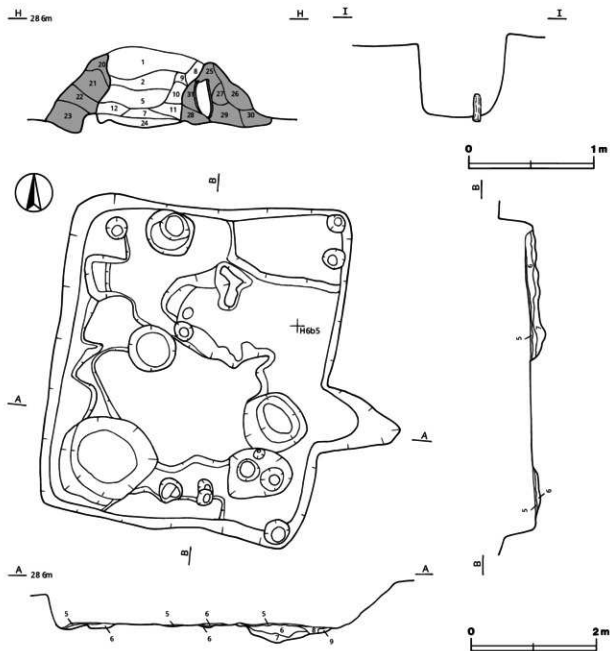
覆土 9層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土少量、焼土大ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量 | 6 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・焼土少量、ローム大ブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化物・焼土少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子少量 |
| | | 9 明褐色 | 鹿沼バミス粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子少量 |



第 218 号 第 122 号住居跡実測图 (1)

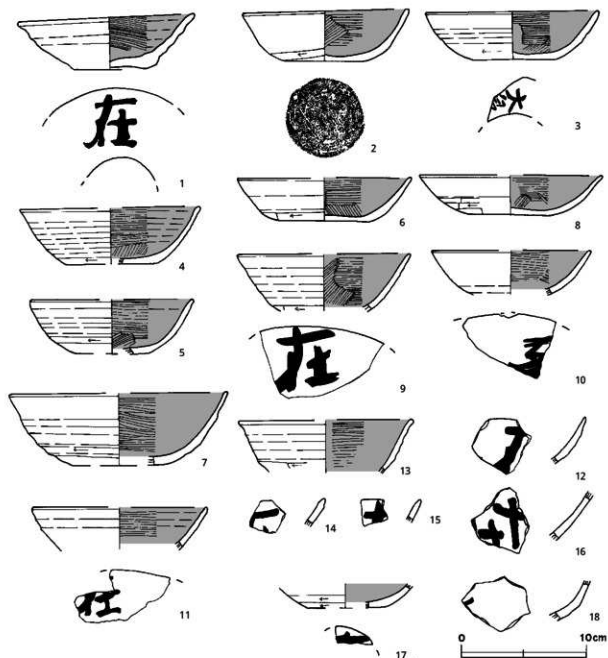


第 219 図 第 122 号住居跡実測図 (2)

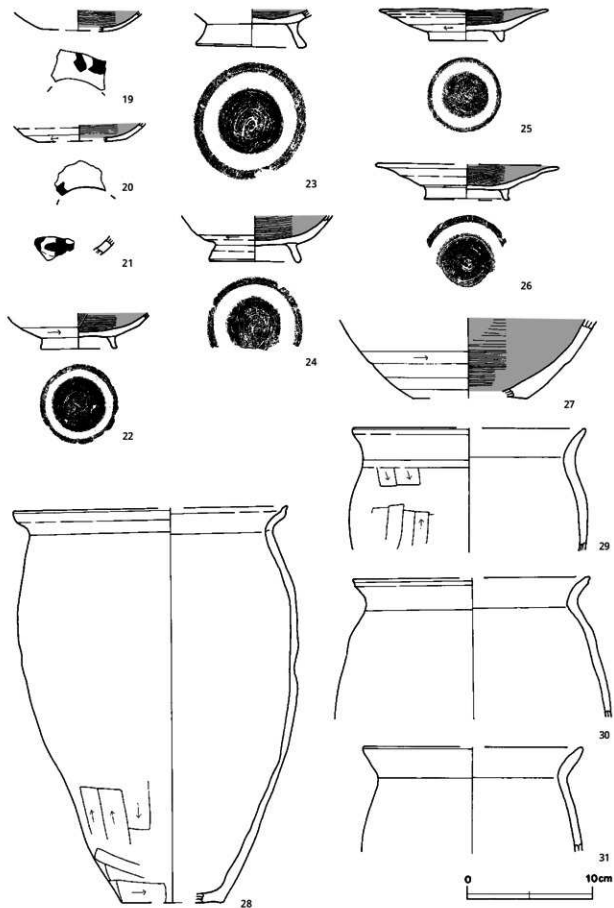
遺物 遺構全体の覆土中・上層を中心に土師器1,710点, 須恵器376点, 灰軸陶器13点, 金属製品9点が出土している。うち土師器42点, 須恵器15点, 灰軸陶器7点, 金属製品5点(釘・鉄)を抽出・図示した。第224図61の灰軸陶器長頸瓶, 64の灰軸陶器の把手片は, とともに北壁中央近くの確認面から出土している。5・6・9~19・21の土師器杯, 26の土師器高台付皿, 36・37の土師器甕, 44の須恵器杯, 46の須恵器鉢, 49~53の須恵器甕, 58~60の灰軸陶器碗, 62・63の灰軸陶器長頸瓶, 64の灰軸陶器壺, 68の釘, 69の鉄鉄は, とともに覆土から出土している。62・63の灰軸陶器は, 軸の色や形状から同一個体と思われる。39の土師器甕はP 3の南西側, 43の須恵器杯は, 西壁際の中央の覆土上層から出土している。1の「在」と墨書された土師器杯と2の土師器杯はともに西壁際の中央近く, 25の土師器高台付皿は西壁際の中央, 56の須恵器甕はP 1北西側, 66の釘はP 2の北西側の覆土中層から出土している。3の「大品」と墨書された土師器杯はP 1と南壁の間, 4の土師器杯はP 2の北東, 22~24の土師器高台付杯は, それぞれ南壁際中央, P 1と南壁の間, 中央部北寄り, 31の土

飾器甕はP 2の東側、35の土師器小形甕は竈左袖部の西、42の須恵器甕は南西コーナー近く、65・67の釘は、それぞれP 1の南側、中央部の覆土下層から出土している。57の円面硯は、覆土及びP 4西側の覆土下層から出土している。20の土師器杯は、P 6の覆土から出土している。27の土師器鉢は、P 6の確認面から出土している。8の土師器杯は、覆土中層及びP 6の覆土から出土している。41の土師器甕は、竈西部の床面から出土している。7の土師器杯、28の土師器甕、32～34の土師器小形甕、38・40の土師器甕、45の須恵器杯は、竈の覆土から出土している。30の土師器甕と47の須恵器甕は、竈の袖部中から出土している。支脚は、火床面に直立しており、火熱を受けて脆く、砕けてしまった。

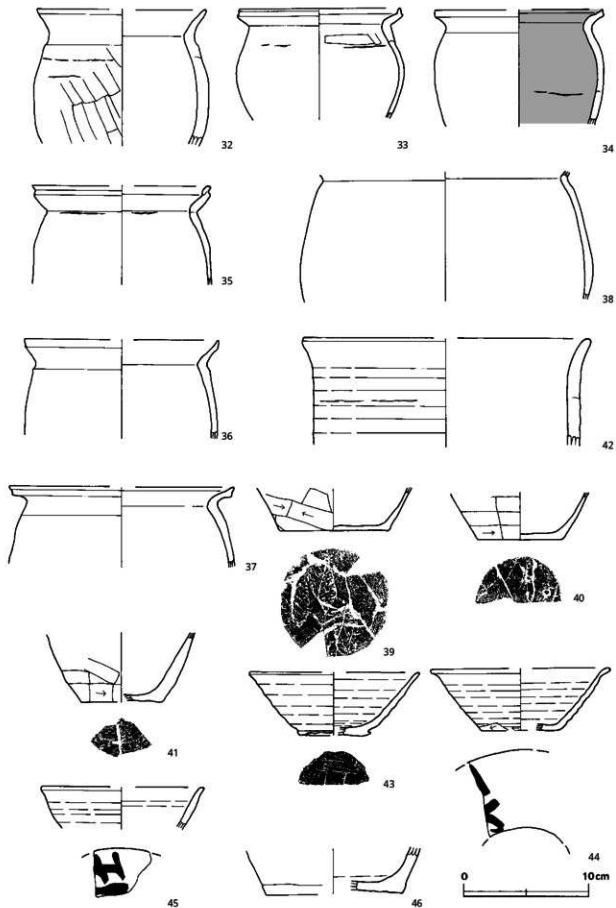
所見 47の須恵器甕は、頸部の繫ぎ目からきれいに割れており、甕としての機能を果たせなくなってから竈の内壁として用いられたと思われる。胎土の含有物から木葉下窯産と思われる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



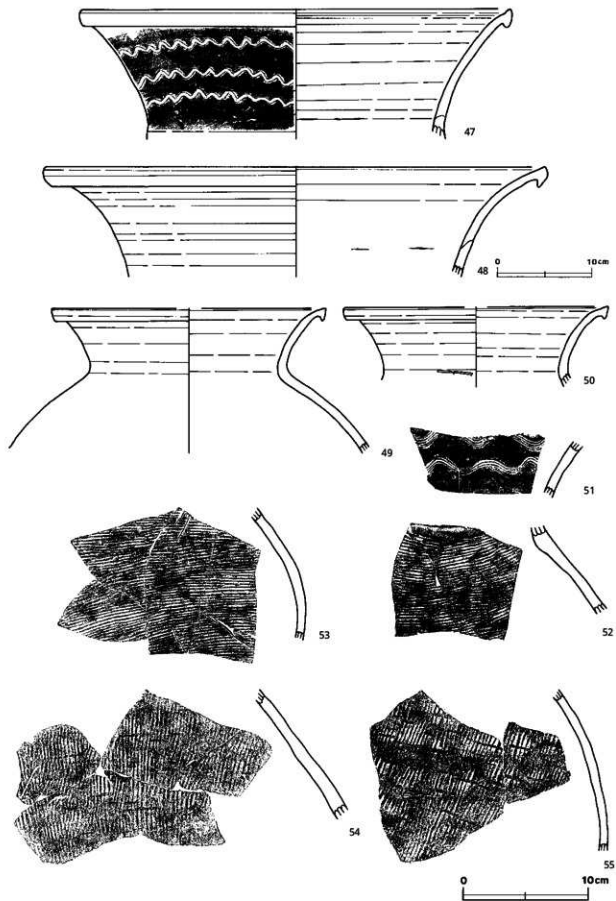
第 220 図 第 12 号住居跡出土遺物実測図 (1)



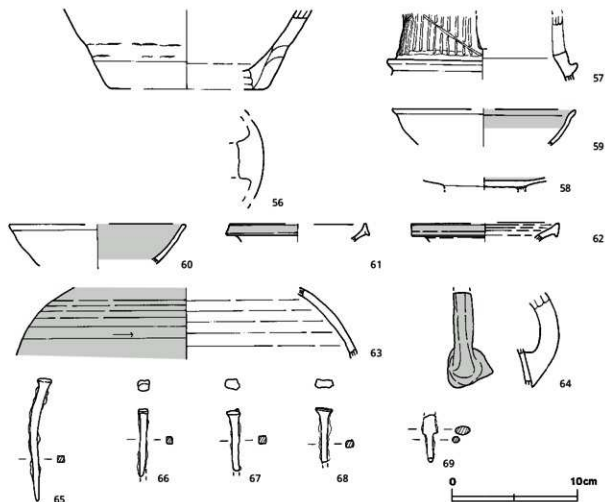
第 221 图 第 122 号住居跡出土遺物実測图 (2)



第 222 图 第 122 号住居跡出土遺物実測图 (3)



第 223 图 第 122 号住居跡出土遺物実測图 (4)



第 224 図 第 122 号住居跡出土遺物実測図 (5)

第 122 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 224 図 1	坏 土 器	A 140	口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母 橙色 普通	P 3595 99% PL62 70 体部外面墨書正位「在」
		B 43				
		C 59				
2	坏 土 器	A 135	壳形。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母 橙色 普通	P 3596 100% PL62 内面一部割離
		B 41				
		C 64				
3	坏 土 器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母 橙色，普通	P 3597 60% PL73 体部外面墨書横位「大鳥」
		B 37				
		C 64				
4	坏 土 器	A 144	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 3598 49%
		B 45				
		C 70				
5	坏 土 器	A 130	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 3599 40%
		B 43				
		C 60				
6	坏 土 器	A 142	壳形。平底。体部は下端に弱い稜を持ち，内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色，普通	P 3600 20%
		B 34				
		C 74				
7	坏 土 器	A 174	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色，普通	P 3603 20%
		B 57				
		C 74				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 8	坏 土 師 器	A 148	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶいし褐色普通	P 3604 20%
		B 32				
9	坏 土 師 器	A 140	体部下端から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ。体部下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3605 15% PL70 体部外面墨書正位「在」
		B 45				
10	坏 土 師 器	A 127	体部下端から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ。体部下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3606 10% PL73 体部外面墨書横位「家」力
		B 35				
11	坏 土 師 器	A 141	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ。内面黒色処理。	長石・針状鉱物・雲母にぶいし黄褐色、普通	P 3607 10% PL70 体部外面墨書正位「在」
		B 33				
12	坏 土 師 器	B 36	口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母赤色粒子にぶいし褐色、普通	P 3608 10% PL70 体部外面墨書正位「在」
		A 142				
13	坏 土 師 器	A 142	体部下端から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ。体部下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶいし黄褐色、普通	P 3609 5% 体部外面墨書「」
		B 41				
14	坏 土 師 器	B 21	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナズ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3610 5% PL70 体部外面墨書「在」力
		B 19				
15	坏 土 師 器	B 19	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナズ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3611 5% PL70 体部外面墨書横位「在」力
		B 39				
16	坏 土 師 器	B 39	体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3612 10% PL70 体部外面墨書正位「在」
		B 19				
17	坏 土 師 器	B 19	底部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面下端回転へラ削り。底部調整不明。内面黒色処理。	長石・雲母にぶいし褐色普通	P 3613 10% 底部墨書「在」力
		C 60				
18	坏 土 師 器	B 32	体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナズ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶいし褐色普通	P 3615 5% 体部外面墨書「」
		B 14				
第22図 19	坏 土 師 器	B 14	底部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部外面及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3616 5% 体部外面墨書「」
		C 60				
20	坏 土 師 器	B 13	底部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部外面回転へラ削り。底部調整不明。内面黒色処理。	長石・石英・雲母淡黄褐色普通	P 3617 10% 体部外面墨書「」
		C 68				
21	坏 土 師 器	B 14	体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面回転へラ削り。底部調整不明。内面黒色処理。	長石・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3618 5% PL70 体部外面墨書横位「在」力
		B 28				
22	高台付 坏 土 師 器	B 28	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部下端及び底部回転へラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母褐色、普通	P 3620 40%
		D 70				
23	高台付 坏 土 師 器	B 30	高台部片。高台はやや高めで、八の字状に開く。	体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物褐色、普通	P 3621 35%
		D 81				
24	高台付 坏 土 師 器	E 21	高台部から体部にかけて破片。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面へラ磨き。体部下端及び底部回転へラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母赤色粒子にぶいし褐色、普通	P 3623 30%
		B 37				
25	高台付 坏 土 師 器	D 72	高台部から体部にかけて破片。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ、外面下端及び底部回転へラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母にぶいし黄褐色普通	P 3624 100% PL62
		E 14				
26	高台付 坏 土 師 器	A 148	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナズ、下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母褐色褐色普通	P 3625 45%
		B 28				
		D 68				
		E 10				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 27	鉢 土師器	B 64	底部から体部下半にかけての破片。 平底。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面回転へラ削り。底部調整不明。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色普通	P 3627 5%
		C 90				
28	甕 土師器	A 220	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は長胴形を呈し、上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き外面横ナデ、体部下端へラ削り。底部調整不明。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3628 69% PL62 体部外面焼土付着
		B 314				
		C 80				
29	甕 土師器	A 186	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面へラ削り。	磯・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3629 10%
		B 96				
30	甕 土師器	A 190	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 褐色普通	P 3630 10%
		B 110				
31	甕 土師器	A 176	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英にぶい褐色普通	P 3631 10%
		B 83				
第22図 32	小形甕 土師器	A 136	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら立ち上がり、頸部との境に横を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面へラ削り。	磯・長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 3632 30% PL62
		B 107				
33	小形甕 土師器	A 130	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 3633 30% PL62 体部内・外面輪積み痕
		B 87				
34	小形甕 土師器	A 136	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色普通	P 3634 20% 体部内面輪積み痕
		B 91				
35	小形甕 土師器	A 142	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・針状鉱物にぶい褐色普通	P 3635 15%
		B 79				
36	甕 土師器	A 156	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部との境に横を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面へラナデ。	磯・長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 3636 10%
		B 76				
37	甕 土師器	A 182	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は開き頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 3637 10%
		B 62				
38	甕 土師器	B 102	体部中位から頸部にかけての破片。体部は内傾しながら頸部に至る。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい赤褐色、普通	P 3638 15%
39	甕 土師器	B 32	体部から体部下半にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面へラ削り。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色普通	P 3639 20%
		C 86				
40	甕 土師器	B 37	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面へラ削り。底部木葉痕。	磯・長石・石英・雲母 褐色、普通	P 3640 20%
		C 68				
41	甕 土師器	B 55	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面へラ削り。底部木葉痕。	長石・石英・雲母・赤色粒子 浅黄褐色、普通	P 3641 5%
		C 66				
42	甕 土師器	A 230	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は反反する。	輪積み後、体部内・外面横ナデ。	磯・長石・雲母・赤色粒子にぶい黄褐色、普通	P 3642 5%
		B 85				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 43	環 須恵器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎意味に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口コナ ナデ。底部手持ちへラ削り。	磯・長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3643 30%
		B 50				
		C 58				
44	環 須恵器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立 ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口コナ ナデ、下流手持ちへラ削り。底部調 整不明。	磯・長石・石英・雲 母 浅黄色、普通	P 3644 25% PL71 体部外面墨書横位 「在」
		B 49				
		C 62				
45	環 須恵器	A 130	体部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に外傾して立ち上 がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口コナ ナデ。	磯・長石・雲母 灰白色 普通	P 3645 5% PL70 体部外面墨書横位 「在」力
		B 33				
46	鉢 須恵器	B 36	底部片。平底。体部は直線的に外 傾して立ち上がる。	体部内・外面口コナナデ。底部調 整不明。	長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3646 5%
		C 110				
第22図 47	甕 須恵器	A 456	口頸部片。頸部は外傾して立ち上 がる。口縁部は外反し、肩部は上 下突出する。	口頸部内・外面口コナナデ後、外 面へラ状工具による3条の波状文 施文。	磯・長石・針状鉱物 灰黄色 良好	P 3647 25% PL62 外面自然釉
		B 137				
48	甕 須恵器	A 530	口頸部片。頸部は外傾して立ち上 がる。口縁部は外反し、肩部は上 下突出する。	口頸部内・外面口コナナデ。	磯・長石・針状鉱物 補灰色 良好	P 3648 5% 内面自然釉
		B 117				
49	甕 須恵器	A 220	体部上半から口縁部にかけての破 片。体部は内傾して頸部に至り、 肩部はくの字状に屈曲する。口縁 部は外反し、肩部は上下に突出す る。	口縁部内・外面口コナナデ。体部 内面口コナナデ、外面調整不明。	磯・長石・石英 黒褐色 普通	P 3649 10% 体部外面自然釉
		B 115				
50	甕 須恵器	A 212	口頸部片。頸部は外傾して立ち上 がる。口縁部は外反し、肩部は上 下突出する。	口頸部内・外面口コナナデ。	磯・長石 灰色 普通	P 3650 5% 内・外面自然釉
		B 63				
51	甕 須恵器	B 45	頸部片。頸部は外傾して立ち上 がる。	頸部内・外面口コナナデ後、外面 標識状工具 4本 による波状文 施文。	磯・長石 灰色 普通	TP3067 5% 外面自然釉
52	甕 須恵器	B 70	体部から頸部にかけての破片。体 部は内傾して頸部に至り、頸部は くの字状に屈曲する。	頸部内・外面口コナナデ。体部内 面口コナナデ、外面横位の平行叩 き。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	TP3068 5%
53	甕 須恵器	B 105	体部片。体部は内傾する。	体部内面口コナナデ、外面横位の 平行叩き。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	TP3069 5%
54	甕 須恵器	B 101	体部片。体部は内傾する。	体部内面口コナナデ、外面縦位の 平行叩き。	磯・長石・石英 灰色 普通	TP3070 5% 体部外面自然釉
55	甕 須恵器	B 127	体部片。体部は内傾する。	体部内面指ナデ、外面縦位の平行 叩き。	磯・長石・石英 灰色 普通	TP3071 5% 外面自然釉、内面 指摺圧痕
第22図 56	甕 須恵器	B 63	底部片。体部は外傾ながら立ち上 がる。多孔式。	体部内面ナデ、外面へラ削り。	磯・長石・雲母 褐色 普通	P 3651 5% 体部外面輪積痕。
		C 124				
57	円面 須恵器	B 50	脚台部片。脚台部は透かし窓を持 ち、下位に隆帯が通る。	脚台部内面ナデ。透かし窓へラ削り。 透かし窓間にへラ状工具による 黄灰及び 字状の沈線施文。	磯・長石 黄灰色 普通	P 3652 20% 外面自然釉
58	高台付 灰輪陶器	B 10	底部片。高台部欠損。体部は外傾 して立ち上がる。	底部内面口コナナデ。内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 3653 5% 黒笹 14号窯式段階
59	碗 灰輪陶器	A 148	体部から口頸部にかけての破片。 体部は内彎しながら開き、口縁部 は外反する。	口縁部及び体部内・外面口コナ ナデ。内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 3654 5% 黒笹 9号窯式段階
		B 28				
60	碗 灰輪陶器	A 142	体部から口頸部にかけての破片。 体部は内彎しながら開き、口縁部 は外反する。	口縁部及び体部内・外面口コナ ナデ。内面施釉。	長石 灰黄色 普通	P 3656 5% 灰オリーブ釉 黒笹 14号窯式段階
		B 32				
61	長頸 灰輪陶器	A 130	口頸部片。口縁部は上下に突出 し断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面口コナナデ。外面 施釉。	長石 灰白色 良好	P 3657 5% 黒笹 14号 9号 窯式段階
		B 13				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第224図 62	長頸瓶 灰釉陶器	A 118 B 14	口縁部片。口縁端部は上下に突出し断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面口クロナデ。外面施釉。	長石にぶい黄褐色 良好	P 3658 5% 井ヶ谷7窯式段階
63	長頸瓶 灰釉陶器	B 57	体部片。体部は丸味を持って内傾する。	体部内面口クロナデ。外面下部回転ヘラ削り。内・外面施釉。	長石 灰黄褐色 良好	P 3659 5% 井ヶ谷7窯式段階
64	長頸瓶 灰釉陶器	B 77	把手片。半円状を呈する。	粘土結貼り付け。全面施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3660 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第224図 65	釘	96	07	05	135	鉄	完形。断面が方形。	M 3096 PL80
66	釘	54	06	06	54	鉄	脚部下半欠損。	M 3097 PL80
67	釘	49	05	05	89	鉄	脚部下半欠損。断面が方形。	M 3098 PL80
68	釘	44	06	06	78	鉄	脚部下半欠損。断面が方形。	M 3099 PL80
69	鎖	37	13	05-07	34	鉄	先端が欠損する三角鎖。鎖身断面円丸。	M 3100 PL79

第123号住居跡（第225～228図）

位置 調査5区の中央部、G6f4区。

重複関係 北コーナー部から中央部にかけてを第124号住居に、西コーナー部から中央部にかけてを第20号掘立柱建物に、中央部付近を第98・101号ピットに、南コーナー部から南東壁中央にかけてを第105・106・109号ピットに、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.60m、短軸5.36mの方形である。

主軸方向 N-56°-E。

壁 壁高は44～48cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第123号住居に掘り込まれた部分と南東壁下を除く、壁下を巡っている。規模は、上幅8～20cm、下幅4～10cm、深さ6～8cmで、断面はU字形である。

床 はほぼ平坦である。西及び南コーナー付近を除いた部分が踏み固められている。

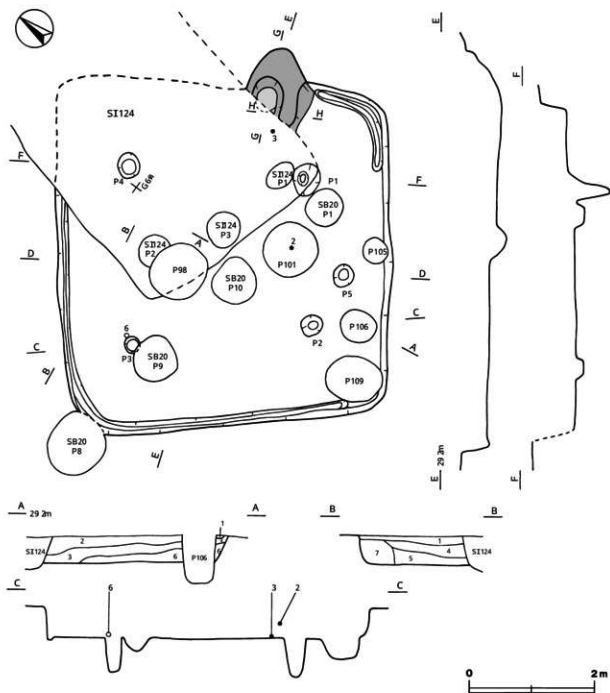
ピット 5か所（P1～P5）。P1・P3・P4は径26～48cmの円形、深さ20～68cmである。P2は長径36cm、短径32cmの楕円形、深さ64cmである。ピット間を結ぶ4本の線が、向かい合うそれぞれの壁とはほぼ平行になることから支柱穴と思われる。P5は径36cmの円形、深さ38cmである。南東壁の中央部寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北東壁中央部から南寄りに付設されており、左袖部が遺存している。袖部は床面とはほぼ同じ高さを基部として、粘土にローム土・砂粒・礫を混ぜて構築されている。第124号住居に掘り込まれているために残存する規模は、煙道部から袖部端まで108cm、幅106cm、壁外への掘り込みは42cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

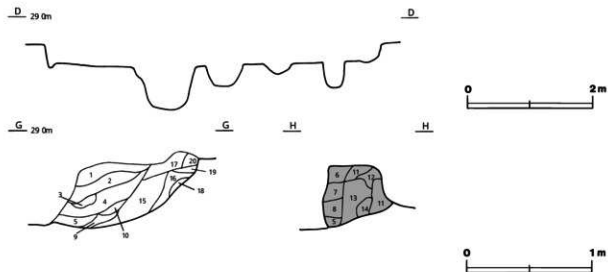
電土層解説

- 1 階 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・礫少量 4 階 褐色 ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック
- 2 階 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫少量
- 3 階 褐色 砂質粘土粒子・礫少量、焼土中ブロック微量

- | | | | |
|----------|--|-----------|-------------------------------------|
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子・礫少量。ローム大ブロック微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・礫少量、砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量 | 16 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 9 にぶい赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム大ブロック・礫少量 | 17 褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・礫少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土大ブロック・礫少量 | 18 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・礫微量 | 19 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・礫微量 |
| 12 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・礫微量 |



第 225 図 第 12 号住居跡実測図 (1)



第 226図 第 123号住居跡実測図(2)

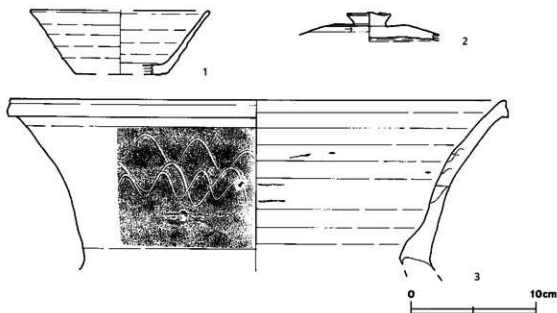
覆土 7層からなる。第1～3層がレンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

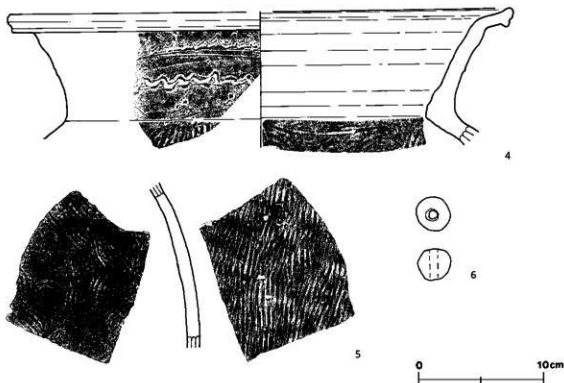
- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、ローム大ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物 遺構が重複しているため、細片及び混入物が多い。本跡の遺物として、須恵器5点、土製品1点(土玉)を抽出・図示した。第227図1の須恵器杯及び4の須恵器甕は、覆土から出土している。2の須恵器蓋は、P1西側の覆土中層から出土している。3の須恵器甕は、P1北側の床面から出土している。6の土玉は、P3北側の覆土下層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 227図 第 123号住居跡出土遺物実測図(1)



第 228 図 第 123 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 123 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 22 図 1	坏 須恵器	A 144	底部から口縁部にかけて破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面口ウロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3662 10%
		B 51				
		C 76				
2	蓋 須恵器	B 23	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部外面回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。	長石・雲母 灰白色 普通	P 3663 10%
		F 34				
		G 11				
3	甕 須恵器	A 396	口縁部片。口縁部は外反し、端部は下端が突出する。	輪轆み後、口縁部内面口ウロナデ 外面ヘラ状工具による波状文施文。	磯・長石・石英 灰赤色 普通	P 3664 9%
		B 135				
第 22 図 4	甕 須恵器	A 400	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ナデ。外面轆轤状 工具 2 本 による 2 条の波状文 施文。体部内面同心円の当て具履、 外面平行叩き。	磯・長石 黒褐色 普通	P 3665 9% 口縁部内・外面自然釉
		B 100				
5	甕 須恵器	B 129	体部片。体部は内彎する。	体部内面同心円の当て具履、外面 平行叩き。	長石・石英・雲母 灰色 普通	TP3073 9%

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅径 cm	孔径 cm	重量 g			
第 22 図 6	土 玉	-	27	07	152	土製	胎土に磯・針状鉱物を含む。	DP3036

第124号住居跡 (第229~234図)

位置 調査 5 区の中央部, G6区3区。

重複関係 南壁西寄りから第98号ピットに掘り込まれている。また、第123号住居跡の北コーナー部から中央部にかけてと第125号住居跡の大部分をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 重複が激しいため壁の残りが少ないが、長軸4.16m、短軸3.48mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-19°-E

壁 残存しているのは西壁の北側だけである。壁高は55cmほどで、直立する。

床 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。踏み固められた部分は認められない。

ピット 3か所(P1~P3)。P1は径24cmの円形、深さ15cmである。竈と向かい合う南壁際の中央部近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は長径52cm、短径34cmの楕円形、深さ18cm、P3は径51cmほどの円形、深さ41cmである。性格は不明である。

竈 壊されているが、粘土等の広がりから北壁の中央部に、粘土に砂粒及び礫を混ぜて付設されていたと思われる。規模は、粘土の広がりや火床部の様子から煙道から焚口部まで125cmほどと推定される。火床面は床面を18cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子少量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・礫少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土大ブロック中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・礫少量 | 10 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・礫少量 |

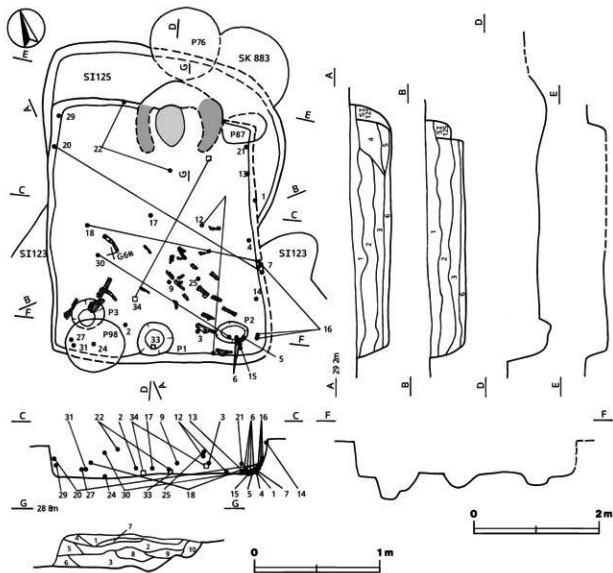
覆土 6層からなる。含有物が類似していることや小破片の土器が多量に含まれることなどから人為堆積と思われる。

土層解説

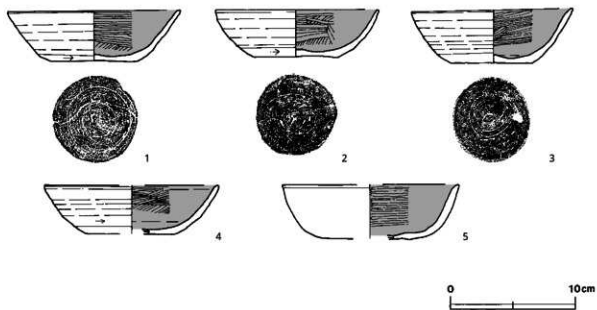
- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 黒褐色 | 黒色土ブロック多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子・礫少量、ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物 中央部から南壁間の覆土下層から中層にかけて、多くの遺物が出土した。うち土器器片24点、須恵器器片6点、灰釉陶器1点、石製品3点(腰帯具・砥石)、金属製品2点(釘)を抽出・図示した。第230・231図5・8・10・11の土器器片、23の土器器片、26の須恵器片、35・36の釘は、覆土から出土している。14の土器器片高台付杯は南東コーナー部、25の須恵器片は東壁の中央近く、33の釘は南壁中央部東側の覆土下層から出土している。31の灰釉陶器短頸壺は、確認面や北西コーナー部の覆土下層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。9の土器器片はP1の北側、12の高台付杯は中央部、18の土器器片は東壁際、20の土器器片は北西コーナー近くの覆土中層から出土している。1~4の土器器片は、それぞれ東壁際中央の北寄り、南壁中央部、南東コーナー部、東壁際中央、21・22の土器器片は北東コーナー、竈の南の覆土下層からそれぞれ出土したものである。32の石製腰帯具(巡方)は、出土位置は不明であるが、覆土下層から出土している。5・6の土器器片はP2近く、13の土器器片高台付杯は北東コーナー部、27の須恵器片は南西コーナー部の床面から出土している。30の須恵器片は、中央部の床面及び覆土から出土したものが接合したものである。34の砥石は、中央部の覆土下層及びP1北側の床面から出土したものが接合できたものである。33の石製腰帯具(丸柄)は、P1の覆土から出土している。また、南部から炭化材が多量に出土している。

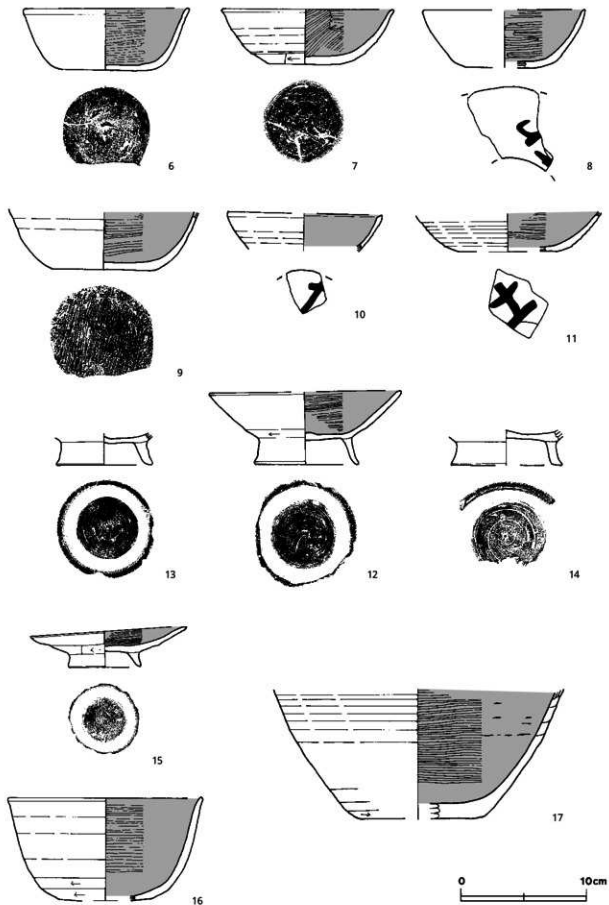
所見 本跡の残りは悪いが、腰帯具及び灰釉陶器の短頸壺が出土していることが注目される。灰釉陶器の短頸壺は、黒笹14号窯式段階と思われる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



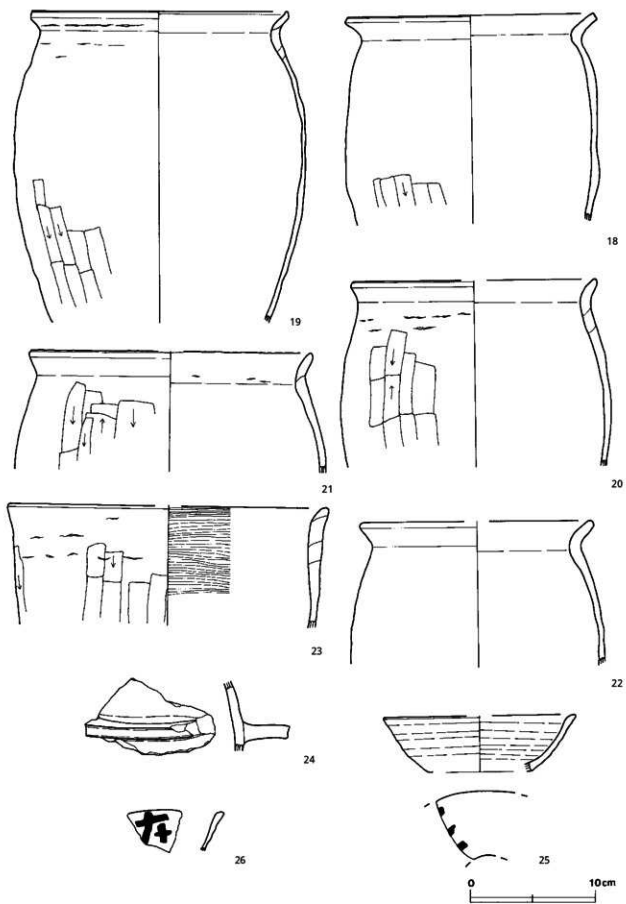
第 229 图 第 12 号住居跡実測図



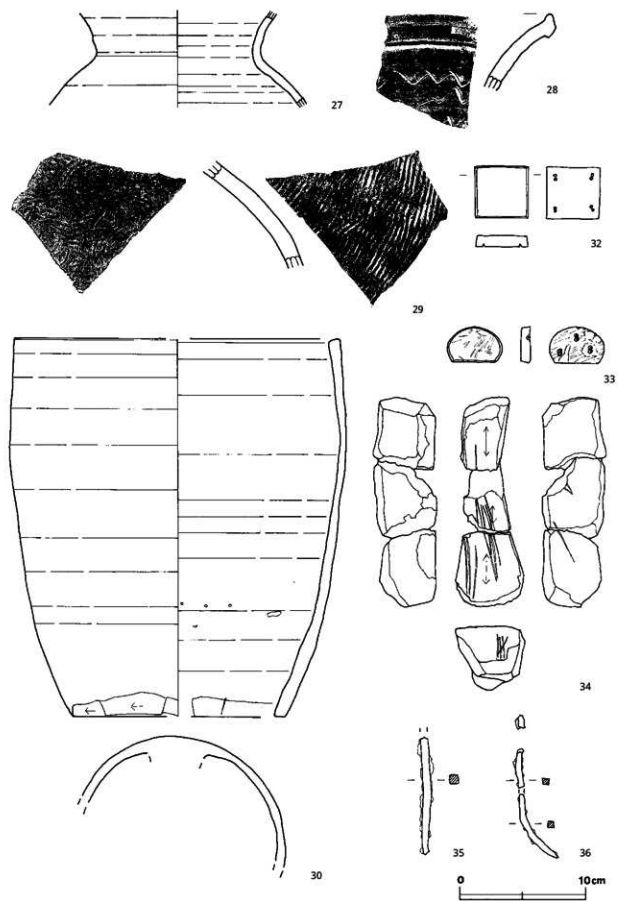
第 230 图 第 12 号住居跡出土遺物実測図 (1)



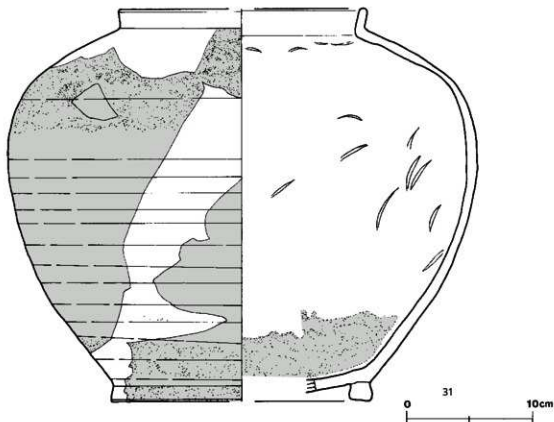
第 231 图 第 124 号住居跡出土遺物実測图 (2)



第 232 图 第 124 号住居跡出土遺物実測图 (3)



第 233 图 第 124 号住居跡出土遺物実測図(4)



第 234図 第 12号住居跡出土遺物実測図(5)

第 124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 234図 1	土 師 器	A 138	丸形。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母 にふい褐色、普通	P 3666 100% PL62 口縁部及び体部の一部スス付着
		B 40				
		C 68				
2	土 師 器	A 132	丸形。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母 褐色、普通	P 3667 100% PL62
		B 38				
		C 66				
3	土 師 器	A 128	丸形。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ附り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母 褐色、普通	P 3668 100% PL62 口縁部外面スス付着
		B 44				
		C 62				
4	土 師 器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ附り。底部調整不明。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 にふい褐色、普通	P 3671 39%
		B 39				
		C 68				
5	土 師 器	A 142	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁端部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ附り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・針状鉱物・雲母・赤色粒子 にふい褐色、普通	P 3672 30%
		B 44				
		C 78				
第 236図 6	土 師 器	A 134	口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ附り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲母 にふい褐色、普通	P 3670 60% PL62
		B 50				
		C 72				
7	土 師 器	A 148	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁端部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ附り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	礫・長石・雲母・赤色粒子 にふい褐色、普通	P 3669 75% PL62
		B 44				
		C 58				
8	土 師 器	A 130	平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P 3700 19% PL71 体部外面墨書正位「在」
		B 46				
		C 64				
9	土 師 器	B 48	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面ヘラナデ及びへラ磨き。底部外面へラ磨き。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲母 にふい褐色、普通	P 3673 49%
		C 82				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 10	環 土 師 器	A 124	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒 子 浅黄色、普通	P 3674 5% 口縁部外周及び底部 磨正位「在」力
		B 29				
11	環 土 師 器	B 31	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は内彎しながら外傾して 立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。 体部下端回転へラ削り。底部調整 不明。内面黒色処理。	礫・雲母 にぶい褐色 普通	P 3675 5% PL71 体部外周及び底部 磨正位「在」力
		C 80				
12	高台付 環 土 師 器	A 155	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はやや足高で、八の字状に開 く。体部は直線的に外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端回転へラ削り。 底部回転へラ削り後、高台貼り付 け。内面黒色処理。	長石・針状鉱物・雲 母 にぶい褐色 普通	P 3676 35%
		B 58				
		D 81				
		E 22				
13	高台付 環 土 師 器	B 25	高台部片。高台はやや足高で、八 の字状に開く。	底部内面へラ磨き、外面回転へラ 削り後、高台貼り付け。内面黒色 処理。	長石・石英・針状鉱 物・雲母 にぶい褐色、普通	P 3677 15%
		D 75				
		E 18				
14	高台付 環 土 師 器	B 28	高台部片。高台はやや足高で、八 の字状に開く。	底部内面へラ磨き、外面回転へラ 削り後、高台貼り付け。内面黒色 処理。	礫・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 3678 15%
		C 90				
		D 58				
		E 19				
15	高台付 皿 土 師 器	A 126	体部及び口縁部の一部欠損。平底。 高台は八の字状に開く。体部は開 き口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端回転へラ削り。 底部回転へラ削り後、高台貼り付 け。内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物 雲母・赤色粒 子 普通	P 3679 75% PL62
		B 33				
		D 58				
		E 12				
16	鉢 土 師 器	A 156	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎外傾に外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端回転へラ削り。 内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 3680 45% 体部内面一部剥離
		B 81				
		C 74				
17	鉢 土 師 器	B 102	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は内彎しながら外傾して 立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。 体部下端及び底部回転へラ削り。 内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物 雲母 褐色、普通	P 3681 15% 口縁部及び体部外 面磨正位 外周入付着
		C 102				
18	甕 土 師 器	A 197	体部から口縁部にかけての破片。体部 は内彎外傾に立ち上がる。頸部はく に字状に屈曲し、口縁部は角張る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ、体部下端縦位のへラ削り。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒 子 にぶい褐色、普通	P 3682 30% PL63 口縁部外周入付着
		B 165				
19	甕 土 師 器	A 205	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら外傾して立ち 上がる。口縁部は外反し、頸部は つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 へラ削り、体部外周下端縦位のへ ラ削り。	長石・石英・雲母・ 赤色粒 子 にぶい黄褐色、普通	P 3683 30% 口縁部及び体部外 面磨正位
		B 246				
20	甕 土 師 器	A 193	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら外傾して立ち 上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ、外面縦位のへラ削り。	礫・長石・針状鉱物 雲母 にぶい褐色、普通	P 3684 10% PL 体部外周磨正位
		B 148				
21	甕 土 師 器	A 226	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら外傾して立ち 上がる。口縁部は外反する。	口唇部に棒状工具による押圧。 口縁部内・外面横ナデ。体部内面横 ナデ、外面へラ削り。	長石・石英・雲母・ 赤色粒 子 褐色、普通	P 3686 10% 体部内面磨正位
		B 95				
22	甕 土 師 器	A 183	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら頸部に至る。 頸部はく字状に屈曲する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒 子 にぶい黄褐色、普通	P 3689 10% 口縁部内面磨正位
		B 116				
23	甕 土 師 器	A 256	体部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に外傾して立ち上 がる。口縁部は外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。 体部内面へラ磨き、外面縦位のへ ラ削り。	長石・石英・針状鉱 物・雲母・赤色粒 子 にぶい黄褐色、普通	P 3691 10% 体部外周入付着
		B 95				
24	羽 釜 土 師 器	B 55	管状の胴部分。	鈍削り付け後、上・下面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母 にぶい褐色、普通	P 3692 5%
25	環 須 恵 器	A 154	体部下端から口縁部にかけての破 片。体部は内彎しながら外傾して 立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロ ナデ。	長石・石英・針状鉱 物・雲母 にぶい褐色、普通	P 3694 15% PL71 体部外周磨正位 「在」力
		B 44				
		C 82				
26	環 須 恵 器	B 31	口縁部片。体部は外傾して立ち上 がる。	口縁部及び体部内・外面口口ロ ナデ。	礫・針状鉱物・雲母 灰白色 普通	P 3695 5% 体部外周磨正位 「在」力
第23図 27	甕 須 恵 器	B 77	体部から口縁部にかけての破片。 頸部はく字状に屈曲し、口縁部 は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロ ナデ。	礫・長石・針状鉱物 補灰色 自然焼	P 3697 10% 頸部及び体部外周 自然焼
28	甕 須 恵 器	B 61	口縁部片。口縁部は外反する。頸 部は断面三角形を呈する。	口縁部内口口ロナデ、外面口口 ロナデ後、へラ状工具による波状 施文。	礫・長石 灰色 普通	TP3072 5% 内・外面自然焼

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 29	須恵器	B 85	体部片。体部は内傾する。	体部内面同心円の当て具痕、外面平行印き。	磯・長石・針状鉱物 オリープ色 普通	TP3074 9%
30	須恵器	A 262 B 300 C 172	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に外傾して立ち上がり体部上位に最大径を持つ。口縁部は内傾する。	輪積み後、口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。体部下端横位のヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 灰黄褐色 不良	P 3698 15% PL63
第23図 31	短頸壺 灰輪陶器	A 182 B 344 D 211 E 15	高台部から口縁部にかけての破片。角高台が付く。体部は内傾しながら外傾して立ち上がり、ほぼ中に最大径を持ち、やや扁平な球状を呈する。口縁部は体部から短く直立する。	口縁部内・外面口口ロナデ。体部内面三日月状の当て具痕、外面下半凹転ヘラ削り。底部調整不明。高台貼り付け。内外面施釉。	長石 灰白色 良好	P 3699 30% PL63 黒笹 90時窯式段階

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第23図 32	腰帯具	40	42	09	344	花崗岩質岩石	巡方。オリープ灰色に白色が混じる。四隅に溝り穴。	Q 3026 PL77
33	腰帯具	29	44	08	181	粘板岩	丸転。黒色。四隅に溝り穴。	Q 3027 PL77
34	砥石	167	55	51	4325	凝灰岩	3面使用。一部赤化。	Q 3028 PL78

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第23図 35	釘	94	07	07	131	鉄	断面が方形。	M 3105
36	釘	72	05	05	97	鉄	J字状に屈曲し、断面が方形。	M 3106

第127号住居跡 (第235～242図)

位置 調査5区の中央部、G5g0区。

重複関係 第130・131・134号住居跡、第23号掘立柱建物跡を、それぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 西壁は、第130・131号住居跡と重複しているため確認できなかったが、壁柱穴の並びなどから長軸7.54m、短軸6.44mの長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 西壁は、重複のため確認できなかった。また、東壁の北側も第134号住居跡と重複のため、第134号住居跡の床面より50cmほどの深さである。残存する壁高は72～78cmで、外傾して立ち上がる。

床 確認面から浅いところで90cm前後、深いところで150cm前後掘り込んだ後、ローム土・焼土・炭化物・鹿沼バミス混じりの土を20～70cmの厚さに埋めて床を造っている。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。全体的に踏み固められている。

床面下土層解説

1	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	6	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化物・鹿沼バミス中ブロック微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
4	極暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	9	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量
5	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化物粒子微量	10	暗褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、鹿沼バミス大ブロック微量

- | | | | |
|--------|--|---------|--|
| 11 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
|--------|--|---------|--|

ピット 14か所（P1～P14）。P1～P4は長径78～98cm、短径68～80cmの円形ないし楕円形、深さ50～96cmで、ピット間を結ぶ線が、向かい合うそれぞれの壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は長径68cm、短径36cmの楕円形で、竈と対応する南壁の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P6～P12は長径30～60cm、短径24～42cmの円形ないし楕円形、深さ50cm前後で、壁のコーナー部や中央部に位置することから壁柱穴と思われる。P13・P14は長径26～30cm、短径24～26cmの円形ないし楕円形、深さ10cm前後で、西側端に位置する。東壁に対応するピットがないことなどから、性格は不明である。

P1土層解説

- | | | | |
|----------|---|-------|---|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量、焼土粒子・炭化物少量、焼土小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 |

P2土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
|-------|--------------------|-------|--|

P3土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化材少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子多量、焼土中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック微量 | | |

P4土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量、焼土中ブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |

竈 北壁に付設されており、天井部及び袖部が遺存している。天井部及び袖部は、粘土に砂粒を混ぜて頑強に構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで2.06cm、最大幅260cm、壁外への掘り込みは110cmである。火床面は、床面を20cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面から20度ほどの角度をもって立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|---|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土大ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 粘土大ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | | |
| 9 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 16層からなる。含有物が類似していることやブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

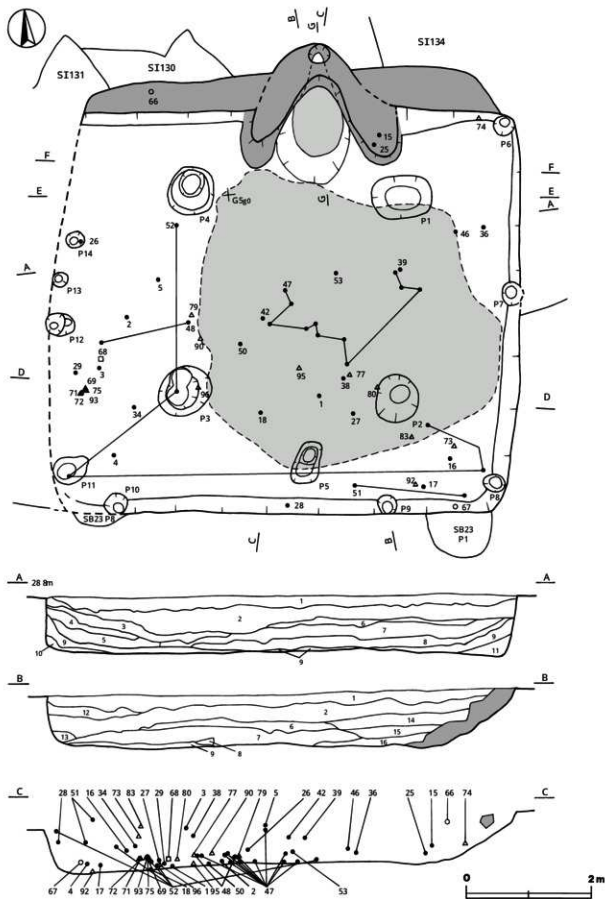
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・微量 |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------------|

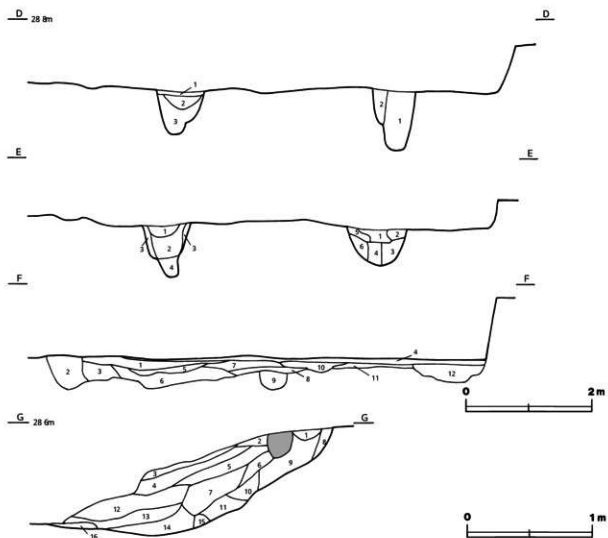
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス粒子・練炭量	10	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量	11	褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・練炭量	12	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
6	暗褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子少量	13	暗褐色	焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・練炭量
7	暗褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土大ブロック・炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・練炭量、灰色粘土粒子少量	14	暗褐色	焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス粒子・粘土小ブロック少量
8	黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子中量、炭化物・粘土粒子少量	15	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子・粘土小ブロック少量
9	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス大ブロック少量	16	暗褐色	焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子・練炭量

遺物 多量の焼土や炭化物が覆土下層から中層にかけて入り、また、遺物がそれらと混じって出土している。遺物は細片が多いので、土師器34点、須恵器22点、灰釉陶器9点、石製品1点(紡錘車)、土製品2点(紡錘車・支脚)、金属製品28点(釘・鎌・鏝・火打金・鍵)、自然遺物1点(笹竹の炭化物)を抽出・図示した。第237・238図7～13の土師器杯、19～23の土師器高台付杯、25・26の高台付皿、31の土師器甕、37・40・41の須恵器杯、42の須恵器高台付杯、43の須恵器高台付皿、45の須恵器蓋、47・49の須恵器甕、54・55の円面硯、57・58の灰釉陶器段皿、59の灰釉陶器蓋、60～64の灰釉陶器碗、65の灰釉陶器長頸瓶、70の刀子、76・78・81・82・84～88の釘、89の鎌、91・94の鏝は、いずれも覆土から出土している。5の土師器杯は中央部の西寄り、3の土師器杯は西壁際の中央部から南寄り、34の土師器甕はP3の西側、38の須恵器杯は、P2の北西側、73の刀子はP2の東側、83の釘はP2付近の覆土上層から出土している。16の土師器高台付杯は南東コーナー一部、28の土師器高台付皿は南壁際の中央、39の須恵器杯はP1の南側、51の須恵器甕は南東コーナー一部やP5の東側、53の須恵器円面硯は中央部、69・71・72・75の刀子は西壁際の中央部南寄り付近、74の刀子は北東コーナー、90の鎌はP3の北側、93の鏝はP3の西側の覆土中層から出土している。特に、69・71・72・75の刀子は、隣接して出土している。52の須恵器円面硯は、南東コーナー部及びP11の付近の覆土中層やP2の南東側及びP4の南側などの覆土下層から出土した破片が、接合したものである。1・2・4の土師器杯は、それぞれP2の西側、P12の東側、P11の東側、15・17の土師器高台付杯は、それぞれ甕右袖部、南壁際南東コーナー寄り、27・29の土師器高台付皿は、それぞれP2の西側、P12の南側、36の須恵器杯はP1の南東側、46の須恵器鉢はP1の南側、50の須恵器甕はP3の北東側など、68の紡錘車はP12の東側、77・79の釘はそれぞれP2の西側、中央部、95の火打金は中央部南寄り、96の鍵はP3の付近の覆土下層から出土している。18の土師器高台付杯はP3の東側、92の鏝はP2の南側の床面から出土している。32の土師器甕はP1の覆土から出土している。また、56の須恵器高台付杯の転用硯は甕の袖部中から、6の土師器杯と35の須恵器杯は貼床下から、それぞれ出土している。

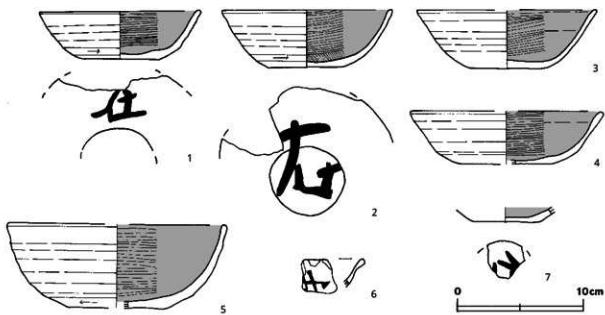
所見 中央部から南壁間に東西4.85m、南北4.70mの四角形状の炭化物や多数の遺物(墨書土器、円面硯、金属製品等)を含んだ焼土層(土層図面中第6～8層)の広がり確認できた。周囲で火災があった後に、その処理のために埋められたと思われる。また、北壁面及び甕の壁外掘り込み部分の左右、棚状に粘土が貼られている。右側は東西2.00m、奥行き0.73m、左側は南北2.75m、奥行き0.53mである。第134号住居跡の覆土を壁にしているためか、右側は左側より粘土がやや厚めに貼られている。本跡は、甕及びその周辺の作りが他の住居と違うことが特筆される。出土土器などから9世紀後葉に廃絶されたと考えられる。



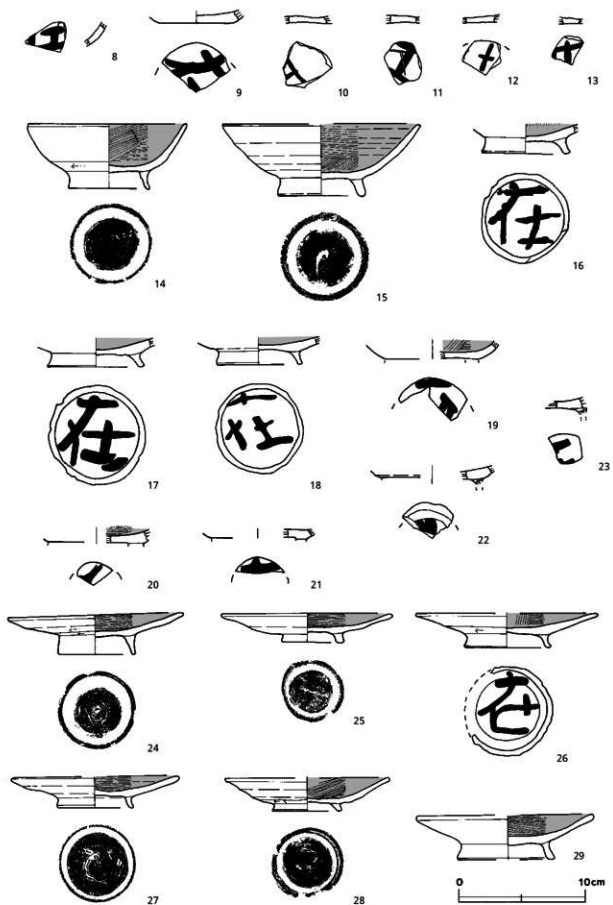
第 235 图 第 12 号住居跡実測图 (1)



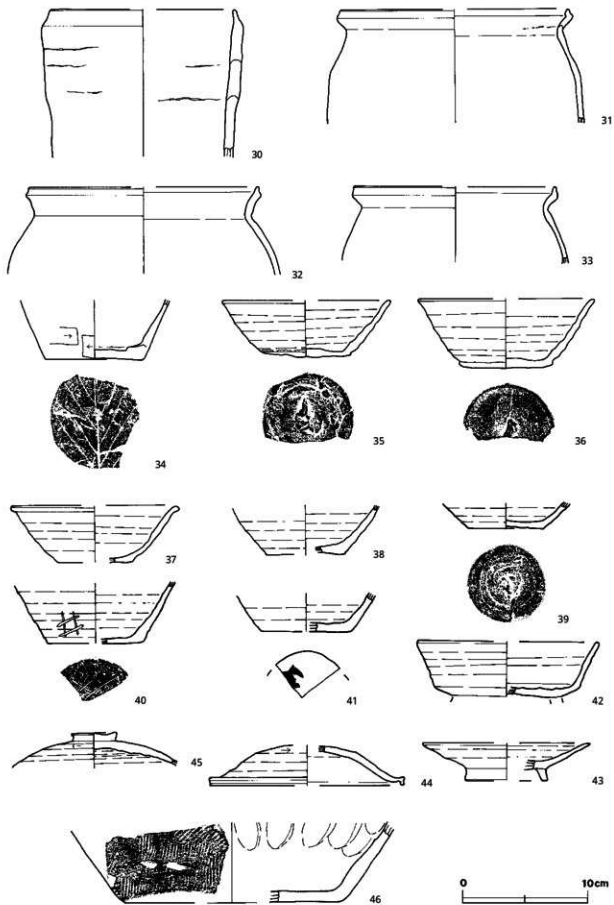
第 236 图 第 127 号住居跡実測图 (2)



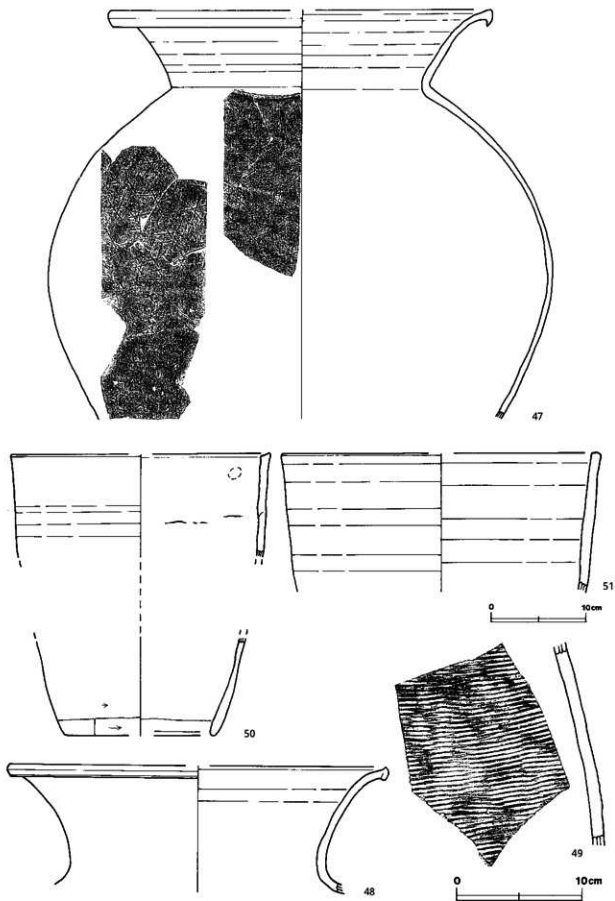
第 237 图 第 127 号住居跡出土遺物実測图 (1)



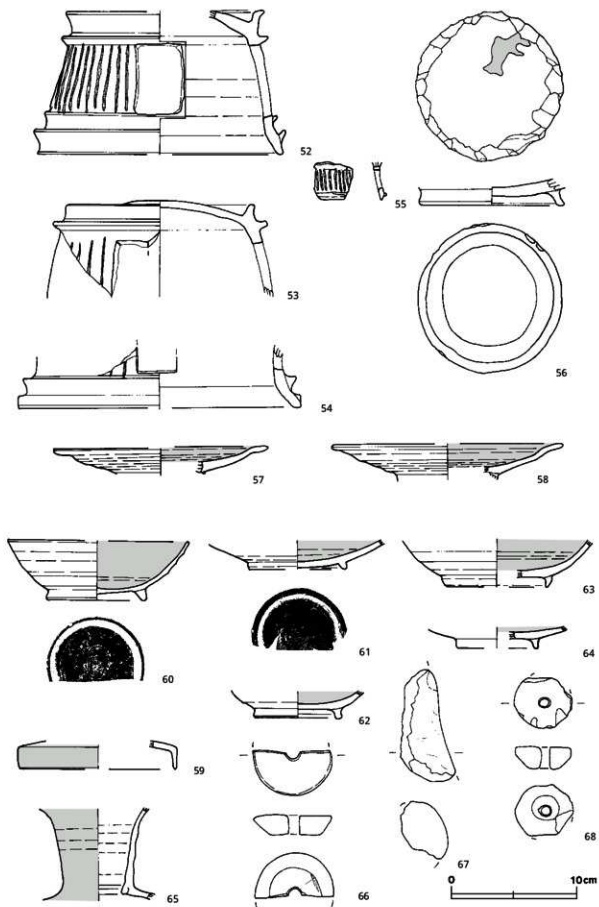
第 238 图 第 127 号住居跡出土遺物実測图 (2)



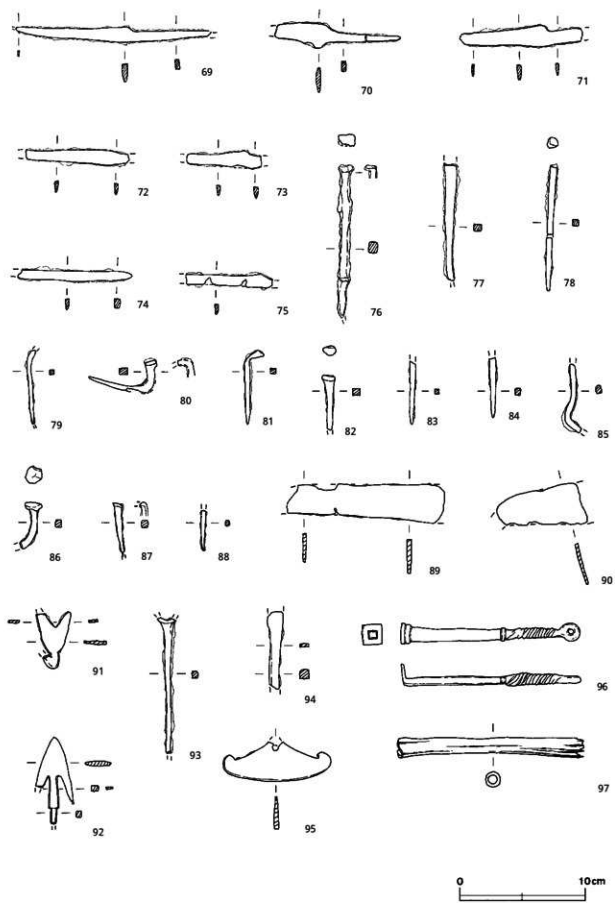
第 239 图 第 127 号住居跡出土遺物実測图 (3)



第 240 图 第 127 号住居跡出土遺物実測図 (4)



第 241 图 第 12 号住居跡出土遺物実測图 (5)



第 242 图 第 127 号住居跡出土遺物実測图 (6)

第 127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	土 師 器	A 130	口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	磯・長石・雲母・赤色粒子 浅黄褐色、普通	P 3701 90% PL63 体部外面墨書正位「在」
		B 38				
		C 59				
2	土 師 器	A 137	口縁部及び体部内面へラ磨き。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部調整不埒。内面黒色処理。	磯・長石・針状鉱物 褐色 普通	P 3702 89% PL63 71 体部及び底部外面墨書正位「在」
		B 45				
		C 60				
3	土 師 器	A 144	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部調整不埒。内面黒色処理。	長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3704 40%
		B 46				
		C 60				
4	土 師 器	A 154	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反し、内面に弱い稜を持つ。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部調整不埒。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3705 40%
		B 42				
		C 74				
5	土 師 器	A 178	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3706 40%
		B 66				
		C 176				
6	土 師 器	B 22	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3709 9% PL74 体部外面墨書「フ」
		B 11 C 52	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へラ磨き、体部下端回転へラ削り。底部調整不埒。内面黒色処理。	長石・雲母・針状鉱物 にぶい褐色、普通	P 3710 9% PL71 底部墨書「在」カ
第23図 8	土 師 器	B 20	体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 3711 9% PL71 体部外面墨書正位「在」
		B 10 C 58	底部片。平底。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色、普通	P 3712 9% PL71 底部墨書「在」
10	土 師 器	C 30	底部片。平底。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。内面黒色処理。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3713 9% 底部墨書「在」
		C 24	底部片。平底。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。内面黒色処理。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3714 9% 底部墨書「在」カ 及びへラ記号。
12	土 師 器	C 27	底部片。平底。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。内面黒色処理。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 3715 9% PL71 底部墨書「在」カ
		C 18	底部片。平底。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。内面黒色処理。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 3716 9% PL71 底部墨書「在」カ
14	高台付土 師 器	A 128	口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色 普通	P 3717 90% PL63
		B 51				
		D 66				
		E 15				
15	高台付土 師 器	A 158	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部調整不埒。高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 3718 50%
		B 56				
		D 70				
		E 14				
16	高台付土 師 器	B 24	高台部片。高台は八の字状に開く。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母・赤色粒子 浅黄褐色、普通	P 3873 29% PL71 底部墨書「在」
		D 72				
		E 13				
17	高台付土 師 器	B 23	高台部片。高台は八の字状に開く。	底部内面へラ磨き、外面回転へラ削り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3719 29% PL71 底部墨書「在」
		D 78				
		E 11				
18	高台付土 師 器	B 22	底部片。平底。高台は八の字状に開く。	底部内面へラ磨き、外面調整不埒。高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・雲母・赤色粒子 浅黄褐色、普通	P 3720 20% 底部墨書「在」
		D 67 E 11				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 19	高台付 土師器	B 15	高台部欠損の底部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き，外面回転へラ削り。底部調整不明。高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい橙色，普通	P 3721 10% 底部墨書「J」
	高台付 土師器	B 12	高台部欠損の底部片。平底。	底部内面へラ磨き，外面調整不明。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母にぶい橙色，普通	P 3722 5% 底部墨書「J」
	高台付 土師器	B 08	高台部欠損の底部片。平底。	体部内面へラ磨き，外面調整不明。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3723 5% PL71 底部墨書「在」カ
	高台付 土師器	B 16	高台部欠損の底部片。平底。	底部内面へラ磨き，外面調整不明。内面黒色処理。	長石・針状鉱物・雲母にぶい橙色，普通	P 3724 5% 底部墨書「J」
	高台付 土師器	B 14	高台部欠損の底部片。平底。	底部内面へラ磨き，外面調整不明。内面黒色処理。	磯・針状鉱物・雲母にぶい橙色，普通	P 3725 5% 底部墨書「在」カ
24	高台付 土師器	A 142	口縁部の一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3726 99% PL63
		B 33				
		D 62				
		E 15				
25	高台付 土師器	A 138	口縁部の一部欠損。体部は直線的に開き，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母にぶい橙色，普通	P 3727 90%
		B 24				
		D 50				
		E 08				
26	高台付 土師器	A 148	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナデ。底部へラ切り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母にぶい橙色，普通	P 3728 50% 底部墨書「在」
		B 27				
		D 120				
		E 11				
27	高台付 土師器	A 132	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナデ。底部回転へラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3729 40%
		B 24				
		D 60				
		E 08				
28	高台付 土師器	A 132	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は内彎気味に開き，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部調整不明。高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物・雲母にぶい橙色，普通	P 3730 50%
		B 27				
		D 58				
		E 06				
29	高台付 土師器	A 141	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面横ナデ。底部調整不明。高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3731 20%
		B 35				
		D 76				
		E 15				
第23図 30	鉢 土師器	A 150	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	輪轆み後，口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母にぶい橙色，普通	P 3761 5% 体部内・外面輪轆み後
		B 115				
31	甕 土師器	A 182	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り，頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3732 5% 頸部内面輪轆み後
		B 149				
32	甕 土師器	A 186	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り，頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤赤褐色にぶい橙色，普通	P 3735 5%
		B 68				
33	甕 土師器	A 161	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り，頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3738 10%
		B 60				
34	甕 土師器	B 47	底部片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内面横ナデ，外面へラ削り。底部内面横ナデ，底部木葉焼。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	P 3739 5%
		C 80				
35	環 須恵器	A 136	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ナデ。底部回転へラ削り。	長石・石英・針状鉱物にぶい橙色，普通	P 3742 70%
		B 44				
		C 72				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 36	坏 須恵器	A 139	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物・雲母に灰ノ黄褐色、普通	P 3744 30%
		B 55				
		C 73				
37	坏 須恵器	A 136	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3746 20%
		B 45				
		C 62				
38	坏 須恵器	B 39	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰白色、普通	P 3750 20%
		C 64				
39	坏 須恵器	B 21	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 浅黄色、普通	P 3751 10%
		C 60				
40	坏 須恵器	B 48	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英 灰黄褐色 普通	P 3755 10% 体部及び底部ヘラ記号
		C 76				
41	坏 須恵器	B 31	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 3756 10% 底部墨書「在」力 普通
		C 72				
42	高台付 須恵器	A 144	底部から口縁部にかけての破片。平底。高台部欠損。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3757 30%
		B 44				
43	高台付 須恵器	A 136	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。高台部付り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3758 5%
		B 31				
		D 66				
		E 10				
44	壺 須恵器	A 156	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は笠形で、口縁部は屈曲し垂下する。	体部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ付り。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 3759 30%
		B 33				
45	壺 須恵器	B 28	天井部片。天井部は杖状皿状で、ボタンのつまみが付く。	体部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ付り後、つまみ接合。つまみ上部ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3760 10%
		F 34				
		G 07				
46	鉢 須恵器	B 63	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面当て具履、外面平行叩き。底部横位のヘラ付り。	磯・長石・雲母 灰黄色 普通	P 3762 5%
		C 17.4				
第24図 47	甕 須恵器	A 400	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3763 30%
		B 431				
48	甕 須恵器	A 398	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石 暗灰黄色 普通	P 3764 5%
		B 132				
49	甕 須恵器	B 153	体部片。体部は内傾する。	体部内面口ロナデ、外面横位の平行叩き。	長石・雲母 オリーブ黒色 普通	TP3075 5% 外面自然釉
50	甕 須恵器	A 276	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端内・外面ヘラ付り。	磯・長石・針状鉱物・石英 灰色、普通	P 3766 15% 体部内面輪積み痕
		B 212				
		C 160				
51	甕 須恵器	A 336	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3767 5%
		B 143				
第24図 52	円面 須恵器	A 158	脚台部から碗部にかけての破片。碗部は上端に1条、下端に2条の隆帯を持つ。透かし窓は4か所。	碗部外境及び脚台部隆帯貼り付け。碗部裏面ナデ。脚台部内面ナデ、外面ヘラ状工具による透かし窓及び沈線施文。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P 3768 50% PL63
		B 114				
		D 197				
53	円面 須恵器	A 150	脚台部から碗部にかけての破片。脚台部上部と外周部に隆帯を持つ。脚部に透かし窓を持つ。	碗部外境及び脚台部隆帯貼り付け。碗部裏面ナデ。脚台部内面ナデ、外面ヘラ状工具による透かし窓及び沈線施文。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P 3769 10%
		B 76				
54	円面 須恵器	B 50	脚台部片。脚台部下端に隆帯を2条持つ。透かし窓を持つ。	脚台部下端隆帯貼り付け、ヘラ状工具による透かし窓及び沈線施文。	磯・長石 灰色 良好	P 3770 5%

図版番号	器種	計測値 cm		器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		長さ	幅				
第24図 55	円面 須恵器	B	30	小形円面碗の脚台部片。脚台部は内傾する。隆帯が通り、透かし窓を持つ。	脚台部内面ナデ、外面下隆帯等貼り付け及び外面へラ状工具による透かし窓及び沈線施文。	緑・長石 褐灰色 良好	P 3772 9% 脚部内・外面黒色 斑点
		D	114				
56	高台付 須恵器	B	21	高台部片。平底。高台は八の字状に内開く。	口縁部及び体部欠損。底部内・外面に転用。	緑・長石・石英 灰黄色 普通	P 3774 10% 底部面朱塗痕
		D	114				
		E	12				
57	段皿 灰輪陶器	A	172	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は大きく開き、口縁部との境に段を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3775 10% 黒帯 14号窯式段脚
		B	21				
58	段皿 灰輪陶器	A	182	高台部から体部にかけての破片。高台部貼り付け。体部は大きく開き、口縁部との境に段を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3776 9% 黒帯 14号窯式段脚
		B	29				
59	蓋 灰輪陶器	A	124	天井部から口縁部にかけての破片。口縁部は天井部から直角に屈曲し、垂下する。	口縁部及び天井部内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰白色 良好	P 3778 9% 黒帯 9号窯式段脚
		B	23				
60	高台付 灰輪陶器	A	147	高台部から口縁部にかけての破片。角高台が付く。体部は内傾しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰白色 良好	P 3779 30% 黒帯 9号窯式段脚
		B	47				
		D	82				
		E	10				
61	高台付 灰輪陶器	B	23	高台部から体部にかけての破片。中央部が突き出る平底。角高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。高台内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3780 20% 黒帯 14号窯式段脚
		D	76				
		E	05				
62	高台付 灰輪陶器	B	22	高台部から体部にかけての破片。角高台が付く。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。施釉。	長石 にぶい黄褐色 良好	P 3781 10% 釉：灰白色 折戸 5号窯式段脚
		D	70				
		E	08				
63	高台付 灰輪陶器	B	37	高台部から体部にかけての破片。断面三日月状の高台が付く。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。	体部内口ロナデ。外面下端回転へラ削り。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰黄色 普通	P 3782 10% 見込みトナリ黒 帯 14号窯式段脚
		D	80				
		E	09				
64	高台付 灰輪陶器	B	18	高台部から体部にかけての破片。角高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。高台貼り付け後、内・外面口ロナデ。灰釉施釉。	長石 灰黄色 良好	P 3783 10% 黒帯 14号窯式段脚
		D	32				
		E	09				
65	長頸 灰輪陶器	B	74	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は直角に屈曲し、直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、肩部は断面 T 字状を呈する。	口縁部及び頸部口ロナデ。施釉。	長石・石英 灰黄色 良好	P 3788 30% 黒帯 9号窯式段脚
		D	09				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第24図 66	紡錘 支脚	64	64	16	373	土製	中央部に孔が空く。	DP3037
		88	44	17	322			

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第24図 68	紡錘 支脚	42	47	17	322	泥岩	一部欠損。中央部に 0.7cm の孔が空く。	Q 3029

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第24図 69	刀 子	157	16	0.1-0.5	133	鉄	刃部先端及び茎部欠損。	M 3108 PL80
		101	20	0.3-0.4	125			
70	刀 子	99	17	0.2-0.4	128	鉄	刃部先端及び茎部欠損。	M 3110 PL80
71	刀 子	83	13	0.2-0.3	97	鉄	刃部先端及び茎部欠損。	M 3111
72	刀 子	60	14	0.2-0.4	66	鉄	刃部先端及び茎部欠損。	M 3112 PL80
73	刀 子	92	09	0.3-0.4	112	鉄	刃部先端欠損。	M 3113

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第248回	刀子	70	11	03	45	鉄	先端が欠損した刃部。	M 3114
76	釘	121	08	08	223	鉄	脚部先端欠損。	M 3115 PL80
77	釘	92	11	06	151	鉄	頭部及び脚部先端欠損	M 3116
78	釘	99	06	05	79	鉄	頭部及び脚部一部欠損。	M 3117
79	釘	58	03	03	33	鉄	頭部及び脚部先端欠損。	M 3118
80	釘	55	07	05	62	鉄	し字状に屈曲。頭部及び脚部先端欠損。	M 3119
81	釘	58	05	04	41	鉄	し字状に屈曲。頭部欠損。	M 3120
82	釘	44	06	06	69	鉄	脚部先端欠損。	M 3121 PL80
83	釘	50	04	04	35	鉄	頭部欠損。	M 3122
84	釘	48	05	06	62	鉄	頭部欠損。	M 3123
85	釘	54	05	07	71	鉄	頭部及び脚部先端欠損。	M 3124
86	釘	38	05	06	65	鉄	脚部欠損。断面が長方形。	M 3125 PL80
87	釘	43	05	07	38	鉄	頭部欠損。断面が方形。	M 3126 PL80
88	釘	32	05	05	16	鉄	頭部欠損。断面が長方形。	M 3127
89	鎌	126	31	03-04	418	鉄	刃部先端及び基部欠損。	M 3128 PL79
90	鎌	75	32	03	176	鉄	刃部先端及び基部等欠損。	M 3129 PL79
91	鎌	45	27	02-04	79	鉄	履脱履。鎌身は断面長方形。	M 3130 PL79
92	鎌	69	30	02-05	124	鉄	鎌口の片方及び茎尻部欠損。鎌身断面円丸。	M 3131 PL79
93	鎌	108	08	06	138	鉄	鎌身及び茎尻欠損。	M 3132 PL79
94	鎌	62	08	03-08	88	鉄	長穂柄鎌。鎌	M 3133
95	火打金	86	30	03	253	鉄	上部に径が0.4mほどの孔を持つ。	M 3134 PL79
96	鎌	145	16	03-09	318	鉄	柄の部分は彎状。先端は方形で長方形の穴が空く。	M 3135 PL79

図面番号	器種	計測値			材質	特徴	備考
		長さ cm	径 cm	重量 g			
第248回	不明	150	12-16	108	竹	両端に節があり、炭化している。	W 3001

第128号住居跡（第243～245図）

位置 調査5区の北部、G6b1区。

規模と平面形 長軸3.92m、短軸3.64mの方形であるが、南東コーナー部が調査区域外に延びる。

主軸方向 N-90°-W

壁 壁高は40～42cmで、外傾して立ち上がる。

床 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。木の根に擾乱された北コーナー付近と竈左袖部付近を除いて、踏み固められている。

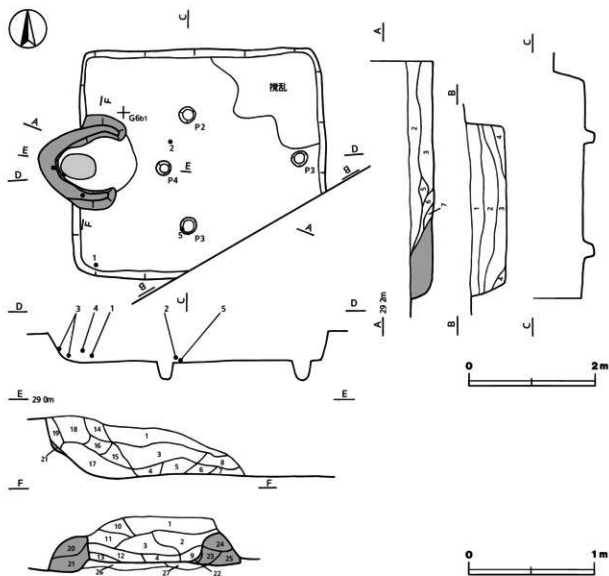
ピット 4か所（P1～P4）。P1は長径28cm、短径24cmの楕円形、深さ30cmで、竈と向かい合う東壁の中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P2～P4は長径24～28cm、短径24cmの円形ないし楕円形、深さ18～28cmで、南北壁の中央近く及び竈の焚口部の東に位置する。性格は不明である。

竈 西壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで136cm、最大幅150cm、壁外への掘り込みは64cmである。火床面は床面とはほぼ同じレベルで、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面から40°ほどの角度をもって立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|---|---|-----|---|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量 | 4 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |

- | | | | |
|---------|---|----------|---|
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・礫少量 | 17 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 18 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子・礫少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 19 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 20 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・礫少量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 砂質粘土粒子・礫少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 22 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 23 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム大ブロック微量 | 24 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 13 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 25 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 14 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 26 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 15 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 27 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 16 極暗褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | | |



第 243 図 第 128 号住居跡実測図

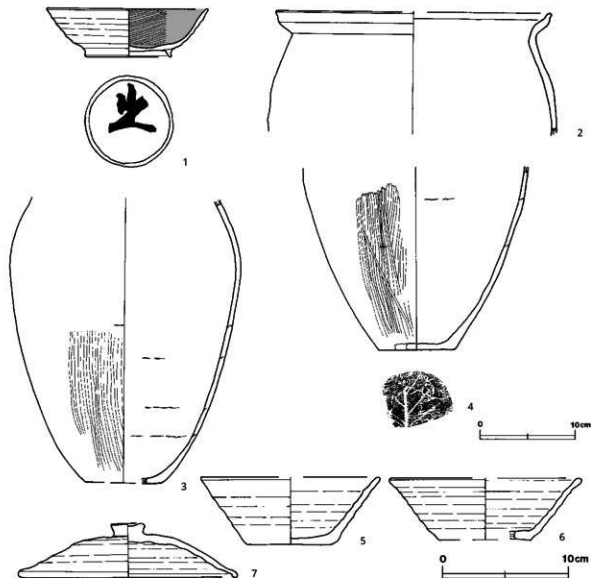
覆土 第1層は表土で、確認面からの土層は第2～7層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

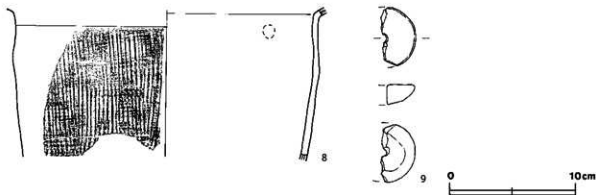
- | | | | |
|-------|---|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

遺物 出土遺物は少なく、竈周辺を中心に土師器片54点、須恵器片52点、土製品1点が出土している。うち土師器4点、須恵器4点、土製品1点（紡錘車）を抽出・図示した。第244図3の土師器甕、6の須恵器杯、7の須恵器蓋、8の須恵器瓶、9の紡錘車は、覆土及び竈の覆土等から出土している。1の墨書された土師器高台付杯は、南西コーナーの覆土下層から逆位の状態で出土している。2の土師器甕は、中央部の覆土下層から出土している。5の須恵器杯は、床面のP3上から出土している。3の土師器甕は、竈の覆土中層から出土したものが接合したものである。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から9世紀中葉と思われる。



第244図 第128号住居跡出土遺物実測図(1)



第 245図 第 128号住居跡出土遺物実測図(2)

第 128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 24図 1	高台付 土 師 器	A 128	口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下廻回転へラ磨り。底部回転へラ磨り後、高台貼り付け。内面黒色処理。	緑・長石・針状鉱物 浅黄褐色 普通	P 3791 95% PL63 74 底部墨書「出」
		B 39				
		D 68				
		E 07				
2	甕 土 師 器	A 222	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	緑・長石・針状鉱物 雲母・赤色粒子 褐色、普通	P 3792 10%
		B 97				
3	甕 土 師 器	B 298	底部から体部上部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径を持つ。	体部内面横ナデ、外面底位のへラ磨き。底部木葉痕。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3793 50% 体部内面軸積み痕
		C 82				
4	甕 土 師 器	B 194	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面底位のへラ磨き。底部内面指ナデ、底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 3794 20% 体部内面軸積み痕
		C 82				
5	坏 須 恵 器	A 144	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ切り。	緑・長石・石英・針 状鉱物 にぶい褐色、普通	P 3795 40%
		B 53				
		C 70				
6	坏 須 恵 器	A 152	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状 鉱物 灰オリブ色、普通	P 3796 30%
		B 49				
		C 74				
7	蓋 須 恵 器	A 170	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は笠形で、口縁部は短く折り返されている。中央部が窪むつまみ貼り付け。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転へラ磨り後、つまみ接合。	長石・石英・針状 鉱物・雲母 灰黄褐色 普通	P 3797 60% PL63
		B 43				
		F 26				
		G 09				
第 24図 8	甕 須 恵 器	B 118	体部片。体部は外傾して立ち上がり頸部は強く外に屈曲する。	体部内面口ロナデ、外面格子状の叩き。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3798 5% 体部内面指頭痕

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 24図 9	紡 輪 車	47	47	16	165	土製	断面が逆台形。45%。	DP3039

第130号住居跡 (第246図)

位置 調査 5区西部, G5g9区。

重複関係 3軒の重複で、本跡が第131号住居跡及び第23号掘立柱建物跡を掘り込み、第127号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 重複しているため北壁と南壁の一部しか残っていない。北壁から南壁は6.57mであり、残存する北壁は4.72mである。平面形は不明である。

主軸方向 竈の向きなどからN-10°-Eと推定される。

壁 3軒が重複しているため東西壁は残っていない。残存する壁高は70~77cmで、ほぼ直立する。

床 鹿沼層まで掘り込んだ後、焼土・ローム土・砂質粘土などが混じった土砂を20~50cmほど埋めて床を造っている。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 10か所(P1~P10)。P1・P2は長径46~55cm、短径42~47cmの楕円形、深さ45~50cmである。2本を結んだ線が南北壁とはほぼ直角になることから支柱穴と思われる。P3~P10は長径30~53cm、短径28~45cmの円形ないし楕円形で、深さ15~20cmである。南壁のコーナー部付近や、西壁部分と考えられるところに並ぶことから壁柱穴と思われる。

竈 北壁に付設されていたが、第127号住居を作る時に、袖部等は壊されている。竈土層図中の第1層から6層は第127号住居構築時に北壁として貼りつけられたものと思われる。粘土と砂粒を混ぜて構築されていたと思われる。残存する規模は、煙道部から火床部まで1.95m、最大幅2.05m、壁外への掘り込みは1.10mである。火床面は床面とはほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。竈の内壁や火床面は赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面から30°ほどの角度をもって立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム大ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス中ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量	12 緑暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂少量、ローム中ブロック・焼土粒子少量	13 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・鹿沼パミス中ブロック少量	14 緑暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、ローム大ブロック微量
7 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・鹿沼パミス中ブロック微量	15 緑暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
8 褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム大ブロック少量	16 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子少量

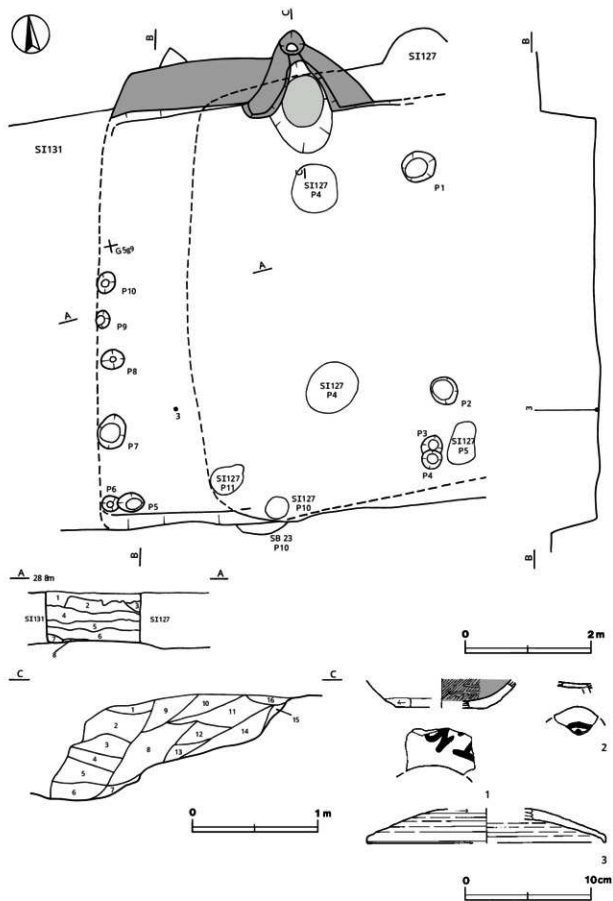
覆土 8層からなるが、含有物が類似している。短時間に埋まったと思われるので、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子少量
2 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量	6 褐色	ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、鹿沼パミス粒子微量	7 暗褐色	鹿沼パミス粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
4 褐色	ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物 出土遺物は少なく、土師器2点、須恵器1点を抽出・図示した。第246図1の土師器杯は、覆土から出土している。2の土師器高台付杯は、竈の覆土から出土している。3の須恵器杯は、中央部の中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡は、第131号住居を埋め戻した後、2メートルほど東にずれて構築されている。第127号住居と同様に、壁外へ掘り込まれた竈の両側に棚のように粘土が貼られている。抽出・図示した2・3の土器は、9世紀前葉と考えられることから埋め戻し時に混入したものと思われる。時期は、最初に作られた第131号住居が9世紀中葉で、最後が第127号住居の9世紀後葉であることから、この2軒の間と考えられる。



第 246图 第 130号住居跡・出土遺物実測図

第 130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 24図 1	環 土 器	B 23	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内電気味に外縁して立ち上がる。	体部内面へう磨き、外面横ナデ。体部下端回転へう刷り。底部調整不明。内面黒色処理。	磯・長石・曹母・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 3799 5% PL71 体部外面蓋書正位「在」
		C 74				
2	高台付環 土 器	C 27	底部片。高台部欠損。	底部内面へう磨き、外面調整不明。内面黒色処理。	磯・長石・曹母にぶい黄橙色普通	P 3800 5% 底部蓋書「」
		A 19.2 B 27	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は方形である。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口口ナデ。天井部回転へう刷り。	磯・長石・石灰・針状鉱物 褐灰色、普通	P 3801 10%

第131号住居跡 (第247～249図)

位置 調査 5 区の西部, G5g9区。

重複関係 重複する 3 軒の中では本跡が一番古く、第127・130号住居及び第23号掘立柱建物に埋り込まれている。

規模と平面形 西壁は6.36m、第127・130号住居に埋り込まれているために残存する北壁及び南壁は5.35mである。北壁と南壁の東側及び東壁がないが、平面形は方形もしくは長方形と考えられる。

主軸方向 竈や西壁の向きなどから $N-9^{\circ}-W$ と推定される。

壁 南北壁の竈から東側と東壁はない。残存する壁高は58～62cmで、ほぼ直立する。

床 鹿沼層まで掘り込み、炭化物・焼土・粘土等を20～50cmほどの厚さに貼って床を造っている。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 2か所 (P3・P4)。P3・P4は長径53～74cm、短径48～59cmの楕円形、深さ48～50cmである。P3とP4を結ぶ線が西壁と平行になることから主柱穴と思われる。この2か所と対応するP1とP2は検出されなかった。

P3土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 鹿沼バミス粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス大ブロック微量 | | |

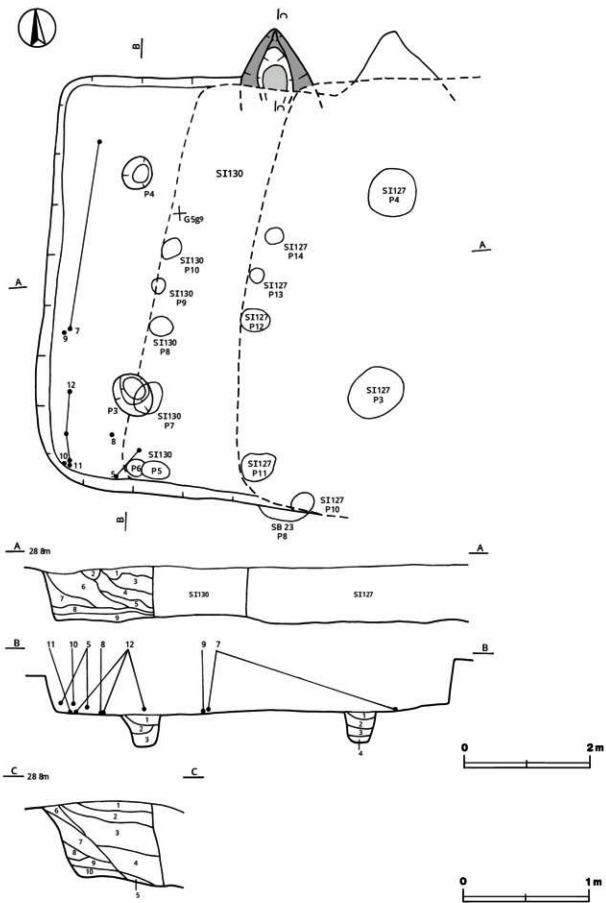
P4土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|---|
| 1 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |

竈 北壁に付設されていたと思われるが、天井部や袖部等は埋め戻し時に壊されている。遺存状況から粘土・砂粒・ローム土を混ぜて構築されている。遺存する規模は、煙道部から火床部まで98cm、最大幅118cm、壁外への掘り込みは79cmである。火床面は床面とは同じレベルで、浅い皿状をしている。内壁及び火床面は赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面から30°ほどの角度をもって立ち上がる。

甕土層解説

- | | | | |
|-------|--|---------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・焼土粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック微量 |
| | | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |



第 247图 第 13号住居跡実測図

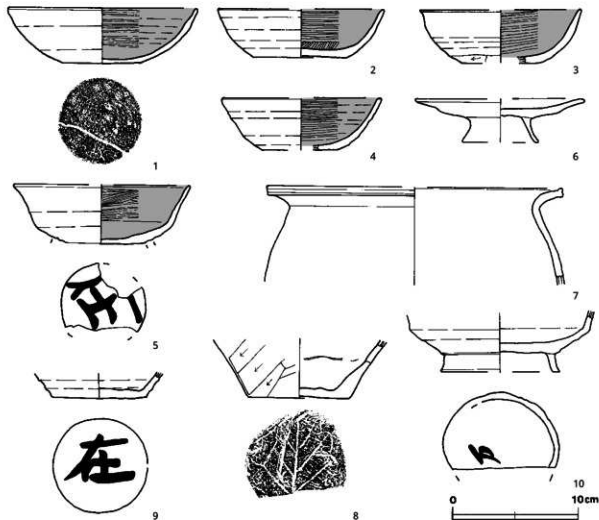
覆土 9層からなる。ブロック状に堆積しており、また含有物が類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

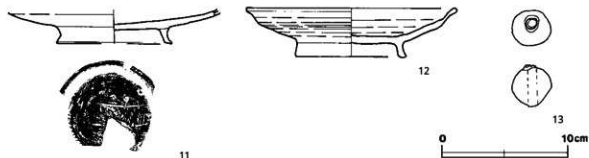
- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・
黄土小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、
鹿沼パミス大ブロック少量、鹿沼パミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 7 褐色 | ローム大ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子少
量、鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・
鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス大ブロック・
鹿沼パミス粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・
ローム小ブロック少量、鹿沼パミス粒子微量 | 9 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロッ
ク・ローム粒子中量、鹿沼パミス大ブロック・鹿沼パミス
粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、
鹿沼パミス大ブロック・鹿沼パミス粒子微量 | | |

遺物 覆土下層を中心に出土している。重複関係から本跡の土器として土師器片 8 点、須恵器片 4 点を抽出・図示した。第248図1・3・4の土師器杯、6の土師器高台杯皿は、覆土から出土している。2の土師器杯は、出土位置は不明であるが覆土下層から出土している。7の土師器甕は西壁際中央及び北西コーナー付近、10の須恵器高台付杯は南西コーナー際の覆土中層から出土している。5の土師器高台付杯は、南西コーナー付近の覆土中層及び下層から出土したものが接合している。8の土師器甕は南西コーナー近く、9の須恵器杯は西壁際中央、11・12の須恵器盤はともに南西コーナー際付近、13の土玉は東壁際中央の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、第130・127号住居と続く3軒が重複した最初の住居である。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 248 図 第 131 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 249 図 第 131 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 131 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 24 図 1	土 師 器	A 152	口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り、底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・赤色粒子に灰緑褐色、普通	P 3802 90% PL63
		B 44				
		C 64				
2	土 師 器	A 132	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り、底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・雲母・黒褐色普通	P 3803 50%
		B 39				
		C 76				
3	土 師 器	A 130	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り、底部調整不明。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子明褐色、普通	P 3804 33%
		B 42				
		C 64				
4	土 師 器	A 126	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り、底部調整不明。内面黒色処理。	長石・石英・雲母褐色普通	P 3805 20%
		B 41				
		C 60				
5	高台付土 師 器	A 141	高台部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、頸部は尖る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り、底部へラ切り後、ナデ。内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物雲母褐色普通	P 3807 40% PL71 底部墨書「在」
		B 48				
6	高台付土 師 器	A 134	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部調整不明。高台貼り付け。	礫・長石・石英・明褐色普通	P 3808 40% PL63
		B 35				
		D 62				
		E 20				
7	土 師 器	A 238	体部上部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物に灰褐色、普通	P 3809 10%
		B 76				
8	土 師 器	B 47	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内ナデ、外面へラ削り。底部木葉痕。	長石・長石・雲母明褐色普通	P 3810 5%
		C 80				
9	土 師 器	B 21	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口コナデ。底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物雲母オリブ黄色、普通	P 3811 30% 底部墨書「在」
		C 76				
10	高台付土 師 器	B 48	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内口コナデ、外面下端回転へラ削り。底部調整不明。高台貼り付け。	礫・長石・石英灰色普通	P 3812 30% 底部墨書「万」
		A 96				
		E 15				
第 24 図 11	土 師 器	B 27	口縁部及び体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は大きく開く。	体部内・外面口コナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英に灰赤褐色普通	P 3814 20% 底部内面自然輪底部へラ記号
		A 92				
		E 13				
12	土 師 器	A 170	口縁部及び体部の一部欠損。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口コナデ。底部調整不明。高台貼り付け。	礫・長石・石英灰褐色普通	P 3813 80%
		B 38				
		D 68				
		E 11				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	孔径 cm	重量 g			
第 24 図 13	土 玉	33	31	07	231	土製	断面形が球状。	DP3041

第132号住居跡 (第250・251図)

位置 調査5区の北部、F510区。

重複関係 北東コーナー部から西壁中央にかけてを第10号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第135号住居跡の上層を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.40m、短軸4.20mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は30~32cmで、北壁と東壁は直立し、西壁と南壁は外傾する。

床 はほぼ平坦である。各コーナー部及び壁際を除いて、踏み固められている。

ピット 1か所。P1は長径30cm、短径26cmの楕円形、深さ20cmである。竈と向かい合う南壁の中央近くに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されており、袖部が遺存している。袖部は床面とはほぼ同レベルに、粘土・砂粒・ローム土を混ぜて構築されている。規模は、竈南端部が掘立柱建物の柱穴に掘り込まれているため、煙道部から焚口部まで126cmと推定される。最大幅136cm、壁外への掘り込みは44cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめ、皿状をしている。また、火床面は赤変硬化し、支脚が直立している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1 灰褐色	砂質粘土粒子・礫少量、ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色	ローム中ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・礫微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、礫微量
3 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量
4 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土大ブロック微量	11 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
5 暗褐色	焼土大ブロック中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、砂質粘土粒子・礫微量
6 暗褐色	焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	13 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム中ブロック少量、礫微量
7 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土大ブロック・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂質粘土中ブロック微量
		15 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・礫微量

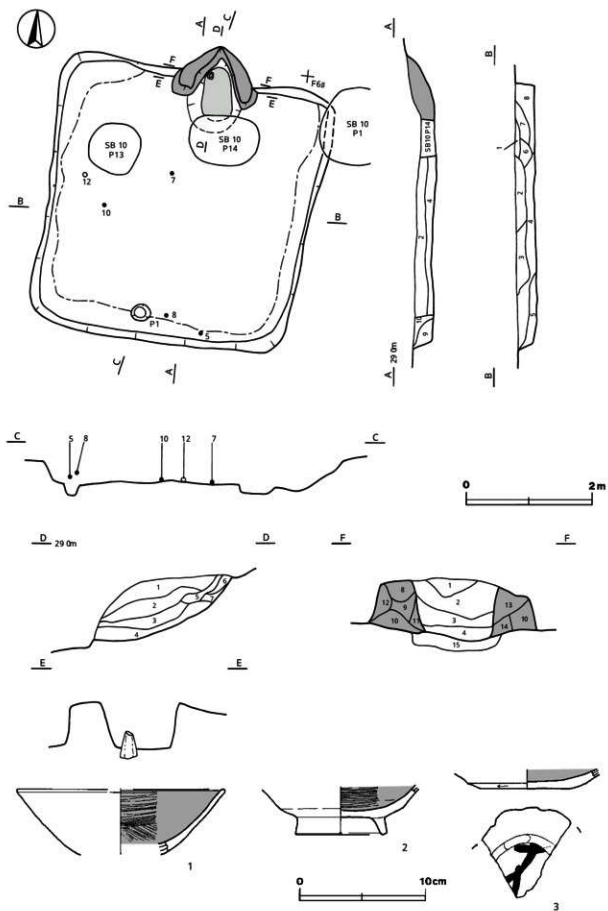
覆土 10層からなる。ブロック状に堆積していることや色調が類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

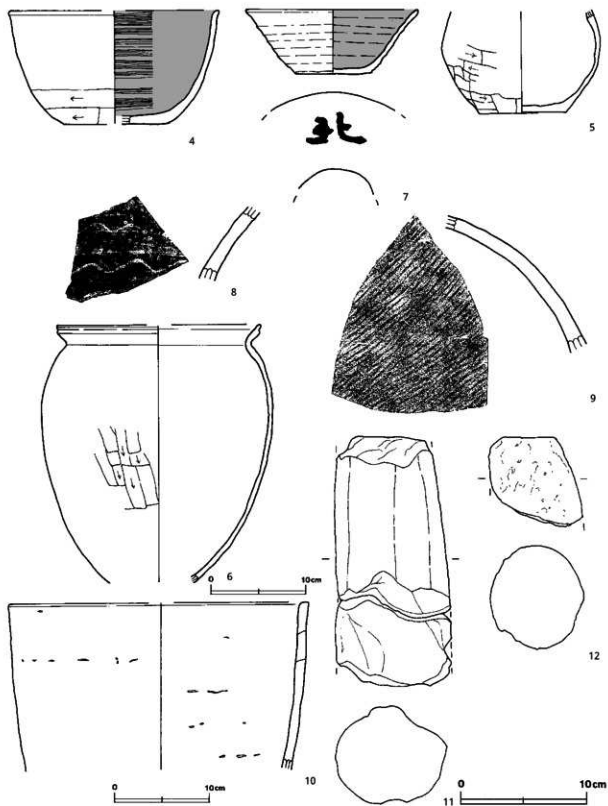
1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 出土数は少なく、P1周辺及び西壁中央付近を中心に、土師器片87点、須恵器片19点、土製品2点が出土している。うち土師器6点、須恵器4点、土製品2点(支脚)を抽出・図示した。第250図1の土師器杯、4の土師器鉢は、覆土から出土している。2・3の土師器高台付杯、6の土師器甕、9の須恵器甕片、11の支脚は、竈の覆土から出土している。8の須恵器甕片は、P1の東側の覆土中層から出土している。5の土師器小形甕は南壁中央の東寄り、10の須恵器甕は中央部の西寄り、12の支脚は西壁の中央寄りの覆土下層から、それぞれ出土している。7の「北」と墨書された須恵器の坏は、中央部の床面から逆位の状態で出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 250图 第 13号住居跡・出土遺物実測図



第 251 図 第 132 号住居跡出土遺物実測図

第 132 号住居跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 251 図 1	柄器 土器	A 170 B 57	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内面しながら立ち上がり、 口縁部との境に線を持つ。口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 横位のヘラ刷り。内面黒色処理。	褐色、普通	P 3567 5%

図面番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 2	高台付 土師器	B 38	高台部から体部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は内 彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。 体部下端及び底部調整不明。高台 貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 明褐色、普通	P 3817 15%
		D 70				
		E 14				
3	高台付 土師器	B 18	底部片。高台部欠損。体部は外傾 して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。 底部調整不明。内面黒色処理。	磯・長石・針状鉱物 雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3816 5% PL72 底部墨書「在」
第25図 4	鉢 土師器	A 170	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら外傾し て立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。体部下端回転へラ削り。 底部へラ削り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3819 50% PL63
		B 80				
		C 84				
5	小形 土師器	B 81 C 68	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は内彎しながら外傾して 立ち上がり、中位に最大径を持つ。	体部内面横ナデ、外面下端へラ削 り。底部へラ削り。	長石・石英・赤色粒 子 にぶい赤褐色、普通	P 3820 70%
6	甕 土師器	A 219 B 273	体部下端から口縁部にかけての破 片。体部上位に最大径を持つ。頸 部はくの字状に屈曲する。口縁部 はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端 縦位のへラ削り。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 3821 30%
7	環 須恵器	A 136 B 52 C 61	口縁部の一部欠損。平底。体部は 外傾して立ち上がる。口縁部は外 反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転へラ削り。	磯・長石・針状鉱物 赤色粒子 褐色、普通	P 3822 9% PL63 74 体部外面正位墨書 「北」
8	甕 須恵器	B 58	頸部片。頸部は外傾して立ち上が る。	頸部内面口ロナデ、外面へラ状 工具による波状文飾文。	磯・長石 灰色 普通	TP3081 5%
9	甕 須恵器	B 103	体部片。体部は内傾する。	体部内面口ロナデ、外面平行叩 き。	磯・長石 灰色 普通	TP3082 5% 体部外面自然釉
10	甕 須恵器	A 319	体部上部から口縁部にかけての破 片。体部は直線的に外傾して立ち 上がり口縁部に至る。	輪積み後、口縁部及び体部内・外 面口ロナデ。	長石・雲母・針状鉱 物 灰白色、普通	P 3823 15% 体部内・外面輪積み 痕。外面入ス付着。
		B 176				

図面番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第25図 11	支 脚	199	93	78	6384	土製	上面は重取りされ、角張る。下部は赤化。	DP3042
		12	71	75	1714			

第133号住居跡 (第252～257図)

位置 調査5区の中央部、G6h6区。

重複関係 西壁南部を第124号ピット及び第125号ピットに、南壁南西コーナー寄りを第242号ピットに、南壁中央から南西コーナーを第7号掘立柱建物に、それぞれ掘り込まれている。第240号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

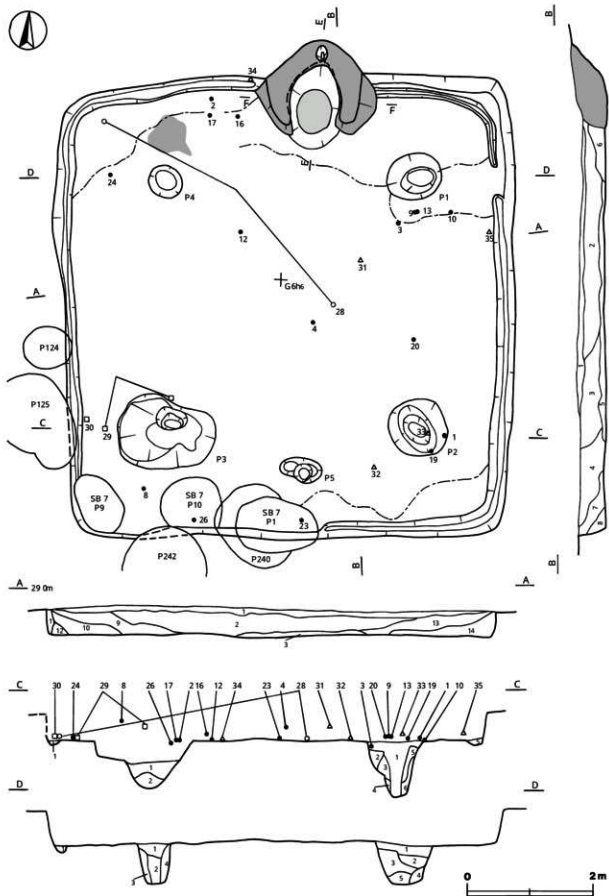
規模と平面形 長軸7.14m、短軸7.12mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

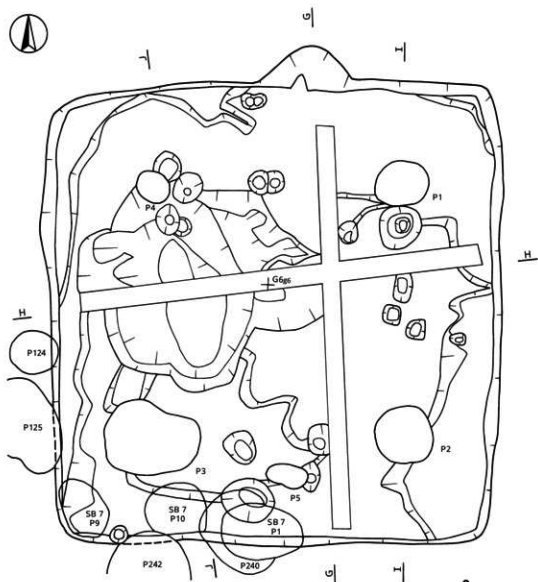
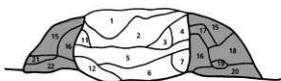
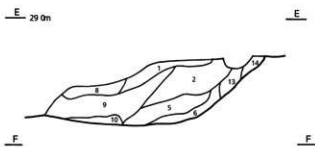
壁 壁高は30～46cmで、直立する。

壁溝 東壁の一部及び重複している部分を除く壁下を巡っている。規模は、上幅12～24cm、下幅4～16cm、深さ8～12cmで、断面形はU字形である。覆土は、ローム土である。

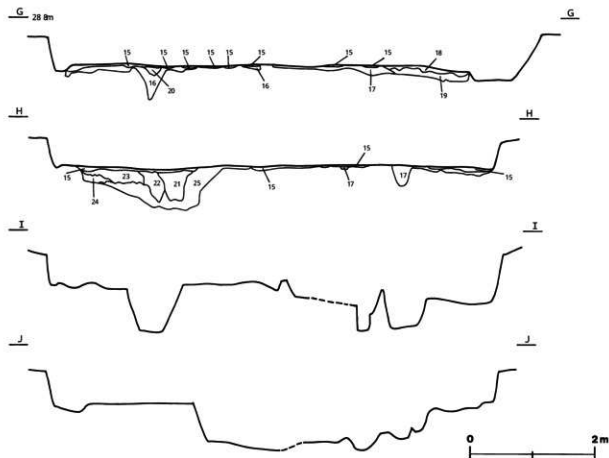
床 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。中央部東側を残し、竈手前と四隅、中央部西側を掘り下げた後、ローム土等で貼床が施されている。各コーナー付近を除いて全体的に踏み固められている。竈左袖部近くの床面に、粘土塊が貼り付いている。また、中央部に径30cmの円形、深さ6cmほどの断面形が皿状で、舂のように赤変硬化している部分がある。



第 252 图 第 133 号住居跡実測图 (1)



第 253 图 第 133 号住居跡実測图 (2)



第 254 図 第 133 号住居跡実測図 (3)

ピット 5 か所 (P 1 ~ P 5)。P 1 ~ P 4 は長径 56 ~ 110 cm, 短径 50 ~ 90 cm の楕円形, 深さ 64 ~ 96 cm である。4 か所を結ぶ線は長方形を呈し, ピット間を結ぶ線が壁と平行になることから主柱穴と思われる。P 5 は長径 42 cm, 短径 34 cm の楕円形, 深さ 46 cm である。竈に対応する南壁の中央近くに位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

P 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・砂質粘土粒子・黒色土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量, ローム粒子・黒色土小ブロック微量

- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

P 2 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・黒色土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量

- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量

P 3 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック少量

- 2 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量

P4土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子・黒色土小ブロック微量	3 褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	4 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

竈 北壁中央に付設されている。両袖部が遺存している。袖部は、粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで174cm、最大幅194cm、壁外への掘り込みは66cmである。火床面は床面とほぼ同じレベルで、浅い皿状をしている。袖部内壁及び火床面は、赤変硬化している。煙道は、火床面からゆるやかに外傾して立ち上がる。

甕土層解説

1 黒褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量
2 黒褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・灰少量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量	13 暗赤褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、確微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、確微量	14 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	灰中量、焼土中ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	15 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・灰少量	16 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
7 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	17 暗褐色	砂質粘土粒子多量、確微量
8 暗褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量	18 黒褐色	焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・灰少量
9 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	19 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
10 黒色	灰多量	20 暗オリーブ褐色	砂質粘土粒子多量
		21 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
		22 黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

覆土 25層からなる。南部は重複が多いので、南北の土層断面による観察でレンズ状に堆積していないが、東西の土層断面による観察ではレンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

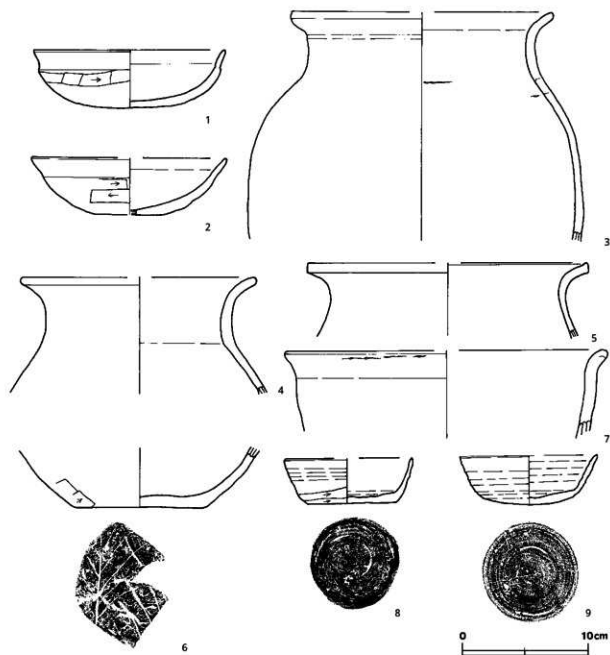
土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	15 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	16 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	17 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	18 暗褐色	焼土大ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土大ブロック・砂質粘土小ブロック少量、焼土中ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量
6 暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、砂質粘土大ブロック微量	20 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、砂質粘土中ブロック微量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	21 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック多量、ローム粒子・鹿沼バミス粒子中量、鹿沼バミス大ブロック微量
8 褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック微量	22 褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
9 黒褐色	炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量	23 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック少量
10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	24 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
11 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	25 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック多量、鹿沼バミス粒子少量、鹿沼バミス大ブロック微量
12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量		
13 暗褐色	ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量		
14 暗褐色	ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量、焼土大ブロック・焼土中ブロック微量		

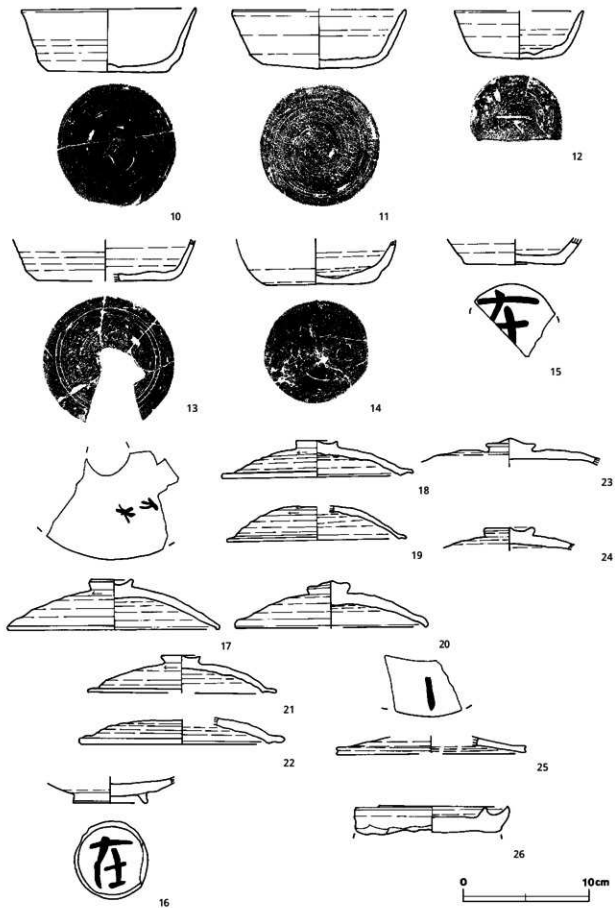
遺物 全体から土師器片1,195点、須恵器片406点、土製品1点、石製品3点、金属製品7点が出土しているが、細片が多く、土師器7点、須恵器20点、土製品1点(支脚)、石製品2点(砥石)、金属製品6点(刀子・釘・鎌・鉸具・金祖)を抽出・図示した。第25図5・6の土師器甕、7の土師器甕、8の須恵器坏は南西コーナー、11・14・15の須恵器坏、18・21・22・25の須恵器蓋、27の須恵器甕片、36の銅製の は、ともに覆土から出土している。4の土師器甕と31の刀子は中央部の覆土中層から出土している。1の土師器坏はP2東側、9・10・13の須恵器坏はP1の南付近、16の須恵器高台付坏は竈の西、19の須恵器蓋はP2の南、20の須恵器蓋は東壁寄り、23・24の須恵器蓋は南壁際、P4西側、28の土製支脚の接合片は中央部及び北西コーナー、26の片面視

は南壁寄り、30の砥石はP 3 西側、33の釘はP 2 の上部、35の鉄地銅貼り製の鉸具はP 1 と東壁の間の覆土下層から出土している。2の土師器杯は竈西側の北壁際、3の土師器甕はP 1 南側、12の須恵器杯は中央部北西寄り、17の須恵器蓋は竈の西、29の砥石はP 3 西側、32の刀子はP 2 西側の床面から出土している。34の鎌は、竈西側の壁溝中から出土している。

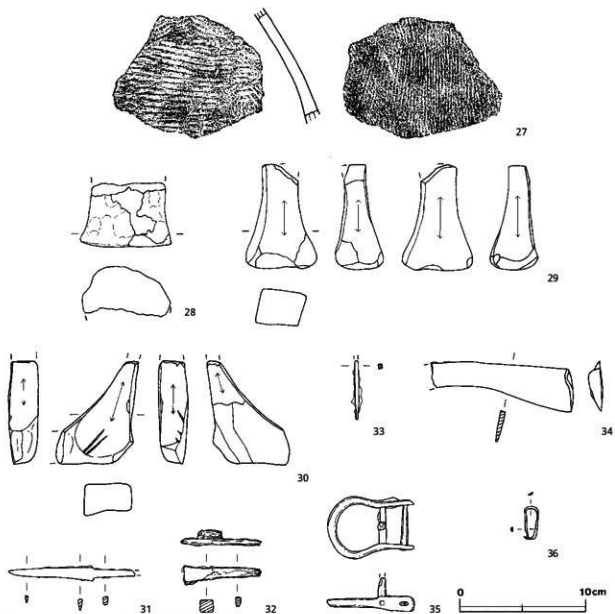
所見 本跡は、遺跡の南部の小支谷（水田面）を見渡せる平坦部に位置し、住居の規模も比較的大きいこと、「万益」カという吉祥に関すると思われる墨書や役人のベルトに使用された鉸具等が出土していることから、この時期の中心的な住居と思われる。また、床面に2か所、赤変硬化した灰のようなものが確認されたが、床面の土を採取して調べたが、鍛造片等は検出できなかったので、その性格は不明である。出土物の1・2の土師器杯は、混入と思われる。時期は、8世紀前葉と考えられる。



第 255 図 第 13 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 256 图 第 133 号住居跡出土遺物実測図(2)



第 257 図 第 133 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 133 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 25 図 1	坏 土器	A 154 B 45	底部から口縁部にかけての破片。丸味を持つ平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	磯・長石・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 3824 60% PL63
2	坏 土器	A 154 B 45	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 3825 25%
3	甕 土器	A 210 B 181	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部は直立し、口縁部は強く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にふい黄橙色、普通	P 3826 30% PL63
4	甕 土器	A 188 B 91	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至る。頸部は直立し、口縁部は強く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	P 3827 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 5	甕 土師器	A 224	口縁部片。口縁部は強く外反し、 頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色、普通	P 3828 5%
		B 58				
6	甕 土師器	B 47	底部片。平底。体部は内彎しながら 外傾して立ち上がる。	体部内面横ナデ、外面ヘラ削り。 底部木葉痕。	磯・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3829 5%
		C 103				
7	甕 土師器	A 276	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面横ナデ後黒色 処理、外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母 にぶい褐色、普通	P 3830 5%
		C 70				
8	坏 須恵器	A 102	口縁部及び体部の一部欠損。平底。 体部は内彎気味に外傾して立ち上 がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・石英・雲母 灰黄色、普通	P 3835 79% 体部外面自然釉
		B 37				
		C 69				
9	坏 須恵器	A 110	口縁部及び体部の一部欠損。丸味 を持つ平底。体部は直線的に外傾 して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部口ロナデ。底部 回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3834 80% PL63 体部外面自然釉
		B 39				
		C 72				
第25図 10	坏 須恵器	A 140	口縁部及び体部の一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾して立ち上 がる。	口縁部は外反する。口縁部及び体 部内・外面口ロナデ。底部周縁 ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 3832 99% PL63
		B 51				
		C 94				
11	坏 須恵器	A 140	口縁部及び体部の一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾して立ち上 がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。体部下端及び底部回転ヘラ削 り。	磯・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 3833 60% 体部外面自然釉
		B 47				
		C 92				
12	坏 須恵器	A 84	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立 ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 3836 59%
		B 38				
		C 74				
13	坏 須恵器	B 38	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立 ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 3839 49%
		C 106				
14	坏 須恵器	B 36	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 3840 59%
		C 80				
15	坏 須恵器	B 20	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り後、周縁ヘラナデ。	磯・長石・石英・針 状鉱物・赤色粒子 にぶい黄色、普通	P 3854 15% PL72 底部墨書「在、力、 ヘラ記号「井」
		C 76				
16	高台付 須恵器	B 21	高台部片。高台は八の字状に開く。	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付 け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 3855 30% PL72 底部墨書「在」
		D 60				
		E 08				
17	甕 須恵器	A 170	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は笠形で、ボタン状のつま みが付く。口縁部は短く垂下す る。	口縁部及び外周部口ロナデ。天 井部回転ヘラ削り後、つまみ貼 り付け。	長石・雲母・針状鉱物 灰白色 普通	P 3841 60% PL63 天井部外面墨書横位 「万益」力
		B 40				
		G 06				
		F 35				
		A 156				
18	甕 須恵器	A 156	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は笠形で、ボタン状のつま みが付く。口縁部内面にかえりが 付く。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転ヘラ削り後、 つまみ貼り付け。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 3842 80% PL63
		B 29				
		G 32				
		F 06				
		A 144				
19	甕 須恵器	A 144	天井部・口縁部の一部、つまみ部 欠損。天井部は笠形で、口縁部内 面に短いかえりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	磯・長石・雲母・赤 色粒子 灰色、普通	P 3843 70%
		B 27				
20	甕 須恵器	A 152	天井部及び口縁部欠損。天井部は 笠形で、甕宝珠状のつまみが付く。 口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転ヘラ削り後、 つまみ貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 3844 70%
		B 37				
		F 33				
		G 10				
		A 152				
21	甕 須恵器	A 152	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は笠形で、甕宝珠状のつま みが付く。口縁部内面に短いか えりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転ヘラ削り後、 つまみ貼り付け。	長石・雲母・赤色粒 子 黄灰色 普通	P 3845 50% PL63
		B 29				
		F 32				
		G 06				
		A 164				
22	甕 須恵器	A 164	天井部から口縁部にかけての破片。 口縁部内面に短いかえりが付く。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 不良	P 3846 40%
		B 20				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 23	蓋 須恵器	B 22	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ挿合。	磯・長石 灰白色 普通	P 3849 10%
		F 38				
		G 10				
24	蓋 須恵器	B 19	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ挿合。	磯・長石・針状鉱物 明灰褐色 普通	P 3850 20%
		F 39				
		G 07				
25	蓋 須恵器	A 152	口縁部片。口縁部はわずかに垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 3852 10% 天井部外面黒書 「益」力
		B 13				
26	円面 須恵器	A 122	脚台部を欠損した破部片。破部は外周部の内側にU字状の溝を持つ。脚部は大きさの違う透かし窓を4つ持つ。	破部外周に2条の襷帯貼り付け。	磯・長石・雲母 灰色 普通	P 3853 40% PL64 破部に墨付着
		B 23				
第25図 27	覆 須恵器	B 90	体部片。体部は内傾する。	体部内面楕円状の当て具痕、外面縦位の平行叩き。	磯・長石・石英 灰色 普通	TP3083 9%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第25図 28	支脚	51	75	04	1288	土製	下部片。一部赤化。	DP3044

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第25図 29	砥石	83	57	39	1282	凝灰岩	4面使用。約50%。	Q 3030 PL78
30	砥石	82	66	25	1209	凝灰岩	4面使用。約50%。沈線の研ぎ痕。	Q 3031 PL78

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第25図 31	刀子	101	11	02~04	94	鉄	茎尻欠損。	M 3138 PL80
32	刀子	65	16	04~11	85	鉄	茎部。木質付着。	M 3139
33	釘	47	04	04	27	鉄	頭部欠損。	M 3140
34	鎌	115	40	04	376	鉄	刃部先端欠損。HV	M 3141 PL79
35	鉸具	68	85	03~07	303	鉄	楕圓形。留め金の先端部分欠損。	M 3142 PL80
36	金箱	12	26	01~02	08	銅	環状。	M 3143 PL79

第134号住居跡（第258・259図）

位置 調査5区中央部、G6f1区。

重複関係 北壁中央を第882号土坑に、P1全体を第893号土坑に、P2の北西部を第892号土坑に、東壁中央の南を第894号土坑に、南壁のコーナー寄りを第947号土坑に、北壁中央から南壁中央にかけてを第18号溝に、南西コーナーを第127号住居に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.54m、短軸6.20mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は30~44cmで、外傾する南壁を除き、直立する。

壁溝 南東コーナー部を除く、壁下を巡っている。規模は、上幅10~18cm、下幅5~10cm、深さ4~8cmで、断面形はU字形である。覆土は、ローム土が中心である。

床 北側はほぼ平坦であるが、南側はP4方向にゆるやかな傾斜をもっている。南東コーナーを除くP1とP3を結ぶ線の南側が踏み固められている。

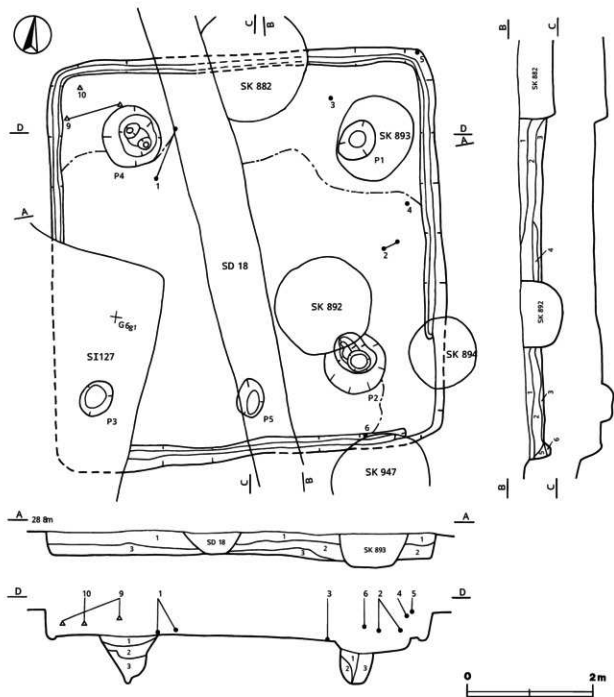
ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径68~100cm, 短径54~100cmの円形ないし楕円形, 深さ77~80cmである。P1~P4は各コーナ寄りに位置し, ピット間を結ぶ線が向かい合う壁と平行になることから支柱穴と思われる。P5は長径60cm, 短径40cmの楕円形, 深さ30cmで, 南壁の中央寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

P1土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | | |

P4土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | | |



第 258 図 第 13 号住居跡実測図

竈 北壁中央部が、第882号土坑に掘り込まれているために検出できなかったが、周囲に粘土粒子等が散らばっていたことから、北壁中央付近に付設されていたと思われる。

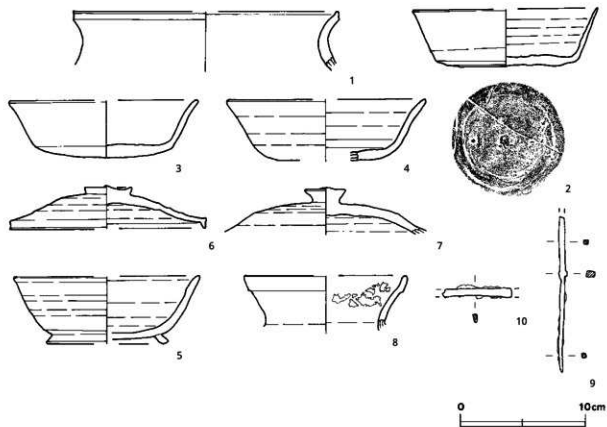
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物 土師器670点、須恵器197点、金属製品5点が出土している。細片が多く、土師器1点、須恵器7点、金属製品2点（鉄・不明）を抽出・図示した。第259図5の須恵器高台付杯は、北東コーナー部の遺構確認面から出土している。7の須恵器蓋、8の須恵器壺は、ともに覆土から出土している。4の須恵器杯は東壁寄りの覆土上層から出土している。10の不明鉄製品は、北西コーナー近くの覆土中層から出土している。9の鉄鍔は、P4の北側の覆土上層及び北西コーナー近くの覆土中層から出土している。6の須恵器蓋は、南東コーナー部の覆土中層から出土している。2の須恵器杯は、東壁の中央寄りの覆土下層から出土している。1の土師器甕はP4南及び東側、3の須恵器杯はP1の北側の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態および出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 259 図 第 134 号住居跡出土遺物実測図 (1)

第 134 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 259 図 1	甕 土師器	A 214 B 46	口縁部。口縁部は外反し、踵部はつまみ上げられている。	口縁部及び踵部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲母 明褐色、普通	P 3857 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 2	坏 須恵器	A 147	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・雲母 灰白色、普通	P 3858 70% PL64
		B 46				
		C 91				
3	坏 須恵器	A 151	底部から口縁部にかけての破片。丸味を持った平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・雲母 灰白色、普通	P 3859 40%
		B 56				
		C 103				
4	坏 須恵器	A 158	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下面は丸味を持ち、外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	長石・石英・雲母・灰白色 普通	P 3860 20%
		B 48				
		C 80				
5	高台付坏 須恵器	A 148	高台部から口縁部にかけての破片。丸味を持った平底。高台はの八の字状に開く。体部は内傾丸味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 3862 40%
		B 53				
		D 98				
		E 07				
6	蓋 須恵器	A 158	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は球形で、蓋宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲して垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転ヘラ削り後、つまみ接合。	礫・長石・石英 淡黄色 普通	P 3863 53%
		B 34				
		F 38				
		G 08				
7	蓋 須恵器	B 38	天井部片。天井部は空形で、蓋宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ接合。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 3864 30%
		F 33				
		G 11				
8	壺 須恵器	A 130	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面口ロナデ。頸部外面口ロナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3867 9% 頸部内面漆付着、外面自然釉
		B 48				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第25図 9	罐	07	123	03~04	69	鉄	罐身部欠損。鋸歯基部が棘状に突出。	M 3144
		10	不明	08	57			

第135号住居跡（第260～262図）

位置 調査5区の北部、F510区。

重複関係 本跡上部を第132号住居に、竈南部から西壁を第10号掘立柱建物に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.76m、短軸3.64mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

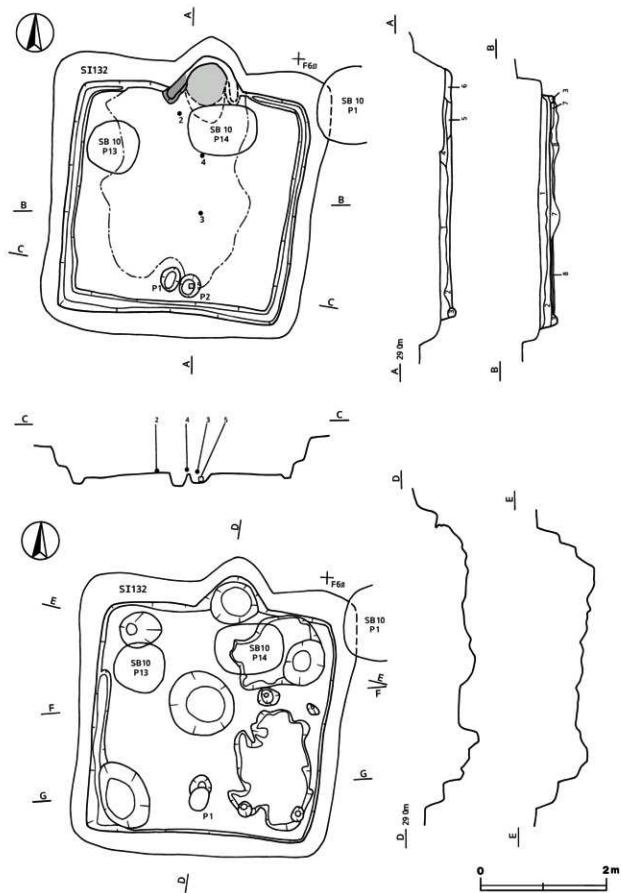
壁 残存する壁高は16～20cmで、外傾する。

壁溝 竈の左袖部付近を除く、壁下を巡っている。規模は、上幅8～22cm、下幅4～16cm、深さ6～10cmで、断面形はU字形である。覆土は、ローム土である。

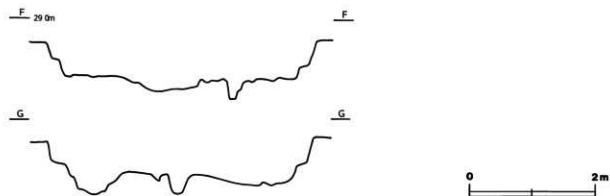
床 小さな凹凸があるが、ほぼ平坦である。四隅と中央部を掘り下げた後、ローム土で貼床が施されている。特に、P1から竈にかけての中央部を中心に踏み固められている。

ピット 2か所。P1は長径40cm、短径20cmの楕円形、深さ32cmである。竈と向かい合う南壁中央寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は長径38cm、短径32cmの楕円形、深さ14cmで、P1の東部に隣接しており、その性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されているが、第132号住居に掘り込まれているために左袖の下部及び火床面だけが遺存している。左袖部は粘土・砂粒・礫を混ぜて構築されている。残存する壁外への掘り込みは60cmほどである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめ、平面形が径64cmほどの円形、断面形が皿状をしている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。



第 260 图 第 13 号住居跡実測图 (1)



第 261図 第 135号住居跡実測図(2)

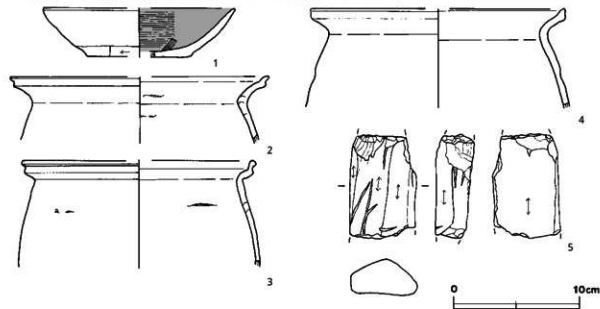
覆土 上部は第132号住居に掘り込まれて、20cmほどが残存しているだけのため、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |

遺物 南壁中央部から竈にかけての中央部を中心に土師器260点、須恵器6点、土製品1点、石製品1点が出土している。須恵器は、出土数が少なく、細片である。うち土師器4点、石製品1点(砥石)を抽出・図示した。第262図1の土師器杯は、竈の覆土から出土している。3・4の土師器甕は、それぞれ中央部、竈の南の覆土下層から出土している。2の土師器甕は、竈左袖部の南の床面から出土している。5の砥石はP2の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の構築時か、第132号住居構築時かのいずれに掘られたかは不明であるが、床面の中央部に長径108cm、短径100cmのはほぼ円形、深さ18cmで断面形が船底状の掘り込みがあり、その覆土中・下層に黒色の腐食土層及び焼土層が確認できた。住居の中央部の床面下にあることから、祭祀的な意味合いを持つ可能性が考えられる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第 262図 第 135号住居跡出土遺物実測図

第 135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 26図 1	坏 土 師 器	A 154	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内湾気味に外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ。底部調整不明。内面黒 色処理。	礫・長石・雲母 橙色 普通	P 3868 20%
		B 39				
		C 64				
2	甕 土 師 器	A 206	頸部から口縁部にかけての破片。頸 部はくの字状に屈曲する。口縁端部 は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内面・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 3870 5% 頸部内面軸組み痕
		B 53				
3	甕 土 師 器	A 188	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至り、頸部 は強く屈曲する。口縁端部は外上 方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母 にぶい黄橙色 普通	P 3871 5% 体部内・外面軸組 み痕
		B 83				
4	甕 土 師 器	A 204	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して頸部に至り、頸部 はくの字状に屈曲する。口縁端部 は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・針状鉱 物・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 3872 5%
		B 78				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 26図 5	砥 石	82	53	33	1808	砂岩	3面使用。沈線の研ぎ痕。	Q 3033

第136号住居跡（第263～265図）

位置 調査5区の南部，H6a1区。

重複関係 東壁の北から南にかけてを第18号溝に、竈の南部を第935号土坑に、東壁中央部を第936号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.50m，短軸6.10mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は44～66cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の右袖部付近，南壁中央及び第18号溝に掘り込まれている東壁部分を除く壁下を巡っている。規模は、上幅12～24cm，下幅4～14cm，深さ4～8cmで、断面形はU字形である。覆土は、ローム土中心である。

床 はほぼ平坦である。P2周辺及び北東コーナー付近を除いた部分が、踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径50～56cm，短径46～54cmの円形ないし楕円形で、深さ18～34cmである。P1からP4の柱穴を結ぶ線がほぼ長方形を呈し、各壁と平行になることから主柱穴と思われる。P5は径54cmの円形，深さ42cmである。竈と向かい合う南壁の中央寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと思われる。

P1・P4土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム中ブロック・土層小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

P2土層解説

1 褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量

3 にぶい褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・甕沼パミス大ブロック中量，ローム中ブロック少量

P3土層解説

2 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム粒子少量

3 褐色 ローム大ブロック多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，甕沼パミス粒子少量

P5土層解説

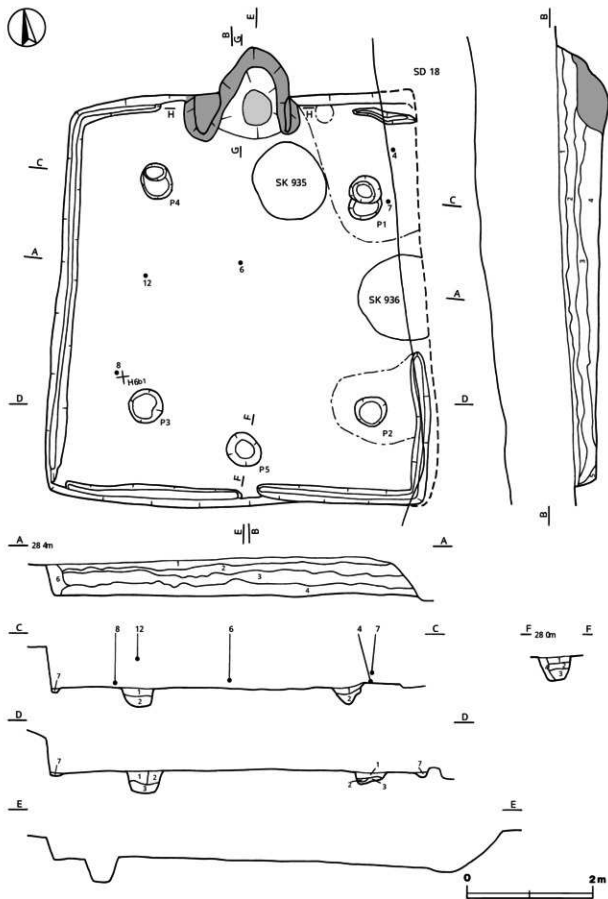
1 褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック少量

3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

2 褐色 ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・甕沼パミス中ブロック少量

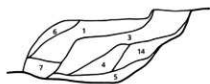
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・甕沼パミス大ブロック少量

2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第 263 图 第 136 号住居跡実測图 (1)

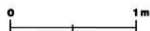
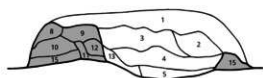
G 28.2m



G

H

H



第 264図 第 136号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央に付設されており、袖部が遺存している。袖部は、粘土にローム土を混ぜて構築している。規模は、煙道部から焚口部まで144cm、最大幅は180cm、壁外への掘り込みは76cmである。火床面は、床面を10cmほど掘りくぼめており、平面形が楕円形、断面形が皿状をしている。また、火熱を受けて赤変硬化している。煙道の平面形は逆U字形で、火床面から40°の角度をもって立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|-----------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、鹿沼バミス粒子・礫微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・礫少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・鹿沼バミス中ブロック微量 | 12 オリーブ褐色 | 粘土粒子多量、礫微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量、鹿沼バミス少量、鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 | 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| | | 15 オリーブ褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・礫少量 |

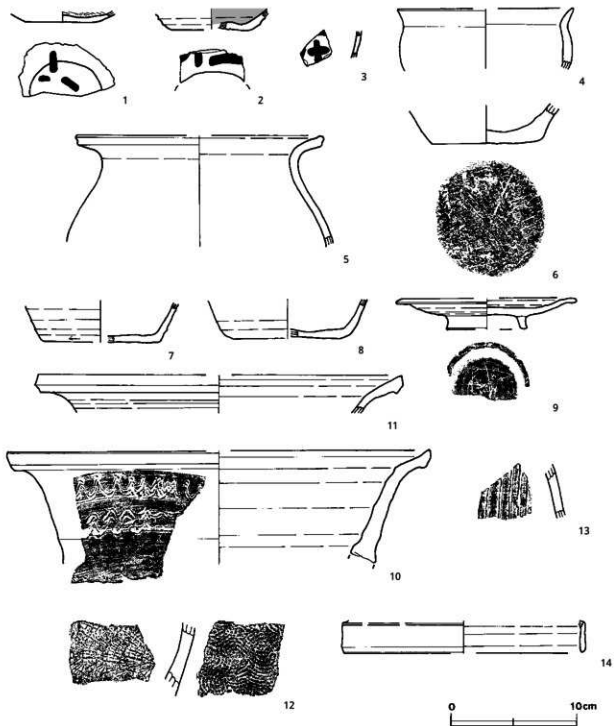
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | | |

遺物 土師器331点、須恵器87点、灰釉陶器3点、金属製品1点が出土している。うち土師器6点、須恵器7点、灰釉陶器1点を抽出・図示した。第265図1～3の土師器杯、5の土師器甕、9の須恵器高台付皿、10・11の須恵器甕、14の灰釉陶器蓋、13の片面視の脚台部片は、覆土から出土している。7の須恵器杯はP1付近、12の須恵器甕片は西壁の中央寄りの覆土上層から、それぞれ出土している。6の土師器甕は中央部の覆土下層から出土している。8の須恵器杯は、P3の北側の床面から、4の土師器甕は北東コーナー部の床面から出土している。

所見 灰釉陶器片及び墨書された土師器片は、覆土上層からの出土であることや細片であることから、本跡に伴うかは不明である。時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 265図 第 136号住居跡出土遺物実測図

第 136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 265図 1	坏 土 器	B 09 C 55	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部内面へラ磨き，外面調整不明。内面黒色処理。	長石・管母・赤色粒子に富み黄橙色，普通	P 3874 10% 底部黒書「フ」
2	坏 土 器	B 17 C 62	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・針状鉱物・管母に富み黄橙色，普通	P 3875 19% 体部外面黒書正位「在」力

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 3	坏 土師器	B 21	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母にぶい黄褐色 普通	P 3876 5% PL72 体部外面黒色正位「在」力
4	小型 土師器	A 142 B 47	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	緑・長石・雲母 褐色 普通	P 3877 5% 口縁部及び体部ス 又付着
5	土 師器	A 198 B 87	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内傾して頸部に至り、頸部は強く屈曲する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	緑・長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 3878 5%
6	土 師器	B 31 C 87	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部外面木炭痕。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P 3879 5%
7	坏 須恵器	B 32 C 92	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。底部周縁ナデ。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3880 20%
8	坏 須恵器	B 31 C 84	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。底部周縁ナデ。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3881 20%
9	高台 須恵器	A 146 B 25 D 66 E 11	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は丸味を持って開く。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3883 25% PL64 底部ヘラ記号
10	須 恵器	A 337 B 90	口縁部片。頸部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面口ロナデ。頸部外面磨面状工具 2本 による横走波状文施文。	緑・長石・石英・雲母 灰色、普通	P 3884 5% 外面自然釉
11	須 恵器	A 292 B 30	口縁部片。口縁部は外反し、頸部は断面三角形を呈する。	口縁部内・外面口ロナデ。	緑・長石・石英 灰色 普通	P 3885 5%
12	須 恵器	B 54	体部片。体部は内傾する。	体部内面同心円状の当て具痕、外面同心円叩き。	緑・長石・針状鉱物 灰白色 普通	TP3084 5%
13	円 須 恵器	B 44	脚台部片。脚台部は内傾して立ち上がる。	脚台部内面ナデ、外面ヘラ状工具による次線施文。	長石・石英 灰色 普通	TP3085 5%
14	蓋 灰 陶器	A 92 B 25	蓋の口縁部片。口縁部は垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石 灰白色 良好	P 3887 5% 釉：灰オリープ色 黒底 14号窯式段階

第137号住居跡 (第266～268図)

位置 調査5区の西部、G5h7区。

重複関係 東壁の中央部で、第131号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

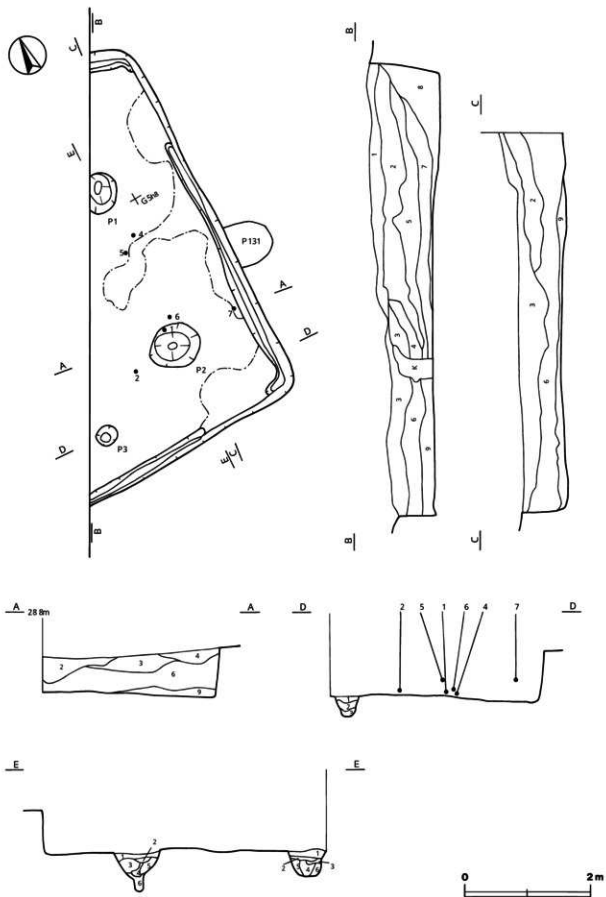
規模と平面形 大部分が調査区域外(町道)に延びているため、北東コーナー部から南壁中央付近にかけて、平面形が台形状に検出できた。東壁は6.22m、検出できた南壁は3.82mである。平面形は方形もしくは長方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は70～78cmで、直立する。

壁溝 東壁北部及び南壁東部を除き、検出できた壁下を巡る。規模は、上幅6～20cm、下幅4～12cm、深さ4cmほどで、断面はU字状である。

床 はほぼ平坦である。残存部はほぼ全面が踏み固められている。



第 266 图 第 137 号住居跡実測图

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は深さが43cmほどであるが、西半分が調査区域外に延びているため平面形は不明である。P2は長径86cm、短径62cmの楕円形、深さ69cmである。P1とP2を結ぶ線が東壁と平行になることから支柱穴と思われる。P3は径32cmの円形、深さ36cmである。南壁寄りに位置することから出入口施設に伴うピットと思われる。

P1土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量 | | |

P2土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物 |

P3土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量 | | |

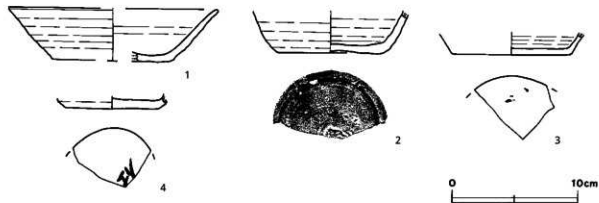
覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

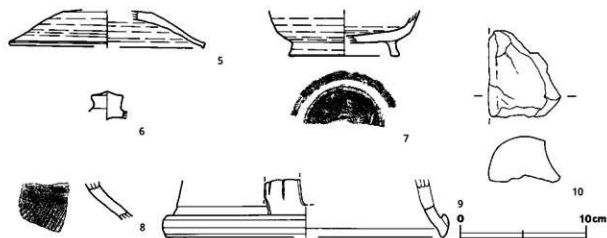
- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土大ブロック・粘土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・粘土大ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物・粘土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック微量 | | |

遺物 土師器片294点、須恵器片225点、土製品1点が出土している。土師器は細片であるために、須恵器9点、土製品1点(支脚)を抽出・図示した。第267図3の須恵器杯、9の円面硯、8の須恵器葉片、10の支脚は、覆土から出土している。7の須恵器高台付杯は東壁中央の南寄り、5の須恵器蓋は中央部の覆土中層から、それぞれ出土している。1・2の須恵器杯はP2の付近、4の「在」と墨書された須恵器杯は中央部、6の須恵器蓋はP2の北側の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 大部分が調査区域外に延びるために甕は検出できなかったが、時期は出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第267図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第 268 図 第 137 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 137 号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 26 図 1	須恵器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	磯・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 3889 20% 底部ヘラ記号
		B 42				
		C 100				
2	須恵器	B 33	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3890 20% 体部及び底部内・ 外面黒色斑点
		C 86				
3	須恵器	B 19	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 3891 15% 底部墨書「 J 」
		C 92				
4	須恵器	B 12	底部片。平底。	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	磯・長石・石英 灰白色 普通	P 3892 15% PL72 底部墨書「在」
		C 74				
第 26 図 5	須恵器	A 156	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は笠形で、口縁部はわずかに屈曲し、わずかに垂下する。	口縁部及び外周部口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 3894 20%
		B 29				
6	須恵器	B 23	つまみ片。つまみは雙宝珠状を呈する。	つまみ口ロナデ。	長石 灰黄色 普通	P 3895 5%
		F 26				
		G 13				
7	高台付須恵器	B 36	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。高台貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3893 20% 外面自然釉
		D 78				
		E 18				
8	須恵器	B 28	体部片。体部は内傾する。	体部内面口ロナデ、外面平行叩き。	長石 灰白色 普通	TP3086 5%
9	円面須恵器	A 224	脚台部片。脚台部は下端に隆帯が貼られ、内傾して立ち上がる。	脚台部内面口ロナデ。脚台部にヘラ状工具による透かし窓及び沈線施文。	長石 灰白色 良好	P 3896 5% 内・外面自然釉
		B 46				

図番番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 26 図 10	支脚	69	59	-	1078	土製	一部赤化。	DP3046

第138号住居跡 (第269~271区)

位置 調査 5 区の北西端, G5f5区。

重複関係 西壁の北から南にかけてを第19号溝に, 南東コーナー部を第910号土坑に, 北壁中央部を第944号土坑に, 北壁外にある棚部を第945号土坑に, それぞれ掘り込まれている。また, 第35号掘立柱建物跡の P 5 と

東壁の中央で重複しているが、新旧関係は不明である。

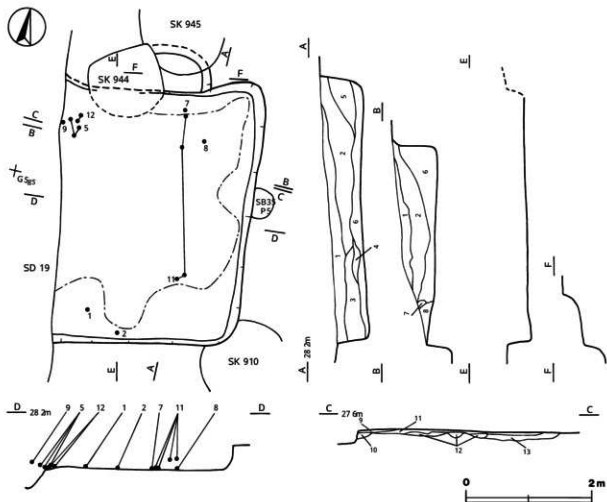
規模と平面形 東壁は4.20m、溝に掘り込まれているため残存する南壁は2.90mである。平面形は不明である。北壁中央部の東側に棚状施設を持つが、西部を第944号土坑に、掘り込まれている。残存する棚部は、幅76cm、奥行き70cmの長方形で、確認面からの深さ30cm、床面からの高さ38cmである。

主軸方向 竈が壊されているが、東壁の向きからN-7°-Wと推定される。

壁 残存する壁高は50~68cmで、直立する。

床 中央部付近から南壁に向かって緩やかな傾斜を持っている。鹿沼バミス層まで掘り込んだ後、その上に灰・ローム土・鹿沼バミスを混ぜたものを4~10cmの厚さに貼って床を構築している。コーナー部を除いて踏み固められている。また、北壁中央部西側から第19号溝との重複部分にかけて焼土塊が確認された。

竈 検出されなかったが、焼土や粘土の広がりや棚部の存在などから、北壁の第944号土坑に掘り込まれた付近に付設されていたと思われる。



第 269 図 第 138 号住居跡実測図

覆土 13層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

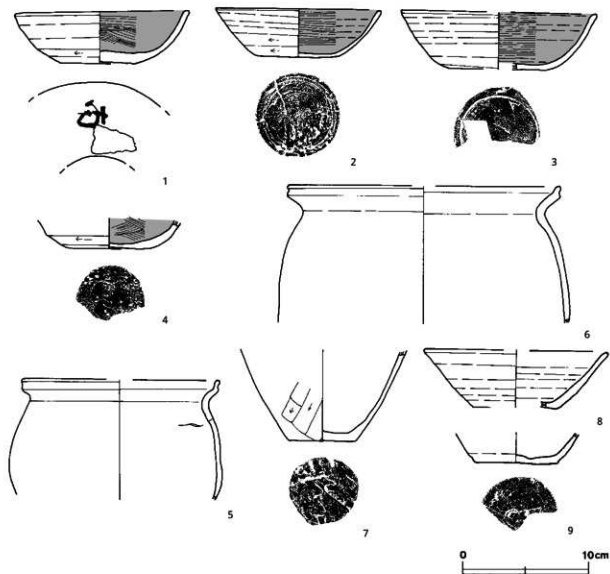
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、炭化粒子・雑微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量 | | |

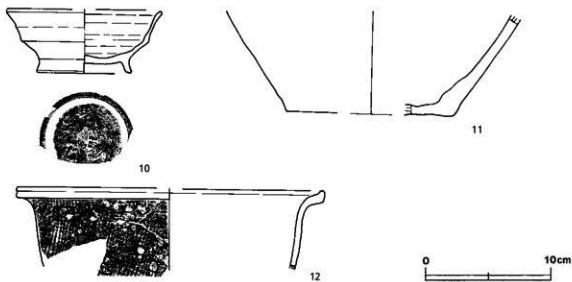
- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 6 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子少量 |
| 7 棕色 | 粘土粒子多量、礫少量 | 11 黒色 | 炭多量、ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子多量、鹿沼パミス粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量、鹿沼パミス小ブロック・炭少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス小ブロック・鹿沼パミス粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片122点、須恵器片60点が出土している。うち土師器7点、須恵器5点を抽出・図示した。第270図3の土師器杯、4の土師器碗、6の土師器甕、10の須恵器高台付杯は、覆土から出土している。9の須恵器杯は、中央部北西寄りの覆土中層から出土している。1の「南」と墨書された土師器杯は、南壁中央寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。5の土師器甕は接合片で、中央部の北西寄りの覆土下層から破片がまとまった状態で出土している。7の土師器甕は北壁中央寄り、8の須恵器杯は中央部北東寄りの覆土下層から出土している。

所見 調査4区第87号住居跡からは「南主」という墨書が出土している。時期も同じ頃で、また隣接していることから関連が考えられる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第270図 第138号住居跡出土遺物実測図(1)



第 271 図 第 138号住居跡出土遺物実測図(2)

第 138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 271 図 1	土 師 器	A 141	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物・雲母 にぶい橙色、普通	P 3897 53% PL64 74 体部外面墨書横位「南」
		B 43				
		C 61				
2	土 師 器	A 132	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 3898 70% PL64
		B 39				
		C 66				
3	土 師 器	A 144	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は弱く外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物・赤色粒子 橙白、普通	P 3899 55%
		B 45				
		C 72				
4	土 師 器	B 23	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	礫・長石・針状鉱物 橙色 普通	P 3900 20%
		C 58				
5	甕 土 師 器	A 160	体部下半から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P 3901 25% PL64 体部内面輪軸み横
		B 95				
6	甕 土 師 器	A 218	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母 褐色 普通	P 3902 20%
		B 108				
7	甕 土 師 器	B 72	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面へラ削り。底部木葉痕。	礫・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色、普通	P 3903 10%
		C 54				
8	坏 須 恵 器	A 156	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部調整不明。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 3904 10%
		B 46				
		C 66				
9	坏 須 恵 器	B 24	底部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口口ロナデ。底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物 暗黄色 普通	P 3905 20%
		C 66				
第 271 図 10	高台付 坏 須 恵 器	A 124	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナデ。底部へラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英・針状鉱物 黄褐色 普通	P 3906 40%
		B 50				
		D 74				
		E 11				
11	鉢 須 恵 器	B 82	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部調整不明。	礫・長石・石英・針状鉱物 褐色 普通	P 3908 30% 体部外面ス付着
		C 132				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 12	須恵器	A 242 B 65	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は外壁して立ち上がる。口縁部は強く屈曲し、端部はつまみ上げられている。	体部内面口ロナデ、外面平行叩き。	磯・礫石・石英・雲母 褐色 不良	P 3909 15% 酸化焼成

第144号住居跡（第272～274図）

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F3c9区。

規模と平面形 長軸3.74m，短軸3.64mの方形である。

主軸方向 N-19°-E

壁 壁高は37～45cmで，直立する。

床 はほぼ平坦であり，中央部から竈付近が踏み固められている。壁溝は，北西コーナー一部を除いて壁下を巡っている。規模は，上幅16～32cm，下幅6～16cm，深さ10cmほどで，断面形はU字状である。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで117cm，最大幅130cm，壁外への掘り込みは55cmである。火床面は床面とはほぼ同じ高さである。袖部の内壁及び火床面の一部は火熱を受けてわずかに赤変している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス中ブロック微量
3	黒褐色	砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	砂質粘土粒子中量，微量量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・礫少量	16	暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・礫少量
5	黒褐色	焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化物・炭化粒子微量	17	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	18	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量	19	極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
8	暗褐色	砂質粘土粒子・礫少量，焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量	20	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック
9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	21	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
10	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子中量			
11	暗褐色	ローム粒子微量			
12	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子・礫少量，焼土粒子・炭化粒子微量			

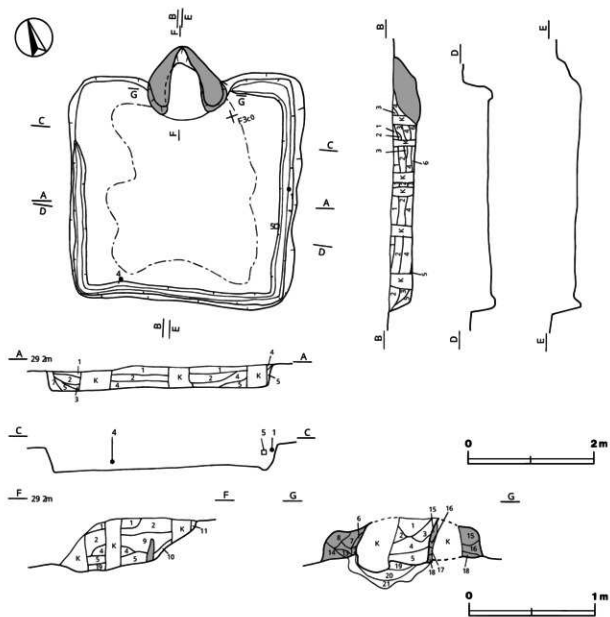
覆土 7層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

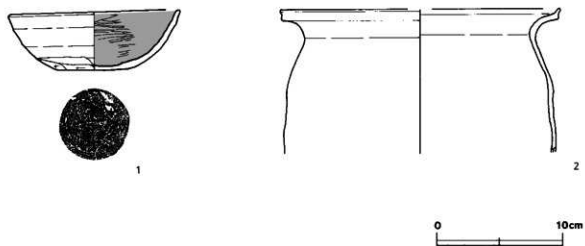
1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量
3	褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量	7	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・礫微量			

遺物 土師器片335点，須恵器片122点，土製品（支脚）1点，金属製品（鎌・釘・不明鉄製品）3点が出土している。特に竈の覆土上層から土師器製の細片や支脚などがまとまって出土している。うち，土師器2点，須恵器2点，砥石1点を抽出・図示した。第274図4の須恵器高台付坏は西コーナー部の覆土下層から，2の土師器製の竈の覆土中から出土している。5の砥石は南東壁際の覆土上層から出土している。

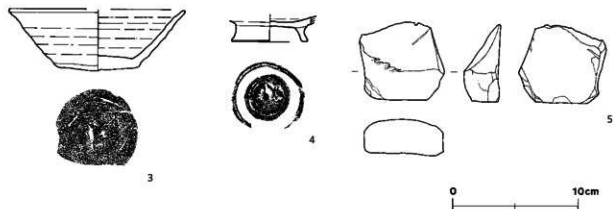
所見 時期は，遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 272 图 第 14 号住居跡実測图



第 273 图 第 14 号住居跡出土遺物実測图 (1)



第 274図 第 144号住居跡出土遺物実測図(2)

第 144号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 273図 1	土 器	A 136	口縁部及び体部一部欠損。平底。 体部は内彎しながら外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き。外 面下端手持ちへラ削り。底部回転 へラ削り。内面黒色処理。	磯・長石・石英・雲 母 にぶい橙色、普通	P 7008 5% PL64
		B 47				
		C 53				
2	土 器	A 222	体部上半から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁端 部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 7009 10%
		B 113				
第 274図 3	環 須 器	A 139	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾しなが ら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転へラ切り後、ナデ。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰黄色、普通	P 7010 30%
		B 48				
		C 65				
4	高台付環 須器	B 21	高台部から底部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。	底部回転へラ切り後、高台貼り付 け。	磯・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 7011 5%
		D 60				
		E 13				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 274図 5	砥 石	61	59	28	1355	凝灰岩	4面使用。	Q 7001

第146号住居跡 (第275・276図)

位置 調査2区, 台地上の北部, C2e0区。

規模と平面形 北部から北西部が攪乱されているため、全容は不明である。東西軸は3.87mであり、確認された南北軸は4.12mである。平面形は、南東及び南西コーナ部がほぼ直角になること、また、残存する竈の位置から長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は25~28cmで、直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。特に中央部から竈付近が踏み固められている。掘り方は、確認面から45~54cmの深さで掘られ、貼床は、焼土粒子・炭化粒子を含んでいる暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土を埋土して構築されている。

ピット 検出されなかった。

竈 両袖部と火床面の一部が残存している。推定される北壁の中央部に付設されているものと考えられる。残存する袖部は、焼土・炭化粒子及びローム土を含んでいる粘土・砂で構築されている。構築材に焼土及び炭化粒子を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われ、竈の作り替えの可能性が考えられる。確認され

た規模は、袖部長35cm、最大幅92cmである。火床面の一部は、長径27cm、短径13cmの不整形円形で残存し、赤変硬化している。

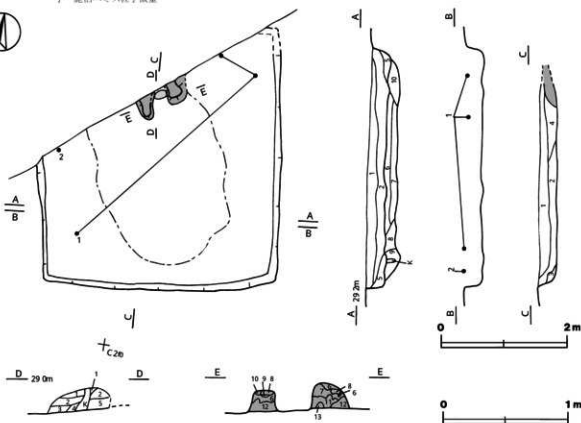
覆土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 ぶい黄褐色	焼土粒子・砂多量、粘土粒子中量
2 灰褐色	粘土中ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・砂・粘土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂・粘土粒子微量
4 黒褐色	炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量	11 黒褐色	焼土粒子・砂・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量	12 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂・粘土粒子少量、ローム粒子微量
6 極暗褐色	砂中量、焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	13 黒色	砂・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐色	粘土粒子・砂中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量		

覆土 第1～5層は覆土であり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6～10層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子・硬・鹿沼パミス粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	8 極暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
		9 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
		10 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

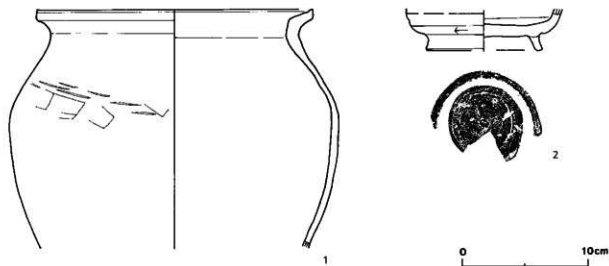


第 275図 第 146号住居跡実測図

遺物 土師器片60点、須恵器片10点、金属製品(刀子)1点が出土している。いずれも細片であり、東壁寄りの近くにまとまって出土している。うち、土師器1点、須恵器1点を抽出・図示した。第276図1の土師器

甕は東壁際の竈付近及び南西コーナー一部の口縁部・胴部が接合したもので、2の須恵器高台付坏は西壁際の、それぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 276図 第 146号住居跡出土遺物実測図

第 146号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 276図 1	甕	A 220 B 188	体部上半から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半 外面ヘラナデ。	磯・長石・石英・雲 母 橙色、普通	P 7012 15% PL64 火熱を帯び赤化及 びスス付着
2	高台付坏 須恵器	B 33 D 90 E 13	高台部から体部下半にかけての破 片。高台は八の字状に開く。	底部回転ヘラ刷り後、高台貼り付 け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 7013 15%

第148号住居跡 (第277～280図)

位置 調査2区，台地上の北部，C2f0区。

規模と平面形 長軸3.76m，短軸3.51mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は29～40cmで，直立する。

床 ほぼ平坦であり，出入り口施設に伴うピット付近から中央部，さらに竈付近までが踏み固められている。全面が貼床である。掘り方は，特に中央部よりも，各壁下を不定形の溝状により深く掘り込んでいる。溝状の掘り方の規模は，幅48～120cm，確認面から68～72cmの深さである。貼床は，炭化粒子・鹿沼バミス大ブロックを含んでいるローム主体の黒褐色土・暗褐色土を，全体的に埋土して構築されている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は，長径47～60cm，短径42～57cmの楕円形，深さ34～57cmである。ピット間を結ぶ各線がそれぞれ対応する壁と平行になることから，支柱穴と考えられる。P5は，長径43cm，短径37cmの楕円形，深さ22cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており，煙道・煙出し部及び両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで102cm，最大幅130cm，壁外への掘り込みは21cmである。火床面は北壁ラ

インの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

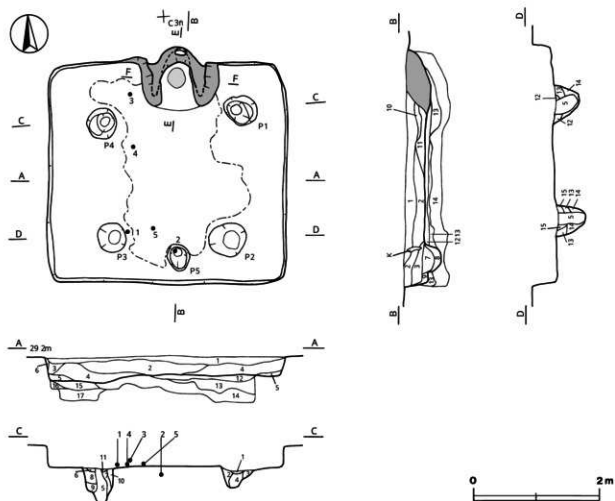
覆土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化物微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 褐色 | 砂多量、粘土粒子中量、ローム粒子・微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | | |
| 8 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

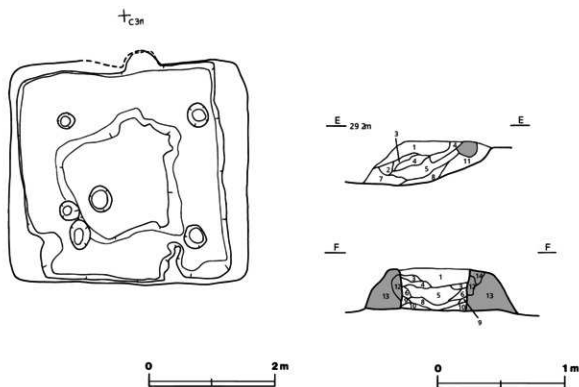
覆土 第1～11層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第12～17層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 黒色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス大ブロック中量 |
| 5 黒色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 16 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 17 黒褐色 | ローム中量ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス大ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 9 黒褐色 | ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量 | | |
| 10 暗褐色 | ローム粒子・砂中量 | | |

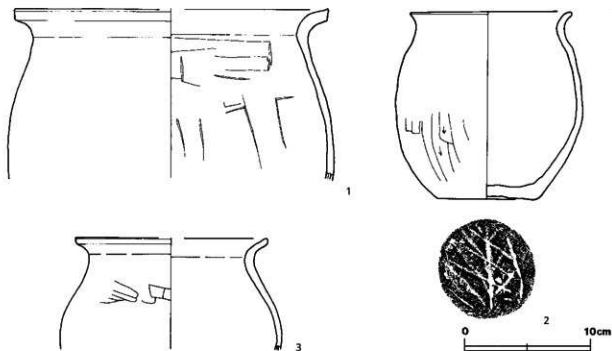


第 277 図 第 14 号住居跡実測図 (1)

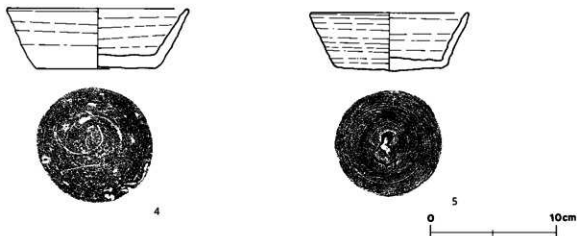


第 278 図 第 148 号住居跡実測図 (2)

遺物 土師器片 102 点、須恵器片 10 点が、床面及び覆土下層から覆土上層にかけて散在して出土している。うち、土師器 3 点、須恵器 2 点を抽出・図示した。第 279 図 1 の土師器甕及び第 280 図 5 の須恵器杯は南壁寄り、3 の土師器小形甕は北壁寄り、4 の須恵器杯は中央部から竈寄りの、いずれも覆土下層から出土している。2 の土師器小形甕は、出入り口施設に伴うピットから、口縁部を若干南壁方向に向けた斜位の状態でも出土している。所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第 279 図 第 148 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 280 図 第 148 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 148 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 279 図 1	甕 土師器	A 248 B 134	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外上方向につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磁・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 7014 15% 火熱を帯び赤化及びスス付着
2	小形甕 土師器	A 125 B 148 C 74	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面横ナデ。体部外面縦位のナデ。	磁・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 7015 95% PL64 火熱を帯び赤化及びスス付着
3	小形甕 土師器	A 150 B 88	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	磁・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 7016 19% 火熱を帯び赤化及びスス付着
第 280 図 4	坏 須恵器	A 142 B 48 C 92	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎外傾に外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	磁・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7017 90% PL64
5	坏 須恵器	A 123 B 46 C 85	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	磁・長石・雲母・赤色粒子 灰白色 普通	P 7018 85% PL64

第150号住居跡 (第281~284図)

位置 調査 2 区, 台地上の北部, C2i8区。

規模と平面形 長軸4.18m, 短軸2.98mの長方形である。

主軸方向 N - 4° - W

壁 壁高は30~37cmで, 直立する。

床 はほぼ平坦であり, 出入口施設に伴うピット付近から中央部, さらに竈付近までが踏み固められている。全面が貼床である。掘り方は, 東壁下から中央部を不整楕円形の土坑状に, 南壁・北壁・西壁の各壁下際より深く掘り込んでいる。また, 土坑状の掘り方内も, さらに土坑状に掘り込まれている。土坑状の掘り方の規模は, 長径371cm, 短径221cmで, 確認面から48~92cmの深さである。貼床は, 焼土粒子・炭化粒子を含むローム主体の暗褐色土を, 全体的に埋土して構築されている。

ピット 1か所。P 1は, 長径57cm, 短径78cmの楕円形, 深さ22cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は粘土・砂で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで105cm、最大幅115cm、壁外への掘り込みは29cmである。火床面は北壁ライン上に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

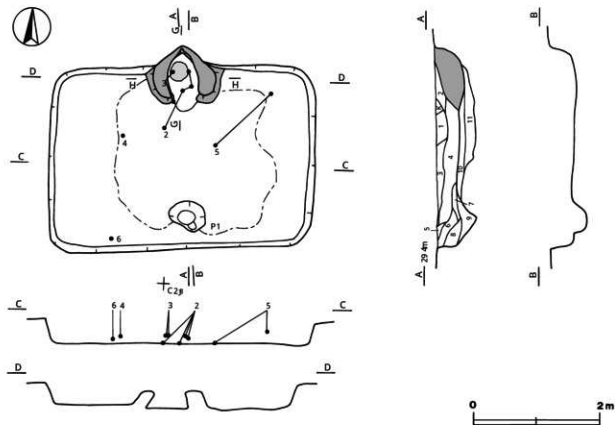
甕土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、砂中量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 14 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量 | 16 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 8 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 17 にぶい灰褐色 | 粘土粒子多量、砂中量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 黒褐色 | 粘土粒子少量、砂微量 |

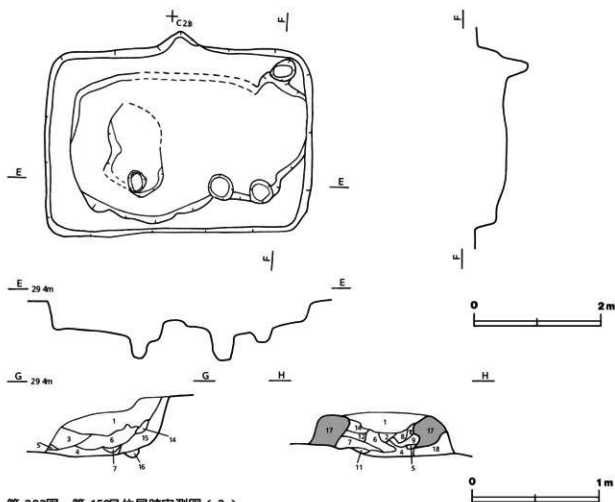
覆土 第1～9層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第10・11層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |



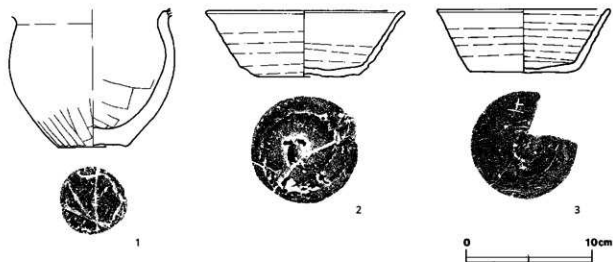
第 281 図 第 150 号住居跡実測図 (1)



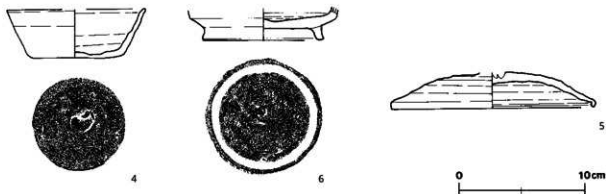
第 282 図 第 150 号住居跡実測図 (2)

遺物 土師器片 35 点, 須恵器片 21 点が出土している。特に焚口部・火床面から竈の覆土中層にかけて, 土師器甕や須恵器杯などがまとめて出土している。うち, 土師器 1 点, 須恵器 5 点を抽出・図示した。第 283 図 2 の須恵器杯は中央部から竈寄りの床面と竈の火床面及び竈の覆土中層の細片が接合したものである。3 の須恵器杯は竈の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 283 図 第 150 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 284 図 第 150 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 150 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 284 図 1	小形 土器	B 108 C 52	体部から頸部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり頸部に至る。	体部外面下縁位のヘラナデ。	礫・長石・石英・雲母・針状鉱物 灰褐色、普通	P 7019 60% PL64
2	坏 須恵器	A 156 B 52 C 80	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物・赤色粒子 褐灰色、普通	P 7020 70% PL64
3	坏 須恵器	A 136 B 50 C 84	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、一方向の手持ちヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 褐灰色 普通	P 7021 80% PL64 底部刻畫「上」
第 284 図 4	坏 須恵器	A 108 B 38 C 73	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。底部自然輪付着のため詳細は不明。	礫・長石 灰白色 普通	P7022 70% PL64
5	蓋 須恵器	A 158 B 27	つまみ部及び口縁部一部欠損。天井部は伏せ皿状で、口縁部は短く重下する。	口縁部及び外周部口クロナデ。天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 オリーブ灰色、普通	P 7023 85% PL64
6	高台付坏 須恵器	B 26 D 94 E 11	高台部から底部にかけての破片。高台はふんばる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 にぶい黄褐色 普通	P 7024 20%

第155号住居跡 (第285~288図)

位置 調査 2 区, 台地上の北部, C3f3区。

規模と平面形 長軸5.65m, 短軸4.86mの長方形である。

主軸方向 N - 6° - W

壁 壁高は70~78cmで, 直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。出入口施設に伴うピットから中央部, さらに竈付近までが踏み固められている。掘り方は, 確認面から74~96cmの深さで掘られ, 貼床は, 炭化粒子・鹿沼バミスブロック・鹿沼バミス粒子を含んでいるローム主体の黒色土・黒褐色土を埋土して構築されている。壁溝が各壁下を巡っている。規模は, 上幅18~25cm, 下幅4~18cm, 深さ16cmほどで, 断面形はU字状である。

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P4は, 長径53~81cm, 短径47~69cmの楕円形, 深さ41~67cmである。ピット間を結ぶ各線が, それぞれ対応する壁と平行になることから主柱穴と考えられる。P5は, 径33cmの円形, 深さ16cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考え

られる。P 6は、長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さ22cm、P 7は、径33cmの円形、深さ21cmである。とも
にその性格は不明である。

P 1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・甍沼バミズ粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・甍沼バミズ粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土ブロック・甍沼バミズ中ブロック微量

P 2土層解説

- 1 黒褐色 甍沼バミズ粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・甍沼バミズ小ブロック微量
- 3 褐色 甍沼バミズ粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

P 3土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・甍沼バミズ粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・甍沼バミズ大ブロック・甍沼バミズ小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・甍沼バミズ小ブロック少量、ローム小ブロック・甍沼バミズ粒子微量

P 4土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・甍沼バミズ粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・甍沼バミズ粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子・甍沼バミズ粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・甍沼バミズ中ブロック微量

- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・甍沼バミズ粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・甍沼バミズ小ブロック・甍沼バミズ粒子・粘土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、甍沼バミズ粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・甍沼バミズ粒子少量、焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

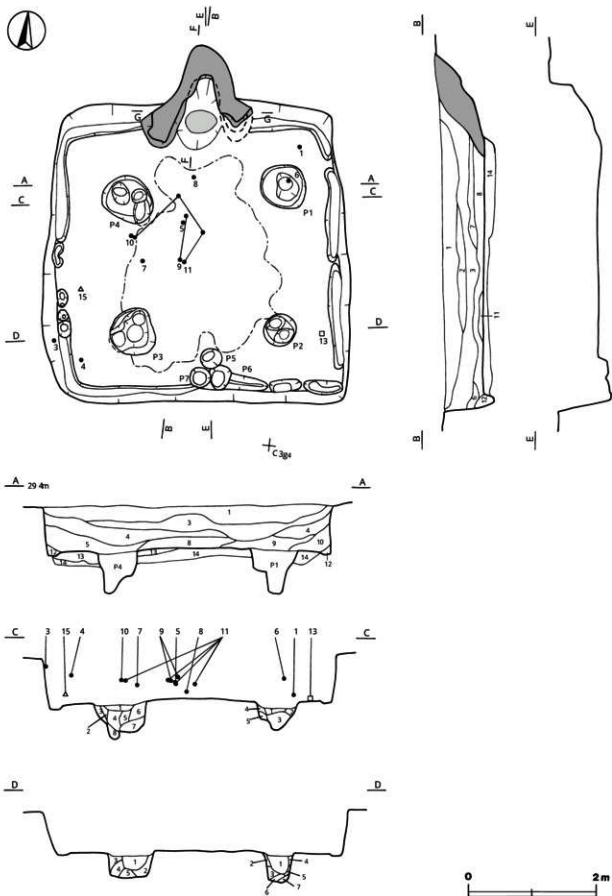
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・甍沼バミズ小ブロック・甍沼バミズ粒子微量

- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・甍沼バミズ粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・甍沼バミズ小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量

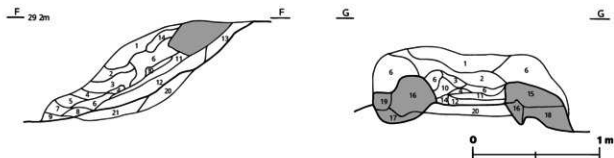
竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土・炭化物を含んでいる粘土と砂で構築されている。構築材に焼土及び炭化物を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われる、竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで164cm、最大幅173cm、壁外への掘り込みは87cmである。火床面は北壁ライン上に位置し、床面とほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。第4～8・12・13層は焼土小ブロック・焼土粒子を含んでいることから火を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。

甍土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 灰 褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐 色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土大ブロック微量
- 7 暗 褐 色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土大ブロック微量
- 8 暗 赤 灰 色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
- 9 赤 黒 色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、ローム小ブロック微量
- 10 黒 褐 色 砂質粘土粒子中量、灰少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
- 12 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子微量
- 13 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・甍沼バミズ粒子少量
- 14 暗 赤 褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量
- 15 麻 粉 赤 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 16 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、粘土中ブロック中量、炭化物・砂少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 17 暗 褐 色 ローム粒子中量、砂質粘土粒子・甍沼バミズ粒子少量、焼土粒子微量
- 18 麻 粉 赤 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・甍沼バミズ粒子少量
- 19 黒 褐 色 粘土粒子中量、炭化物・砂少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 20 黒 褐 色 焼土中ブロック・焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量
- 21 麻 粉 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック微量



第 285 图 第 15 号住居跡実測图 (1)



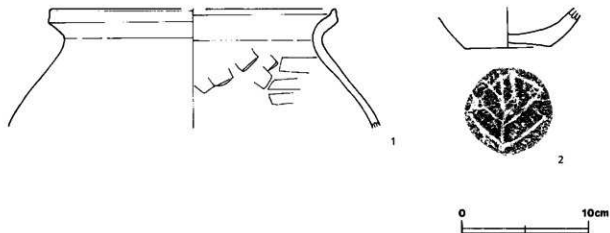
第 286図 第 15号住居跡実測図(2)

覆土 第1～12層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第13・14層は貼床を構築する際の埋土である。

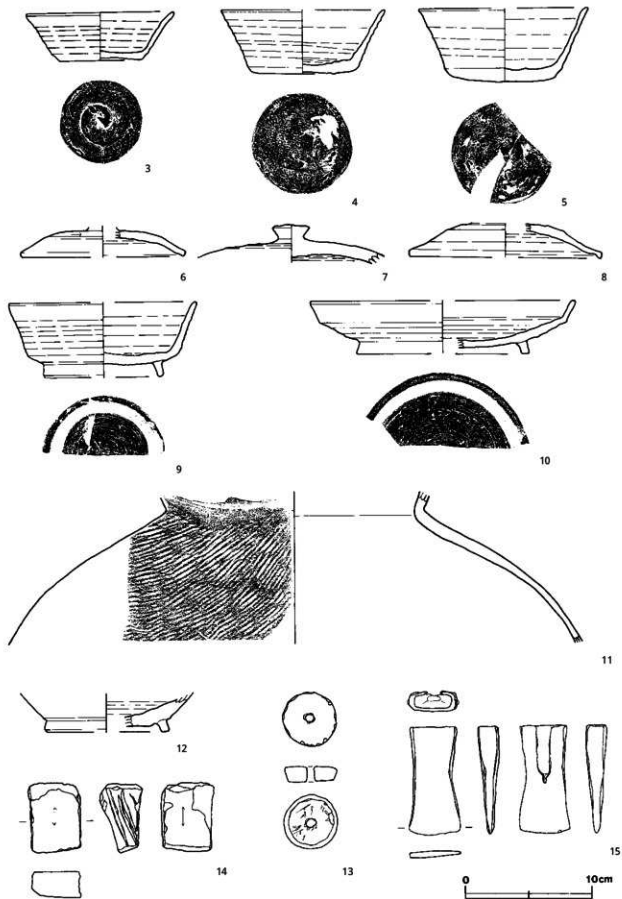
土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼パミス中ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 13 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼パミス小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス大ブロック微量 |
| 6 黒色 | ローム粒子・鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス粒子少量、炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 鹿沼パミス粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス中ブロック少量、炭化粒子微量 | | |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片568点、須恵器片252点、石製品（砥石）2点、金属製品（鉄斧・刀子・釘・不明鉄製品）10点が、主に、中央部から西壁際・北壁際までの、覆土中層から覆土下層にかけてまとまって出土している。うち、土師器2点、須恵器10点、石製品（砥石）2点、金属製品（鉄斧）1点を抽出・図示した。第287図1の土師器甕は北東コーナー部、8の須恵器蓋は中央部から北壁寄りのそれぞれ覆土下層から、5の須恵器坏、7の須恵器蓋、9の須恵器高台付坏、10の須恵器盤、11の須恵器甕は、それぞれ中央部の覆土中層から出土している。所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後半と考えられる。



第 287図 第 15号住居跡出土遺物実測図(1)



第 288 图 第 155 号住居跡出土遺物実測图 (2)

第 155号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 28図 1	甕 土 師 器	A 226	体部上位から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁部 は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ヘラナデ。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 褐色、普通	P 7025 5%
		B 104				
2	甕 土 師 器	B 25	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ。底部木葉痕。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 7026 5%
		C 67				
第 28図 3	環 須 恵 器	A 116	口縁部一部欠損。平底。体部は直 線的に外傾して立ち上がり、口縁 部はわずかに外反する。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り後、ナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7028 90% PL64
		B 38				
		C 66				
4	環 須 恵 器	A 129	体部及び口縁部の一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾して立ち上 がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。体部外 面下端ナデ。底部回転ヘラ切り後、 ナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7029 70% PL64
		B 50				
		C 79				
5	環 須 恵 器	A 132	底部・体部及び口縁部の一部欠損。 平底。体部は直線的に外傾して立 ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。体部外 面下端ナデ。底部回転ヘラ切り後、 ナデ。	磯・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 7030 60% PL64
		B 59				
		C 81				
6	蓋 須 恵 器	A 130	天井部から口縁部にかけての破片。 伏せ皿状であり、口縁部端部はわ ずかに垂下する。	口縁部及び外周部口ロナデ。天 井部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英・針状 鉱物 灰色、普通	P 7027 29% 口縁部内面自然釉 付着。
		B 23				
		G 02				
7	蓋 須 恵 器	B 32	天井部からつまみ部にかけての破 片。天井部は伏せ皿状で、つまみ は梨宝珠状を呈する。	つまみ部口ロナデ。天井部回転 ヘラ削り。天井部自然釉付着。	磯・長石 灰白色 普通	P 7031 30%
		F 30				
		G 11				
8	蓋 須 恵 器	A 151	天井部から口縁部にかけての破片。 笠形であり、口縁部端部は短く垂 下する。	口縁部及び外周部口ロナデ。天 井部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 7032 19%
		B 27				
9	高台付 須 恵 器	A 148	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は下位に稜 を有し、外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転ヘラ切り後、高台貼 り付け。	磯・長石・石英・針 状鉱物・赤色粒子 灰白色、普通	P 7033 49% PL64 底部ヘラ記号
		B 59				
		D 94				
		F 13				
10	蓋 須 恵 器	A 208	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は大きく外 傾して開き、口縁部との境に稜を 持つ。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転ヘラ切り後、高台貼 り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7034 40%
		B 42				
		D 136				
		F 10				
11	甕 須 恵 器	B 117	体部上部から胴部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、頸部 に至る。	胴部内・外面口ロナデ。体部斜 位の平行叩き。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 7035 5%
12	瓶 須 恵 器	B 31	高台部から体部下端にかけての破 片。高台はふんばる。体部は内彎 して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転ヘラ切り後、高台貼り付け。	磯・長石 灰色 普通	P 7036 5% 底部内面自然釉
		D 97				
		F 09				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 28図 13	紡 錘 車	-	42	12	300	泥岩	中央部に 0.2m の孔が空く。	Q 7002 PL77
			42	34	874			
14	砥 石	55				凝灰岩	5 面使用。右側面に 3 条の線状痕。	Q 7003 PL78

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 28図 15	弁	85	40	17	1094	鉄	両側面がややくびれた短冊形。	M 7001 PL78

第158号住居跡 (第289~291図)

位置 調査 2 区の中央部, D3a3区。

規模と平面形 長軸4.62m, 短軸4.50mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は31～46cmで、ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦であり、出入り口施設に伴うピットから中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は、長径22～52cm、短径20～49cmの円形及び楕円形、深さ22～60cmである。ピット間を結ぶ各線が、それぞれ対応する壁とはほぼ平行になることから主柱穴と考えられる。P5は、長軸64cm、短軸40cmの不整楕円形、深さ60cmである。竈に相対する前壁の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで130cm、最大幅138cm、壁外への掘り込みは52cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面を14cmほど掘りくぼめ、皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。第2～5・7～9層は焼土小ブロック・焼土粒子を含んでいることから火を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量、粘土中ブロック中量、礫少量	9	極暗赤褐色	砂・礫少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック少量	10	暗褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量
3	褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・粘土小ブロック微量	11	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化物微量
4	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック微量	12	黒褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量	13	褐色	砂質粘土粒子多量
6	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量、礫微量	14	暗褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量
7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	15	黒褐色	砂質粘土粒子中量
8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	16	黒褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量

炉 中央部に付設されている。長軸126cm、短軸57cmの不定形である。中央に径10cmの円形で、深さ5cmほどのピット状の窪みを有している。その周りが特に火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	黒色	焼土粒子少量、粘土粒子微量	3	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・礫微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量			

覆土 第1～14層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第15～24層は貼床を構築する際の埋土である。

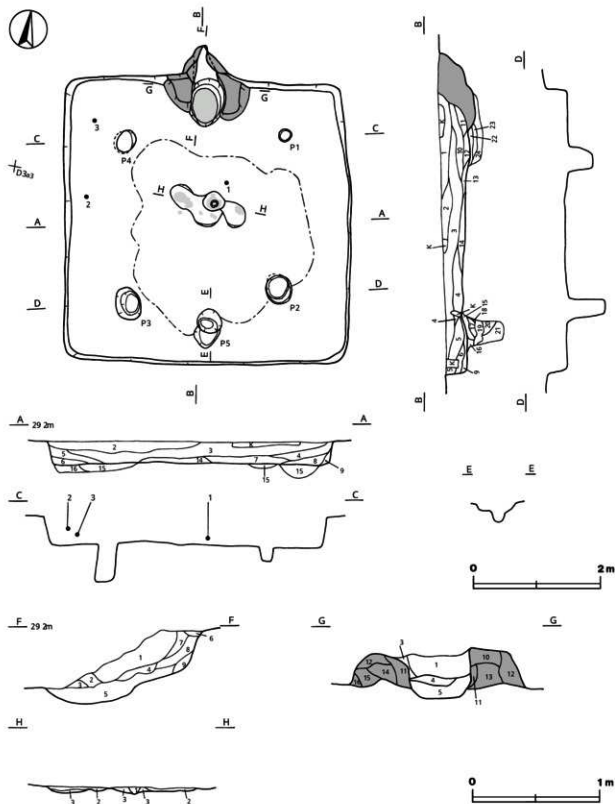
土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	黒色	炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	15	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	16	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	17	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	18	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	19	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
7	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	20	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
8	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	21	暗褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	22	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
10	黒褐色	粘土中ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	23	極暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
11	暗褐色	砂質粘土粒子中量、粘土中ブロック少量	24	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック中量
12	黒色	粘土中ブロック・砂質粘土粒子微量			
13	黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量			

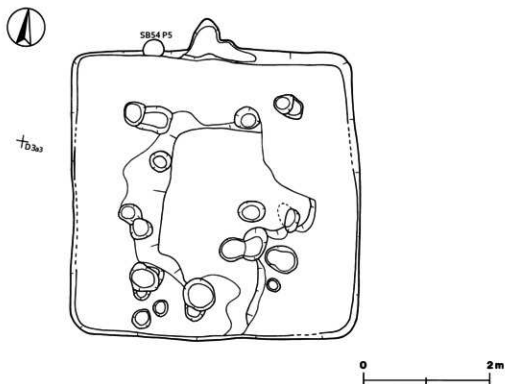
遺物 土師器片294点、須恵器片19点、金属製品（刀子）1点、石製品（砥石）1点が出土している。土師器片は多くが細片であり、覆土中から出土している。うち、土師器1点、須恵器2点、砥石1点を抽出・図示した。第291図1の土師器鉢は中央部の覆土下層から、2の須恵器杯は西壁際、3の須恵器杯は北西コーナ部のそれぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。中央部に検出された炉が鍛冶炉である

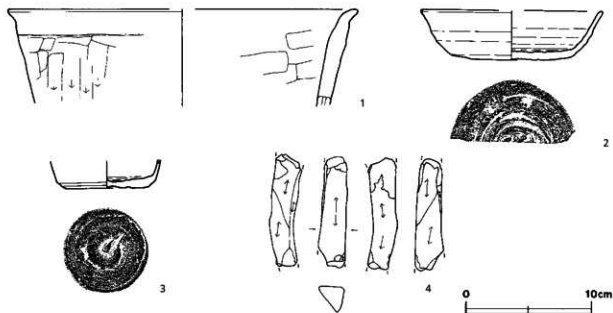
可能性も考え、50cmのメッシュを設定して床面上の覆土を採取し、粒状滓や鍛造剥片の検出のため水洗選別を試みた。その結果、西壁寄りに粒状の細片9点が検出された。0.2~0.4cmの大きさの褐色で、やや角張った球状に近い形状である。わずかに磁気を帯びている。この細片が粒状滓の可能性も考えられる。しかし、粒状の細片が極わずかであること、鍛造剥片が検出されなかったこと、鉄滓や羽口などの鍛冶に関連する遺物が出土していないことから、炉が鍛冶炉である可能性は低いと考えられ、その性格は不明である。



第 289 図 第 158 号住居跡実測図 (1)



第 290 図 第 158号住居跡実測図 (2)



第 291 図 第 158号住居跡出土遺物実測図

第 158号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 29 図 1	鉢 器	A 275	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナズ。頸部外面 縦位のヘラ刷り。	磯・長石・雲母・赤 色粒子 にぶい橙色、普通	P 7037 5 %
		B 76				
2	環 帯 器	A 142	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎興味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナ ズ。底部回転ヘラ刷り。	磯・長石・石英・雲 母 薄灰色、普通	P 7038 39% PL64
		B 40				
		C 98				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 3	環 須 器	B 22 C 64	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	硬・長石 黄灰色 普通	P 7039 306

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第29図 4	紙 石	88	22	22	544	凝灰岩	5面使用。	Q 7004 PL78

第171号住居跡 (第292・293図)

位置 調査2区，台地の北西部，C3f9区。

規模と平面形 長軸3.32m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は14~19cmで，ほぼ直立する。

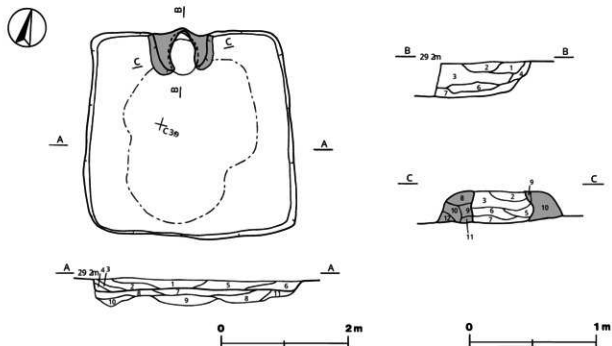
床 貼床ではほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。掘り方は，確認面から32~40cmの深さで掘られ，貼床は，ローム主体の黒色土・黒褐色土・暗褐色土を埋土して構築されている。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで75cm，最大幅100cm，壁外への掘り込みは11cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し，床面とはほぼ同じ高さで浅い皿状である。煙道はゆるやかに立ち上がる。第5・6層は焼土ブロックを含んでいることから火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。

焼土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 鹿沼バミス粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子多量，粘土中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 9 暗褐色 焼土小ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗褐色 砂質粘土粒子多量 |
| 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 黒褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量，鹿沼バミス粒子微量 | 12 黒褐色 砂質粘土粒子少量 |



第292図 第171号住居跡実測図

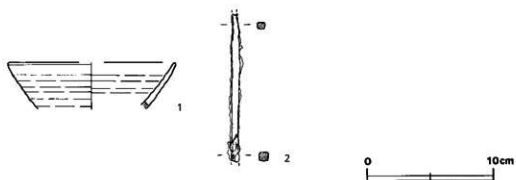
覆土 第1～6層が本跡の覆土であり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7～11層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 7 黒色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |

遺物 土師器片14点、須恵器片4点、金属製品（鉄鏝）1点が出土している。うち、須恵器1点、金属製品（鉄鏝）1点を抽出・図示した。第293図1の須恵器片は覆土中から、2の鉄鏝は東壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物が少なく、いずれも細片であるため明確でないが、遺構の形態及び覆土中の土器から9世紀代の可能性が考えられる。



第 293図 第 171号住居跡出土遺物実測図

第 171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 293図 1	環 須 恵 器	A 132 B 36	体部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナズ。	長石 灰白 普通	P 7040 96

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 293図 2	鏝	116	12	06	195	鉄	断面が方形。	M 7002

第173号住居跡（第294～296図）

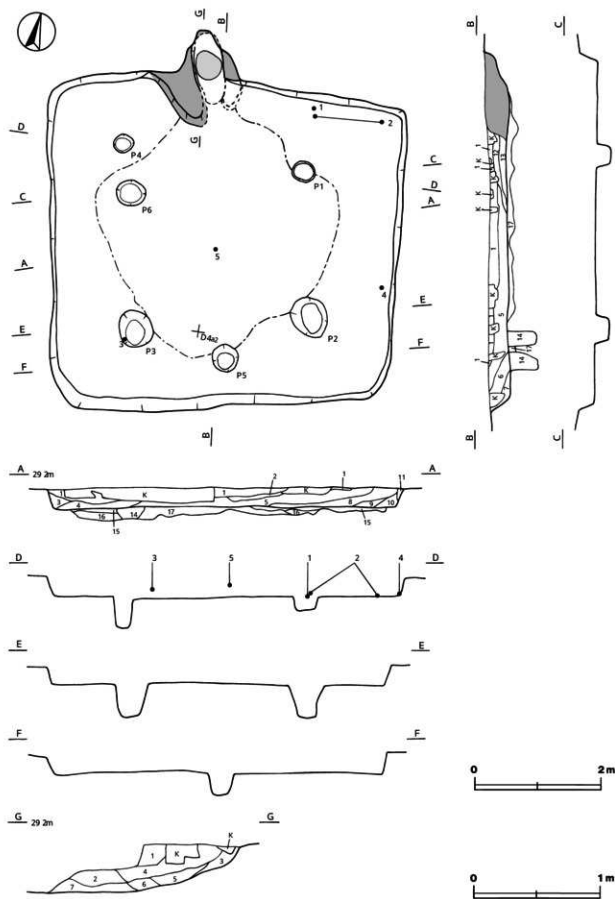
位置 調査2区，台地の西部，C4j2区。

規模と平面形 長軸5.69m，短軸4.73mの長方形である。

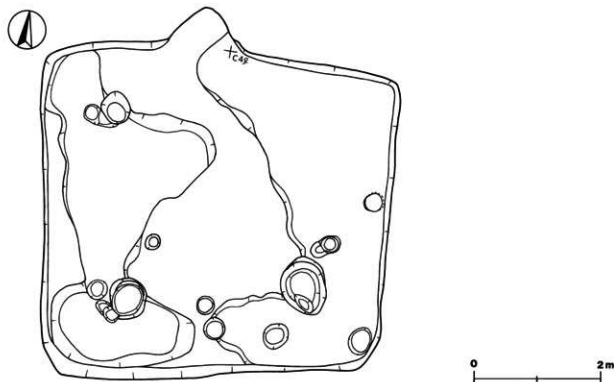
主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は24～32cmで，直立する。

床 全面が貼床ではほぼ平坦である。出入り口施設に伴うピットから中央部，さらに竈付近までが踏み固められている。掘り方は，各壁下を不定形の土坑状に中央部よりも，やや深く掘り込んでいる。確認面からの深さは34～54cmである。貼床は，ローム主体の黒褐色土・暗褐色土を埋土して構築されている。



第 294 图 第 17 号住居跡実測图 (1)



第 295 図 第 17 号住居跡実測図 (2)

ピット 6 か所 (P 1 ~ P 6)。P 1 ~ P 3 は、長径 38 ~ 68 cm、短径 33 ~ 55 cm の楕円形、深さ 20 ~ 52 cm である。P 4 は、径 30 cm の円形、深さ 46 cm である。P 1 ~ P 4 は、ピット間を結ぶ各線が、それぞれ対応する壁とはほぼ平行になることから支柱穴と考えられる。P 5 は、長径 43 cm、短径 41 cm の円形、深さ 35 cm である。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は、長径 47 cm、短径 42 cm の楕円形、深さ 21 cm であり、その性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており、左袖部が遺存している。左袖部は砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から左袖先端部まで 152 cm、左袖最大幅 85 cm、壁外への掘り込みは 77 cm である。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土中ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | | |

覆土 第 1 ~ 13 層が覆土であり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 14 ~ 17 層は貼床を構築する際の埋土である。

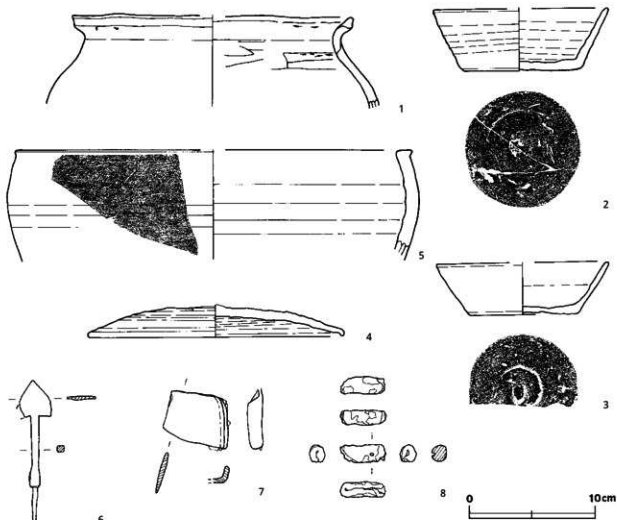
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量 |
| | | 13 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| | | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |

- 15 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック 少量
 16 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック少量
 17 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック 少量

遺物 土師器片146点、須恵器片119点、土製品（支脚）2点、金属製品（鉄鎌・鎌・不明鉄製品）3点が出土している。遺物のはほとんどが細片であり、覆土中から出土している。他は覆土中層以下に散在して出土している。うち、土師器1点、須恵器4点、金属製品（鉄鎌・鎌・不明鉄製品）3点を抽出・図示した。第296図1の土師器甕及び2の須恵器杯は北壁際の床面から、4の須恵器蓋は東壁際の覆土下層から、3の須恵器杯は南西コーナー部、5の須恵器鉢は中央部の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 296図 第 173号住居跡出土遺物実測図

第 173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 296図 1	甕 土師器	A 221	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁 部端部はつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	礫・長石・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 7041 5%
		B 71				
2	杯 須恵器	A 137	体部から口縁部一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。 底部回転ヘラ切り後、ナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7042 53% PL65
		B 49				
		C 91				
3	杯 須恵器	A 135	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。 底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針 状鉱物 浅黄橙色、普通	P 7043 45% PL65
		B 41				
		C 85				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 4	蓋 須恵器	A 201	つまみ部及び口縁部一部欠損。天井部は伏せ皿状。口縁部は短く垂下する。	口縁部及び外周部口ロナデ。天井部回転ヘラ削り。	磯・礫石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 7044 75% PL65
		B 21				
5	鉢 須恵器	A 310	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は内彎して立ち上がり、口縁部との境で小さく屈曲する。	口縁部及び頸部内・外面口ロナデ。	磯・礫石 灰色 普通	P 7045 5%
		B 86				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第29図 6	鉢	113	25	05	115	鉄	鉢身が三角形。器底部断面が方形。	M 7003 PL79
7	鉢	48	53	04	339	鉄	刃部欠損。基部断面全面折り返し。	M 7004
8	不明	35	14	13	134	銅	新置円形。	M 7005

第178号住居跡 (第297図)

位置 調査2区，台地の中央部，D3a6区。

重複関係 第179号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.46m，短軸3.39mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は30～33cmで，ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで107cm，最大幅68cm，壁外への掘り込みは38cmである。火床面は，床面から7cmほど掘りくぼめられ，皿状である。煙道は外傾して立ち上がる。第5層は焼土ブロックを含んでいることから火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土小ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量	10 褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5 麻褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量		
6 黒褐色	炭化物少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
7 黒褐色	焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		

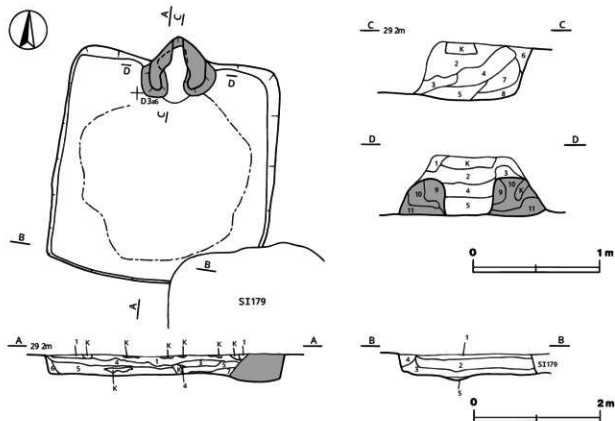
覆土 7層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量	5 黒色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	砂質粘土粒子少量，砂質粘土中ブロック微量	6 麻褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量	7 麻褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

遺物 土師器片26点，須恵器片3点，金属製品（不明鉄製品）1点が覆土上層から覆土中層にかけて散在した状態で出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 時期は，出土遺物が少なく，また，いずれも細片であるため明確ではないが，9世紀前葉と考えられる第179号住居に掘り込まれていること，遺構の形態及び土師器片・須恵器片などから9世紀前葉以前の奈良・平安時代と考えられる。



第 297図 第 178号住居跡実測図

第179号住居跡 (第298・299図)

位置 調査2区, 台地の中央部, D3b6区。

重複関係 第178号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.87m, 短軸3.30mの長方形である。

主軸方向 N - 2° - W

壁 壁高は32~35cmで, はほぼ直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。出入り口施設に伴うピットから中央部, さらに竈付近までが踏み固められている。掘り方は, 確認面から44~72cmの深さで掘られ, 貼床は, 焼土粒子・炭化粒子を含んでいる黒褐色土・暗褐色土を埋土して構築されている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は, 長径25cm, 短径23cmの円形, 深さ18cm, P2は, 長径27cm, 短径25cm, 深さ15cmであり, ピット間を結ぶ線が対応する南壁・北壁と平行になることから, 支柱穴と考えられる。P3は, 長径27cm, 短径22cmの楕円形, 深さ17cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

2 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

P2土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

P3土層解説

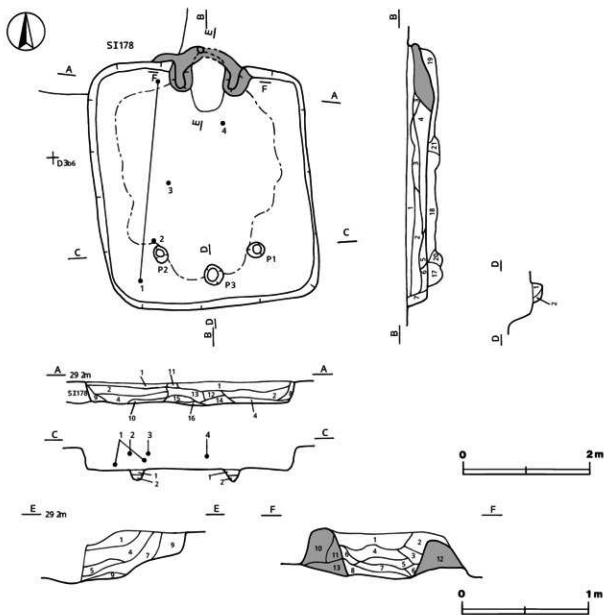
1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで100cm、最大幅127cm、壁外への掘り込みは25cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面から12cmほど掘りくぼめられ、皿状である。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|--|
| 1 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、焼土中ブロック少量 | 12 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第 298図 第 179号住居跡実測図

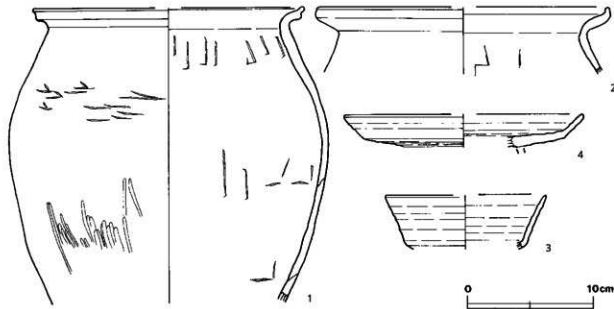
覆土 第1～16層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第17～21層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

1 黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量
3 黒褐色	粘土小ブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子少量	14 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、砂質粘土小ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	15 黒褐色	砂質粘土粒子多量、砂質粘土中ブロック少量、焼土粒子少量
5 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子少量	16 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	17 黒褐色	ローム粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	18 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック少量
8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	19 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量	20 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	21 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
11 暗褐色	砂質粘土粒子中量、砂質粘土中ブロック少量		

遺物 土師器片82点、須恵器片36点、金属製品（不明鉄製品）1点が、主に覆土中層から覆土下層にかけて散在して出土している。うち、土師器2点、須恵器2点を抽出・図示した。第299図1の土師器は、南西コーナー部の覆土下層と電付近の覆土中層の細片が接合したものである。2の土師器は南西コーナー部、3の須恵器高台付杯は中央部、4の須恵器盤は中央部から電寄りの、それぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 299 図 第 179 号住居跡出土遺物実測図

第 179 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 299 図 1	甕 土師器	A 156 B 234	体部下半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面下端へラ磨き。	礫・長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 7046 30% PL65
2	甕 土師器	A 228 B 52	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方へつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい褐色、普通	P 7047 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 3	高台付 須恵器	A 126 B 43	底部から口縁部にかけての破片。 体部は下位に稜を有し、外傾して 立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロクナ デ。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7048 15%
4	盤 須恵器	A 188 B 26	体部から口縁部にかけての破片。 体部は大きく外傾して開き、口縁 部との境に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面口ロクナ デ。	礫・長石 黄灰色 普通	P 7049 10%

第183号住居跡 (第300図)

位置 調査2区，台地の中央部，D3g6区。

規模と平面形 長軸3.85m，短軸3.14mの長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は12～19cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり，出入り口施設に伴うピットから中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P3は，長径24cm，短径26cmの円形，深さ18～20cmである。P4は，長径28cm，短径22cmの楕円形，深さ25cmである。P1～P4は，ピット間を結ぶ各線が，それぞれ対応する壁と平行になることから支柱穴と考えられる。P5は，長径22cm，短径14cmの楕円形，深さ14cmである。竈に相對する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

P2土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子少量

P3土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P4土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

P5土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子少量

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで63cm，最大幅90cm，壁外への掘り込みは23cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し，床面から5cmほど掘りくぼめられ，皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・礫微量 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

2 暗褐色 焼土粒子中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 6 暗褐色 焼土粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量

3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，粘土粒子微量 7 暗褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量

4 暗褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量

9 黒褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量 10 黒褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 3層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

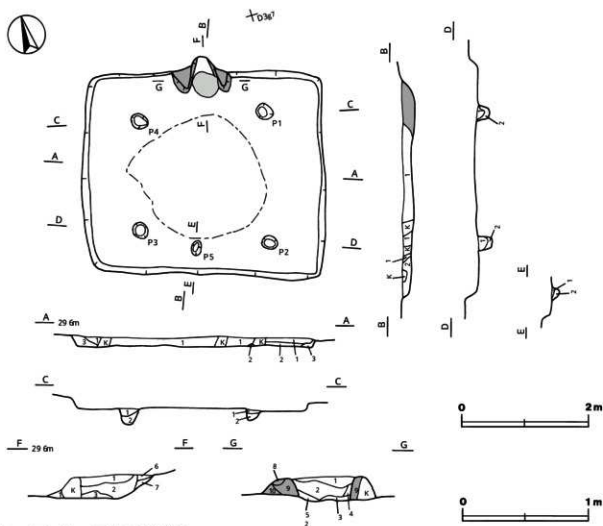
土層解説

1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片12点，須恵器片2点が覆土上層から覆土中層にかけて散在した状態で出土している。いずれも細片であり，図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物が少なく、いずれも細片であるため明確ではないが、遺構の形態や土師器片・須恵器片などから奈良・平安時代と推測される。



第300図 第185号住居跡実測図

第185号住居跡 (第301・302図)

位置 調査2区, 台地の中央部, D36区。

規模と平面形 長軸2.83m, 短軸2.57mの長方形である。

主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は25~33cmで、ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦であり、全面的に硬化している。

ピット 1か所。P1は、長径26cm, 短径22cmの円形, 深さ12cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており, 両袖部が遺存している。袖部は焼土・炭化粒子を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土及び炭化粒子を含んでいることから, 竈材を再利用したものと思われ, 竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は, 煙道部から焚口部まで90cm, 最大幅126cm, 壁外への掘り込みは40cmである。火床面は北壁ライン上に位置し, 床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受

けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 10 黒色 | 炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |

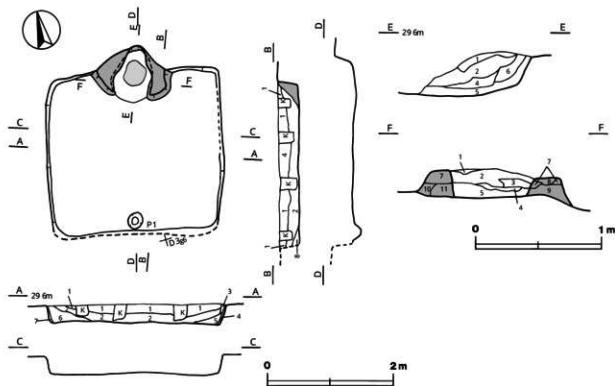
覆土 第8層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | | |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | | |

遺物 土師器片30点、須恵器片14点が出土している。うち、土師器2点を抽出・図示した。第302図1の土師器甕・2の土師器小形甕は竈の覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 301図 第 185号住居跡実測図



第 302図 第 185号住居跡出土遺物実測図

第 185号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 1	甕 土 師 器	B 35 C 104	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下隅部位のヘラ削り。底 部木炭痕。	礫・炭石・石英・雲 母 褐色、普通	P 7050 5% 火熱を帯び赤化
2	小形甕 土 師 器	A 145 B 21	口縁部片。口縁部は外上方につま み上げられている。	口縁部内・外面口ロナデ。	礫・炭石・石英・雲 母 褐色、普通	P 7051 5% 火熱を帯び赤化

第187号住居跡（第303～306図）

位置 調査2区，台地の南縁辺部，F4g3区。

重複関係 第205号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 南コーナー部は調査区域外になるため未調査であるが，長軸5.92m，短軸5.86mの方形である。

主軸方向 N-24° - E

壁 壁高は58～70cmで，ほぼ直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。中央部・北東壁際から竈付近及び北西壁際の一部が硬化している。掘り方は，確認面から59～87cmの深さで掘られ，貼床は，鹿沼バミス粒子・鹿沼バミスブロックを含んでいるローム主体の黒褐色土・暗褐色土を埋土して構築されている。壁溝は南西壁を除いた各壁下を巡っている。規模は，上幅10～22cm，下幅4～18cm，深さ14cmで，断面形はU字状である。

ピット 3か所（P1～P3）。P1～P3は，長径102～120cm，短径82～86cmの楕円形，深さ85～89cmである。配列から支柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は焼土及びローム土を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから，電材を再利用したのと思われる，竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は，煙道部から焚口部まで140cm，最大幅165cm，壁外への掘り込みは51cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し，床面から9cmほど掘りくぼめられ，皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。電土層断面中，第5・6・7・10層は焼土ブロックを含んでいることから火を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。

電土層解説

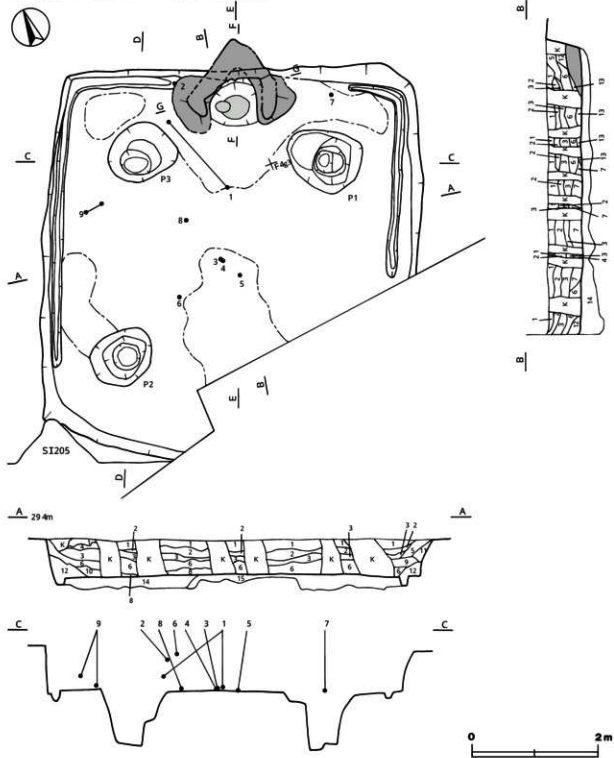
1 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量	7 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・砂質粘土中ブロック少量
2 暗赤褐色	砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・礫少量	8 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量	9 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・礫少量
4 暗赤褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量	10 暗赤褐色	焼土小ブロック中量，砂質粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量	11 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量
6 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量	12 黒褐色	砂質粘土粒子中量，礫少量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
		13 暗赤褐色	砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・礫少量

覆土 第1～13層が覆土であり，ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。第14・15層は貼床を構築する際の埋土である。

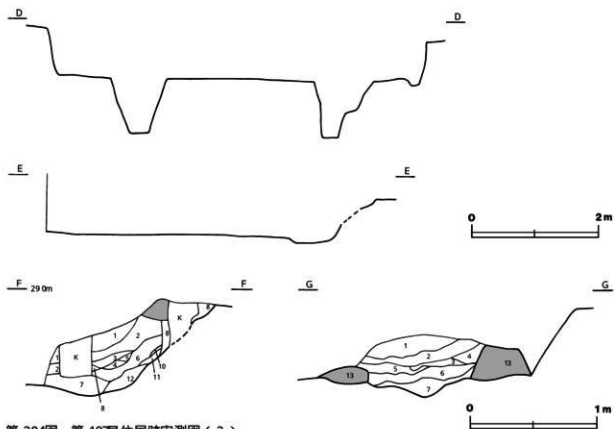
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化粒子・焼土ブロック少量	2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
-------	---	-------	---------------------------------------

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂質粘土小ブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物微量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック微量 | 13 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子少量 |
| | | 15 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量、鹿沼パミス中ブロック微量 |



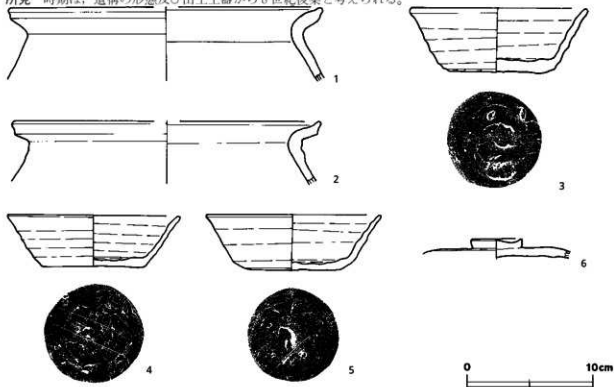
第 303 図 第 187 号住居跡実測図 (1)



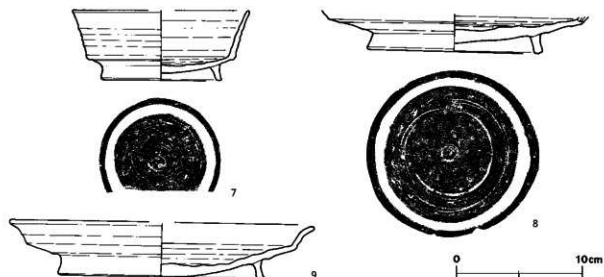
第 304 図 第 187 号住居跡実測図 (2)

遺物 土師器片164点、須恵器片111点、金属製品（刀子）4点が出土している。土師器片は、主に覆土上層から覆土下層にかけて散在して出土している。うち、土師器2点、須恵器7点を抽出・図示した。第305図3・4の須恵器杯は、中央部の床面に正位で2枚重ねられて出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後半と考えられる。



第 305 図 第 187 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 306図 第 187号住居跡出土遺物実測図(2)

第 187号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 30図 1	甕 土 師 器	A 245	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲し、口縁部 はつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲 母 にふいじ色、普通	P 7052 10%
		B 55				
2	甕 土 師 器	A 242	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲し、口縁部 はつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・雲 母・赤色粒子 にふいじ色、普通	P 7053 5%
		B 50				
3	坏 須 恵 器	A 137	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎気味に外傾して立ち上がり、口 縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ナ デ。体部下端手持へラ削り。底 部回転へラ切り後、ナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 7054 95% PL65
		B 52				
4	坏 須 恵 器	A 135	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎気味に外傾して立ち上がり、口 縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ナ デ。体部下端ナデ。底部回転へラ 切り後、ナデ。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色、普通	P 7055 90% PL65 底部へラ記号
		B 41				
		C 80				
5	坏 須 恵 器	A 137	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎気味に外傾して立ち上がり、口 縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ナ デ。体部下端ナデ。底部回転へラ 切り後、ナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7056 85% PL65 底部へラ記号
		B 45				
		C 73				
6	蓋 須 恵 器	B 16	天井部からつまみ部にかけての破片。 ボタン状のつまみが付く。	天井部回転へラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 7057 30%
		F 38				
		G 07				
第 30図 7	高台付坏 須 恵 器	A 139	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は下位に横 を有し、外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口口ロ ナデ。底部回転へラ削り後、高台 貼り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 7058 45%
		B 55				
		D 96				
		E 13				
		C 134				
8	盤 須 恵 器	A 240	高台部から体部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は大きく開 く。	体部内・外面口口ロナデ。底部 回転へラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰黄色、普通	P 7059 73% 底部へラ記号
		B 30				
		D 134				
		E 15				
		C 134				
9	盤 須 恵 器	A 240	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はくの字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部との境に横を持 つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナ デ。底部回転へラ削り後、高台貼 り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7060 40% 底部へラ記号
		B 43				
		D 162				
		E 16				
		C 134				

第188号住居跡(第307~310図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, F4e5区。

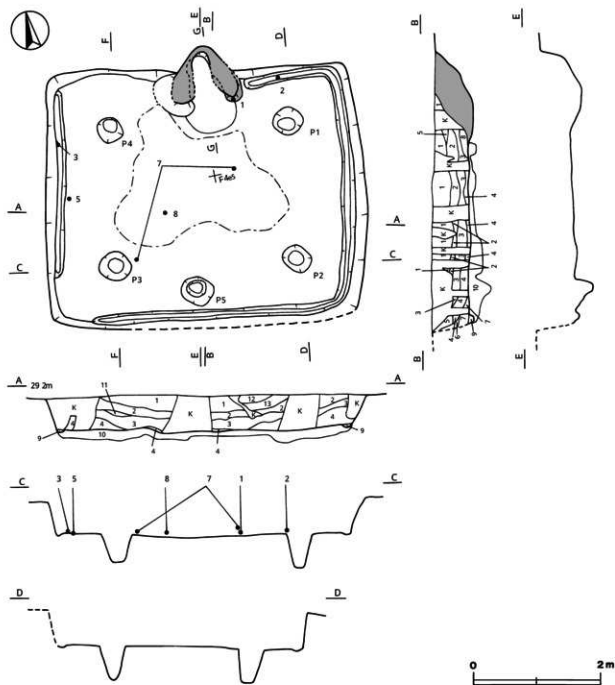
規模と平面形 長軸5.10m, 短軸4.26mの長方形である。

主軸方向 N-6°-E

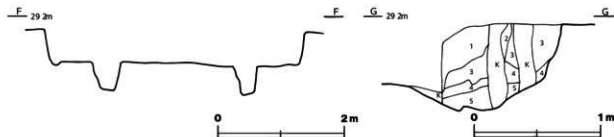
壁 壁高は50～62cmで、直立する。

床 貼床であり、ほぼ平坦である。特に中央部から竈付近が踏み固められている。掘り方は、確認面から62～96cmの深さで掘られ、貼床は、ローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。壁溝は、北壁及び南西コーナーを除いて各壁下を巡っている。規模は、上幅14～25cm、下幅5～10cm、深さ6cmで、断面形はU字状である。

ピット 5か所（P1～P5）。P1・P3・P4は、長径45～48cm、短径42～46cm、深さ46～54cm、P2は、長径46cm、短径38cmの楕円形、深さ55cmである。P1～P4は、ピット間を結ぶ各線がそれぞれ対応する壁と平行になることから支柱穴と考えられる。P5は、長径52cm、短径42cmの楕円形、深さ29cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第307図 第188号住居跡出土遺物実測図(1)



第 308図 第 188号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで138cm、最大幅132cm、壁外への掘り込みは40cmである。火床面は、床面から12cmほど掘りくぼめられ、皿状である。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子・炭微量 | 4 灰褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・炭微量 |
| 3 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量、砂質粘土小ブロック中量、焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・炭微量 | | |

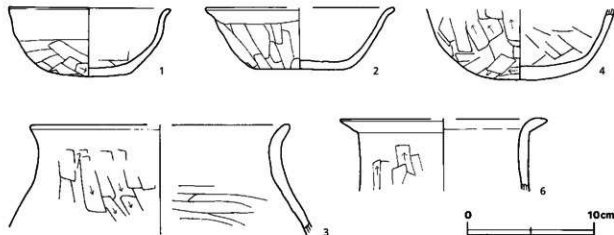
覆土 第1～9層が本跡の覆土であり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。第10層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

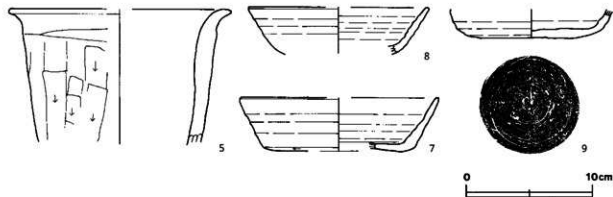
- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |

遺物 土師器片273点、須恵器片43点が出土している。主に中央部及び北壁際・西壁際までの、覆土下層から床面にかけてまともに出土している。うち、土師器6点、須恵器3点を抽出・図示した。第309図1の土師器杯は、竈右袖部中から正位で出土している。2の土師器杯は北壁際、3の土師器甕・5の土師器甌は西壁際の床面から、7・8の須恵器杯は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 309図 第 188号住居跡出土遺物実測図(1)



第 310 図 第 188 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 188 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 30 図 1	坏 土 師 器	A 126 B 54	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り。	磯・長石・石英・雲母に富み黄褐色、普通	P 7061 70% PL65
2	坏 土 師 器	A 149 B 49 C 68	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	磯・長石・石英に富み黄褐色普通	P 7062 40% PL65
3	甕 土 師 器	A 202 B 86	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面及び頸部内面横ナデ。頸部外面縦位のヘラ削り。	磯・長石・石英に富み褐色普通	P 7063 10%
4	甕 土 師 器	B 57	底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	磯・長石・石英に富み褐色普通	P 7064 20%
第 31 図 5	甕 土 師 器	A 178 B 118	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	磯・石英・針状鉱物に富み黄褐色普通	P 7065 15%
第 30 図 6	甕 土 師 器	A 160 B 57	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。頸部で屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	磯・石英・針状鉱物・赤色粒子褐色、普通	P 7066 5%
第 31 図 7	坏 須 恵 器	A 156 B 42 C 100	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部周縁及び底部回転ヘラ削り。	長石・針状鉱物灰白色普通	P 7067 30% PL65
8	坏 須 恵 器	A 142 B 37	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石・石英灰色普通	P 7068 15%
9	坏 須 恵 器	B 23 C 100	底部から体部下端にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部下端及び底部回転ヘラ削り。	磯・長石・石英灰色普通	P 7069 40%

第189号住居跡 (第311・312図)

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F4c2区。

規模と平面形 長軸3.05m、短軸2.72mの長方形である。

主軸方向 N-34°-E

壁 壁高は48~55cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は、東コーナー部及び南西壁の一部を除いて各壁下を巡っている。規模は、上幅11~22cm、下幅5~12cm、深さ6cmほどで、断面形はU字状である。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は、長径65cm、短径40cmの楕円形、深さ15cmである。竈に相対する南壁

際の中央部付近に位置することから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 2 は、長径69cm、短径56cm、深さ14cmであり、貯蔵穴の可能性も考えられるが、その性格は不明である。

P 1 土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量

2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

P 2 土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで99cm、最大幅85cm、壁外への掘り込みは66cmである。火床面は北壁ライン上に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

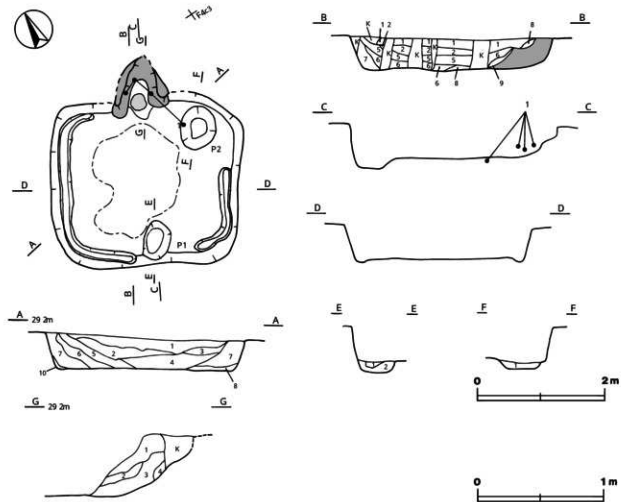
竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

4 暗赤褐色 ローム小ブロック・砂中量、ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化物・砂質粘土中ブロック少量

3 暗赤褐色 砂多量、砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量



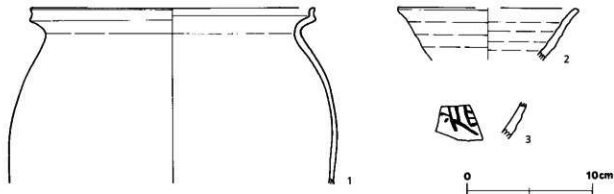
第 311 図 第 189 号住居跡実測図

覆土 10層からなる。ロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 |

遺物 土師器片34点、須恵器片42点、金属製品（刀子）2点が出土している。土師器片は、竈の覆土中及び竈付近にまとまって出土している。うち、土師器1点、須恵器2点を抽出・図示した。第312図1の土師器甕は竈覆土中層及び竈右袖部付近のP2の覆土中から出土している。2・3の須恵器杯は覆土中から出土している。所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第312図 第189号住居跡出土遺物実測図

第189号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第312図 1	甕 土師器	A 224 B 137	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 7070 30%
2	杯 須恵器	A 142 B 41	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 7071 20%
3	杯 須恵器	B 29	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	礫・長石 淡黄色 普通	P 7072 5% 体部外面墨書横位「益」

第190号住居跡（第313～315図）

位置 調査2区，台地の南部，F3b8区。

規模と平面形 長軸4.85m，短軸4.50mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は28～33cmで，ほぼ直立する。

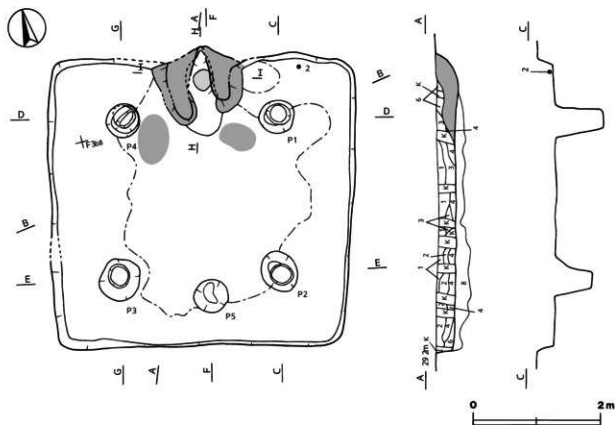
床 貼床でほぼ平坦である。特に出入り口施設に伴うピット付近から中央部，さらに竈付近までが踏み固められている。掘り方は，確認面から34～52cmの深さで掘られ，貼床は，焼土ブロック・炭化物を含んでいるロー

ム主体の褐色土を埋土して構築されている。

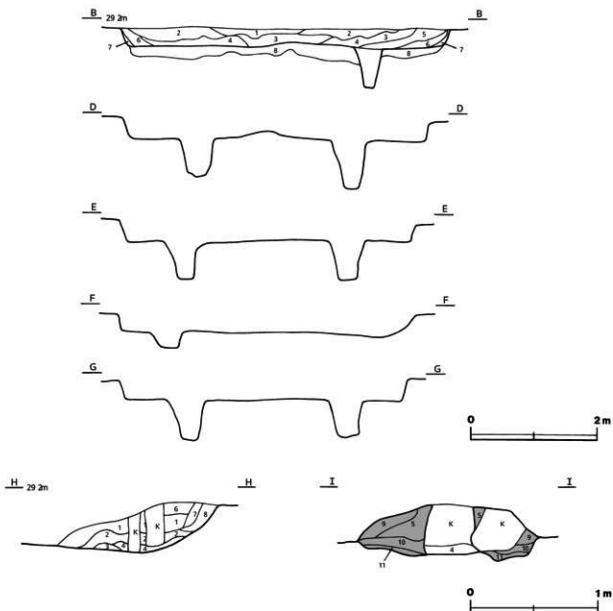
ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P3・P4は、長径54~67cm、短径52~60cmの円形、深さ59~76cmである。P2は、長径68cm、短径55cmの楕円形、深さ61cmである。P1~P4は、ピット間を結ぶ各線がそれぞれ対応する壁と平行になることから、いずれも主柱穴と考えられる。P5は、長径54cm、短径53cmの円形、深さ28cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は礫を含む砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで140cm、最大幅140cm、壁外への掘り込みは23cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さで浅い皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。竈の左・右両袖前方に、それぞれ長径76cm、短径53cmの楕円形、長径52cm、短径42cmの不整楕円形の範囲で床面に粘土塊が検出された。これらは検出された位置などから、竈の構築材が崩れて流出したものと考えられる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--|---------|--|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、礫少量 | 7 暗赤褐色 | 砂質粘土小ブロック多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土小ブロック・焼土粒子・砂中量、焼土小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック微量 | 9 にぶい褐色 | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子中量、砂質粘土大ブロック・礫少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック・礫微量 |
| 5 橙褐色 | 砂質粘土大ブロック多量、ローム小ブロック少量、礫微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量 | | |



第 313 図 第 190 号住居跡実測図 (1)



第 314 図 第 190号住居跡実測図(2)

覆土 第1～7層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第8層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土大ブロック・砂質粘土中ブロック・微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物微量 |

遺物 土師器片3点、須恵器片10点が出土している。うち、須恵器2点を抽出・図示した。第315図2の須恵器蓋は北壁際の床面から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 315 図 第 190 号住居跡出土遺物実測図

第 190 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 315 図 1	坏 須恵器	B 23 C 82	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部面 転へら切り後、ナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰色、普通	P 7073 23%
2	蓋 須恵器	A 166 B 34 F 23 G 08	壳形。天井部は伏せ蓋状で、覆宝 珠状のつまみが付く。口縁部は 屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口クロ ナデ。天井部面転へら削り。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7074 100% PL65

第192号住居跡（第316～318図）

位置 調査 2 区，台地南西部の縁辺部，F3f5区。

規模と平面形 長軸5.20m，短軸3.62mの長方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は34～54cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり，P 1 の周囲を除いた中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P 1 は，長径35cm，短径30cmの楕円形，深さ62cmである。中央部から検出され，柱穴の可能性も考えられるが，その性格は不明である。

竈 北壁の，中央部からやや西寄りに付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで120cm，最大幅100cm，壁外への掘り込みは55cmである。煙道はゆるやかに立ち上がる。

覆土層解説

1 黒褐色	砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	4 黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土小ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量	5 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
3 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

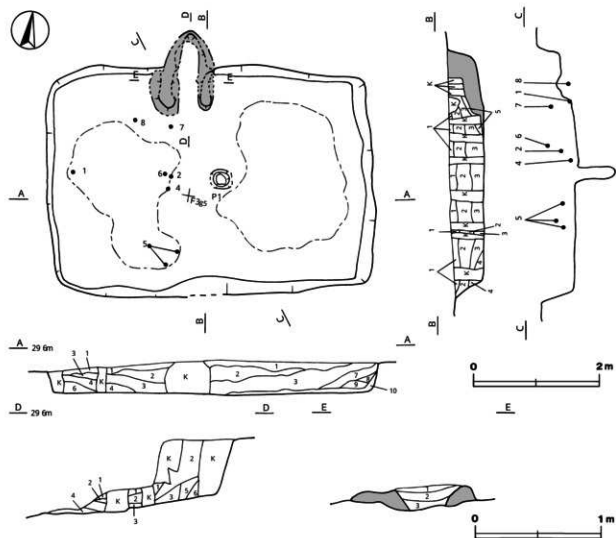
覆土 10層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

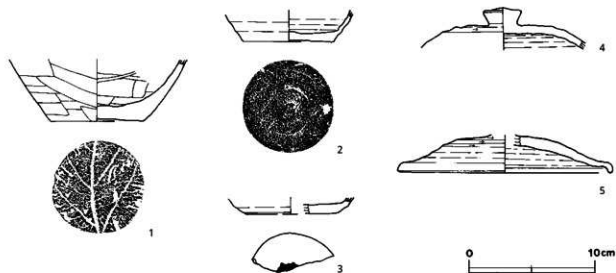
1 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土大ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量		
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量		
6 暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量		
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量		

遺物 土師器片82点，須恵器片72点が，中央から西側にまとまって出土している。うち，土師器 1点，須恵器 7点を抽出・図示した。第317図1の土師器甕は西壁際，8の須恵器高盤は北壁寄りの床面から，2の須恵器杯と4の須恵器蓋は中央部，5の須恵器蓋は南壁寄りの覆土下層から，7の須恵器高台付杯は北壁寄りの覆土

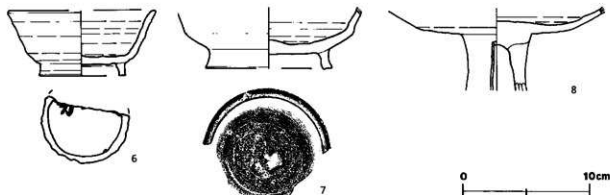
中層から、6の須恵器高台付杯は中央部の覆土上層から、3の須恵器杯は覆土中からそれぞれ出土している。
 所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 316 図 第 192 号住居跡実測図



第 317 図 第 192 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 318 図 第 192 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 192 号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 31 図 1	土 師 器	B 48	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。	体部外面下縁横位及び斜位のへら 削り。体部内面へらナデ。底部木 葉痕。	磯・長石・石英 にぶい褐色 普通	P 7075 10% 火熱を帯び赤化
		C 73				
2	坏 須 恵 器	B 25	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。体部回 転へら切り後、ナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7076 40%
		C 70				
3	坏 須 恵 器	B 13	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下縁ナデ。体部回転へら 切り後、ナデ。	磯・長石 灰白色 普通	P 7077 10% 底部墨書「」
		C 71				
4	蓋 須 恵 器	B 39	天井部からつまみ部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状。臍宝珠状 のつまみがつく。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転へら削り。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7078 25%
		F 30				
		G 13				
5	蓋 須 恵 器	A 168	天井部の破片。天井部は伏せ皿状。 口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロ ロナデ。天井部回転へら削り。	磯・長石 灰色 普通	P 7079 60%
		B 30				
第 31 図 6	高台付 坏 須 恵 器	A 115	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は下に弱 い稜を有し、外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。底部回転へら削り後、高台貼 り付け。	磯・長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 7080 30% PL65 底部墨書「万」カ
		B 52				
		D 68				
		E 18				
		E 18				
7	高台付 坏 須 恵 器	B 48	高台部から体部にかけての破片。高 台はハの字状に開く。体部は下に 稜を有し、外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回 転へら削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰色普通	P 7081 30%
		D 98				
		E 15				
8	高 盤 須 恵 器	B 66	脚部上位から環部下位にかけての破 片。脚部には 4 方向に透かし孔を持 つ。環部は内彎気味に大きく開く。	脚部及び環部内・外面口ロナデ。	磯・長石 灰色 普通	P 7082 30% 脚部及び環部外面 自然釉
		E 44				

第197号住居跡 (第319~323図)

位置 調査 2 区, 台地の南部, F3a0区。

規模と平面形 長軸5.44m, 短軸5.16mの方形である。

壁 壁高は174~82cmで, 直立する。

主軸方向 N-15° - W

床 貼床ではほぼ平坦である。特に中央部が踏み固められている。掘り方は, 確認面から88~102cm掘り下げられ, 貼床は, 焼土ブロック・鹿沼バミスブロックを含んでいるローム主体の褐色土を埋土して構築されている。壁溝は, 北壁下と東壁・西壁・南壁の各壁下の一部に検出された。規模は, 上幅16~22cm, 下幅5~15cm, 深

さ4cmで、断面形はU字状である。

ピット 4か所(P1~P4)。P1・P2は、それぞれ長径37・39cm、短径33・35cmの円形、深さ51・58cmである。竈の両袖脇から検出され、位置と規模から柱穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。P3は、長径50cm、短径35cmの楕円形、深さ24cmである。位置と規模から出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は、長径32cm、短径27cmの円形、深さ9cmである。南壁際中央にP3と隣接して検出され、出入口施設に伴うピットの可能性も考えられるが、性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土・炭化物を含む砂質粘土で構築されている。構築材に焼土及び炭化物を含んでいることから、竈材を再利用したのと思われる、竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで198cm、最大幅165cm、壁外への掘り込みは90cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面から8cmほど掘りくぼめられ、皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。火床面中央には、火熱を受けて赤変した土師器小型甕が逆位で出土しており、支脚に転用されたものと考えられる。

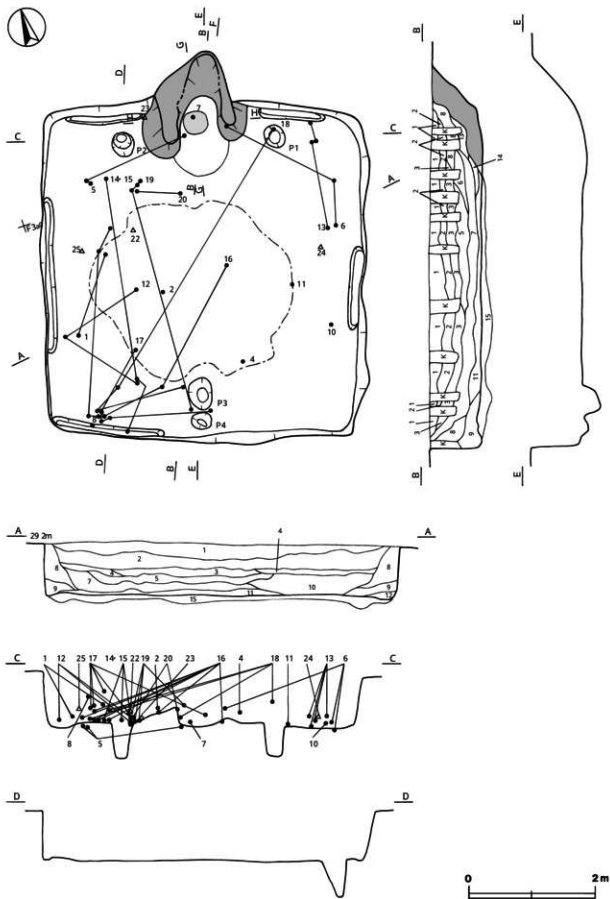
竈土層解説

1 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量、炭化物微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック微量	10 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量	11 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量、砂中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量
5 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック多量、焼土小ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量	12 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量、砂質粘土中ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック微量
6 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック多量、ローム粒子・炭化物・砂質粘土中ブロック少量	13 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
7 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土中量、ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量、炭化物微量	14 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂中量、ローム粒子・炭化物・砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック微量

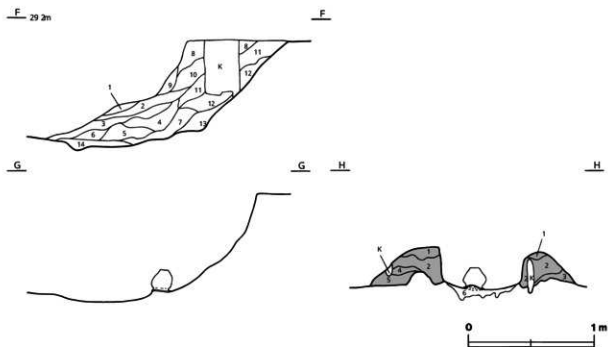
覆土 第1~14層が本跡の覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第15層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物・龍沼バミス中ブロック微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化物微量
7 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	15 褐色	ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子・龍沼バミス大ブロック・砂質粘土中ブロック中量、ローム大ブロック・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
8 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、炭化粒子微量		



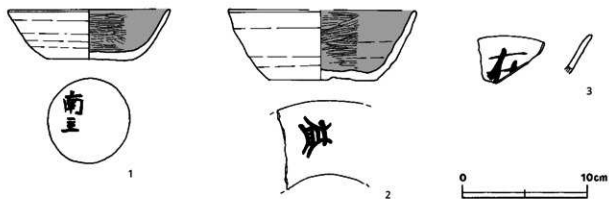
第 319 图 第 197 号住居跡実測图 (1)



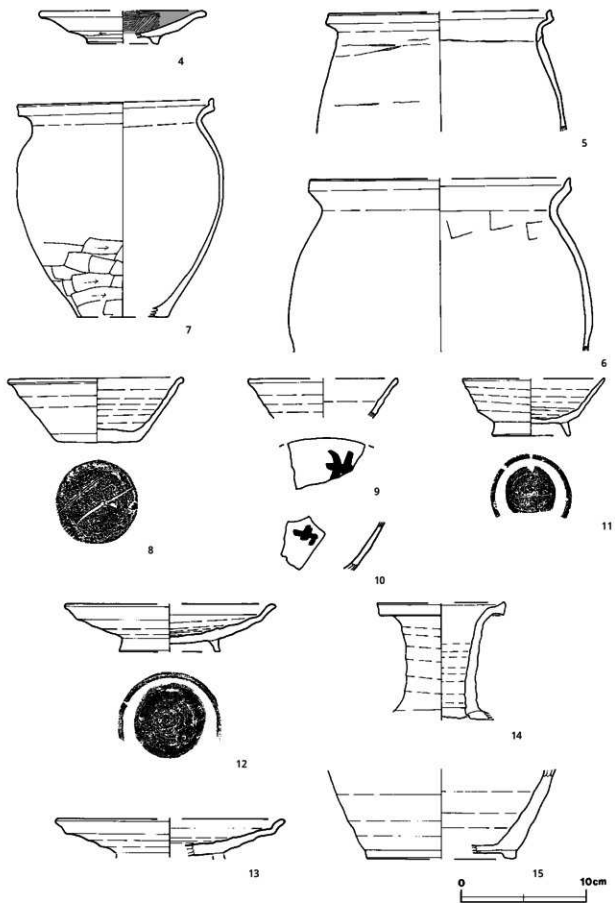
第 320 図 第 197号住居跡実測図(2)

遺物 土師器片505点、須恵器片387点、灰軸陶器片2点、金属製品(鎌・刀子・不明鉄製品)6点が主に覆土中層から覆土下層にかけて散在して出土している。うち、土師器7点、須恵器12点、灰軸陶器片2点、金属製品(鎌)4点を抽出・図示した。第322図7の土師器小形甕は竈火床面から逆位に据えられた状態で出土している。1の土師器杯は西壁際、2の土師器杯は中央部、4の土師器高台付皿は南壁寄り、5の土師器甕は北西コーナー部及び竈火床面、6の土師器甕及び10の須恵器杯は東壁際、11の須恵器高台付杯は東壁寄り、12の須恵器盤は中央部及び南西コーナー部の西壁際と南壁際、13の須恵器盤は北東コーナー部から東壁際にかけて、14の須恵器長頸瓶は南西コーナー部の南壁際、15の須恵器長頸瓶・16の須恵器瓶・17の須恵器瓶は主に南西コーナー部の西壁際にそれぞれまとまって、18の須恵器甕は南壁際、20の灰軸陶器瓶は竈左袖付近の、いずれも覆土下層から出土している。8の須恵器杯は南西コーナー部の西壁際の覆土中層から、3の土師器杯、9の須恵器杯は覆土中からそれぞれ出土している。

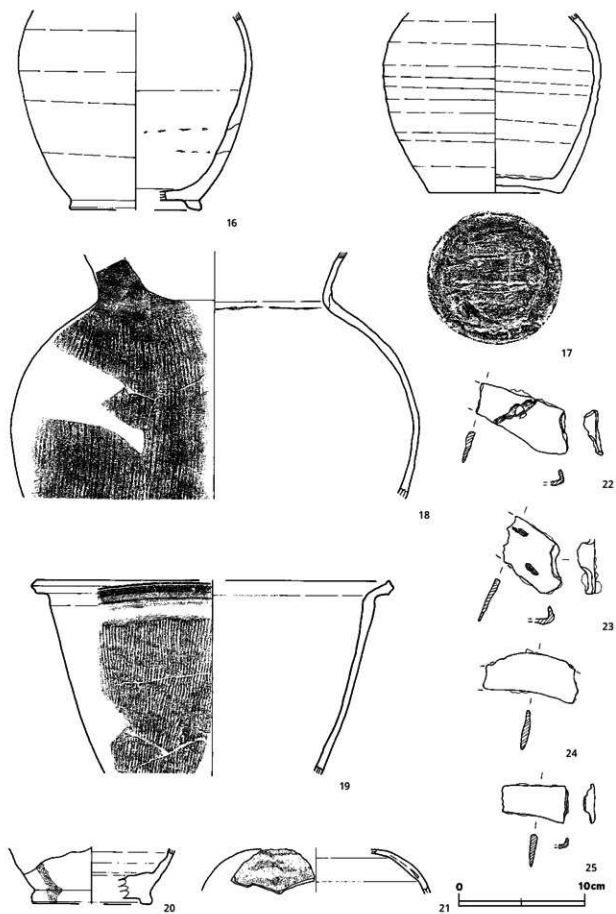
所見 「南主」と墨書された土師器杯や灰軸陶器が出土していることなどから、本跡は集落内でも中心的な住居であった可能性が考えられる。時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 321 第 197号住居跡出土遺物実測図(1)



第 322 图 第 197 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 323 图 第 197 号住居跡出土遺物実測图 (3)

第 197号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 1	坏 土 師 器	A 128	体部及び口縁部一部欠損。平底。 体部は内甍しながら外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、体部 外面口クロナデ、体部外面下端及び底 部回転へラ磨り。内面黒色処理。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 褐色、普通	P 7083 80% PL65 75 底部墨書「南主」
		B 41				
		C 66				
2	坏 土 師 器	A 149	底部分から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内甍しながら外傾し て立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、体 部外面口クロナデ、体部外面下端 及び底部回転へラ磨り。内面黒色 処理。	礫・雲母・針状鉱物 ・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 7084 45% PL65 75 体部外面積位置書 「益」
		B 56				
		C 83				
3	坏 土 師 器	B 31	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、体 部外面口クロナデ、内面黒色処理。	長石・雲母・針状鉱 物 褐色、普通	P 7085 5% PL75 体部外面墨書正位 「在」力
第32図 4	高台付 土 師 器	A 135	口縁部及び体部の一部欠損。平底。 高台は短く垂下する。体部は大き く開き、中位に稜を持つ。口縁部 は外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面横ナデ、下端回転へラ磨り。底 部回転へラ切り後、高台貼り付け。 内面黒色処理。	長石・雲母・針状鉱 物・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 7086 39%
		B 26				
		D 57				
		E 06				
5	嬰 土 師 器	A 176	体部上位から口縁部にかけての破 片。体部は内甍味に内傾して立ち 上がる。頸部はくの字状に屈曲し、 口縁部は上方につまみ上げられ ている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 7087 15%
		B 95				
6	嬰 土 師 器	A 206	体部上位から口縁部にかけての破 片。体部は内甍して立ち上がる。 頸部はくの字状に屈曲し、口縁部 は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面 横位のヘラナデ。	長石・石英・雲母・ 灰褐色 普通	P 7088 15%
		B 135				
7	小形 土 師 器	A 156	体部片。体部は内甍しながら外傾 して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 下端横位のヘラ磨り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 7089 99% PL65 体部外面火熱を帯 び赤化
		B 172				
		C 70				
8	坏 須 恵 器	A 138	完形。平底。体部は直線的に外傾 して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部一方の手持ちへラ磨り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7090 100% PL65 底部へラ記号
		B 53				
		C 64				
9	坏 須 恵 器	A 118	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	礫・長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 7091 3% 体部外面墨書「」
		B 32				
10	坏 須 恵 器	B 38	体部片。体部は外傾して立ち上 がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・石英・針状鉱 物 灰白色、普通	P 7092 3% 体部墨書「」
11	高台付 須 恵 器	A 113	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は下 位に稜を有し、外傾して立ち上 がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転へラ磨り後、高台貼 り付け。	礫・長石・針状鉱物 灰赤色 普通	P 7093 49% 底部へラ記号
		B 45				
		D 62				
		E 11				
12	盤 須 恵 器	A 166	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部との境に稜を持 つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転へラ磨り後、高台貼 り付け。	礫・長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 7094 53% 底部へラ記号
		B 38				
		D 80				
		E 11				
13	盤 須 恵 器	A 181	底部分から口縁部にかけての破片。 体部は大きく開き、口縁部との境 に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転へラ磨り。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P 7095 50%
		B 29				
14	長頸 須 恵 器	A 100	頸部から口縁部にかけての破片。 口縁部は外反し、頸部は上下に 突出する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	礫・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 7096A 19% 口縁部内・外面自 然磨 P 7096Bと同一個体
		B 92				
15	長頸 須 恵 器	B 70	高台部から体部下位にかけての破 片。高台は短く垂下する。体部は 内甍気味に外傾して立ち上がる。	底部調整不明。高台貼り付け。	礫・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 7096B 19% 体部外面自然磨 P 7096Aと同一個体
		D 118				
		E 07				
第32図 16	瓶 須 恵 器	A 156	高台部から体部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は内甍して 立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ、体部下 端回転へラ磨り。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 7097 20%
		D 103				
		E 08				
17	瓶 須 恵 器	B 141	底部分から体部にかけての破片。平 底。体部は内甍して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ、体部下 端回転へラ磨り。	礫・長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 7098 45% PL65 底部へラ記号
		C 106				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 18	甌 須恵器	B 194	体部上半から頸部にかけての破片、 体部は内傾して頸部に至り、頸部 はくの字状に屈曲する。	頸部内・外面横ナデ。体部縦位の 平行叩き。	緑・長石・石英 灰褐色 普通	P 7099 15%
19	甌 須恵器	A 283 B 153	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部縦位 の平行叩き。	緑・長石・石英・雲 母 に珪黄褐色、普通	P 7100 15% PL65
20	甌 灰輪陶器	B 43 D 95 E 10	高台部から体部下端にかけての破 片。高台はふんばる。体部は内彎 気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部ハ ラ削り後、高台貼り付け。	長石 暗灰黄色 良好	P 7101 30% PL65 黒笹 14号窯式段階
21	甌 灰輪陶器	B 34	体部片。体部は内彎気味に内傾し て立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	長石 暗灰黄色 普通	P 7102 20% 黒笹 14号窯式段階

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第32図 22	鎌	70	59	05	320	鉄	刃部先端欠損。基部上端部折り返し。	M 7006
23	鎌	48	60	04	235	鉄	刃部先端欠損。基部上端部折り返し。	M 7007
24	鎌	76	44	05	225	鉄	刃部先端及び基部欠損。	M 7008
25	鎌	54	31	05	181	鉄	刃部先端欠損。基部端部全面折り返し。	M 7009

第198号住居跡 (第324・325図)

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F3h9区。

規模と平面形 東西軸は5.57mであり，南部が調査区域外になるため，確認された南北軸は1.71mである。東及び西コーナー部がほぼ直角になることから，方形もしくは長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は42～52cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり，特に硬化面は見られない。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで110cm，最大幅129cm，壁外への掘り込みは38cmである。煙道はゆるやかに立ち上がる。

土層解説

1	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量	6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，微塵量
2	暗赤褐色	砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量，微塵量	7	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量，炭化物微量
3	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・微塵量	8	暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
4	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量	9	黒褐色	砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物少量
5	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量，砂質粘土中ブロック微量	10	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量

覆土 11層からなり，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

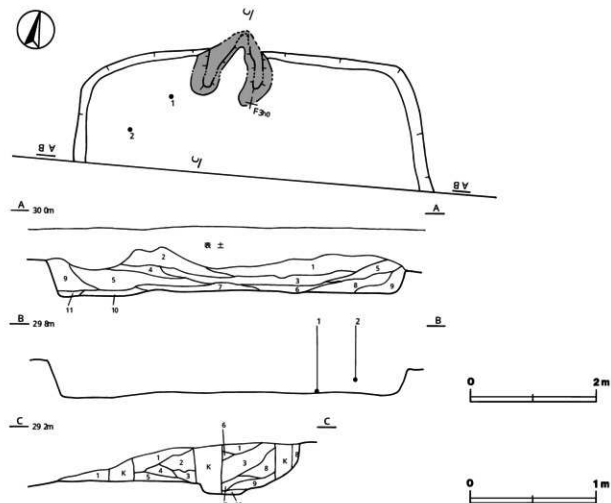
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・微塵量	5	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック微量	7	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量			

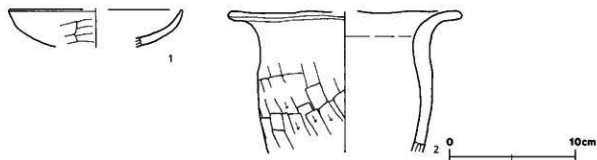
- | | | | | | |
|---|-----|--|----|-----|---|
| 8 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 10 | 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 9 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 11 | 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量 |

遺物 土師器片21点が出土している。うち、土師器2点を抽出・図示した。第325図1の土師器坏は竈の左袖部脇、2の土師器椀は北西コーナー部のそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 324図 第 198号住居跡実測図



第 325図 第 198号住居跡出土遺物実測図

第 198号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 32図 1	坏 土 師 器	A 138	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁 部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P 7103 5%
		B 29				
2	甕 土 師 器	A 183	体部上半から口縁部にかけての破 片。体部は内彎状に立ち上がり、 口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部外面縦位のヘラ削り。	礫・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 7104 10%
		B 111				

第202号住居跡（第326～328図）

位置 調査2区，台地の南西部，E3J2区。

規模と平面形 長軸5.09m，短軸4.32mの不整長方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は35～50cmで，ほぼ直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。出入口施設に伴うピット付近から中央部，さらに甕付近までが踏み固められている。掘り方は，確認面から48～68cmの深さに掘られ，貼床は，ローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。壁溝が各壁下を巡っている。規模は，上幅11～25cm，下幅3～9cm，深さ12cmで，断面形はU字状である。覆土は，土層図面中の第11層である。

ピット 13か所（P1～P13）。P1・P2は，それぞれ長径55cm，短径51・53cmの円形，深さ70・56cmである。P3は，長軸53cm，短軸44cmの不整楕円形，深さ49cmである。P4は，長径45cm，短径37cmの楕円形，深さ67cmである。P1～P4は，それぞれ相対するコーナー部の対角線上に位置し，配列から主柱穴と考えられる。P5は，長軸66cm，短軸61cmの不整楕円形，深さ24cmである。甕に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は，長径31cm，短径20cmの楕円形である。南壁際中央にP5と隣接して検出され，出入口施設に伴うピットとも考えられるが性格は不明である。P6・P8～P13は，長径21～43cm，短径11～30cmの楕円形及び円形，深さ21～34cmである。これらは，壁溝付近または壁溝に隣接して検出され，壁柱穴の可能性があると性格は不明である。

ピット土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量	8 暗褐色	甕沼バミスブロック多量，ローム小ブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，甕沼バミス粒子少量，ローム大ブロック・甕沼バミス中ブロック微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，甕沼バミス粒子少量
4 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	14 褐色	ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土を含む砂質粘土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われる、竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで114cm、最大幅132cm、壁外への掘り込みは17cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面から22cmほど掘りくぼめられ、皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 灰褐色	砂質粘土小ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量	13 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック微量
2 暗赤褐色	焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子・微量	14 暗褐色	砂質粘土中量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・砂質粘土大ブロック・微量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・微量	15 灰褐色	焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・砂質粘土小ブロック少量、焼土大ブロック・炭化物・砂質粘土粒子・微量	16 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・砂質粘土中量、砂質粘土小ブロック中量、砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗褐色	砂質粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂質粘土大ブロック微量	18 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、焼土粒子微量
7 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・微量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量	19 灰褐色	焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物・微量
8 暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック微量	20 暗赤褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土小ブロック微量	21 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子微量
10 灰褐色	砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量	22 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
11 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	23 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量
12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、砂質粘土小ブロック中量、砂質粘土中ブロック少量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土大ブロック微量		

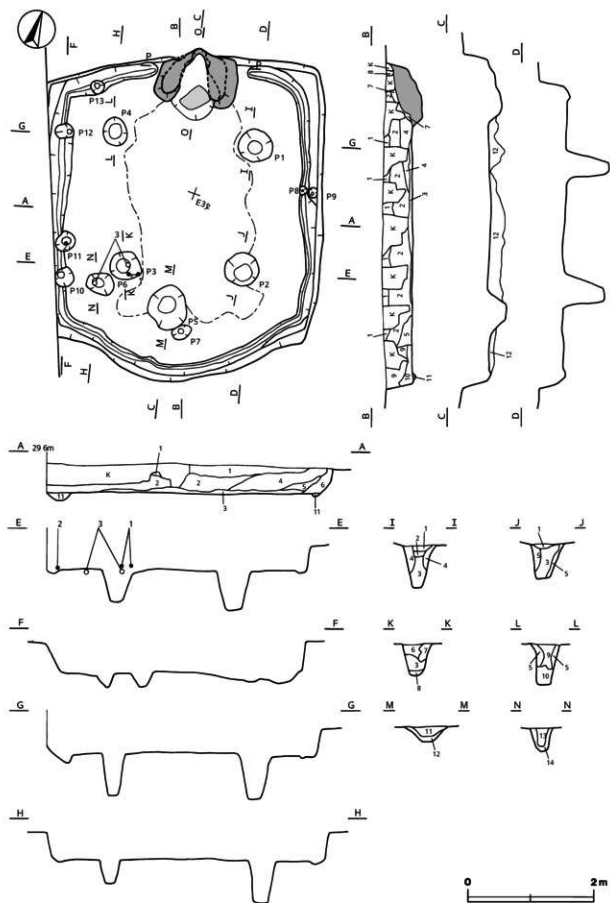
覆土 第1～11層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第12層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、ローム小ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・炭沼パミス小ブロック微量	8 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
5 黒褐色	ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
6 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量	12 褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭沼パミス小ブロック・炭沼パミス粒子微量

遺物 土師器片99点、土製品（支脚）1点が出土している。うち、土師器2点、土製品点（支脚）1点を抽出・図示した。第328図2の土師器甕は西壁寄り、3の支脚は中央部から西コーナー部寄りの床面から、1の土師器杯は中央部から西コーナー部寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

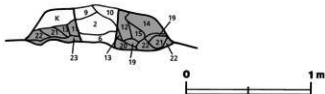
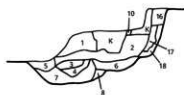


第 326 图 第 202 号住居跡実測图 (1)

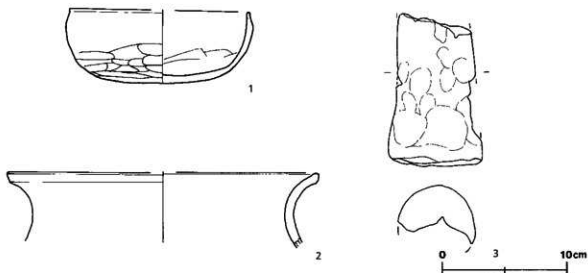
O 296m

O P

P



第 327 図 第 202 号住居跡実測図 (2)



第 328 図 第 202 号住居跡出土遺物実測図

第 202 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 328 図 1	坏 土 器	A 143	体部及び口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ刷り、内面へラナデ。	磯・長石・石英にふいじ褐色普通	P 7105 65% PL65
		B 59				
2	瓦 土 器	A 247	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子にふいじ褐色、普通	P 7106 10% 外面スス付着
		B 59				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 328 図 3	支 脚	120	76	46	2711	土製	下部片。一部赤化。	DP7001

第204号住居跡 (第329・330図)

位置 調査 2 区、台地南部の縁辺部、F3h8区。

重複関係 第143号住居跡を掘り込んでいる。第24号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 東西軸は3.72mであり、南部が調査区域外になるため、確認された南北軸は2.93mである。平面形は、東及び西コーナー一部がほぼ直角になることから方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は40~70cmで、ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦であり、特に硬化面は見られない。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土及びローム土を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われ、竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで130cm、最大幅128cm、壁外への掘り込みは26cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面より8cmほど下がり皿状である。煙道は外傾して立ち上がる。

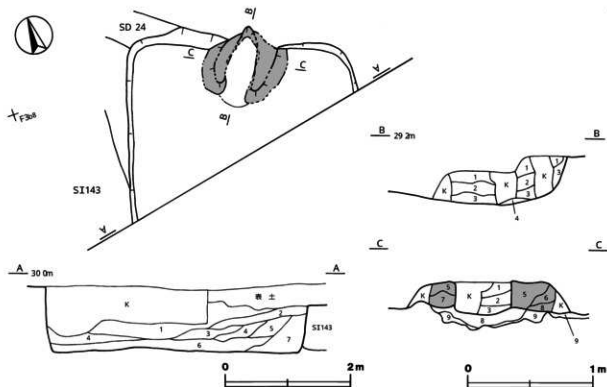
竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|---|
| 1 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物微量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土中ブロック多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・礫微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック中量、ローム粒子少量 | 7 褐色 | 砂質粘土中ブロック多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・礫微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック・炭少量、ローム中ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム大ブロック多量、ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック中量、焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量、礫微量 | | |

覆土 7層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土ブロック微量 | | |



第 329 図 第 20 号住居跡実測図

遺物 土師器片22点、須恵器片20点が出土している。うち、須恵器1点を抽出・図示した。第330図1の須恵

器蓋は竈の袖部中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 330図 第 204号住居跡出土遺物実測図

第 204号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 cm	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 330図 1	蓋 器	B 29 F 28 G 11	天井部片。甕室鐘状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰オリブ色、普通	P 7107 194

第205号住居跡（第331～333図）

位置 調査2区，台地南の縁辺部，F4g1区。

重複関係 第187号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 調査区域外との境に北壁及び西壁の一部が確認された。確認された規模は、東西軸3.10m，南北軸1.80mであり，平面形は，北西コーナー部がほぼ直角になることから方形または長方形と推測される。

主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は25cmで，直立する。

床 はほぼ平坦である。壁溝は西壁下から北西コーナー部にかけて検出された。規模は，上幅15～22cm，下幅5～7cm，深さ4cmほどで，断面形はU字状である。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで110cm，最大幅154cm，壁外への掘り込みは59cmである。火床面は北壁ライン上に位置し，床面から6cmほど掘りくぼめられ，皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量	6 暗赤褐色	砂質粘土小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量	7 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック微量
3 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子少量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土小ブロック微量
4 黒褐色	焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，炭化物・砂質粘土中ブロック微量		

覆土 10層からなり，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

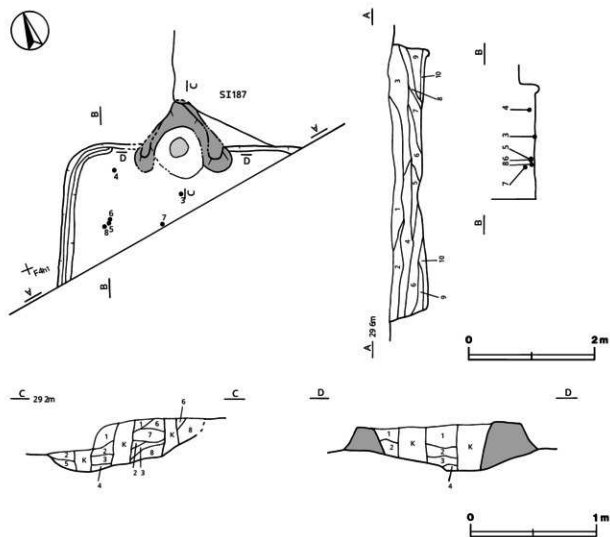
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量	5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量		

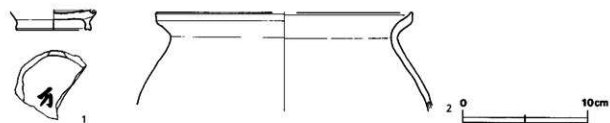
- | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|---|
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | | |

遺物 土師器片87点，須恵器片25点が出土している。うち，土師器4点，須恵器4点を抽出・図示した。第333図5・6の須恵器杯及び8の須恵器高台付杯は，3枚重なった状態で，西壁寄りの覆土下層から正位で出土している。

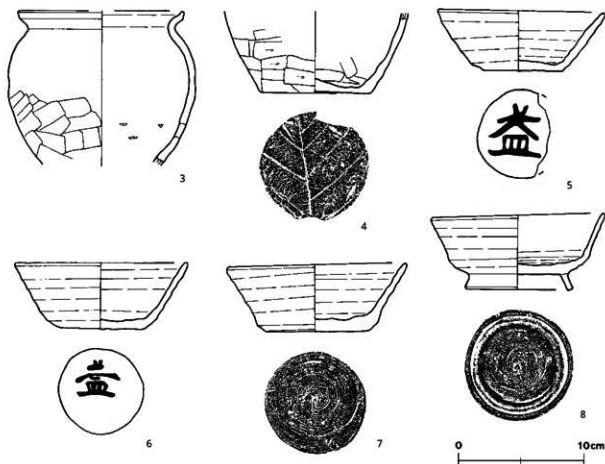
所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第331図 第205号住居跡実測図



第332図 第205号住居跡出土遺物実測図(1)



第 333 図 第 205 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 205 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 333 図 1	高台付 坏 土 器	B 16 D 59 E 11	高台部から底部にかけての破片。 高台はふんばる。	底部内面へラ磨き，底部回転へラ 削り後，高台貼り付け。内面黒色 処理。	礫・長石・石英・赤 色粒子 にぶい黄褐色，普通	P 7108 10% PL75 底部墨書「万」
2	甕 土 器	A 204 B 77	体部から口縁部にかけての破片。体部 は内彎気味に内傾して立ち上がる。口 縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 灰黄褐色，普通	P 7109 10%
第 333 図 3	小形 甕 土 器	A 130 B 120	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がる。胴部 はくの字状に曲出し，口縁部は上 方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 下端横位のへラ削り，内面ナデ。	礫・長石・針状鉱物 雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P 7110 39% 体部外面火熱を帯 び赤化，内面炭化 物付着
4	小形 甕 土 器	B 64 C 86	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は内彎しながら外傾して 立ち上がる。	体部外面下端横位のへラ削り，内 面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母・ にぶい赤褐色 普通	P 7111 20% 体部外面火熱を帯 び赤化，内面炭化 物付着
5	坏 須 恵 器	A 133 B 48 C 63	底部一部欠損。平底。体部は直線 的に外傾して立ち上がり，口縁部 に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転へラ削り後，ナデ。	礫・長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 7112 98% PL65 75 底部墨書「益」
6	坏 須 恵 器	A 138 B 54 C 66	宍形，平底。体部は直線的に外傾し て立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。体部外面下端回転へラ削り。 底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物 灰オリブ灰色 普通	P 7113 100% PL66 75 底部墨書「益」
7	坏 須 恵 器	A 141 B 53 C 82	宍形，平底。体部は直線的に外傾し て立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。体部外面下端回転へラ削り。 底部回転へラ切り。	礫・長石・針状鉱物 灰オリブ色 普通	P 7114 100% PL66 体部及び底部外面 自然釉
8	高台付 坏 須 恵 器	A 137 B 61 D 82	宍形，高台は八の字状に開く，体部 は下位に横を有し，外傾して立ち 上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。底部回転へラ削り後，高台貼 り付け。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7115 100% PL66

第207号住居跡（第334～336図）

位置 調査2区，台地の西部，D3h5区。

規模と平面形 長軸4.46m，短軸3.98mの長方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は42～50cmで，直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。出入口施設に伴うピット付近から中央部，さらに竈付近までが踏み固められている。掘り方は確認面から46～67cmの深さで掘られ，貼床は，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。壁溝は各壁下を巡っている。規模は，上幅20～36cm，下幅6～16cm，深さ12cmほどで，断面形はU字状である。

ピット 1か所。P1は，長径32cm，短径31cmの円形，深さ19cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで177cm，最大幅172cm，壁外への掘り込みは65cmである。火床面は北壁ライン上に位置し，床面から6cmほど掘りくぼめられ，皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

土層解説

1 黒 褐色	砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	8 暗 赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2 黒 褐色	粘土粒子少量	9 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土大ブロック微量
3 暗 赤褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	砂質粘土粒子中量，焼土大ブロック少量
4 暗 赤褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量	11 褐色	砂質粘土粒子多量
5 黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	12 暗 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐色	砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7 暗 褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量		

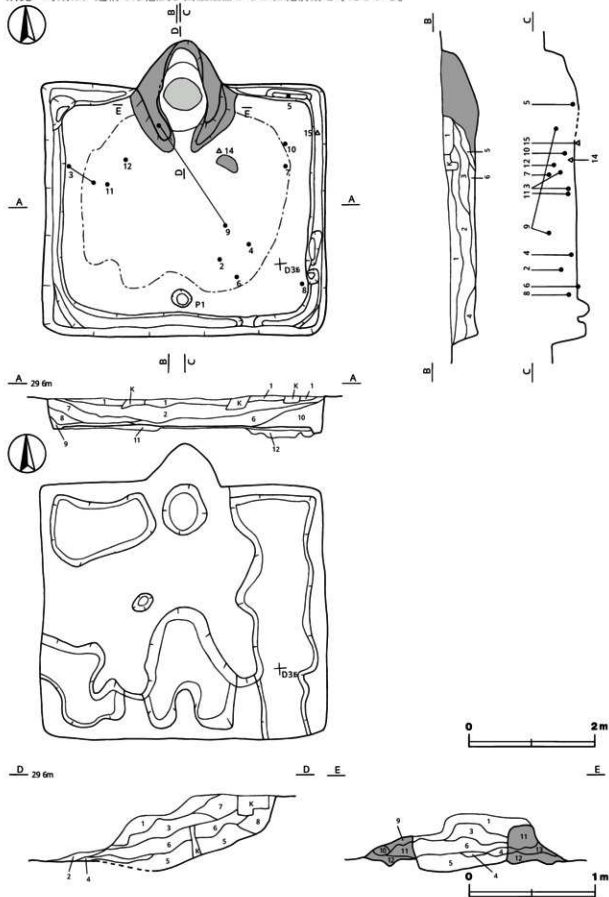
覆土 第1～10層が覆土であり，ロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。第11・12層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

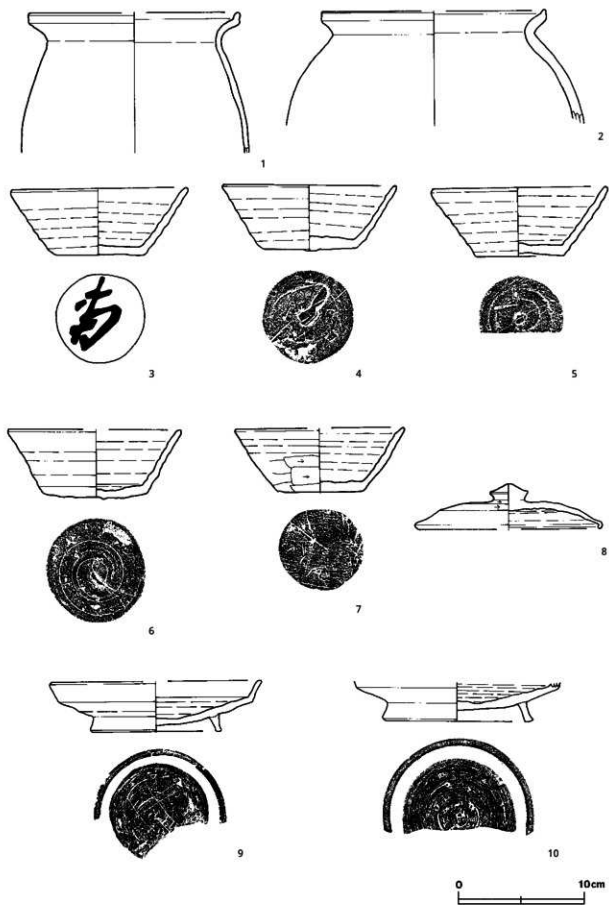
1 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量	8 黒褐色	ローム小ブロック微量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック・砂質粘土大ブロック微量	12 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物 土師器片337点，須恵器片151点，金属製品（刀子・鋸・釘・鉄洋）7点が，覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。うち，土師器2点，須恵器10点，金属製品（刀子・鋸・釘）3点を抽出・図示した。第335図6の須恵器杯は南壁寄りの床面から，3の須恵器杯は西壁寄り，4の須恵器杯は中央部から南東コーナー部寄り，5の須恵器杯は北東コーナー部，8の須恵器蓋は南東コーナー部，10の須恵器蓋は北東コーナー部，11の須恵器蓋は西壁寄りのそれぞれ覆土下層から出土している。2の土師器蓋は南壁寄りの覆土中層から，7の須恵器杯は東壁寄り，9の須恵器蓋は中央部及び北壁寄りの覆土上層から，1の土師器蓋は竈の覆土中からそれぞれ出土している。15の釘は北東コーナー部寄りの東壁下の壁溝中から，14の鋸は中央部から北壁寄りの覆土下層から，13の刀子は覆土中からそれぞれ出土している。

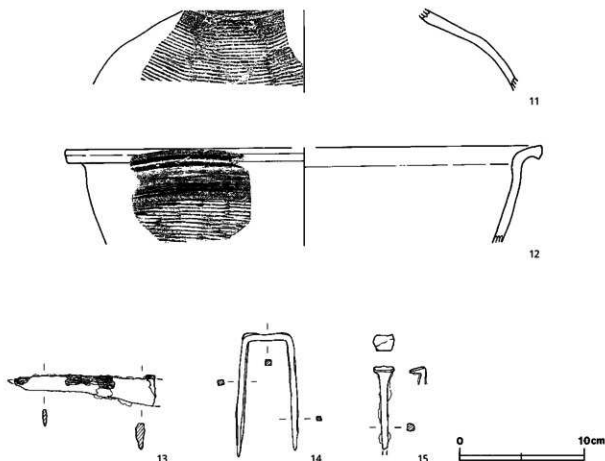
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 334 図 第 20 号住居跡実測図



第 335 图 第 207 号住居跡出土遺物実測図(1)



第 336 図 第 207号住居跡出土遺物実測図(2)

第 207号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 336 図 1	須 土 器	A 167	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に内傾して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にふいり橙褐色普通	P 7116 10%
		B 110				
2	須 土 器	A 178	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子橙褐色普通	P 7117 10%
		B 90				
3	環 須 土 器	A 140	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、一方向の手持ちヘラ削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰赤色、普通	P 7118 75% PL66 75 底部外面ヘラ記号及び墨書「南」
		B 54				
		C 70				
4	環 須 土 器	A 136	体部及口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 暗灰黄色、普通	P 7119 65% PL66
		B 52				
		C 72				
5	環 須 土 器	A 139	体部及口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英・針状鉱物 にふいり赤褐色、普通	P 7120 60% PL66 底部ヘラ記号
		B 54				
		C 69				
6	環 須 土 器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 7121 43% PL66
		B 55				
		C 81				
7	環 須 土 器	A 134	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。体部外面中位から下端にかけて手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P 7122 45% PL66 底部ヘラ記号
		B 51				
		C 68				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 33図 8	蓋 須恵器	A 146	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、甕宝珠状の つまみが付く。口縁部は屈曲し、 踵部は短く内側に入る。	口縁部及び外周部内・外面口ロナ ナデ。天井部回転ヘラ削り後、つ まみ挿合。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7123 25# PL66
		B 36				
		E 30				
		G 13				
9	盤 須恵器	A 168	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部との境に稜を持 つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナ ナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	緑・長石・石英・針 状鉱物 灰色 普通	P 7124 50# PL66 底部外面ヘラ記号
		B 40				
		F 100				
		G 12				
10	盤 須恵器	B 31	高台部から体部にかけての破片。 高台はハの字状に開く。体部は大 きく開く。	体部内・外面口ロナナデ。底部 回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	緑・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7125 40#
		D 114				
		F 14				
		K 14				
第 33図 11	甕 須恵器	B 63	体部片。体部は内彎気味に内傾し て立ち上がる。	体部横位の平行叩き。	緑・長石・石英・雲 母 褐灰色、普通	P 7126 5#
		B 77				
12	甕 須恵器	A 380	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。口縁 部は外反し、踵部は上下に突出し て、中位に稜を持つ。	口縁部及び部内・外面口ロナナデ。 体部横位の平行叩き。	緑・長石・石英・針 状鉱物 暗灰黄色 普通	P 7127 5#
		B 77				

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 33図 13	刀子	114	25	0.3-0.7	178	鉄	刃部先端及び基部欠損。木質部付着。	M 7010
14	錠	97	50	0.3-0.5	198	鉄	片形。断面形が方形。	M 7011 PL 79
15	釘	65	0.8	0.6	126	鉄	脚部欠損。断面形が方形。	M 7012

第208号住居跡（第337図）

位置 調査2区，台地の西部，D313区。

規模と平面形 調査区域外との境に北壁及び東壁の一部が確認された。確認された規模は，東西軸2.56m，南北軸2.75mであり，平面形は，北東コーナ一部がほぼ直角になることから方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は52～64cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は，長径35cm，短径28cmの楕円形，深さ39cmである。配置から主柱穴の可能性が考えられる。

竈 北壁に付設されており，調査区域外にかかるため右袖部のみが検出された。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで117cmと推定され，右袖部の最大幅は36cm，壁外への掘り込みは30cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し，床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

電土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量

覆土 7層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

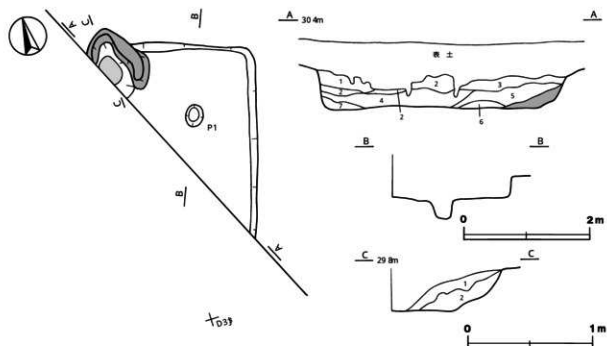
土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量 4 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭質バミス粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量

- 6 黒褐色 炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土 7 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子
小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は明確ではないが、遺構の形態などから、奈良・平安時代と考えられる。



第 337 図 第 208 号住居跡実測図

第213号住居跡 (第338～340図)

位置 調査2区，台地の中央部，E3a0区。

重複関係 第231号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.48m，短軸3.44mの方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は42～50cmで，外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり，出入口施設に伴うピット付近から中央部が踏み固められている。壁溝は北東コーナ一部を除いて各壁下を巡っている。規模は，上幅14～23cm，下幅4～14cm，深さ3cmほどで，断面形はU字状である。覆土は，第7層である。

ピット 1か所。P1は，長径34cm，短径33cmの円形，深さ40cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部からやや西寄りに付設されており，両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで104cm，最大幅110cm，壁外への掘り込みは44cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し，床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

覆土層解説

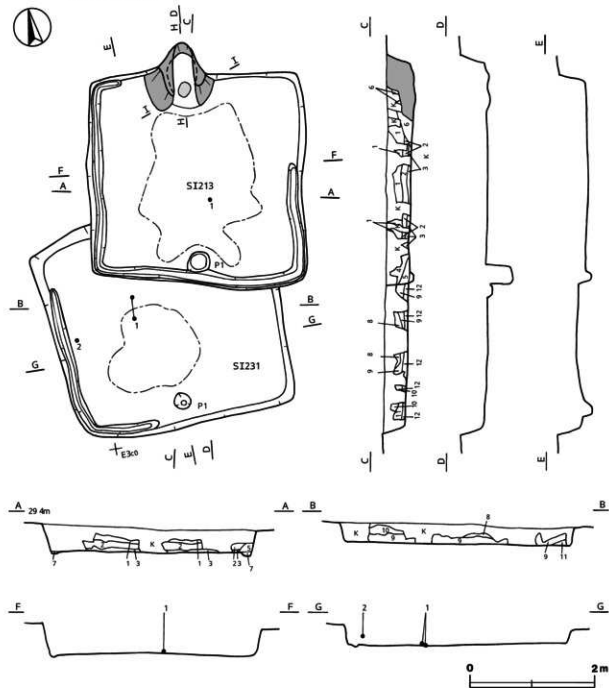
- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム中ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量 |

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | | |

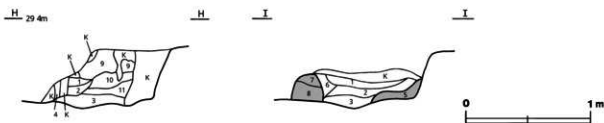
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土中ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | | |



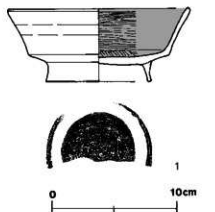
第 338 図 第 213・231号住居跡実測図(1)



第 339 図 第 213号住居跡実測図(2)

遺物 土師器片67点, 須恵器片24点が出土している。うち, 土師器1点を抽出・図示した。第340図1の土師器高台付杯は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 340 図 第 213号住居跡出土遺物実測図

第 213号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第340図 1	高台付杯	A 144	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は下位に稜を有し、外反気味に外傾して立ち上がる。	内面へラ磨き, 底部回転へラ削り後, 高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 浅黄褐色 普通	P 7128 55% PL66
	土師器	B 58				
		D 82				
		E 16				

第231号住居跡 (第338・341図)

位置 調査2区, 台地の中央部, E3b0区。

重複関係 第213号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 北壁の中央から東側及び北東コーナー部を掘り込まれているが, 長軸3.66m, 短軸3.46mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は32~38cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり, 中央部が踏み固められている。壁溝が西壁下と南壁下の一部で検出された。規模は, 上幅12~16cm, 下幅4~6cm, 深さ4cmほどで, 断面形はU字状である。

ピット 1か所。P1は, 長径27cm, 短径26cmの円形, 深さ17cmである。南壁際の中央部付近に位置することから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を第213号住居跡の南西コーナー部に掘り込まれているため, 竈は検出されていないが, 中央部から北壁寄りに, 長軸73cm, 短軸32cmの不定形の範囲で粘土が検出されており, 竈の構築材が流出したものと考えられる。

覆土 5層からなり, 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

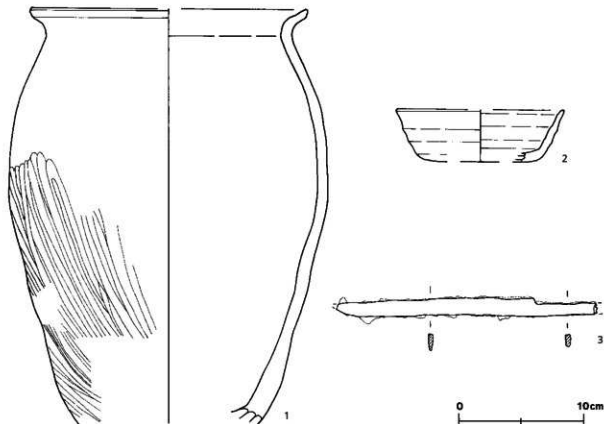
8 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック 少量, 砂質粘土粒子・硬土粒子・炭化物微量

9 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・硬土ブロック微量

- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・ 12 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量,
 焼土小ブロック微量
 ローム大ブロック少量, 炭化粒子微量
 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・
 炭化粒子微量

遺物 土師器片111点, 須恵器片13点, 金属製品(刀子) 1点が出土している。うち, 土師器 1点, 須恵器 1点, 金属製品(刀子) 1点を抽出・図示した。第341図1の土師器甕は中央部から北壁よりの床面から, 2の須恵器杯は西壁寄りの覆土下層から, 3の刀子は覆土中から出土している。

所見 時期は, 第213号住居跡との重複関係及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 341 図 第 213 号住居跡出土遺物実測図

第 213 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 34 図 1	甕 土師器	A 229	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら外傾して立ち上がり, 頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ磨き, 内面ナデ。	礫・長石・石英 浅黄褐色 普通	P 7153 40% PL66 体部外面炭化物付着
		B 329				
2	杯 須恵器	A 132	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ノナデ。体部下端ナデ。底部回転へラ磨り。	礫・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7154 20%
		B 41				
		C 77				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 34 図 3	刀子	208	20	04-05	377	鉄	刃部先端及び茎端部欠損。穂乾。	M 7013 PL80

第215号住居跡 (第342・343図)

位置 調査 2 区, 台地上の中央部, D3h9区。

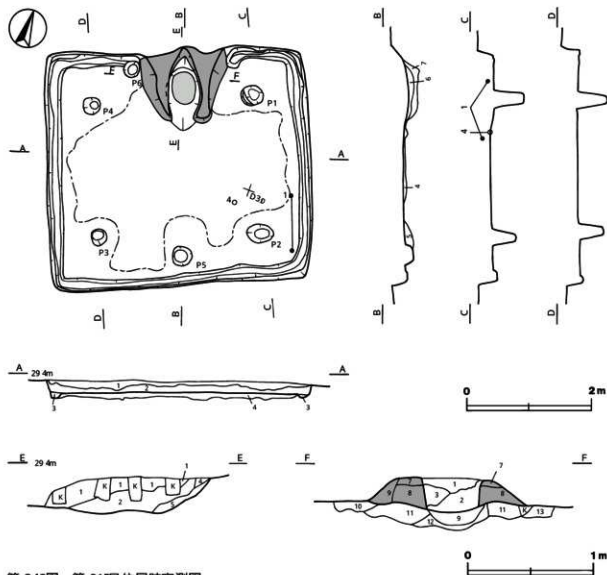
規模と平面形 長軸4.24m, 短軸3.72mの長方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は20~24cmで, 外傾して立ち上がる。

床 貼床ではほぼ平坦である。各コーナー部及び各壁下を除いて踏み固められている。掘り方は, 確認面から36~40cmの深さで掘られ, 貼床は, ローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。壁溝は各壁下を巡っている。規模は, 上幅12~26cm, 下幅4~13cm, 深さ6cmほどで, 断面形はU字状である。

ピット 6か所(P1~P6)。P2~P4は, 長径24~43cm, 短径24~29cm, 深さ37~48cmである。P1は, 長径35cm, 短径33cmの円形, 深さ47cmである。P1~P4は, ピット間を結ぶ各線がそれぞれ対応する壁と平行になることから, いずれも支柱穴と考えられる。P5は, 長径32cm, 短径31cmの円形, 深さ13cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は, 径25cmの円形, 深さ14cmであり, その性格は不明である。



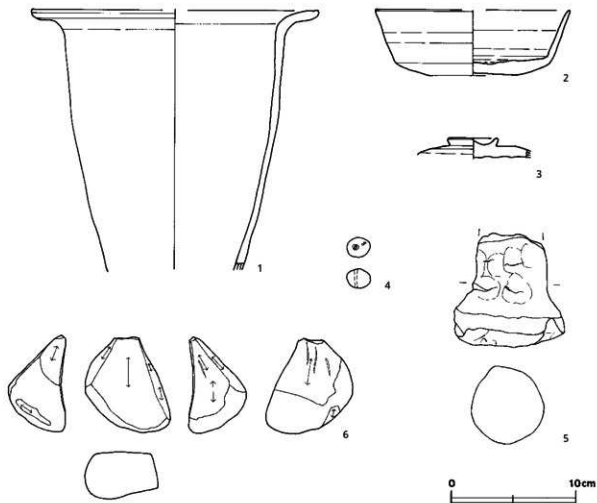
第342図 第215号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており, 両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで134cm, 最大幅138cm, 壁外への掘り込みは12cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し, 床面より6cmほど掘りくぼめられ, 皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙

道はゆるやかに立ち上がる。第9～13層は甕の掘り方の土層である。

甕土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土大ブロック微量 | 8 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 12 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子・炭少量 |



第 343 図 第 215 号住居跡出土遺物実測図

覆土 第1～3層が覆土である。堆積状況は覆土が薄いため不明である。第4～7層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片110点、須恵器片35点、土製品（土玉・支脚）4点、石製品（砥石）1点、金属製品（刀子）3点が出土している。特に甕周辺の覆土中層から覆土下層にかけてまとまって出土している。うち、土師器1

点、須恵器2点、土製品（土玉・支脚）2点、石製品（砥石）1点を抽出・図示した。第343図1の土師器甎は東壁際の覆土中層から、2の須恵器環・3の須恵器蓋は覆土中から出土している。取り上げ時にぼろぼろになってしまったため図示できないが、甎の火床面から8cmほどの高さに横位の状態で、支脚が出土している。所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第 215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 cm	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 343図 1	甎 土 師 器	A 230	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内燻気味に外傾して立ち上がり口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	長石・石英・赤色粒子 褐色、普通	P 7129 20%
		B 205				
2	環 須 恵 器	A 154	底部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部下端へラ削り。底部調整不明。	礫・長石・針状鉱物 に多い褐色 不良	P 7130 45% PL66
		B 52				
		C 66				
3	蓋 須 恵 器	B 16	天井部の破片。ボタン状のつまみがつく。	天井部回転へラ削り。	長石・雲母・赤色粒子 に多い褐色 普通	P 7131 40%
		F 39				
		G 08				

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 343図 4	土 玉	19	16	15	40	土製	0.2mmの孔が空く。礫・長石・石英を含む。	DP7002
5	支 脚	90	89	60	4700	土製	下部片。一部赤化。	DP7003 PL76

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 343図 6	砥 石	76	69	43	2575	凝灰岩	5面使用。	Q 7005

第220号住居跡（第344・345図）

位置 調査2区の中央部、D3g9区。

規模と平面形 長軸3.63m、短軸3.38mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は28～40cmで、直立する。

床 貼床ではほぼ平坦である。特に硬化面は見られない。掘り方は、確認面から34～42cmの深さで掘り込まれ、ローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。壁溝は各壁下を巡っている。規模は、上幅18～32cm、下幅9～17cm、深さ15cmほどで、断面形はU字形である。

ピット 1か所。P1は、径26cmの円形、深さ13cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は硬泥じりの砂質粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで92cm、最大幅148cm、壁外への掘り込みは25cmである。火床面は北壁ライン上に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

甎土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

- | | | | |
|----------|-----------------------|---------|-------------------------------|
| 7 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 16 褐色 | 砂質粘土粒子多量、礫微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量、砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、礫少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 18 極暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 11 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 19 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・礫少量、焼土小ブロック微量 |
| 12 黒褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 20 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子・廣沼バミスブロック微量 |
| 13 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 | | |
| 14 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | | |

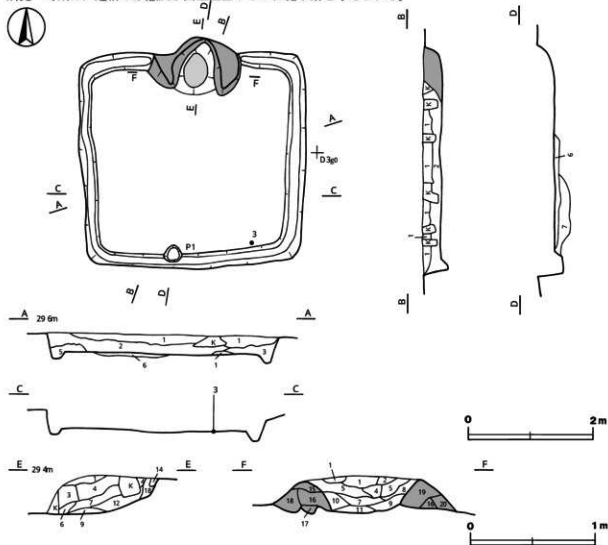
覆土 第1～5層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第6・7層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

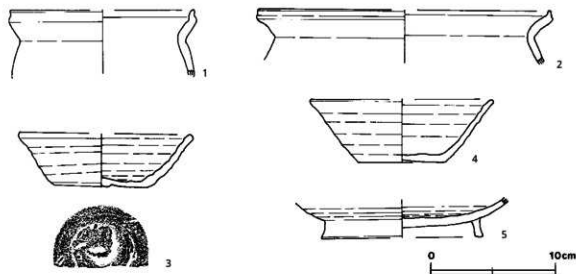
- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片64点、須恵器片43点が出土している。うち、土師器2点、須恵器3点を抽出・図示した。第345図3の須恵器杯は南東コーナー部の床面から、1の土師器甕及び4の須恵器杯は竈の覆土中から、2の土師器甕、5の須恵器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第344図 第220号住居跡実測図



第 345図 第 220号住居跡出土遺物実測図

第 220号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 345図 1	鉢 土器	A 149	頸部及び口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	磯・長石・雲母 明赤褐色 普通	P 7132 9% 火熱を帯び赤化
		B 52				
2	鉢 土器	A 232	頸部及び口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	磯・長石・雲母 橙色 普通	P 7133 9% 口縁部内面炭化物 付着
		B 42				
3	坏 須恵器	A 138	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P 7134 60% PL66
		B 42				
		C 74				
4	坏 須恵器	A 144	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	磯・長石・石英・針 状鉱物 灰黄色、普通	P 7135 35%
		B 50				
		C 70				
5	盤 須恵器	B 30	底部から体部にかけての破片。平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開く。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石 灰黄色 普通	P 7136 20%
		D 12.8				
		E 15				

第221号住居跡 (第346図)

位置 調査2区の中央部、D3g0区。

規模と平面形 長軸2.87m, 短軸2.57mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は4~8cmで、外傾して立ち上がる。

床 貼床ではほぼ平坦である。掘り方は、北東コーナー部及び北西コーナー部を不定形の土坑状に深く掘り込んでいる。確認面からの深さは12~43cmで、貼床は炭化粒子を含んでいるローム主体の黒褐色土を埋土して構築されている。中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P1は、径23cmほどの円形、深さ13cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は砂質粘土及びローム土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで67cm, 最大幅87cm, 壁外への掘り込みは28cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面から5cmほど掘りくぼめられ、皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道

はゆるやかに立ち上がる。

電土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |

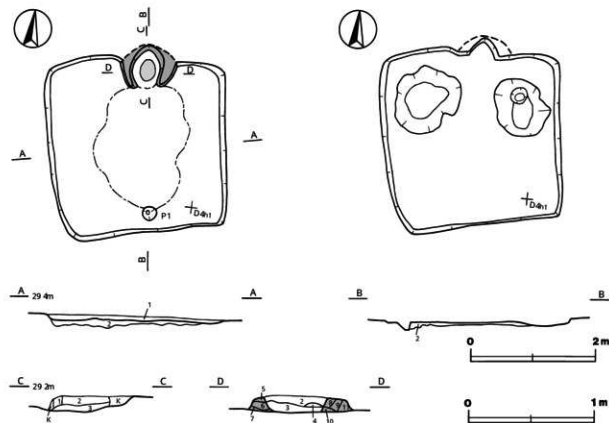
覆土 単一層であり、覆土が薄いため堆積状況は不明である。第2層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 | 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 |
|-------|--|-------|----------------------------------|

遺物 土師器片2点、須恵器片7点、金属製品（不明鉄製品）1点が覆土中に散在して出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物が少なく明確でないが、遺構の形態及び土師器片・須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第346図 第221号住居跡実測図

第223号住居跡（第347～350図）

位置 調査2区の南部，E4c6区。

横と平面形 長軸3.70m，短軸3.62mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は44～53cmで，外傾して立ち上がる。

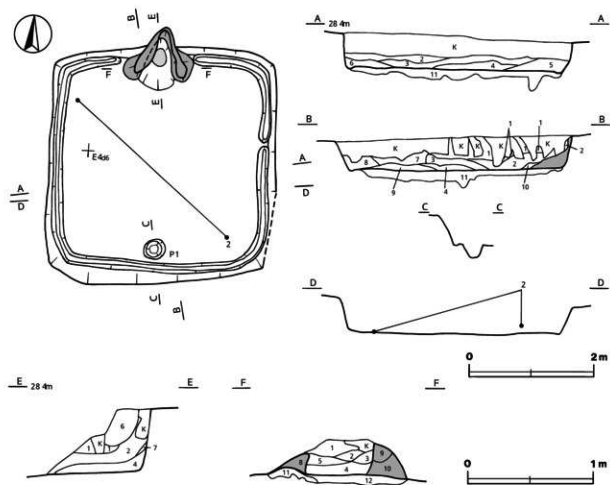
床 貼床ではほぼ平坦である。掘り方は、中央部から南寄りを不定形の土坑状に深く掘り込んでいる。確認面からの深さは54~78cmで、貼床はローム主体の褐色土を埋土して構築されている。壁溝が東壁の一部を除いて各壁下を巡っている。規模は、上幅13~19cm、下幅5~8cm、深さ3cmほどで、断面形はU字形である。

ピット 1か所。P1は、径35cmほどの円形、深さ20cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

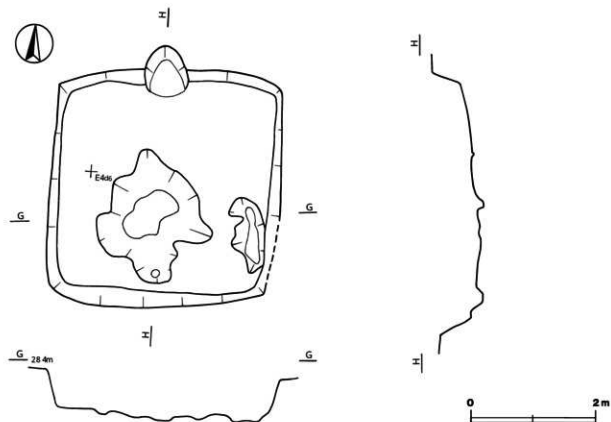
竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土・礫を含む砂質粘土粒子及びローム土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われ、竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで102cm、最大幅110cm、壁外への掘り込みは32cmである。火床面は北壁ライン上に位置し、床面とほぼ同じ高さで皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、砂質粘土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック中量、砂質粘土小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、砂質粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量 | | |
| 7 褐色 | ローム中ブロック多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 | | |



第 347 図 第 22 号住居跡実測図 (1)



第 348 図 第 222 号住居跡実測図 (2)

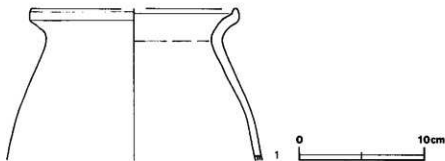
覆土 第 1～10 層が本跡の覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第 11 層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

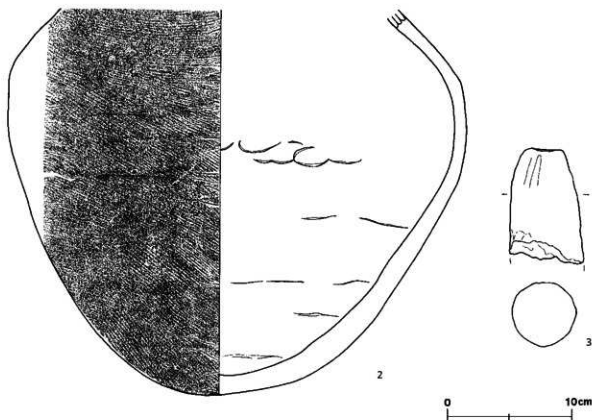
- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量 | 11 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 | | |

遺物 土師器片 38 点、須恵器片 29 点、土製品 (支脚) 1 点、鉄滓 1 点が出土している。うち、土師器・須恵器・支脚各 1 点を抽出・図示した。第 350 図 2 の須恵器甕は北西コーナー部の床面と、南東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1 の土師器甕と 3 の支脚は甕の覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 349 図 第 222 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 350 図 第 223 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 223 号住居跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 34 図 1	甕 土 器	A 16.4 B 11.8	体部上半から口縁部にかけての破片。 体部は内彎角味に内傾して立ち上がる。 頸部はくの字状に屈曲し、口縁 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ。	磯・長石・石英・赤 色粒子 褐色、普通	P 7138 10%
第 35 図 2	甕 須 恵 器	B 30.5	底部から体部上位にかけての破片。 丸底。体部は卵倒形を呈する。	体部斜位及び横位の平行叩き。体 部内面に無文の当て具痕が三日月 状に残る。	磯・長石 灰色 普通	P 7139 65% PL66 体部内面輪積み痕

図原番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 35 図 3	支 脚	91	59	50	248.4	土製	上部片。断面円形。	DP7004 PL76

第225号住居跡 (第351図)

位置 調査 2 区の中央部, D3e8区。

規模と平面形 長軸3.03m, 短軸2.91mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は16~19cmで、外傾して立ち上がる。

床 貼床ではほぼ平坦ある。掘り方は、確認面から27~36cmの深さで掘られ、貼床は、炭化物と炭化粒子を含んでいるローム主体の暗褐色土及び極暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部からやや東寄りに付設されており、両袖部及び天井部・煙道部・煙出し部が遺存している。両

袖部及び天井部は粘土で構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで60cm、最大幅111cm、壁外への掘り込みは32cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面を6cmほど掘りくぼめており、皿状である。火床面は火熱を受けて硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|---|----------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 灰中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量 |
| | | 7 黒色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| | | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |

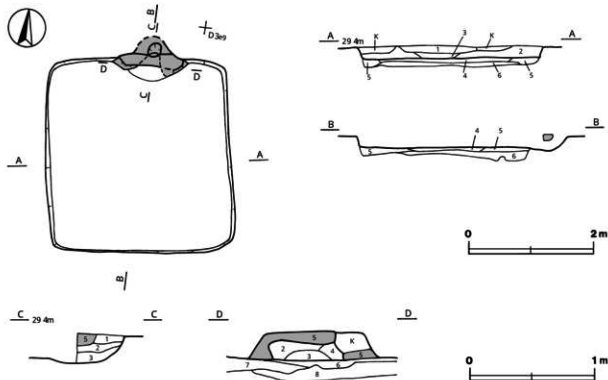
覆土 第1～3層が覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第4～6層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・灰少量、ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片4点、須恵器片2点が覆土中に散在した状態で出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物が少なく明確でないが、遺構の形態及び土師器片・須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第351図 第225号住居跡実測図

第226号住居跡 (第352・353図)

位置 調査2区の中央部, D4e2区。

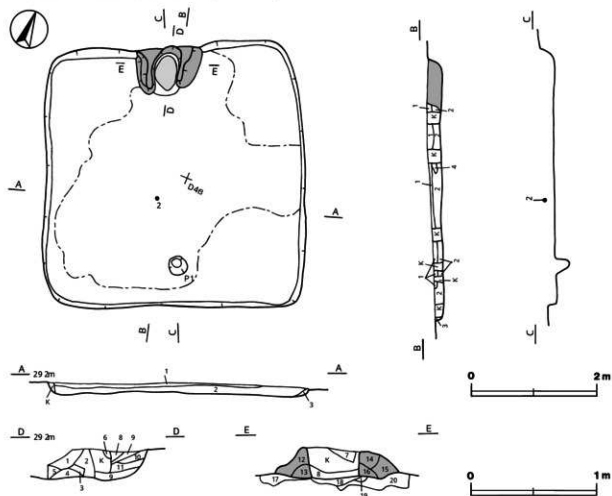
規模と平面形 長軸4.20m, 短軸4.20mの方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は14~24cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり, 出入り口施設に伴うピット付近及び東壁中央部壁下から中央部, 竈付近までが踏み固められている。

ピット 1か所。P1は, 径28cmの円形, 深さ21cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第 352 図 第 226 号住居跡測定図

竈 北壁中央部に付設されており, 両袖部が遺存している。袖部は焼土を含む砂質粘土及びローム土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから, 竈材を再利用したものと思われ, 竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は, 煙道部から焚口部まで78cm, 最大幅106cmであり, 壁外への掘り込みはほとんどみられない。火床面は北壁ラインの内側に位置し, 床面を6cmほど掘りくぼめており, 皿状である。火床面は火熱を受けて硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土大ブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土大ブロック微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|---|
| 9 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 16 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム大ブロック・炭化粒子少量 |
| 10 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 11 黒褐色 | 粘土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 18 暗褐色 | 焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 12 暗褐色 | 粘土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック少量 | 19 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子少量 |
| 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 20 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量 |
| 14 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック少量 | | |
| 15 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | | |

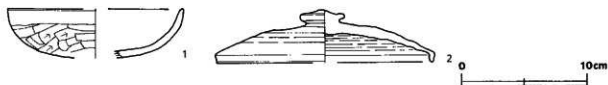
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 4 黄褐色 | 粘土粒子多量 |

遺物 土師器片54点、須恵器片20点が出土している。うち、土師器・須恵器各1点を抽出・図示した。第353図2の須恵器蓋は中央部の覆土上層から、1の土師器杯は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 353図 第 226号住居跡出土遺物実測図

第 226号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 353図 1	土師器	A 140	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ刷り。	礫・長石・石英・赤色粒子に多い橙色、普通	P 7140 30% PL66
		B 38				
2	須恵器	A 170	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、覆宝珠状のつまみが付く。口縁部は短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外周口口ナデ。天井部回転へラ刷り。	礫・長石 灰色 普通	P 7141 60% PL66
		B 41				
		F 34				
		G 11				

第232号住居跡 (第354・355図)

位置 調査2区の中央部、D4e5区。

重複関係 第227号住居を掘り込んでいる。

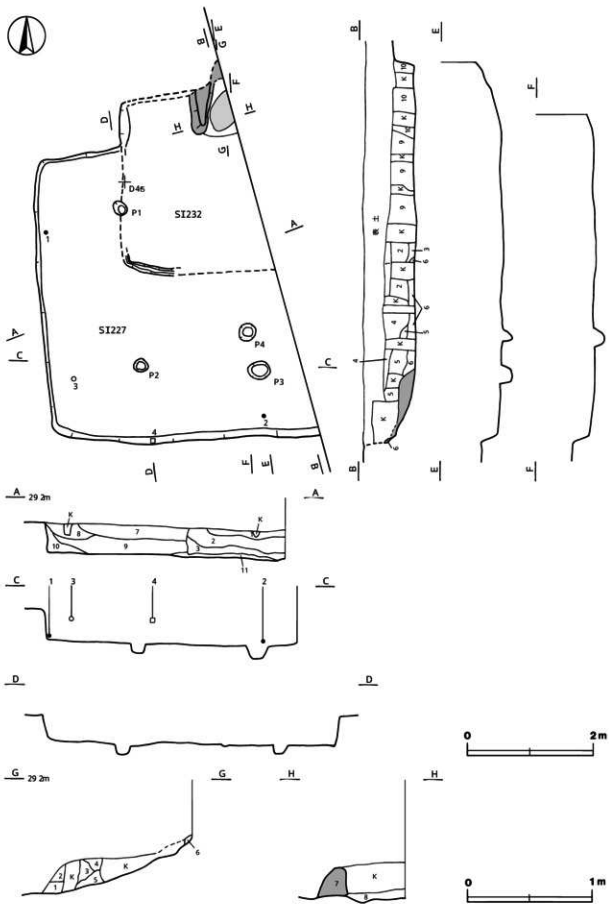
規模と平面形 東側が調査区域外になるため、全容は不明であるが、南北軸が2.90m、残存する東西軸が2.38mであり、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は44cmで、ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦であり、特に硬化した面はみられない。壁溝が南壁下の一部に検出された。規模は、上幅8~13cm、下幅3~5cm、深さ2cmほどで、断面形はU字形である。

ピット 検出されなかった。



第 354 图 第 232·227 号住居跡実測图

竈 北壁に付設されており、東側が調査区域外にかかるため右袖部は確認されなかった。袖部は焼土及び炭化物が混じった砂質粘土で構築されている。構築材に焼土及び炭化物を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われ、竈の作り替えの可能性が考えられる。確認された規模は、煙道部から焚口部まで118cm、幅68cmであり、壁外への掘り込みは37cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。火床面は火熱を受けて硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 灰多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

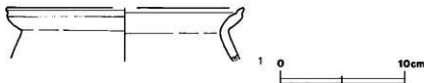
覆土 第1～6層が本跡の覆土であり、焼土及び炭化材・炭化物を各層に含んでいる。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量、焼土小ブロック微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化材微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片19点、須恵器片94点、土製品（支脚）2点、金属製品（釘）1点が出土している。うち、土師器1点を抽出・図示した。支脚及び釘は残存状況がよくないため図示できなかった。第355図1の土師器甕は竈の覆土中から出土している。

所見 覆土に焼土及び炭化材・炭化物を含んでいることから焼失住居の可能性が考えられる。時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第 355図 第 232号住居跡出土遺物実測図

第 232号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 1 図	土師器	A 229 B 329	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P 7155 5%

第227号住居跡（第354・356図）

位置 調査2区の中央部、D4f5区。

重複関係 第232号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 東側が調査区域外となるため全容は不明であるが、南北軸が4.71m、残存する東西軸が4.15mであり、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は25～50cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、特に硬化した面はみられない。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は、長径35cm、短径28cmの楕円形、深さ19cmである。P2は、径24cmの円形、深さ13cmである。P1・P2は、ピット間を結ぶ線が西壁とほぼ平行になることから、主柱穴と考えられる。P3は、長径24cm、短径20cmの楕円形、深さ13cmである。竈に対応する南壁際の中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は、径28cmほどの円形、深さ14cmであり、その性格は不明である。

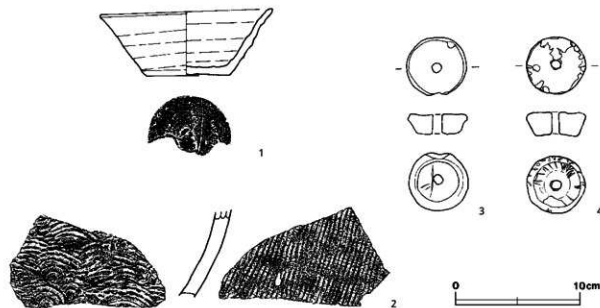
覆土 第7~11層が本跡の覆土であり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 10 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・藍泥パミス粒子微量
 8 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 ク・ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 須恵器片 2点、土製品 (支脚) 1点、石製品 (紡錘車) 1点、金属製品 (不明鉄製品) 1点が出土している。うち、須恵器 2点、紡錘車 2点を抽出・図示した。第355図1の須恵器坏は西壁際、2の須恵器甕は南壁際のそれぞれ覆土下層から、3の紡錘車は南西コーナー部の西壁寄り、4の紡錘車は南壁際のそれぞれ覆土上層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 356図 第 227号住居跡出土遺物実測図

第 227号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 356図 1	須恵器	A 137	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部及び体部内・外面口口ナズ。底部ナズ。	緑・長石・針状藍物 灰色 普通	P 7142 85% PL66 底部ヘラ記号
		B 53	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。			
		C 64				
2	甕 須恵器	B 42	体部片。体部は内傾気味に外傾して立ち上がる。	体部縦位の平行叩き、内面同心円状の当て真機。	長石・石英 灰白色 普通	TP7001 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 358 図 3	紡錘車	-	48	15	312	土製	中央部に 0.8m の孔が空く。	DP7005 PL76

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 358 図 4	紡錘車	47	44	19	530	粘板岩	中央部に 0.8m の孔が空く。	Q 7006 PL77

第228号住居跡（第357～359図）

位置 調査 2 区の中央部，D3i8区。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は18～23cmで、外傾して立ち上がる。

床 貼床ではほぼ平坦である。全面が踏み固められている。掘り方は、確認面から34～52cmの深さに掘られ、貼床は、ローム主体の黒褐色土及び極暗褐色土を埋土して構築されている。

ピット 1か所。P1は、径28cmの円形、深さ22cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部及び煙出し部が遺存している。袖部は焼土及び炭化物・炭化粒子とローム土を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土及び炭化物を含んでいることから、使用された窠材を再利用したものと思われる、竈の作り替えが考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで120cm，最大幅122cm，壁外への掘り込みは22cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面とはほぼ同じ高さで皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
2	黒褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
3	黒褐色	砂質粘土粒子少量	14	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	15	黒褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
5	黒褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	16	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6	黒褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量	17	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
7	黒褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	黒褐色	ローム粒子・砂質粘土小ブロック微量
8	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量	19	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9	黒褐色	砂質粘土粒子少量			
10	黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量			
11	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量			

覆土 第1～3層が本跡の覆土であり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4・5層は貼床を構築する際の埋土である。

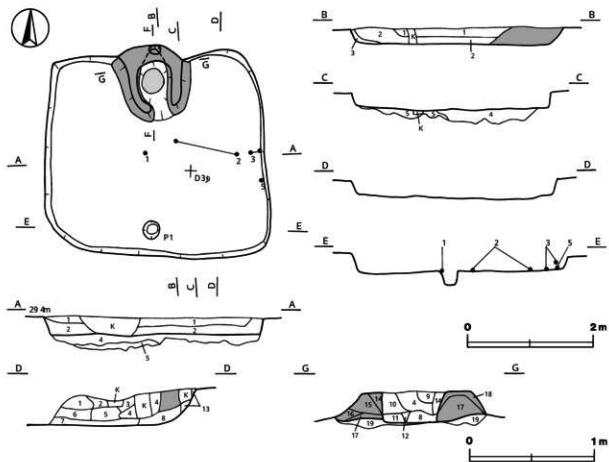
土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量	3	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	4	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
			5	極暗褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量

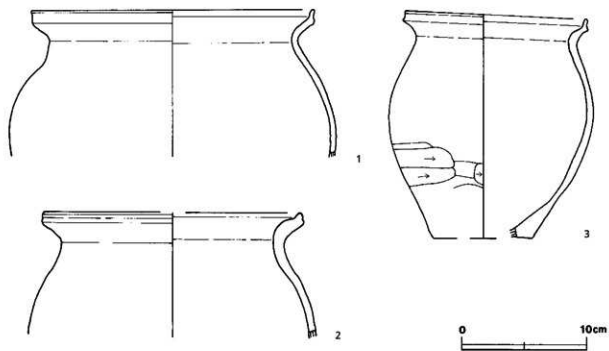
遺物 土師器片243点，須恵器片6点が出土している。うち，土師器3点，須恵器2点を抽出・図示した。第358図1の土師器甕は中央部，2の土師器甕は中央部及び東壁寄り，5の須恵器短頸壺は東壁際のそれぞれ床面から出土している。3の土師器小形甕は東壁際の覆土下層及び中層から，4の須恵器杯は竈の覆土中から出

土している。

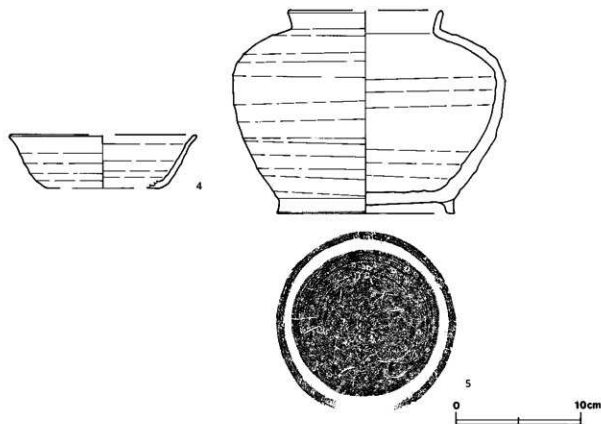
所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 357 図 第 228 号住居跡実測図



第 358 図 第 228 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 359 図 第 228 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 228 号住居跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 358 図 1	甕 土 器	A 224	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	礫・長石・石英・赤色粒子にぶい赤褐色 普通	P 7143 15% PL66 火熱を帯び赤化
		B 115				
2	甕 土 器	A 204	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色 普通	P 7144 5% 火熱を帯び赤化
		B 97				
3	甕 土 器	A 143	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面下半横位のヘラ刷り。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子にぶい赤褐色 普通	P 7145 65% PL66 火熱を帯び赤化。体部及び口縁部内外面炭化物付着
		B 179				
		C 78				
第 359 図 4	坏 須 恵 器	A 149	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 7146 20%
		B 42				
		C 89				
5	短 須 恵 器	A 121	体部及び口縁部一部欠損。平底。高台はふんばる。体部は内彎して立ち上がり、最大頸を上位に持つ。口縁部は短くやや外傾する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。体部外面下半回転ヘラ刷り。底部回転ヘラ刷り後、高台貼り付け。	礫・長石・針状鉱物 灰赤色 普通	P 7147 70% PL67
		B 160				
		D 142				
		E 11				

第229号住居跡 (第360・361図)

位置 調査 2 区の中央部, D4e4区。

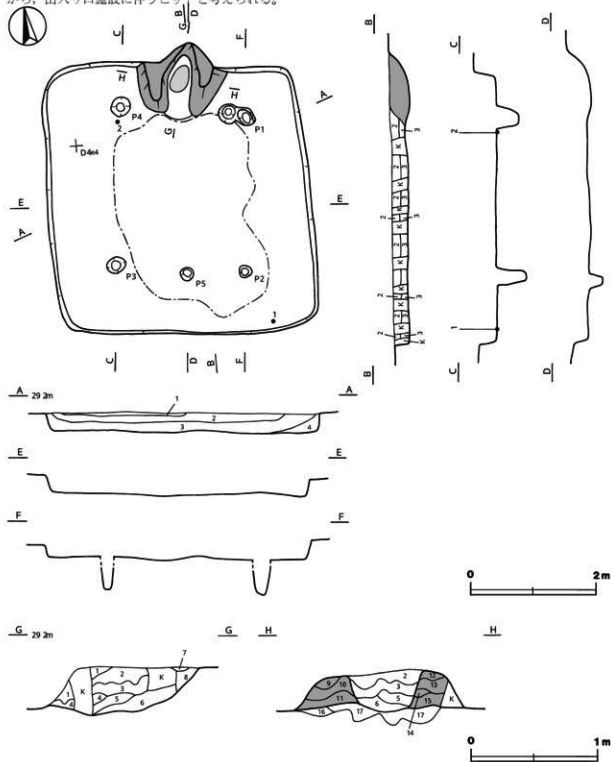
規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.22mの方形である。

主軸方向 N - 2° - E

壁 壁高は24～33cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。床面精査時には確認できなかったが、掘り方の調査において検出された。P1は、長径58cm、短径33cmの不整楕円形、深さ46cmである。P2～P4は、径20～32cmの円形、深さ31～50cmである。P1～P4は、ピット間を結ぶ各線がそれぞれ対応する壁とほぼ平行になることから、いずれも支柱穴と考えられる。P5は、径21cmの円形、深さ22cmである。竈に相対する南壁際の中央部付近に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第 360 図 第 229 号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土・炭化粒子及びローム土を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土及び炭化粒子を含んでいることから、竈材を再利用したものと思われる。竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで124cm、最大幅144cm、壁外への掘り込みは36cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面を10cmほど掘りくぼめ、皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|--------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、硬少量、ローム小ブロック微量 | 10 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土大ブロック・炭化物微量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量、焼土中ブロック微量 | 14 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土小ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 8 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 17 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・砂質粘土粒子微量 |

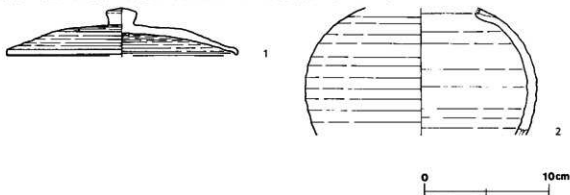
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | | |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 | | |

遺物 土師器片45点、須恵器片15点、金属製品（釘）2点が出土している。うち、須恵器2点を抽出・図示した。第361図1の須恵器蓋は南東コーナー部、2の須恵器長頸瓶は北西コーナー部のそれぞれ掘り方の底面から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 361 図 第 229 号住居跡出土遺物実測図

第 229 号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 36 個 1	須 恵 器	A 184	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、臍宝珠状のつまみが付く。口縁端部は短く垂下する。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。天井部回転へら削り。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P 7148 40% PL66
		B 38				
		F 24				
		G 13				
2	長 頸 瓶 須 恵 器	B 99	破片片。体部は内曜して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 7149 10%

第230号住居跡 (第362・363図)

位置 調査2区の中央部, D3e6区。

規模と平面形 長軸3.66m, 短軸3.48mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は18~32cmで, 外傾して立ち上がる。

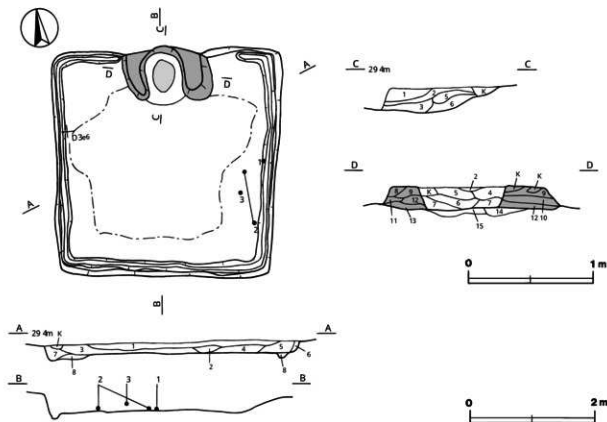
床 はほぼ平坦であり, 中央部が踏み固められている。壁溝が北壁の一部を除く各壁下に検出された。規模は, 上幅10~20cm, 下幅4~10cm, 深さ8cmほどで, 断面形はU字形である。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており, 両袖部が遺存している。袖部は焼土を含んでいる砂質粘土で構築されている。構築材に焼土を含んでいることから, 竈材を再利用したものと思われ, 竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は, 煙道部から焚口部まで93cm, 最大幅138cm, 壁外への掘り込みは14cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し, 床面とはほぼ同じ高さで皿状である。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 11 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 12 黒褐色 | 砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量 | 13 緑暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| | | 15 緑暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量 |



第 362 図 第 230 号住居跡実測図

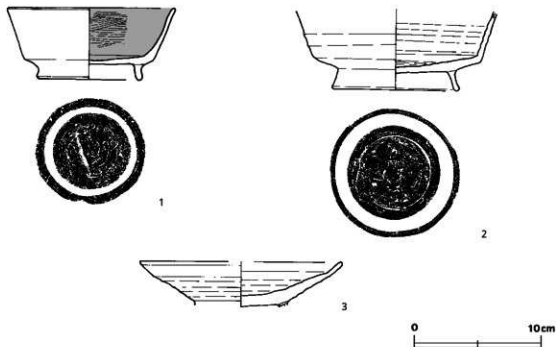
覆土 8層からなり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、機土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片25点, 須恵器片9点, 金属製品(刀子・不明鉄製品)2点が出土している。うち, 土師器1点, 須恵器2点を抽出・図示した。刀子は残存状況がよくないため図示できなかった。第363図1の土師器高台付坏は東壁際, 2の須恵器高台付坏は東壁際の覆土下層から, 3の須恵器盤は東壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 363図 第 230号住居跡出土遺物実測図

第 230号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 363図 1	高台付坏 土師器	A 133	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	磯・長石・石英・赤色粒子にぶい赤褐色普通	P 7150 95% PL67 内面漆付着
		B 57				
		C 80				
2	高台付坏 須恵器	B 63	高台部から体部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部回転へラ削り後、高台部貼り付け。	磯・長石・石英・雲母灰色普通	P 7151 83% PL67 内面漆付着
		D 99				
		E 17				
3	盤 須恵器	A 158	底部から口縁部にかけての破片。体部は大きく開き、口縁部との境に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部回転へラ削り。	磯・長石・石英灰色普通	P 7152 10%
		B 35				
		E 04				

第234号住居跡 (第364図)

位置 調査2区の中央部, D3f9区。

規模と平面形 長軸2.71m, 短軸2.51mのはぼ方形である。

主軸方向 N - 5° - W

壁 壁高は20～24cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、特に硬化した面はみられない。中央部が踏み固められている。

ピット 検出されなかった。

竈 北壁中央部からやや東寄りに付設されており、両袖部が遺存している。袖部は焼土・炭化粒子及びローム土を含んでいる砂質粘土粒子で構築されている。構築材に焼土及び炭化粒子を含んでいることから、竈材を再利用したのと思われる、竈の作り替えの可能性が考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで87cm、最大幅115cm、壁外への掘り込みは22cmである。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面とほぼ同じ高さで皿状である。煙道は外傾して立ち上がる。

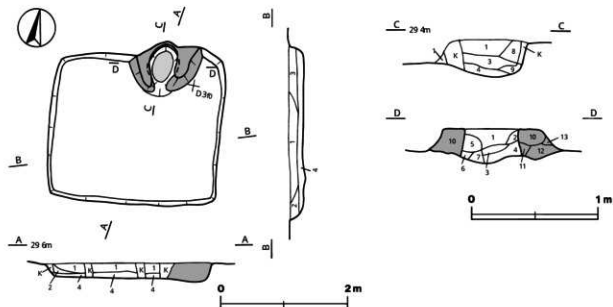
竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | | |

覆土 4層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 3 黒色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム中ブロック微量 |



第364図 第23号住居跡実測図

遺物 土師器片19点、須恵器片5点が覆土中に散在した状態で出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

所見 出土遺物が少なく、いずれも細片であるため詳細な時期は不明であるが、遺構の形態及び土師器片・須恵器片が出土していることから奈良・平安時代と考えられる。

第237号住居跡 (第365・366図)

位置 調査2区の北部, D4d2区。

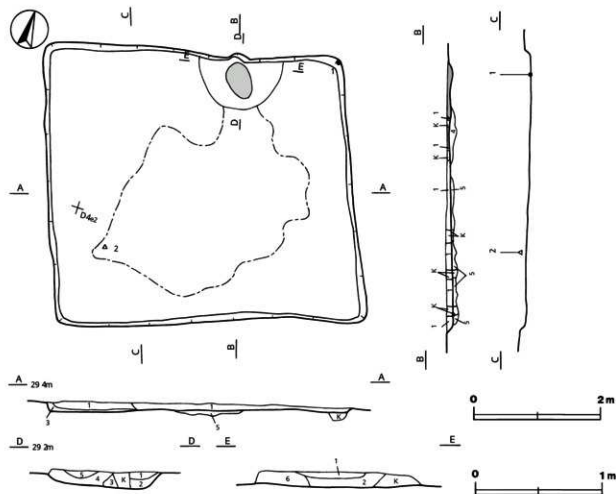
規模と平面形 長軸4.88m, 短軸4.15mの長方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は6~13cmで, 外傾して立ち上がる。

床 貼床ではほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。掘り方は, 確認面から深さ10~20cmに掘り込まれ, 貼床は, 焼土・炭化物・砂質粘土粒子を含んでいるローム主体の褐色土及び暗褐色土を埋土して構築されている。

ピット 検出されなかった。



第 365図 第 237号住居跡実測図

竈 袖部及び天井部・煙道部は遺存していない。火床面のみ確認された。北壁中央部からやや東よりに付設されていたと思われる。規模は, 焼土や砂質粘土の分布範囲などから, 煙道部から焚口部まで89cm, 最大幅129cm, 壁外への掘り込みは12cmと推定される。火床面は北壁ラインの内側に位置し, 床面とはほぼ同じ高さで皿状である。火床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・砂質粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | | |

- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量

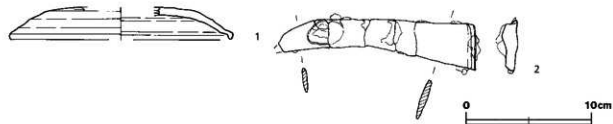
覆土 第1～3層が覆土である。覆土が薄いため堆積状況は不明である。第4・5層は貼床を構築する際の埋土である。

土層解説

- 1 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック少量

遺物 土師器片98点、須恵器片18点、金属製品（鎌）1点、炭化種子が出土している。うち、須恵器・鎌各1点を抽出・図示した。第366図1の須恵器蓋は北東コーナー一部の床面から、2の鎌は西壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第 366 図 第 237 号住居跡出土遺物実測図

第 237 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 366 図 1	蓋 須恵器	A 176	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、口縁部は短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部及び外周部内・外面口クロナデ。	礫・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 7156 15%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 366 図 2	鎌	160	48	05	54	鉄	刃部先端欠損。基部端部全面折り返し。	M 7014 PL79

表 2 住居跡一覧表 弥生時代～奈良・平安時代

住居番号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模 m 長軸 短軸	壁高 cm	厚さ	壁高	内部施設				埋土	出土遺物	遺構関係 旧新	発掘番号	
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈					貯蔵穴
126	G69	N 8 W	隅丸方形	374 370	20-26	平垣		4	1	1	1	自然	弥生土器・石製品	本跡 S1118- SB3	SB003	
101	G64	N 40 W	隅丸長方形	534 440	30-36	平垣		2	1	10	1	自然	弥生土器・土師器		SB007	
103	H7a2	N 7 E	隅丸長方形	420 300	10-23	平垣					8	1	人為	弥生土器・土師器	本跡 SK 823	SB009
110	G6c5	N 6 E	隅丸長方形	456 392	38-44	平垣		4	1	1	1	自然	弥生土器・土師器・ 土製品・石製品	本跡 SK 690- 891 P73	SB016	
121	G6a2	N 51 E	不 明	440 132	14-16	平垣					8		自然	弥生土器・土師器	本跡 SB5- 8	SB028
1	B6d	N 2 W	隅丸方形	332 302	10-20	平垣			1		1		人為	土師器		SB1
31	B5p	N 45 W	隅丸長方形	506 474	8-18	平垣		4		2			自然	土師器・土製品	本跡 SD6- 7	SB9

住居 番号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模 m 長軸 短軸	壁高 m	床階	壁溝	内 部 施 設				覆土	出土遺物	重複関係 旧 新	発掘番号	
								主柱穴	出入口	ピット	伊・電 計・電					
33	C54	N 24 W	隅丸長方形	448 374	16~18	平垣		4	1	1	1	自然	土師器		SB1	
37	C56	N 11 W	方 形	290 270	12~16	平垣		4		1	1	人為	土師器		SB5	
38	C61	N 36 W	不整形	490 480	8~22	平垣		4	2	1	1	不明	土師器、土製品	本跡 SK599- SD7	SB6	
102	G67	N 6 W	長 方 形	814 734	20~22	平垣		4	1	4	1	自然	弥生土器、土師器、 土製品、石製品	SD13 本跡	SE008	
104	F71	N 24 W	方 形	540 526	30~40	平垣		4	1	4	1	自然	弥生土器、土師器、 土製品	SD18 本跡 SK825	SE010	
106	F67	N 16 W	長 方 形 又は 短 方 形	616 242	32~42	平垣	全周	2		1		自然	土師器、土製品		SD12	
129	G59	N 40 W	隅丸方形	390 336	8~18	平垣		3	1	1	1	自然	弥生土器、土師器、 土製品	本跡 SD18	SE036	
3	B47	N 3 E	隅丸方形	394 376	53~55	平垣	一部	4	1	1	1	自然	土師器		SB4	
143	F36	N 10 E	方 形	522 387	37~44	平垣	一部	3		1	1	自然	土師器、土製品	本跡 SD24	SD206	
8	C43	N 10 W	方 形	312 306	30~36	平垣				1	1	自然	土師器、須磨器		SD1	
9	C44	N 35 W	長 方 形	390 308	4~6	平垣					1	不明			SD2	
17	C66	N 2 W	隅丸長方形	286 246	14~22	平垣		1		1	1	自然	土師器、須磨器	本跡 葺 袴塚	SD20	
25	B58	N 10 W	長 方 形 又は 短 方 形	246 178	6~10	平垣				1	1	不明	土師器、須磨器	本跡 葺 袴塚	SD29	
26	B55	N 16 W	方 形	308 296	16~22	平垣				1	1	自然	土師器、須磨器	本跡 葺 袴塚	SD24	
27	B3D	N 5 W	隅丸方形	326 302	52~56	平垣	全周	4	1	1	1	人為	土師器、須磨器		SD3	
32	C58	N 13 W	長 方 形	316 272	34~40	平垣					1	自然	土師器、須磨器		SB30	
34	C58	N 27 W	方 形	742 724	22~30	平垣		4	1	2	1	人為	土師器、須磨器	SD30 礎石 の埋入	SB2 A	
35	C58	N 27 W	方 形	742 724	22~30	平垣		4	1	1	1	不明	土師器、須磨器	SD4-遺構	SB2 B	
36	C4B	N 3 E	方 形	306 296	16~22	平垣		4	1	1	1	自然	土師器、須磨器、 弥生土器	本跡 SD9	SB4	
43	B6F	N 10 W	長 方 形	360 332	10~30	平垣		1	3	1	1	人為	土師器、須磨器	本跡 葺 袴塚	SB1	
46	D9d	N 29 W	長 方 形 又は 短 方 形	666 325	4~10	凹凸		2		7	1	不明	土師器、須磨器	本跡 SD8	SB5	
47	C4B	N 6 W	隅丸方形	332 304	14~34	平垣			1	1	1	自然	土師器、須磨器		SB6	
50	C98	N 5 E	長 方 形 又は 短 方 形	374 282	15~28	平垣					1	人為	土師器、須磨器		SB29	
55	H2c9	N 0	方 形	480 476	10~16	平垣	全周				1	不明	土師器、須磨器、 土製品、鉄製品		SD301	
56	G2D	N 8 E	方 形	584 546	40~50	平垣	全周	4			1	自然	土師器、須磨器、 土製品、鉄製品		SD302	
57	G2h	N 13 E	長 方 形	530 442	26~36	平垣	全周	4	1	1	1	自然	土師器、須磨器、 土製品、石製品、鉄製品		SD303	
58	G3g3	N 2 W	長 方 形	220 200	4~6	平垣				1	1	不明	土師器、須磨器、 瓦葺陶器、鉄製品	SB0-61 本跡 SK76-951	SD304	
59	G3F	N 6 E	方 形	320 310		平垣					1	不明	須磨器		SD305	
60	G3g2	N 5 W	隅丸長方形	590 524	34~38	平垣		4	1	1	1	自然	土師器、須磨器	SB1 本跡 SB2、SK 764-949-951	SD306	
61	G3g2	N 13 W	方 形	518 516	28~32	平垣	全周	4	1	1	1	自然	土師器、須磨器、 石製品、鉄製品	本跡 SB8-6 0	SD307	
62	G3g1	N 11 E	方 形	672 668	28~32	平垣	一部	4	1	1	1	人為	土師器、須磨器、 鉄製品	本跡 SD2	SD308	
63	G3a	N 2 W	不整形	270 260		平垣					1	不明	土師器		SD309	
64	H3c1	N 1 E	方 形	380 370	40~46	平垣	全周				1	人為	土師器、須磨器		SD310	
65	G25	N 7 E	方 形	576 572	60~66	平垣	全周	4		4	1	人為	土師器、須磨器、土製 品、石製品、鉄製品	本跡 SB7-7 1	SD311	
66	G2g3	N 1 E	隅丸方形	372 358	66~70	平垣	一部	3		1	1	自然	土師器、須磨器、 鉄製品		SD312	
67	G25	N 6 E	隅丸方形	332 304	32~38	平垣				1	1	人為	土師器、須磨器	SB5-71 本 跡	SD313	
68	G3b3	N 12 E	方 形	372 364	20~24	平垣				2	1	人為	土師器、須磨器		SD314	
69	F2g9	N 2 W	方 形	530 512	12~20	平垣	一部	4		1	1	自然	土師器、須磨器、 土製品、鉄製品		SD315	
71	G24	N 35 E	長 方 形	452 376	48~52	平垣	全周		1	1	1	自然	土師器、須磨器	SB5 本跡 SB 67	SD317	
72	F2h	N 24 W	長 方 形	422 382	40~54	平垣	一部	4		1	1	自然	土師器、須磨器、 土製品、鉄製品		SD318	
73	G3d3	N 18 E	方 形	600 596	14~26	平垣	一部	4		1	1	人為	土師器、須磨器、 瓦葺陶器、土製品	本跡 SD2	SD319	
74	G28	N 6 E	長 方 形 又は 短 方 形	460 384	38~44	平垣		2		1	1	人為	土師器、須磨器	本跡 SD2	SD320	
75	F2f7	N 26 E	方 形	496 468	48~54	平垣	全周	4	1	1	1	自然	土師器、須磨器、 鉄製品	SK750 本跡	SD321	
80	F3B	N 12 E	隅丸方形	280 260	40~48	平垣					1	人為	土師器、須磨器、 鉄製品		SD326	
81	F3E	N 21 E	方 形	290 288	30~36	平垣				1	3	1	自然	土師器、須磨器		SD327
83	H44	N 4 W	長 方 形	430 368	14	平垣					1	不明	須磨器、土師器	本跡 葺 袴塚 土師器	SB301	

住居 番号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模 m 長軸 短軸	壁高 on	床階	壁溝	内 部 施 設				覆土	出土 遺 物	履 歴 簡 係 旧 新	発掘番号	
								主柱穴	出入口	ピット	伊・電					
84	H463	N 0	長 方 形	450 378	8-18	平壇		2	1	1	1	不明	土師器・須恵器・ 鉄製品	本跡 S35	S3002	
85	H464	N 4 W	方 形	408 388	26-36	平壇				1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品	S304 本跡	S3003	
86	H461	N 4 E	方 形	564 558	16-26	平壇	一部	3	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品	跡 京 30-119-118 S312-84-124遺構	S3004	
87	F48	N 35 E	方 形	670 662	60-70	平壇	一部	4	1	1	1	人為	土師器・須恵器・土製 品・石製品		S3006	
88	G349	N 30 E	長 方 形	466 410	56-60	平壇	一部	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品	本跡 SD15	S3007	
89	H4c1	N 3 E	長 方 形	362 286	10-20	平壇		1	1	1	1	人為	土師器・須恵器		S3009	
91	G39	N 10 E	不 明	334 288	30-76	平壇					1	自然	土師器・須恵器・ 鉄石・金属製品	本跡 SK772- SD13	S3411	
93	G48	N 5 W	方 形	664 636	20-60	平壇		4	1	1	1	人為	土師器・須恵器・ 鉄製品	本跡 S304	S3014	
94	G44	N 10 W	方 形	480 474	26-50	平壇		2	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品	S303 本跡	S3415	
95	F49	N 41 E	不 整 長 方 形	336 278	24-36	平壇				1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品		S3016	
96	G79	N 15 W	方 形	492 482	20-66	平壇	一部	4	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品		S3001
97	G76	N 32 W	隅 丸 方 形	382 362	40-52	平壇	一部	3	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 土製品・金属製品		S3002	
98	F78	N 1 E	方 形	298 294	52-60	平壇		1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品		S3003	
99	G74	N 2 E	長 方 形	424 392	54-62	平壇	一部	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品		S3004	
100	G33	N 2 W	方 形	384 374	50-86	平壇	全周	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品		S3005	
105	F72	N 8 W	長 方 形	454 414	60-80	平壇	全周					人為	土師器・須恵器・ 瓦・埴輪器		S3011	
111	F03	N 9 W	方 形	366 360	46-50	平壇	一部	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器		S3017	
112	G71	N 5 E	方 形	360 346	56-70	平壇	全周	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器		S3018	
114	H69	N 24 W	方 形	340 336	76-80	平壇	全周	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品		S3020	
115	H60	N 15 W	方 形	446 440	96-110	平壇	一部	4	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器・ 金属製品		S3021
116	H65	N 11 E	方 形	692 668	28-64	平壇	全周	4	1	2	1	1	自然	土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品	本跡 SB1-11	S3022
117	H60	N 29 W	方 形	492 482	36-52	平壇	一部	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 金属製品		S3023	
118	G60	N 3 W	長 方 形	388 334	54-66	平壇	一部	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品	SD26 本跡	S3024	
122	H64	N 104 E	長 方 形	504 460	54-64	平壇	全周	4	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品・ 瓦・埴輪器	SB1-34c遺構	S3029
123	G68	N 56 E	方 形	560 536	44-48	平壇	一部	4	1	1	1	1	自然	須恵器・土製品	跡 SD 36 跡 跡 京 30-125 本跡 P-98	S3030
124	G68	N 19 E	隅 丸 長 方 形	416 348	55	平壇		1	2	1	1	人為	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品	ST123-125 本跡 P-98	S3031	
127	G50	N 8 E	長 方 形	754 644	72-78	平壇		4	1	9	1	1	人為	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品	S330-131-1 34-SB23 本跡	S3034
128	G01	N 90 W	方 形	392 364	40-42	平壇		1	3	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 土製品		S3035
130	G59	N 10 E	不 明	657 472	70-77	平壇		2	8	1	1	1	人為	土師器・須恵器	本跡 S313 SD27	S3037
131	G59	N 9 W	長 方 形 交 叉 方 形	636 535	58-62	平壇		2	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器	本跡 S127- 130	S3038
132	F5D	N 5 E	方 形	440 420	30-32	平壇		1	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器・ 土製品	S335 本跡・S B10c遺構	S3039
133	G06	N 1 E	方 形	714 712	30-46	平壇		4	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・金属製品	S30 跡 跡 P1-1 5-30,52 跡 跡	S3040
134	G61	N 14 W	方 形	654 620	30-44	平壇	一部	3	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 金属製品	跡 SD 36 跡 跡 京 30-125 本跡 P-98	S3041
135	F5D	N 4 E	方 形	376 364	16-20	平壇	全周	1	1	1	1	1	不明	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品	本跡 S312・S B10c遺構	S3043
136	H61	N 10 E	方 形	650 610	44-66	平壇	全周	4	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品	本跡 SK935- 936, SD 18	S3044
137	G97	N 4 E	長 方 形 交 叉 方 形	622 382	70-78	平壇	一部	2	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品	本跡 P131c遺構	S3045
138	G55	N 7 W	不 明	420 290	50-68	平壇						自然	土師器・須恵器	跡 京 30-144-9 45,30,19,33,34遺構	S3046	
144	F39	N 19 E	方 形	374 364	37-45	平壇	段 差 全周				1	1	自然	土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品		S3007
146	C20	N 10 W	長 方 形	412 387	25-28	平壇					1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品		S3009
148	C20	N 4 E	方 形	376 351	29-40	平壇		4	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器		S3011
150	C28	N 4 W	長 方 形	418 298	30-37	平壇				1	1	1	人為	土師器・須恵器		S3013
155	C30	N 6 W	長 方 形	565 486	70-78	平壇	全周	4	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器・土製 品・石製品・鉄製品		S3018
158	D3a3	N 12 W	方 形	462 450	31-46	平壇		4	1	1	1	1	人為	土師器・須恵器・ 鉄製品		S3021
161	D3a2	N 20 E	長 方 形	420 350		平壇							自然	土師器・須恵器		S3024
171	C30	N 18 W	方 形	332 330	14-19	平壇					1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品		S3035
173	C49	N 9 W	長 方 形	569 473	24-32	平壇		4	1	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品		S3037

住居番号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模 m 長軸 短軸	壁高 cm	床面	壁溝	内部施設					土	出土遺物	遺構関係 旧新	発掘番号
								注柱穴	出入口	ピット	伊・墓	新設穴				
178	D3a6	N 4 E	方 形	346 339	30-33	平埧					1		自然	土師器・須恵器・ 鉄製品	本跡 S179	SD042
179	D3a6	N 2 W	長 方 形	387 330	32-35	平埧			2	1	1		人為	土師器・須恵器・ 鉄製品	S178 本跡	SD043
183	D3a6	N 15 E	長 方 形	385 314	12-19	平埧			4	1	1		自然	土師器・須恵器		SD047
185	D3a6	N 16 E	長 方 形	283 257	25-33	平埧					1	1	自然	土師器・須恵器		SD049
186	F3a0	N 23 E	長 方 形 又は 方 形	350 340										土師器・鉄製品		SD050
187	F4g3	N 24 E	方 形	592 586	58-70	平埧	ほぼ 全面		3		1		人為	土師器・須恵器・ 鉄製品		SD051
188	F4e5	N 6 E	長 方 形	510 426	50-62	平埧	ほぼ 全面		4	1	1		人為	土師器・須恵器		SD052
189	F4c2	N 34 E	長 方 形	305 272	48-55	平埧	ほぼ 全面			1	1	1	人為	土師器・須恵器・ 鉄製品		SD053
190	F3a8	N 10 E	方 形	485 450	28-33	平埧			4	1	1		人為	土師器・須恵器		SD054
192	F3a5	N 8 W	長 方 形	520 362	34-54	平埧					1	1	自然	土師器・須恵器		SD056
197	F3a0	N 15 W	方 形	544 516	74-82	平埧	一部			1	3	1	人為	土師器・須恵器・ 灰釉陶器・鉄製品		SD061
198	F3a9	N 8 W	長 方 形 又は 方 形	557 171	42-52	平埧						1	人為	土師器		SD062
202	E3j2	N 15 W	不規則長方形	509 432	35-50	平埧	全面		4	1	8	1	人為	土師器・土製瓦		SD066
204	F3a8	N 27 W	長 方 形 又は 方 形	372 293	40-70	平埧						1	人為	土師器・須恵器	SD43 本跡	SD068
205	F4g1	N 17 E	長 方 形 又は 方 形	301 180	25	平埧	一部					1	人為	土師器・須恵器		SD069
207	D3a5	N 4 W	長 方 形	446 398	42-50	平埧	全面			1		1	人為	土師器・須恵器・ 鉄製品		SD073
208	D3B	N 5 E	長 方 形 又は 方 形	275 256	52-62	平埧			1			1	自然			SD074
213	E3a0	N 8 E	方 形	348 344	42-50	平埧	ほぼ 全面			1		1	自然	土師器・須恵器	S1230 本跡	SD078
215	D3a9	N 18 W	長 方 形	424 372	20-24	平埧	全面		4	1	1	1	不明	土師器・須恵器・ 石製品・鉄製品		SD080
220	D3a9	N 4 E	方 形	368 338	28-40	平埧	全面			1		1	人為	土師器・須恵器		SD085
221	D3a0	N 6 W	方 形	287 257	4-8	平埧				1		1	不明	土師器・須恵器		SD086
223	E4e6	N 1 W	方 形	370 362	44-53	平埧	ほぼ 全面			1		1	人為	土師器・須恵器・ 土製瓦・鉄線		SD088
225	D3a8	N 7 W	方 形	303 291	16-19	平埧						1	自然	土師器・須恵器		SD090
226	D4e2	N 22 W	方 形	42	14-24	平埧					1		自然	土師器・須恵器		SD091
227	D4E5	N 3 W	長 方 形 又は 方 形	471 415	25-50	平埧			2	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 石製品・鉄製品	本跡 S1231	SD092
228	D3B	N 1 W	方 形	360 330	18-23	平埧				1		1	自然	土師器・須恵器		SD093
229	D4e4	N 2 E	方 形	430 422	24-33	平埧			4	1	1	1	自然	土師器・須恵器・ 鉄製品		SD094
230	D3a6	N 6 E	方 形	366 348	18-32	平埧	ほぼ 全面					1	人為	土師器・須恵器・ 鉄製品		SD095
231	E3a0	N 4 W	方 形	366 346	32-38	平埧	一部			1			人為	土師器・須恵器・ 鉄製品	本跡 S1212	SD096
232	D4e5	N 0	長 方 形 又は 方 形	290 238	44	平埧	一部					1	人為	土師器・須恵器・ 鉄製品	S1226 本跡	SD097
234	D3a9	N 5 W	方 形	271 251	20-24	平埧						1	自然	土師器・須恵器		SD099
237	D4d2	N 18 W	長 方 形	488 415	6-13	平埧						1	不明	土師器・須恵器・ 鉄製品・灰化種子		SD102

2 竪穴状遺構

今回の調査で、ピットや竪が確認されず、また、床も硬化した面が認められない遺構が、2区から1基検出された。以下、その遺構について解説する。

第12号竪穴状遺構（第367図）

位置 調査2区、台地の南部、F3b7区。

規模と平面形 長軸3.20m、短軸2.48mの不整形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は8～15cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、特に硬化した面はみられない。

ピット 検出されなかった。

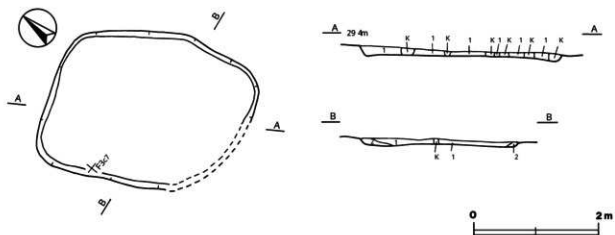
覆土 2層からなり、覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片8点、須恵器片3点が覆土上層から覆土中層にかけて散在した状態で出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

所見 出土土器が細片であり時期は明確ではないが、土師器片及び須恵器片から、奈良・平安時代と考えられる。



第 367 図 第 12 号 竪穴状遺構実測図

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

宮 後 遺 跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

上 巻

平成17(2005)年3月22日 印刷
平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (株)平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13
TEL 0246-23-9051